五無斎保科百助全集　全

酒

五無斎

飲むからに
どぶの中へも
飛び込めば
むべ水酉を
酒といふ
ら舞

（横沢理氏蔵）

辞世のうたとて

五無斎　花押

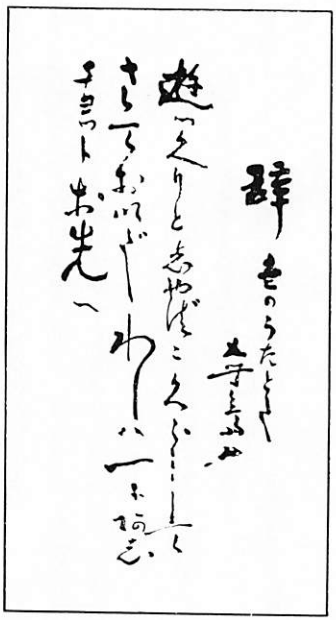
遊つくりと志やばにくらして
さておいで　わしハ一トあ志
チヨツトお先へ

（真田町本原　横沢理氏蔵）

北佐久郡立科町大字山部

津金寺境内五無斎の碑







五無斎保科百助全集　全

五無斎肖像

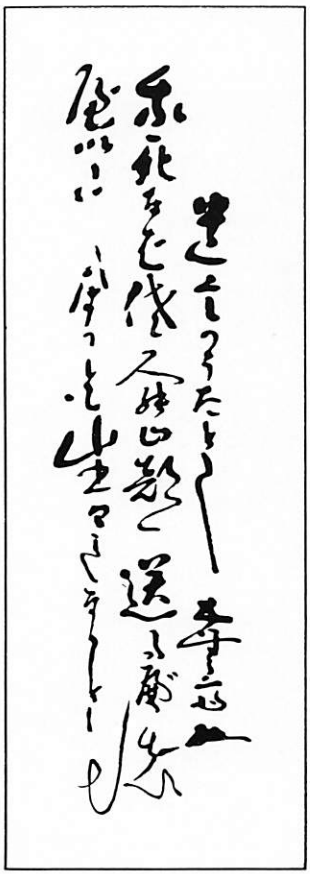
五無斎遺言のうた

遺言のうたとて　五無斎花押

我死なむ佐久の山部へ送る遍志

屋以てなりとも生マでなりとも





酒

五無斎

飲むからに
どぶの中へも
飛び込めば
むべ水酉を
酒といふ
ら舞

（横沢理氏蔵）

辞世のうたとて

五無斎　花押

遊つくりと志やばにくらして
さておいで　わしハ一トあ志
チヨットお先へ

（真田町本原　横沢理氏蔵）

北佐久郡立科町大字山部
津金寺境内五無斎の碑

源



辞

復刻によせて

今日の生活をみると、あふれる物質と情報に、人間の欲望ばかりが刺激されて、欲求不満に悩んでいる。豊かさのなかでかえって魂が飢えている。灯が明るくなればなるほど影も濃さを増すのが常である。青少年の非行、家庭の崩壊、地域の教育力の低下等、暗い影はきわめて日常的な次元で重苦しくおおいかぶさってきている。

このようななかにあって、最近生きがいを求め、生きる意味を知ろうとしはじめた多くの事実がある。そのひとつが、郷土の先覚者、保科五無斎を求める人々の心である。序文に書かれているように、半世紀前に五無斎によって手がけられていた諸問題が実は、今日教育の現場においても問題になっている事柄である。

この時に、彼の教育精神と実践力に糧を求めて、五無斎保科百助全集・五無斎保科百助評伝の復刻の要望が強くあがったのもむりからぬことである。このため佐久教育会は、二十五周年記念事業の一環として、復刻版を刊行することにした。

本書を出版するにあたっては、本会の五無斎委員会が中心となり、現在表記上問題と思われる箇所等を、関係機関に相談し指導をうけたり、時には、五無斎を語る諸先輩に意見を請いながらあたためてきたのである。

このようななかにあって、常に協力をいただいた信濃教育会・NBS・関係各位等の力も大きく、改めて心から感謝を申しあげる次第です。

諺に「群鶏の一鶴」ということがある。名字・帯刀を許された名門の生れであり、学識をほしいままにしながら、孤弱を憐み、窮乏を援くるのに決して躊躇しなかったという。津金寺境内に建立されている大記念碑をみるにつけ、この書が信州教育進展につながることを願ってやまない。

昭和六十年十一月

佐久教育会長　南沢昭二

序文

五無斎保科百助先生の研究に、本格的にとりくんだのは昭和三十六年である。ちょうどその年は先生の五十年忌に当たり、慰霊法要を営み遺墨展も併わせ行った。以来研究を続けて遺墨、遺影、論説、日記、狂歌、書簡等に関する資料は殆んど余す所なく集めることができたと思う。この度これらを一巻におさめて全集として出版することにした。

この書を出版する決意をしたのは、根強い人間愛に徹しその信念に生きた先生の生涯が、みずからの欲望栄達は意中になく、官権をはばからず世の風評に耳を貸すことなく、時には社会的慣習も破って、良心の命ずるまま徹底した自由の境地で、常に独創的に教育のために終始されたことを知り、そのずばぬけた偉さに打たれたためである。先生の郷里にあってこの大先覚を知る機会を与えられて居るわれわれは、またこの先生を今の世に広く紹介する義務あることも感じた。幸いにして多数の賛同者の協力を得て順調に計画の進んだことは、まことにありがたく喜びにたえない。

出版にあたって五無斎先生をよく知られる信濃教育会長松岡弘、小原福治、荒木茂平、小林直衛の諸先生方から懇切な御助力をいただいたことに厚く御礼を申し上げ、研究から出版まで中心となって御尽力下さった前北佐久教育会長今井誠太郎先生をはじめ研究委員各位の長期にわたる御努力と、貴重な資料を提供して下さった多くの方々の御厚意に心から敬意を表し、感謝申し上げる次第である。

昭和三十九年二月

佐久教育会長　青木盛四郎

例言

一　体裁を六編に分けたのは編集者の仕組みによるのであり、各編の文の配列は年月順を本体としたが、例外もある。

一　漢字仮名遣いは原文に従ったが、漢字には略字を使用した所がある。擔當—担当の如きその例である。

一　句読点は原文を重んじたが、所々添加して読みやすいようにした。

一　二段組のところは頁数の関係であって特別内容的意味はない。

一　新聞より採録した場合総フリ仮名つぎのものはフリ仮名を除去した。

一　資料として明確を計るため各文末にその原拠と年月日を明記した。

一　必要の場には編註をつけた。

五無齋保科百助全集　目次

序文……佐久教育会長　青木盛四郎……一

例言……二

地学編……一

一　通俗滑稽信州地質学の話……三

二　岩石鉱物新案教授法……九五

三　おもちや用標本売出し規則……一二九

四　おもちや用標本説明……一三〇

五　地学標本売出しに関する説明書……一四〇

六　訓令教第一号第二号及び教育総本山訓令……一六三

七　信州産岩石鉱物標本説明書……一七〇

八　石器時代の遺跡湖中の山嶽ソ子に関する憶説……一九一

九　売上帳の序……一九六

十　長野県小県郡鉱物標本目録……一九七

十一　manual ofmineralogy and Petrographg の
とびらの五無斎手記……二〇一

論評編……二〇五

一　五無斎百話……二〇五

二　時事短評……二四九

三　諸論評……二五八

小学生徒の修学旅行について（二五六）風間冠峯氏の辞職について（二六一）
土屋政吉君の逸事（二七〇）図書館創立私見（二八〇）県立感化院の位置について（二八八）長野中学生騒動について（二九一）小平竜谷を弔ふ長歌並びに短歌（二九二）師範学校の成行如何（二九五）候ふ可く候ふ（二九七）五無斎答へて曰はく（二九七）県庁舎の位置について（二九八）県庁舎敷地問題について（三〇二）教育宗総本山辞令（三〇五）師範学校卒業式式上（三一二）当世百迷惑（三一四）与土屋良造君書（三一六）臨書（三一八）雨敬が銅像と植林（三一八）軽井沢附近の土地利用論（三二一）乍恐以書面御願申上候之事（三二二）職人根生（三二四）補欠選挙について（三二七）師範三校案（三三〇）県会議員諸君へ（三三二）全国漫遊趣意書（三三四）金雨砂（三三五）説に対して我説を見よ（三四一）慨世危言（三四三）長野根生を打破す可し（三四六）学務官吏の栄転（三四八）学製改革と世論（三四九）文界勝負論（三五〇）悪夢を見るの記（三五一）通俗新案国語教授法一名ニギリギン式教授法第二編（三五四）初冠（三五五）小学生徒の修学旅行に付て（三五六）浅沢男爵一行歓迎会席上（三五七）金の使い方（三五九）味噌汁論（三六〇）師範三校説と移庁論に就いて（三六二）

四　広告類……三七一

日記編……三七九

一　売上帳　三　（一名雑売日記）……三八一

二　巡業日記……四三五

三　病床日記……四三四
四　長野県地学標本採集旅行記……四四一
五　勧燒岳登山文……四五〇
六　三たび東上日誌……四五五
七　プラッキ日誌……四五五
八　坪井博士に随行して野尻湖に遊ぶ……四六四
九　上水内郡産岩石鉱物採集旅行記……四七七
十　機業日誌並視察報告書……四八八

狂歌編……四九九
一　よいかゝをほしな百首け……五三一

書簡編……五四五
一　書簡類……五四七

雑編……五六七
一　信濃漫遊旅費寄附人名簿……五六九
二　保科塾寄附人名簿……五六九
三　各種標本売上帳……五六九
四　五無斎葬儀諸事記……五七〇
五　五無斎保科百助香奠受納簿……五七〇
六　五無斎善後策相談会誌……五七一
七　保科五無斎記念碑建設趣意書……五七三
八　故保科五無斎建碑事務報告……五七五
九　よいかゝをほしな百首け……五七六
十　保科五無斎君記念碑建設趣意書……五七七
十一　津金寺境内五無斎記念碑について……五七八
十二　五無斎五十年祭式典並遺品遺墨展覧会出品目録……五七九

年譜……五八三

あとがき……編集主任　今井賊太郎……五八七

地学編

一　通俗滑稽信州地質学の話……3
二　岩石鉱物新案教授法……95
三　おもちや用標本売出し規則……129
四　おもちや用標本説明……130
五　地学標本売出しに関する説明書……140
六　訓令教第一号第二号及び教育総本山訓令……162
七　信州産岩石鉱物標本説明書……170
八　石器時代の湖中の山嶽ソ子に関する憶説……192
九　売上帳の序……196
十　長野県小県郡岩石鉱物標本目録……197
十一　Manual of Mineralogy and Petrography のとびらの五無斎手記……201

一　通俗滑稽信州地質学の話

五無斎保科百助　述

緒　言

学者とは何の九もなき事を八釜しく七六かしく五も一つ事を二三遍繰り返しても四ろう人には分らぬやうに説明するものなり。五無斎学者に非らず、生得魯鈍殊に数学的能力に乏しく美術ときては文字のやうなる図画や図画のやうなる文字を書いては人を驚かしたる程のしれ者なり。文学とても得手なりと言ふには非ずと虫面白半分に滑稽将た通俗に素人分りのする様に信州地質の話を書いて見んと思うなり。三十四及五両年間信州の山河を跋渉したる所によりて幾分か研究したる事もあれば壱弐割の法螺は到底免れざるべきも三割以上の虚言はつかさるべし。看官諸君幸に許し給へかし。

第一章　五無斎採集家となりたる所以

明治三十六年正月上旬

壱弐割法螺もあろうが是丈は　許してホシナ用捨しん聞

(十) 五無斎家系ノ事

諺に瓜の蔓には茄子はならぬと言ふ事あり。熟々五無斎の家系を按ずるに其昔高遠の城主保科弾正正直公の支族に出てし事は又争ふべからさるの事実なりと虽も其後は絶へて聞ゆるなく、北佐久郡横鳥村の一土百姓に落ちぶれ居たりしが、予が養祖父なる人は大に漫遊を好み種々の奇談もあり、四拾弐才の一厄年を一期として世を去られ給ひたるが終生独身に終りたるなり。去れば予が父なる人の家を嗣かれたる頃には家道大に衰へ、田畑山林は愚か家財諸道具一切を売却するも尚ほ百金許りの負債ありたりとか。予が両親なる人の如何に艱難辛苦の間に予等兄弟三人を養育せられたるか。然れども予が幼少の頃には家道再び興り、亦昔日の如くならず。兎も角も小作りはせずとも朝昼晩共三度の食事には事をかゝぬまでに至り、里正の職に挙げられ、又学務担当なんど言ふ役目を帯び給ひたるものを詠まれたることありたりとか。予が叔父なる人も亦大の奇人にて五十三才を一期として芽出度極楽浄土へ赴かれたるが、終生独身にて性将棋を好み、山家初段(田舎初段よりは少しく下手なる方)と呼ばれ、亦極の子供好にて桃や栗や柿の実などを毎日々々少しづゝ近所の子供に分ち与ふるを以て此の上も無き楽みとなし給ひたり。又予が母方の祖父なる人は先代より草根木皮を施すを以て業となし、匕壱本にて時に殺人犯を犯したる所謂藪医竹庵の流なるが、清貧に甘しつゝ少しは和歌の道にも嗜みありたりとか、次に予が兄なる人は頑々堂と号し、草書を能くし左の手にて書くこと口にて書くことは大の得意なり。是れ予が家系の大略なり。斯かる家系を有する五無斎のことなれば自ら言ふも可笑しけれども如何てか奇人怪物たらさるを得んや。漫遊を好み独身の生活を営み(よき人あらば貰はん五六年の後結婚せん夫は兎も角も金子壱千円入用のことなれば持参金丈けは只今直ぐに受取申すべし)兼て狂歌をよくするなど皆由緒あることと言ふべし。狂歌は蜀山には到底及ばさるべきも、宿屋飯盛手柄岡持以上なることは予も遠慮は致さず、読者諸君も亦異存なき処ならん。是れ予が採集家となるに至りたる所以の第一なり。

(二) 五無斎採集癖ある事

五無斎當て帝国教育会の晩餐会に出席して、黒田侯爵の菅公の話及某学士の骨相学の演説を聴聞したることありたり。日頃好奇心に駈られ易き五無斎の事なれば何かは以てたまるべき、つと学士の前に進み出で骨相を見て貰ひしに、学士はいと真面目なるをもちにて予が頭を撫て廻はしつゝ「貴方は数学的の脳髄ではありませんが何か奇妙なるもの即ち標本の様なものを蒐めて楽むやうな善き癖が有ります。人名や地名など記憶する能力は有りませんが余程滑稽的の分子には富んで居ります。其外七八分通りは如何とも思ふ様なことを素破抜かれて公衆の中にて大に赤面したる事ありしなり。是れ法螺に非らず芹田尋常高等小学校訓導大日向一二君は当時立合人の一人なり。去れば予が標本を採集するの性癖は頭骨にまでも現れ居ること見へたり。今より十六七年の昔なりしが師範学校在学中は故学友佐藤元之助君寺沢定次君など、植物の採集をなしたることありしなり。当時植物などの標本を採集したるは実に此の両君のありたるのみ。既にして佐藤君は卒業間際にあの世に旅立たれ、寺沢君は任地上伊那郡に赴かれ、予も亦飯山学校に配流の身となり、良師友の無かりし為めに植物採集は遂に中絶せさるべからさるの事情に立ち至りたり。其後明治弐拾五年頃なりしが、小県郡本原学校在勤中は公務の余暇を以て昆虫を採集したること、二三百種に達したりしも是れも亦良師友の無き為めに失敗に終り、標本は他の細かき昆虫や黴菌の為めにやられてしまいたり。第三回目は鉱物岩石の採集に取りかかりたり。此の度は幾分か成功せり。然れども尚ほ世界に於ける採集旅行を継続せんと思ふなり。是れ予が採集家となるに至る第二の原因なり。

(三) 五無斎法螺性のある事

五無斎の法螺性あることは読者諸君の既に了知せらるゝ処ならん。一昨年中予は下水内郡常盤村戸狩に遊び、友人勝

山直人君と共に喇叭屋と言ふ村茶屋に休みたる事ありたり。後にて聞けば戸狩に三喇叭とて同区には三人の法螺吹ありとか、予は喇叭屋と聞き屋号には少しく如何と思ひたれども直ちに筆を執りて、「法螺百と喇叭屋さんの取り組を行司して見よどちら勝山」など書き散らし恬として省みさる程の痴者なり。去れば予は明治二十七八年の交なりと覚ゆ、小県郡の教育会や職員会等にて漫然我、長野県はあらゆる礦物あらゆる岩石を産すべし、百種位は受合ひなり、予か俗名の百の字に因みて百種百組の標本を調製して子代(こしろ)の標本と名け、実費にて各学校に配付すべければ予約をして貰ひたしと予約帳を振り廻はしたることありたるに、当時十五六人の予約者はありたり。然れども其後は例の五無斎の法螺なりしとてか、多くは予を詰責するものなかりしが、或る十二の人より八時に御促催に預り、冷かし半分の御催促とは思ひつゝも何となく心に済まぬ様に思ひたれば、一昨年の三月教職を辞し友人山田禎三郎、中沢照琳、大沢茂十郎其外八、九人の人士を話らひて助力を頼み、五月一日を以て漫遊の途に上り、昨年十一月末日を以て芽出度漫遊を終り、一と先づ採集を切り上くる事とは為したるなり。是れ予が採集家となるに至りたる所以の第三なり。

(四) 五無斎復讐心に富む事

孔子曰く、「怨みをかくして其人を友とするは左丘明之を愧づ丘も亦之れを愧づ」と。五無斎に至ては怨みある人を友とする事を好まさるのみならず、面当(つらあて)に復讐的に一と仕事をして見せてやらんと欲するなり。前段にも記し置きたりしが如く、予は漫遊の旅費として山禎以下八、九人の諸君より助力を得て四百五拾円許りの額に達したりければ、是れさへあればとて大に喜ひ、乃ち漫遊の途に上りたり。当時予の心中には口でこそ四百五拾円なれ、親子兄弟の関係あるに非らず、刎頸の交りありと云ふにもあらず、言はゞ普通一偏の寄附金や草鞋銭としては少しく巨額なるを感ず。若かず一日も早く漫遊を終り、採集を果して是等の人に報ゆる処なかるべからずと日毎々々に金槌を振り廻し歩きたるに標本は愈々集りて愈々多く、百種位にては止まるべくも見へず三百にも近かゝらん。一日に一種宛を得るとするも三百日を

要すべきに其後寄附金は破約の緒を開きたり。一昨年の夏頃は随分究厄に陥りたるなり。二ケ月間許り長野市の某下宿屋に下宿籠城となりたり。僅々数円の下宿料にも究するなり。俸給を取り居る身にてもあらば友人を訪ふてかりもしまじを、収入なき身の金を借りに行くは返すべき目当てもなければ体のよき乞食なり。然らば悪る口職を辞して還俗せんか、曰く否、大に否、抑々悪る口の職たる何れの官省よりも辞令を受けたることなければ名宛を認むるによしなく、名宛のなき辞表は郵便集配人も大に当惑せん。然らば漫遊を継続せんか、旅費の続かさるを如何せん。進退維れ谷まりたれども亦つくづく思ふ様、若し此の儘にして打過きなば世人は予を何とか評せん。法螺百は依然法螺百にして天下亦予と齒(よはひ)せさるに至らん。然れども法螺の予告に変したる事歴史上其例に乏しからず。

新言海に曰く、法螺の責任を果したるもの之を予告と云ふ。予告なる哉予告なる哉。若かず、如何にもして漫遊を終り採集を果さんにはと。例の山嶺に泣き付き旅費を整え茲に芽出度二ケ年の漫遊を果し、四百余種三万余塊の標本を採集し終るに至りたるなり。是れ予が破約者に対しての復讐心なり。面当な行為なり。然れども予は今後是等の諸君に対しては感謝の意を表せねばならぬなり。そは是にて寄附金の募集すべからざるものなること、人心の頼むに足らざるものなる事との真理を発見したり。今後何等の事業を経営するに当つても予はチビ〳〵、したる細かき寄附金は募集せざるべし、他人の御影は蒙らざるべし。即ち今回破約者に対して発見したる真理は挙々服膺して終生忘却せざらんことを期するものなり。然れども読者諸君怨みも面当も漫遊を終り採集を果すと同時に消滅して跡形もなし。五無斎の心事光風晴月の如し。

㈤ 五無斎おだてに乗る性質ある事

予が長野県地学標本採集の起原は、実に明治二十三年中夏期休業に際して友人古川竹次郎君と共に越後旅行を為し下水内郡柳原村大字富倉の石油を採集したるに始まる。其後明治二十六年頃なりしか、小県郡本原尋常小学校在勤中秋穫休

業を利用して南佐久郡大日向村へ旅行を為し、二三十個の標本を得帰りて之を某職員会にて披露したるに演説は何時にもなく善く出来て大に歓迎せられたり。日頃長演説を為して聴衆を飽かしむるを以て常とせる予の事なりければ当時の得意想ふ可し。明治二十七年の四月、同郡武石尋常小学校長に転任しふとした事より有名なる緑簾石を発見せり。工学士高橋雄次郎君は恩師高橋白山先生の次男にして当時は第一高等中学校の生徒なりしが予が標本を見んとて態々来訪せられたり。珍らしきものなれども名は知らぬなりとて持ち帰られ、之を大学生たる高壮吉氏に示されたり。高氏は来られたり。偶々予は又同郡浦里にて有名なる玄能石を発見せり。理学士比企忠氏は来られたり。理学士脇水鉄五郎氏も亦尋ね来られたり。神保理学士は二回迄ても予か下宿を訪はれたり。大学や高等中学校や高等師範学校の生徒などは年々二、三十人も来るなり。博士学士其他去るべき学校の先生方よりは遙に書を寄せられて標本の交換を申込まるゝなり。交換に際しては説明付きにては又と得難き好標本が予か手本に集るなり。普通購入したるものには説明はなし、只名称と産地とを記載しあるのみ。黄銅鉱などには通常黄鉄鉱方鉛鉱閃亜鉛鉱班銅鉱及石英等を伴ふものなり。若し詳細なる説明なくんば何れの部分が黄銅鉱にして何れの部分が黄鉄鉱なるかを弁別し難く、方鉛鉱閃亜鉛鉱の区別如何紅紫緑色のものは何なりや、硝子棒の如きもの如何、など生徒に質問されて大に閉口する教師其人に乏しからず。其の他多くの標本皆然らさるものなし。斯くの如くにして説明付きの標本を多数に有するに至りたる予は実物の鑑定だけは兎も角も多少誇るに足るべきに至りたり。鳥の子紙や奉書紙に書かれたる謝状礼状は拾数通に及び、本県知事よりは東京帝国博物館へ緑簾石及玄能石を献納したる段奇特とせられ、文部省内震災予防調査会よりは委員理学博士小藤文次郎先生の指図によりて同会調査報告書三冊を送附せらる。是れぞ二ケ年間漫遊中の好伴侶にして法螺演説の種本にそありける。斯くの如き有様なれば日頃おだてに乗り易き五無斎の事なれば、如何てが有頂天とならさるを得んや。現今時めき給ふ伊藤大隈の如き第一流の官吏や政治家も其実は風や雲に乗りて青雲の志を達したるに非らず。世間の人の口車に乗せられ、おだてに乗りたるなり。然らば則ちおだてに乗るの秘訣如何。曰く、只々頼れもせぬ事なるにも拘はらず自ら進で齷齪事に従ふの謂ひなり。平たく言へば世話すきなるなり。おだてなる哉。おだてなる哉。おだてとは知りつつも尚け

なされ時よりはるか心地よきかな。

(六) 五無斎時に隠し芸を出して得意がる癖ある事

五無斎は茶人なり。茶の湯を好む事甚だし。是れ予が隠し芸の一つなり。嘗て太田伯一郎、宮沢徳弥等の諸氏と共々乗鞍登山の折白骨温泉の斉藤と云ふ温泉宿に宿し、酔後茶の湯の講釈を始めたり。女中某なる者予が傍若無人の空講釈を聞きとがめ茶器一切を持ち来るには驚きたり。然れども斯かる山中にて何等の楽もなければ一杯を喫して旅の心を慰めんも亦一興ならんと、主人公として美言に茶を立て太田君及宮沢君等を驚かしやりたり。其の時の得意想ふべし。五無斎師範学校卒業の際は尻から一番なりしも事実なり。落第したるも亦虚言ならず。去れば何時も学問の話しの出るときはかげろうの幼虫ありちごくの如く後へ後へと引き込まさるを得ず、斯くては金槌の川流の如く終生頭の上る瀬もあらさるべければ、何とか工夫して隠し芸的に或る一科の学を研究し置かさるべからす。然らば何々の学科を選ふべきかと云ふに、数学は大の不得手なり、理学も亦名をなすによしなかるべく、美術は六拾点台なれば成功覚束なく、博物学ならばと思ひたれども動物や植物は既に他に先鞭を付けられたれば是等の諸氏を凌がん事思ひもよらず、然らば礦物岩石の学こそよからめと、明治三十年頃なりしか農事休業の際東京帝国大学地質学教室に至り、神保教授に就て結晶学を修めんとしたれども高等数学の素養なくしては結晶学は出来ぬなりと聞きたるには驚きたり。大に失望せり。結晶物を知らざる鉱物学は奇石亭に等しとか冷かされたり。此に於て予は研究と云ふ事には念を断ちたり。然れども緒て止むべきに非らざれば遂に採集家とは変したるなり。是れ予が採集家となるに至りたる所以の六なり。

(七)　五無斎自己中心主義の教育法を創始せんと欲する事

子弟教養の任に当る教育者が修身教授に際し、古人の嘉言善行を引用するは大なる僻事たるべし。予は修身教授に際しては、先つ吾輩が嘗てと説き起し、重に自己の経歴を述べ、格言は自家製造のものを用ひ、時には自作の狂歌などを交へ、終りに臨んで支那の孔子も亦斯の如き言行ありし、猶太の耶蘇亦斯の如かりし、印度の釈迦は如何なんど引用するは妨なしと雖も、成るべく避くべき事なりとす。斯の如き修身談ならでは活きたる教育は出来ず、従て活人物を養成するに道なく精神教育など云ふ事は到底行はれぬものと知るべし。斯の如き教育法を自己中心主義の教育法と号づく。自己中心主義の教育を実施せんと欲せば、先づ自己の経歴を積まさるべからず。自己の経歴を積まんには、先づ四、五ケ年の間漫遊をなさゝるべからず。あらゆる艱難あらゆる辛苦に堪へ、心身の鍛錬を為さゝるべからず。鉱物岩石の採集は頗る困難なる事業なり。採集用具も重ければ獲物も亦軽からず、時々十貫目の荷物を負ひて十里余の道を歩みたる事ありしなり。獲物のなき時にても二十三貫目位はあるなり。金槌を以て岩石や鉱物を相手とする事なれば生疵は殆ど絶ゆることなし。嘗て上水内郡安茂里村字小市にて拂頭石を採集したる折などは鼻の穴及耳たぼより出血を見るに至りたり。（耳のふち　鼻の尻も用捨なし　コイチヤアモリの石のあだうち）

又越後の国妙高山下向の折などは、

米相場妙に高いと聞くものを　尻餅四四の十と六臼

斯の如くにして心身は共に健全の度を加ふるなり。鉱物採集なる哉、鉱物採集なる哉、是れ予が採集家となるに至りたる所以の第七なり。

(八) 五無斎地学的智識の普及を図る事

地学鉱物学の智識は実に本県は申すに及ばず全国の小学校中学校及師範学校等には行はれ居らぬなり。抑も是は理由のある事にて、明治の初年より同二十四、五年に至るまで高等師範学校に於ては地学鉱物学の教授として代用教員を採用したることあり。当時地学鉱物学専攻学者も少からざりしとは言へ、是等は農商務省の地質調査所土性課や他の鉱山の技師などに聘せられ、高等師範学校にては理学士磯部徳三郎（化学専攻）と云ふ人や理学士西松二郎（化学専攻）など云ふ人々に地学鉱物学の教授を担任せしめられたり。是等の人々とても鉱物学を知らず地学を解するの能力なしとにはあらざれども専門の博士学士よりは幾分劣り居りと云ふも強ち誣言にあらざるべし。其後明治二十六七年頃よりは地学専攻の脇水・佐藤両理学士の前後相続きて同校教授に任命せられ、現時は洋行帰りの有名なる山崎理学士の在任せられしと聞けば、今後数年の後は是等の智識が全国に普及するを見るに至らん。東京の一高等師範学校に代用教員を採用したるの弊は田舎の師範学校に及び、小学校の生徒にまでも影響を蒙るに至るに恐るべし。恐るべし。斯の如き次第なれば予は地学的智識普及の一捷径として茲に二十七円校長の大栄職を辞し、満二ケ年間信州の山河を跋渉したるなり。石屋となるなり。石屋の如きは元来予の好むところに非ず。斯くの如くにして絶後とは言ふべからざるも空前の大採集を行ひたるなり。是れ予が採集家となるに至りたる所以の第八なり。

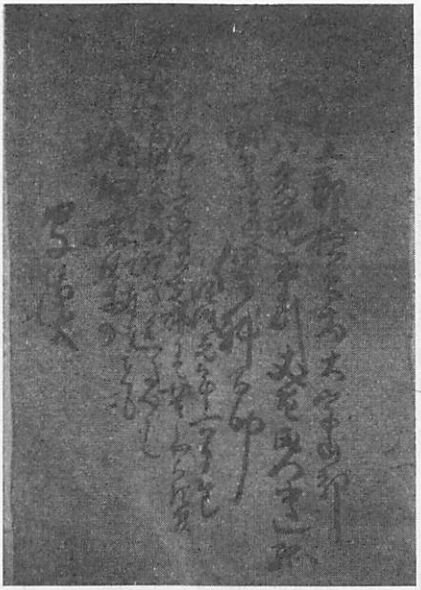
(九) 五無斎不生産的禅を廃して生産的禅を行ずる事

釈迦は結婚後間もなく檀特山に上り、耶蘇は聖霊に導かれて時々郊外散策を企て、マホメットも亦岩窟にこもりし様なり。凡そ古来一宗の開祖となるべき程の人物は大抵人跡稀なる所に至りて沈思黙想を事とする事と見へたり。陸軍省

測地部一等三角点のあるとこ五里を半径として円を画くも其内には一人も居らぬ程なる山奥に至り、礦物岩石の採集を為すは前記三人の衆のなすところよりも遙かに優り居る様考へらるゝなり。面壁九年結伽趺座して下腹に力瘤を入れ溜息をつくは野暮なり。不生産的なり。要は只浮世の名聞利益を捨て、俗事の為めに精神を錯乱せられざるにあり。予の如き極めて俗事の為めに精神を錯乱され易き名利に汲汲たる下等の動物と雖も鉱物岩石の標本を採集しつゝあるの瞬間は殆ど無我無心にして世を忘れ敢て他を顧みず、如何にして結晶の善きものを得んか、如何にして形よき標本を造るを得んかと心懸け居るのみ。若し予が心にして標本採集当時の瞬間の如くならしめば、予は殆ど聖人たるなり、仏たるなり、神たるなり。一昨年の秋季北信漫遊中下高井郡白根火山の頂上にて左の一首を口すさみたることあり。

奥山で霧にまかれし　其時に
コムサイヒャクも　センとなるらん

二ケ年間信州の高山大川を跋渉したるのみにても精神は稍落ち付き、頭寒足熱となりたるものか、漫遊中は如何に大酒を飲むも連日なるも鼻血は絶へて出でたる事なし。今後若し三十五年間の漫遊を継続せば、五無斎宗を開くに於て何かあらん。鉱物岩石の採集は一名を五無斎禅と号づく、五無斎禅の特色は野暮なりと雖も生産的なるにあり。千円の整理費さへあらば一と組四十金位の価値ある標本を百組を得ん。即ち四千円なり。然れども是れは買ふ時の相場にして売る時の値段にあらず。売買を離れて公平に見積るも二千円許りの価値はあらん。生産的禅を行する事、是れ予が採集家となりたる所以の九なり。



山野跋蹉の際いつも懐中していた
自筆身分書

㈢ 五無斎信州博物館の設立を企つる事

数年前予は長野市の小学校長にして高等女学校長たる渡辺敏先生を訪ひし事ありたり。談偶々博物館の事業に及ぶ先生曰く、数年前迄で長野公園内にありし博物館が閉館となり、吉田村の学校に払下となりたる時は思はず一滴の涙を濺ぎたり。予は如何にもして他日再び当市に商品陳列場と博物館を兼ねたるが如きものを設立せんと思ふなりと。而して五無斎は当時既に鉱物岩石の標本を採集し始め居たる折柄なれば、是れある哉、是れある哉、と打ち喜び其後は普通の標本百塊の外に稍々大にして形の善きもの二塊宛を採集したり。是は勿論一つは自由のものにして、他は近き将来に於て設立せらるべき博物館へ出品すべきものなり。然れども礦物岩石のみなる時は博物館にあらずして鉱物岩石館なり。他に動植物の標本をも具へざるべからず。動植物の標本をも具へんと欲せば、更に是等の標本を採集する人なかるべからずと案じ煩ふ折柄、一昨年北信地方漫遊中不図小県郡丸子学校の訓導土屋昌三郎君に行き逢ひたり。君の人となり敢て美男子と云ふには非ずと雖も頗る仙風道骨あり。音曲に精しく、兼ねて又絵画をよくし、鳥獣虫魚の標本を蒐むるを以て無上の快楽となすと聞きたれば、予は直ちに他日設立せらるべき信州博物館出品人の一人と為つて貰ひたしと申込みし同君は快よく之れを承諾せられたり。昨年の暮れ予は又一人の奇男子に邂逅せり。田中貞一君是れなり。君は本県師範学校の四年生にして身体矮少態度甚だ揚らずと雖も豪胆の気象自ら眉宇の間に現はる。嘗て各地の山河を跋渉して草木の標本を蒐むる事二千余種に及び、脂葉は茶箱に五、六杯もありとか、是頗る豪気の数と云ふべし。而して本邦産する所の植物の過半は悉く君の手本に集り居ると云ふ。乃ち予は例によつて例の如く、他日設立せらるべき信州博物館出品人の一人と為つて貰ひたしと申込みしに君も亦一も二もなく承諾せられたり。是にて動植鉱の三品丈けは悉皆揃ふ事となりたり。此外伊那郡に唐沢貞次郎と云ふ人あり。此人石器時代の遺物を蔵する事多し。又下水内郡外様村に国手北沢量平と云ふ人あり。同じく石器時代の遺物を蔵す。是等二人の人に相談せば先づ世間の人に見せても恥かしからぬ博物

館に出来ん。予等の同志者は博物館の建物が出来ぬを憂へず、陳列品の集まらぬを以て終生の恨事となすものなり。一日も早く蒐集を終り、県庁や県会へ差し出さんとあせり居るものなり。斯くの如くにして愈々目出度信州博物館の出来たる暁には、渡辺敏先生は発企者にして、予等三人は出品人なり。県下百三十万の人々や、帝国四千余万の人々は縦覧人たるなり。甚だ遠からざる将来に於て信州博物館を設立する事、是予が採集家となるに至りたる所以なり。

第二章　地質学の必要即ち地質学が都ての学問の土台となる事

地質学は最も必要なる学科なり。都ての学問の土台なり、基礎なり。地質学の土台なき学問は砂の上に建てられたる城廓の如く、早晩暴風雨の為めに吹き飛ばさるゝを免れず。今地質学と他学科との関係を信州の証例を挙げて之れを説明せんと欲す。

(一)　地文学との関係

地文学は気圏と水圏と岩石圏とに行はる諸現象を研究するものなり。而して岩石圏に行はるゝ諸現象は悉く地質学に関係せざるものなし。即ち山脈の高さや方向も土地の高低も将た河川の長さや方向等も実は地質の如何によるものなり。今一、二の例を挙げて之れを説明せんか。曰く、関東平野は何故に低く、吾人の御国は何故に高原なるか、茲に佐川理学士によりて発見せられたる碓氷断層と云ふものあり。関東平野は此の断層線に沿ふて陥落したるが為めに低くなり、吾人の御国は然らず。故に高し。而して荒船角落の二火山此の割目より噴き出したるものなり。尚ほ浅間及び其続きの

諸火山も此断層線の上にあるらしく、以て上信の国界を為し、利根千曲の分水嶺を為す。浅間以下は五無斎の想像によれる臆断なり。又北安曇郡に三つの湖水あり、青木湖は北にあり、木崎湖は南にあり、中綱湖は其中間にあり、神城北城の二ケ村は青木湖以北の平地にして、一寸よき所なれども今より甚だ遠からざる古代にあつては湖水らしき形跡あり。即ち平坦なる事田圃の間に湿地多きは皆其湖水たる事を証し得て余りあり。故に予は此の地方に北神の湖なる新名称を附せんと欲するなり。犀川の水蝕作用が今日の如く甚だしからず、即ち山清路の奇景が出来ぬ時代には南北安曇及東筑摩の地は湖水たるに相違なかるべし。故に予は又例によつて例の如く松本湖と名つくべし。然り而して其の南は即ち今の諏訪湖なり。尚ほ又玆に面白き現象こそあれ、以上列記せしところの諏訪・松本・木崎・中綱・青木・北神の諸湖は悉く一直線に配列せられ、殆と子午線と一致すること是れなり。其の西に聳ゆる諸山は、嘗て山崎理学士に依つて日本のアルプス山とあだ名されたる程の険山にして、信飛の国境をなし、其の東にあるものは以て南信北信の境界線たるなり。犀川は北に流れ、高瀬川は南に下り、姫河は越後に潮す、而して東山脈は重に中生代の岩石より成る。抑も斯かる現象は何によりて起るか。例の断層なり。断層たる証跡も亦数多ありと雖も悉く挙げ難し。是れ地文学を修めんと欲するものは先づ地質学の素養なかるべからざる所以なからんか。

(二) 地質学との関係

地文学及地質学の智識を欠ける地理書は殆ど読むに堪へず、山嶽の高さや形状河川の長さや方向さては邦土の広狭人口の多寡など悉く地質に関係せざるものなし。譬へば小県郡の東西内村の如し。東西内村の地籍中南半分は御坂層より成る。此の内には例の断層線のあるらしく五無斎の臆断なり。眉毛に唾をつけてよむべし。玢岩や流紋岩は此の断層線に沿ふて噴き出したるものならんか。諸種の鉱物に富み鹿教湯霊泉寺の諸温泉此処に湧出し、冬期農閑の期節には浴客此に群集し往来雑沓織るか如く、絃歌の声耳に喧し、内村川は此の断層線に沿ふて西より東に流れ、東西内村六七百戸

の之れに巣を喰ひ、三才山之れに通ず。明治の初年電信線路は実に此の三才山峠を通過したるなり。其の北側に玢岩や流紋岩より成れる丘陵あるを以て気候温暖に、水田は優に二毛作となすを得べく、西内村の如きは同郡第一富有の土地と称せらる。

㈢ 歴史との関係

歴史と地理学の関係あることは五無斎などの敢て喋々を要せさる処なり。然り而して地理学の基礎が地質学にあるは既に前段に於て論述したる処なり。其の昔日本武尊の蝦夷征伐の帰途御通行遊ばされたりと言ひ伝ふる碓氷峠に就て之れを論せんか、碓氷峠は実に荒船旧火山と角落火山との境界線たるなり。千八百年の昔の事なれば道路の険隘山林の鬱蒼は申す迄もなき事ながら、尊は実に此両火山の間を求めて御通過遊ばされたるなり。御維新前は仲仙道に当れる二大難関として聞へたる坂道も、其後は新道も開け、鉄道馬車も亦通りたることあり、近頃は又二十六のトンネルを穿ちてアブト式の機関車を利用して居眠りを為しつゝ此処を通過するに何の苦もあることなし。又北佐久郡に湯川と云ふ小川あり。浅間山麓の追分近傍より発源し、御代田停車場の辺を過ぎ、岩村田町の南を環流し、南北佐久の郡界たる岩尾と云ふ処に至りて千曲川に注ぐ。戦国時代には此の湯川に沿ふて三人の木葉大名ありたり。名前は今忘れたりと雖も東にありしは小田井城にして、今は岩村田町にあり。而して最も西なるは岩尾城にして千曲湯川両川の会合点にあり。湯川に至りては小さき川なれば信濃地理書などには其名を逸す。斯かる小川が如何にして是等の三城跡に関係ありたるか、是れは抑も理由のあることにして、此地方は読者諸君の既に知らるゝが如く本邦第一の火山の好標本たる浅間山の裾野なり。元来裾野なるものは軽鬆なる火山灰より成れる地層に水蝕作用の行はるゝことあらば忽ち深く刻れて天然の堀りは出来るなり。所によりては三丈も五丈も十丈もある程なるべし。三丈以上のものなどは到底人力の企で及ふ処にあらず。是れ小田井・大井及岩尾の諸城主が拠て以て一方の固めとなしたる所以なり。信州十大名の屋敷跡を見るに小諸城

こそ最も要鎮堅固のものならめ。是れも亦信州地理書には其名を逸する程なる火山の裾野を流る小川によりて左右を固め、東に浅間火山を扣へ西に千曲川の急流を利用したるなり。其他一々挙け難ければ略す。

㈣ 植物学との関係

植物は地上に生育するものなり。従て地層土性の如何は直ちに植物に影響すべし。即ち某の植物は甲の地質には適合して成長繁茂し、乙の土性には否らずと云ふが如き関係あるべしと雖予は植物の学に暗く斯間に存する消息を読者諸君に報導するの資格なし。然れども吾人の御国たる信州は実に崑崙山系と樺太山系との結合点たるなり。今縄や紐をつなき合するに当りても其つなぎ目所には結び玉と云ふものが出来るなり。両山系の結合点たる吾人の御国たるもの焉んぞ高原的の性質を帯ばさるを得んや。加え富士御嶽の両火山脈は此所を横過す。而して火山は通常高峻なるものなり。今本邦地理を繙いて一万尺前後の高距を有する嶽を通覧するに八九分通りは吾人の御国にあるなり。昨年の夏予は嘗て大学院学生理学士矢部禎吉君と共に北安曇郡白馬山に登る事ありしが、当時予は一奇問を発して「植物学者の目より見たる信州の価値如何」矢部君答へて曰く、御国は実に高山峻岳に富み居るを以て高山植物の採集地として本嶋第一なり。且つ北海道及千嶋の植物と甚だ類似の点あり。江戸村附近の如きは殆ど高山植物の一種類をも得ること能はす。一昨年の夏登山したるにも拘はらず本年も亦更に当時君は人足二人を連れられたれば想ふに数千種の植物を得られたる事ならん。予は頂上にて同氏と袂を分ち帰路を異にしたれば詳しく知らず。

㈤ 動物学との関係

動物は直接若しくは間接に植物の葉や幹や根を打ち食ふて生育するものなり。従て植物の如何は動物の生殖繁栄に関

係あるべく、必竟は地質学との関係もあるべし。故に若し詳細に研究したらんには随分趣味ある問題なるべしと雖も予は例によりて例の如く動物学には門外漢なり。是亦此間存する消息を読者諸君に報導するの材料なし。然れども予は数年前小県郡武石村小学校長の大栄職を帯びたることありしが、同地有名なる下武石の武石山に武石と云ふ鉱物を採集に行きたる事前後数十回の多きに及ひたり。（此の外に武石峠あり武石山信広寺と云ふ寺あり武石山と云う角力取りあり字の読み方は中々六けしきものなり）同山は御坂層の凝灰岩とて緑色を帯ひたる灰色の岩石より成る。是れは地球創成の第三日の夕方即ち中生代の終りに出来たる岩石にして、甲州の御坂峠附近に最も善く発達し居るが故に斯くは名づけたるなり。此所に何だか名の知れぬ蝶や蛾やバッタなどの棲息するなり。巧みに己れの身体を緑灰色の御坂凝灰岩に似せて斯かる保護色を有する以上は、五無斎如何に炯眼なりと雖も争てか吾等の此所に在るを知らんやと言はぬ許りに泰然と構へ居るなり。予も亦彼等の保護色の為めにか誰かされ、斯かる虫数閣下の御座るとも知らず例の大金槌を以て岩体に打ちかゝるに及んでは其振蕩の劇しきにや驚き給ひけん、周章て却て四方に乱飛するの様今も尚脳裏を去りやらず、是れ亦動物学との間に存する関係の一ならんか。

(六) 農学との関係

農業とは実に草や木を培養して其の実や幹や根を取りて直接に之れを打ち食ふか、又一と度は家畜や家禽の胃の腑の力を利用して窒素質に富める肉類や鳥卵となして食ひ、蚕の如き虫を飼ひては絹布の衣服を調へなどする事なり。而して是等の草木は何れも地上に生育するものにして其適否如何を知らんと欲せば先つ其土性の如何を考へさるべからず。土砂の本元素と岩石の崩壊したるものなれば土性の如何は実に其周囲の山岳を構成する岩石の性質によるものなり。上水内の西山中や南北安曇の東部を旅行せられたる人々は善く知られたる事ならん、此の地方は主に第三紀の水成岩より成る。第三紀の水成岩は実に昨今迄で海底にありし泥や砂や礫等なりしなり。之れを泥板岩（又頁岩）砂岩礫岩（礫岩

又は子持岩とも言ふ）と号づく。其海底に沈澱したるものなれば其諸種の有機物に富むは勿論の事なり。貝殻の化石等のある地方にては燐鉱さへもありと云ふ。前任知事押川則吉君の舎弟たる理学士伊木常識君の別所地方にて発見せられたりと昨年頃の本紙3に書かれたるは是ならんか。去れば同地方に於ては斜面の甚だ急なる小山の頂上の辺迄て陸田を以て充たされ、人家は山の頭や谷の底なとに二三軒づゝ散在するなり。隣家と相談ある際には予め約束し置きたる合図を為して各庭上に出で大声を揚げて其の意を通ずと云ふ。是れ隣家を訪問せんが為めには冬の日ならば殆ど半日費すべきが為めなりと云ふ。（相談事以下は実に五無斎の作り事なり）斯くの如き斜面の急なる陸田なれば肥料などを施すによしなく、殆ど無肥料にて耕作せらるゝなり。無肥料にても他の地方にて多量の肥料を施したるものと同一の収穫なるなり。斜面の急なるが故に他は地方ならば悉く表土を洗ひ去られ、心土即ち苦土と云ふものが現はれ数年の後は殆ど荒地となるべき筈なるに、此地方にては表土の流れ落つるこそ却て幸福の種なれ。表土の流れ落つると同時に更に新らしき肥料分に富める土砂を供給せらるゝが故に未来永久に無肥料にて耕作する事を得へしとは何ぼう幸福なる人民ならずや。然れども若し此地方にても水田となさば此天与の幸福を享くること能はさるべし。泥板岩の崩壊したるものは粘土なり。粘土質の地方は排水法を行ふによしなく、肥料分ありと雖も将た肥料を施すと雖も肥料たるの価値を現はす事なく、忽ち重粘寒冷にして湿気多き悪田と変するに至らん。下伊那郡大下条村及其附近の水田の如し。是又第三紀層より成り、気候の温暖なるは以て熱帯植物たる稲と云ふ草を培養するに適すべき地方なりと雖も如上の理由に依り余り多量の収穫なき様察せられたり。元来本邦農学の一大欠点は無暗に稲と云ふ草の実を好み、御米の御飯を喰むにあり。御米の御飯よりは挽割飯の方身体の為めにも斯やる善かるべく、小麦粉にて作りたる御麺類は最も滋養の効あり。値段の高く滋養の少き御米の御飯を喰み食し御値段の安くして効ある御麺類を擯斥するとは頗る野暮の至りならずや。

(七) 山林学との関係

木曾の御料林の事は暫く措き、県下第一等の殖林は昨年中の本紙に報導せられたる南佐久郡大沢村の阿部善蔵翁によつて造林せられたる赤松及落葉松造林なるべし。同地方は立科火山の東麓にして主に立科・横岳両火山より噴き出されたる火山灰より成る。元来火山灰なるものは其質粗鬆にして忽ち暴風の為めに吹き飛ばされ易く、植物は根を其中に固定すること能はず、且つ寒中には多く霜柱を生じ土砂を扛起せしめ作物や牧草などを倍養せんには極めて不向なる地層なりとす。然れども赤松及落葉松は斯の如き軽鬆にして湿気の少なき土壌を好むが故に、二十四年前の殖林なるにも拘はらず或るものは柱材として伐採に堪ふるものあるに至りたり。八九年前に建築せられたる大沢学校の如きは同郡内有数の建物なるが一部分の間切をなしたるものを堤防工事などに売却にして建築せられたりとか。今後二十年の後悉く伐採し、之れを売却して一大村立銀行でも立てたらんには同村の人民は殆ど寝喰の有様にて生活するを得ん。同村の人民は阿部翁の鴻恩を忘れてはならぬ事と思ふなり。然れども同じ火山灰の地層とても必らずしも赤松及び落葉松の生育すると云ふ訳には非らず、浅間山麓軽井沢なる雨敬氏の落葉松の殖林の如し。是れも亦二十余年の殖林なるにもかゝわらず直径二三寸高さ十数尺の節多き捻ぢれ木たるに過ぎず。必竟同地方は天明三（今より百年許り前）浅間焼けの折り新らしき火山灰にして分解の程度尚ほ低く肥料分の分出少きと、（一）同地方の実に昨今迄湖沼たりしが如き形跡ありて水湿多く、（二）且気候も稍々寒冷に過ぐる、（三）の致すところならんが、人間万事塞翁が馬と云ふ事をあれば一百年の将来に於て伐採する事とせば建築材としては如何のものにやと思へども細工物としては意外の価値を顕はすに至るやも知るべからず。近来は各町村の事業として将た小学校の基本財産として落葉松の造林甚だ盛大にもなり、且つ将来本県の県是としては山林の忽にすべからさるものあれば少しく五無斎の所見を開陳せさるべからず。前段大沢村の外同郡小田切村の殖林の如きも一村の事業としては実に大なるものなり。北佐久郡の塩野官林、同芝生田官林の如きは其

仕掛の大々的なる只々驚くの外なしと雖も尚山林の荒廃の結果現時秣場となり居るも将来落葉松の好適地たるべきものを列挙すれば、

一　南佐久郡千曲河以西の地即ち延山が原及流鏑馬が原地方。（八ヶ岳火山東麓の裾野）

二　荒船火山の信州側即ち南佐久郡大日向・田口・平賀・内山及北佐久郡志賀・三ツ井及東西長倉地方。

三　立科火山北麓地方即ち予が郷里なる芦田八ヶ村・協和・春日・布施・和田・大門・長久保等。

四　小県郡東在と号する地方即ち傍陽・長・本原・殿城・豊里・和・禰津・滋野等烏帽子火山及其続きの火山西部地方。

五　和田峠より猿ヶ馬場峠に至る連嶺の両側。

六　上高井火山群の西北麓地方即ち松代附近より中野町附近に至る地方の山手。（此の地方は杉・椹・等にも適す）

七　上水内郡飯綱・黒姫及斑尾三火山の裾野地方。（一部分杉・椹にも適する処あり）

八　下高井郡高社火山四近。

九　諏訪郡山浦地方即ち立科及八ヶ岳火山の西麓

一〇　諏訪湖以東霧ヶ峰火山。

一一　諏訪上伊那両郡の境上にある守屋火山及其四近。

一二　東筑摩郡桔梗ヶ原及其四近。（此地方は開墾にも適す養豚業などを為すにも好適地なり）

一三　東筑摩及諏訪の境上にある塩尻峠及其周嶺

一四　南安曇郡安曇村大字大野川の奥乗鞍火山東麓の裾野。

以上列記せしところの総面積は其幾万町歩なるやを知るべからず。然れども若し斯かる面積に落葉松のみを栽殖するとせば、販路の狭隘なるより供給の過剰を来たし、市価の非常に下落するに至る懸念はなきかと心配せらるゝが如き向きもあらんかなれども、去る心配は御無用なり。中央線は連絡し甲府塩尻間も成功すべく碓氷峠のみは勿論軌鉄道複線

となり、信越鉄道も亦狭軌鉄道複線となるの日近きにあり。郷津湾の修築も亦甚々遠からざる将来の事なるべく、天竜川の電気鉄道も早晩発起せさるべからず、是架空の空論にあらず二ヶ年間の修養によつて五無斎の天より授り得たる天眼通にて観察したる結果なり。十年の後は必ず是等の交通機関は悉皆工事を了すべし。

なりかたち　ゴムサイ百モ　蝦蟹の

着眼点は　高くこそあれ

斯の如くして交通機関の充分に発達せる時代ともならば落葉松材は西に九州支那朝鮮より、北は北海道及び亜米利加の西北岸に達せん。是れ同材最好適地は吾人の御国たる信州と外に三県に限るが故なり。同じ日本の内ながら名古屋附近に至らば盆栽とする事も出来ぬなどとは昨年の漫遊中名古屋の植木屋某より聞き込みたる所なり。同地方にては如何に注意して栽培するとも四五尺に達すれば忽ち枯死すと云ふ。斯くの如くにして蠱きの御心配は所謂老婆心と言のものに終らん。

次に予は上下伊那地方の山林に就て一言せんか。同地方は主に始原代及古生代の岩石たる花崗質片麻岩・花崗岩及び花崗斑岩等の露爛せしものより成り、山林の荒廃せしこと頗る甚し、是等の土性は正長石の破片石英粒及雲母片にして、肥料分の極めて僅少なるものなるが、例の本邦人の一大欠点として価格の低廉ならざる滋養の効少きお米の御飯を喰み食し、お米さへ取れば一生の能事終れりと為し、地質土性の適否を顧みず。気候の如何に頓着することなく稲と云ふ草の栽培に余念なきは頗る遺憾の至りと言はざるを得ず。同地方にて斯の如く山林の荒廃するに至りし原因は農業用の石灰を焼きたること。（一）肥料用としての秣草を刈りたるが為なり。（二）と云ふ。石灰を濫用するの各農家に不利益なるは申すまでもなく、僅々数反歩の水田や陸田を耕作せんが為めに数町歩の山林を原野に変ぜんとするは徒らに労して効なきの仕方と言ふ可し。同地方の如き肥料分に乏しき土地に牧草の如き長さ数寸に過ぎざる浅根植物を栽培するは土地利用の原則に背くものなり。七八尺乃至二三丈位も深く地中に入り込みて体積の広大なる部分より肥料を吸収すべき深根植物即ち樹木の如きものを仕立つるに若くものあるべからず。参州境たる満島鴛巣辺にて聞き込みたるところ

によれば、同地方にては杉檜の如きは人間の一生即ち五六十年間に二回宛の伐採に堪ふべしと云ふ。是れ気候の温暖にして樹木生育期の長きが為めなるべし。予が実見したるところにては山林となすに最も能く適するは西筑摩、上下伊那、下高井及び下水内の数郡に過ぎず。然り而して下伊那を以て首位となす。斯の如く樹木を栽植するに最も能く適する地方を以て水田又は陸田となすが為めに原野となす事頗る野暮の至りと言はざるを得ず。今一段歩の水田を耕作せんが為めには肥料供給地として一町歩の原野なかるべからず。仮りに水田一段歩一ケ年の収穫を二石とし、一石十二円とすれば二十四円にして三十ケ年を一期として之を通計すれば七百十二円なり。素と一町一反歩よりの総収入なれば土地一反歩一ケ年の収穫の何程なるやを知らんと欲せば十一除し更に三十除せざるべからず即ち二円十八銭弱となる。若し一町一反歩の土地を悉く山林となし一坪一本宛の杉苗を植えつけ三十ケ年の後悉く伐採するとせば三十六位の杉の木三千三百本を得可し。一本の値を五十銭平均とすれば一千六百五十円なり、之もまた例によつて十一除し三十除すれば金五円なり即ち水田となしたるものの二三倍弱なり利息勘定は以て手入費の減少より補ふべし租税の少き丈は計算以外の所得なり。然れども同地方は既に荒廃の極水湿に乏しく、杉・檜の栽植に適せさるの地あるに至れり。嘗て本多博士より亡国の前兆なりとして警告されたる赤松や比較的痩地にも生育し易き落葉松さへも尚栽植に堪へさるの地方あるに至りたり。中国地方花崗岩地山林の荒廃は全く上下伊那地方の稍々大仕掛なるものなり。昨年の夏予は美濃国恵那郡苗木に遊びたるに木曾の御料林を距ること僅々三四里なる同地方の山林原野は悉く禿頭病に罹り居るなり。三課の誰やらのをつむりよりも尚甚だし、殆ど植林の見込なし。今後若し十ケ年を緩うせば上下伊那の花崗岩地は苗木の覆轍を踏み秣草を刈る事も出来ず、山中の生活を営みながら薪炭は之れを他地方に仰ぎ、お米をも購入せさるべからさるの悲境に立ち至らんか、若し果して斯の如き場合ともならば是等の物品と交換すべき○は如何にして工面せらるべきか。吾人々類は不幸にして鼻の下頤の上に一孔あり。朝昼晩とも三度宛は必ず何物かを詰め込まさるべからず、若し若し一二回の詰め込みを怠る事あらば身心の諸機関は運転を停止せん。身心諸機関の運転の停止之れを死と云ふ。死せば即ち万事休す焉。

然らば則ち如何にして之れを未然に防禦すべきか。曰く、同地方禿頭病の未だ甚しからさる部分は第一期の事業とし

ては実に不向なから、赤松及落葉松の如きものを植え付け落葉を拾ふ事なり。以て腐植質及水湿富ましめ、数年若しくは十数年の後杉・檜等を其間に植え込み充分に根付き成長し始むるに至りて是等赤松及落葉松を伐採するにあり。然れども其荒癈の甚しき苗木の如きものに至りては、先づ第一期の事業としては首宿の如き遊離窒素を摂取して地力を増進すべき豆科に属する牧草類（牧草に就ては友人上伊那郡赤穂小学校長柴崎虎五郎翁の研究あり就て問ひ合さるべし）を蒔き付け、第二期の事業として赤松及落葉松等を植え付、第三期に至りて始めて杉・檜及・檜等を栽植するが如き極めて間緩き方法手段を取り以て百年の大計を定めざるべからず。

以上論述したるところは主もに上下伊那の花崗岩地にありと雖も新火山の火山灰を以て七八分通りを占むる吾人の御国たる信州の地は二十ケ年の後は上下伊那あたり苗木たるに至らん。殷鑑遠からず、近く上下伊那にあり。若し五無斎一家の言として斯植林事業を忽諸にし給はば数十年の後は県下悉く斯悲境に陥り、五無斎をして地下に起たしむるも亦手の附け処なきに至らん。是れ予が本段に限り愛山老翁より恵まれたるちやぼ筆の先きに力瘤を入れて繁冗を厭はざる所以なり。（ちやぼ筆は翁が幼年時代より馴染筆にして遙々静岡より取り寄やられたるものなりとか文昇堂の銘あり）

(六) 牧畜学との関係

予は牧畜業に就ては何等の経験もなし。去れども昨年中漫遊の際北佐久郡志賀村の物見山の牧場を過ぐることありしに去る牧畜業者は言ひたり。物見山の牧場は小石がなくて蹄が伸ひ過きて困るなり。且つ蹄の性質も堅く出来ぬなり。川上の牧場は小石多ければ蹄を切りてやるの煩雑もなし、実に浦山しき事なりと。而して物見山の牧場は荒船開切火山の火山灰より成り、川上の牧場は全峰山の花崗岩噴起の為に硬変せられたる古生代粘板岩の破片より成る、是れ亦牧畜を業とするものは地質学を知らさるべからざる所以の一ならんか。

(九) 鉱物学との関係

化学作用と云ふものが化学実験室にのみ行はるゝものなりと思ふは大なる僻事たるべし。実験室に行はるゝものは人為の作用により迅速に一時的に小仕掛に且つ目前に行はるものゝみに過ぎず。地球上（星界にも行はるゝ事と知るべし）には絶へず徐々に永久的に且つ大仕掛に又目に見えぬ処にも行はるゝものなり。去れば或る地方が鉱山に富むと云へば今より数十百万年乃至数億年の其昔其の地方に化学作用の著るしく行はれたる事と知るべし。小県郡武石村の緑簾石は俗名を焼餅石と呼び、本邦第二の光沢よきものとして学者に知れ渡り同地の武石と云ふ鉱物が結晶の美六面体なるものあり、六面体と五角十二体との聚形をなすものあり、又稀れには八面体の面をも見ることあり、且つ色沢の艶あるより学者社会は申すに及ばず俗間にも称揚せられ、和田村及武石村の鉄雲母が五無斎によつて発見せられたるが如き、将た東西内村の諸種の鉱物に富めるが如きは御坂凝灰岩のうちに鉢伏山及其連嶺の閃緑岩が噴起して其の熱の為めに化学作用を起して触接変質を及ぼし触接鉱物を生じたるに依るものなり。北安曇郡大町附近は仏崎が（大町より二十丁許り、雲母や硅灰石頗る美事なり床置物にも適すべし）輝石様のものを産するは是れ亦不純粋なる石灰岩を貫きて花崗岩の噴起したるに起因すべく、南佐久郡の大日向村が鉱物に富めるは古生代粘板岩を貫きて噴起したる花崗岩や飛白岩や閃緑岩に関係あり。川上村の電気石（六角柱と扁平なる斜方六面体との聚形）柘榴石及び水晶等を産する不純粋なる古生代の石灰岩を貫きて金峯山の花崗岩噴起等より化学作用の行はれたるなり。有名なる浅間山の菫青石や、長野市郷路山の菫青石の如き、何れも新火山岩たる富士岩が第三紀の水成岩たる砂岩や泥板岩を大火玉即熔岩の中に包みて地表に持ち出したるに依ると云ふ、其他枚挙に遑あらず。実に地質学と鉱物学とは頗る親密なる関係ありと云ふべし。

予は長野県地学標本目録の緒言にも記し置きたりしが如く、去る明治二十七八年頃より同三十一二年頃迄は年々五六十日宛の旅行を為し、同三十四及五の両年間は全く信州に於ける高山大川の跋渉に費したり。其間唯一の方針として小

学校若くは村役場に至り、此地方には物数寄の人はなきや、黄金の夢を見て破産したる人はなきや、を問ひたり。曰く何某は以前は相応に暮したるものなり、然れども何々の山鉱に手を出して失敗したり、今は朝晩の糊口にも窕し居るなり、彼に問はば山の案内は知れん、君宜しく彼れに付て道の因る処を問ひ給へ、と乃ち至り見れば妻子は飢えに泣き、顔面蒼白色を呈し、目瞼は落ち窪みて此奥に目ありと云はぬ許りの面持ちにて炉辺にて蹲踞しつゝ、予が新発見の鉱山は頗る有望なり善き金主もあらば予は一攫千金を得て未だ数年ならざるに三ツ井三ツ菱は物の数かわと其勢のすさまじき事譬へん様もなし、いざ案内せられよ、と其所謂鉱山なるものを訪ふに及んでは、実に抱腹絶倒と言はさるを得ず、御坂凝灰岩のうちに黄鉄鉱の微粒あるを認むるに過ぎず、山奥へ一里も二里も入り込んで、一二時も採集を継続したるにも関らず、僅々手の平の上にて光線の当る方向に透かして見て辛して見得らるゝ位のものを採集したるに過ぎず、茫然自失とは此事をや言まし、殊に可笑しきは、御坂凝灰岩とでも黄金の出ぬには限らざるべきも、其所謂金坑なるものを少しく深く掘り行かば、忽ち極めて緻密堅硬なる玢岩の岩脈に逢着せん、採掘に困難なるは申すまでもなく鉱脈は断絶せん、少しく地質学の一端を会得して母岩と鉱脈との関係や、鉱石の良否を判定するの能力あらしめば、斯かる不都合はなかるへし、斯の如きの類、他にも尚ほ多かり一々記述するの余裕なければ略す。

信州の　山々金気は　更になし　人の腰なる〇は格別
〇のある　所如何にと人問はば　各々方の足と手と口。

第三章　地質学の補助学科　即ち地質学の基礎となり土台となるべきもの

以上論述せしところに因つて読者諸君は、地質学が他の諸学科の基礎たり土台たるよしは略ぼ了知せられたる事ならん、然らば則ち、地質学は地質学のみ単独に研究し得らるべきものなるかと云ふに決して然らず、他の諸学科の補助を借りて始めて大成するものなり、今又例に依りて信州の例を挙げて之れを説せんと欲す。

今日から　八五ト六カ四九七リ申ス　一ツ十コロヲ二三ベン読メ

(一)　鉱物学との関係

安山岩は如何なるものなりや之れを一と口に云へば如何、とは漫遊中時々承りたる質問にして、五無斎の大に閉口したるところなり、是れある格段なる一つの岩石を指すに非らずして総称なるが故なり、今平たく五無斎流に之れを説明すれば、安山岩は新火山より噴き出したる火成岩の一つにして、斜長石及輝石より成れる石基中に是等二鉱物の稍大なる結晶を斑紋状に散布し、且つ磁鉄鉱は決して欠くることなきも副成分としては他の諸種の鉱物を含有す、其始めて研究せられたるは亜米利加のアンデス山なりしを以て原名をアンデサイトと呼ひ、我農商務省に於ては安山岩と訳し、又本邦第一の高山（台湾併有以前の事）として、且つ其形の整正なるとにより有名なる富士岩と号づく、富士山は富士岩より成らずして都て玄武岩なりとは福地理学士の説なり、然れども富士岩と玄武岩との区別は判然区劃を立て難きものよしにして、且つ学者に依りて多少標準を異にするものと見えたり、と書き散せば至極簡単なる如くなれども、復成

分の異なる等の事情により数多の変種を生するなり、下高井郡高社山や、上水内郡飯綱山等の富士岩は最も普通なる種類にして、単斜方の両輝石を有するが故に之れを、（1）複輝石富士岩又両輝石富士岩　と云ひ、諏訪郡の茶臼山及び浅間火山の第一外輪山たる牙岩等の富士岩は、敢榄石の小晶を散点するが故に之れを　（2）橄榄輝石富士岩又橄榄富士岩　と云ひ、又立科山の頂上、長野市附近の郷路山、豊野附近のもとどり山及松代町附近の皆神山の富士岩の如きは輝石の外角閃石をも含有するが故に之れを　（3）輝石角閃石富士岩又輝閃富士岩　と云ひ、又諏訪湖東なる霧ケ峰、荒船山の頂上京塚山及北安小谷温泉の奥、天狗原山のものの如きは、僅少の輝石を混在すと雖も主もに角閃石より成るが故に之れを、（4）角閃富士岩　と云ひ、又戸隠裏山なる五地蔵峰・高妻・乙妻及び長野市発電所対岸の小露出の如きは、角閃石の外石英の結晶あるが故に之れを　（5）石英角閃石富士岩又英閃富士岩　と云ひ、又下高井郡笠法師火山及白倉山のもの〻如きは、単斜斜方両輝石の外、石英あるが故に之れを　（6）石英輝石富士岩又英複輝富士岩　と云ひ、稲荷山町附近の石切場及ひ東筑摩郡麻績町附近聖山のもの〻如きは、石英及び雲母を含有するが故に之れを、（7）石英雲母富士岩又英雲富士岩　と云ひ、又北佐久郡軽井沢離山のもの〻如きは、雲母片を散在する故に之れを　（8）雲母富士岩　と云ふ、此の外小県郡傍陽・長両村の境の辺に粒状富士岩あり、北佐久郡三ツ井志賀・平賀・内山田口諸村の丘陵の上部及臼田橋畔稲荷山の上部に玻璃質富士岩あり、下高井郡渋及田中温泉場附近や、碓氷峠に変朽富士岩ありて、富士岩の種類のみにても明きれ去る程なり、而して一々是等の岩石を識別せんと欲せば、二種の輝石・角閃石・石英・雲母・橄鉱石・磁鉄鉱及び斜長石等を夫々鑑識するの能力、即ち鉱物学の素養なくんばあるべからず、是れ地質学を攻むるもの〻必ず鉱物学の智識なかるべからざる所以なり。

(二)　結晶学及び数学との関係

前段論述したるところに依つて、読者諸君は地質学を研究せんとするに当ては先づ鉱物学素養なかるへからさる所以

の道理を了解せられたる事ならん、然れども其鉱物の何なりやを鑑定するに当つては、堅度や比重によつて之れを区別するの法ありと雖も、同堅度同比重の鉱物多々なるを如何せん、化学分析によるの法ありと雖も、其手数非常に繁雑なるの嫌ひあり、色沢の異なるによりて之れを鑑別するの法ありと雖も、色沢共に同一にして異なる鉱物も亦尠からず、長野市附近の郷路山に産する輝石角閃石の如きは其化学成分を一にし、共に石灰苦土鉄等の硅酸塩なり、共に柱状の結晶を為し普通のものは共に黒色にして、劈開面は褐緑等の光を帯ぶ、且つ輝石は人工を以て熔かしたる金滓の中に結晶せしむること得れども、角閃石は一旦熔解したる後は再び角閃石の結晶を為さずして、却て輝石の結晶を取る故に両者は外見上甚だ能力酷似し肉眼的に之れを識別する事甚だ難し、然れども輝石は柱面と柱面の間の角度八十八度を為し、角閃石は輝石よりも大にして百二十四度を示す、而して鉱物の結晶なるものは、洋の東西を論ぜず時の古今を問はず同一の鉱物は常に同一の結晶を有するものなり、是唯輝石と角閃石とに就て論述したるのみなれば其の他の鉱物皆然らさるものなし、故に鉱物の異同を知らんと成分比重堅度及色沢等を比較研究すると同時に結晶の如何を調査せさるへからず、結晶の如何によるの法は最も簡単にして且つ最も安全なるものとす、鉱物学エクワール結晶学なり、結晶学を知らざる鉱物学は、奇石亭（小県郡長瀬村に一奇人あり名は知らされども彼は理髪床なり陽石陰石及び天盤笛等種々の珍石寧ろ怪石を蔵する事甚だ多く、奇石亭の三字を掲け頗る得々たるものなり、嘗て天盤笛を吹奏して宮様を驚かしたる事あり）に等しとは神保博士の予を評せられたる詞の一節なり、而して結晶学を攻めんとするに当りては、普通の算術や代数や幾何学殊に立体幾何学を知らざるべからず、三角術や解析幾何も弁へざるべからず、更に一歩を進むれば微分積分をも用ゐざるべからずと聞きたるには驚きたり、五無斎の算術は五十点台にして代数幾何は三十点台なり、而して三角術は最初の三頁許りを見たるのみ、是れ以上の高等数学は勿論標題も見たることなし、人或は余を師範学校中学校の教諭に擬するものありと雖も、是れ思はざるの甚しきものと謂ふ可し、奇石亭の主人を師範学校中学校の講義室に引つ張り出すと異なることなし、有体（ありてい）に白状すれば予は普通の鉱物学の始めにある結晶学位は兎も角も故菊池安先生の鉱物学教科書中の結晶の部を了解するの能力なし終りに臨み予は世の数学嫌ひの博物学者に一言を呈せん、曰く動物植物の学

は兎も角も鉱物地質の学は忽ち失敗に終らん、五無斎の研究を断念して大採集家となりしは全く是が為めなり、採集家(即ち五無斎一人にて足れり、長野商等女学校長渡辺若翁嘗て予を評して曰く、五無斎は奇人なり（予は不服なり人間以上のものなれば何ぞ怪物と言はざる）県下以て一なかるべからず、以て二あるべからざる的の人物なりと、渡辺若翁は稍〻よく知るものと謂ふ可し、呵々。

(三) 物理学との関係

前の二段に於て論述したるところによつて、読者諸君は先づ鉱物学殊に結晶学を収めざるべからざる所以を了解せられたる事ならん、然れども岩石の成分を為せる鉱物は概ね微少にして、且つ岩石中に堅く封鎖せらるゝが故に、面や角の以て測定せらるゝに由なかるべし、上下伊那及西筑摩の郡界にある駒ヶ嶽及び其の連嶺は、都て花崗岩より成り諏訪郡四賀村附近には角閃花崗岩あり、小県諏訪及東筑摩の郡界たる鉢伏山の西部には、石英雲母閃緑岩即ち英雲閃緑岩あり、東部即ち小県郡和田村・武石・長窪及西内村等には石英閃緑岩あり、今是等岩石の成分鉱物を表示すれば、

(イ) 花崗岩（古生代火成岩）＝石英＋正長石＋雲母

(ロ) 角閃花崗岩＝石英＋正長石及斜長石（少量）＋雲母及角閃石（少量）

(ハ) 石英雲母閃緑岩＝石英＋斜長石及正長石（少量）＋角閃石及雲母（少量）

(ニ) 石英閃緑岩＝石英＋斜長石＋角閃石

の如し、今此の表を熟覧するに、所在他の漸次北するに従て石英は共通なるも、雲母は順次角閃石と入り替り正長石は斜長石と置換するの状一目瞭然たり、花崗岩と石英閃緑岩とは甚たしく異なるが故に少しく熟練せば肉眼にても鑑識に苦しむが如きこと決してある事なしと雖も、角閃花崗岩と英雲閃緑岩の差別は雲母と角閃石の分量及正長石と斜長石との多少にあり、雲母と角閃石とは肉眼鑑定によるも殆ど見誤ることなかるべしと雖も、正長石と斜長石との区別及其多寡の如きは専門の博士学士と雖も判別に苦しむところなりとす、然らば則ち之れを判別するの道如何、即ち今研究せんと欲する岩石の破片の一面を鋼鉄板の上にて金剛砂の稍々荒きものを以て擦り磨き、更に厚硝子板の上に移して金剛砂の頗る細微なるものにて仕上げを為し、極めて平滑ならしめカナダバルサムへ他の硝子板に張り付け以てプレパラートを作り、顕微鏡のぞきを為すにあり、元来鉱物なるものは其分子の一点を中心として凝集し附着するに当つては、各各其属する結晶系の（六大晶系あり）上下左右前後の方向によつて其附着の割合を異にするものなり、即ち分子の排列は極めて規則正しく洋の東西を問はず時の古今を論ぜず微少の差異あることなし、而して光線が斯の如き結晶体を透過するに当つては種々奇妙なる現象をあらはすものなり、即ち物理学のうち光線の条を深く研究し置かざるべからず、近頃の岩石学や鉱物学は他の動物学の如く全く顕微鏡的の学科となりたり、光沢堅度によりて鑑定するの法は既に過去の事に属し、結晶学殊に顕微鏡的学の時代となりたるなり、日頃粗豪太簡を事とせる五無斎の事なれば数学的結晶学及び顕微鏡的結晶学と来ては最早一日も堪ゆ可らず、之を筆にするさへ物憂ければ此条は此位にして擱筆すべし。嗚呼。

因に云ふ鉱物岩石の顕微鏡は八九十円位より四五百円位のものなり、本県中上田中学校には嘗て購入しあるよしなれども其他にては見たることなし。

顕微鏡的結晶学は故理学士菊池安氏の鉱物学教科書及び理学士山崎直方氏の岩石学教科書を参考せらるべし。

㈣ 古生学との関係

1 古代植物学との関係

地層の新旧を判定するに当つては古生物学のうち古代植物学の智識なかるべからず、南佐久郡北相木村は其昔第三紀時代即ち南駿河湾に至る迄て悉く一面の大海たりし時代に於ては、幅七八町乃至十二三町長さ二三里許りなる細長き入江たりしなり、予は又例に依て例の如く新名称を附して北相木湾と号つくべし、当時湾口たりし小海鎰掛附近は八ケ岳泥流の為めに蔽はれ、又海底たりし遺跡を失ひしと雖も当時の湾頭たりし北相木村字坂上の辺は悉く砂岩泥板岩より成り、其海岸たりしの故を以て陸生植物即ち木の葉の化石を産するなり、而して同地方の泥板岩は黒色堅実にして一見したる処にては大日向村の白堊紀（中生代の終り）の泥板岩と大差なき様に思はるれども、其第三紀の中新統即ち地理創成の第四日目の午前六時頃より同九時頃迄てに出来たる岩石なる事は同地産の植物化石によつて証拠立てられたり、尚今一層平らたく分り易く之れを証明すれば、本日午前六時頃より同九時頃迄北相木湾底に沈澱したりし礫や砂や泥が固まりて出来たる岩石なり、其後午前十時頃より地皮の褶襞が漸時高まりて遂ひに今日の如き海に縁遠き御国となりたりとは真に不思議なる事にあらずや、今農商務省技師山下伝吉氏の手に成れる上田図幅説明書中の一節を左に掲く。

信州南佐久郡北相木村の第三紀層は黒色の頁岩（泥板岩の事）中夥多の木葉化石を埋蔵す瑞典国の古生物学者ドクトル・ナトホルスト氏の査定に因ればミヲセン期に属するものなりと因に此地の第三紀層はミヲセン期なることは毫も疑ふ可らず、左に其植物化石の名称を示す。

Torreya sp. 保存悪し

Betula sachalinensis Hr. 破片

Carpinus cfra. randis Ung.

Fagus Antipoi. Hr. Var.

Castanea Cingeri. Hr.

Tnglans nigella Hr.

Planera Ungeri ett.

Vitis n. sp. Vlaprusca に酷似す

Phyllites sp. indet.

以上の種属は皆既にアラスカ及び樺太のミヲセン期層中に産するものと同物なりとす、以て其地質時代を判定するに当つては古代植物学の必要なる所以の一端を知るに足らんか。

㈤ 古代動物学との関係

南佐久郡千曲川以東田口村以南はおもに古生代粘板岩、硅岩、角岩、石灰岩及び輝緑凝灰岩より成ると雖も茲に大日向村の字古谷と云ふ処より大日向川に沿つて幅十二三町長さ二三里（是れより十石峠を越えて東する時は長さ八九里もあらん）許りの間は、主に中生代白亜紀（地球創成より第三日目即ち昨日の午後六時頃より八時頃迄てに出来たる岩石）中緑砂統及後緑砂統の礫岩・砂岩・泥板岩等より成るの地層あり、今より数百千万年の古代にありては幅十二三町長さ八九里許りなる極めて細長き湾にして湾口は遠く上州武州の境ひにあり、湾頭は南佐久郡大日向村の古谷と云ふ所にありしならん、学者間には山中地溝と知れ渡り居れども、予は又例に依つて例の如く、十石湾寧ろ十石運河の新名称を附せしが、古谷なる湾頭より一里許りを溯りて石堂と云ふ処あり、土橋を渡り少し手前より右へ入らば砂岩泥板岩より成る大崩あり、岩石の磊々たる処を求食り廻らば茲に貝類の化石数種を発見すべし、今山下伝吉氏の上田幅説明書中の一節を左に掲ぐ。

南佐久郡大日向村字石堂の化石

薄鰓類

Arca sp.

pholadomya sp.

Auisocardia sp.

Nucula sp.

Buculiae cfra. striatella Mich.

Solen sp.

Trigonia cfr. aliformis park. △

腹足類

Alaria sp.

頭足類

Amononites sp. ind. △

芸刺動物

Eechuospatangus aff. cardiformis.

Breynins

珊瑚類

Montivaultia sp.

前記化石中△印を附するは地史上必要なり、以て本部白堊紀の上部たるを確定せり（横山理学博士は其著地質学教科書に於て白堊紀下部とせられたり、五無斎は横山博士に従はん）、就中 Trigonia cfr. alformis park. は白堊紀の頗る

著明なる化石にして砂岩中多く含まるゝ故に、トリゴニア砂岩の名あり、トリゴニア（三角介と訳す）は中生代白堊紀の標準化石として教科書中往々引用せらるゝ処なり、白堊紀以前に此種類の貝なく、白堊紀以後には又此貝の絶種したるに因るものなり。

上伊那郡高遠町附近の三峰川及び里川沿岸は始原代及古生代の岩石が順序正しく排列せらるゝに依り、又赤石山脈の末端たるの故を以て学者の此地方に入り込みたるもの前後十数名の多きに達したり、似非地質学者たる五無斎も亦二回迄ても同地方に入り込み、所謂入ノ谷山中の戸台と云ふ所に三四泊を重ねたり、此の地方は三四里の間に僅に十七八軒の人家あるのみ、当時宿屋（宿屋にあらず実は山中の一民家なれども東駒ケ岳登山者などは無理に頼みて泊るなり）の主人より一個の貝の化石を恵まれたり、之れを室内採集と云ふ、当時予は珍らしきものなりとは思ひつゝも其儘に打ち過ぎ居たりしが、理学士脇水鉄五郎氏の武石村を来訪せられたる折、件の化石を同氏に示したりしに、こは珍敷ものなり、何れの地方より得られたるか、と問はれたれば、予は入ノ谷山中にてと答へたり、其後工学士高橋雄次郎氏の再び武石村を訪はれたる折此事を語り出でしに、同氏は郷里高遠町に帰省せられたるの序を以て非常なる艱難辛苦の後多数の同化石を採集せられ、之れを理学士脇水氏に送られたり、当時発行の地質学雑誌六十五号には左の雑報あり。（明治三十二年二月発行）

信州美和村のトリゴニア化石　昨夏予信州に遊びし時、小県郡武石村の有名なる礦物採集家保科百助氏を訪ふて其採集品を一覧せしに、氏は信州上伊那郡美和村字戸台辺より得たるものなりとて一の介化石を示せり、予之れを見しに紛れもなし我中部白堊紀の標準化石なること「トリコニアボシソフオルミス」にして四国産のものと同しく、中粒灰色の砂石に其印痕を止めたるものなりしも其産出の場所と聞ゆるは赤石山脈の西側に当り、従来の調査により所謂秩父古生層として知らるゝ処なれば、其の産地に就ては稍不審を抱く処ありしに、其後工科大学々生高橋雄次郎氏は予の談を伝聞して自ら其産地を探られ、茲に始めて其真偽を判し其産出の場所を詳かにするを得たれば左に之れを記さん。

信州上伊那郡高遠町より三峰川の縦谷に沿ひ南に川を溯ると二里にして美和村大字黒河内に達す、此の所に東より来

り会する処の一支流あり、之れ黒川は一の立派なる横谷にして谷深く河岸には三波川系の片岩の好露出あり、（此辺の三波川層は主に緑泥片岩及石墨片岩の互層より成り数ケ所に蛇紋岩の之れを貫くあり）黒川を溯ること凡そ一里半にして戸台に達す、人家僅かに二戸あり、一支流あり北より之れに会す、之れを小黒川とす、戸台より一立背を越へ数丁にして小黒川の畔に出ず、出つれば小学校舎（五無斎曰く小学校舎にあらず日陰もの的の分教室なり）あり、校舎を隔てたる僅かに一二町（五無斎曰く一二町にあらず四五町なり）左に一小谿あり谿の人口の崖側にトリゴニア砂岩の露出ありと云ふ、（美和村大字黒河内分小黒川筋をそば沢山）想ふにトリコニア砂岩の露出は、只此一小区に限らざるべく、此の地方の地質を探険せば地溝状若しくは盆地状をなせる中部白堊紀堆積あるべく、関東山地の山中地溝（五無斎の十石湾又十石運河）との対比上面白き地質学上の発見あるべし。（脇水）

上述の如く、入ノ谷山中は実に面白き地方なれば、予は昨年六月中仏平峠頂上小黒川上流附近の石灰小屋に一泊して小黒川に沿つて下り、以て戸台に出で地溝状の白堊紀層を確かめ、之れに西山中地溝又小黒湾若しくは小黒川の天然運河などの新名称を附せんと欲したれども荷造りの都合の為めに諏訪郡に引き返さゞるへからさるの事情となり、又昨年十一月中高遠学校訓導長坂某と入ノ谷山中を探険したる折りは、百個の化石標本を得るが為めに二日を要したると(一)なが雨の為めに支へられ(二)且つ軍用金の欠乏(三)等の事情により高遠町へ引き戻り、第三回目は同高遠学校訓導中村国穂君と共に山室川を溯り、御所平峠及仏平峠の頂上附近に出で、小黒川に沿つて下らんとせしも、之れも亦風雨の為めに支へられ、遂ひに同地方に探究を遂ぐること得ざりしは大に遺憾とする処なり、故に予は上下伊那並びに諏訪郡辺の斯学熱心の君子に告ぐ、曰く「小黒川を渡り若しくはさかくだり本層の所在を確かめらるべし、意外の新発見あらん」同地方は主もに秩父古生層の赤及緑色の輝緑凝灰岩と石灰岩の互層より成るを以てトリゴニア砂岩等とは直ちに区別し得らるべし、地質図や土性図の誤りを訂正するには仮令五無斎程の地学的知識なき仁と雖も極めて容易なるべし、尤も小黒川探険は草深にして且つ道と云ふべき程のものゝ無き所二里許りもあるよしなれば、成る可くは四五月の交を撰ばるべし、予が同地にて得たる貝類数種は大学院学生理学士矢部長克（克順君の兄弟なり）君の手許にて研

究中なり。

(六) 爾余の諸学科との関係

此外天明三浅間焼けの事や、弘化年度に於ける善光寺大地震、（昨年の本紙に露香仙人の詳細なる記事あり、長野高等女学校の渡辺若翁は亦善光寺大地震には得意なり、嘗て文部省内震災予防調査会の嘱託により詳密に取り調べられたりとか）、の話などを取り調べんと欲せば歴史も読まざるべからず、荒船火山が佐川理学士によつて唱導せられたるが如く、噴火当時の体積の二分の一は南牧川や西牧川によつて上州側に流れ落ち、所謂開切火山の好標本となりたりとの決定を得んが為めには地文学や気象学の助けを借らざるべからず、地球の比重が五五など吾人の目より見れば殆と空想に等しきやうなることを主張せんと欲するには、天文学も亦た攻めさるべからず、地殻の横断面などを作らんと欲せば鉱山や石油井などの実際話を参考とするの必要もあるべく、山岳の位置高低河川の流域や方向等を知るの必要もあれば地理書をも亦読まざるべからず、有名なる五無先生の如く地質学のやうな地図高尚なる学科を地図を用ひず絵画の助けなく標本を示さずして、ちやぼ筆一本にて通俗に滑稽将た素人分りのするやうに記述せんと欲するに当りては、文学殊に滑稽文学の素養なかるべからず、五無斎の狂歌に巧みなると古今万葉さては飯山尋常小学校在勤中木板の古事記伝など一読したるに起因すべし、斯如く、風が吹けば桶屋が儲かると云ふ作り物語のやうに其先き〳〵と穿鑿したらんには維新前の年始状の如く際限あるべからす、一段に纏て簡潔に記述するは読者に対して敬意を表するの一端ならん、や。

狂歌よむ　術は如何にと　人間はゞ　古今万葉　古事記伝読め

第四章　地質学の位置即斯学研究の範囲

以上第二第三章に於て論述したる処によつて、読者諸君は各学科相互の関係の極めて錯雑なるものにして一学科のみを単独に研究する事の難く、且其応用の範囲も亦広大無辺なる所以の理を了解せられたる事ならん、故に予は本章に於て更に地質の位置即ち斯学に於て研究する範囲を限定せんと欲す、哲学の本に「時間は無始無終にして空間は洪大無辺なり」、と云ふことあり予は時間空間の上より割り出したる地質学の是義を製造せんと欲す。

(一)　地質学は一種の歴史なり

時間は無始なり名は忘れたれども或る西洋の地学者は、地球創成の年代を測算して地球の創成より生物の此の世に顕はれ出てたる迄は凡そ七億年許りにして生物の出現以後も亦七億年許りの年所を経たるものらしければ、地球は創成以後今日迄に都合十四億年許りの齢を重ねたることなるべしと、以て其年代と云ふものが如何に悠久なるものなるかを知るに足らん、然れども是れ地球創成以後の事なり、太陽系や数億の恒星の出来始めはずつと以前の事なるべく、幾百億年なるか幾千億年なるか知るべからず、其前々々と漸次繰り行かば遂ひに際限あるべからず、故に時間は無始なりと云も何等の差支ある事なし、又時間は無終なり明日明後日翌年翌々年百年千年万年億年夫れから先き夫れから先きと順次勘定し行きたらんには尽期あるべからず。

長き世に　短かき命　持つからは　かけろうなどゝ　言ふな諸人

斯の如く無始無終の時間の中にあつて四六時中の間に起りたる出来事の歴史之れを伝記と云ふ、文字発明以後二三千年乃至三四千年の時間中、人類の間起りたる事柄の記録之れを普通の歴史と云ひ、第四期洪積層時代即ち本日午後一二時頃？人類と云ふ動物が地球上に顕はれたる以後凡そ数万年？の時間中人類の間に起りたる歴史之れを人類学と云ひ、動植物等の生物が地球上に顕はれたる以後凡そ七億年の時間中に順次進化の有様を呈したることを水成岩中の化石によつて研究したる歴史之れを古生物学又化石学と云ひ、地球が太陽より分家して独立の世帯を持つに至りしより凡そ十四億間に地球の表面に起りたる出来事を岩石学や化石学の補助によつて推測したる歴史之れを地質学と云ひ、宇宙の無始無終の時間に起りたる出来事の歴史之れを天文学と云ふ、故に五無斎新らたに哲学上より地質学の定義を製造して曰く、地質学は地球創成以後今日迄凡そ十四億年間の歴史なり。因に云ふ地質学の中に地史論あり地質学中の最も大切なる部分なり。

(二) 地質学は一種の地誌なり

空間即ち宇宙は洪大無辺なり上もなければ下もなし東西南北左右前後は人類とて万物の霊なりと自称する我儘なる狡猾動物が勝手の方へツン向いて途方もなき名前を附けたるなり、其各方への距離は頗る莫大なるものにして凡そ一秒間に七万二千里を進み太陽国の首府日輪市より地球県迄の距離凡そ三千六百万里を十六分三十秒間に往復する程の足達者が五六百年間歩き詰めにて始めて到達する程なる恒星もありと云ふ、去れば斯かる恒星は何か或る事情の為めに一旦消滅することありとするも五六百年の後迄は吾人及び吾人の子孫の目に触れて吾人及び吾人の子孫の目を欺くべく、又斯の如き遠距離の恒星は何か或る事情の為めに五六百年以前に於て新しく出来たるものなりとするも吾人の祖先は嘗て見たりし事なく、五六百年後の今日に至つて吾人が始めて之を発見し得べしとは何ぼう可笑しき事ならず哉、今試みに一秒間に光線の進行する速力を七万二千里となし五百年にして其光線が始めて吾地球に達する恒星ありとして之を計算す

るときは1135296000000000里即ち一千百三拾五兆二千九百六十億里なり、然れども是れ最も精巧なる望遠鏡の助けによりて辛うじて見得たるところの恒星にして、其先き〳〵と想像せば空間の距離は殆んど際限あることなし、而して是れ天球の半径なり上下左右前後皆斯の如し、故に五無斎の口如何に調法なるも五無斎の筆如何に自在なるも殆んど名状すべからず、今仮りに之を洪大無辺と号づく。

空間は洪大無辺人間は　五尺のからだ窮屈でなし

斯かる洪大無辺の宇宙即ち空間の地誌之を天文学と云ひ、大海の一粟太陽県地球郡の内部即ち気圏及び岩石圏の地誌之を地文学と云ひ、同地球郡岩石圏のみの地誌之を地質学と云ふ、予は又例によつて例の如く五無斎流地質学の定義を製造して曰く、

地質学は空間上より之を論ずれば宇宙国太陽県地球郡岩石圏の地誌なり。

(三)　地質学の定義

地質学は宇宙国太陽県地球郡の最内皮即ち地殻の凡そ十四億年間に進歩発育したる由来を述べ、（歴史的又時間的）且つ現今の状態如何を記載する（地誌的又空間的）学なり。

(四)　通俗滑稽信州地質学の定義

信州地質学は宇宙国太陽県地球郡亜細亜村大字大日本小字信州の十四億年間に進歩発育したる由来、並びに現今の状態を通俗に滑稽に将た素人分りのするやうに記載する学科なり。

無始無終洪大無辺の世の中に　小さくなるなデカイ事せよ

(五) 岩石及び其成因を論ず

地質学は通常左の六分科に区分す

第一　地相論　地球の形状、大さ及外面の状態を論ず。

第二　岩石論　地球の外皮即ち地殻を構成する諸岩石の性質を論ず。

第三　動力論　岩石を生成し又之れを変化せしめたる諸作用海陸山川を生じ現今尚之等を変動せしめつゝある火山、地震、河、海等の作用を論ず。

第四　岩石成因論　岩石生因を論ず。

第五　地殻構造論　地殻を構成する諸岩石の排置を論ず。

第五章　地史論

以上の材料によりて地球及地球上に生息せる動植物の変遷発達を論ず

然れども予は今斯如き順序を追はさるべし、其故如何となれば、信州一国に限るの地質学なれば一々是等の例証を挙げがたく、（一）且つ読者諸君を飽かんしむるの嫌ひなきに非らざるが故なり、（二）去れば予は第二岩石論第三岩石成因論を合せて一章となし、之れを本章に収め、次章に於ては専ら信州の地史に就て論述する処あらんとす、其他第一

第二第三第五等は是迄も所々に散見し、今後も亦必要に応して時に話の横道へ切れて是等の事項概論することあるべし。

(一) 万物は温度の如何によりて悉く三態の変化ある事

小学校用の理科の本に三態と云ふ事あり、三態とは固体液体気体是れなり、而して万物は其温度の如何によつて液体ともなり然れども吾人は甚だしき高温度及び非常なる低温度を生ずること能はさるが故に都てのものを気体たらしめ固体たらしむること能はざるなり、只玆に水と云ふものありて目前に此の三様の変化をなすが故に教科書中には必ず此の物を引つ張り出すなり、水は通常の場合に於ては液体なること諸君の目撃せらるゝが如しと雖も之れを熱して摂氏百度に至る時は気体即ち水蒸瀛（瀛の字は三田の福翁が嘗て英語のヴエパーを訳するに当りて訳語に究して字書の火扁の部と三水の部を普く捜索して水気なりとあるによりて用ひ始められたりとか）となる。今少しく平たく言へば湯気となるなり、然れども今又寒気に晒して摂氏零度以下に至れば六方晶系に結晶して雪若しくは氷となるなり、是れ只水と云ふものに付て記述したるに過ぎずと雖も都てのもの皆然らさる事なし、金銀鋼鉄も石灰岩や金剛石も亦皆此の数に洩れず、今予が手にするちやぼ筆ぼた墨も亦然り、五無斎の四肢五体五臓六腑も、皆十数億年の古代にあつては気体たりしに相違なかるべく液たりし事もあらん、今は幸か不幸かは知らされども人類の末班に列して通俗滑稽信州地質を書き居るなり、水の外水銀と云ふものあり吾人の目に触れ易きものなれば次きに掲く。

	固体	液体	気体
水	零度以下	零度以上、百度以下	百度以上
水銀	零下四十度以下	零下四十度以上、三百五十度以下	三百五十度以上

是れ只水と水銀との凝結点と沸騰点を示したるのみ、他の万物も亦皆此の三態の変化を為さんが為めには其物固有の

温度あり、一々挙け難ければ略す。

(二) 太陽系創成の事

カント・プラースニ氏の唱道にかゝる瓦雲星説によれば、吾人の属する太陽系統は、(其他の恒星も亦然り)今より数十億年の古代にあつては至洪至大、極熱極灼、瓦の如く雲の如く且つ星の様なる物質にして、西より東に向ひて徐々に自転しつゝありしが無数の星霜を経るに従つて漸次其熱を放散して凝縮せんとするに当り、次第に其速度をも早めたる為めに遠心力も亦従て強盛となり瓦雲的物質即ち気体球の一部分は分離して海王星となり天王星となり土星木星等とはなりたるなり、而して尚多数の年代を経るに従て其小なるものは早く既に冷却して固形体となり、稍大なるものは表面に薄き外皮を被ると雖も内部は尚至熱至灼の熔液体を包み居るなり、然れども中心の太陽は其体積是等の分体に超越すること数百万倍なるが故今も尚赫々たる光明を放ちて光と熱とを吾人に供給しつゝあるなり、吾人の住居する地球の如きも此の分体物の一つにして土星天王星などゝは兄弟分なり、其太陽より分家したるの当時は同じく至熱至灼の一大気体球なりしが分家間もなく一つの分家を出したり、太陰即ち月球是れなり、去れば太陽は吾人太陽系諸星の総本家にして月球は吾人の別家なり、別家なるが故に門閥も卑しく財産即ち物質や熱量の分け前も少かりし為めに大に零落して破産の境遇に陥り、又昔日の面影を止むることなく全く冷却し了りたる一塊物たるに過ぎず、然れども吾人は大に調法を感し居るなり、只惜むらくは木星の如く数個の(四)別家を出し置かざりし事なり、若し更に多数の月球あらしめば提灯と蠟燭の必要は殆ど無かるべく地上に行はるゝ諸種の罪悪も亦半減する事ならん返すゞも遺憾の事共なり。

陽と陰夫婦のやうに聞ゆれど　日はつりかねで月は提灯

因に云ふ吾人地球と兄弟にして同門閥なるは、水星、金星、火星、木星、天王星、海王星及び火星と木星との間にある四百二十余の小遊星と若干の彗星にして大陰と従足弟同志なる衛星は地球の外火星木星天王星海王星等に附属するも

の都合二十個あり。

	直径	容量（地球を一とす）	質量（地球を一とす）
太陽	八五二、五八四哩	一、四〇七、一二四、〇〇〇	三五四、九三六、〇〇〇
火星	二、九六二	、〇六〇	、一五七
金星	七、五一〇	、九五七	、八八五
地球	七、九二五	一、〇〇〇	一、〇〇〇
火星	四、九二〇	、一四〇	一三二
木星	八八、三九〇	一、四一四、二〇〇	三三八、〇三四
土星	七七、九〇四	七三四、八〇〇	一〇一、四一一
天王星	三三、〇二四	八二、〇〇〇	一四、七八九
海王星	三六、六二〇	一一〇、六〇〇	二〇八、〇七九

月の直径は八百七十里にして地球の直径の凡三十七分の一に当り比重は三・三なり、是れ霞雲星説の大略なり、此の説は現今に比し学術尚未だ幼稚の時に出でたるものなるにも拘はらず其後は益々之れを正確ならしむるの事実発見せられ今日にては学者間一人として之れを是認せざるものなきに至れり、之れを正確ならしむる事実とは何んぞや。

（一）　太陽遊星及び月は皆殆ど同一の物質よりなる事

（二）　諸遊星は皆自軸を廻り同一の方向に回転し又太陽を周遊するにも同一の方向を取る事

（三）　遊星の軌道は皆殆ど同一の平面に在りて而かも其形は円形に近き楕円形なる事

（四）　太陽は今高熱体なること

（五）　遊星の一なる土星の赤道には現に瓦斯輪の存在する事

(三) 地球創成の事

前章に於て論したる如く十四億年?の昔地球は吾人の総本家たる太陽より分家したる至熱至灼なる気体なりしが、漸に其温度を放散して少しく低温度となりたるが為めに稍々凝縮して白熾光を放ちて人目を眩惑する液体の団塊となりたるも外部は尚ほ熱灼したる気圏を以て囲繞せられたりし事ならん、(太陽は現に此の程度にあるなり)然れども年と共に其熱度は益々冷却して外部には金滓の如き薄き外皮を生ずるに至れり、然れども内部の熱液の為めに或は熔かされ或は凝固して片時も止まず、太陽にも亦此黒点が一二出来たる由なり、其後此の外皮は漸時其厚さを加へたりと雖も内部は熔液体なるが故に太陽或は大陰の引力に惑じて現今地球上の海水に潮汐あるが如く漂蕩定りなく、実に水母如混沌たる有様にして折に触れては上部に浮める外皮を衝き破りて火浪の噴騰したりし事ならん、凄まじき事限りなし、然れども光陰に関守なく熱は益々去りて外皮は益々其厚さを増し空間に浮遊せし水蒸気及其他の瓦斯体も凝つて液体の水となり、諸種の動植物其上に発生し、幾多の新陳代謝を経て地球現今の状態に達したりと雖も今後尚幾千万億年を経過せば熱放散し尽し、総本家たる太陽も亦其光と熱とを失ひ、電気燈の将さに消へなんとする時の如く白熾光は赤熾光と変り天地晦冥となり、吾人の住所は至寒至冷寂莫無情の世の中となり水もなく空気もなき月球と同一の覆轍を踏むに至らん。何ぼう悲しき事ならずや、之れを、「テケレツツノパ」と云ふ、(明治十四五年の交の流行語にして俗歌の噺子などにも用ひられたり)其何国の語なるやを知らず、「ケイロクミライ」と云ふ事なりとか、五無斎仮りに壊六未来の字を充つ、壊は破壊の意、六は六合なり東西南北上下之れを六合と云ふ、去れば、「テケレツツノパ」は未来に於て天地四方の破壊する事と心得らるべし。

人生は僅か五十と聞くからに、テケレツツなどに逢ふ由もなし
テケレツはテケレツとして日々の事　勤め励めよ怠るなゆめ

運は寝て待たれてホシナコモサイの　ほこりたらけな餅の落つらん

㈣　印度に伝はる天地創成説

基督教経典は中の六日間の神造説は取るに足らず、支那の太極説も可笑なものなり、去りとて国学者の天地開闢説は五目飯のやうにて寧ろ滑稽千万と云ふべし、茲に古来印度に伝はりたる作り話しあり、稍々面白き節もあれば簡短に之れを記述せん、其説に曰く、世に成住壊空と云ふ事あり、之れを四劫と云ふ、各二十の増減あり、一増一減を一小劫と云ひ、二十の増減を一中劫と云ひ、四中劫を合せて天劫と云ふ、即ち世は成住壊空を以て一循環と為し環の端なきが如く未来永劫此順序を乱ることなしとか、而して其一増一減と云ふは極めて悠久なる年月即ち長時間を意味するものにして、当初人間は正法を行ひし為め豊楽安穏にして病患及び大寒熱ある事なく、寿命も極めて久しく無量寿なりしものが其後正法の衰へしより寿命も減して八万四千歳に至り身の丈け八丈あり（恐ろしき長命なり）此後金輪王・銀輪王・鉄輪王あり福力の不同によりて果報も次第に劣れるなり、寿量も百年に一年を減して一百二十歳に当りし頃釈迦仏出給事人寿十歳に至る頃三災と云ふ事あり、人種殆ど尽き只一万人を余すのみ、此人善を行ひて果報も進み寿命も増して金輪王・銅輪王・銀輪王及鉄輪王の諸豪相次いで天下に王たり、次て人寿八万四千歳に至らん時又減に向ふ、是れを一増一減と云ふ、一大劫即ち一成住壊空の間には八十の増減ある事なれば其年代の長き事推して知るべし、其成劫と云ふは霞雲星説の太陽系統の創成説に似たるところあり、住劫は地質学並ひに古生物学の所論に当り、壊劫は予が前段に於て記述したる、「テケレツノツパ」に該当す、然れども吾人は如何にしても空劫と云ふ事は了解するに苦しむところなり、読者諸君も亦然る事ならん、之れを要するに物質は不滅なればなり。

(五) 硬軟種々の岩石

以上論述せしところは地球が其初め一団の気体より幾多の変遷を経て今日の状態に達したる迄での略暦なり、而して其地球表面に出来たる外皮こそ吾人の所謂地殻即ち岩石圏と称するものなれ、然れども其当初凝結したる岩石なるものは現今果して存在するや否や甚だ疑はし、恐らくは存在せざるべしとの事なり、上下伊那地方に存在する片麻岩及剝岩の類は先つ以て最古の岩石ならんか、是等の岩石を結晶剝岩類と云ふ、当時は空気の成分今日の如く純潔清透ならず諸種の瓦斯体及水蒸気を多量に含み地熱も亦旺盛なりしかば暴風暴雨絶ゆる事なかるべし、其暴風暴雨なるものは吾人の殆んど想像に苦む処にして或る時は海水の全体を水蒸気に化する事もあるべく、又此極多量の水蒸気は一時に雨化して大々暴雨大々洪水を起す事あるべし、之れが為めに岩石は速かに霉爛して低きに就き水底に沈澱して茲に別種の岩石を生ず水成岩是れなり茲に於てか益々異種の岩石を生じ、是等の岩石も亦間断なき暴風雨の作用を受け海底に沈澱して新種の岩石となり変遷遂ひに今日の如く硬軟種々の岩石を地球上に見るに至りたるなり。

地殻即ち岩石 { 水成岩類 / 結晶剝岩類 / 火成岩類 }

(六) 岩石の定義

岩石とは一若しくは一以上の礦物より成り地殻を組成するものゝ総称なり。

地質学上にて岩石と称するものは、必ずしも彼の断巌絶壁を為す処の堅硬なる大盤石をのみ指すに非ずして山野を蔽ふ所の土も砂も皆之れを岩石なる総名の下に編入するなり。尚広き意味に岩石と名つけては差支へあることなし。北極

地方に到らば海水さへも凍結して地皮の一部分をなすを見るなり。岩石にあらずして何ぞ我が北安曇郡の北部越後、越中の国境に聳ゆる白馬・杓子・鑓ケ岳の辺には万古不滅の氷雪の累々たるを見る。同地方の人之れを雪野と云ふ。是亦一種の岩石に外ならず。昨年中（予が白馬登山の四五日前）理学士山崎直方氏は同地方に於て明らかに氷河の遺跡を発見せられたりとか。氷河なるもの〻本邦に発見せられたるは実に同氏に始まると云ふ。尚ほ其詳細なる記事は地質学雑誌百〇九号並に百〇十号を見らるべし。（五無斎も亦同山中に三泊の野宿を為し、四日間の探険をなしたりしも遂に氷河の遺跡を発見せざりし。是れ五無斎の似而非地質学者たる所なり）。斯の如き次第なれば吾人の周囲を囲繞する劈囲気即ち酸素と窒素の如きも、「テケレツ時代」ともならば流動性を有する海水の如きものに変じ、再変して個体酸素固体窒素と為らざるを保せんや。此に於てか永久瓦斯なる名称は不必要なる死語となるに至らん。

(七) 水成岩の成因

前々段に於て論述したるが如く、地球最初の外皮は其如何なるものなるかを知る事能はずと雖も其表面は幾何学的若しくは理想的の平面に非らずして凸凹参差たりしは又一点の疑を容れざるところなり。其凹き処之れを海と名つけ、而して海の小高き所ろ之れを陸と名づけ、而して陸の小高き所之れを山岳丘陵とは称するなり。吾人の五射の内にても鼻の庇や耳朶の如きは突出して半嶋の如き形を為し冷却居るが故に焼けどを為したる時の救急手当の場所となるなり。猫の鼻尖及び婦人の手水場は土用中と雖も僅々三日間温かきのみなりと云ふも、之れが為めなり。斯の如く鼻尖や耳朶に比すべき山岳丘陵の風雨に撃たれ寒暑に侵され、殊に酸類の化学化用さへも応援する事ありとせば、いかでか之れに抵抗すべき、忽ち土崩瓦解して所謂霞爛作用の著るしく行はるべき事亦詳説するを要さざるなり。斯の如くにして出来たる岩石の破片は圭角の多きこと五無斎に均しかるべしと雖も山嶺より之れを山腹に、山腹より之れを山麓に、一瀉千里の勢を以て之れを谿谷に推し出し河川を流走するに至りては片々相打ち相磨して大に圭角を失ひ、或るものは円く或る

ものは楕円形をなし、又或るものは奇々怪々殆んど名状すべからず達磨の如きものあり瓢箪の如きもあらん。然れども支那人は其体積の大小に依つて之れに種々の名称を附せり即ち拳骨大より仔牛の大さ位迄を石と名づけ之れを単位として是れより大なるを岩となす。山にある石若しくは山の如く大なる石と云ふ意ならんや。拳骨大以下豆粒大なるを礫と云ふ。其磊々たるの状寧ろ玩弄品に適する意ならんや。礫より小にして罌粟粒大以上なるを砂と云ふ。石の小なるものとの意味なるべし。砂より小なるも之れを泥と云ふ。文字製造術に極めて妙を得たる支那人も最早やここに至りては石に非らす水垢なるべしと思ひたるものや三水に尼とせり。（尼止也）而して又土と云ふ文字あり。泥と殆ど同意義なるべし。玉篇を按するに土に属するの文字五百六十四字なり。実に驚くべき大数と云ふべし。余事は差し置き以上説き来たりしところを図示れば、

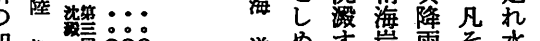
地殻即ち岩石＝岩＝石―礫―砂―泥或は土。借斯くの如くにして出来たる礫や砂や泥は流水に運搬せられて河口に至り流水の停止すると同時に河床若しくは海底に沈澱し、又洪水氾濫の際には河水の灌域に泥土を沈推す。斯くの如くにして海底若しくは湖底河床等に堆積したるものは幾多の星霜を経るに従ひて漸次其厚さを増加し、遂に上層の強き圧力の為めに凝固して種々の成岩を成す。

礫―礫＝子持岩＝蠻岩
　　コングロメレート
砂―砂岩
　　サンドストーン
泥―泥板岩＝頁岩＝粘板岩
　　シエール　シエール　スレート

(八) 水成岩の特性（一）

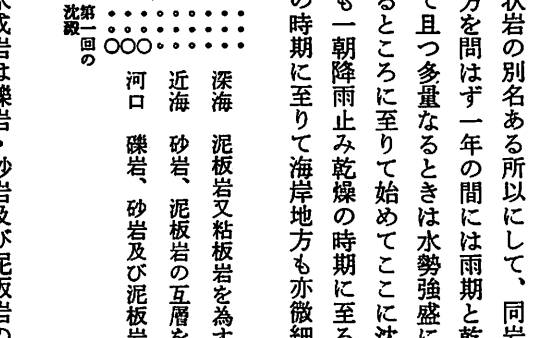
前段に記述したるが如く水成岩は礫や砂や泥の河床湖底若しくは海底等に沈澱したるものなれば、必ず多少の層理あ

り。礫岩砂岩及泥板岩（粘板岩）は順次互層をなす。



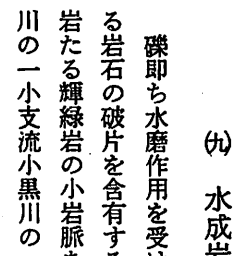
是れ水成岩に層状岩の別名ある所以にして、同岩中最も顕著なる特性なるが故に少しく詳細に之を説明せんと欲す。

A　凡そ何れの地方を問はず一年の間には雨期と乾期との別あり。本邦に於ては春秋の両期雨量大にして夏冬に少し。其降雨頻繁にして且つ多量なるときは水勢強盛にして拳骨大の石礫も以て河口附近まで達することを得べく。砂利は稍海岸を離れたるところに至りて始めてここに沈澱し、他の細微なる泥土は遠く海岸を距りたる深海に至りて始めて沈澱すべしと雖も一朝降雨止み乾燥の時期に至るときは海岸近く細砂を沈澱せしめ、稍遠き所に微細なる泥土を堆積せしめ全く乾燥の時期に至りて海岸地方も亦微細の泥土を沈澱するに至るべし。今之を図示すれば、



斯の如くにして水成岩は礫岩・砂岩及び泥板岩の互層か若くは砂岩・泥板岩の互層か若くは泥板岩のみの厚層を為すに至るものなるを知るべし。

B　然れども岩層の成因は単に上述の如きのみならず滄海変じて桑田となるの譬えの如く、地盤の降起する事と沈降することとあり。従来の深海変じて海洋となる事古今其例に乏しからず。従つて之が湖底若くは海底の堆積物たる水成岩にも大影響を及ぼさざるを得ず。今又之を図示すれば、



C　又陸地の地形一変して河流の其方向を転じ湖や海の其位置を異にするに至れば沈堆物の差異を生ずべきは勿論なり。（図略す）擬（なぞら）へて知るべし。

(九)　水成岩の特性（二）

礫即ち水磨作用を受けたる岩片の存在は又水成岩特性の一なり。火成岩及び其他の岩石には水力によりて磨擦されたる岩石の破片を含有することなしと雖も水成岩には必ず是等の礫の多少存在するを常とす。上伊那郡高遠町附近に火成岩たる輝緑岩の小岩脈あり。同地方にて俗に青石と称へ石材として盛んに掘採す。又同地の南を流るゝ三峯川の支流黒川の一小支流小黒川の一少横谷には、（有名なる前記トリゴニア介の産地）中生代白聖記の砂岩あり。如何にも互に善く相類似するところの岩石にして、肉眼鑑定にては何が何やら絶へて分らず。然れども顕微鏡を用ゆるか若しくは所在に就て一見せば直ちに判然する事ならん。是れ出磨せられたる岩片即ち礫の存在すると然らさるとによるなり。予が二ケ年間の漫遊中何時も善く有り勝ちなる質問は、何々の河原にある岩石を教へ呉れよと河原石の分る位に為るには凡そ何日間位貴下の袋担ぎを為せば宜しきやとの事なり。上伊那高遠学校などにては高等四学年生徒を三峰川の河原に引卒

して予が採集の帰路を要せられたることあり。然れども予は読者諸君の既に了知せらるゝが如き程度の似而非地質学者にもあり、且つ同地方の探険は昨年が二回目にして同地方の地質地形は聊か暗んずる所なるのみならず、殊に昨年の如きは殆ど一ケ月間の月子を同地にて費したる事とて殆んど螢の尻に百目蠟燭の有様なりしかば余り多くは閉口せざりしかとも若し始めての旅行ならしめば随分迷惑する事ならん。斯学専門の学者を聘して之れを質問せば夫れは知りません、此れは分りません、顕微鏡覗きをせでは御答は出来ません、と何んの憚る所あることなし。由来学者大胆なるが如くにして案外にも小心なるものなり。五無斎程度の学者最も傍若無人の振舞をなす。是れ一二割りの法螺の到底止むを得ざる所以なり。故に予は世の教育者並に斯学熱心の君子に告ぐ、曰く標本は必ず其所在に就て大盤石の一部分を採集せらるべし、転び石よりすべからず。昨年中予が諏訪郡平野村横川谷の奥にて採集したる緑泥剣岩は、最も普通なるものを採集する積りにて蛇紋岩の為めに触接変質を受けたるものを採集せり。荷解きの際に之れを発見して一驚を喫したり。次ぎに予は又一言を呈せん数十百金を投じ数宿泊を重ね生徒全体を引卒して木曾川や信濃川の水源を探険せらるゝに及ばさるべきも、教育者諸君は必ず一度は是等の地方を跋渉せらるべし。教育費のうちより幾分の旅費を要求するも可なるべく、町村も亦之れを支給するの義務あることならん。有形的の獲物の外心身の爽快を覚ゆる事あらん。（此記未だ尽さず教育論に入り込みたるやうなれば擱筆す）

㈥ 水成岩の特性（三）

前記の特性（一）（二）の外水成岩の特性は化石の存在是れなり。植物及動物の遺骸は内像或は外象 cast and mould となりて存す。是れ水成岩に限りてある所の特性一なり。諏訪郡金沢峠の頂上字賽の河原地蔵尊の勧請しある辺

賽の河原の地蔵尊の辺にラヂヲラリア　硅岩を採集しける折

娯むに無妻を　此のまゝで若しやの事もあるならば賽の河原で石を拾はん

に産する赤色硅岩は放線蟲（ラジオラリア）の遺骸を含み、東筑摩郡本山の石灰岩は石蓮蟲（クリノイド）の破片を有して直径一二分許りの光沢ある斑点あり。西筑摩郡大桑村字殿村の石灰岩が有孔蟲（フズリナ）類の斑紋あるは言ふまでもなく、玆に下伊那郡富草村字浅分教場の対岸の辺に一種奇天列なる花崗岩砂岩 Arkose と称するものあり。石英の粗粒及雲母片より成り石灰質を膠結物とするが故に如何にしても火成岩類なる花崗岩若しくは花崗斑岩、寧ろ花崗質片麻岩又鹿塩片麻岩と見誤らるゝなり。予も亦始めの程は花崗岩若しくは片麻岩なるべしと思ひたれども之れを熟視するに及んて始めて其然らざるよしを発見したり。上下伊那の地方は諸者諸君の既に知悉せらるゝが如く重もに花崗岩及片麻岩より成り、河原の砂利の如きも重もに石英砂及雲母片のみなるが、是等の砂利が第三紀時代に存在したる一小湖、（大下条富草の二ケ村及び泰阜村の一小部分は悉く第三紀の水成岩より成る。然れども現時存在する深海の地は当時の遺跡にあらず。甚だ遠からざる古代、寧ろ現代に至り地滑りによりて出来たるものと知るべし）底に沈澱したるものにして、其長石の斑晶と見たりしは貝殻の破片なりしとは寧ろ滑稽と言ふの外なし。予は其余りに面白きものと思ひたれば長野県地学標本のうちに編入せんと例の如く百塊の標本を採集したるが為めに帰路は荷物の急に重くなり大に閉口したる事あり。尚ほ同地方は第三紀時代には湖水たりしの故を以て第三紀の植物化石を産し、俗に芝石と称ふるよしなれば、予の遂ひに発見し得ざりしは今に遺憾とする処なり。五無斎の心事を憐れと思召す御方あらば御遠慮なく賃銭先払にて御送りあれ、同地三紀層の時代を決定するが為めには頗る有力なる材料なるべし。

(二) 礫岩の種類並に其播布

礫岩の源名をコングロメレート云ふ。礫や砂や泥や泥の膠結物（セメント）によつて固結したるものなり。各地方に於て此種の岩石を子持石と称ふるより近来は子持岩の名を用ふるものあるに至りたり。教科書中蠻岩とあるもの是れな

り。其何故に礫の字を用ひ始めたりしかは、訳者自身の名を逸せり。恐らくは其ゴツ〳〵たるの有様が野礫的なりとの意ならんか。今之れを図示すれば、

○・○　礫泥礫　　・○・　泥礫砂　　○・○　礫砂礫

第三紀礫岩　南北安蘇及東筑の東部上下水内及更埴の一部　南佐久郡両相木村下伊那冨草大下条等

白堊紀礫岩　南佐大日向村古谷以東上伊美和村戸台小黒河畔

御坂層礫岩　諏訪横川谷及び和田峠諏訪上伊那郡界杖突峠

古生代礫岩　諏訪郡御所平峠頂上附近

本岩は古生代の礫岩に属し強圧力の為めに押しつぶされ剣岩となりたるものにして、結晶剣岩の成因を説明するに与つて力あり。

本岩の一種に角礫岩（ブレクシア）と称ふるものあり。是れ水磨作用を受けざる岩石の破片が相集まりて出来たるものなり。

第三紀角礫岩―北安蘇郡青臭峠上り口。

㈢　砂岩の種類並びに其播布

通常の砂岩は重もに石英粒の集合より成る。其膠結物の炭酸石灰なることあり、粘土質なることあり、或は硅酸質なることあり、故に其膠結物の如何によりて石灰質砂岩、粘土質砂岩及び硅質砂岩の別を立つ。

今之れを図示すれば、

○○○　砂砂砂　○●○　砂泥砂　○○○　砂砂砂

播布―同蛮岩　本岩の石英粒雲母片及長石の破片より成るものを花崗砂岩と云ふ。第三紀花崗砂岩下伊那郡富草村浅野又本岩の粗粒にして堅硬なるものを硬砂岩と云ふ。

古生代硬砂岩｛南佐久郡北相木村相木峠
諏訪郡御所平峠頂上

㈢　泥板岩及粘板岩の種類及其播布

泥板岩（又頁岩）及び粘板岩共に其成因は同じ。共に硅酸礬土即ち粘土の固結して成り、板状に剝げ易き岩石なり。今之れを図示せば、

・・・　泥泥泥　・○・　泥砂泥　・・・　泥泥泥

然れども其稍古くして幾分変質作用を受けたると覚しく、板状裂理の能く発達して堅実なるもの粘板岩と云ふ。

古生代粘板岩｛南佐千曲川以東田口村以南
南北安曇及東筑の西部山中
西筑摩の一部
下伊那の東部赤石山脈
上伊那諏訪の郡界釜無山脈
諏訪郡小泉山及大泉山

右のうち諏訪郡金沢村の辺には花崗岩噴起の為めに触接変質を受けて緑色となりたるものあり。同御所平峠頂上の辺には一部分蛇紋岩に変したる粘板岩あり。上伊那郡宮田村より坂下の西部山中には花崗岩噴起の為めに雲母剣岩様となりたるものあり。触接鉱物として紅柱石を産す此所農商務省の土性図には第三紀層の着色あり、実に庇と鉄砲程の違ひと云ふべし。又上伊那郡美和村の奥戸台附近には花崗岩の為めに紅色となり、柘榴石の美晶を産するものあり。是等は

何れも皆結晶剣岩類が水成岩より変成したるものなりとの臆説を確むるに屈竟なる材料なりと知るべし。

泥板岩又頁岩とも云ふ是れも亦粘土の固結して板状裂理を有するものなりと雖も時代は多くは新らしく風雨に遇へば容易く崩壊して顆粒状をなすの性あり。其の色は多く灰色を呈す。頁はページの意なるべし。

播布―同層岩及砂岩　南佐久郡相木村及大日向村字古谷のものは黒色堅実なりと雖も泥板岩に属す。

㈣ 火山灰及凝灰岩の種類並に播布

我が大日本帝国は火山国なり。而して吾人の村国たる信州は火山国なり。那須・岩木・弥彦の三火山脈は実に吾人の村国たる信州の地籍内にて、富士火山脈と結び付き居るなり。而して西には御嶽火山脈あり。後章別に詳論するの記あるべしと雖も是等の諸火山は第三期時代より非常なる勢力を以て爆裂もし噴火も為したるなり。其爆裂噴火するに当りては極めて多量の火山砂や火山灰の類を四近の地方に降らしたることならん。第二章造林論の条に落葉松の好適地として列挙したるは即ち是れなり。地質学上に於ては是火山灰層をも岩石のうちに編入するを当とすれば、別に風成岩の目を置くも可なるべしと雖も其種類多からず、且煩雑なれば暫らく茲に附記するなり。

偖是等の火山灰も一旦河流に運搬せられて湖海の水底に沈澱するときは凝灰岩をなす。去れば凝灰岩は水成風成の相の子と謂ふべし。凝灰岩の分類は其灰砂等の如何なる岩石より成りしやにより富士凝灰岩・玄武凝灰岩・輝緑凝灰岩等の名称あり、又其生成の時代により第三紀凝灰岩・御坂凝灰岩等の別を立つることあり。

因に云ふ御坂層は富士山四近殊に甲州御坂峠近傍によく発達し砂岩・泥板岩・凝灰岩等より成る極めて化石に乏しければ、其所属未だ明かならすど雖も恐らくは中生代白堊紀に生成せられるものゝ如く、吾人の御国たる信州にも其播布甚だ広し。然れども農商務省の地質図並びに土性図等に下高井郡湯田中及渋温泉附近のものを本岩とするは誤りなり。但し是れ理学士清水実隆氏の説なり。

近生代第三紀凝灰岩礫岩砂岩等に同し。

中生代御坂凝灰岩｛鉢伏山四周の地所々々
諏訪郡神宮寺近傍
上高仁礼保科両村の奥
下高堺村切明温泉の奥

古生代輝緑凝灰岩｛南佐田口峠頂上辺
同海尻千曲川狭流石灰川辺
赤石及釜無山脈頂上
濃飛国境山脈所々

㈣ 化学的に沈澱したる岩石（其一）

附　下伊那鹿塩の所謂岩塩

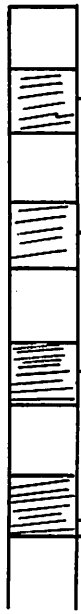
以上は単に機械的に湖海の水底に沈澱したるものなりと雖も玆に化学的に沈澱したる一種の岩石あり。是れは鉱物を溶解せる水の蒸発するか、若しくは其内に化学反応を起して生成せしものなり。南佐久郡の一部赤石山脈及濃飛国境の山脈の所々に産する硅岩・角岩及或る石灰岩の如きは即ち是れならんか。独逸などにては石膏や岩塩なども岩石として厚層を為すよしなれども、本邦にては絶へて是等の岩層あることなし。下伊那郡大鹿村大字鹿塩には従来さも岩塩層のあるらしく吹聴し来たりと雖も昨年中五無斎の実験する処によれば岩塩層ありとも思はれず、只始原代の黒石剣皮岩及緑泥剣岩互層中の裂隙より塩分を含有する鉱泉の湧出するものあるに過きす。上州磯部鉱泉などの方適かに多量の塩分を含有するなり。鹿塩の鉱泉と塩分の多寡、蓋し伯中の間にあるは下高井郡堺村字屋敷の温泉なり。鹿塩村の製塩は本年の大阪の博覧会にも出品されし由なれば多分受賞沙汰にも及ぶ可きならんが、予は余り感服せぬ事と思ふなり。必竟鹹染層と言ふものならんが鉱泉としての効能を喋々するは兎も角も純正無上のテーブルソールトなど吹聴するは言語同断と云ふ可し。

㈥ 化学的に沈澱したる岩石（其二）

南佐久郡大日向村の磁鉄鉱床

磁鉄鉱も亦化学的に沈澱したる岩石なり。南佐久郡大日向村字広河原に僅少の露出あり今農商務省地質調査所技師山下伝吉氏の上田図幅地質説明書中の一節を左に掲ぐ。

大日向村の磁鉄鉱床は、今村字広河原を去る事凡そ十四町東南に方り、茂来山に発する谿流の東北川に位せる山の南向に露出す。当山の発見年月は之れを詳かにすること能はざるも、其開始は嘉永五年の頃にして爾来多少の産出ありしも微々振はず、文久二年に至り火災に罹り製煉所其他悉皆焼失し、之れを継続する事能はず、遂ひに廃止するに至れり。其後明治六年に至り之れを再興し、次で熔鉱炉を設置せしも現今改革の目的を以て鉱業を中絶すと云ふ。鉱床は秩父古生層の角閃岩中にありて、其下部数米突の角閃岩を隔て石灰岩層を現出す。而して含鉄層より新期に属する石英閃緑岩其四近に露出す則ち秩父古生層を貫き迸発したるものにして、角閃の之れに触接する部分は為めに変質して閃緑岩の如き外観を呈す。鉱床の方向は北向は北三十度西に走り五十五度の傾角を為して東北に傾下す。而して其類は左の柱状断面図に示すが如く大小合せて四層にして其厚さを合算すれば六米突に達す。



然れども扁豆状を為すものなれば厚さ不定にして深く地下に入れば漸々薄層となるの恐れあり。而して其両端は含鉄層と殆ど直角をなして北六十五度東に走り西北に急斜する断層に会して其跡を絶す。故に鉱床の露出は延長僅二十一米突に過ぎず、其他には鉄山より凡そ五町東南に当り川の北岸に於て柘榴石を随伴せる極めて薄き鉄鉱を認めたるのみ。

大日向川鉱山は以上の如き有様なれば其供給不充分なるや明白なり。故に茲に製鉄の業を起すには宜しく先づ四近の地に就て尚ほ他に鉄鉱の存在するや否やを験定せさるべからず。（五無斎曰く鉱石の原料如何豊富なるも交通の不便なるが故に将又石炭の供給不足の為め引き合はぬ事と知るべし）五無斎は尚ほ同磁鉄鉱中に於て緑色放線状の結晶を為せる光線石を採集せり。目下滝本理学士の手許にて研究中に属す。

㈦ 化学的に沈澱したる岩石（其三）

濃飛国境山中の石灰華

(1) 北安曇郡天狗温泉　昨年の夏期予は三泊の野宿を重ね大学院学生理学士矢部禎吉君と共に北安白馬岳・杓子岳及鑓ケ岳の探険を為し、天狗温泉に遊びたる事あり。同温泉は実に北城村字上の二股の奥、人家より五六里の処鑓ケ岳の東腹にあり。温泉は渓流に沿つて五六ケ所に出で、殆んど子午線上に排列せらるゝよしなるが、地下には多量の石灰岩を包蔵するものと見へ温泉の湧出する所方四五町の間は都て石灰の厚層より成る一種の岩石なり。之れは地下高温度の温泉に溶解したる炭酸石灰が温度降下の為めに余分の石灰が沈澱したるものと知るべし。盛夏候雪中に薪炭は乏しきも温泉はあり、夜半星宿を按れつゝ海面上六千尺の地石灰華にて出来たる自然の浴槽中に浴す何等の愉快ぞ、五無斎此所にて車軸の如き驟雨に逢ひ全身濡れ鼠の如く午食を喫することなく、以て雪のトンネルを潜ること約四丁、一夜を此所に明かし終宵睡むる事能はず、手持無沙汰の余り浴槽一ケ所を新設せり。之れ進んで公益を広めん御趣旨に暗合するもの、向て左なるは即ち五無斎の手に成るところ、明治三十五年八月二十八日午前九時開湯式を挙ぐ来演蓋し六人なり。呵々。

(2) 北安曇郡高瀬川上流湯股　又大町より三里許りなる葛の湯の奥高瀬川葛の湯にて

くずの名はいと聞きにくし今日よりはくすの御湯とも名づけばや

五無斎

亦上流に湯股水股と云ふ所あり。大町よりは十里許りもあらん、湯股は有名なる鍛石の産地にして、数年の前の本紙（編者註信毎紙）に神保博士の詳細なる記事あり。之れ又炭酸石灰を多量に含有する湯泉の温度の低減によりて炭酸石灰の湯垢即ち石灰華を沈澱するものなりと雖も其河底にあり年々の洪水の為めに押し流さるゝが故に石灰華の地層を生成すること能はず、然れども玆に奇観とすべきは湯泉湧出口の附近に炭酸石灰の沈澱して噴火山に酷似する鍛石の釜数十基の並列することなり。現今鍛石を生成しつゝあるもの三基あり、三基共其鍛石の外形を異にす、或るものは湯沢にして円く、或るものは粗糙にして微しく紅色を帯び、又或るものは粒子微少にして粟粒大なり。何れも砂粒を中心とする炭酸石灰のコンクレシヨンにして往時此の地に産せしものは五角十二面体の如き形をなしたりと雖も現今は産することなし。数年前の地質学雑誌に福地理学士の考説あり。本年の大阪博覧会に出品されたるものは一粒の価格金二円づゝなりとか。此湯股地方に採険を試みしは神保博士の外大町小学校長矢ヶ崎奇峰君及び五無斎の三人のみなるべし。大町より二三十町許りなる野口が大出にて人足を傭ひ、葛の湯にて一泊し、山葵沢の辺にて二泊の野宿をなし、一日間を湯股に費し東沢を経て有明山の南に出で中房温泉に一泊して人間に帰る事とせば善き探険ならん。尚ほ水股を溯らば有名なる降が岳の頂上に達すべく、是れより梓川を下らば白骨温泉に出つべし。又湯股を溯り黒部川を下り、越中の国立山温泉に浴し、針の木峠から北城の白馬岳に出づる事とせば本嶋第一の探険ならん。五無斎年既てに四十二近く血気大に衰へ殊に財嚢全く涸渇して如何ともすることなし、青年有為の士一と奮発以て大探険を試みて可なり。

高瀬川探険の折のとゝ云ふ処にて　五無斎

見すかせば神沢山の雪見へて　のどもと過くれば暑さ忘るゝ

(3)　南安曇郡白骨温泉　南安曇の郡役所も所在地豊科村を去ること十二三里、乗鞍岳の東北麓梓川の南岸に白骨温泉あり。此の地方も亦往時は温泉の湧出盛大なりしと見へ石灰華の地層は方八九町厚さ十四丈もあるべし。地を掘ること一尺ならば木葉の印痕ある石灰華は無数に採集せらるべし。土人呼んで木の葉石と云ふもの是れなり。白骨の名蓋し是れより来りたるならんか。此の地区スヒドホシ・鬼が城等の奇景に富む。スヒトホシは天然のトンネルにして白骨温

泉への道路此の上を横断すべき長さ約一町半高さ四五丈幅三四丈、中に溪流を通し鐘乳石や石筍は現に生成しつゝあるなり。予は四五時間の採集を継続したる後全身濡れ鼠の如くなりたりしも百余塊の鐘乳石と二十余塊の石筍を採集し尽くしたり。然れども是れ採集家の徳義を破ることなかるべし。何んとなれば四五年の後は再び生成すべければなり。鬼が城も亦斯の水蝕作用が石灰華の地層に働きたるものにして奇絶快絶殆んど言語同断なり。鬼が城には長さ七八尺周囲二尺四五寸の円柱あり、一見したるに所にては上より下がりたる鐘乳石と下より出来たる石筍とが終ひに相連続したるもの〻如しと雖も亦少しく疑ひを挿むべき余地なきに非らず。鉄槌にて打ち砕かば直ちに其成因を説明し得べしと雖も然かするときは即ち公徳を破るの譏を免れず。尚同温泉に宿泊所を定め置き、乗鞍登山を試みば優に日帰りと成すべし。（白骨温泉より頂上まで五里余）然れども頂上より少しく北に下りたる所の測量小屋に一泊して硫黄山の東北麓硫汽洞の辺りに出で、翌日再び同温泉に帰ることとせば是亦面白き探険なるべし。流汽洞の辺は時あつてか亜硫酸瓦斯を多量に噴出するよしにて、五無斎曾て太田伯一郎・宮沢徳弥等の諸君と同行五人にて同地を見舞たりし折は、亜硫酸瓦斯の為めに斃死したるに熊の頭の遺骸を実検せり。其遺骨二本は先頃長野市商等女学校に献納し置きたれば熊公以て地下に瞑すべし。呵々。此地鳥獣及昆虫の斃死せるもの無数なり。白骨温泉附近は実に道楽的探険地として県下第一流に位するならん。

。乗鞍登山の帰途えりさし峠にて、日は全く暮れ果て一行悉く道を失ひ、大に難渋しければ、五無斎

日も暮れて何処を夫れとしら骨の　骨の折れたる道にもあるかな

。今宵は旧暦八月十五夜に当りければ、月見の宴を開くとて、

あの山を鏡台山になぞらへて　今宵は此処て月見しら骨

以上の前南安曇郡中房温泉、南佐久郡硫黄山東麓の湯及西筑摩郡御嶽山東麓三岳村にも一分石灰華より成るの地層あれども煩雑なれば略す。

㈥ 生物の遺骸より成れる岩石

以上数段に於て記述したるところは悉く無機質の機械的若しくは化学的に沈澱したるものなりと雖も玆に生物の遺骸より成りたる岩石あり。生物とは読者諸君の既てに熟知せらるゝが如く、動物と植物と是れなり。故に又動物岩と植物岩との二種を別たざるを得す。

(1) 動物岩　動物岩の例証としては先づ石灰岩を挙げざるを得ず。石灰岩の内或は化学的の沈澱によるものあるべしと雖も其多くは動物の遺骸より成ることならん。南信の地一郡中一ケ所若しくは数ケ所の石灰岩なきものあることなしと雖も北信の地たる只南佐久郡の一部分に本岩を産することあるのみ。然れども人間万事塞翁が馬と云ふ事もありて北信の天地にありては、牆壁を呈するの際聊が高直を感ぜざるを得ざると雖も石灰肥料濫用の弊は尤も南信地方に多し、豈寒心すべきの至りならずや。然れども将来農学理論が益々発達普及の暁きに至らば、県下数百個の石灰窯(かま)は殆んど閉鎖せさるの非運に遭遇することあるべし。他人の疝気を頭痛ながら一言警告し置くものなり、五無斎の筆は例によつて横道たる農業論に陥りたり、いざ本街道なる岩石論を辿らん。南佐久郡海尻及び北安曇郡海の口のものはフズリナ虫石灰岩なるよし、農商務省地質調査所の上田図幅並に富山図幅地質説明書に詳かなり。此外尚五無斎は南佐久郡大日向村の新三郎沢及ひ西筑摩郡大桑村の字殿村に於て明かにフズリナ虫の遺骸と覚しきものを認め、東筑摩郡本山に於ては石連虫の遺骸と覚しきものを認めたり。五無斎は東京帝国博物館に於て東筑摩郡坂井村産の珊瑚虫石灰岩の標本を一見したりと雖も道順の悪かりしが為め採集に趣かざりしは今に遺憾とする処なり。石灰岩の又諏訪郡金沢峠頂上西筑摩郡鳥居峠附近及北安曇郡白馬岳と杓子岳の間海面上九千尺許りの地に於て、ラヂオラリア硅岩の存する事あり、本岩は全然動物の遺骸より成るには非らざるべしと雖もラヂオラリア虫の遺骸を包蔵するものなり。九千尺の高峰海生動物の遺体ありとは豈驚くべきの至りならずや。

(2) 植物岩　植物岩の例証としては硅藻土を挙ぐるを以て普通となす。然れども此者たる吾人の御国たる信州に存在することなし。只植物の湖底か河口に沈積して炭化したる褐炭層のあるのみ。此者県下に所在極めて広しと雖も比較的新らしき第三紀時代に生成したるものなると（一）、炭層の甚だ薄べらなること（二）、多量の土砂を混じ（三）、多くは地層の変動甚だしからざる地方に産し直立層ならざるが為めに工費を要すること多額なる（四）、等の事情により実用に供しがたし。下水内郡柳原村富倉産のものは夾炭層の稍々厚く、且つ殆んど直立に近き傾斜を為すと雖も果して如何にや。炭山は目下諸方に始まり居れども、五無斎は一日も早く鉱業の中止を勧告せざるを得ず。是れ中止を早くすること一日なれば即ち一日丈けの損耗なければなり。生々中鉱山に手を出されんよりは、寧ろ五無斎の財嚢に投ぜらるべし。之れを溝の中に遺棄するより遙かに勝りなん。褐炭の外小諸町の南端味噌塚山に泥炭を産するの地あり。俗に呼んで長者の味噌と云ふもの是れなり。地質学雑誌第一号には、Aspergill usfumigotus と号くる黴菌の為めに自然に発するよし記載しあれども如何にや。然れども一朝火を失することあらば盆を覆すが如く強雨あるに非らされば鎖火せぬとの事なり。是れ同地与良町小山太郎氏の談なり。此の地甚だ遠からざる古代にあつては一小沼地なるべく、泥炭は此沼底に繁茂せる水草の遺物ならんや。都て火山の裾野には甚だ深からざる沼池あるものなり。南佐久郡の松原湖、下高井郡の琵琶池・蓮池・長池及大沼池等は此種類に外ならず、成因は火口湖にあらずして少しく凹き所に水の溜りたるなり。

(ホ) 水成岩の復記

以上十数段に亘りて記述したる水成岩を復説すれば左の如し。曰く、

水成岩の材料は器械的堆積と化学的堆積との二種あり。前者は已に存在せし岩石が、風化水蝕の作用の為めに破砕削磨せられて礫となり砂となり又泥となりたるものを流水の作用によりて之れを湖海に運搬し堆積したるものに外なら

ず。又後者は海水河水中に溶解せるもの水分の蒸発又は其他の化学的作用によつて沈澱堆積したるものなり。尚此外に生物の遺骸より成るものあり生物岩是れなり。故に今水成岩を其成因によつて之れを分類すれば左の如し。

水成岩
- 無機質水成岩
  - 器械的堆積岩（風生の性質を帯ぶるものあり）
  - 化学的沈澱岩
- 有機質水成岩
  - 動物岩
  - 植物岩

㈢ 火成岩の成因

火成岩は熔融せる岩漿の凝固して成るものなり。凡そ地球表面の温度は其緯度の高低により、又其時間等により千差万別なりと雖も地面下百尺の所に至れば一年中の温度一定す。之れを常温層と云ふ。之れより下降するに従ひ又百尺毎に温度は摂氏一度を増し、千尺なれば十度、万尺なれば百度、十万尺なれば一千度に達する割合なり。故に地表下凡二十万尺即ち十五里余の地下に達すれば摂氏二千度の温度に達し、都ての岩石が悉く熔融して液体となるべき筈なれども此深邃の処にありては、其上部十五里余の地殻より加はる所の圧力極めて強盛なるが故に、是等熱灼せるところの岩石も液体たること能はずして依然固体たるべしとは近時学者の一般に信用する所なり。然れども一朝若し地殻に変動起りて其一部に裂罅を生じて圧力を減ずることあらば、是等熱灼せる岩石は忽ち流動性を帯び即ち熔液体となりて地表に向て上昇し来るなり、而して其局部に於ける抵抗力の強弱と多少とに依り、地表近き地殻中に停滞して其儘に凝固するものあり、或は又地球表面上に迸出し来りて所謂火山の破裂となり、熔岩を噴出し、其粉末は火山弾となり火山灰及砂となり、以て先きに記述したる凝灰岩の原料を供す。近時の学者は其迸出の状況により通常火成岩を分つて左の三種とす。

火成岩
- 深成岩又深造岩
- 噴出岩又火山岩
- 脈岩

第一、深成岩は地中の深所にありて造られたるものにして、一に深造岩と云ふ。横山博士は其著地質学教科書に於て閻王岩と訳されたり。第二、噴出岩は地表に流出したるものにして是れ即ち火山岩なり。又第三、脈岩は脈状を成して迸出したるものにして、噴出岩と深成岩とを連結するか若しくは深成岩の枝条となりて迸出し他の岩層中に貫入するが如きものを云ふなり。

(ロ) 火成岩の化学的成分

水成岩は水の陶汰作用若くは化学的沈澱作用によるが故に、其外観の殆んど同一なるにも拘らず全く異種の化学的成分を有す。或る硅岩の如きは一見したるところにては石灰岩の如く、又或る石灰岩は石膏に酷似す。故に水成岩は其成分甚だ単純にして一種の鉱物より成るもの多し。或る硅岩は殆んど純粋なる硅酸より成り、石灰岩は炭酸加爾西亜謨(カルシアム)にして、石膏は硫酸加爾西亜謨なるが如し。火成岩は之に反して後段更に詳説するが如く、其外貌の著しく相異するにも拘らず其化学的成分は何れの種類も大差なく、主に硅酸（遊離硅酸蛮土）石灰苦土曹達及び加里等より成り、多少の酸化鉄及び燐酸石灰等を含有す。只其岩石の種類によりて其比例分量に異同あるのみ。

成分	花崗岩（常陸真壁郡産）	火山焼石（伊豆大島産）
硅酸	七三・八四	五〇・六〇
蛮土	一四・八八	一三・八〇
第二酸化鉄	二・五六	一三・二三
石灰	二・五〇	九・〇三
苦土	〇・八三	五・一九
加里	〇・三九	六・〇六
曹達	四・一一	一・九五

故に化学分析の法に因つては其火成岩の何岩なるやを鑑別すること能はず、今其然る所以のものは何ぞや。曰く元来火成岩は只其時代の新旧により或は其冷却し凝固する際の事情により石英（遊離硅酸）長石輝石角閃石及び雲母等数種の硅酸塩類より成るものにして、其原料たる比重の関係其他の化学作用により地球の表面に浮び出でたる物質のみより成るが故なり。去れば火成岩の成分は洋の東西を問はず時の古今に論なく余り大差なきものと見えたり。故に又硅酸の分量によつて之を分類するの法もあるなり。

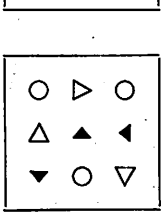
		硅酸の分量
火成岩	酸性岩	百分の六十乃至八十
	中性岩	百分の五十乃至七十
	基性岩	百分の四十乃至六十
	重基性岩	百分の三十五乃至五十

酸性岩に於ては剰余の硅酸は遊離して石英となりて現存す。長野市附近旭山及び小県郡西塩田村弘法山の流紋岩の如きは其好適例なり。基性岩には遊離硅酸なく、又仮令（たとへ）存在するも極めて少量なり。之に反して輝石角閃石及び橄欖石の如き所謂苦土硅酸塩類と称する基性の鉱物は基性岩中に多し。和田峠西餅屋附近の地に玄武岩の小露出あり、黒色堅実の岩石にして鏡下に検すれば石基全晶質にして主として斜長石及び磁鉄鉱より成り、之に輝石橄欖石、長石及び磁鉄鉱の斑晶を散点し極めて基性の岩石なり。元来玄武岩は火山脈地方には其存在甚だ僅少なるものにして其此処に発見せられたるは寧ろ奇とすべきなりとは山崎理学士の説なり。故に酸性岩は一般に白色にして比重軽く基性岩は色黒くして重し。

㈢ 火成岩の特性（其一）

火成岩と水成岩とを区別することは甚だ容易なるが如くなれども其実決して然らず、高遠町附近の輝緑岩及戸台の白堊紀砂岩の如きは単に河原石などて示されたるのみにては五無斎の大に閉口する所なることは既てに読者諸君の御察を請ひ置きたるところなり。故に今茲に火成岩の特徴を記述するは強ち無用の景にもあらざるべし。

(1) 塊状にして結晶質なる事　前々段に於て記述したるが如く、火成岩は熔融せる岩漿が地球の表面若しくは表面近くにて凝結したるものなれば、塊状を為して存在し、決して湖海の水底に沈澱したる水成岩の如く層状をなすことなし。故に標本の採集に当りては何れの方向に鉄槌を当つるも絶へて難易の別あることなし。是其岩漿の凝結するに当りては同質の分子互に寄り集まりて各自固有の結晶を為し、其排列の有様も亦我儘勝手にして一定の方向あることなきが故なり。上下伊那東西筑摩及南北安曇の数郡に広く播布する花崗岩は其一例なり。而して同岩は重に石英雲母長石の結晶体より成る。今之れを図示すれば



○ 及石は石英の結晶
▲ 及雲は雲母の結晶
△ 及長は長石の結晶

斯くの如き岩石を粒状と云ふ結晶質と殆ど同意義なり。又花崗斑岩と云ふものあり、前記花崗岩地の所々に産す。花崗岩の外部にあつて稍急に冷却したるものなるべし。有名なる木曾の寝覚の附近のものは是れなり。

木曾上松寝覚の床にて

寝ほけたる目も覚めそーな処なり　これは〳〵と両手上松

五無斎

石	○及び石は石英の斑晶	○及び石は石英の小晶
長雲	▲及び雲は雲母の斑晶	▲及び雲は雲母の小晶
斗長	△及び長は長石の斑晶	△及び長は長石の小晶

斯の如き岩石を斑状と云ふ又富士岩と云ふものあり、其種類の多きことは先きに記述した処なり。今長野市附近飯綱山の輝石富士岩中山崎理学士の所謂飯綱式と命名せられたるものを挙けて之れを詳解せんとす。

前略。其他又一特種のものありて頂上及び裾野の各所に散在するを見る。之れ予が飯綱式と称する一種の外観を有するものなり。其の岩石の破砕面を検するに石基は黝色にして其の内に散点せる長石の斑晶は其晶形比較的小にして、大さに甚だしき大小なく大抵粟子大にして岩石中に均斉に散布し粗密の観なし。而して其間に散布せる輝石の斑晶を見るに大概皆数個の結晶相集積して一団を為し、瞥見小豆大の斑晶を為し大抵同一の距離をへたて、著く散布せり。鏡下実検によれば石基前者と同しくハイアロピリチック構造を有し、長石及輝石の微晶より成り、之れに無色の玻璃を交へ、其輝石の多少分解して酸化して酸化鉄の深潤を生ぜしものは石基に褐色を与ふ。（震災予防調査会報告書第八号抄録）

本岩は長野市高等女学校新築地平しの際多数に発掘せられたるものにして、立科及八ケ岳附近の火山に最も多き火山岩なり。例に依つて五無斎流の図解を施せば左の如し

輝	▲及び輝は輝石の斑晶	▽及び長は長石の結晶
長チは	▲及びキはは輝石の微晶にして石基を為すもの	△及びチは長石の微晶にして石基をなすもの
輝キヤ		・及びぱは玻璃質

㈢ 火成岩の特性（其二）

R流状を呈し板状及び柱状の節理ある事、

前述するが如く、火成岩は層状を為さずして塊状をなせるを通常とす。然し共時としては火成岩にも亦水平に流走するものありて層状を為して一見水成岩の如き観を呈するもの無きに非らず。噴火山等より流出する熔岩が時を異にして噴出するに際し前後其種類を異にし、二者相重なりて層を為す。南佐久郡海尻の西山中本沢ノ湯附近硫黄山噴火孔内及浅間火山の第一外輪山たる牙岩等を一見せば思ひ半ばに過きん。

又緻密なる半固体の熔岩流が流走するに当りては流状を呈し、水成岩には非らすやと疑はるゝことあり。諏訪湖の東に聳ゆる霧が峰火山中賽の河原附近の角閃富士岩の如きは其一例なり。角閃富士岩の所在は吾人のお国中は余り広からざるにより、五無斎は同地にて百余塊の標本を採集せんとしたるなり。然れども角閃石の結晶体が肉眼にて明かに見出し得ねば標本たるの価値を半減する道理なり。始めの程は如何にしても角閃石の結晶少なり大に閉口したり。然れども暫らくにして遂に熔岩流走の方向に沿ふて打ち破るときは、同鉱物の多数に存在して天竜川下流満嶋附近にて材木の流しをなす様なる事を発見せり。是れ熔岩が流走しつゝ凝固せんことを表するものにして水成岩の如き層理には非ざるなり。

又熔液体より個体に凝結する際には板状節理として特殊の割れ方をなすことあり。此の節理は通常不規則なる平面を為すものなりと雖も前記霧が峰より西方に流れたる輝石富士岩の如きは、平滑なる板状節理ありて厚さ五六分（上部）乃至二三寸（下部）方六尺位なる石の板を得ること難からず。同地方にては俗に平石と称へ盛んに之れを採掘し屋根瓦の代用となし又敷石となす。是れ冷却し凝固するの際内部と外部とによりて其冷却の度を異にするより却冷面に平行して裂け目を生じたるなり。霧が峰よりは又此富士岩流を東方小県大門村にも押し流せり。右の外北佐久郡協和村（俗名

畳み石）及南佐久大日向村にも同様の石材ありとて採掘を始めたるものありしと雖も収支相償ふや否や。又板状節理の外火成岩には柱状節理と称ふるものあり。三乃至六の面にて囲まれたる規則正しき柱状を為せるものにして殊に六角柱を為すものを最も多しとなす。是冷却及収縮の中心が等距離の点に存在せるが故なり。初秋水田の表面に生ずる亀裂も亦此の理に外ならず、此の場合に於て柱の長軸は常に熔岩の冷却面に直角を為し、通常の熔岩に於ては殆んど直立の位置を取り、脈岩等に於ては其側壁と直角をなす。小県郡丸子村腰越橋下の粘岩（ねんがん）?の如きは直径一二寸長さ一二尺の横柱をなし、同安良居神社附近のものゝ如きは直径一尺二三寸長さ二三尺にして殆んど直立す。右の外西内村の荒砥沢の奥には直径一尺二三寸長さ三四間の柱状節理を有する粘岩?あり。和田峠西餅屋を下ること二三町道の右側には直径二三寸長さ二三尺許りの柱状節理を有する富士岩あり。下高井郡渋温泉より草津温泉へ達する県道の右手には幕岩あり、県下絶景中五指のうちにあるべし。紅葉の期節最も可ならんか。

雨中の紅葉

佐穂姫の織りなす錦くれないに　たつた今染めあとで水張り

渋田中村の温泉に浴するもの一瓢を携へて一遊を試みて可なり。長野市の小学校や附属小学校の生徒などは上水内郡芋井村狢（むじな）に遊び給へ、同地の輝石富士岩は直径二三尺長四五尺のもの直立す。亦壮観たるを失はず。

㈣　火成岩の特性（其二続）

右の外火成岩の特性中には、

(1) 有機物の遺跡即ち化石を包有せざる事

(2) 玻璃質若しくは鉱滓質構造ある事

(3) 玻璃の存在する事

(4) 岩脈を為し又大塊を為して現出し或は之れより枝脈を出す事
(5) 触接変質を周囲の岩石に及ぼす事
(6) 杏子状構造を有する事

等の諸特性あれども是等は既でに前段に於て夫々分記せるところ、（一）且つ余り専門に傾き過ぐるの嫌ある事、（二）一々趣味多き証例を吾人のお国たる信州に求め難き、（三）等の事情により茲に詳記せず。五無斎説明に窮するのみ邪推なして給ひぞ。

おヒヤらクと　言はずに　ホシナ　五無斎は　やまに千年　かはに千年

頭来山千川千居士と署名する事もあるべし。是れ乗鞍登山の折南安の悪る口教育家太田伯一郎君より奉つられたる尊号なればなり。

㈣ 深造岩（其一）

(1) 花崗岩　本岩は粒状構造を有し、全く結晶質にして石英雲母長石より成り、肉眼にても其成分鉱物の結晶を認むる事を得へし。其他多少の斜長石輝石角閃石及電気石を有する事あり。其黒色を帯び光沢強きは雲母若しくは角閃石にして、薄片色を呈し光沢少き部分は石英なるべく、白色にして稍光沢あるは正長石及ひ斜長石なり。今花崗岩の種類を挙くれば次きの如し。

正花崗岩又両雲母花崗岩　石英白雲母黒雲母及び正長石にして、駒が岳に此例あり。然れども本岩のみにて同山を構成するには非らず。

白雲母花崗岩　正花崗岩より黒雲母を去りたるものにして、本県下に産する花崗岩は概ね本岩に属す。本岩にて構成せられ有名なるは南安曇郡有明山。上伊那・西筑摩両郡の境上に聳ゆる駒が岳及南佐久郡川上村の金峰山なりとす。

㈤ 深造岩（其二）

角閃花崗岩　本岩は花崗岩中に角閃石を含めるものにして、先きに記載せるが如く斜長石の分量増加するときは英雲閃緑岩若くは石英閃緑岩に漸時移化するの性あり。諏訪湖の東南四賀村に小区域の丘陵を為して現はれ、角閃石は一部分緑泥質物及緑簾石に変化して岩石を緑色に染め一見石英閃緑岩と見誤るゝなり。前記駒ケ岳東麓の花崗岩にも亦角閃石を有するものありと雖も角閃花崗岩とは言ひ難し。輝石及電気石を含有するものは本県に見当らず。

本岩を薄片と為し顕微鏡下にて視察するときは石英と長石とは互に押し合ひて同時に結晶したる形跡あり、之れを同時生育と云ふ。斯くの如きものをマイクロペグマタイト構造と云ふ。時としては肉眼にて此の構造を有する花崗岩と云ふ鬼御影又文字花崗の名あり。亜剌比亜の楔形文字に似たるよりの名なりと知るべし。西筑摩郡田立村の有名なる天河石黒水晶及び南佐久郡川上村金峰山の水晶の巨晶は此のペグマタイト中の一成分なりと知るべし。川上村の水晶坑よりは長さ二三尺直径一尺四五寸の水晶の巨晶を出す事あり。予が長野高等女学校へ献納せしうちにも長さ一尺三四寸直径四五寸のものあり。此の外上伊那郡富県村字桜井のチンワル石（雲母の一種）下伊那郡山本村附近水晶山の正長石及南佐久郡大日向村茂来山の有名なりと知るべし。

又微粒質の花崗岩中長石の斑晶を有する事あり、之れを花崗斑岩と云ふ。西筑摩郡寝覚の床及福島町附近其他の花崗岩地にも亦多少本岩の存在するを見る事あり。

花崗岩には又副成分として柘榴石（上伊那郡赤穂村）、隣灰石黄玉石（西筑摩郡田立村）、電気石螢石、（西筑摩郡田立村）輝水鉛鉱（南安曇郡松川村）等の鉱物を含有するあり。本岩を御影石と称するは幡州御影村より来り、殆んど全国に通ずるよしなり。三州にては幡豆、讃岐にては小豆島、石城州にては白川石と呼ぶよしなり。小県郡の南部地方にて石英閃緑岩を御影石と呼ぶは少しく御門違ひの毀りを免れず。

(2) 閃緑岩

本岩は晶質の岩石にして主として斜長石及角閃石の二者より成り、時としては輝石雲母及石英等をも含有する事あり。斜長石は灰曹長石曹灰長石及灰長石にして普通白黄若しくは緑色を呈し、角閃石は其劈開面を見るに暗緑色にして玻璃光沢を有し、粒状或は短柱状にして殆んど板状をなす。花崗岩と同じく其含有する鉱物の如何によりて次の数種に別つ事を得。

正式閃緑岩　斜長石及び角閃石より成るものにして本県内には此の例なきようなり。

雲母閃緑岩　右の二鉱物の外雲母を有するものにして本県下には見当らず。

(ロ) 深造岩（其三）

石英閃緑岩の石英を有するものにして、東筑摩諏訪及小県三郡の境上にある鉢伏山、南佐久郡大日向村、上高井郡仁礼保科両村の山奥、下高井郡渋・角間両温泉附近及同堺村切明温泉附近に此例あり。元来本岩は本州中部即ち上野甲斐及び吾人のお国に広く播布する岩石にして、鉢伏山のもの最広大なる面積を有し、上下高井のもの之れに次ぐ。

一　前略。本岩は緑色花崗質にして、緑色角閃石斜長石及石英より成り、粒状の組織をなすも斜長石角閃石は其晶形稍々完全せるものあり、角閃石は屢々分解して緑泥石となり、長石亦分解して汚濁を生ずるもの少からず。本岩は八ヶ岳聳の北方和田峠鷲ケ峰附近に広大なる面積を占めて露出し、尚地下には此等火山の基盤をつくれり。其他亦千曲川以東の地に於て太古紀層中に露はるゝを見る。本層は太古粘板岩に触接変質を与へ、又鉢伏山の麓横川河の上流に於ては御坂層の泥板岩を貫いて岩脈を為し、之れを変質せしむる事あるを目撃せり。（震災予防調査会報告書第二〇号抄録）

二　前略。本岩の外観は花崗岩に似て粒状なり。其色緑黒灰の雑色を呈す。成分は角閃石斜長石石英にして檜の段川（五無斎曰く下高井郡堺村中津川の支流以東のもの黒雲母長し是れ角閃石の変成したるものなり）、雑魚川（五無斎曰

く前記中津川の支流）口附近のものは石英少し。又稀れに輝石を見る事あり。変成鉱物には緑泥石及緑簾石あり。磁鉄粒は成分中に散嵌す。（震災予防調査会報告書第八号抄録）

三　石英雲母閃緑岩　即ち英雲閃緑岩の石英及雲母を有するものにして、前記鉢伏山の西部に此の例ある由は農商務省の甲府図幅地質説明書に記事ありしやう覚ゆ。

又本岩は其構造により針閃緑岩、（角閃石の結晶細長なるものにして小県郡武石村に此の例あり）球状閃緑岩又ナポレン石と称するものあり。コルシカの産あり。故に名つく。本県には此の例なし。

又本岩中には後生鉱物として緑泥石及緑簾石を生ずる事あり。小県郡落合高等小学校々庭に此の例あり。又小県郡武石村の御坂層凝灰岩中には緑簾石の晶腺ありて本邦第一の光沢よきものとして学者間に知れ渡り、且つ五無斎の新発見なるよしは前段既てに記述せしところあり。

四　斑励岩又飛白岩　斑励岩又飛白岩は花崗質粒状の岩にして、斜長石及輝石の一種異剣石より成る。斜長石は多く塩基性のものにして、ラブラドル長石即ち曹灰長石及灰長石にして白灰及青色を帯び、異剣石は灰緑若しくは褐色を呈し、完全なる劈開を具へ金属光若しくは閃光を放つ。時としては角閃石及び橄欖石等を混ずるあり。此岩石の毎爛するときは蛇紋岩に変ずるを常とす。

五　正式斑励岩　斜長石及異剣石より成る。県下下伊那郡大鹿村の大字鹿塩字沢井・南佐久郡大日向村・上下伊那地方の東を限れる赤石山脈の諸所及び北城村の辺に産するものの如きは本岩より変じたる蛇紋岩ならんか。

六　蛇紋岩　暗緑色平滑なる普通の性質を具へ釜無山脈の三波川層に露はる。東方にありては信濃南佐久郡大日向附近に於て太古紀層中に於て好露出を為せり。共に飛白岩の変成にてなれるものにして、鏡下に検すれば淡褐色を帯べる輝石の新鮮なるもの存在すれども普通の橄欖蛇紋岩に於けるが如き橄欖石の痕跡を止めず。（山崎氏震災予防調査会報告書第二〇号抄録）五無斎曰く鹿塩の沢井及大日向の新三郎沢に於て蛇紋岩の新鮮なるものを採集せば斑励岩の好標本を得べし。又北安曇郡大黒岳東腹の蛇紋岩は橄欖岩より変じたるものか、深黒色の蛇紋岩中淡緑色紡錘状の鉱物を散点

し常陸産のものに酷似す。

七　角閃斑励岩　斜長石角閃石を含むものにして諏訪郡小泉山のものは是れならんか。

八　飛白岩　緑色にして輝石続成角閃石長石の小柱結晶密に交錯して成れる岩石にして、寧ろ閃緑岩質飛白岩と称すべきものなり。（震災予防調査会報告第二〇号抄録）

五無斎曰く小泉山は諏訪郡玉川村にあり。大泉山と東西相対して立科八ヶ岳山麓の裾野にある小丘なり。大泉山は重に古生代の水成岩より成ると雖も東部は大泉山と同じく水成岩より成る此地の斑励岩は少しも蛇紋岩に変じたるの形跡なく、山の北麓ナルイハ河に面する所最も採集に便なり。

九　橄欖斑励岩　橄欖石を有するものにして本県下には産せさる様なり。本岩は又副成分として黒雲母クローム鉄鉱・角閃石・柘榴石・蛇紋石・滑石・燐灰石・風信子鉱・磁鉄鉱・黄鉄鉱等を含む事あり。

㈥　噴出岩（其一）

(1)　石英斑岩　本岩は花崗岩と其成分を等くすれども著しく其組織を異にし、緻密なる石基中に石英・長石・雲母及角閃石の斑晶を有するものなり。石基は石英及長石の微晶質及び潜晶質の密集体より成り、其各鉱物の粒子は極めて微少にして高度の顕微鏡にても尚判然たらざる事あり。普通堅硬緻密なりと雖も時としては粗鬆にして土状をなす事なきにしも非らず。西筑摩郡王滝河の南方阿寺山真弓嶺及白州晶等に露はるゝものは是れならんか。王滝村鞍馬橋畔最も採集に便にして県下第一絶景の地なり。御岳登山の序てを以て一遊を試みて可なり。此地副成分としては電気石・磁鉄鉱・知旦鉄鉱・柘榴石・異剣石・輝石・角閃石・風信子鉱を含有する事あり。

前略。信濃鎗が岳産電気石の斑紋を有する酸性岩、大塚博士の発見する所なり。氏は富山図幅説明書三五頁に記して曰く、英雲玢岩は淡白色にして電気石の斑点あり北安曇郡鎗ヶ岳の尖峰をなし露出す。其白色なるを以て遠見恰も雪を

戴くが如し。岩石は石英及長石の微晶石基より成り、其中に斜長石石英及少量の黒雲母を散布し、又斜長石の斑点を為すは電気石の集合を為すものなり。該岩の相貌はうぱりの岩に酷だ相似たるも斜長石過多なるを以て之れを玢岩に属せしめたり。余（工学士山田邦彦）は幸に其標本を見るを得たり。外貌と云ひ黒斑と云ひ更に前記天草産の者と異なる所なし。只稍緻密にして濁色を帯べるを覚ゆ。標本には石英の外氏の記せる斑晶鉱物殊に黒雲母を認むるを得ず。氏より恵まれたる薄片を鏡下に検するに又天草産と異なる事なし。化学成分は詳かならずと雖も恐らく斑岩粗面岩と同列に位するならん。此の岩石の現出せる状態乃至周囲の玢岩（富山図幅参照）に対する関係等も詳ならずと雖も電気石顆粒の成因は富岡（天草島）のものと相同じからんか。余は其生成を凝固の際の分体作用に帰したりしが、天草島の地質を調査されたる大築仏郎氏の詳細なる研究を待ちて其真相を解するを得ん。（地質学雑誌第九巻百一号工学士山田邦彦氏論文抄録）

五無斎曰く。安蘇郡には三座の鎗が岳あり、何れも急峻にして四十度以上の傾斜をなす傾斜の急なるものには鎗が岳若しくは剣が峰等の名を附するを以て普通となす。而して最も南にして梓川及高瀬川の水源をなすもの最も有名にして、青木湖の西信濃越中の境上にあるを鹿島鎗ケ岳と称し、最も北にあるを北城の鎗ケ岳となし、何れも本岩より成る。然れど此の所に記載するは北城の鎗ケ岳なるべし。予が見たる処には平河の奥大黒岳のもの最も多く電気石の斑紋を有し、白馬岳杓子岳及び北城の鎗ケ岳のものは少なし。

本岩は古代の火山岩にして花崗岩の如く深所に於て凝結せしものにあらず。其噴出の盛んなりしは古生代のよしなれども本邦に於ては古生代以後中生代のものなるべく花崗岩の噴起せし近傍には其噴出少からず。

㈥ 噴出岩（其二）

(2) 流紋岩

流紋岩は花崗岩及石英斑岩とは其化学的成分を等しくし、殊に石英斑岩とは其組織を同じくせり。然れども彼れは古代の噴出岩にして、是れは近代の噴出岩なるを異なりとす。其斑晶を為すものは石英及長石にして、主として長石の微晶より成れる淡色の石基中に散点し、時としては輝石角閃石及雲母の結晶を見る事あり。又副成分としては磁鉄鉱・鱗石英・燐灰石・菫青石・柘榴石・知旦鉄鉱等を含み極めて稀れには紅簾石を有する事あり。

本岩は熔岩として空気中若しくは水中に流れたるものなるが故に流状の構造を呈す。是れ其流紋岩の称を冒す所以にして玻璃質若しくは微晶質の石碁は美麗なる水流状を為し、農商務省の地質調査書其他地質学の教科書中石英粗面岩となるもの是れなり。中島謙造氏農商務省地質調査書によれば長野市附近伺去真光寺の辺より始まり、松茸の産地を以て有名なる大峰山及旭山を経て両郡橋を渡り、更級郡稲荷山町附近に至る河中島平原の西北に当れる丘陵一帯の地は都べて石英粗面岩即ち流紋岩より成るよう記載あれども、其後理学士山崎直方氏は妙高火山地質調査の序を以て本地域を踏査せられ裾花凝灰岩と命名せられたり。裾花凝灰岩は長野市附近特別の岩石にして且つ読者諸君の注意を惹き易き岩石なるが故に繁を厭はず以上二氏の説を引照すべし。

一　石英粗面岩は普通白色時に緑色若しくは灰色を帯び、時に黒雲母之れに碁散して斑理を現せり。顕微鏡下に之れを視察するに石基は玻璃質なるあり、潜質なるあり、玻璃質なる時は流状・毛髪状・球状等の結構を有す。碁散せる斑理物は長石（主として、長石に属すれども斜長石も亦発生す）及石英其主成分を組成す。基性鉱物は全く之れを缺く事あれども主に黒雲母にして、時に又角閃石を雑混す。茂菅村に露出するものの如き是れなり。本岩は二区域を占有す（五無斎曰く一区は三国山系に属し茲に関係なければ省略す）其一は千曲川以西茶臼高隆線の大部を構成し、伺去真光寺近傍より南走して稲場の西に延長せり。其東に面する崖峭は往々毎爛崩壊するを以て遠望恰かも白雲を被るものの如く、頗る奇観なり。此の区域の南部稲荷山町に建築用に採石せる岩種は暗灰若しくは緑灰色の帯び多量の斜長石を含める英雲安山岩たるを検定せり。是れ本岩の一部は石英安山岩に移過するを証するに足らん。（中島謙造氏長野図幅地質説明書抄録）

二　前略。本地域に発達せる凝灰岩中には他の地方に於て多く見ざる一種特別のものあり。長野町近傍裾花川沿岸の地に好露出を為すを以て予は特に之れを称して裾花凝灰岩と云ふ。此の岩石は主として流紋岩並びに真珠岩の砕片より成り、此の中には又是等の岩石並に閃英富士岩の層盤を来有せり。（其薄きものは地図中に省略せるものあり）五無斎言く、旭山の東腹及安茂里村のうち小市に流紋岩の小露出あり。両郡橋より四五町許り東の辺に真珠岩の小露出あり。而して閃英富士岩の露出は長野発電所の対岸の辺にあり。此の角稜凝灰岩は特に信濃の一部分にのみ能く発達し、川中島平原の西北を擁する丘陵は皆是れより構成せられ、其岩石は時に美麗なる緑色を呈するものなきに非らずと雖も多くは蹂爛して普通白色を呈し石英並びに黒雲母の小片を散点し、又漸くに其角稜質の観を失ふて純然たる凝灰岩に移過する処あり。信濃上水内郡小市近傍に於ては其毎爛せるものよく盛んに陶土を採掘せり。此等の毎爛せるもの丘頭に露出する状は宛も白雪の懸かるるが如く、川中島平原に於ける一奇観なり。

此の裾花凝灰岩は其上下に泥板岩層を有し、又時に変質して角岩状を呈せる薄層を夾む事あり。信濃上水内郡両郡の近傍及裾花峡流の崖なる小鍋茂菅の間に於て能く之れを目撃するを得べし。（山崎直方氏妙高火山地質調査報告抄録）

五無斎曰く、先きに中島氏の本岩を以て石英粗面岩即ち流紋岩とせられしは其流紋岩片殊に時としては其大塊或は層盤さへも夾雑せしが為めなるべし。然れども全体より之れを観察すれば素より一種の凝灰岩たるに外ならず。長野市及高等女学校の辺は甚だ遠からざる古代にあつて本岩の大峰山附近より山抜けしたるものにして、都べて本岩より成る停車所附近か若しくは丹波島橋上の辺より之れを望見せば、以て予が言の妄ならざるを知らん。而して当時現今の川中島一帯の地は漫々たる一大湖水たりしならんか。五無斎は例によつて例の如く之れを川中島湖と名つくべし。予は未だ一見せされども群馬県師範学校長羽田貞義君は本県師範学校の鑿井より多数の貝殻の化石を得られたるやう物語られたり。是れ最も有力なる証跡と言ふべし。

本岩は長野市近傍外三ヶ所には露出あり

一　南佐久郡。白色淡黄色若しくは白色堅実なる岩石にして、石英の斑晶を散点す。信濃南佐久地方に小噴出を為

し、其東馬流に露出するものは整然たる柱状構造を為し、其対岩にあるものは流状構造を為し、緻密なる石基は波状の斑晶を為せり。鏡下に検すれば石基は潜晶質にして、石英は不規則なる粒状の斑晶を為し、岩晶の腐蝕作用を受けて其侵入せるもの少からず。長石は斜長石玻璃長石あるも甚だしく分解して僅かに其痕跡を知るに過ぎず。（震災予防調査会報告書第二〇号抄録）

二　小県郡西塩田村大字前山の弘法山は有名なる違ひ石の産地にして、又本岩よりなると雖も塩田平と東南内村の境を限れる丘陵は流紋岩・玢岩・富士岩及其集塊岩の小噴出多く、農商務省の上田図幅地質説明書には都て玢岩の着色あり、実に十把一とからげと云ふやり方にて説明も亦詳細ならず。

三　又同郡傍陽村字入軽井沢には紅簾石及緑簾石を副成分とするものあり。其露出の状態と云ひ、火成岩中紅簾石を含有することと云ひ、頗る奇なる現象なるよしなれば今山崎直方氏著岩石教科書中の一二節を抄録せん。

前略　餅盤 Laccolith 普通饅頭状をなせる大塊にして、其始め岩漿の噴出せるや某々二層の間に於て横に迸流し其上部にある地層を推し上くるに至りたるものなり。始めて其現象を世に紹介したるは「ジルベルト」にして氏は、北米ユーター州のヘンリー山に於て其実に模範的の好露出あるを目撃せり。（中略）本邦に於ては著者先きに小県郡上田町の北方に於て流紋岩の此の構造をなして第三紀中に噴出するものを見たる事あり。

編者曾て信濃小県郡傍陽谷に於て紅簾石を含有するものを発見したる事あり是れ宇内多く見ざる処なり。

五無斎曰く、元来紅簾石なる鉱物は本邦に於ては始原代の結晶剣岩中紅簾剣岩として多量に産すれども外国にては産出極めて稀れなるよしなり。殊に火山岩中に発見せられたるは今回が嚆矢なりとか。是れ同学士が特に字内の文字を用ひ紅簾流紋岩なる新名称を附せられたる所以なり。而して紅簾石の成分中満俺（マンガン）なく緑色なるものを緑簾石と云ふ。

(3)　富士岩

本岩に就ては前々章既に其概略を記し置きたれば茲には省略に従ふ。然れども後章更に各火山の条下に於て詳細に記述することあるべし。

(4) 玄武岩

本岩は只和田峠西餅屋附近に小露出あるのみ。且つ幾分記述し置きたるところなれば之れも亦省略せん。

(5) 玻璃質富士岩

火山熔岩の地上に噴出さるゝや、急激に冷却して各鉱物成分が充分に結晶するに遑あらずして凝固する時は唯玻璃質の岩塊と為ることあり。是等は或は流紋岩質粗面岩質或は富士岩質玄武岩質なることあり。然れども其外形には一定の差別なきが故に、化学分析を為すに非るよりは其の何れの岩石の火山岩玻璃なるやら識別する事能はず、只便宜上松脂岩・黒曜岩・浮石・真珠岩等の名称を附するのみ。

一　松脂岩は黒緑褐色若しくは黄色の玻璃にして其特性とする処は膠脂状の外観と介殻状の断口を有し、百分中五乃至九の水分を含む。之れを顕微鏡下に検すれば玻璃質のうちに種々の無数の微晶を散在し、属星状又羽毛状の群をなして美麗に排列す。小県郡大字腰越びつくりの辺に現はるゝは是れならんか。

二　真珠岩は其色種々にして黄緑褐等の色を呈し、玻璃質或は琺瑯質を為し、豆粒大の核子を有し、其核子には葱皮の皮殻あり、是れ此の岩石の特徴なり。而して又時としては繊維質をなすものあり。上水内及更級の郡界たる両郡橋の辺に小露出あるよしは前段既に記述したる処にして、此の内より一種仏頭石と称する奇妙なる玉髄を産し、鉄槌にて之れを打ち割る時は其中心より縞瑪瑙様の鉱物を産す。

三　黒曜岩又は自然玻璃は暗褐緑等より黒色の間にある玻璃質の岩石にして、又自然玻璃と称する事あり。僅微の水を含有する事ありと雖も又全く之れを缺く事あり。顕微鏡下に之れを検すれば棍棒状毛髪状等の微晶を含有し、流状を呈す。本岩の採集に便なる和田峠頂上附近及立科及横岳の間にある寄生火山摺鉢山なるべし。五無斎は又諏訪郡冷山の辺にて二間立方位なる黒曜岩の大塊を見たることあり今山崎理学士の八ケ岳火山地質調査報文中の数節を抄録すべし。

㈢ 噴出岩（四）

A　和田峠近傍のもの　前略。峠の頂上に露出せる黒曜石は、和田峠の黒曜石とて其名夙とに現はれて黒曜石と称すれば直ちに和田峠を聯想せしむるに至れるものなり。今此黒曜石墳出状況を察するに和田峠の直ちに東に隣り、鷲が峰あり、南方霧ケ峰火山に連る。霧ケ峰は此の附近に於ける最高峰にして、東は男女倉沢より星糞（五無斎曰く星糞は黒曜岩の俗称）峠の方向に長き山脊を引き、西は和田峠より緒〆山に連る。黒曜石及び其類似岩は実に此の鷲ケ峰附近を中心として噴出し、此等の地方に流れ一部は焙錄山の富士岩流を蔽へり。此黒曜石の其の種類一ならずして所を異にするに従ひ、其外観も従て異なれり。今和田峠地方に露出せる黒曜石の種類を示さんに、其の最も普通なるは黒色の玻璃にして時々褐色若しくは白色の彩紋あるものあり、又其色淡き時は白色或は殆んと無色を呈す。是等の黒曜石中球子を含有せるものあり、普通宛豆大黝色不透明質の非晶物にして其少きものは唯僅かに点々散在すれども其数次第に増加して遂ひに岩石全体に球子を以て充たされ透明なる玻璃質分はわずかに其間隙を塡充するに過ぎざるものなり。此の球子となるべき物質は又充然なる球状を為せる球子を造らずして泡沫状を為し、さなから熔鉄炉より生ずる鉱滓の状を呈し其各泡又純不純各種の玻璃質又は磁器状のものより成るものあり、是れ等の岩石は石質脆弱にして又其不純陶器質の部は毎爛し易く、為めに岩石容易に粉砕して其堅硬なる玻璃質の部分のみを剰し粗粒の砂を作る。鷲ケ峰和田峠の中間に位する山脊及星糞峠附近に於て其適例を見るべし。東餅屋の西方に位せる緒〆山に在りては、殆んど皆此不純質の部分のみより成り、且つ霧爛して脆き土質を帯ぶ。此の岩石中には柘榴石を産し、殊に其空泡内に産するものは赤黒色の美麗なる光沢を放ち、菱形十二面体及偏方二十四面体の聚形をなし、和田峠の柘榴石とて世に噴々たるものなり。此等の不純なる黒曜石は又流状をなし、時々麗はしき細微なる流理を其表面に顕はし、黒色玻璃質の黒曜石より成れる帯ひを挟み、ユータキシット構造の好例を与ふるものあり、和田峠の絶頂西餅屋の東北等其好露出あり。

此の黒曜石は如何なる種類の岩石の玻璃に属すべきか、試みに之れを鏡下に検するに美麗なる流紋状をなせる「ミクロライト」「ロンキューライト」の外に往々斜長石顆粒状を為せる輝石柱状をなせり。角閃石等の介在せるを認むべく星蕨の西方には玻璃質の石基より成れる角閃富士岩あり。鷲ケ峰の角閃富士岩の如きも玻璃質に富み、其和田峠に近つくに従ひ此角閃富士岩は玻璃質と共に、ユータキシット構造をなすものあり、因つて意ふに、此黒曜石は富士岩玻璃にして、即此鷲ケ峰地方に発達せる角閃富士岩と同一の岩漿より成り、唯其急激なる凝固によりて今日の状態をなすものたるに過ぎず。而して其外観に種々の差あるは、又其凝結当時の状態により彼泡沫状を為すものは、意ふに、岩流の表面に生じ完全なる玻璃質を為せる部分及土器質にして、緻密なる流状をなせる部分は稍其内部に位せるものなるべし。

（以上二項六五―六六抄録）

B　摺鉢山のもの　立科と横岳との間に当り一円錐丘あり、其形状にして著しからざれば瞥見其所在を知り難し。此の間に小間隙より噴出したる一寄生火山に過ぎざるものなり。而して此の所に噴出する岩石は其両隣の横岳藪科等の岩石と異り、未だ充分結晶せざる玻璃質体の岩石なり。或は黒色緻密の火山玻璃中に処々長石の斑晶を散点せるものあり、色は黝色流状の構造をなし、且つ之れが為めに数多引展せる気泡を有するものあり。（五無斎曰く本標本は次きに記載すべき浮岩と黒曜岩との中間に位するものなり）又黒色の玻璃質と煉瓦状の非晶体と互層して、ユータキシチック構造をなすものあり。而して鏡下実検によれば、是等の岩石は主として玻璃よりなり、之に種々の微晶を含有し殊に黝色質のもの〻如きは無数の「ロンギューライト」が各其長軸を相並行し流状を為すを見る。斑晶の散点せるもの其数多からざるも、猶所々に三斜長石並ひに輝石及紫蘇輝石の散点せるを見るべく、以て其復輝石富士岩玻璃なるを知るを得べし。（同五九頁抄録）

四　浮岩　淡黄色白色若くは黝色に其中に無数の気泡を含有し、泡沫状又は海綿状を為し、其質軽鬆なり。是れ其火山より噴出するの際其中に含有せし多量の瓦斯の逃遁せしによるなり。北佐久郡浅間山四近の地に多し。又五無斎は西筑摩郡御岳火山の裾野に於ても浮岩の地層あるを目撃せり。尚諏訪郡富士見村原ノ茶屋附近にて長者味噌と称する土は

本岩の堆積甚爛せるものなるべし。

㈢ 脈岩（其一）

(1) 輝緑岩

本岩は粗粒状若しくは細粒状緻密緑色若しくは灰緑色の岩石にして、斜長石及輝石の集合より成る。時としては之れに加ふるに磁鉄鉱・知旦鉄鉱・燐灰石・正長石をも含有することあり。又線状の角閃石なる、ウラル石に変ずるものあり、本岩にも亦種々の細別あれども略す。本岩は下高井郡中津川上流魚野川に発達し切明温泉以南サブリウ沢に至る。

一 輝緑岩　濃緑色にして緻密なり。斜長石及輝石両晶の粒状組織なり。所謂輝緑岩的構造（五無斎曰く、交錯せる長石結晶の間隙は総て歪形の輝石を以て充たさる之れを、オフキチック構造又輝緑岩的構造と云ふ）輝石は多くウラル石に変成し、其甚だしきは此の変成的角閃石のみとなり、閃緑岩と混同し易し。緑泥石及ひ磁鉄粒は変成物として存す。（震災予防調査会報告第八号毛無火山地質調査報文抄録）

二 ウラル石輝緑岩　肉眼上には粗結晶質にして、普通閃緑岩の観を呈し、緑色の絹光沢を有する変成角閃石及白き長石の判然見ゆる岩類なり。又小長石と散点する暗黒色緻密の岩石等種々の等差あり、最も普通なるは暗灰色にして時々少しく緑色を帯び緑色角閃石及長石は密に入り交る岩石なりとす。岩石は一般に新鮮の容貌を呈す。（中略）

碓氷峠区域　重に碓氷川上流の谷底に於て大露出をなし、此の谷によつて横ぎらるゝ中央露出の長さ七町許りにして、此の中央の大塊は白色の変朽富士岩及ひ泥流を貫ぬく。其外此碓氷川上流の谷及之れに沿ふ峠道に七ケ所に於て岩脈として現はれ、此の第三紀泥板岩及凝灰岩及泥流に接触変質を起さしめ堅硬ならしむ。此の区域の輝緑岩は粗粒閃緑岩様のもの及び肉眼上斑晶質又は暗色緻密質のものあり。一般に此の区域に於ては肉眼上顕微鏡上斑晶質のもの多く。

一の萱谷（五無斎曰く上州）に於けるものに比して尚熔岩に近づける岩株多く露出するもの〻如し。石基は微晶質にして富士岩中の或るものに於けるものと異ならず。ウラル石の存することは一の萱区域のものより広く見はる。

信州区域　第三紀層及ひ大古代層を貫く岩脈として顕はれ、田口峠の西の道（五無斎曰く以上南佐久）田口峠の西の道に三個所に於て第三紀層を貫いて接触変質を傍岩に起せり。特に第三紀凝灰岩は甚だしく変質せられ堅硬なる岩石となれり。而して道傍に露出する輝緑岩々脈は小にして最大なるものも幅二十間許りにして特別の地貌をつくらず、岩石は暗灰色より淡緑色にして大なるウラル石好く露れ多くは晶状又は粒状の粗なる石基僅少を含む。余地峠には其西側に只僅かに第三紀層を貫き露出するに過ぎず。然るに第三紀凝灰岩は峠の東側に至る迄広く、甚しき変質作用を蒙れり。之れ尚ほ地表に現出せざる尚大なる岩脈によりて起されしものならんと思はる。又大日向村字平河原に於ては、河岸に余地峠の輝緑岩と同じく全く閃緑岩状の岩石大古代岩を貫き玻璃質粗鬆の富士岩熔岩流に蔽はる。此両所の小露出の岩石には輝石を見ることなしと雖も角閃石はウラル石に属するものなれば、予は是れを以て荒船火山地方の諸々に出づる確かなる輝緑岩と同類のものと考へ輝緑岩の条下に記載せり。（震災予防調査会報告書第十九号荒船火山地質調査報文抄録）

三　輝緑岩　本岩は岩脈となりて信濃上伊那郡高遠附近の片麻岩・雲母剣岩層中に迸出し、暗緑色緻密の岩にして其分解せるものは抄岩に類肖す。鏡下に検すれば正象の長石並に斜長石と他象の輝石中に封ぜられ、且つ総て此等の鉱物は分解して長石は濁色甚しく、輝石は多く緑泥質物となれり。（震災調査会報告第二〇号八ヶ岳火山地質調査報文抄録）

本岩の吾人の御国に産するもの以上の三ケ所に過ぎず。元来本岩は古生代に於て其噴出盛んなりしと見へ、其火山灰は輝緑凝灰岩と称へ、南佐久郡の海尻及び大日向赤石山脈の所々信飛国境山脈の所々に堆積しありと雖も其何れの地方より来たりたるものか素より詳かならず。右の三ケ所のうち下高井郡のものは中生代のものらしく、荒船火山附近のものは荒船火山噴火孔底なる上州一の萱附近のものと同一なれば近生代中第三紀のものなるべし、又高遠町附近のものは

始原代の岩石を貫ぬき居れども其時代明かならず恐らくは中生代のあるものならんや。

㈢ 脈岩（其二）

(2) 安緑岩

本岩は一方に於ては深造岩たる石英閃緑岩に類し、他の一方に於ては火山岩たる富士岩即ち安山岩に似たる岩石にして、県下和田峠西麓発電所附近並びに南佐久郡大日向及ひ田口両村の所々に小岩脈を為して現はる。而して理学士佐川栄次郎氏は其荒船火山地質調査報文に於て、ウラル石輝緑岩とせられたる由は前段既に抄録したる所なり。然れども農商務省技師山下伝吉氏は其上田図幅地質説明書に於て石英閃緑岩とせられ、理学士山崎直方氏は安緑岩と命名せられたる不思議なる岩石なれば煩を厭はず以上の二書を抄録せん。佐川氏の説に就ては前段ウラル石輝緑岩の条下を参考せられたし。

一　石英閃緑岩は石英斜長石角閃石及磁鉄鉱より成り、其組織粗粒なるあり細粒なるありて一定せず。特に其一部は往々微晶質の石基を有して玢岩に移変す。（中略）或は輝石を多量に含有せり。田口村に産するもの〻如きは、（五無斎曰く同地山の神の辺は最も採集に便なり）其量顕著にして角閃石石英の二種極めて尠く輝緑玢岩に移遷す。下略。（上田図幅地質説明書四二頁抄録）

二　安緑岩 Andendiorite 本岩は多く岩脈をなして千曲以東の地に顕はれ、大古紀層及第三紀層を貫いて迸発し、其固有の岩石に変質を及ぼせり。緑色堅硬なる岩石にして該地方に好露出をなせる石英閃緑岩に類し、兼て富士岩に類肖する点あり。鏡下実験に徴するに石英閃緑岩とは其観を異にするところありて斑状構造をなし、其石基は大抵粒状全晶質にして、其石基を造れる粒晶の粗大なるものは漸次閃緑岩に遷移するの性あり。其結晶をなせる成分は斜長石及苦鉄硅酸塩なり。後者は多くは分解して緑泥石及緑簾石をつくり、普く岩石中に散在すれ共又其新鮮なるものも亦存在し、

主として緑色角閃石にして、時に輝石を交へ、田ノ口峠に噴出するものは殊に其良好なる結晶の存在せるを目撃せり。石英粒之れに交り此の他磁鉄鉱・硫鉄鉱を有し又分解物としては、リウコクシンの存在せるものあり、長石の含有物には磁鉄鉱及燐灰石の結晶あり。本岩は従来閃緑岩の岩脈として農商務省出版地質図中に登載せられたるものなるも予は姑くステツネル氏に従ひ之れを安緑岩となさんと欲す。（震災予防調査会報告書第二〇号三三頁抄録）之れに依りて是れを見れば、以上三氏が三様の命名を下されたるにも拘はらず悉く同一の岩石なること疑ひなし、以て其岩石学なるものが如何に六ヶ敷ものなるかを了解せられたる事ならん。

㈢ 火成岩の復説

火成岩は地殻の裂罅に沿ふて地球内部より迸出し来りたる至熱至灼の熔液体が地球表面若しくは表面近き地殻中に於て冷却しつゝ凝固したるものにして、深造岩・噴出岩及び脈岩の三種あり。今読者の便をはかり之れを表示すれば次の如し。

併し是れは吾人の村国に産するものゝみに就て記載したるものと知るべし。

㈣ 晶質剣岩類及び其特性

本岩は最古の地層に発見せらるゝ岩石にして、一方に於ては其成分全く結晶質の鉱物粒より成り火成岩たるが如き観を呈すと雖も

火成岩
- 深造岩
  - 花崗岩
  - 閃緑岩
  - 斑励岩又飛白岩
- 噴出岩
  - 流紋岩（石英斑岩）
  - 玢岩
  - 富士岩又安山岩
  - 玄武岩
  - 玻璃質火山岩
  - 松脂岩真珠岩黒曜岩浮岩等
- 脈岩
  - 輝緑岩
  - 安緑岩

一方に於ては判然たる層理を有し、或る一方に剝げ易く以て明らかに水成岩たるの徴あり、故に本岩は火成岩に非らず甚だ不明なる岩石と云ふべし晶質（火成岩的）剝岩（水成岩的）Cryotalline なる名称を設くるに至りたるなり。

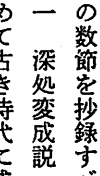
晶質剝岩類を分つて二となす片麻岩及び剝岩又片岩是れなり。

晶質剝岩類
- 片麻岩
- 剝岩又片岩

上伊那郡には花崗岩質片麻岩と云ふものあり、石英雲母及長石より成る。而して是等の鉱物は皆一列に排列して一方に向て剝け易きの性質あり、初学者にあつては如何にも間違ひ易く十中八九は花崗岩と見誤るを通常とす。今之れを図示すれば次の如し。

○ △ □	石 雲 長	○及石は石英の結晶
○ △ □	石 雲 長	△及雲は雲母の結晶
○ △ □	石 雲 長	□及長は長石の結晶

又諏訪郡より御所平峠を越へ頂上より少しく上伊那の下りたる道の右方の小丘に至らば、緑黒岩色の岩石を見ん。是れ即輝岩又輝石剝岩と称するものにして主に輝石粒より成ると雖も石英及斜長石等をも混ずることあり。本岩は秩父古成層の最下部に位するものなり。今又五無斎流に之れを図示すれば次の如し。



輝 輝 輝
輝 石 輝
輝 長 輝

▲及び輝は輝石の結晶
○及び石は石英の結晶
□及び長は長石の結晶

㈣ 晶質剝岩の成因

前段に於て論じたるが如く本岩は地球最古の地層に発せらるゝ岩石にして、其成分全く結晶質の鉱物より成り、火成岩に類似すと雖も亦一方に於ては判然たる層理を有し、明かに水成岩たることを証するものあり、故に其現今の外観は最初の状態と異り必ずや其成生後或る変動力の作用を受けて其性質を変化したるものならざるべからず、故に又本岩類を変性岩と称するなり。而して其成生の原因に関しては学者の説く処一様ならず、今理学士山崎直方氏著岩石学教科書中の数節を抄録すべし。是れ五無斎とても別に書き様もなければなり。

一　深処変成説　此の説によれば、晶質剝岩は他の成層岩と同じく水底に沈積して成れるものなれども其地質学上極めて古き時代に成りたるを以て深く地層の下に位し、従つて其上部の地層より加はる莫大の圧力と地球内部に於ける高温度との為めに其成分溶解して再び凝結し組織一変して結晶質を帯ぶるに至ると云ふに在り。

二　地構変成説　此の説によれば晶質剝岩は地体構造の動変力によりて成れるものとし、地球収縮して地殻に皺襞を生ずるときは造山力爰に起り、其強大なる圧力の「エネルギー」は変じて熱となり岩石成分の化学的分解を起し、其再ひ凝結するときは岩石に結晶質組織を与ふるに至ると云ふにあり。

三　水力変成説　此の説は水を以て其尤も主要なる原因となし、地中を循環する水は種々の鉱物質を含有するを以て是等鉱泉は地下に於ける温泉と圧力の幇助とによりて能く其化学的作用を遑うし、岩石の性質を変化せしむるに至る

と云ふにあり。此他尚ほ晶質剣岩を以て変成岩とせず其結晶を帯べるは最初其成分の沈積するに際し既に結晶形を具有せしによるものなりと称する一派の学者あれども此説は今日に於て一般に非認せらるゝ処にして其最も信を措くに足るべきものは、一・二の両説にして「ハットン」「ライエル」「コッタ」等の学者は皆之れに左担せり。是れを要するに高圧と高温とを以て変成岩の成生に付て重要なる営力たるを是認することに於ては、上の三説孰れも皆符節を合するが如く相一致するを見るなり。変成岩の地殻を構造する状態は他の成層岩と異ることなし。唯其最古の時代に成れるを以て今日迄に既に少なからざる変動を受け岩層の乱曲之れを他の新層に比すれば一層甚しきものあり、又其最古の成層なるを以て地下の深所に埋蔵すべきものなるに係はらず其地表に露出するものあるは地表皺曲の為め若しくは浸蝕によりて上層の洗ひ去られたるによるなり。又此岩石より成れる山岳は既に久しく消磨の作用を受けたるを以て巍峨たる峻峰を造れるもの多からざるを見るなり。（同書二五―二六頁抄録）

高温の為めに古生代粘板岩の晶質剣岩たる雲母剣岩に変じたる例は、駒ケ岳東西北三面の山麓にあり。高圧の為めに古生代礫岩が有斑点石墨剣岩様となりたるものが御所平頂上附近にあるよしは既に水成岩の条下に論じたるところにして、本岩の好露出ある上下伊那の東辺に連亘する赤石山脈の西麓の地、諏訪横川谷奥和田峠の上り口及神宮寺附近及信飛国境山脈中の所々に小露出ありて何れも高峰を造らず丘陵若しくは河底の地に現はる。其岩石標本の皺襞あるものを得るには横川谷を最も便なりとす。

㈤ 片麻岩類

本岩は花崗岩と其成分鉱物を等しくし石英雲母及長石より成る。而して其花崗岩と異なるは唯其組織の粒状なると剣状なるとによることなり。即ち花崗岩は粒状組織を有し本岩は剣状を呈す。其組織及成分は鉱物の差異により花崗岩にも種々の変種あるが如く、本岩にも亦多数の種類ありと雖も本県下に産するは次ぎの三種なるべし。故に他は茲に記載

せす。

一　花崗質片麻岩　火成岩中の花崗岩に相当するものにして天竜川の左右に現はる。

二　角閃花崗質片麻岩　火成岩中の角閃花崗岩に相当するものにして天竜川の左岸丘陵一帯地方に現はる。

三　鹿塩片麻岩　火成岩中の花崗斑岩に相当するものにして天竜川左岸丘陵地の東部に現はる。

本岩は上下伊那両郡のみに産し、其他の地方には見当らず。其花崗岩に酷似するより同地方の人と雖も皆花崗岩と混じ居るなり。高遠町鉾持機道のもの〻如きは、五無斎程度の地質学者と雖も弁明に苦しむ程なり。然れども一と度鉄槌にて打ち割りて試みば直ちに其然らざるを知るなり。是れ其一方に向つて剝け易き方向あるによることなり。今採集者の便をはかり山崎直方氏の震災予防調査会報告書中の一節を抄録すべし。

古層に属する岩石は鹿塩片麻岩・花崗質片麻岩・雲母剝岩其主要なるものにして、此鹿塩片麻岩なるものは此地方特有の岩石にして暗緑色堅実緻密時に板状を呈し、白色粒状の長石を散点し鏡下に検すれば角閃石・石英・正長石・斜長石を認むべし。本層は余り厚からずして層軸北十度東にして東方に傾くこと八十度なり。角閃花崗質片麻岩は是とは異なりて粗粒塊状をなし、角閃石黒雲母・石英長石より成り、其大塊に就いては剝状石理の見らるへきものあり、此二者は整合に相重なり細き帯状をなし、釜無山脈（全体に称すれば赤石山脈）中の一縦谷に沿ひ、信濃伊那郡高遠町の東方に当り長く南北の方向に延亘し、断層によりて境せられて晶質剝岩類と相接合す。東高遠町の東二キロメートル許りの処なる非持川の三峰川に注ぐ所に於て能く之れを認むるを得べし。此二者は純然たる片麻岩にして「ローレンシアン系」に属し、最古の地層を構成し鹿塩片麻岩は其最も底部に位するなり。（同報告書二三頁抄録）

㈡　剝岩類

(1)　雲母剝岩

雲母剣岩は雲母並に石英の集合して剣状組織を呈する岩石なり。雲母は通常淡色なる加里雲母なることあり、稀には曹達雲母なることあり、副成分としては柘榴石（上伊那高遠町附近のもの）其他種々の宝石類を含むよしなり。本岩の露出するもの前記片麻岩と互層して天竜川の両岸にあり。

雲母剣岩の黒雲母並に石英長石の細粒より成り剣状組織顕著なり。黒色或は暗紫褐色にして時に石英の量著しく増加するときは白色硅岩の観を呈することあり。東高遠町の対岸（五無斎曰く東高遠町の対岸に白山あり、是恩師高橋白山先生の号の因て起る処）に露出するもの〻如し。本岩中には長石石英の巨晶若しくは其聚晶は剣状層理の間に介在して所謂眼状組織を呈するものあり、本岩は花崗状片麻岩と交錯して露出することあり、西高遠町の西なる鉾持峠道に於て現るが如し。本層は前者と反対に傾斜して其西部に露はれ、其層位は前者に比して新しく岩石学上の性質より想ふに竹貫系に属するものならん。（五無斎曰く三峰川と藤沢川との会流点なる弁天岩の小なる方採集に便なり。（震災予防調査会報告書第二〇号）

雲母剣岩中には純正雲母剣岩の外絹雲母剣岩と称するものあり、緑色岩若しくは暗緑色時に銀白色の片状を為せる岩石にして絹雲母を有するものなり。上下伊那地方に露はる。

(2) 緑泥剣岩

本岩は鱗状若しくは片状をなせる軟質緑色の緑泥石片集合して成れる岩石にして、屢々石英を伴ひ長石も亦之れに加はることあり、又種々の副成分を伴ふことあれども略す。

(3) 石墨剣岩

本岩は黒色の岩石にして前者に酷似す。其黒色なるは石墨を多量に含有するの故なり。

以上記載せし絹雲母剣岩・緑泥剣岩及石墨剣岩の三種は赤石山脈の西側及諏訪郡の所々に顕はるる岩石にして北信地方に於ては其一塊だも得ること能はす。信飛国境山脈中には其小露出あれども採集に便ならす。今山崎理学士の調査書中の一節を抄録せん。

新層は即ち三波川系に属する結晶剣岩にして片麻岩層を被りて釜無山脈の西半を構成し、太古紀層によりて覆はれ、其主要なる岩石は絹雲母剣岩・石墨剣岩・緑泥剣岩等にして他の地方に於て屢々見処の紅簾剣岩は更に之れを見ず。全体の層軸北十度東なるも北方に赴くに従ひ更に東に偏するの傾あり、傾斜一ならずして数多の背斜向斜をなす。今雲母剣岩上に立てる高遠町を発し、漸時東北に向ひ釜無山脈を横断せんに、藤沢川縦谷に沿ひ弥岡に至り川を東に越ゆれば岩質一変して角閃花崗質片麻岩顕はれ、板山峠を上るに及び其麓に於て初めて結晶剣岩を露出するに会す。其鹿塩片麻岩との間なる断層は前の非持川涯に於て目撃せしか如くに分明ならず。晶質剣岩の始めて現はれしものは淡色絹雲母剣岩にして、即ち三波川系の最下層に位するものなり。其層湾曲甚しく峠の中腹に於ては東方に傾くこと五十度なるを認むるを得たり。頂上に近づくに従ひ該系中部に位する黒色石墨剣岩出て、頂上に於ては緑泥剣岩露はれ、爰に恰かも向斜層をなし、之れより東北に進むに従ひ此等の諸層反覆皺曲して御所平峠の半腹以上に及び、其最上部には緑泥剣岩露はれ、遂に大古紀層の覆ふ所となり、此三波川層を貫いて蛇紋岩の迸出するものあり、御所峠の西腹にあるもの其露出殊に著し。

本岩層は釜無山の北端に於て火山岩の為めに（五無斎曰く、守屋火山覆ふところとなるも尚其山脈連続して諏訪湖の北に至り、横河川谿谷の奥より和田峠西麓の方向に小局部の露出をなし、石墨剣岩・緑泥剣岩相互層し之れを貫きて黄色堅硬なる蛇紋岩の迸出するものあるを目撃せり。（同書二二乃至二四頁抄録）

(4) 輝岩

輝岩は細粒質粒状の組織を有し、淡緑色若しくは暗緑色にして外観は緑泥剣岩に類するところあり、殆ど其全部は輝石より成り、時に石英斜長石若しくは磁鉄鉱緑泥石を有することあり。此の岩石は片麻岩及剣岩の層中に交りて産するを常とす。本邦に於ては剣岩類より成れる三波川層を被覆して古生代の最下部を為し、上野国甘楽郡御荷鉾山に於て厚層をなして露出するより特に御荷鉾層と称す。（県下に於ては赤石山脈及び其連嶺の頂上附近、五無斎曰く御所平峠頂上より上伊那郡へ下ること大凡五六町の辺最も採集に便なり）及南佐久大日向村東山に小露出あり。

㈥ 晶質剣岩類の復説

本岩は結晶質にして剣状を呈し火成岩とも付かず水成岩にも非ざる成因不明なる一種の岩石にして、地球最古の地層を為し片麻岩類及び剣岩類より成る。今県下に産するものを表示すれば次の如し。

- 晶質剣岩類
  - 片麻岩類
    - 鹿塩片麻岩
    - 花崗質片麻岩
    - 角閃花崗質片麻岩
  - 剣岩類
    - 雲母剣岩
    - 絹雲母剣岩
    - 緑泥剣岩
    - 輝岩又輝石剣岩

以上数十回に亘り論じたるところによりて信州地質学の殆んど三分の二を書き終りたり。尚稿を続くることとせば地質学の本部とも言ふべき地史論を為し、火山論に入らば読者諸君の満足を得可きこと五無斎の深く信ずるところなりと雖も近時悪声日々に予が鼓膜を襲ふものありか、曰く「近頃は面倒になりたり宜しく通俗滑稽の四字を削除すべし」と。然れども図画を挿まず地図を用ゐず標本の助けなくして岩石論地史論などを素人分りのするやうに記載するは難事中の難事たり。故に暫く茲に擱筆して他日標本の配付せられ地質図の出版せらるるを待つて再び掲載することあらん。是れ社員諸君の罪に非ず、全く五無斎の罪九分九厘を占むる事なれば看官諸君幸に宥恕を垂れ賜はむ事を。

明治三十六年四月　　五無斎保科百助

（信濃教育会所蔵　信濃毎日新聞　明治三六、一、九～同、四、一六まで連載したるものを転載）

題通俗滑稽信州地質学の歌

一首并短歌　　五無斎

ゴムサイの　地質を見れば　一二割　法螺は用捨を　シん聞と　先づ説き起し　会津公　親類などと　吹き飛ばし
何処の馬の　骨ならん　夫は兎も角も　最初こそ　通俗ならめ　表題は　滑稽なれど　中頃は　無下に六かし　七つ屋
の　七面倒に　なり行きて　石屋の親仁　ゴツ〳〵と　何が何やら　分りかね　坑夫のせがれ　人の腰　千の〇をば
せびらんと　広告めいた　書き様に　読者は百が　一に減り　又読む人もあらざらん　報告さては　説明書　抜き書き
多く　お手前の　得意の狂歌　いつしかに　種も尽きけん　滑稽も　滑稽ならず　通俗も　通俗ならず　そのかみの
勇気はうせて　筆しぶり　竜の頭に　蛇の尾の　長たらしくも　詮はなし　人の迷惑　余所に見て　始めは脱兎　終り
処女　恥づかしとてか　地史論を　省けるなどは　見苦しし　ゆめ世の人よ　五無斎の　ゴムサイ真似を　ゆめなせそ、
ゆるして保科　百助が　額を地に　下ぐるざま　何に譬へん　二タ目とは　見られたものに　あらぬなり　お詫は何と
言はん術　為んすべしらに　なぐり書き　書き出す見れば　偖は歌かも

反歌　其一

後悔は先に立たねど言訳を　後に言ふのもトンダゴムサイ

同　其二

地史論は何れ其うち書き足さん　ゆるしてホシナ用捨シん州

（信教所蔵　信毎明治三六、四、一七より転載）

明治四十一年十一月三日創刊第三種郵便物認可
明治四十三年三月九日発行信濃公論第七十一号附録
信濃公論社長兼小使五無斎保科百助著

二 岩石礦物 新案教授法 全

一名 Nigirigin 式教授法 第一編

凡例六則

一 信州の名を聞いて直ちに癩に障るといふものあらん。然れども凡そ一府県として各地層を悉く具備すること我長野県の如きはなし。九州にては熊本、中国筋にては山口、本州にては愛知、岐阜、富山、石川諸県の如き亦其一県のみにて殆んど完全に近き標本を採集し得可し。然り而して大分、愛媛、奈良、群馬、埼玉、茨城、宮城の諸県又之に次ぎ稍完全に近きものを採集し得んか。若し地方標本なるものを必要とするならば是等の諸県は附近に於ける各府県岩石鉱物標本の中心たる可きを信ず。然れども尚ほ其詳細を知らんと欲せば請ふ日本地質図を繙け。凡そ五世界に家なきの五無斎豈お国自慢のみを主張せん哉。

二 蠶(こ)等は二十余年間一日の如く教育学教授法などを繙きたることなし。故に本書の如きは全く保科五無斎が脳産物にして一に之れを Nigirigin 式教授法といふ。Nigirigin 式教授法の完成は近く数年の後にあらん。然り而して本教授

法完成の暁ともならば日本、支那、朝鮮を始めとして世界の教授法は一大変革を来さん。

三　人生パン問題程に急なるは無く金銭程に必要なる物なし。𠮟等四十二年の非を覚り大に金儲け主義となりたり。金儲け主義より割り出したるの教授法豈多少の創見なからん哉。乃ち𠮟等は本年度以降諸種の標本類を調製販売して一方金銭を儲くると同時に他の一方に於ては教育の普及発展を企図するものなり。

四　偖件の目的を達せんが為に𠮟等は満一ケ年の予定を以つて日本全国商工業並に教育の視察を実行するものなり。

五　本書を総ふり仮名つきとしたるは敢へて教育者諸君を小馬鹿にしたるに非ず。教育者以外村長も村会議員も亦学務委員も将た又其他一般の父兄もこれを通読せば子弟教育の方を知り諸種の便益あるべきを信じたればなり。

六　𠮟等が五無斎と号するを見て直ちに六無斎子平を聯想するもの多数なるやうなり。然れども彼子平は昼夜寒暑の区別無く四六時中常に泣癖あるの痴呆漢なり。戦勝国の男児豈か泣言を言ふの必要あらん哉。吾等幼時（十二才）父に別れ少時（十九才）母を失ふ。

放光院天岳津機居士　俗名　保科丈左衛門賢隆

霊位

●●●
●●●
●●●

宝光院天嶺妙機大姉　俗名　赤沼たか子

財産は釜の下の灰までも舎兄なる頑々堂に横領せられ素より一文の貯へなし。一と度他家を嗣がんかとも思ひたれども余り馬鹿々々しければとて大礼を挙ぐるの前数日破約せり。素より妻なき身なれば子孫の有らう筈なし。

五無斎が。入ふと聞いて。お不二さん。出迎するか。綿帽子して。

又子孫などありては却つて迷惑なり。二世皇帝が始皇に及ばざりしは遠き古代に於ける支那歴史上の事実なれども文吉或は伊藤某に及ばざらん。吾に信濃公論なる機関新聞もあることなれば版木なしと愚痴るにも及ばず。只財政は稍不如意なれども早晩は物にもならん。大隈某が百歳の上に二十五の瘤を出したるは彼が案外に慾の深きと懸け値ある人物なるを証し得て余りあり。然れども昔の予言者即ち蠡等の両親は明治元年六月八日、日出つる時生れたる蠡等が能く百歳の寿を保ち明治一〇一年六月八日、日没る時を以つて目出度往生安楽国たるべきを予想して名づくるに百を以つてし給へり。然れども其以前に於て死したりとて勿論不平なし。

我死なば、佐久の山部へ、送る可し。焼いてなりとも、生までなりとも。

遊つ久りと。娑婆に暮して、偖お出で。わしは一と足、チョットお先へ。

など辞世の歌も遺言の歌も数年前既に間に合ひ居るなり。只※某所にて草鞋を買ふに一厘不足なりければ値引せよと懸け合ひたるに主の老媼マケナシエと頑張るを見て可笑さに堪えずして

おあしなし。草鞋なしには。歩けなし。おまけなしとは。おなさけもなし。

と詠みたるまでなり。

又或る時は。

我国で。二人男を。見立つれば。保科五無斎。佐久間象山。などと詠みたることもあり。

然れども蠡等は遂に

国の為め。君の為めとて。尽す身は。何のはじかる。事かあるべき。

の趣意を忘るゝこと能はざるものなり。呵々。

明治四十三年正月　東京本郷の木賃ホテルに於て

五無斎保科百助　謹んで誌す

*（註某所とは諏訪郡瀬沢）

信州産　岩石礦物標本

- 岩石
  - 変成岩　十八種
  - 水成岩　三十種
  - 火成岩　三十五種
- 礦物
  - 元素　一種
  - 酸化物　三種
  - 鹵石物　七種（＊註　硫化物）
  - 酸塩物　一種
  - 燃焼物　二十一種

外に古器物　一種

信州産岩石礦物　新案教授法　始り

信濃公論社長兼小使　五無斎保科百助述

五無斎保科百助は長野県北佐久郡横鳥村一農夫の子なり。少時誤つて師範学校に入り明治二十四年三月を以て辛ふじて其業を卒へ県下各小学校を漂泊するもの其数正さに六。而かも其成績は何時も甚だ不良なり。明治三十四年の三月夫の人の子を賊ふの甚だしきを恥ぢ断然自ら其の職を辞し満二ケ年間信州の山河を跋渉し其得たる礦物岩石の標本は之を県下の諸学校其他に寄附し演説講話に将た新聞に専ら斯学の普及を勉めたるもの茲に十年。而かも其成績甚だ不良なるが上に飲み過ぎの結果として黒内障即ちソコヒに罹はるゝに至りたり。独身者の五無斎稍憂色あり。乃ち友人武田重蔵、同兼輔、柳沢太郎兵衛、斎藤祥三郎の四氏と謀り再度長野県に産する岩石礦物採集の挙を企て三月十日を以つて信濃公論第十九号を地学標本号となし之を県下の諸学校並に全国各中等程度の諸学校に配付し四月五日を以つて長野市を発し十月一日を以つて目出度帰長せり。其間費す所の日数正に百八十日。稍辛酸を嘗めつゝ蒐集し得たる標本の数は僅

々百二十種七万二千の少数なれども之を諸学校に配付せば又以つて斯学の普及に資することもあらんか。乃ち神保博士の手を経て第一高等学校助教授和田八重造先生に嘱して之れが説明書を作製し更に陸軍教授理学士滝本鐙三先生に托して極めて簡短なる地質図を添ふる事とせり。既に標本あり。説明書あり。又地質図あり。故に又々教授法なかるべからず。是れ本文一篇を草する所以なり。実際教授に携はりたること無きもの凡そ十年。教授法などを繙きたること無きもの二十年。其論議する所ろ独断に流るゝこと勿論にして今日の教授細目などには絶えて適合せざる事を知るべし。覧者諒焉。

人が万物の霊なりや否やは暫く措き其の自身以外の動植物を食ふて生活するは事実なり。然り而して彼等動植物が棲息するは地球の表面なり。地球表面の外皮を研究するの学之を地質礦物の学となす。

此頃長野県上水内郡吉田小学校長、荒木茂平君来られ小学校の教科書中動植物と地質礦物に関する記事の分量を取り調べたるに動物に対しては九分の一に当り植物に対しては正さに拾分の一なりといふ。五無斎敢へて之等の書を繙きたることは無けれども蓋し或は然らん。十分の一とは情けなし。切めては其二分の一位に進めたきものなり。

偖斯学の知識が斯迄普及せざりし原因は勿論様々なるべしと雖も以下之を詳説せん。

日本国民の斯学に対する知識は極めて僅少なり。即ち彼等が岩石礦物の分類表は岩、石、砂、泥又土の五類となすに過ぎざれば小学生徒等が登校以前の知識即ち既得観念も亦此五つに過ぎざるなり。然れども往々角石六方石糞石等の名称を知るものあり。

然り而うして之等生徒を教授する学校先生方の斯学に対する知識はと考ふるに五十種以上の名称を知るものは暁天の星の夫の如し。ダイヤモンドの名称、産地、形状、性質、価格、効用、等の講釈は頗る長々しけれども岩、石、礫、砂、泥、等五分類の外には其知れる所ろ水晶と硫黄とのみなり。黄鉄礦、黄銅礦を黄金と誤り六方石と水晶の同一なることを知らざるが普通なり。即ち是れ小学校生徒と同様斯学に対する既得観念なきなり。既得観念なきの教師を以つて既得観念なきの生徒を教ふ。之れ孔夫子が所謂夫の人の子を賊ふものに非ずして何ぞや。

然り而して師範学校中学校教員諸氏が斯学に対する知識亦伯仲の間に非ずとするも学問の実地といふ事は稍忽諸に附せられつゝ有るもの〻如し。

世上斯学研究の学者はありながら教授法研究の教育者はありながら上帝国大学を始めとして下小学校に至るまで各教授細目が限定せられざることも亦其一原因たる可し。五無斎熟々小学校に於ける教授の実況を見るに各学科共帝国大学少くとも高等師範学校又如何に少く見積るとも中学校師範学校の程度と大差なきもの〻如し。只其の題目の数が少きのみ。学問上の順序と分類とを疎外して時間空間の関係に重きを置き面白可笑しく学海を游泳するのみ。譬へば菜の花が咲きたり蝶々が来たり。蝶々は是れ害虫なり。蚜虫も亦害虫なり。謹んで之を駆除せざる可らず。之を駆除するには石油乳剤を以てす。石油乳剤の製法は何々。石油は是れ礦物なり。而かも燃焼類に属す。燃焼とは是れ酸素と他の元素とが化び合くことなり。酸素の製造法云々。酸素は窒素と混合して空気となり水素と化合して大洋の水となる。など教授するが如し。

往昔地誌の教授法に旅行体といふものあり。五無斎コを評して弥次喜多的地誌教授法としたることありたり。弥次郎兵衛喜多八尚ほ膝栗毛に御す。コハ之れ空中飛行器に乗りたる世界否宇宙漫遊なり。宇宙漫遊的理科教授面白きことは即ち面白からん。然れども的確なる知識を収得せざることは蓋し疑なし。

高等師範学校に於ける博物学科中動物学に就ては岩川教授久しく教鞭を執られ丘博士其後を嗣はれ植物に関しては矢田部博士に次ぐに斉田博士を以つてしたるに反して斯学に関しては化学専攻の学士等専ら教授を担任せられたること即ち代用教員たりしことも亦斯学普及の妨害を為したることならん。其後脇水、佐藤、山崎等専門学者の御尽瘁あるも素と是れ既得観念なき児童が小学を卒業して中学校、師範学校に於ても亦実地に遠き諸教諭方より短時日の間に教授を受け比較的とは言ひながら既得観念なきの身を以つて入学したることなれば三四年の短時日に於て充分斯学の蘊奥を究むること能はざるは猶ほ栄養欠乏の結果胃腸の消化力迄が減殺されたる病余の人が滋養分多き牛乳や雞卵を多量に貪食したると一般ならん。

茲に於てか五無斎は先決問題として小学校に於ける斯学の普及を謀り教授細目を限定せんと欲するものなり。現今の如く銅の題目にて教授するに当り銅の鉱石、産地、製法、性質、用途、合金、の種類、分量や世界の産額、までをも教授するの非を訴ふるものなり。銅の礦石の各種を知り銅の標本を知れば足れり。只々是丈けにて足れり。明治二十年式の製煉法などは工科大学採礦冶金科に於ける教授細目なり。明治四十三年式製煉法の如きは稍学術上の素養あるものに非れば之を領解すること能はず。合金の如きは実際工業に従事するもの〻承知し置く可きことなり。小学校生徒等の敢て関する所に非ずと主張するものなり。ヘルバルトが五段教授法中の応用段は斯くも甚だしく教授の形式を誤らしむるに至りたるか。

然らば五無斎よ汝が教授の方法如何と問ふものあらん。茲に於てか蠡等は二千年の古代支那に御誕生ありたる孔夫子が語を以つてするものなり。論語という書に多〻識〻二鳥獣草木之名一ことあり。支那にては本草の二字を以て動、植、礦、の意を含まするが慣例なり。故に蠡等も亦此鳥獣草木の四字を以つて本草の学即ち博物学全体を意味するなりと解釈せんと欲す。更には礦物岩石与二人工物一の八字を草木の下、之の字の上に挿入せば弥々以て妙珍ならん。希代の豪傑が比較的不完全なる時代に於て比較的不完全なる語学を以つて言い顕されたる格言は其後各時代に於ける比較的完全なる語に飜訳註解することが普通なり。今日以後或は是以上の訳註あるやも亦未だ知る可らざるなり。

偖此名の字の意味甚だ深長なり。名のみ識すと言ふとも辞書の文字言語を暗誦し坊主が経文を捧読し転読するの類には非るなり。名称を記するが為めには併せて其実物の形状、色沢をも知らざる可らず。又其性質、効用の一般をも了せざる可らず。只教師が余りに力瘤を入れて之を教授せざるにあり。往々之を教授したりとて妄りに之を試験問題とせざるにあり。教師の教場に於ける一時間の授業は若し速記者をして一々之を筆記せしめたらんには五号活字にて新聞紙一頁大の分量あり。新聞紙一頁大はこれ普通四六版の教科書としては正さに是れ十頁なり。十頁の教科書を一時間に教授して貰ひ学期末に至り成る可く生徒の心附かぬやうなる部分のみを択みて試験されては溜つたものに非ず。其落第点なるべきや素より疑なし。教師諸君とても素より之を知り給はん、若し正当に試験し正当に採点したらんには及落の境界

点以上なるは蓋し暁天の星ならん。此を以つて試験問題は何時も半ばは意地の悪ろき誰も気のつかぬ様なるものに又誰にも出来るやうなるものを混ずるが普通なり。斯くしても尚ほ採点に際しては片言交りに稍意味の有りげなる文字あるが故に何点又何物も書いて無きが故に零点とか採点することなり。教授の不調法なる人程採点の折には何時も苦心することなり。之れ将た教育の本趣旨ならんや。吾等が見る処を以つてすれば左程試験問題に斟酌を加へず採点に際しても左程に苦心せず恰も算術の答案の如くに五十点は五十点、百点は百点と明瞭に採点し得べきものたるべきを信ずるなり。不調法なる教師にして校長さては郡視学に対して見栄坊を飾るが為めに日頃要もなき事柄を無暗に独演し置きたるが雲を捉むやうにて何を覚え置きて善きやら又試験の時には何を書いて善きやら稍能力の低きものには甚しく迷惑を感ずると同時に教師側に於ても亦試験と採点に際しては何時も苦心惨憺たるなり。始めより此事をば記憶すべし、此事は何れにも善し試験問題は必ず此中より出すべし、と予告し置きたりとて一向差支なからん。試験期日の如き予め通知し置きたりとて何等の故障あることなし。

多識ヶ鳥獣草木鉱物岩石及人工物之名ヲとは是吾等が教授細目の根本原理なり。既に名の字に就ての説明は済みたることなれば今回は多の字の意味を限定せんと欲す。二は一よりも多けれども十よりは少し。百も多なれば千亦多なり。然れども万よりは多ならず。故に蠡等は茲に多の字の意味を以て二千と限定せんと欲す其内訳左の如し。

動物の名称、五〇〇。　　植物の名称、五〇〇。
鉱物岩石の名称、五〇〇。　　人工物の名称、五〇〇
合計四類　二〇〇〇也。

偖斯く計上したらんには今日の教育者或は一驚を喫せらるゝことならん。然れどもこれ頗る甚だ六かしきことには非るなり。小学校時代はこれ記憶時代なり。推理時代には非るなり。満六才小学校に入学したる許りの生徒に就て試験せよ。入学当時既に二百位の名詞を知り居るに非ずや。満十四五歳迄の満八九ケ年に於て之を十倍するに何の難きことがあらん。現今の如き教育法に於ては児童心理の原則を知らず徒らに物理、化学の如き将た忠君、愛国の如き孝、悌、

忠、信の如き抽象的の議論を敢へてし説法を為すが故に教場内に於ては忙殺さるゝよりは寧ろ閑殺さるゝなり。否閑殺さるゝには非ず。何となく忙しきやうなる心地はすれども脳の消化力に適せざるが故に少しも精神の滋養とはならぬなり。恰も是生れたる許りの赤ん坊が菜つ葉汁にて茶漬飯を喰ひたると一般ならんか。脳味噌の器能たる胃腸の夫とは頗る趣きを異にし仮令如何なる不消化物を喰ひたりとて直ちに脳味噌加答爾を起すものに非ざる代りには若し適当なる食料即ち知識を供したらんには頗る甚だ非常に大なる発達を遂ぐるものなり。現に轟等が小学校長たりし時代に於ては尋常科四年間に於て二千の文字を記憶せしめたるに非ずや。高等小学校卒業迄の満八ヶ年に於ける文字の数幾何なりしか今忘れたども其数蓋し三千の上に出てたらん。轟等が小学校時代に於ては史記の列伝や世家を独学する迄に進みたり。然り而して轟等の能力は中の下、寧ろ下の下に属す。更に旧幕時代に於ては現今の小学時代の生徒に向つて四書、五経、文選、唐詩選を課したるに非ずや。其文字数の如き蓋し二三万の上に出でたらん。是れ将た何等の意味なき坊主が経文を誦じ辞書の文字の片端より暗んずるの類なり。然れども尚ほ形に顕れたる捉へ所ありたるが故に記憶時代なる彼等には兎も角も記憶し得られたるなり。更に轟等は最も的確なる酷評を試みんか。推理時代にもあらぬ小学生徒に向つて屁理屈の百曼蛇羅を繰り返すはお饒舌り好きなる躁狂者の饒舌り立つる事柄を一々記憶し置く可し、而も不意に定期の試験を実行すべければ予め其心せよ。若し答案の書けぬこともあらば落第の宣告鞭を反さずと厳命を下すに異ならず。教師は是れ躁狂者の一種にして生徒は是れ躁狂者の看護人なり。躁狂者の看護豈容易の業ならん哉。宜なるかな其教師を見る恰も蛇蝎の如くなるを。

明治の初年に至るまで子供等が我儘気随の言動を制せんとするに当つて父兄は化物が来るぞ、神仏の罰を蒙るぞと言ひたるものを明治十五六年以後に至りては、巡査に告発くるぞと喝し更に近年に至りては、学校の先生に密告くるぞと変り行きたり。神仏に比せらるゝこと光栄身に余るやうなれども化物の代用品にては情けなし。轟等は明治三十四年に教職を辞し斯業に携はらぬもの凡そ十年。其間或は石屋姿と変り或は筆屋姿と化り居たるものをさへ呼び起して、先生に言ひつくるぞ、是でも学校の先生だぞと引張り出さるゝが普通なり。轟等は是れ物品の代用品たるなり。恐

縮此上もなし。斯く神聖なる学校先生を以つて化物の代用品となしたるの理由果して如何。勿論前段陳述したるが如く躁狂者の一種として下らぬ事の百曼蛇羅を繰り返し置き稍遺忘したる頃を見計らひ試験と号して紙筆を交附し少しく間違あれば遠慮なく点を減き去り或は及第、落第、或は優等、劣等、百点に盛るもあれば十点宛に仕切るもあり。甲、乙、丙、丁、美、善、良、可、不可、なと珍妙なる等差を附するもあり。及第したるは嬉しけれども落第は有りがたからず。優等となりたるは祝すべけれども劣等と来ては泣き出したくもなるなり。父兄には兎も角も世間体亦甚だ悪し。即ち学校先生はこれ化物以上の可怖者たるなり。

然らば教育は遂に廃すべきか。曰く否。蠡等は益々其普及発展を希望するものなり。試験法遂に止む可きものなるか。曰く否。蠡等は日毎々々に毎時々々之を励行せんことを希ふものなり。曰く然らばコレ当さに如何すべき。蠡等答へて曰ん。生徒を聴衆としての学術講演廃すべし、生徒の前に躁狂者となることなかれ、試験を以て賞罰意を含ますることなかれ、更に私恩私怨を樹つるの具と為すこと勿れと言はんと欲するなりと。

然らば諸君或は問はん。五無の教授法と試験法とは果し如何と。蠡等答へて言はん。

一　児童心理の原則により物理、化学其他天体に関する議論を避け成可く動物植物岩石礦物物産等博物地理の諸学科に重きを置く可し。

物理化学其他天体に関する諸学科は諸種の高価なる器械薬品の類を要するに反して博物地理の学科に於ては標本の購入を要す。器械薬品は稍高価なれども標本の類は稍廉価なり。

器械薬品の助力によつて当座稍理屈の分りたるが如き感はあれども直ちに忘却するが理化学の常なれども標本によつて博物地理の学科を学び置かば比較的此弊稍少し。

二　漫遊的理科教授は断然廃すべきことなり。凡そ人為にて附けたる面白可笑き関係は面白可笑しければ面白可笑し

き程後に至りて遺忘し易きものなり。是れ只時間空間上の関係なればなり。故に先づ動物、植物、岩石、鉱物、と三様三回に教ふ可し。三回の文字意味あり。岩石と鉱物とは往々類を同ふすと考へらるゝが故なり。岩石と鉱物との関係は実に動物を分つて有脊無脊となし植物を分つて顕花隠花となす位の区別として教ふ可し。

動物植物の教授法に就ても亦意見なきにしもあらざれども以下岩石鉱物の教授法を説かん。

三　岩石鉱物中先づ岩石より始む可し。岩石中先つ水成岩より始む可し。然れども此項尚研究中なれば各位の研究と示教を要望するや切なり。

四　水成岩の講釈を長々とするは禁物なり。只水成岩とは山林、原野等の陸地より流れ下りて海中若くは湖底に沈澱したる礫、砂、及び泥の凝固りたるものゝ総称なり。礫、砂の凝りたるを礫岩又は砂岩と称へ、泥の固りたるもの之を粘板岩又頁岩といふ。時としては生物の遺骸より成る石灰岩の如きあり。又植物より成る石炭類の如きもあるなり。古きものを古生大統の水成岩と言ひ、次を中生大統の水成岩と称し、最も新しきを近世大統の水成岩と呼ぶ。畑の中にある砂礫や田の中の游泥は是れ其最も最も新しきものなり、古きの文字意味深長なり。凡そ数億年を意味す、今古きものより標本を示せば先づ以つて水成岩とは如何なるものかとの概念を得可きなり。論語といふ書に多く鳥獣草木の名を識すとあれば其名称を記憶す可し。然れども名称のみにては甚だ曲もなければ其文字をも併せて之を記憶すべし。但し試験答案などは仮名にても苦しからず。時代、成因、成分、用途、産地、など記憶するに及ばず。殊に産地に至つては大学生の事、小学校生徒等の敢へて関する所に非るなり。明日直ちに裸標本を廻して名種のみの試験を実行すべし。答案の正しく書けたるものが及第にして然らざるものが落第なり。及第したりとて断然名誉には非れども落第は如何にしても不名誉なり。など洒落の一つ位は言ふも苦しからず。文章に書いて見れば甚だ長けれども此間約三分間なり。

五　次に教師は水成岩の所在地を浅黄色にて印刷したる極めて簡単なる地質図を生徒二人に一葉づつ配布すべし。産地など無論覚ゆる必要は無けれども自分の生長し生活しつゝある郡市町村が現在見つゝある岩石より成るか将た成らぬか位を識別するが為めに必要なり。尤も如何に簡単なる地質図なりとて古生、中生、及び近生、等三様の区別丈ケは必要なり。斯く地質図の色合ひとボール箱の色合とを同一となしたるは是等の地名を容易く発見するに便せんが為めなり

六　次に教師は浅黄色のボール箱に入れたる水成岩の全部を生徒二人に一種づつを交附し両人づつの研究と巡覧とに一任して又一語を発す可からず。標本は必ず同一のものたる可からず。即ち生徒中の或るものは古生大統秩父古生層の最下部たる輝岩を見つつあるに又或る他の生徒等は近世大統中第三系の頁岩を見つゝあるが如し。

従来の教授法に於て教師は或る一種の標本を持参して講釈のみを仔細らしく長々と独演し後に至りて之を巡覧せしむ。標本を見て居る生徒は善けれども其然らざるものは頗る手持無沙汰なり。茲に於てか耳語し争闘す。故に教師中の稍不親切なるものは手品師の如く教師台の上にて之を指示し、其稍親切なるものは駈け足にて教場内を持ち廻りて之を通覧せしむ。之を手品教授持ち廻り教授と称ふるなり。手品も持廻りも素より其効を奏すべきに非ざるなり。茲に於てか掛図を以つて一時一様に之を説明せんと欲するものを翌するに至りたり。利に敏き錦絵師等が層一層妙なるものをつくり販売員を出して盛んに之を強売す。之を掛図式教授法といふ。掛図の物たる遠きものには善からも近きものには滑稽なり。蒼蠅の掛図は鷲か鳶の絵を見るやうなり。

五無斎由来悪口雑言を書くに長じ大分議論が横道へ外れたるやうなり。ついて本街道を辿らん。之を要するに数十人の生徒に対して一二の標本を示すは害のみありて益なし。掛図も亦思ふ程の効を奏せず。茲に於てか親切なる教師は標本を生徒の数丈ケ若くは在級生徒数の四分の一乃至二分の一の標本を得たしと理想す。然れども之れ理想に非ずして空想なり。仮りに小学校にて五百の岩石鉱物標本を生徒に覚えしめんとすれば生徒数六十人として三万なり。三万の標本は

石油の箱入として正に百五十箱なり。万事につけて物臭き小学校教師豈能く百五十箱の標本を教場の内外に運搬し整理し得ん哉。

故に五無斎新案教授法に於ては標本を示すに当り稍同一の性質を共有する異種類の標本を生徒二人に一つ宛を与へて之を研究し且つ巡覧せしむ。生徒二人づつを一ト組としたるは三人集れば文珠の智恵との原理を応用したるなり。文珠菩薩程の智恵は要なし。是れ生徒の研究組合を両人づつとしたる所以なり。

斯くの如く二人づつの研究組合を設けて彼等の研究と巡覧とに一任し置き教師は殆んど袖手傍観の地位に立ちて児童のみを活動せしむるが故に之を Nigirigiri 式教授法とは称するなり。

七　斯くの如くにして Nigirigiri 式教授法と称すと雖も生徒より質問のありたる折教師は一々之に答弁するの義務あるものとす。然れども若し其質問にして大学生でもしそうなる問題なるときは夫は非常に六かしきことなり、帝国大学などにて研究すべき問題なり、教師さへも善くは知らずなど親切に又正直に白状すべし。斯く親切に又正直に白状せば追求的の質問などは絶えて起らざる可く真実斯学に興味（インタレスト）を起したる生徒は帝国大学の地質鉱物学科若くは採鉱冶金科等へ入学することゝなる可し。

茲に所謂興味とは漫遊的理科教授に伴ふ可き面白味可笑味には非ずと知る可し。

八　斯の如く Nigirigiri 式によれる岩石、鉱物の教授に於て使用すべき標本は総ふり仮字にて名称、時代、成因、成分、用途、産地、等を記入し置くを要す。実に従来の教授法の如く標本を視つゝあれば講釈を聞き洩（もら）し講釈を聴きつゝあれば標本を見損じ試験の際には馬車馬の如く周章狼狽即ち泡を喰べ虻も捕らねば蜂も獲らぬなり。之を虻蜂式教授法といふ。Nigirigiri 式教授法は之れ虻蜂式教授法に鑑みて発明したる新法にして少しく鹿爪らしく言はゞ標本即ち教科書、又標本即ち教師の原理より胚胎し一に之を五無式教授法といふ。

九　斯の如くにして二日目ともならば裸体標本を巡覧せしめて直ちに答案に徴すべし。巡覧中は極めて静粛を要し之を石盤に書する際の如きは極めて厳重なる監督を要す。答案を書き終らば答案の正否を挙手にて自身報告せしむ可し。挙手中隣生をして之を監督し検定せしむることも亦必要なり。

即ち前日の学友は是れ試験官たるなり。生徒一人別の試験表などは之を調製するの必要なし。只々前日の教授が幾何の効果ありしかを試験して之を後日の教授に資せんとするのみ。故に試験し終らば全生徒の数を以つて今答案を誤りたる生徒の数を除し落第何パーセント及第何パーセントと報告すべし。譬へば一学級の生徒数六十にして答案を誤りたる生徒の数三十なるときは及落第共に五十パーセント宛なり。及第五十パーセントは敢へて祝すべき価値なけれども落第五十パーセントは頗る甚だ大に憂ふ可しなど報告して彼等の反省を促す可し。此間約五分間を要す。

十　五十パーセントの落第頗る甚だ大に憂ふ可しと報告したる後は再び水成岩の標本を巡覧し研究せしめて更に水成岩の新教授を開始す可し。此際水成岩を巡覧し研究せしむるは是れヘルバルト派が五段教授法中の予備段に相当するなり。其故如何となれば水成岩の観念なくして盤空に火成岩のみを理解し記憶すること能はざればなり。斯くて試験と前日の復習と本日の予備の為めに凡そ二十分間を要し時間の稍短縮し居れば火成岩全部を示すことは殆んど不可能ならん。故に本時間に於ては生徒四人に一種づつの標本を交附し偖水成岩の板状層理あることなど説明し火成岩の成因と特徴たる結晶質なることなどを講説し総ふり仮名説明つき火成岩の標本を巡覧し研究せしむること水成岩の場合と少しも異ることなし。地質図ボール箱は都べて赤に着色し説明中に使用する白墨は赤を用ふ可し。五色白墨の濫用は小学校一般の通弊にして経済上は兎も角も教育上の害毒頗る甚だ憂ふ可し。

十一　第三日目には裸体（はだか）標本にて水成岩と火成岩との試験を挙行すべし。水成岩の方は七十五パーセントの及第者を出し火成岩の方は五十パーセントの落第者を出さん。此間約十分間を要す。偖試験し終らば水成岩全部と火成岩一部の復習を為し更に火成岩残余の部を巡覧研究せしむ可し。此際教師は水成岩の板状層理あること火成岩の結晶質なること

等を簡単に説明するも妨げなし。

十二　第四日目には水成岩、火成岩全部のうちに就き試験すべし。名称の外水成、火成の別などを試験するも又一興ならん。水成岩の方は僅々十五パーセントの落第者なるべきに火成岩の方は七十パーセントの及第者を出さん。此間約十分間なり。茲に於てか始めて変成岩を教授すべきの順序に達したるなり。即ち教師は其時代と成因を説明し其片状組織なるは水成岩に似其結晶質なるは火成岩に肖る所以を知らしむべし。地質図とボール箱とが瑠璃色なることも亦五色白墨の紫色なるの理由も滝気には自覚するに至らん。

十三　五日目の日程次の如し。水成、火成及び変成諸岩のうちに就き各一種宛の試験を実行すべし。水成岩は九十五パーセントなるに変成岩は僅に六十パーセントの及第者を出さん。此間約十分間なり。

十四　斯く変成岩の教授に於てのみ始めて六十パーセントの好成績なるは偶々以て児童が岩石の学に趣味を持ち始めたるもの又水成火成の諸岩石を学習したることが頓がて変成岩を学ばんが為めの準備となりたるを証するものに非ずして何ぞや。

十五　第六日目の授業は之を休止して岩石全体の総復習を為す可し。其総復習を為すに当つては

第一　大古大統の変成岩　　第二　古生大統の水成岩　　第三　中生大統の水成岩

第四　近世大統の水成岩　　第五　火成岩

の順序に拠る可し。近世大統中第四系洪積沖積両層の岩石は単に礫、砂、泥、に過ぎずして標本につくるも馬鹿々々しければ普通標本中に加へざるが通例なり。故に児童眼界の及ぶ範囲内に於て何々の地にある懸崖は是れ洪積層地たる

なり。何々の畑も田も之れ沖積層地なりなど教ふ可し。斯くすれば凡そ地殻構造の大体を了解する上に於て多大の効験あらん。

又地殻構造の大体を一眸のうちに示さんと欲せば大古、古生、中生、及び近生諸大統中の各代表標本を一列に積み重ね生成の順序を示すも亦妙ならん。更に之を横倒しと為し地質図の読み方などを説明せば愈々以つて珍ならん。

火成岩の時代といふことも亦児童に説き示さば愈々以つて珍妙ならんかなれどもこは地質学者と雖も容易に明言し得ざる所なれば小学校などにては無論の事、中学に於てさへも容易に明言し得ざる所なり。然れども稍古しとは思はるゝものより新しきものに及ぶ可し。

斯くの如くせば変成、水成、火成、諸岩石の関係は略ぼ領解するに至らんか。即ち大古大統の変成岩や古生中生両大統の水成岩ある地方には花崗岩、石英斑岩、蛇紋岩、飛白岩、及び輝緑岩、等を伴ひ近世大統の火成岩ある地方には必ず流紋岩、玢岩、玄武岩及び富士岩等の噴出ある事等の稍高尚なる地学上の推論に達するに至らんか。

偖(さて)燾(かれ)等は満九年間実際教授の任に当らず近頃の理科教授細目などを絶えて見たる事は無けれども火成岩、水成岩などの数文字が散見するに過ぎざらん。然れども六々標本をば示さずして水成岩、火成岩等抽象の文字を領解し記憶することは非常に困難ならん。白馬、馬に非ずと称し単に白馬のみを見たる人には確実に馬といふ観念は得ぬ由なり。馬はこれ簡単なる観念なれども水成岩、火成岩は之れ頗る複雑なる概念なればなり。

数年前長野県の学務課にて全県下の小学校生徒に対して自分の学校の敷石は之れ水成岩なりや、火成岩なりや、との試験問題を出だされたることありたり。燾(かれ)等さへも斯る問題に対しては転た迷惑を感ずることなり。少くとも鉄槌一挺無くては叶はぬ事なり。数百の生徒に鉄槌一挺宛を与えなば校舎は直ちに転覆せん。転覆すること尚ほ忍ぶ可し。斯る難問題を出し置きて善い加減なもの書きたるに対して採点の方法如何。且つ上下伊那及び西筑摩一部の生徒は何と書きたらば善からん。若し正しく変成岩と書かば其答は正当なるにも拘らず正しくこれ落第点たるなり。学務の役人すら尚ほ変成岩あることを知らずと見えたり。五無斎斯学の普及を謀るもの茲に二十年。戯に於て悲しい哉。五無斎茲に於て

か明言す。長野県の学務課員先づ五無等が調りたる標本を購入すべしと。故に又長野県学務課員に内訓す。県下五百七十の諸学校に訓令して悉く五無等が製りたる標本を買はしむ可しと。

曩きに信州産岩石鉱物標本の校閲を経、説明書を著り貰はんが為めに第一高等学校助教授和田八重造先生を訪問したるに先生は頻りに小学校生徒にも土壌の事をば知らしめたしと主張せられたることありたり。俗神道家の経文に天地の神と同根なり、又同体なりといふことあり。吾人は之れ米穀蔬菜を食ふて生長し生活す。米穀蔬菜は之れ土壌の変形物なれば即ち同根同体たるなり。岩石全体の総復習に次ぐに土壌標本を備へ置き此間に於て土壌論の為め一二時間を費すも可なからんかなれども今確乎たる定見なし。定見無しといふ所以のものは近生大統の洪積、沖積両層を講ずる序で又火山灰地方に於ては富士岩を示し火山の爆発談など余興教授を為すに当りて此土壌論を為すも亦妨げざればなり。斯く横道へ外れての教授之れ漫遊的理科教授に陥りはせずや、五無の議論と若くは矛盾すること無きを得ん哉と難ぜらるゝ向もあらん。然れどもこれ少したりとも矛盾なきなり。其故如何となれば弥次郎兵衛喜多八が膝栗毛によれる東海道旅行に於てチョット富士登山を思ひ立ちたるものと見るを得可ければなり。尚ほ余興教授の事は後に之を評論すべし。偖愈々岩石の教授が終りたらば次ぎには鉱物の教授に及ぶ可し。以下之を条説せん。

一　鉱物教授に際しては先づ元素、硫化物、酸化物、鹵石物へ塩酸物、焼燃物の六大綱あることを教ふ可し。岩石に

岩石〈変成岩。水成岩。火成岩。

あることゝ鉱物に

鉱物〈元素。酸化物。塩酸物。　硫化物。鹵石物。燃焼物。

あることを了解し記憶せば先づ以つて児童の知識は長野県学務課の愚物よりも遙かに豊富なる知識を領得し得たるも

のと評し得可し。

曩に脇水理学士は其著新式鉱物学教科書に於て其成因によれる。

鉱物
- 1 原始鉱物
- 2 沈澱鉱物
- 3 金属鉱物
- 4 燃焼鉱物

なる分類を取られたることありたり。之れ或は一方ならん。然れども五無等は尚ほ前段成分によれる分類法を取らんとするものなり岩石教授に於て成因によれる分類法を採用したればとて此処に飽くまでも成因による分類法を採用するの必要なければなり。要は只成る可く類似点多くして記憶に便利なる分類法に従つて之を教授すれば足れり。記憶に便利なるとは人間の考へ様によつてチョット便利なりと考へたるが如き簡単なる人為分類法に非ずして成る可く自然分類法を採用せんと欲するものなり。成因によれるものと成分によれるものと何れも自然分類法によれるものなれば、飛行器に乗りて宇宙を漫遊するが如き漫遊教授に非れば、何れにても善し。又此二法を併用するも苦しからず即ち教授の際には成分の順序により総復習のときに至りて成因の関係によるも亦妙珍ならん。

二　偖此鉱物標本は成る可く母岩つきならば最も妙珍なり。即ち之によつて時々岩石の復習を為し得可ければなり。曩きに岩石標本中に成分鉱物を記入し置くを要すと言ひたるは岩石教授を以つて鉱物教授の予備と為さんと欲したるなり。岩石の教授が予備ならば鉱物の教授はこれ提示たるなり。予備の段たる岩石の教授に於ては必ずしも成分鉱物を覚ゆる必要なかりしも提示の段たる鉱物の教授に於ては是非共之を覚えしめざる可らず。然れども五無等は茲に明言す。岩石教授を以つて鉱物教授の予備となし又鉱物の教授を以つて岩石教授の予備と為すも苦しからず。是弥次郎兵衛喜多八は江戸より出でて京に上り又京より出でて江戸に下るも亦一向に差支へなければなり。

三　鉱物教授の遣り口を詳記せば諸君の為めには稍好都合ならんも五無等が為めには紙面が殖えて頗る損耗なり。故に

只茲には硫化物教授の一例を示さん。」

教師は黄色のボール箱に入れたる総ふり仮字説明つき硫化物の標本全部を生徒両人に一種づゝ配布すべし。ボール箱を黄色となしたるは人生第二に必要なる黄金色に因めるものと知る可し。次に岩石教授に際して用ひたる地質図を配付すべし。是れ母岩と鉱物との関係を稍明瞭に領解せしめんが為めなり。鉱物の成因を説明するにも亦必要ならん。地質図を離れての岩石鉱物教授は恰も之れ地図なきの地理書と一般なり。

偖愈々地質図と標本との配布終らば次の如く説明すべし。曰く。

硫化物とは硫黄と他の金とが化び合きて出来たものなり。故に之を火中に投ずれば硫黄臭を発すべし。此時教師は少し許りの硫黄末を煙草盆の火入に投ずべし。之れ硫黄臭なる文字を明瞭に領解せしめんが為めなると同時に硫化物鑑定の法を教ふるものなり。硫黄末にては何となく物足らぬ心地せらるれば附近に黄鉄鉱などある地方に於ては実験用として多量に採集し置く可し。又黄鉄鉱、方鉛鉱の如きものならんには其実物を購入したりとて高価なるものには非ず。此物より金属を分離し得可きことあり。又然らざることあり。然れども鉱石より金属を分離する方法の如きは何処やらに設立しある鉱山学校や各高等工業学校、各帝国大学に於ける採鉱冶金科の仕事に属し小学校生徒の宜しく関係すべき所には非るなり。然れども汝等深く斯学の蘊奥を究めデカク金を溜めんと欲せば之等の諸学校に入学す可し。鉱山学校や高等学校に於ては技手にひとしき技師を出し、帝国大学に於ては本物の技師を出す。汝等デモ技師たらんことを欲するか、抑々又然らざるかなど、酒漉の一節亦苦しからず。本邦の各地は兎も角も支那朝鮮等には未だ開掘せられざる地下の大富源もあることならん。戦捷国たる我帝国第二の国民たるもの豈ヤリボンたる可けん哉。然れども論語といふ書に多識ニ草木之名ヲとあるを五無斎先生一ト度び出でて多く鳥獣、草木、鉱物、岩石、及び人工物の名を識事と改正せられたれば鳥獣草、汝等謹んて其名称と実物とを記憶せざる可からず。多く鳥獣、草木、鉱物、岩石の名を識りたるもの之を多識の人といふ。以上三分間を要す。など説する外又一語を発すべからず。新聞雑誌を閲み宿直室に帰りて囲碁、将棋等に耽るも亦苦しからず。又復習の折には此物光り輝く故に其名称の上に輝の字若くは閃の字を冠らすことあり。又等軸

晶系とて菜の目を切りたるやうに結晶する故に方の字を冠することありなど、附け加るも亦苦しからず。尚実際鉱物教授に際しては岩石教授に関して記述したる所を参考せられんことを望む。

斯の如くにして岩石鉱物共に標本は必ず五回宛は之を巡覧し研究せしめざる可らず。五回宛も巡覧し研究して尚ほ之を記憶せざることもあらば之れ生徒の罪なり。教師の敢へて関する所に非るなり、一回も巡覧し研究せしめずして必ず之を記憶せよ、領解せよ、然り而して又答案を間違いなく書け、と命令するが如き無慈悲、無鉄砲、之より甚しきは無しと評せざるを得ず。

偖愈々生徒一人別に五回宛も標本を巡覧し研究せしむるとすれば標本は直ちに汚穢醜悪となりボール箱の如きは直ちに破損すべし。然らばこを防がんとするの方法如何。そは生徒の手を標本若くはボール箱に触れしめざるに在り。手を触れざらしむるの方法果して如何。鉄葉製の盆にコを盛るにあり。鉄葉盆の価格如何、曰はく一枚三銭内外なり。故に一学級の生徒数六十なるときは三十枚を要すれば合計九十銭也。尤岩石鉱物の総復習を為す時の如き、或は青年会、婦人会の折の如き全標本を同一時に示さんと欲せば百枚も其余も要する訳なり。或る人孔子に問ふて管仲倹なるかと言ひたるに官の事兼ねず焉んぞ倹を得んと仰せられたり。此の鉄葉盆の用たる単に岩石鉱物用のみに供すべからざるなり。他の標本を巡覧し研究せしむるが為めにも入用なり。其外婦人会、青年会、母姉懇話会等にて点心などを盛るにも便ならん。更に一歩を進めて之を極言すれば村内に於ける忘年会、新年宴会の折下物を載するの用に供しても善からん。

小学校の先生は標本を最も乱暴に取り扱ふ動物なり。中学校、師範学校の先生方は稍穏和の態度を示し、大学校の先生に至つては極めて細心なる注意を以つて之を取り扱ひ殆んど虎の其児を愛するが如し。蟉等が此所に於て深く鉄葉盆を称揚する所以のものは小学校時代より標本類を大切に取り扱ひ及ぼしては都べて公共物に対して敬意を表すべきことを教へんとはするなり。五無斎豈か無用の弁を弄せん哉。

以上記述せし処は主として小学校の五六年生徒に教授せんが為めなり。然れども其後高等小学校に進みたる後も一年に一回位宛は之を巡覧し研究し復習せしむることが必要なり。否高等小学校卒業の後も青年会、婦人会、若くは町村農

会等を利用して時々之を巡覧し研究し又総復習を為さしむること肝要なり。否否単に復習せしむるのみに留らず之を試験して如何に自分の教授が幾何の効果なりしかを考察し現在の生徒に教授するが為めの資料に供したらば善からん。実に現今の教授法は恰も底なき嚢に金銭物品を盛るが如し。之を底抜け教授法といふ。実に府抜け教授法はこれ教育者一般の通弊なり。

斯の如くにして小学校に五百の岩石鉱物の標本あらしめば悉く其名称と文字と其実物を了解せしむること実は何でもなし。五百といはゞ諸君或は一驚を喫せらるゝことならん。然れども片岩類のうちには黒雲母片岩、絹雲母片岩、緑泥片岩、石墨片岩、紅簾片岩、緑簾片岩、石英片岩、角閃片岩、等もありて名称も実物も互に近似の点あれば非常に覚え易きこと勿論なり。又黄鉄鉱のうちは六面体、八面体、五角十二面体等の結晶面を具ふるもあり。或は是等の聚形を為せるものあり。或は結晶面なき塊状なるもあれば只何となく岩石の割れ目を染めたるが如きもあり。又古代鉄砲玉の如きものあれは達磨形したるもあり。斯く同一鉱物にても諸種の形したるものを一種と勘定しての五百なれば五百は真の五百に非るなり。五百位の標本を記憶せしむること豈屁でもあらん哉。

ヘルバルト派の教育学者は頻りに応用々々といふ。応用はこれ〇問題なり。人生〇を得たしと欲するは飴ん棒を舐り饅麿薯を噛り始むる頃より其萌芽を認む可しと雖も真にコを溜めんと欲するは妻君を迎へ其子女を小学校に通はしむる様になりたる以後の事なり。孫の顔を見るに至りては殆んど其極点に達す。凡そ是等の欲望なきものに向つて応用論を喋々喃々すること頗る御門違ひと詳せざるを得ず。Ziller等が新案 Ziller 式教授法に於ては此応用論を採用せず。只々多く鳥獣、草木、岩石、鉱物、及び人工物の名称と文字とを記憶せしむるのみ。乃ち単に名称と文字とを記憶せしむるのみなりと雖も其応用の洪大無辺なる実に測度すべからざるものあらん哉。測度すべからざるものあらん哉の理由果して如何。曰はく真に五百の標本に就き其名称と文字と其実物とを記憶し居らば鉱物、地質、の学は言ふまでもなく普通の地誌も地文も苟も斯学に関係あるの条項は直ちに領解し得らる可く採鉱冶金の学も土壌論も将た土壌改良方法を記述したる新聞雑誌其他著書等を繙かば直ちにコを了解し得んこと屁を見るより明かなるの理なり。又他人の演説講話や座談を聞く

に当りても一向其意味のある所を聴取り得るの能力を具備す。乃ち之れ其応用の洪大無辺なるを証し得て余りあるなり。

斯くの如くにして森等は普通教育に於ける教授の目的を以つて他日児童が社会に立ちて新聞雑誌其他学者の著書を見、大家の演説講話や座談を聴聞するに当りて容易く其意味を了解するに適当なる能力養成準備也と言はんと欲す。試験答案を綺麗に書き優等なる成績を得、賞品として手帳一冊位を拝受せしむるのみが教授の目的ならん哉。

現今の教育者は国民教育の本義を忘れ自分に等しき小模型即ち簡単なる小学校教師に適当なる人物を養成せんと努力す。即ち他人の前にて演説講話しへボ文章一篇を草し之を新聞雑誌に投書するに適当なる人物を養成せんと欲す。茲に於てか小利口にして屁理屈好きなる小国民を製造し天下は甚だ太平無事なるを得ず。太平無事なるを得ざること尚ほ忍ぶ可し。手足の上下左右前後に敏活に動かぬには聊か閉口せざるを得ず。森等は口よりは寧ろ手の人を歓迎するものなり。勿論小学校教師の職たる栄職には相違なからんも五千万の同胞悉く小学校教師になられては溜つたものに非ず。自分に等しき簡単なる小学校教師の製造は是れ日本国民を賊するものなり。

斯く論じ去り論じ来れば諸君或は問はん。小学校教師の職たる単に説明つきの標本を生徒に与え自分は寧丸を握り囲碁将棋に耽り或は新聞雑誌を閲読しつゝあるも一向差支無しと言はゞ甚だ簡単なるやうにて学術の研究など絶えて要なきものなりやと。然れども之れ否々大に否なり。森等の知れる小学校教師中或る二三の人々は二十余年の古代に於ける師範学校の卒業生なるが読書好きなることは彼等の学校中一人として彼の右に出るものなし。殊に高等数学などコツコツとツ突き散すかと思へば文学の道にも暗からず。加之校長としてての手腕は中々以つて侮る可らざるものありて職員生徒等が渇仰の府となる。時としては郡市町村の政治上にまでも容喙するの奇を演ずることあり。アヽ恐ろしの人物にこそ。故に森等は一方 Zipingin 式教授法を主張すると同時に他の一方に於ては世の小学校教員諸君が益々学術、技芸其他百般の事件に関し甚深なる知識と抱負とあるやう希望するものなり。然らば何故に斯く甚深なる知識と抱負とを必要とするかといふに折々は生徒の前に立ちて若くは青年会、婦人会、又は母姉懇話会等の席上に於て理学、哲学に関する大講話、大演説を試みんが為めなり。殊に高尚なる学理を誰にも分るやう極めて平易に之を講説するにあり。森等不

幸にして夙とに演説上手の名を得たり。之を以つて諸方の演説講話に招かれたるもの啻に数百千回のみならざるなり。而かも聴衆は何時も老幼男女の区別なく有学無学は白黒の碁石混ぜなり。故に当初は頗る演説はし悪くかりしも其後は稍不都合なきを得る様に至りたり。実に現今の小学校教師は年が年中一日五時間宛の大講話大演説を為すの悪癖を有す。之れ法螺吹き心の発現とも称すべきものにして害のみありて益なし。而かも其言語は学問上の術語を用ひ分り切つたる事までも態ざと分らぬやう六かしく言ふが普通なり。然れども人誰か法螺吹心なからん哉。

此法螺吹心を満足せしめんが為めに輩等は茲に余興教授といふものを発明せり。いでコを記述せん。

余興教授とは読んで字の如く元水が独楽廻しや円朝が落し話の如く単に面白可笑ければ足れり。覚えて置きたりとて差支は無けれども記えぬも亦苦しからず。試験問題には決して出さぬを原則とす。只々教師は吹ける丈ケ吹く可し。時間の繰り替へなどを敢へてして二時間三時間ノベツ幕なしに遣つ付けるなど最も面白からん。譬えば養蚕業の如きは我国運の消長に関す。故に小学校教師たらんものは蚕体解剖、生理の如き、内外養蚕術、桑樹栽培の如きは言ふまでも無く、染織倩ては世界に於ける需要供給の関係より其日々々に於ける生糸相場の変動等に就ても最も明瞭なる知識を蓄へ置き之を講述すべし。斯くなりては最早理科教授の域を脱して学術研究上のインタレストを発起せしめんが為め又実業家としては如何に学問上の素養を必要とするかを知らしめんが為めの修身談となりたるなり。忠君愛国、孝悌忠信、を説くのみが所謂修身談の本領ならん哉。否忠君愛国、孝悌忠信はコレ修身談本部なり。学術講演の余興教授はコレ修身談の附属領たるなり。

更に岩石鉱物教授に於ける余興教授の一例を挙ぐれば天地創造に関して創世記や印度に伝はりたる成、住、壊、空、説より支那の大極説や日本の天地開闢説を談じ遂に霞雲星説などに及ぶも妙ならん。和田維四郎先生の宝玉誌及日本鉱物誌などを参考して宝玉談なども珍ならん。然り而して安東伊三次郎氏が鉱物界の現象は之れ座右欠く可らざるの好著なり。

以上列記したる所は主として小学校生徒に対しての教授法なれども以下少しく中等程度の学校教授に関する大要を説

かん。

一　中等程度の学校とても現今の場合に於ては最初の十時間位は小学校生徒に課するものと同様先づ以つて岩石鉱物の名称のみを記憶せしめざる可らず。之れ中学生とても水成岩火成岩の文字のみと六方石とを知るのみなればなり。然れども若し凡そ五百の標本を悉く憶え込みたる後は稍説明の詳密ならんことを要す。即ち名称、成因、成分、用途、産地の外に簡短なる特徴を記入しある説明書を要する也。然れどもコれ試験問題として生徒を苦しましめ教師自身も亦苦しまんとするが為めの科には非るなり。要は只一層生徒の観察眼を緻密ならしめ他日旅行に際して鉄槌一挺あらしめば略ぼ其地方の岩石は何々なりや、変成岩か、水成岩か将た火成岩か位を識別するの能力を附与すれば足れり。黄鉄鉱、黄銅鉱、を黄金と誤り粘板岩や石墨片岩を石炭と認むるやうにては頗る厄介なればなり。

二　中等程度の学校に於て示すべき鉱物岩石標本の数果して如何。之れ蠡等が大に言はんと欲する所にして諸君の頗る聞かんと欲せらるゝ所ならん。然れども今日の如き不全完全なる教授の形勢にては蠡等が希望するが如きことを今日直ちに実行することは勿論出来ぬ相談なれば、今後両三年間は小学校同様五百の標本を示す位にて偖満足せん。然れども小学校の卒業生が悉く五百の標本を知るに至らば更に二三百を増して七八百と為さんと欲す。然り而してヨリ以上は高等学校大学大学院の事、蠡等の敢へて容喙すべきに非るなり。

三　中等程度の学校に於て五六百乃至七八百の標本を記憶せしめたる後は学術的に又秩序的に地質、鉱物の学を講義するが必要なり。即ち地質鉱物の学とは如何なることを研究するものなりや。其六かしさの程度如何。又自分の目的とする学科に対しては抑々如何なる関係ありや。又無しや。又自分の脳力は善く斯学研究の資格ありや。又無しや若しありとすれば予め其準備として何々の学科を研究し置かねばならぬか等の諸問題を自決せしむるを必要とす。地質鉱物の学の

み然るに非ず、爾余の学科も亦皆然らざるなし。是れ中等程度の学校卒業は進んで更に高尚なる学術を研究すべきか、将た退いて父兄の業を嗣がんかを決定すべき肝要なる時期なればなり。

四　中等程度の学校に於て結晶に関する講義を為すべきか、将た然らざるか、とは極めて六かしき問題にして且つ学者、教育者中に異論ある所ならん。結晶の六かしきことは吾等の脳力にては迚も分らぬものと決心したることも有りたり。神保理学博士嘗つて吾等を評し奇石亭的骨董商的地質鉱物学者とせられたることあり。結晶を除いて鉱物学なしとは同博士の論ぜらるゝ所なり。然れども和田八重造先生は中等教育紙上明かに中等程度の学校に於ては結晶学を課すべからずとせられたり。蠡等熟々考ふるに結晶に六大晶系あること、結晶学を除いて鉱物学なきこと、結晶学を充分に研究せんと欲せば、高等数学の助力を仰がざる可らざること等を知らしむるが為めに一つ二つの例を撰んで実地に角度の測定などをして見せ高等数学を引張り出して彼等生徒の胆を冷かならしむるも亦一興ならん。是れ亦余興教授の一法とも見る可きものなり。

論語といふ書に子貢告朔の餼羊を去らんと欲して之を孔夫子に相談を懸けたることありし折夫子の答は中々振つたものなり。曰はく賜や爾は其羊を愛むの欲張心に出れども我等は由緒正しき儀式故に其精神は既に失せたれども猶ほ之を永遠に伝へんと欲すと。吾等は結晶学の六かしきを知る。然れども尚告朔の餼羊として幾分の結晶を教授せんと欲するものなり。然れども此稿尚ほ未定稿なり。

蠡等は中等程度の学校に奉職したることなく従つて経験甚だ乏しければ以上列記したる位にて擱筆し、更に中小学校に通じて一言する所あらんとす。

産地を教ふるの不可なるは前段既に記述したる所なれども尚ほ数言を縷陳せん。台湾の蕗と秋田のとは殆んど別物なるかの如き観あると同時に、甲州の松の木と信州のとは殆んど同一なり。然れども岩石鉱物に至つては其産地を異にするより或は同一産地なりと雖も僅々一二尺乃至一二寸を離れたるのみにて著しく其形状、性質を異にするかの観あるに

も拘らず支那、朝鮮僅ては欧羅巴のものも又亜米利加産とても余り甚しく相違するものには非ず。之を以つて日本の硫黄も将たヴェスヴィアスのも之を火中に投ずれば青焔を発して燃え硫黄臭を発し、日本の富士岩を見たる人には亜米利加の安山岩も略ぼ同一に見えん。之れ有機界に加ては気候風土の影響を受けて進化と退化とが昼夜寒暑の区別なく四六時中常に行はるゝに反して比較的之等の影響なければなり。斯くの如く産地を異にするより又同一産地にても僅々一二尺の距離を異にするより其性質形状等を異にする如き複雑なる寧ろ乱雑なる産地を一々記憶するが如きは小中学校生徒の能くする所に非るなり。勿論覚えても差支は無けれども然らざればとて大なる不都合なし。凡そ是等の事は脳力を費さしむるは頗る野暮の骨頂と言はざるを得ず。故に中小学校の生徒に対しては断然記憶するに及ばずと宣言するが善からん。乃ち宣言したればとて能力のよき生徒は之を記憶せんこと受合なり。

然れども変成岩を教ふるに当つては上下伊那の大部分と西筑摩、諏訪、安曇の一小部分即ち南信地方に露出すと雖も北信地方には絶えてなし。殊に蠶等が居住する長野地方に無しと覚ゆる位にて可ならん。又夫と同様に近生大統の水成岩を見つゝあるの際は是等岩石の露出は南信地方には少けれども北信地方殊に吾等の住める長野市附近は主もに此もののみと覚ゆる様示導の任に当る可し。尚更に一歩進むれば。

南信地方　太古大統、多。
　　古生大統、多。
　　中生大統、少々。
　　近生大統、少。

北信地方　太古大統、ゼロ。
　　古生大統、少。
　　中生大統、少々。
　　近生大統、多。

などの関係を知るに至り花崗岩の如き古火成岩の南信地方に多く、北信地方には僅かに痕跡を止むるのみなるに反して北信地方には富士岩の如き新火成岩が其大部分を占め、古火成岩は僅かに其痕跡を止むるのみなるの事実をも又併せて南信地方が古生、中生以前即ち先きに出来、北信地方が迥かに後れて中生以後に出来たるの事実をも自ら推測し得るに至るに至らんか。偖愈々斯くなりては児童も愈々地質図を読得るの程度に達したるなり。日本全国の地質図を見るも差支なきの域に達したるなり。即ち単に地質図を見たるのみにて何れの岩石が上になり居るか、又下か、噴出か、将た

溪成か、太古か、古生か、中生か、抑々近生か、等の諸問題が解決し得らるゝなり。日本の地質図を読得るに至らば世界の地質図を見ても亦善く之を了解ずるに至らん。即ち之れ五無斎程度の地質学者となりたるなり。乃ち産地を教ふるの必要なしと論ずればとて地質図の読み様は之を是非共教へざる可らず。兎角現今の教育者は他日参考書を繙かば直ちに分るやうなるものを強いて記憶せしめんと努力して真に学術研究の秘訣を教ふる事を為さず。口には応用々々と唱導しながら試験答案の外には融通の利かぬ生徒を養成して意気揚々として自得すること晏子の御者の夫の如し。甚だ慨む可しとなす。斯の如くにして尚更に一歩を進むれば岩石と鉱物の関係をも朧気には自ら発明するに至らん。即ち岩石、鉱物の教授は殆んど完全の域に達したるものなり。殆んどの意味果して如何。ソハ学問の実地といふことを欠くが為めなり。以上記述したる所のみにては机上の学問なり。室内研究なり。茲に於てか室外教授の必要起る。即ち修学旅行なるものは是非共実行せざる可らざるなり。然れども費用上の関係もあれば小学校教師方は先づ附近の山嶺へ登らるゝ可し。地質図一葉宛を各生徒に持たしめ置きて一々其地名を指示して地質図と地形との関係を教授すべし。之を双眼鏡的一名パノラマ式教授法といふ五無斎曾て下高井郡野沢温泉に浴し友人森繁吉君の名代を勤めたることあり。当時君は校長会へ出席中にて不在なれば又教員も欠員ありて厄介此上もなければ数日間校長代理を勤む可し。報酬はゼロなれども天ロ酉卒勝乎たる可しとの事なり。乃ち四日十二時間に岩石鉱物の大講演を為し、五日目には同地第一等の高山毛無火山に登り商等小学三四学年の生徒を頂上臥竜の形したる栗の樹二三本に分攀せしめ毛無火山泉と妙高火山脈等二国六郡に亘るの教授を実行し予ねて森大校長が準備し置かれたる○○○を○○し○○したることありたり。此時のみは稍愉快なる教授したる心地せられ陶もの然として下向したることありたり。今日尚ほ時々は此事を思ひ出して独り興に入ることもあるなり。

然れども是れ只小学校生徒の事なり、中等程度の学校に於てはパノラマ教授に次ぐに更に一定の地方を選び置きて弥次喜多式教授を実行せざる可らず。即ち修学旅行六かしく言はゞ学術実地指導の必要起るなり。学術実地指導地の資格は太古、古生、中生、近世、四大統を順序善く見得らるゝの地たらざる可らず。我信州地方にては上伊那郡高遠を発し

三峰川を溯り黒川、小黒川に沿ふて諏訪に出て富士火山脈の一部たる八ヶ岳火山脈を越え南佐久郡大日向村より十石峠を越え、上州下仁田附近に出で妙義の険を攀ぢ浅間登山に終るを善とす。其日程次の如し。

初日、高遠附近太古大統の片麻岩類を採集し三峰川、山室川、黒川沿岸を捜索り片岩類並びに秩父古生層の下部たる輝岩並に其中部たる輝緑凝灰岩、石灰岩等を採集して戸台一泊。此行程凡そ三里。

二日目、戸台発。黒川上流を溯り秩父古生層の中部に属する石灰岩、砂岩、粘板岩等を採集し、東駒ケ岳の中腹花崗岩の露出ある辺を視察して戸台に帰る此行程凡そ六里。

三日目、戸台発、小黒川に沿ふて溯り中生大統白悪系の礫岩、砂岩、頁岩等を採集し、殊に御所平峠附近にて白悪系の標準化石たる三角介（トリゴニヤ）を採集し白色硅岩、蛇紋岩、閃緑岩質飛白岩、石英玢岩等を採集し清水屋一泊。此行程凡そ三里。

四日目。清水屋を発し林道に沿ふて金沢峠に出で赤色硅岩、粘板岩等を採集し四賀村及び上諏訪附近にて角閃花崗岩及び板状節理を有する輝石富士岩等を採集し上諏訪温泉一泊。此行程凡そ七里。

五日目。上諏訪町を発し四賀、永明、玉川、湖東、泉野諸村を経、夏沢峠を越え本沢鉱泉泊。此日角閃富士岩、輝石富士岩、硫黄等を採集し火山内外部の構造を考察す。此行程凡八里。

六日目。本沢鉱泉発。途中火山の裾野にあり勝ちなる松原湖を視察し相木村附近に立ち寄り第三系植物の化石を採集し大日向村古屋泊り。此行程凡七里。

七日目。大日向村滞在。平河原鉄山に或は高橋に或は都沢に或は石堂に諸種の鉱物岩石等を採集し古屋泊。此行程凡そ三里。

八日目。大日向村を発し途中中生大統並に古生大統の岩石を採集し十石峠を越え上州神が原に至り中生大統侏羅系の化石岩石等を採集、下仁田泊り。此行程凡七里。

九日目。下仁田附近にて太古大統片岩系に属する而かも信州地方に無き紅簾片岩、緑簾片岩等を採集し妙義探勝を為

し横川停車場より汽車で軽井沢泊り。此行程凡五里。

本日汽車の時間に余裕あらば碓氷川畔に於て第三系に屬する化石類を採集す可し。

十日目。早朝軽井沢を発し浅間登山。諸種の輝石富士岩並に有名なる菫青石を採集し、活火山の現況等視察、蛇掘りの火口瀬を下り小諸町にて解散。目出度しゝゝゝゝ。

即ち斯くの如くにして高遠発五日目の大日向泊り迄の間に於て太古、古生、中生、近生と地質学の本に書いてあるやうに順序正しくコを実地に研究し更に大日向より下仁田迄の間に於て近生、中生、古生、太古といふ順序に逆さまにコを復習し、最後の一日を以つて模範的活火山の研究を為す。即ち是れ地質学、鉱物学の実地指導を受けたるなり。凡そ斯くの如くにして地質、鉱物の両学科に就ては中等程度の学校として申分なし。尚ほ本旅行に於て必要なる携行品は次の如し。

一　五無斎の如き稍実地に明るき案内人。
二　健全なる体格と脚。
三　鉄槌大小二挺。
四　走向及び傾斜を計る器械。
五　木綿若くは麻にてつくりたる嚢一個。
六　長径三寸、短径二寸五分深さ一寸の箱一個。コは標本採集の尺度なり。
七　信州並に群馬、埼玉二県の簡単なる地質図数葉。
八　自分の頭骸骨大に等しき握り飯三個宛。
九　氷砂糖一斤程。コは非常にお腹の空きたる時用ふ。
十　○○○好きなる人は更に○○一個

蠹等は既に教室の内外教授に就て論ずべきは略ぼ論じ尽したる積りなり。然れども諸君或は問はん蠹の議論頗る時弊

に適中し稍吾等の意を得たり。然れども鉱物岩石のみにて五百の標本を要すとせば、又動物植物及産物にて更に千五百の標本を要すとせば現今地方経済の能く堪ゆる所に非ずと。然れども彙等は答へて言はん。曰はく仰せ御尤もなり。凡そ現今の如き中小学校の設備にては殆んど不可能なり。之れ中小学校の設立に際しては校舎の新築と職員給とに大部分を差引かるゝが故に器械標本等を購入するの余裕無きが為めなる可し。否余裕なきが為めのみには非るなり。世の器械標本屋なるもの私利之れ営むの俗物なるが故に安価にして而かも適当なる器械標本を調製販売するもの一人もあることなきが為めなる可し。以下少しく器械標本屋の悪る口を叩かん。

今の器械標本屋なるものは万屋にして恰も之れ村落に於ける雑貨店の如し。器械もあれば標本もあり。器械のうちには物理、化学の外に楽器もあれば運動機具もあるなり。楽器のみにても三千五千の資本を卸ろさざる可らざらん。運動器具とても亦同じ事也。物理化学の器械薬品に至つては況んやに於てをやなり。標本製造費とても三万五万の資金を要すべきや素より論勿し。即ち数万乃至数百万の資金を要するや素より其処なり。資金を要すること尚ほ忍ぶ可し。切角大資本を下ろして製造し陳列し置きたる標本の売れ行き悪しきに至つては最早忍ぶ可らざるなり。殊に悪しき店員等にチョロマカさるゝに至つては最も勘忍がなり難しと見え高価販売の一新法を発明したるなり。高価販売の事たる豈各種学校の能く堪ふる所ならん哉。

凡そ今の器械標本屋なるものは能く器械標本を調製し販売するの能力を欠くと同時に私利之れ営まんとする我利々々一天張りの大俗物なり。之を以て十年二十年前々に比して少しも進境を見ざる代りには価の著しく増加したるを見る。器械標本製作の如き手際の稍善くなりたるはあらん。教育上の新巧案などは一もあるべき無し。彙等は寧ろ理学を応用したる否理学の名を冒したる高価なる玩弄品と言はんと欲するものなり。

標本屋の不忠実と来ては更に一驚を喫すべきものあり。金鉱なりとて金の這入つて居らぬものあり。三角介砂岩に三角介の居ぬもあり。符牒紙に一つのピリョウドを吝むが為め68だか89だか分らず。86は98と間違い易し。殊に同時同様に印刷したる目録若くは説明書なきが故に誤つて之等の目録を遺失するときは名称、産地等一切不明瞭となるなり。名

称産地なきの標本はコレ一文の価値なし。我長野県に於て此種の厄にかゝるもの十中七八なり。𤔲等常に目録調製の御下命を受く。」器械標本屋の悪る口は此位にて切り上げ教育者諸君に対する不平一二ケ条を申し上げん。

器械標本など実は甚だ廉価なるものなり。不廉なるは職員の俸給なり。部下に良教師を得るは校長学の第一義なり。然り而して時はコレ黄金なり。心理学の適用を誤り記憶力の旺盛なる小学若くは中学の下級生徒に向つて推理を要する学科を強ひ売りし五六年乃至八九年の日子を空費せしむること不廉の最も甚だしきものなり。孔夫子の如き地下に賊ニ夫人之子一。と復言せん。即ち𤔲等は前陳の如く博物地誌の学科に重きを置き、物理化学其他天体等に関する学科に軽きを置かんとするものなり。即ち吾等は器械類よりは標本類を多く購入せられ度しと勧告するものなり。然り而して𤔲等は二百円以内にて小学校の標本類を完美せしむるの巧案あり。然れども今や直ちにコを発表す可き時期に非ず。請ふ他日を期して五無式即ち伸縮自在なる各科大教授法を編著するに当つて之を詳説せん。

教科書の改正毎に其教科書に適当なる器械標本を購入せんと焦る心は教育社会一般の通弊にして愚の極点也。明治初年以来教科書の改正は実に夥しく殊に近来に至つては愈々其基しきを見る。利に敏き奸商等機逸すべからずとなし驟か造りの器械標本類を強売せんとす。三四年毎に新しき器械標本類を購入せんと欲すること豈容易の業ならん哉。故に器械標本類の完全なるものあらばドシ〳〵之を購入し丁寧に之を保存し置き教科書の改正毎に之に適応するやう順序排列を変更してコを使用すべきなり。

此頃神保理学博士群馬埼玉二県へ御出帳の序で吾等が標本整理の実況やら長野県に産する岩石鉱物化石等を御一覧の目的にて御来長ありたるの際、犀北館にてお目にかゝりたるに帝国大学の生徒さへも標本類を乱暴に取り扱い数日間彼等の為すが儘になし置かば直ちに滅茶苦茶にすと慨嘆せられたり。大学生などに此事ありや無しや𤔲之を知らず。然れども小学校の器械標本室に至つては実に言語同断なり。之れ何によつて然るか。曰はく同じやうなる先生方が数人乃至数十人お座しますが為めなり。生徒ならは大喝一声叱り飛ばすことも出来ん。如何に校長の勢力旺盛なるも部下の教師は子供を叱るやうに簡単には参らぬが為めなるべし。中小学の器械標本類が乱雑となり破損し易きの原因は押入の不足よ

り来る。吾等今より十年前郷里なる蓼科乙種農学校長を勤めたる折其新築に際し押入の数を十六にせんと言ひたるを新築委員諸氏の為めに其半数とせられたることありたり。其半数即ち八個の押入なりとて当初は至つて寂莫たるものなりしが五年六年と経ち十年と過ぎたる今日は稍狭隘を感ずるやうになり硝子戸の戸棚などがボッ〳〵出来始めたる様子なり。戸棚や張箪子程不経済なるは無し。故に校舎新築に際しては予じめ二三十年の後を見越し窓多く且つデカクして光線の供給充分なる一室をつくり押入を十五六乃至二三十、時としては五六十も造り置く可し。但し其内部を細かく仕切り置くは宜しからず。コレ如何に明敏なる頭脳と雖も能く二三十年の後を達観し得べからざればなり。偖其後に至り必要に応じてコを仕切り書類、書籍、器械、標本類を各部門に別ちて之を排列すれば順序整然たるものとならん。コレ独り中小学校のみには非るなり。商家の倉庫の如き亦然り。農家などにても箪子長持の類を多く造るは不経済此上もなし。故に予じめ押入を多分に造り置く可し。養蚕に際しても亦冠婚葬祭等来客の折も家の広さは二三倍のものと見えん。偖蠡(われ)等が言はんと欲する所は殆んど言ひ尽したり。此辺りにて蠡(われ)等が昨年調りたる信州産岩石鉱物標本の効能書をものせんか。実に今回の標本は神保博士の明言せられたるが如く完全に近き標本なり。完全に近きの文字稍説明を加ふるの必要あり。

一、吾等の調りたる信州産の岩石、鉱物の標本は以上の議論を悉く脳中に置きて凡そ一ケ年の日子と数千の資金を投じて吾等自身鉄槌を振ひたるものなり。

一、説明書は篤学の聞え高き第一高等学校助教授和田八重造先生の手に成り更に東京帝国大学教授理学博士、神保小虎先生の校閲を経たるものなり。

一、地質図は陸軍教授理学士滝本鐙三先生の手になりたるものなり。

一、憚りながら教授法は蠡(われ)等が十数年来苦辛惨憺の余りになりたるものなり。

一、標本の形は長さ三寸。短さ二寸五分。厚さ之に称ふ。即ち江戸村にて販売し居る七八十円の価値ある標本なり。

一、売価百二十種、一ト組、箱抜にて十円、外に荷造費一円なり。

以上は完全に関する効能書きなり。以下不完全なるの理由を明言せん。

一、産地を信州一国に限りたる為め岩石八十三種、鉱物三十六種、外に石器一種なれば日本全体としては岩石に於て二三十種、鉱物に於て八九十種の不足あること。然れどもコは数年の後を期して日本産の岩石鉱物を以つて之を補足せん。

一、地質学上各時代の化石五六十種を加へなば可からんも同一化石を五百も六百も採集せんことは又一々其名称を附せんことは殆んど不可能なり。蠢等不幸にしてコを補足せんの勇気なし。

一、田舎にて製造したる為め何となく不手際なり。

以上論じたる所は主もに長野県教育者諸君の為めに記述したるものなり。教育上の悪口雑言は是れ長野県の教育を視察したる眼光より来りたるものなり。県外の学校など一つも参観したることなく必竟は草の茎より天を見たるが如き管見、臆説たるに過ぎず。然れども草の茎にて大空を視察せは日中尚ほ星座を見ることあり。臆説変じて定理定論なることも有るなり。

偖今回の標本は長野県の各種学校を目的として調りたるものなれども尚ほ多少の残品あり。各府県の諸君幸ひに一ト組御購入ありてコを実験せられんことを望む。殊に全国の附属小学校主事以下訓導諸君に一言す。本標本一ト組と本教授法数十冊御買ひ上げありて数時間御実験の上職員会の折など逐条審議を遂げられ其結果を報告せられんことを吾等はコを信濃公論紙上に報告す可し。

他の府県にて本標本を以つて教授する場合には信州地質図に合して其府県の地質図を持たしむるにあり。農商務省出版の地質図を拡大したる掛図にても可なり。稍我田引水論なるやうなれども我長野県は支那山系と樺太山系との逢着点なるが上に富士火山脈のコを横貫するありて地質学上頗る興味多き地方なり。次に吾等は切望す各府県に於ける教育者諸君幸に各其地方地方の標本を採集せられ之を教育上に適用せられん事を。

一、私人若くは一学校としては勿論費用を要すること多からんも価は標本屋より購入するもの、四五分の一にて出来る

筈なれば府県税若しくは教育会の事業として経営せられんことを。都べて標本類は各府県各別々に調製すべきものなり。器械薬品の類は各府県の共同購入とすべきものなり。

と書き終り全編を通読すれは所謂管見臆説尚ほ忍ぶ可し。標本を御買ひ被下との広告文に過ぎざるに至つては自分ながら一種羞恥の感なきこと能はず。噫。あゝ。Ah!?

我法螺はかくとも尽きじ荒磯の　浜の真砂はかきつくすとも

明治四十三年正月二十六日　印刷
同　二十九日　発行

定価　十銭
郵税　二銭

著者兼発行人　天下の浮浪人　五無斎　保科　百助

発売所　長野市長門町三十四番地　信濃公論社

同　長野市問御所町五十番地　武田商会　電話　四三七

同　東京神田区裏神保町六番地　光風館書店　電話本局　二〇三九番　振替貯金口座三三七番

印刷所　東京市牛込区市ケ谷加賀町一丁目十三番地　株式会社　秀英舎第一工場

印刷者　東京市牛込区市ケ谷加賀町一丁目十二番地　天野耕一

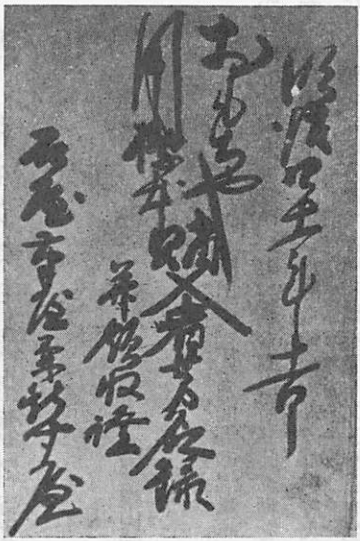
◎許　◎復　◎製

三　おもちや標本売り出し規則

第一条　一銭五厘の端書におもちや標本入用右申込むものなりと達筆に書き校印若くは、認印又は拇印を捺すべし。

第二条　本標本はボール箱入れとなり居れども保存上再び之を木の箱に容るゝの必要あれば、更に箱代金十二銭を添へられたし。箱は樅の柾にて造る。是は馬子にも装束の原理を応用したるなり。

第三条　手附金などは敢へて添ふるの必要なき様なれども五無斎甚だ究乏なれば、成る可く前金三円六十銭と外に小包料を添へて申込まれなば最も妙なり。七重八重、腰は折れども、山吹の黄金貸す人、無きぞ悲しき。



第四条　素人には売るか売らぬかなど照会する向き間々あれども、商売をするには誰彼の区別なし。新平民諸君にても王侯貴族にても売る可し、只之を以つて自分が充分研究して十二分知識を得られたるの後は、之を其土地の学校などに寄附する方最も賢明なる仕方といふ可し。然れども深くは干渉せず。

第五条　本標本の発送法と送金法とは、大日本政府逓信省制定の代金引替小包郵便の規則に準拠して之を行ふと雖も、最近距離たる長野市は五無斎の直配達となす筈なり。然れども上水内、更級埴科上下高井の一部分の諸君は幸便を以つて七十二銭を御持参ありて可なり。

（片桐銀次氏所蔵　信濃公論　第一四号より転載）

四　おもちや用鉱物標本説明

一八　玉髄　産地　（下高井郡箱山峠。母岩、輝石安山岩）

下高井郡中野温泉より渋田中安代角間等の温泉への近道に、箱山峠といふがあり。上高井一般に輝石安山岩のみなるが、此峠の頂上より稍二町許りも南に当り此鉱物を産す。偖此鉱物の成因は火山作用の今日よりも一層旺盛なりし折、安山岩の空隙中に沈澱したるものならん。都べて火山岩中には空隙多きものなり。又此空隙中には諸種の鉱物多きものなり。即ち或地方にては沸石類を産し又方解石を生ず。是は水晶と兄弟分なる玉髄が出来たるなり。水晶は六角の柱となりて産するに是は結晶の不完全なるもの又、不明瞭なるなり。若し此玉髄と水晶とが交ひ互ひに沈澱するときは碼瑙となるなり。交ひ互ひの度の薄きも細きものを縞碼瑙といふ。然れども通常硝瑙の玉といふは大縞の碼瑙と一ト縞なるにて造りたるなり。縞碼瑙の稍立派なるものは上水内郡安茂里村字小市の仏頭石の中ハに産し、又小県郡西内村より別所温泉に通する何とやらいふ峠の半腹第三紀水成岩中にも産す。斯く到る所にあれども採掘に堪えず。

採掘に堪えんも装飾品とはならず従つて売物とはならぬことゝ知るべし。新日本の先駆者佐久間象山翁之を上水内郡日里村臥雲院の山頂にて掘りたるの伝説あり、たづね行きて見たれども一物もなし。

一九　方鉛鉱（小県郡西内村字熊倉　母岩　御坂凝灰岩）

小県郡丸子村より松本市への近道に三才山峠といふがあり。東西内村の両村を通過するなり。東内村は入り口にして西内村は其奥にあり。西内村の西の端に鹿教の湯あり負傷せる鹿の湯治し居たるより猟師の見出したれば名つけしとか。此鹿教湯の奥に熊倉といふところあり。熊倉とは熊の巣といふ意味ならん。所在此地名多し。此所に御坂凝灰岩あり。御坂とは甲州の御坂峠よりの名なり。此御坂凝灰岩のある所、必ず石英閃緑岩を伴ふを常とす。此御坂層は水成岩にして、石英閃緑岩は火成岩なり。斯く水成岩と火成岩とが接触点、乃ち接触鉱物を生ずるなり。此所に鉱脈あり。黄鉄鉱黄銅鉱方鉛鉱閃亜鉛鉱等を産するなり。よく分析して見たらんには輝銀鉱などをも混ずることならん。従つて本標本中にも是等の諸鉱物を含有することゝ知る可し。

鉛色なるは方鉛鉱にして黄色なるは黄鉄鉱と黄銅鉱となり。更に松脂の如き鉱物あり。之を閃亜鉛鉱といふ。本標本中には此物最も多きやうなり。今更書きつけて見れば寧ろ閃亜鉛の標本となしたる方善かりしならん。

偖此熊倉といふは数年前之を試堀したる事ありしも今は廃坑せり。廃坑する素より其所なり。産出の量多からざる上に主に黄鉄鉱と閃亜鉛鉱とのみなり。此地にゴールデン・ドリームに襲われたる一人あり。今や既に死したるか否かは知らず頻りに此山が夢枕に立つなど言ひて居たることありたり。然れども此山の鉱脈は迚も物にならぬ事と明む可し。

二〇　蛭　石（産地　上伊那郡西高遠町鋒持桟道、母岩・花崗岩）

蛭石の名は此物を火中に投する時は延びて蛭のうごめくが如く或は小田原提灯の如し。

然れども余り学問上趣味あるものに非ず。

只花崗岩中の一成分たる黒雲母、若くは金雲母の稍分解したるものが、水分を多量に含有するが故に之を熱すれば、其水分蒸発するが為めに劈開と劈開との間が膨らむより起る現象なりとす。然れども此地のものは之れ火中に投ずるも絶えて小田原提灯の如くなることなし。尤も諏訪郡金沢村附近の花崗岩中に産するものは甲州都留郡初狩附近に産するものと異なることなし。此地に産する花崗岩は従来、花崗岩質片麻岩として知られたるものなれども理学士中村新太郎氏は断然花崗岩とせられたる由なり。成程ソウ言われて見ればソンナ気持もするなり。故に五無斎も亦此所には花崗岩と記したるなり。

二一　鱗石英　（産地　長野市郷路山石切場母岩　輝閃安山岩）

鱗石英又の一名を三斜硅石といふ。火山岩の空隙中に産し微細なる魚鱗状の結晶を為す。故に鱗石英の名あり。此物成分は水晶と同じけれども結晶系を異にす。斯る鉱物を同質異形若くは同質異像といふ、然れども同質異系としたらんには最も分り易からん。斯る類は此外にも多々あり。黄鉄鉱、白鉄鉱との如し。尚本鉱物は小県郡丸子村より東内村に至る道路附近の石切場にも産す。又安藤伊三次郎君著鉱物界の現象なる書には、浅間山中の前欠山にも産する由記載しあれども如何。

恐らく菫青石の誤りならん。尚ほ同書には斜方晶系にして微細なる六角板の集合より成る様、記載しあれどもコレハ正さしく誤りなり。三斜晶系なり。六角板の様なものの集合して金米糖状を為すと言はゞ最も似つかはしき言ひ方ならん。丸子産のものは鉄錆の附著し居るが為めに穢なけれども、長野産のものは白色なり。斯く白色にして綺麗なるは類稀なる由なり。偖本鉱物は如何にして出来たるかといふに此郷路山は其形こそ小なれ一小火山たるなり。火山の噴出したる後、尚ほ久しく地中よりは水蒸気及び其他のものを噴出し居たりしことならん。而して此噴出物中に含有し居たる

石英が結晶して三斜硅石となり、此安山岩の空隙中に鎮座ましくたるなり。顕微鏡程でなくとも虫目鏡さへ有らば、其形状を窺ひ知ることを得可し。長野市附近の学生諸氏に就いて之を採集せられて可なり。

二二　自然胆礬　（産地　埴科郡豊栄銅山熔鉱炉の外部分）

自然胆礬とここには謂へど半ば自然半ば人工のやうな標本なり。豊栄の銅山は明治の初年誰やらが採集したることありて其熔鉱炉の一部分尚ほ存す。本標本は、其熔鉱炉の一部分より採集したるなり。因に云ふ。豊栄銅山の到底物にはならず。これ鉱脈の細きと含銅量の少きによる。然れども人の腰の金を堀らんとするものゝ為めには格別なり。

二三　明　礬　（産地　長野市茂菅　母岩　裾花凝灰岩）

長野市より鬼無里に至る道路堀割の辺にあり。偖此鉱物が如何にして出来たるかといふに郷路山に蹲り旭山南に聳え、共に近代の火山岩なり。一は輝門安山岩にして一は流紋岩なり。斯くの如く近く相接して火山岩の有ることなればこ辺の地たる地皮に割目多き場所と見えたり。之れが為めに到る所、冷泉の湧出あり。又所々に硫気洞多し即ち此硫気洞中の亜硫酸瓦斯が裾花凝灰岩中のアルミニュームやポッタースに結び付きて出来たるものならん。然れども採堀に堪えず従つて金儲けとはならぬなり。尚此辺に硫酸石灰たる石膏の小結晶を見ることあり。是は亜硫酸瓦斯の石灰に結びつきたるなり。

二四　沸　石　（母岩　安山集塊岩　産地　小県郡西塩田村手塚）

北信の上田地方より南信の松本地方へ越すの近道に三才山峠といふがあり。又保福寺峠といふもあるなり。此二つの峠の間より略東方に延びたる山脈ありて塩田平と内村久保とを別つ。更埴二郡上下水内地方に発達する第三紀層と御坂層との中間に位する地方にして地皮には割目頗る多しと見え、諸種の火山岩は所々に噴出するなり。珍岩があるかと思へば流紋岩もあり。忽ちにして第三紀層又、忽ちにして御坂層。安山岩もあれば、安山集塊岩もあり。是此地方別所田沢鹿教霊泉寺等諸温泉の噴出ある所以なりとす。而して本標本は此安山集塊岩中に産す。集塊岩とは先きに噴出したる安山岩の砕片多き所へ再び後の安山岩が噴出し来りてセメントの役目を為し先きに噴出し居たる安山岩塊を固着せしめたるものならん。偖集塊岩とは斯る成因を有する岩石なるが故に空隙の多きは素より其所なり。而して此地の集塊岩、空隙極めて多し。

是等の空隙中には沸石類玉髄及び方解石を含有するなり。工学士高壮吉君の語る所によれば、少くとも八九種位の沸石ある可しとの見込みなりと云ふ。即ち曹達沸石最も多く魚眼石輝沸石、斜方沸石の類をも産するなり。

即ち本標本は何沸石とせずして只単に沸石としたる所以なり。尚同地の人々は此曹達沸石の事を蛇骨と称ふるなり。

二五　曹達沸石　（母岩　安山集塊岩　産地　上水内郡小田切村小鍋）

小長野市西方、約二三里の所に虫倉荒倉の二山あり。全山安山集塊岩より成る。安山集塊岩の説明は前条の如し。斯る岩石に対して裾花川が水蝕作用を及ぼしたるなれば何条以つて溜る可き今は虫倉荒倉の二山と成りたるなり。此所又沸石類を産す。輝沸石方沸石、及び曹達沸石の三種は其主なるものとならんか。輝沸石共に品払底にて再度採集に趣くとも蓋し覚束なからん。此地の方沸石は無色透明にて極めて美麗なる標本なるに惜むべき事にこれ都て沸石類は皆火山

岩の分解より生じたるものなり。

（以上信濃公論　第一四号～第一七号）

二六　菫青石

是は五無斎保科百助が去る三十七年中風間冠峰君等と共に南安曇郡餓ケ岳探険を為したる折の新発見なり。其外観は浅間産のものに彷彿たり即ち雲母の一種ピニットに変化したるものなり。人里遠き山中なれば何と云う字なるや知らず。又諸事物臭な五無斎なれば大学や博物館などへは送りたることなし。従つて学者社会には此地の菫青石を知るもの一人もなし。何れ其内に帝国大学と帝室博物館へ送ることゝせん哉。

二七　石灰華

我長野県の美濃飛騨越中の境上には日本アルプスの称ある安筑両郡人の所謂西嶽なるものあり一万尺内外の高峰行列をつくりて一枚の屏風を立てたるが如く四時白雪の絶ゆることなし偖此日本アルプスに殆んど並行して一列を為すものあり之れ御嶽火山脈という御嶽は其最南端にあり乗鞍其北に聳え昨年の夏頃松本辺の新聞屋発起となり長野辺のヘボ新共之に和し江戸村あたりの新聞屋迄も誘ひ出しデカ騒ぎを為したる焼嶽活火山亦其北にあり以つて越中の国立山火山に連続するなり偖五無斎が此乗鞍へ登山したる折は天気殊の外悪しく眺望の善からざりし為充分なる研究を為すこと能はざりしが此乗鞍火山というは所謂乗鞍山の外ガラガラ山にも亦硫黄嶽にも噴火孔あるものの如し現に硫黄嶽には其麓に時にして非常なる悪硫酸瓦斯を噴出する所ありて鳥獣虫魚の死骸夥しく四辺に散乱せり但し鳥獣魚と書きたれども魚類のみは遙かに下流の事と知る可し此所に熊の斃れたるもの二頭あり肉も皮も殆んど見当らず只骨格を存するのみ頭骨の

如きは既に何物にか奪ひ去られ跡方もなし五無斎は只太腹の骨二本を携え来りて之を長野県高等女学校と師範学校とに保存方を命じ置きたり此処に長さ三四町幅五六尺許りなる黄色の池あり。見れば硫黄即ち湯花を沈澱せしむるが為めに土人の造りたるなり。夫より四五里東に下りたる所即ち白骨温泉なり。石灰と硫黄を含むこと頗る余程非常に夥しく温泉の噴出量も亦甚だ盛んなるものなり。斯く火山作用の余威未だおとろへずと雖も其ズット以前の事を考へて見れば転たウソ魂消ざるを得ざるなり。此所長さ凡そ一里幅七八町厚さ数十丈の地は悉く是れ此白骨温泉の湯垢即ち本標本の石灰華たるなり此湯垢の出来るが為には温泉の噴出量は今日に数百倍するものあらん悪硫酸瓦斯や硫化水素や蒸気の為めに四近の山の如きは悉く是れ裸山なりしならん。然れども稍離れたる地方より木の葉などを吹き込む可き道理なり。此の木の葉の上に湯垢沈澱して出来たる木の葉石其他数百千万億なるやを知る可らず。此湯水に水蝕作用の働らきては鬼が城の絶景となり吸ひ通しの天然トンネルとなり鐘乳石と石筍とは現に生成しつゝあるなり乃ち本標本は鬼か城の城壁たるなり五無斎嘗つて国会請願者の一人にして南安教育家の雄鎮たる太田伯一郎同学の友宮沢徳弥君等の諸氏と此地に遊べり。

（以上信濃公論第二〇号）

三〇　褐　炭　（母岩　第三紀層　産地　小県郡丸子村三反田）

三一　同　（母岩　第三紀水成岩　産地　下水内郡常盤村富倉）

石炭のうちには無焔炭焔炭褐炭泥炭等あり其内最上等なるは無煙炭にして泥炭を最下等下々の下となす。何れも古代の植物が岩石の間に夾りて圧力と熱との働きを受け長年月の間に蒸し焼きとなりて出来たるものなり。

学者実業家の連中が素人に分るやうにとて此石炭は未だ若しなどいふを聞きかじりて褐炭や泥炭さへも四五十年か五六十年も経ちたらば煙炭無煙炭となるなどと思ふ人もある様子なれども左ることは決して無し。

是れは数千万億年の事を只若し古しなどいふにて四五十年や五六十年を謂ふには非ず。

我長野県などに産する褐炭は仮令何百千万年億年を経るとも決して上等なる無煙炭となるなどなかる可し由来我帝国の石炭は欧米諸国古生代の石炭紀に出来たるもの無く長門の国美弥郡及豊浦郡のもの最古にて中生代の三畳紀に属し天草の無焔炭之に次ぎて中生代の白亜紀北海道九州のものは稍新しくして近生代の第三紀信州のものなどは第三紀のズット新しき方にて褐炭に属す。古生代といへば数億年以前の事なる也若いといふにも程度あることなるが是は数億年若きなり。ヨシ若くとも石炭の厚層あらば幾分は御相談にもならん。然れども其厚さ三尺以上なるは殆んどなし。多くは一尺内外なり。且つ岩石の崩壊を恐るが故に木にて枠を立てざる可らず。

枠を多く立てる位ならば其枠を薪物とした方が遙かに上策なり。東筑摩郡西条附近にあるものを採堀し居る由なれども損が行かぬ冬仕事には善き位にて迚も儲かるといふ程には行かずと知る可し。乃ち丸子村のものは五無斎が或る人に励めて堀らしたるものにチョットしたることにて四五百円腰を堀られたりと其人は語りつゝビールなどを饗応せられたることありたり。又下水内郡常盤村のものも五無斎が同地方へ採集に赴きたる折堀り始めて居たりしが今や廃坑したらん西条炭の稍引き合ふは交通の便あるが為なり。富倉炭の廃炭の廃坑せしは交通の便悪しきが為めと知る可し。最も之を餌として金持の腰を堀らんが為めには此物亦好都合なる可し。坑畏こ。坑畏こ。

（信濃公論　第二二号）

三二　泥　炭　（母岩　第四期火山灰層　産地　北佐久郡小諸町味噌塚山）

小諸町を南に距る数町の地に味噌塚山といふがあり。此地自然に火を発する長者味噌といふものを産する由何やらの書にて一見したることあり。去ればとて或る時同地に遊び此標本を採集したるなり。自然発火の事土人に問ふに知らざるなり。外国にては自然に発火する程の温度を発する黴菌のあるよしを耳にしたることありたれば之を当時の長野病院

長今井政公君に致し顕微鏡上の試験を為して貰ひたれども左る徴菌は御住居なきよしなり。只同味噌塚山の持主たる小山太郎君に就いて之を質したるに自然発火の事は未だ之を耳にせず然れども若し一旦火を失することあらんか雨降雪降のある迄は如何にも鎮火せざるなりと語られたり。蓋し其位のものならん。偖此味噌塚山の泥炭が如何にして出来たるかといふに甚だ遠からざる古代（夫でも数万年?）に於て此地方は底の浅き沼地なりしならん。火山の裾野に於ては善くある例なり。南佐久の松原湖及び下高井郡の琵琶池の如し此沼の中に生長繁茂したるもの朽ちては泥炭の原料となりたらん。此物の用途はといへば勿論立派なるものには非れども水風呂薪物位には使用し得べからんか。夫も人足などを雇ひて採堀せしめては迚も算盤は執れぬ事と明らむ可し。

（信濃公論　第二三号）

三六　代赭石　（母岩　輝石安山岩　産地　諏訪郡横川谷）

代赭石とは支那山西省の代州より出づる赭き石といふことなり。成分は鉄と酸素の化合物なり。酸素四粒鉄三粒なるは磁鉄鉱なり。酸素三粒鉄二粒なるは赤鉄鉱即代赭なり。之に三三粒の水を加えたるは褐鉄鉱なり。安山岩中には磁鉄鉱を含有すること普通なるが、是は代赭を混在するなり。代赭は顔料として用ふなり。此地の代赭は中々に上等なり。殆んど実用に適するかとも思ふなり。然れども其量多からざるは真に遺憾なり。以上。

三七　玄能石　（母岩　産地　第三紀層　小県郡浦里村越戸）

玄能石は五無斎の新発明なり。否新発明には非るなり。同地方の人は疾くに知り居たるを、五無斎が之を学者社会へ取り次ぎを為したるが為めに、五無斎は飛んだ目に逢ひたるなり。最も最初に来県せられたるは、工学士高壮吉君なり。

神保博士は数回来られたるなり。其の他十数人の学士連中も、来られたるなり。小学校の先生が大学教授の附き合をしては溜つたものに非るなり。比企理学士は其研究せられたる事実を、地質学雑誌に掲げられたるなり。独逸や亜米利加や、越後の弥彦附近の第三紀層中にも産する由なり。成分は石灰石なり。然れどもその結晶は、何かの仮晶なるべき由なり、其後神保博士について、充分に研究が出来ましたかと問ひたるに未しとの事なり。何処やらのドックの中にては、現今、出来つゝある由なり。其後五無斎は之を長野市附近伺去の石油坑内と、小県郡本原村川久保の橋の際にて発見したことあるなり。小県郡青木浦里二村のものも亦伺去のものも長さ八九寸のもの有るに反して本原産のものは其長さ五六分に過ぎざるなり。ドイツ産のものと本原産のものとは伯中の間にあるなり。神保博士より貰ひたるドイツ産のものは、高等女学校に托し置きたるに誰やらが無くして呉れたるは真に遺憾なり。

斯く大小不定なるが上、其形の種々雑多なるは真に驚く可き程なり。其最も普通なるものは、其昔源応和尚が那須野が原の殺生石を叩き割りたりといふなる鉄槌に彷彿たるなり。然れども、亦十文字形を為せるものあるかと思へば、清正公が片鎌槍の如きもあるなり。紅葉形もあれば、亀の形したるもあるなり。太く短きもの、細く長きものあるなり。幅広にして、お亀節の如きもあれば幅狭くして薄つぺらなること、今日の人情の如きものもあるなり。

其外一々名状し難ければ此位にて擱筆するものなり。

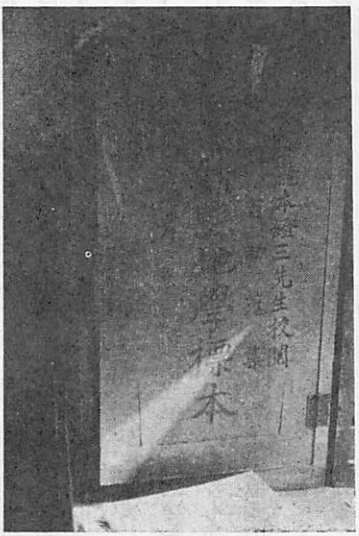
（以上信濃公論　第二六号）

五　地学標本売出に関する説明書

石屋五無斎

第一緒言

明治四十二年己酉厄年に当る。教育総本山管長閣下と同姓同名にして且つ同人なる五無斎保科百助は不幸にして黒内障即ちソコヒにて明を失ひたること十有余日而かも其悪ろくなり始むるや僅々三四日にして明又暗を弁ずること能はざりしなり。時にコン畜生。つぶれて仕舞へ。今一ツ。浮き世の醜を。絶えて見ぬ可く。など思い続けたることはあれども哀心竊かに苦悶を重ねたるものありと見え五無斎意気銷沈せりなど到る所に吹聴せられたるたり。明治一百一年六月八日日出づる時を以つて眠るが如きの大往生を遂ぐるの予定なれば万事細く長くの主義を遵奉し来りたれども盛者、必衰の理斯くも覿面なる上は徒に安閑たる可きに非ずとて第二回地学標本採集実費販売の事を思ひ立ちたるなり。



五無斎が県下各種学校へ頒布した地学標本箱

実費販売とは言ふと雖も今回に限り幾分は儲け度しとも思ふなり。乃ち思ふと雖も江戸村あたりの我利々々一天張りなる標本屋やピーピー風車のやうなる株式会社の奴原と同日の談ならん哉。乃ち種々嶄新奇抜なる考案寧ろ巧案を具して之を管長閣下に致す。管長閣下亦甚く斯の挙を嘉納せられ茲に裁可を経詔を奉じて地学標本売り出しに関する説明書一篇を草するものなり。

第二　実物教授の事

古代の教育法は教師なる人々に任せて出放題を並べたて朝から晩まで喋々喃々したるものなれども斯くては徒らに口先き許りの聞き噛りの生徒のみ製出して手足の動かぬ位は兎も角も充分に其の意味さへも分らぬの恐れあればとて漸次実物教授ということが流行するやうになりたるは誠に明治昭代の一大美事なりと謂はざるを得ず。

第三　器械標本の事

偖斯くして実物教授の主義は普く鄙々に行き渡り器械標本の類は稍備はりたるの観はある様なれども偖其教授の実際を見るに頗る遺憾の点尠からざるなり。尠なからずとは凡そ何の位の程度なるかをいふに

一　江戸村辺にて製造販売しつゝあるものは意外に高価にて之を購入すること甚だ困難なるの事情あること。従つて一つや二つの器械標本を担き出したれはとて思ふ程には参考ともならぬ事

二　素と是等の器械標本は我利々々一天張なる商人の製造したるものなれば直ちに破壊汚損するの恐あるが上に先生方の不注意により又押入棚等の欠乏より時々之を教場に担ぎ出すに困難なるの事情ある事。

三　且つ是等の器械標本は素と中学校師範学校及び高等女学校用として調製したるものなれば小学校用としては不都合少なからざること。

四　学校の先生方は日頃教授法など八ケ間しく言ふ癖に器械標本の使用法に就ては絶えて御研究なきなと。等の数条を列記せんと恐れながら五無斎保科百助は存じ奉るなり。尚ほ此外にも多くならん。且つ之を説明つきとしたらんには原稿紙も不足を告げ筆も亦禿筆と化せん。

第四　標本県費製造の事

物理化学等に用ふる器械の類は之を製造することは到底望みなし。是れ非常に大きな工場を要するものなればなり。然れども標本の類は之を製造すること実は何でもなし、且つ江戸村にて製造販売するものの五分の一乃至十分一の価にて出来ること受合なり。五無斎曾つて動物学の教授に又生理学の教授に当つて牛の頭骨肢骨椎及び助骨の標本は極めて必要なるものなりとの巧案を立て之を江戸村にて求めんとしたるに其価頭骨のみにて十六円なり。然らば之を製造するには幾何の費用を要するかと金物屋に至り大鍋を買ひ薬種屋に就て薬品を求め薪炭商を訪ひて松薪四把を購ひ五時間を費して之を製造したるに其価七円には過ぎざるなり。依て盛んに注文を取りて之を製造するの計算を為したるに実費一円五十銭にて充分なり。而して一円五十銭はこれ十六円の十分の一たるなり。仮りに五無斎の儲けを五割とするも一個金三円にて尚十六円の五分の一には充たざるなり。五無斎は常に此眼を以て江戸村の標本目録を研究しつつあれば其例証一々挙げ難し。且つ五無斎三円宛ならば牛の頭骨標本を御引受け申さん。続々御注文ありて可ならん。又江戸村にて製造販売しつゝある渋下地漆器順序標本を見るに四円五十銭以上八円以下なり四円五十銭のものも手抜き為したるの痕跡ありて標本として価値なし。然るに昨明治四十一年中教育会の主催にかゝる教育品展覧会に於て飯山漆器学校より出品しありたるに心付き飯山漆器学校に就て之を質したるに径三寸の木杯の木地にて造りたるもの十八個にて七十二銭更に平蒔絵と高蒔絵とを附して其価は正さに一円なり。

今之を以つて完全なる標本をつくらんとするに、

一金一円也　標本代
一金二十銭也　ボール箱二十個代
一金二十銭也　長さ二尺三寸幅一尺五分　蓋附の箱一個代

一金三十銭也　整理費
一金三十銭也　五無斎の周旋料
　合計金二円也

若し続々御注文ありて百組以上ともなりたらんには御周旋申し上ぐ可し。但し之は予約金など徴集するには及ばざるなり。斯の如き次第なれば五無斎は昨明治四十一年の秋当長野市に開かれたる一府十県の共進会を期とし地理学参考用として先つ以つて物産標本を調製して之か実費を以つて一府十県の各種学校に配付するの巧案を立て関東教育大会に諮らんとしたるなり。弁士多きの故を以つて演説を見合はせとせられたりしは終生の恨事なり。次いで之を大山知事以下各郡市長に謀りたれとも議終に成らざりしなり。乃ち教育宗総本山の訓令として之を発布したるなり。

是亦何等の反響もなし。乃ち五無斎は二十余年来研究したる岩石鉱物の標本によつて之が模範を示し逐次各種の標本は之を県費の補助を得信濃教育会に於て製造し実費配付の事とせんとの素地を作らんと欲するものなり。五無斎豈世間普通一般の我利々標本屋ならん哉

第五　博物標本の事

博物学とは主として動物植物及鉱物界に関する諸現象を研究するの学問なり。然り而して是等諸学科を研究するに当つては是非共標本の力を借らざる可らず。標本論に就ては抑も説あり。以下甚だ少しく之を論ぜんか。

第六　植物標本の事

植物の標本即ち腊葉と来てはカラ物にならぬなり。色も変り形も化り大ささへも異り居るものにて充分なる観念を得

せしめんことは、滑稽の極と謂はざるを得ず。斯く滑にして稽なる標本を販売する悧口ものも有れば十五銭以上三四十銭にて之を購ひ入るゝお馬鹿様もあり。且つ斯る標本は二三年の後直ちに毀れ易きを法則とす。然らば絵画写真の如きものならんにはと思ひたれども是も亦滑稽極まるものなりと謂はざるを得ず、故に知る。植物学の教授に当つては天然に野生せるもの及び校園に於てせざる可らざるを。故に又知る学校教員仲間にて植物教授委員一名を選挙して有らゆる参考書を供給し場合によりては旅費日当や報酬金をも支出せざる可らざるを。故に又々知る。各学校先生方は此委員を講師として折々居村附近の郊外に就て植物の実地講習を受けざる可らざるを。

第七　動物標本の事

之に反して動物の標本は或は剝製となし或はアルコール漬若くはフォルマリン漬と為し置くときは生き顔と死に顔との間左程相好の変るものに非ず。且其保存期限も稍久しきに勝ゆるが上に十遍刷以上の絵画ならば殆んど実物に接するの概あり。尚ほ五無斎はカード式動物標本を製造し之を実地教授上に応用するの新巧案あれども今や之を詳論するの余白なきを恨むのみ。

第八　鉱物岩石標本の事

動物植物共に自己の器能により若しくは風雨の作用を借りて地球上に弥漫するが故に少しく心懸の善き先生を得たる学校生徒は案外明了なる智識観念を得るの便利あれども鉱物岩石と来ては元来死物なるが上に仮令列風強雨に逢ふも移転運動を為すこと能はず百千万億無量年の古代より一定不変の居住地以外に出ること無き故に是非共標本として之を学校内に備え付け置かざる可らず然れども是等鉱物岩石は元来生き物に非れば生き顔と死に顔と人相の化るものに非ざる

が上に或る特別なるものを除くの外は変化し又破壊するものに非ず。時に手沢の附着することあらんか稀きシャボン水にて洗ひなどせば何百年何千年も之を使用することを得可し。されば若し安価にして而かも教育上参考ともなる可き標本あらば之を買ふものは利口にして之を買はぬもの馬鹿なりと評ぜざるを得ず。且つ支那四百余州の地鉱山未発のもの頗る甚だ多からん。鉱物地学の学堂之を忽諸に附すべけん哉と言れて見度くもなるなり。

第九　鉱物地質の学普及必要の事

我帝国に於ける諸般の学術は僅々三四十年以来の事にて其普及進歩の遅々たることは実に遺憾千万なりと雖も博物学中鉱物地質の学に至つては殆んどゼロと謂ふても不可なき程なりこれ何によつて然るか。など問ふもの有らんには。

一　凡そ吾人々類が一生五十年間に足跡を印する地方に露出せる鉱物岩石の種類は極めて僅少なるが故に各人即ち教師も生徒も既得観念の頗る欠乏なること。

二　明治二十六七年頃に至る迄教育宗の総本山たる高等師範学校に於ては化学専攻の学士即ち代用教員を使用したりしが為めに末寺たる地方師範学校中学校の教諭連中も将たまた其末派たる小学校の先生も亦斯学の智識甚だ欠乏なりしこと。等の二個条に過ぎざらんと答へん。是れ即ち五無斎保科百助が去る明治三十六年中二百四十三種づゝの標本を県下百ケ所の学校其他へ寄附し尚ほ且つ昨年より本年へかけて当時の余りもの一万余塊をおもちや標本と名づけ一種三銭均一にて売出しもし又知己の間に配りたる所以なりとす。然り而して今回は其第二回目の大採集たるなり。

第一〇　斯学の普及極て遅々たる事

斯の如くにして五無斎が二百四十三種宛の標本を県下百ケ所の学校へ寄附したりしは明治三十六年の事なり。爾来五

無斎が各地に転講せし回数は無慮六七十回にして実地指導を為したることも亦少なからず殊に学術の研究に熱心なる諏訪郡に於ては、第一回地学講習会実地指導附き。講師、高等師範学校教授理学士、山崎直方氏。会期一週間。明治三十七年（？）第二回地学講習会。実地指導附き。講師後の教育宗総本山管長五無斎保科百助閣下。会期一週間。明治三十八年？　第二回の講習会を開き三十九年度に於ては郡下の小学校先生方が各一地方宛を担当して諏訪郡地学標本を採集して之を郡内の各学校に配付せられたるなり。然れども諏訪の夏頃迄該標本の整理はして無かりしなり其他の学校に至つては況んやに於てをやならん。整理さへも出来て居らぬとすれば之を教育上に応用せんこと思いよらぬことなる可し又上伊那郡に於ては、第一回地学講習会。実地指導附き。講師後の教育宗総本山管長五無斎先生会期一週間。明治三十八年（？）第二回地学講習会実地指導附き。講師。農商務省技師理学士中村新太郎氏、会期一週間。明治四十年（？）第二回の講習会を開かれ昨明治四十一年度に於いて五無斎石屋の棟梁として、五十余名の教員諸氏と共に山河を跋渉するもの一週間に及び之が標本整理の為めに二ヶ月を費し尚ほ且つ同郡准教員講習会に於ては此新に採集したる上伊那郡岩石鉱物標本三十五組を百数十名の諸君に配付し置きて極めて贅沢なる講習会を開きたれども地学の知識が果して同部に普及したりしや否やは頗る疑問なりと謂はざるを得ず。これ同郡にて採集し得らるる岩石の種類は太古古生両大統のもののみにして中生近生両大統のもの極めて僅少なればなり。且つ一郡としては鉱物の種類は如何にも僅少なれば鉱物の方は無論ゼロに等しいと謂はざるを得ず。尚ほ同様の企ては各郡に於てあるやうなれども下伊那を除くの外岩石鉱物共に其種類甚だ少く従つて是等一郡内宛の標本採集は其効能も亦僅少なるものと知る可し。

第一一　地学思想普及法新発明の事

明前段に於て稍不平洩らしたる如く地学思想の普及は中々以つて容易の業に非るなり然れども我長野県は所謂支那山系と樺太山系との出合ひ頭に当り富士火山脈の元を横断するものありて太古、古生、中生及び近生の四大統に属する諸

種の変成岩水成岩もあるが上に各大統に属する火成岩もあり従つて諸種の、鉱物に富む。故に先ず信州の鉱物岩石を研究し尽さば先づ以つて地質学者の部類に属す可し。併し五無斎は骨薫品的に信州産鉱物岩石の名称産地を記臆し得たりという迄の事なり。然れども五無斎程度の地学とあらば信濃川の治水問題を論じ県庁舎敷地問題位を議し小学校の理科中地質鉱物の部を講義する位には一向差支あることなし。

茲に於てか亭主の好物は客に振舞ふの原理により執念深くも第二回の大採集を為し実費にこの大配分を行ひ二ケ年間各学校に就て一日宛の講習を為し一日づつの実地指導を為し且つ筆墨行商をもなし信濃公論購読者の募集を兼ね衆議院議員候補者たるの準備を為さんと欲するものなり。左れば五無斎の名刺には。

信濃公論社長兼主筆兼編輯
兼配達兼小使鉱墨行商風変りの
石屋教育宗総本山管長兼衆
議院議員候補者未来の総理大
臣朝国統監
五無斎 保科百助
本籍長野県北佐久郡横鳥村
現在長野市西町山吉ホテル

など印刷するを以つて本来とす。斯の如くにしてコノ大採集コノ大配布、コノ大講習コノ大実地指導を完了したるの後に於て各郡共各々其居村に産する礦石岩石を持ち寄り以つて各郡地学標本を調製し分配することともなさば五無斎程度の地学者数千人を翌出せしむること近かく満三年の後にあらん。現今理科資料の蒐集は徒らに郡村費を要すること多額なる割合には何時も其の効果は少きよう御察し申しあぐるなり。是を五無斎式地学普及の新法となす。豈ウマクデマキ仕組ならずや

第一二　長野県産鉱物岩石種類の事

我長野県は諸種の礦物岩石を産すること略前述の如し。然れどもコレ寧ろ五無斎式駄法螺に非らずやと疑はるる向もあらん。法螺が法螺ならぬかを証せんがために今其名称産地表を掲げん。

第一　変成岩類

甲　太古大統片麻岩系

一　黒雲母片岩　上伊那　高遠　天女橋
二　砂質片麻岩　上伊那　西箕輪　奥地
三　変質粘板岩　上伊那　藤沢　御堂垣外
四　糖晶質石灰石　上伊那　河南　勝間
五　片状角閃岩　上伊那　富県　火山峠
六　花崗質片麻岩　上伊那　中沢　大洞
七　角閃花崗質片麻岩　上伊那　高遠　東高遠
八　眼球変麻岩　上伊那　美和　黒河内
九　鹿塩片麻岩　上伊那　美和　大明神橋
一〇　ボーフキロイド様鹿塩片麻岩　上伊那　高遠　山室川
一一　ヘレフリンタ様鹿塩片麻岩　上伊那　高遠　山室町

乙　太古大統片岩系

一二　緑泥片岩　上伊那　美和　和泉原
一三　斑点緑泥片岩　上伊那　高遠　大明神橋
一四　絹雲母片岩　上伊那　高遠　山室川
一五　石墨片岩　上伊那　高遠　山室川
一六　千枚岩　上伊那　美和　黒川
一七　石英片岩　上伊那　三義　半対
一八　石灰岩　上伊那　三義　芝平

第二　水成岩類

甲　古生大統下部秩父系

一九　輝岩　　上伊那　美和　戸台

乙　古生大統中部秩父系

二〇　硅岩
二一　赤色硅岩　　上伊那　藤沢　金沢峠
二二　石灰岩　　上伊那　美和　戸台
二三　炭質石灰岩　　上伊那　東笹輪　長岡
二四　フズリナ石灰岩　　西筑摩　殿村
二五　ククノイド石灰岩　　東筑摩　洗馬　本山
二六　雲母粘板岩　　上伊那　伊那　小沢川
二七　硬砂岩　　上伊那　川島　上島
二八　粘板岩　　上伊那　川島　上島
二九　緑色斑岩　　上伊那　御所平峠
三〇　輝緑凝灰岩　　上伊那　美和　戸台
三一　同　　上伊那　美和　戸台
三二　角岩　　上伊那　御所平峠

丙　中生大統白亜系

三三　礫岩　　上伊那　美和　戸台
三四　砂岩　　上伊那　美和　戸台
三五　頁岩　　南佐久　大日向　駒返
三六　トリゴニア化石　　上伊那　三峰　御所平

丁　近世大統第三系

三七　御坂凝灰岩　　小県　武石　下武石
三八　御坂層砂光　　諏訪　中洲　上社

三九　御坂層礫岩　諏訪　横川谷
四〇　椹花凝灰岩　断層の滑面つき上水内　安茂里　旭山
四一　礫岩　北佐久　志賀　駒込
四二　砂岩　北佐久　北御牧　布引
四三　頁岩　南佐久　大日方　与地
四四　同(接触変質)　埴科　豊栄
四五　花崗砂岩　下伊那　大下条

戊　近世大統第四系

四六　火山灰　北佐久　小諸城内

第三　火成岩類

四七　黒雲母花崗岩　南佐久　川上　金峯山
四八　角閃黒雲母花崗岩　諏訪　四賀
四九　両雲母花崗岩　上伊那　中沢　百々目木
五〇　花崗斑岩　南筑摩　福島
五一　石英斑岩　西筑摩　王滝　鞍馬橋
五二　石英斑岩　北安曇　白馬岳
五三　蛇紋岩　南佐久　大日向　都沢
五四　蛇紋岩　諏訪　横川谷
五五　蛇紋岩　北安曇　大黒岳
五六　飛白岩　下伊那　大鹿　鹿塩
五七　飛白岩　諏訪　玉川　小泉山
五八　飛白岩　上伊那　三峰　御所平
五九　輝緑石　上伊那　高遠　天女橋

六〇　ウラル石輝緑岩　南佐久　田口山の神
六一　石英玢岩　諏訪　横川谷
六二　紅簾流紋岩　小県　傍陽　軽井沢
六三　紅簾流紋岩　小県　傍陽　軽井沢
六四　閃緑岩　小県　武石　下本入
六五　石英閃緑岩　小県　武石　下本入
六六　玄武石　和田峠　西餅屋
六七　輝石富士岩　上水内　飯綱山
六八　角閃富士岩　南佐久　荒船山
六九　輝閃富士岩　立科山
七〇　角閃富士岩　上水内　戸隠裏山
七一　英輝富士岩　下水内　境村
七二　雲母富士岩　北佐久　軽井沢　離山
七三　橄輝富士岩　諏訪　茶臼山
七四　玻璃質富士岩　南佐久　臼田　稲荷山
七五　黒曜岩　諏訪　擂鉢山
七六　黒曜岩　諏訪　冷山
七七　真珠岩　上水内　安茂里　小市
七八　浮岩　北佐久　小諸　与良
七九　柱状節理　小県　丸子　腰越
八〇　板状節理　諏訪　上諏訪　角間
八一　琉気変質　南佐久　本沢温泉

第四　礦物類

甲　元素

八二　自然硫黄　上高井　白根火山
八三　石墨　上伊那　伊那　栗林

乙　硫化物類

八四　黄鉄砿　小県　武石　下武石
八五　白鉄砿　上水内　浅川　伺去
八六　閃亜鉛砿　小県　西内　熊倉
八七　黄鉄銅砿　埴科　豊栄　赤柴

丙　酸化物

八八　鉄雲母　小県　和田　青原
八九　代赭石　和田峠
九〇　水晶　南佐久　川上　金峯山
九一　鱗石英又三斜硅石　長野市　御路山
九二　木蛋白石　北安曇　中土
九三　磁鉄砿　南佐久　大日向　平河原
九四　褐鉄砿　下水内　常盤

了　鹵石物

九五　螢石　西筑摩　田立

戊　酸塩物

九六　方解石　西筑摩　楢川
九七　石灰華　南安曇　白骨温泉
九八　礬石　北安曇　高瀬川上流
九九　玄能石　小県　浦里　越戸

一〇〇	石膏	更級	桑原
一〇一	紅柱石	上伊那	藤沢 御堂垣下
一〇二	電気石	南佐久	川上 川端下
一〇三	緑簾石	小県	武石 下本入
一〇四	柘榴石	和田峠頂上	
一〇五	柘榴石	上伊那	赤穂
一〇六	チンワル石	上伊那	富県 桜井
一〇七	石絨	南佐久	大日向 都沢
一〇八	滑石	諏訪	金沢 金山
一〇九	硅灰石	北安曇	仏崎
一一〇	輝石	南佐久	大沢
一一一	輝石	南佐久	大日向
一一二	角閃石	諏訪	四賀
一一三	蛍青石	浅間山	
一一四	ヒニットに変じた蛍青石	南安曇	鎗ケ岳
一一五	曹達沸石	小県	西塩田 手塚
一一六	斜長石	小県	西塩田 前山
一一七	陶土	上水内	安茂里 小市

巳　燃焼物

一一八	褐炭	下水内	柳原 富倉
一一九	泥炭	北佐久	小諸 味噌塚
一二〇	石油	上水内	浅川 伺去

以上　岩石八十一種　礦物三十九種

合計　百二十種也

長野県に産する礦物岩石の種類概ね以つて斯の如し。他の部分は兎も角も是丈ケは確実なるものなり。礦物は六綱に分ち岩石は三種類に別る事が定法なり。尚此中には長野県特有否日本特有のものもある代りには他府県に普通なるものにして之を欠如するものあり。然れどもコハ満三年の後逐次補うこととせん。江戸村の標本屋にて之を購入せらるるも可ならん。甚だ人の悪ろき言ひ分なれども江戸村にて販売しつつあるものの内箱入のものと否らざるものと価格の差次の如し。

礦物　箱入のもの一個につき八十銭平均
　　然らざるもの一個につき二三十銭平均
岩石　箱入のもの一個につき四十銭平均
　　然らざるもの一個につき十五銭以上十銭位

箱の価は後に記すべけれども田舎にて造らば案外安価なるものなり。乃ち五無斎の標本を種として之が買ひ続きを為されんには百円のものは優に四五十円にて間に合う事とならん。今五無斎の標本と比較対照し、五無斎の言の妄ならざるを証せん。然れども余りに人が悪る過ぐる故江戸村の標本屋の名丈けは之を略することとせん。

変成岩類の部

五無斎のもの		江戸村のもの
一　黒雲母片岩	一	黒雲母片岩
二　砂質片麻岩	欠	
三　変質粘板岩	欠	
四　糖晶質石灰岩	欠	
五　片状角閃岩	二	片状角閃岩
六　花崗質片麻岩	三	花崗質片麻岩
七　角閃花崗質片麻岩	欠	

八　眼球片麻岩　　欠
九　鹿塩麻岩　　四　鹿塩片麻岩
一〇　ホウフイロイド様鹿塩片麻岩　　欠
一一　ヘレフリンタ様鹿塩片麻岩　　欠
一二　絹雲母片岩　　五　絹雲母片岩
欠　　六　紅簾片岩
欠　　七　緑簾片岩
一三　緑泥片岩　　八　緑泥片岩
一四　斑点緑泥片岩　　九　斑点緑泥片岩
一五　石墨片岩　　一〇　石墨片岩
欠　　一一　角斑片岩
欠　　一二　藍斑片岩
欠　　一三　滑石片岩
一六　千枚岩　　一四　千枚岩
一七　石英片岩　　一五　石英片岩
一八　石灰岩　　欠

即ち五無斎のものは五種類の不足なるに江戸村のものは八種類の不足なり。コレ一長一短は免れざる所なり。且つこれは五無斎に都合よき部分をとりたるなれども実は五無斎のものとて短所の多きは勿論なりと了せられたし。

第一三　標本作製法念入の事

五無斎の標本は同一のものを同時同所にて採集するが故に製作法は念入りとなり居りて教授法の参考となるの点尠からず。今左に之を条説せん。

第一　江戸村のものには説明書のなきが普通なれども五無斎のものは説明書を添付する企てあり。少くとも公論上にて之を公にせん。

第二　江戸村のものは面倒くさきを恐るるより名称産地を記したる今日の人情の如きウスッペラなる冊子を添附しあれども一旦此冊子を紛失するときは富士岩やら砂岩やら分らぬようになるものなり。長野県の諸学校に於て此厄に罹るもの頗る多し。五無斎筆墨行商の序に鑑定料なしに此鑑定を依頼さるること多し。然れども之れが為め何時もお神酒を頂戴すること多し。斯欠点を補う為には名称産地太古古生中生近世の水成岩とか火成岩とか若し礦物ならば母岩何々と外に簡単なる説明をルビ付きにて印刷したるペーパをボール箱に帖布する筈なり。コハ後に至り教授法に多大の関係あることを知るべし。

第三　江戸村の物は一個宛のコンマを吝むが故に標本に帖布しある番号札の文字が二三か三二か９６ゥ６９かを弁ずること能はざることあり。コンマ一個の価は左まで高価なるものに非るが故に之を附するに吝ならざるべし。

第四　ボール箱は左の四種に分つ筈なり。一　紫　変成岩（水成岩と火成岩の相の子故に）　二　藍　水成岩（水中に沈澱したるもの故に）　三　赤　火成岩（もはや言はなくも分らん）　四　黄　礦物（ゴールドに因みて）

第五　標本はなるべく雷爛せぬもの、模範となるべきもの、結晶の完全なるもの、母岩の附着せるものと注意する筈なれば普通江戸村にて販売するものに比すれば天地月鼈の差あること勿論なり。

第一四　標本の大きさの事

諺に長持は重箱の代用品とはならず釵の耳掻は杓子の用には勝え難しとの原理により三寸の二寸五分とせり。是れボール紙や西洋紙の裁ち方に都合よければなり。

第一五　標本の定価の事

五無斎の商法はザックバラン式なり。今左に実地必要なる金額を記し一々之が説明を試む可し。

一金六百円也　採集費　　五無斎外一人が採集に出懸くる日数を百五十日　一日平均一円宛の予算此金三百円也運賃は会社まで担ぎ出せばアトハ存外安価なるものなれども山出しに意外の賃金を貪らるるものなれば仮りに一駄を二円づつと見て百五十駄の積算此金亦三百円也　合計六百円也

一金五百四円也　ボール箱代　　三寸に二寸五分のボール箱一個は当市にて七厘なり。故に七万二千ならば五百四円となること一点の違算なし。

一金六百円也　整理費　　整理費といふものは中々かかるものなり。素人には分らざらん。分らぬ素人に説明せんには紙面の狭さを恨む乞ふ上伊那役所員殊に伴野文太郎君に聞け

一金三千円也　標本箱六百個代　　此の説明は後に項を改めて論ずることとせん。

合計金四千七百四円也

是は真赤な算盤なり。余りキリ詰めたる算盤にては不足の患なきにしてもあらず。茲に於てか総予備費を三百円とせん。是にて都合五千円となる訳なり。然れども是にては五無斎及び他の一人の日当なし。小学校長ならば上の口中等教員ならば下の日当として両人にて千円位は貰つても善からん。即ち都合六千円となる訳なり。若し県下の金満家にして此六千円を投じて此六百組の標本を県下六百の学校に寄附し呉るる人あらば五無斎敢えて満三ケ年を挙げて其人に致し採集と説明との労を執り以つて地学普及の基礎をつくらん。コレ五無斎保科百助が教育宗総本山管長として長野県郡視学会議終了後を以つて諮詢したるところ。然れども一人の応と応ふるものなかりしなり。然らば一郡内の分全部を引受け呉れるるやうなる人十六人位なかる可きかと問ふに在るまじとの事なり。偖愈然らば町村内十円宛の寄附金を出す位に簡単なる篤志家六百人位募集は出来まじくやと質したるに六百人とはチト豪ら過ぎはせずや寧ろ売物とせよと勧告せ

らるる向き多数なる様なり。即ち断然売物とするの決心を以つて左の覚書

覚書一札の事

標本の大きさ　三寸の二寸五分　　標本の種類　百二十種　　成効期限　明治四十二年十月三十日

代金　一組十五円　をつくり左の書面を添えて之を各郡視学の諸氏に致したり。

謹啓　郡視学会議終了後御相談致し置候・地学標本は六百校悉く購入し呉れらるるものとすれば一組十円宛にて出来可申候得共若し三百組位ならば十五円となり二百組位ならば二十円位となり若し百組内外ならば三四十円以上ともなりて到底採集の見込み相立たず遺憾ながら中止するの止むを得ざる場合に立ち至り可申候　斯ることは老生一存にては予想も出来ざる儀につき仮りに一ト組の価を十五円として各郡の予想数何校と御記入被成下度不幸なる五無斎保科百助の為め将た県教育の為め此段御願申上候也

明治四十二年二月二十四日　　五無斎　保科百助　華押

上水内郡視学松下金六殿　下水内郡視学田中伍市殿　上高井郡視学保崎熊蔵殿　下高井郡視学池田輪太郎殿
更級郡視学竹内総太郎殿　埴科郡視学田中文治殿　小県郡視学三井弥太郎殿　北佐久郡視学渡辺盛太郎殿　南佐久郡視学矢島盈殿（欠席）　北安曇郡視学大久保九内蔵殿　南安曇郡視学古坂政吉殿　東筑摩郡視学湯本政治殿　西筑摩郡視学刈間徳次郎殿　上伊那視学伴野文太郎殿　下伊那視学古川竹次郎殿　諏訪郡視学黒河内値殿

との回章を廻したるに次の如き成績を得たり。嬉しきこと限りなし。

郡名	校数	予想数
上水内	四三	三〇
下水内	一六	八
上高井	一六	一〇
下高井	二六	一五
更級	二八	一五
埴科	一九	一〇
小県	三五	二五

北佐久	三五	二五	西筑摩	二八	六
南佐久	欠席		上伊那	三五	三〇
北安曇	二一	一〇	下伊那	七一	三〇
南安曇	一七	八	諏訪	二八	二〇
東筑摩	四三	二	計	四五八	二六二

是は南佐久郡と長野松本の両市とを除きての計算なり。南佐久郡とても大郡なれば二十校位は受合ならん。当日松本女子師範学校長矢沢米三郎君も臨席せられたれば件の話を為したるに本校附属共に一ト組宛を予約すべしと言はれたるなり。

斯の如くにして尚ほ此他に二十有七の中等学校もあることなれば成効の上は優に三百組の売け口はあらん。三百組さえあれば上々吉なり乃ち断然之を決行することとはなりたるなり。

第一六　箱代金の事

前段に記したる一ト組十五円は箱代金を五円標本代金を十五円と見ての精算なり。然れども今又便法を発明したれば左に之を詳説せんと欲するなり。而して箱は一切長野監獄署にて製造して貰うこととせり。抽斗十個建戸錠前附、高さ二尺四五分、間口一尺二寸一分、奥行一尺一寸三分、欅一寸板漆塗の箱ならば一本の価六円若し鰐の木ならば五円、椹若くは杉ならば四円の事。又東京にて販売しつつあるものの如く筆屋箱式長さ一尺九寸巾一尺深さ二寸二分欅の六分板漆塗製の蓋付箱五個ならば金二円五十銭宛なり。去れば　一号　欅の箱ならば十六円　二号　鰐の木の箱ならば十五円　三号　椹若しくは杉ならば十四円　四号　筆屋式ならば十二円五十銭　となる訳なり。五無斎の明治三十六年につくりたる箱は抽斗九個附きにて四円五十銭なり。又上伊那にて昨年中作りたるものは抽斗八個附にて其価五円七

十銭なり。市中と監獄との価の相違概ね以つて斯の如し。

第一七　予約金の事

元来予約金などを申し受くるの考は無かりしかども箱の代金丈ケは是非とも長野本金庫へ出来次第に納めねばならぬ筈なり。又監獄署に於ても五十本百本を預り置く事もならず一日一本位の外は出来ぬとの事なり。一日一本づつとすれば四月一日より始むるとするも十一月迄に二百十本八月中には百五十本となる割合なり。乃ち直ぐにも注文しなければならず注文すれば箱が出来箱が出来れば料金を上納せねばならぬ筈なり。五無斎若し有福の身ならば御立替申すこと屁でも無けれども借金にて首が廻らぬ程なり。乃ち止むことを得ずして二円五十銭以上六円以下宛の予約金を申受くることとせり。尚ほ予約申込の折村内篤志家の寄附よりなる料金ならんには何某寄附ということを御通知に預かりたし。是れ同標本箱蓋の表面には「長野県地学標本」同裏面には「何某君寄附　五無斎保科百助採集　明治四十一年十一月三日」などの文字を記入し度ければなり。是は漆を刷く前墨にて書せざる可からざる為めなり。書手は師範学校教諭芳賀剛太郎君と恩師浅井先生に書いて貰う積りなり。

第一八　標本発送順序の事

予約金の送達は成るべく遅く標本の受領なる可く早からんには各位の為め甚だ好都合ならんも当方に於ては頗る不都合なり。不都合なるは善けれども先に申込まれたる方より不平の声起らん。乃ち止むを得ず予約金御送附の順序によつて之を発送することと致すべし。十一月以後何ケ月何ケ年遅れても差支なしとの方々は申込書丈ケにて予約金添付に及ばぬ事と御承知ありたし。尤も来年末となる向もあり標本の無くなる事もあらん。成る可く至急御申込みありたきもの

なり。

第一九　第一回の標本と今回との比較の事

五無斎が明治三十六年中県下の学校其他に寄附したるものは今回のと重りはせずやと問はるる向もあらん。然れども第一回のものは大英百科全書にも比すべく今回の分はネルソンの百科全書にも比すべからんか。彼は産地を異にする同一の種類二つも三つもあるに是は一種類を略ぼ一つ宛としたるなり。然れども十年前に比すれば学問の進歩は驚くべきものあり。新発見にかかるもあれば時代の鑑定したるもあり。又一、二誤の訂正せられたるもあり。彼は斯学を研究する人の為めに都合よく是は教授上に便利あり。其他一々記し難し。

第二〇　他府県の学校へ配分の事

偖。元来長野県六百校へ配分したきが抑の動機なれども長野県の諸学校に必要なる位ならば他の府県の諸学校にても亦頗る甚だ不用ならざらん。学問上の参考となる事は受合なるが上に学生中五無斎式石屋を跋出せしむるが為の好材料とならん。日本一の小学校長渡辺敏翁嘗つて五無斎を評して「県下以つて一無かるべからず、以つて二ある可からず」的の人物となす。コンナ変り者が二人とあられては溜つたものに非れども一府県一人宛は極めて必要ならん。乃ち茲に謹んで本紙二葉づつを各府県中学校師範学校高等女学校実業学校博物地理科の教官各位並に全国各市立小学校長閣下に致す。五無斎の如何なる人物なるやは東西両大学の地学に関係ある博士学士各位と長野県出身の教育者諸君に聞け、又長野県としても学務課の役人衆を除くの外の諸君に照介せられたらば可ならん。他の府県へは高く売つたらはよからんなどと言う人もあれどベラボウ其んな下らぬ事があるものかなり。



信濃公論第十九号表紙の五無斎肖像戯画

本紙一頁隻眼の石屋五無斎肖像は本社主筆牛阿弥朝臣飯田弟治君の揮毫にかかる。茲に謹んで謝意を表す。

此文を草し懸けつつ上水内東筑摩小県の三校長会と更級郡共和村青年会へ出席したる為め或は汽車中において或は郡役所の応接所に於て倉卒の際書き綴りたるものなれば文章のまづき加減は言語同断なり。覧るもの焉を諒せられよ。（信濃公論第十九号（明治四二、三、一〇）

六　教育宗総本山訓令教　（説明の続き）

訓令教第一号　教育宗総本山管長　保科百助

今、此信濃教育会附属庶物標本局に於て最近満五ケ年間に製造配付すべき標本の種類は次の如し。

一　長野県貝類標本　二　同　昆虫標本　三　同　害虫標本
四　同　益虫標本　五　同　魚類標本　六　同　鳥類標本
七　同　獣類標本　八　同　有害菌類標本　九　同　食用菌類標本
一〇　同　有毒植物標本　一一　同　薬用植物標本　一二　同　木材標本
一三　同　高山植物標本　一四　同　野菜類標本　一五　同　肥料標本
一六　同　病原菌標本　一七　同　岩石標本　一八　同　礦物標本
一九　同　化石標本　二〇　同　古器物標本　二一　同　浅間山模型
二二　同　白馬山模型　二三　同　蠶體模型　二四　同　物産標本

是は本管長が執筆の序を以つてチョット書き連ねたるものなれども、更に細密に書き並べたらんには尚ほ多々なることならん。且つ玆に木材標本といふと雖も木材の小口を示したるものも必要なり。板目柾目も亦無かる可らず。皮付きとなしたるものも、枝葉を示すものも、種実も必要なり。泉州堺の職工が始めたる春慶塗も砥の粉塗も黄なるも赭なるも参考とならん。是は余程贅沢なる標本なれども材料、御料局若しくは大林区署に就いてロハに貰はり大工塗師屋と一日十五銭位ひなる女工の手間賃と印刷料とのみなり。

斯の如くにして以上二十五種類の標本を造り上げなば以つて日本全国のものに及ぶ可し。日本全国のものとても亦五ケ年位を要することならん。乃ち満十ケ年の後には標本丈けは悉く之を具備することを得て、教育の効果頗る甚だ著しきものあらん。

斯の如き次第なるを以つて本管長は共進会を一覧したるの折、共進会は真に下らぬものの骨頂なれども、此期を利用して、長野県は申すに及ばず、一府十県の物産標本を製造して、之を県下六百の学校に配ちたらば面白からんと思ひたるなり。今、其面白からんと言ひたる理由を箇条書きにすれば次の如し。

第一　共進会に出したる程のものなれば其品の極めて確実なるが上に、意匠をも充分に凝したるの形跡ありて真に明

治四十一年度に於ける工業の進歩を見ることを得可き好材料にして且つ、似せ物の如きは殆んど一点も無ければなり。

第二　小売商人の手を経ざるが故に、其価の極めて廉価なるが上に、若し標本目録若しくは、直接標本に製造人の住所姓名を記入し遣るときは、売価の二分の一若くは無代にて之を貰ひ受る事を得可きの便利あればなり。製造人の名前を書き入るること、チョット変天古来なるようなれども、五十年百年千年万年の後ともなりたらん其甚だ参考とならんことと受合なり。

第三　標本の整理をしてみぬ者にはとても分らぬことなれども、之を整理するが為には、農業館若くは工芸館位の建物を要することなり。五無斎二百四十三種づゝ百個の地学標本を整理するが為にも間口三十一間、奥行五間半の長野尚等女学校を要したりしなり。上伊那郡の岩石標本整理の折には、五十六種四十二校分に過ぎざりしかども、尚旧蠶病事務所と郡役所の物置と広間とを要したるなり。若し今回聯合府県の物産標本を整理せんとせば優に二千種六千組の標本となるなり。斯の如きの多数は之を整理するが為に農業館位にては尚不足を感ずる程なり。此広々したる建物も閉会後直ちに取潰しては勿体なき故、之を利用したしと思たるなり。

偖斯の如き旨き考案を得たれば、早速之を関東教育大会席上に於て標本論と題し、一府十県の代議員に向つて訓諭を発せんとは思ひたるなり。弁士多きの故を以つて謝絶せられたるなり。然らば長野県丈けの事業として、長野県物産標本のみと為さんと欲し、之を信濃教育会の評議員や副会長や学務当局の官吏及び大山知事以下二市十六郡の郡市長に向つても訓諭を発したるなり。知事以下各郡市長の輩、謹んで本管長の命を奉ずと雖も学務当局の官吏及び信濃教育会の役員之を肯んぜざるなり。其之を肯んぜざるは、抑其労を厭ふものか。

此に於てか本管長は、本山の事業として之を実行し始めんかとも思ひたれども去る明治三十二年中の織物標本の事を思ひ出したるなり。明治三十六年中県下百箇所の学校に下附したる長野県地学標本の事を思ひ出したるなり。明治四十年中信濃図書館創立当事の事を思ひ出したるなり。織物標本の折は、百円許りの不足を生じ、地学標本の折には二千円前後の損耗を招き、信濃図書館は三ケ月間旅籠屋に泊り込み居て、東奔西走殆んど寝食を忘れたる程なるにも拘らず、

無旅費、無報酬なり。

今回の事業の如きも、真に之を完成せんと欲せば、優に一万円位の持ち出しが必要ならん。有りさえすれば持出しを為すこと何の雑作は無けれども、本管長は本年の春、アルコール中毒にて暫時人事不省に陥り、四十余金を振りなくし立川雲平といふ代議士追払広告の為に六十金を費し、今又信濃公論なる一機関新聞を発刊するに就ては、其費用実に昔られす。乃ち、之を教育会の役員即学務課の役員をして之を為さしめんとすれば、彼等頑冥にして本管長の命を奉ぜず。嗚呼如何すべき。天なるかな。命なるかな。

十一月二十日頃なりしと覚ゆ。本管長は、曾つて某雑誌社を問ふ。表は雑誌社なれども、其内部には長野県博物標本製造株式会社といふものあり。資本金は参万円にして、動物植物鉱物及び物産標本を調製して之を県下の各学校に売り付くるの経画なりといふ。其内の幹部の人といふは、数年前何会社とかいふ怪しげなる会社を起して其筋より解散を命ぜられたる事あるの仁なり。又其幹部の一人は、当長野県にて動物標本を製造しつゝある者なるが、共進会中は博物標本の展覧会を催したる者なり。人魚など高価なるものを陳列し、一つは何処へ売れたとか一つは何処へ売れたりなど出鱈目を言い触らして長野県博物標本製造株式会社の広告を為したるなり。利器といふことに抜目の無さは感心す可き奴等なりと評す可し。本管長の該会社に臨みたる折、本管長と渡辺敏老人を顧問官に推薦し度しなど言ひたれば、コンナ仲間に引き入れられて溜るものかと、即ち、急がしく逃げて帰山したるなり。日露戦争の当時、本管長は前任知事関清英君の経済眼は遠く貸し長屋の主人にも及ばずと評したることありしが、今や長野県学務課員の教育眼は市井に於ける一悍商にも及ばずと評せんと欲す。戯に於て悲しひ哉。

共進会の終りたるの今日、斯の如き事は、繰り返へし〳〵言ふこと少しく、本管長の威厳にも関するやうなれども、尚ほ、共進会の建物は在り。乃ち教育会に於ては、夫々委員を選んで六百校分の長野県物産標本を調製して之を県下の各学校に配付すべし。其費用の如きは教育会の財産にて、一時立て替へ置き実費を各学校より徴集せば一厘一銭の損耗もあることなし。立替置きたる間の利子も亦各町村より之を取り立てゝ一向差支あることなし。

然らば、凡そ何程位の費用を要するかといふに、二十円以上三十円以下位にて可ならん。現に長野市城山小学校にては、県内の物産を蒐集しつゝありとの事なるが、金銭の支出多き割合には其集り方非常に悪しゝと教員某は言ひ居たり。

偖此二十円以上三十円以下の出途方法はと謂はゞ、村内財産家の寄附に仰くを以つて第一の良法となし、市長村費に仰ぐとも亦苦しからず。日頃郡視学及び学務課などいふものは、寧ろ無用の長物なれども、斯る際に訓令若くは通知を発するには、中々有力なるものなり。巡視の序などは、金満家へ泊り込み酔つた様なる風をして、此吝嗇漢め金を出さぬかなど大喝一声すること極めて妙ならん。

以上、本管長の訓諭するところ之を概括すれば次の如し。

一　器械器具の類は、勢ひ悍商等の手を経ざる可らずと雖も、標本類は全て信濃教育会に於て之を調製し、実費にて県内の諸学校に配付するを善しとす。

二　一府十県の共進会の開会を機として、是等一府十県の物産標本を調製したらんには極めて妙なりしも、既に閉会後の今日なれば、何とも致し方なし。然れども、尚整理室に当つ可き農業館、若くは工芸館等も有ることなれば、先以つて本年の事業としては、長野県物産標本を調製して之を県下の各学校に配付すべし。

の二条に過ぎず。

元来訓令たるものは、之を遵奉するもせざるも本人の勝手なるが如しと雖も、成る可くは之を奉體する方が宜ろしと謂ふを原則とす。本管長は右につき、尚ほ詳細の説明を試みんと欲したれども、管長は兼職にて、筆墨行商石屋兼新聞屋が本職なれば、時間と紙面とに制限あれば、此位にて擱筆せん。尚ほ、其詳細は各自自身に問ひ各自自身に答へて可なり。必ず得る所多々ならん。

（信濃公論　第六号明四一、一二、九）

訓令教第二号　府県郡町村役場各種学校一般

凡ソ細カキモノ小サキ物ヲ観察スルニ当ツテ虫目鏡ナルモノハ極メテ必要ナリ。乃チ、将来各小学校乙種実業学校等ニ於テハ必、校費ヲ以ツテ一学級生徒数丈ケノ虫目鏡ヲ備ヘ付ク可シ。

右訓令ス

明治四十一年十二月二十三日

教育宗総本山管長　五無斎　保科百助

説明。

凡そ世の中には無暗にデカキ物あり。宇宙の如き即ち是なり。是をムヤデカ世界と言ふ。此物無暗にデカキが故に之を見ること能はず。然れども数万円にて購入したる望遠鏡を以つて之を観察するときは能く其一小部分を窺ひ知ることを得可し。斯く一方に於ては、無暗にデカキ物あると同時に、又他の一方に於ては矢鱈に小さき物あり。之をヤタチク世界といふ。其一例としては、何時も虱の睾丸と蚊の涙等を以つてすと雖も更に小さきもの有ること勿論なり。此ヤタチク世界を観察するには、四五十円乃至五六百円を価する顕微鏡を用ふることなり。偖此両世界の中間にアタリマ世界と謂ふものあり。普通の世界と謂ふことなり。祖先伝来の眼力を以つて之を観察するに、少しの障害あることなし。此アタリマ世界とヤタチケ世界の中間にヤタチク世界といふが有り。稲といふ草の花や蠅といふ虫の手の掌の如き即ち此世界に属す。偖小学校や乙種実業学校の生徒等にも此世界迄は見せ度しと思ふなり。乃ち此ヤヤチク世界を見せしめんは、虫目鏡の力によらされば出来ぬことなり。若し此虫目鏡を各自に携帯せしめて博物学上の観察を為さしめ、之をノートブックに書き取らしめなどしたらんには、思ひ半ばに過ぐるものあらん。本管長嘗つて微服して筆墨行商人となり、下水内郡飯山小学校を巡視したる事ありしに、校長宮本貞夫虫目鏡の効能を喋々喃々す。議論やゝ精緻に入るものありて、善く本管長の意に適ふもの有り。依つて之を筆記せしめて答申書を作製せしむ。答申書の全文次の如し。

◎虫眼鏡使用法に就き答申書

一　何教授に用ふるか

イ、動物の形態及習性を観察するに用ふ。用例の一斑。體體を肉眼にて観察せしめたりとて気門の様な小さなものはよく見えず。蜘蛛の脚が何節あるかと云ふた所で、六節だか四節だか分らぬ蟻や甲虫などの小さなものに至つては尚見えはせぬ。それ所で無い。もつと大きな昆虫、例へば蟋蟀や鈴虫の鳴き工合ひですら肉眼では明瞭には見取ることが出来ぬ。こんな動物の観察には顕微鏡では却つて品物が大き過ぎるが虫眼鏡が丁度ヨイ。教場でも野外でも各自に与へて観さすれば、明かに見えるからよく理解するは勿論、子供は今まで見えなかつた所までよく観えるかと非常の興味を以つて観る。即ち教授を有効にすることが出来る。僅か十銭か十三銭で其利益が斯様に大きく、又何年使へるか分らぬ。よく見えもしないで分つた様な風をして居る子供を、其儘やり過ごす様な教授や絵画などを遣つて退ける教授は駄目だ。

ロ、植物の形態を観察するに用ふ

用例（略之）

ハ、礦物の形状を観察するに用ふ

二　物理光線の部を教授するに用ふ

用例、光線の屈折や焼点や写真や真像を教へんときに持たせる理科の器械を持たせて実験させたると非常によく分つて、且つ自分で色々工夫して見るものである。そうして自分が発見でも仕様ものなら非常の喜びで躍り上つて喜ぶ。嘗て此凸鏡を与へて物像の倒映を実験させた所が、二三の生徒が何事かを発見して研究し合つて居たが、其一生が手を挙げて云ふには、先生よ真像が出来ました。よく見えますと頓狂な言ひ方で先生方は面喰つた。暗箱の様なものなく、唯窓から来た光線で見た所で真像を映出しやうとは思はぬからだ。どれと云ふので就て視たらば、果して真像が倒映して居つた。夫は斯うだ。戸外の雪の反射光線をば、レンズを透して洋紙の白い所へ写したから、其光線の強いのに比べる

と教室内は宛も一大暗箱となつた訳でよく写つたのであつた。そこで、先生さへ未遑で見たことの無いのに善く発見したと云ふので、先生も生徒も非常の喜び。そんな訳で、理科教授には、器械を持たせらるゝがどの位楽しいか分らない。

三　代金はいくらいるか

一つ七八銭からあるが五十銭も一円もするのが有るけれども十二三銭も出せば善い。

四　いくついるか

一教室生徒数の半分あればよい。生徒数だけあれば尚善い。

是れ即ち飯山小学校長宮本貞夫の答申書なりとす。斯くの如くよくし、同校に於ては既に数年前より之を実行しつゝあるなり。以つて其効能の顕著なる所以を知るに難からざるなり。

飯山小学校長の答申書によれば、六七銭より一円位迄とあれども、四五銭のものも市中には存在するなり。数年前本管長が信濃教育会に命じて、機染業の講習会を開きたる所、同講習員に購入せしめたるものは、金属製にして三ツ折となる様出来居りて、至極軽便なるものなりしが、其価は二十五銭なりしと記憶す。

斯くの如くにして各小学校乙種農学校来年度の予算に於ては、一学級の生徒数丈ケ、即ち六七十個の虫目鏡購入金三円五十銭以上、十七円五十銭以下の経費を計上して、之を市町村長に提出すべく、市町村長は之を市町村会に付して、其協賛を経べく市町村会議員は敢へては一言の異議をも申し立つまじく。若し彼是異議を申し立つるに於ては、きつと曲事たるべきものなり。

（信濃公論　第九号　）

教育宗総本山訓令

各府県郡市町村役場各種学校一般

今回長野市西町ニ居住スル風変リノ石屋ニシテ本管長ハ同姓同名而カモ同人ナル五無斎保科百助が調製セントスル地

学標本ハ教育上極メテ有益ニシテ且ツ其価ノ如キモ頗ル甚ダ大ニ廉ナリト認ム。依テ全国各種学校ニ於テハ必ズ之ヲ購入ス可ク又各府県郡市町村ニ於テハ必ズ之ガ費用ヲ支出スルコト吝ナラサル可シ。尚ホ其詳細ハ本人ニ命ジテ之ガ説明書ヲ作製セシメ置キタレバ再三再四之ヲ熟読玩味シテ之ガ申込ミノ手続ヲ了ス可シ。右訓令ス。

明治四十二年三月十日　　教育総宗本山管長　五無斎　保科百助

（信濃公論　第一九号　明四二、三、一〇）

教育宗総本山訓令

県郡市町村役場各種学校　一般

凡ソ各小学校ニ於テ児童等ノ日常使用スル学用品一切之ヲ校費ヲ以テ之ヲ支弁ス可シ

右訓令ス

明治四十二年七月十四日　　教育宗総本山管長　五無斎　保科百助

本訓令の詳細なる説明は一朝一夕にして尽すべきに非れば以下逐号に之を掲載することゝせん。

（信濃公論　第三七号　明四二、七、一四）

七　信州産　岩石鉱物標本説明書

編集兼発行者　五無斎保科百助
天下の浮浪人

1　黒雲母片麻岩

1　時代、太古大統。　2　成因、変成。

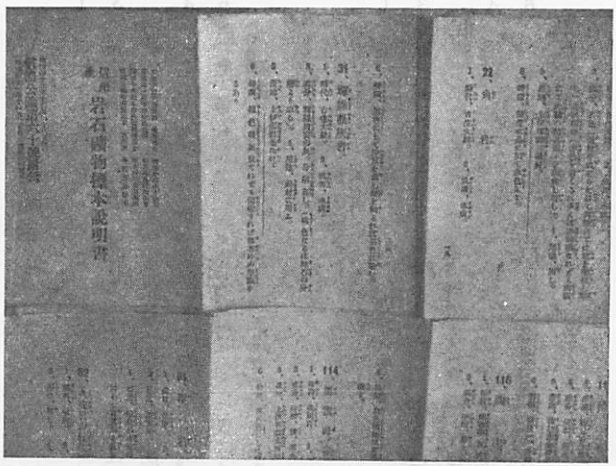
3　成分、黒雲母（黒六角板）、石英（単色不規則粒）、長石（白不規則粒）。
4　産地、上伊那郡高遠町。　5　用途、無し。
6　特徴、黒雲母片岩に似て縞状をなせども長石を含有するを以つて分つ。

2　片麻岩

1　時代、太古大統。　2　成因、変成。
3　成分、石英（飴色不規則粒肉眼にては明視し難し）、長石（白色粒なれども肉眼にては明視し難し）、雲母（黒色にして閃めきたる板状の結晶）。
4　産地、上伊那郡富県村。　5　用途、砥材。
6　特徴、外観縞状をなし顕微鏡下には片状組織、三成分鉱物の結晶を明視し得。

3　片麻岩

1　時代、太古大統。　2　成因、変成。
3　成分、長石（白色不透明の粒にして輪廓稍明なり）、石英（稍透明、不規則粒）、雲母（黒色、閃き強き薄き板）、角閃石（黒色、閃き雲母の如く強からず長方形の切口を現はす）。
4　産地、上伊那郡高遠町。　5　用途、無し。



信濃公論所載　岩石鉱物説明書

6　一見白と黒の縞状をなし鏡検すれば成分鉱物の結晶は一定の方向に斈列せり。

4　閃緑岩質片麻岩

五無曰はく4、5の順序顚倒せり

1　時代、太古大統。　2　成因、変成。

3　成分、石英（稍透明なる不規則粒）、長石（白色、不規則の粒、時には短冊形をなす）。角閃石（黒色短冊形の結晶）。黒雲母（前者に似たれども閃めき強きと薄板状に剝ぎ取り得るを以て分つ）。

4　用途、石材。　5　産地、上伊那郡高遠町。

6　特徴、外観角閃花崗岩の如くなれども鏡検すれば成分鉱物の粒子は皆一定の方向に斈列せり。角閃石中に斜長石の粒子を含み其状ベグマタイトに似たり。

5　花崗質片麻岩

五無曰はく4、5の順序顚倒せり

1　時代、太古大統。　2　成因、変成。

3　成分、黒雲母（黒色、閃めき強き薄き板状の粒）長石（白色不規則の粒）石英（透明飴色を帯ぶる不規則粒）。

4　用途、石材。　5　産地、上伊那郡赤穂村。

6　特徴、外観花崗岩に似たれども成分鉱物殊に黒雲母は一定の方向に斈列せること肉眼にても明視し得るなり。

6　鹿塩片麻岩

1　時代、太古大統。　2　成因、変成。

3　成分、長石（白色、短冊形又はO形の結晶粒）、石英（飴色を帯びたる不規則粒）、角閃石（黒色、短冊形の結晶粒）。

4　用途、石材。　5　産地、上伊那郡高遠町。

6　特徴、片麻岩なれども斑状組織を有し角閃石を多く含む。此の特徴を有するもの鹿塩地方に多きを以て名を得たり。

7　角閃片麻岩

1　時代、太古大統。　2　成因、変成。

3　成分、長石（白色、輪廓正しき粒）、石英（細粒なるを以て肉眼にては明視し難し）、角閃石（黒色、不規則の粒）。

4　用途、無し。　5　産地、下伊那郡大鹿村。

6　特徴、斑状組織を有し角閃石を有すること多く斑晶間の組織は頗る緻密なり。

8　眼球片麻岩

1　時代、太古大統。　2　成因、変成。

3　成分、石英（稍透明不規則の粒）、長石（白或は肉色を帯

びたる大小の結晶）黒雲母（黒色、板状）

4 用途、石材。　5 産地、上伊那郡美和村。

6 特徴、片麻岩の如く而かも長石粒頗る大にして稍眼球状を為し其周囲を雲母の包めるあり。

9 大理石

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。

3 成分、方解石。　4 用途、石灰製造。

5 産地、上伊那郡富県村。

6 特徴、粒状組織にして小刀にて傷き且つ酸類を注げば発泡溶解す。

10 角閃片岩

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。

3 成分、角閃石（多量に存在すれども細小の結晶をなすを以て肉眼にて明視し難し）、石英（細き筋の如くなれども肉眼にては明視し難し）。

4 用途、石材。　5 産地、上伊那郡富県村

6 特徴、緑色にして鏡検すれば角閃石の結晶は略ぼ一定の方向に斟べり。

11 石灰質石英片岩

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。

3 成分、石英。　4 用途、無し。

5 産地、上伊那郡三義村。

6 特徴、硬度水晶より少しく低きは石灰を含むによる。結晶質にして片状を為す。五無斎曰はく、本標本は石灰山の捨て石中より採集したるものなれば或は石灰岩を採集しあるやも斗られず、覧者幸に諒焉。

12 絹雲母片岩

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。

3 成分、石英（白き筋の中の稍透明帯色の部）、長石（白き筋の中の白色不透明部）、絹雲母（毛筋の如き閃き強き結晶）。

4 用途、無し。　5 産地、上伊那郡美和村。

6 特徴、片状組織にして上記成分鉱物を明視し得。

13 石墨絹雲母片岩

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。

3 成分、石英（白き筋をなす部）、石墨（不規則且つ細小の粒なるを以て肉眼にては明視し得ず）、絹雲母（閃めき強き毛筋の如し。）

4 用途、無し。　5 産地、上伊那郡高遠町。
6 特徴、板状理を有し硬度低く、鏡下には石墨と絹雲母とを認むるを得。

14 緑泥片岩

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。
3 成分、緑泥石（緑色針状の結晶なれども肉眼にては明視し難し）、長石（白き筋の中に多く存在すれども肉眼にては個々を明視し得ず）、石英（白き筋をなせる部に多く存在すれども個々の粒は明視し得ず）。
4 用途、無し。　5 産地、上伊那郡美和村。
6 特徴、外観緑色、縞状をなし、鏡検すれば緑色の緑泥石と透明なる石英粒及不透明白色の長石を見るを得。

15 白点緑泥片岩

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。
3 成分、緑泥石（緑色針状の結晶なれども肉眼には明視し難し）、石英（透明不規則なる粒）、長石（白色の粒、殊に大なる斑点をなせるものは明に見るを得）。
4 用途、無し。　5 産地、上伊那郡高遠町。
6 特徴、緑色の片岩にして長石粒より成れる白点を有す。緑色鉱物は大抵緑泥石なり。

16 石墨片岩

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。
3 成分、石英（白き筋の部を成せども個々を明視し難し）、長石（細小なる結晶散在すれども明視し難し）、石墨（黒色、軟にして指を染む）。
4 用途、石墨を多く含むものは石墨を採り得。
5 産地、上伊那郡高遠町。
6 特徴、黒色にして稍金属光沢を帯び容易に爪にて傷け得、指を染む、片状組織なり。

17 石墨片岩

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。
3 成分、15に同じ。　4 用途、無し。
5 産地、上伊那郡美和村。
6 特徴、造山力によれる岩石の褶襞を明かに顕はす。

18 石灰岩

1 時代、太古大統。　2 成因、変成。
3 成分、方解石（微粒なるを以て肉眼にては認め難し）。
4 用途、石灰製造の原料。　5 産地、上伊那郡藤沢村。
6 特徴、粒状にして且つ片状組織を為し酸類を注げば発泡溶

解し小刀にて傷つくることを得。

19 角閃岩

1 時代、古生大統。　2 成因、水成。
3 成分、角閃石（緑黒色の粒）。
4 用途、石材。　5 産地、上伊那郡美和村。
6 特徴、緑色凝灰岩の如くにして然らず。主成分たる角閃石は肉眼にても明視し得。五無斎曰はく本産地に於ては普通秩父古生層の下部たる輝岩を採集する積りなりしも誤つて角閃岩を採集したるなり。岩石採集の困難宜敷御推察あれ。

20 白色硅岩

1 時代、古生大統。　2 成因、水成。
3 成分、石英（微粒より成れるを以て肉眼にて個々の粒を明視し難し）。
4 用途、無し、純粋なるは硝子の原料となす。
5 産地、上伊那郡三義村。
6 特徴、白色にして一見石灰岩の如きも硬度の高きと酸類に作用せられざるを以つて別ち得るなり。

21 赤色硅岩

1 時代、古生大統。　2 成因、水成。
3 成分、石英（微粒を成せるを以て肉眼にては粒を明視し難し）赤鉄鉱等（赤色を呈くるは多くは赤鉄鉱なれども肉眼にて此鉱の結晶個々を明視し難し）。
4 用途、無し。　5 産地、上伊那郡三義村。
6 特徴、硬度水晶に似て赤色なり。

22 角岩

1 時代、古生大統。　2 成因、水成。
3 成分、硅酸。　4 用途、無し。
5 産地、南安曇郡安曇村。
6 特徴、堅実、緻密、断口は介殻状なり。

23 石灰岩

1 時代、古生大統。　2 成因、水成。
3 成分、炭酸カルシユーム。
4 用途、石灰製造。　5 産地、上伊那郡三義村。
6 特徴、小刀にて傷き酸類に発泡溶解す。

24 炭質石灰岩

1 時代、古生大統。　2 成因、水成。
3 成分、炭酸カルシユーム、黒色なるは炭質物を含有するによる。

4 用途、石灰製造。 5 産地、上伊那郡東筑輪村。
6 特徴、硬度小刀より低く〻酸類に遇ふて発泡溶解す。

25 変質フズリナ石灰岩

1 時代、古生大統。 2 成因、水成。
3 成分、炭酸石灰。 4 用途、石灰製造。
5 産地、西筑摩郡大桑村。
6 特徴、石灰岩にして魚卵状の斑点はフズリナ虫の化石痕が結晶質に変じたるなり。

26 海百合石灰岩

1 時代、古生大統。 2 成因、水成。
3 成分、炭酸カルシユーム。
4 用途、石灰製造。 5 産地、東筑摩郡宗賀村。
6 特徴、石灰岩にして中に海百合の茎の化石あり。

27 砂岩

1 時代、古生大統。 2 成因、水成。
3 成分、主として砂粒よりなる。
4 用途、石材。 5 産地、上伊那郡美和村。
6 特徴、砂粒を明視し得。

28 粘板岩

1 時代、古生大統。 2 成因、水成。
3 成分、粘土。
4 用途、良質のものは石盤瓦等の代用となす。
5 産地、東筑摩郡塩尻村。
6 特徴、黒色緻密にして板状層理明なり。

29 雲母粘板岩

1 時代、古生大統。 2 成因、水成。
3 成分、粘土、炭質物、石英粒、雲母（緻密に結合するを以て肉眼にて各泥物を明視し難し只雲母のみ小板状をなせるを見るを得。
4 用途、無し。 5 産地、上伊那郡伊那町
6 特徴、板状黒色にして雲母を有す。

30 雲母粘板岩

1 時代、古生大統。 2 成因、水成。
3 成分、雲母（少し）石英、石墨を主とす。又雲母に変じたる紅柱石を含む。
4 用途、無し。 5 産地、上伊那郡藤沢村。
6 特徴、黒色にして片状を為し指を触るれば黒色に染む。

31 輝緑凝灰岩

1 時代、古生大統。　2 成因、水成。
3 成分、輝緑岩質の灰。分解甚し。（緑色なるは輝石の分解より来る）。
4 用途、硯材に用ふ。　5 産地、上伊那郡美和村。
6 特徴、緑色凝灰状なれども鏡検すれば輝石片の散点するあり。

32 輝緑凝灰岩

1 時代、太古大統。　2 成因、水成。
3 成分、30に同じ。其赤色なるは酸化鉄等を含むによる。
4 用途、硯材。　5 産地、上伊那郡美和村。
6 特徴、赤色硅岩の如くなれども硬度多少低し。

33 輝緑凝灰岩

1 時代、古生大統。　2 成因、水成。
3 成分、輝緑岩の灰（緑色の地）蛇紋岩の礫。
4 用途、無し。　5 産地、上伊那郡三義村。
6 特徴、輝緑凝灰岩なれども蛇紋岩の礫を有するを特異とす。

34 礫岩

1 時代、中生大統。　2 成因、水成。
3 成分、礫は硅岩及び硅質粘板岩にして膠着物質は硅酸也。
4 用途、無し。　5 産地、南佐久郡大日向村。
6 特徴、所謂礫岩組織にして硬度割合に高きを以つて他より区別し得るなり。

35 三角介（トリゴニア）砂岩

1 時代、中生大統。　2 成因、水成。
3 砂粒と膠着質とより成り中に三角介及其他の化石を有す。
4 用途、無し。　5 産地、上伊那郡三義村。
6 特徴、硬き砂岩にして三角介の化石を認む。
五無斎曰はく此の三角介は中生大統白堊系の標準化石なり。元来水成岩の時代なるものは此標準化石によつて始めて決定せらるゝものなり。故に本岩を採集するに当つては此化石に重きを置きたりし為め標本の意外に小なるものあり。覧者諒焉。

36 頁岩

1 時代、中生大統。　2 成因、水成。
3 成分、粘土より成れども多量の有機物を含む。

4 用途、無し。　5 産地、南佐久郡大日向村。
6 特徴、粘板岩の如きなれども彼の如く板状層理明かならず。而かも近生大統の頁岩の如く軟かならず。

37 礫岩

1 時代、近生大統。　2 成因、水成。
3 成分、礫は硅岩、硅質粘板岩にして膠着物質は多量の砂を混ず。
4 用途、無し。　5 産地、上水内郡栄村。
6 特徴、礫岩組織にして介類の化石を含む。
五無斎曰はく礫岩といひ砂岩といひ其成分たる砂礫粒の大小により仮りに名づけたるものなり。本岩の採集に当りては水成岩殊に鹹水中にて出来たる水成岩なるを証せんが為めに化石に重きを置き、往々砂岩の如きもあらん。覧者諒焉。以下38・39・40・41も亦同じ。

38 砂岩

1 時代、近生大統。　2 成因、水成。
3 成分、砂粒と膠着物質とより成る。
4 用途、石材。　5 産地、諏訪郡中洲村。
6 特徴、砂粒を明かに認め得、稍堅緻なり。

39 花崗質砂岩

1 時代、近生大統。　2 成因、水成。
3 成分、石英、長石、雲母の外方解石を含み且つ介類の化石を有す。膠着物質は主として炭酸石灰なり。
4 用途、無し。　5 産地、下伊那郡富草村。
6 特徴、砂粒は上記の鉱物より成る。

40 礫質砂岩

1 時代、近生大統。　2 成因、水成。
3 成分、礫及び砂粒より成り膠着物質は硅酸なり。
4 用途、無し。　5 産地、諏訪郡中洲村。
6 特徴、礫及砂粒を明視し得、稍堅し。

41 礫質砂岩

1 時代、近生大統。　2 成因、水成。
3 成分、砂粒と礫とを認め得。膠着物質は火山灰質粘土。
4 用途、無し。　5 産地、北佐久郡志賀村。
6 特徴、礫砂の外ホタテ貝等の化石を含む。

42 凝灰岩

1 時代、近生大統。　2 成因、水成。

3 成分、火山灰　4 用途、無し。
5 産地、小県郡武石村。
6 特徴、凝灰質なれども第三紀以後のものよりも硬し。

43 裾花凝灰岩

1 時代、近生大統。　2 成因、水成。
3 成分、火山灰。　4 用途、石材。
5 産地、上水内郡旭山。
6 特徴、石英粗面岩の凝灰岩なるを以て硬度割合に高し。

44 凝灰質頁岩

1 時代、近生大統。　2 成因、水成。
3 成分、火山灰と粘土。　4 用途、無し。
5 産地、南佐久郡内山村。
6 特徴、比重低く〻層理明かに植物の葉の化石あり。
五無斎曰はく本岩は化石の保存極めて完全なるものあり。然れども五無斎稍横着心の発現より人夫に托して之を採集せしめたりし為め化石の附着し居るも有れば又無きもあり。覧者諒焉。

45 変質頁岩

1 時代、近生大統。
2 成因、水成なれども触接変質を受けたり。
3 成分、粘土。　4 用途、硯材。
5 産地、埴科郡豊栄村。
6 特徴、粘板岩の如くにして板状理明かならず。頁岩にして堅実の度高し。然り而して其黒色の斑点あるは変質岩たるの兆証なり。
五無斎曰はく同地方にては村雨石と称し文人墨客の間には硯材として之を賞用するものありと雖も硯材としては寧ろ不適当なるを免れず。

46 磨(す)れ肌裾花凝灰岩

1 時代、近生大統。　2 成因、動力によりて起る。
3 産地、上水内郡旭山。
4 特徴、裾花凝灰岩の一面鏡の如く其面に抓(かき)状あり。
五無斎曰はく本標本中には磨れ肌として稍首肯し難きものあり。請諒焉。

47 火山礫。角閃安山岩の礫

1 時代、近生大統。　2 成因、風生。
3 産地、南安曇郡焼岳。
4 特徴、有孔質にして往々亀列を見る。
五無斎曰はく本火山礫は明治四十二年六月一日焼岳爆発の際

同噴火孔より約拾町許りなる蒲田峠の頂上に降下したるものなり。

48 火山灰

1 時代、近世大統。　2 成因、風生。
3 成分、輝石、角閃石、長石、石英等。
4 用途、無し。　5 産地、北佐久郡小諸町。
6 特徴、礫の有孔質なるを雑ふることあり。

五無斎曰はく元来標本の順序としては第四系に属する洪積冲積両層の礫砂泥等を蝟詰として此あたりに列する筈なれども何れの地方にも産するものなれば火山礫及火山灰を以つてしたるなり。覧者諒焉。

49 両雲母花崗岩

1 成因、深成。
2 成分、石英（透明稍飴色の不規則粒）、正長石（白色不規則粒）、黒雲母（前出）、白雲母（銀色の鱗状結晶、閃き強し）。
3 用途、石材。　4 産地、上伊那郡西駒ケ岳。
5 特徴、粒状組織にして上記の成分鉱物を明視し得。

50 黒雲母花崗岩

1 成因、深成。
2 成分、石英（稍透明の不規則粒）、長石（白及肉紅色の不規則粒、割れ肌閃く）、黒雲母（前出）。
3 用途、石材。　4 産地、北安曇郡大黒岳。
5 特徴、粒状組織をなし上記の成分鉱物を明視し得。

51 角閃黒雲母花崗岩

1 成因、深成。
2 成分、石英（前出）、長石（前出）、黒雲母（前出）、角閃石（閃き前者より鈍く柱状をなせども細小粒なるを以て肉眼にては区別し難し）。
3 用途、石材。　4 産地、諏訪郡永明村。
5 特徴、粒状組織にして上記の成分鉱物を明視し得。

52 花崗斑岩

1 成因、深成。
2 成分、石英（前出）、雲母（前出）、長石（大なる粒にては割れ肌の閃き強きを見るを得）。
3 用途、石材。　4 産地、西筑摩郡福島町。
5 特徴、花崗岩の如くにして而かも長石、石英の大なる斑晶

を認め得。

53 小花崗岩

1 成因、深成。
2 成分、石英（前出）、長石（前出）、雲母（雲母は皆緑泥化せり）。
3 用途、石材　4 産地、北安曇郡大黒岳。
5 特徴、一見花崗岩の如くならざれども鏡検すれば各成分鉱物の粒子を見るを得。

54 石英斑岩

1 成因、噴出。
2 成分、正長石（銹色短冊形）、石英（透明、飴色を帯び多くは六角形の輪廓をなす）、雲母（量少く且つ細小）。
3 用途、石材。　4 産地、西筑摩郡王滝村。
5 特徴、緻密なる石基中に石英及正長石の斑晶大なるあり。

55 閃緑岩

1 成因、深成。
2 成分、斜長石（白き短冊形の粒）、角閃石（黒き柱状の粒）。
3 用途、石材。　4 産地、南佐久郡田口村。
5 特徴、緑色なるは角閃石等の分解より来れるなり。

56 閃緑岩

1 成因、深成。
2 成分、斜長石（前出）、角閃石（前出）。
3 用途、石材。　4 産地、諏訪郡下諏訪町。
5 特徴、玢岩に似たれども粒状組織。

57 石英閃緑岩

1 成因、深成。
2 成分、石英（前出）、斜長石（前出）、角閃石（前出）。
3 用途、石材。　4 産地、小県郡武石村。
5 特徴、粒状組織にして上記の成分鉱物を認め得。

58 石英玢岩

1 成因、噴出。
2 成分、石英（前出）、長石（短冊形、白色不透明の粒、之れ分解せし為めなり。
3 用途、石材。　4 産地、諏訪郡富士見村。
5 特徴、斑状組織にして長石及石英の斑晶散点せり。

59 輝緑岩

1 成因、深成。

2 成分、斜長石（前出）、輝石（緑色、短柱状の細粒）、角閃石（肉眼にては前者と区別し難し）。
3 用途、無し。 4 産地、小県郡武石村。
5 特徴、緑色緻密の粒状組織をなす。

60 輝緑岩

1 成因、深成。
2 成分、輝石（前出）、斜長石（前出）。
3 用途、石材。 4、産地、上伊那郡高遠町。
5 特徴、オフキチック組織。

61 飛白（かすり）岩

1 成因、深成。
2 成分、白きは斜長石、黒く雲母の如く輝くは異剝石なり、緑色になれるは異剝石の分解して角閃石を生ぜしによる。斜長石の染まれるも同理による。
3 用途、無し。 4 産地、下伊那郡大鹿村
5 特徴、粒状組織、異剝石は雲母の如く輝けども劈開片弾力性なきを以て判別し得。

62 飛白岩

1 成因、深成。
2 成分、異剝石（前出）、長石（前出）。
3 用途、無し。 4 産地、諏訪郡玉川村。
5 特徴、緻密にして一見飛白岩の如くならざれども鏡検すれば上記の鉱物を認め得。

63 飛白岩質閃緑岩

1 成因、深成。
2 成分、斜長石（元来白色なりしが分解の結果他の緑色鉱物を復生し緑色となれり）、異剝石（前出）、角閃石（前出、然れども前者と肉眼にて区別し難し）。
3 用途、無し。 4 産地、上伊那郡三義村。
5 特徴、異剝石は分解して角閃石を生じ為めに全岩著しく緑色を帯ぶ。

64 蛇紋岩

1 成因、深成?。
2 成分、蛇紋石（草緑色の部）、磁鉄鉱（本岩に黒色を帯ばしむる細晶なれども肉眼にては明視し難し）、クローム鉄鉱（同前）。
3 用途、無し。 4 産地、上伊那郡美和村。
5 特徴、著しく黒色を呈せるは上記中、後の二成分の多きによる。

65 蛇紋岩

1 成因、深成?。
2 成分、蛇紋石（草綠色の部）、クローム鉄鉱（黒色の筋の部）、等
3 用途、印材。　4 産地、諏訪郡横川谷。
5 特徴、草綠色。

66 綠簾流紋岩

1 成因、噴出。
2 成分、石英（已出）、長石（已出）を主とし分解物綠簾石を所々に散在す。
3 用途、無し。　4 産地、小県郡傍陽村。
5 特徴、斑状組織、斑晶は六角形の石英を主とす。

67 紅簾流紋岩

1 成因、噴出。
2 成分、石英（已出）、長石（已出）、雲母を主として分解物として紅簾石を有する。
3 用途、無し。　4 産地、小県郡傍陽村。
5 特徴、斑晶は石英及玻璃状長石にして所々に紅簾石の紅色集合体を認め得。

五無斎曰く以上二種の岩石中紅簾流紋岩にして綠簾石を含むものあり。又綠簾流紋岩にして紅簾石を含むものあり。産地同一なりしため相混じたる虞れあり、諸子請ふ諒焉。

68 角閃富士岩

1 成因、噴出。
2 成分、斜長石（已出）、角閃石（黒色短冊形の粒）。
3 用途、石材。　4 産地、諏訪郡上諏訪町。
5 特徴、多孔質、暗紅色の石基中に斜長石と角閃石の斑晶を有す。

69 英閃富士岩

1 成因、噴出。
2 成分、斜長石（已出）、角閃石（已出）、副成分として磁鉄鉱を有す、石英は肉眼にて見えず。
3 用途、石材。　4 産地、上水内郡戸隠村。
5 特徴、斑晶は斜長石と角閃石となり稍綠色を帯べるは角閃石の分解より来れるなり。

70 輝閃富士岩

1 成因、噴出。
2 成分、斜長石（已出）、輝石（已出）、角閃石（前者より少

しく細長く割れ肌閃き強し、然れども両者共に微粒にして本標本にては明視し難し)。

3 用途、石材。 4 産地、長野市郷路山。

5 特徴、有孔質斑状組織なり。

71 輝石富士岩

1 成因、噴出。

2 成分、斜長石(已出)、輝石(黒色粒)等。

3 用途、石材。 4 産地、上水内郡飯綱山。

5 有孔質、斑状組織、大なる斑晶は輝石の結晶なり。

72 雲母富士岩

1 成因、噴出。

2 成分、斜長石(已出)、輝石(已出)、黒雲母(已出)。

3 用途、石材。 4 産地、北佐久郡軽井沢町。

5 特徴、有孔質、帯色の石基中に大なる斜長石(白)黒雲母(黒色にして光沢強し)及輝石(黒色にして雲母の如く輝かず)の斑晶を有す。

73 玻璃質富士岩

1 成因、噴出。

2 成分、斜長石(已出)、角閃石(已出)。

3 用途、無し。 4 産地、北佐久郡志賀村。

5 特徴、石基は玻璃質なり。

74 橄輝富士岩

1 成因、噴出。

2 成分、斜長石(已出)、橄欖石(オリーブ緑の小粒)、輝石(已出)を主成分とす。

3 用途、無し。 4 産地、諏訪郡茶臼山。

5 特徴、多孔質、斑状組織、斜長石(白)橄欖石(オリーブ緑)輝石(黒色)の斑晶を有す。

75 玄武岩質富士岩

1 成因、噴出。

2 成分、輝石(已出、肉眼にては認め難し)斜長石(已出)等。

3 用途、石材。 4 産地、下高井郡野沢温泉。

5 特徴、黒色緻密なり鏡検すれば玄武岩様組織を認め得。

76 玄武岩

1 成因、噴出。

2 成分、斜長石(已出)、橄欖石(已出)、輝石(已出)。

3 用途、無し。 4 産地、諏訪郡和田峠。

5 特徴、黒色緻密の塊状岩にして顕微鏡下には多くの橄欖石結晶を見るを得。

77 黒曜岩

1 成因、噴出。 2 成分、火山玻璃の一種。
3 用途、無し。 4 産地、諏訪郡擂鉢山。
5 特徴、流状明かにして其質黒色玻璃の如く介殻状断口あり。

78 顆粒状黒曜岩

1 成因、噴出。 2 成分、火山玻璃。
3 用途、少しく印材として使用す。
4 産地、諏訪郡冷山。
5 特徴、黒色玻璃質にして介殻状断口明かなり。数多の顆粒をなす。

79 真珠岩

1 成因、噴出。 2 成分、火山玻璃の一種。
3 用途、無し。 4 産地、上水内郡安茂里村。
5 特徴、全体玻璃質にして往々肉眼にて明視すべき斑晶を有し且豆粒大の核子組織をなす。

80 火山熔岩

1 成因、噴出。 2 成分、
3 用途、無し。 4 産地、北佐久郡浅間山鬼押出。
5 特徴、有孔質にして流紋を明視し得、天明三年の噴出にかかる。

81 浮岩

1 成因、噴出。 2 成分、
3 用途、浴室用。 4 産地、北佐久郡小諸町。
5 特徴、熔岩が多量の瓦斯を包有して併発せしが故に多孔質にして比重頗る低し。

82 火成岩の柱状節理（玢岩）

1 成因、噴出。 2 成分、
3 用途、無し。 4 産地、小県郡丸子村。
5 特徴、火山岩の冷ゆるに際し其冷却面に直角の方向に柱を立てたる如く節理を生ずるなり。

83 火成岩の板状節理

1 成因、噴出。 2 成分、
3 用途、石材として盛んに採掘す。

4 産地、諏訪郡上諏訪町。
5 特徴、火山岩の冷ゆるに際し、其冷却面に平行して板状の節理を生ず。

84 自然硫黄（元素）

1 母岩、輝石安山岩。 2 成因、硫気作用。
3 成分、硫黄。 4 用途、硫黄製造の原料となる。
5 産地、上高井郡白根山。
6 特徴、色黄、火に投じて燃え易く、青焔と特異の臭気とを発す。

85 黄鉄鉱（硫化物）

1 母岩、凝灰岩。 2 成因、変質仮像。
3 成分、硫黄と鉄なれども表面は変質して褐鉄鉱となり褐色を呈す。
4 用途、無し。 5 産地、小県郡武石村。
6 特徴、火に投じて硫黄臭を発し金属光沢、黄色、条痕は緑黒色 FeO_2 と $\left[\frac{SO_2}{2}\right]$ の集像をなす。

86 黄鉄鉱（硫化物）

1 母岩、凝灰岩。 2 成因、
3 成分、硫黄と鉄。 4 用途、
5 産地、小県郡西内村。
6 特徴、硬度黄銅鉱より高く八面体及立方体及五角十二面体の一部を見る。条痕は緑黒色。

87 閃亜鉛鉱（硫化物）

1 母岩、凝灰岩。 2 成因、
3 成分、硫黄と亜鉛。 4 用途、亜鉛の原料。
5 産地、小県郡西内村。
6 特徴、樹脂様色沢、劈開は SO なるを以て類似の鉱物より分つことを得、まま黄鉄鉱（黄色）方鉛鉱（鉛色）を混ず。

88 雲母鉄鉱（酸化物）

1 母岩、凝灰岩。 2 成因、
3 成分、酸素と鉄。 4 用途、製鉄の原料。
5 産地、小県郡和田村。
6 特徴、結晶は魚鱗の如く稍雲母に似たれども重くして且弾力性なきを以て分つことを得。

89 磁鉄鉱（酸化物）

1 母岩、秩父古生層。 2 成因、接触作用。
3 成分、酸素と鉄。 4 用途、製鉄の好材料。
5 産地、南佐久郡大日向村。

6 特徴、比重高く磁力強し、条痕黒き故赤鉄鉱と区別すべし。

90 水晶（酸化物）

1 母岩、花崗岩。 2 成因、
3 成分、酸素と硅素。 4 用途、無し。
5 産地、南佐久郡川上村。
6 特徴、硬度7、柱面に無数の横条を有す。

91 鱗石英（酸化物）

1 母岩、輝閃富士岩。 2 成因、
3 成分、酸素と硅素。 4 用途、無し。
5 産地、長野市郷路山。
6 特徴、水晶と同質なるも微細なる六角板の形をなす。

92 蛋白石（酸化物）

1 母岩、富士集塊岩。 2 成因、
3 成分、酸素、硅素、水素。
4 用途、上等なるは装飾用となし得。
5 産地、北安曇郡中土村。
6 特徴、樹脂状光沢を有し、まま虹色を呈するものあり、閉管中に熱すれば放水す。

93 硅化木（酸化物）

1 母岩、第三紀層。 2 成因、交替仮像。
3 成分、硅素、酸素、水素。
4 用途、装飾用材となすことあり。
5 産地、北安曇郡中土村。
6 特徴、木理を有すれども有機質ならずして硅酸より成る故に硬度高し。

94 泥鉄鉱（酸化物）

五無曰く本標本は磁鉄鉱の次に入可し。
1 母岩、第三紀層。 2 成因、
3 成分、酸化鉄粘土。 4 用途、無し。
5 産地、下水内郡常盤村。
6 特徴、多分の粘土を混じ管状を為す。

95 螢石（鹵石物）

1 母岩、花崗岩。 2 成因、
3 成分、弗化カルシユーム
4 用途、熔融剤となし或は弗酸の製造に用ふ。
5 産地、西筑摩郡田立村。
6 特徴、硬度四、小片を熱すれば爆裂に次ぐに燐光を以て

す。

96 方解石（炭酸塩類）

1 母岩、石灰岩。 2 成因、沈澱。
3 成分、炭酸カルシユーム。 4 用途、
5 産地、西筑摩郡楢川村。
6 特徴、硬度三、半透明、劈開R面に完全なり。

97 方解石（炭酸塩類）

1 母岩、石灰岩。 2 成因、沈澱。
3 成分、炭酸カルシユーム。 4 用途、
5 産地、東筑摩郡塩尻村。
6 特徴、小刀にて傷き、面の完全劈開を有す。

98 玄能石（炭酸塩類）

1 母岩、第三紀層。
2 成因、交代塡充像、（母鉱ゲーリウサイト?）。
3 用途、 4 産地、小県郡青木村。
5 特徴、母鉱の形をとりて玄能の如き形をなせるが故に名づく。

99 霰石（炭酸塩類）

1 母岩、鉄父古生層?。 2 成因、熱泉作用。
3 成分、炭酸カルシユーム。
4 用途、 5 産地、南安曇郡白骨温泉。
6 特徴、方解石より硬度少しく高く然かも冷塩酸に溶け発泡す。

100 霰石（炭酸塩類）

1 母岩、鉄父古生層?。 2 成因、熱泉作用。
3 成分、炭酸カルシユーム。
4 用途、無し。 5 産地、北安曇郡高瀬川上流。
6 特徴、球形をなして白色実に霰石の名に背かず、特徴は前者に等し。

101 紅柱石（硅酸塩類）

1 母岩、雲母粘板岩。 2 成因、接触作用。
3 成分、硅酸礬土。 4 用途、無し。
5 産地、上伊那郡宮田村。
6 特徴、淡紅色を帯び柱状結晶をなし分解すれば雲母様物質を復生す。

102 緑簾石（硅酸塩類）

1 母岩、凝灰岩。　2 成因、復生。
3 成分、硅酸、礬土、鉄、カルシユーム、の化合物にして水を含む。
4 用途、無し。　5 産地、小県郡武石村。
6 特徴、草緑色にして細針状をなし凝灰岩中に晶腺をして産す。

103 柘榴石（硅酸塩類）

1 母岩、花崗岩。
2 成因、ペグマタイトの副成分として産す。
3 成分、硅酸塩類。　4 用途、飾玉。
5 産地、上伊那郡太田切川。
6 特徴、硬度七、色は暗紅、8O，と202のとあり。

104 柘榴石（硅酸塩類）

1 母岩、火山玻璃。　2 成因、
3 成分、硅酸、礬土、鉄、マンガン。
4 用途、無し。　5 産地、和田峠。
6 特徴、硬度七、金剛光沢を有し暗紅色、晶形は8Oと202との集形をなす。

105 菫青石（硅酸塩類）

1 母岩、火山熔岩に捞取せられたる水成岩。
2 成因、接触作用。
3 成分、周囲白色の部は水成岩が熔岩の熱にあふて変ぜしならん菫青石は稍紫色を帯ぶ。
4 用途、無し。　5 産地、北佐久郡浅間山。
6 特徴、鏡下にて紫色を帯ぶると交叉三連晶をなして横断面の輪廓六角形をなすとにより明かなり。

106 硅灰石（硅酸塩類）

1 母岩、石灰岩。　2 成因、接触作用。
3 成分、硅酸石灰。　4 用途、無し。
5 産地、北安曇郡常盤村仏峠。
6 特徴、白色放射状に集り粉末を塩酸に入るれば容易に膠状となる。

107 輝石（硅酸塩類）

1 母岩、輝石冨士岩。　2 成因、熔融より来る。
3 成分、硅酸、礬土、鉄、苦土。
4 用途、無し。　5 産地、南佐久郡大沢村。
6 特徴、黒色短柱状、小刀を以て試むるに角閃石の如く劈開

完全ならず、往々双晶を見る。

108 輝石（硅酸塩類）

1 母岩、鉄父古生層。 2 成因、接触作用。
3 成分、硅酸、鉄、カルシユーム
4 用途、無し。 5 産地、南佐久郡大日向村。
6 特徴、緑黒色繊維状をなし、硬度六、好で磁鉄鉱床に出づ。

109 角閃石（硅酸塩類）

1 母岩、角閃花崗岩。 2 成因、熔融より来る。
3 成分、硅酸、鉄、苦土、カルシユーム。
4 用途、無し。 5 産地、諏訪郡永明村。
6 特徴、扁平なる柱状にして柱面に劈開完全なり。

110 透角閃石（硅酸塩類）

1 母岩、花崗岩。 2 成因、
3 成分、硅酸、マグ子シユーム、カルシユーム、鉄。
4 用途、無し。 5 産地、南佐久郡川上村。
6 特徴、白色にして少しく緑色を帯び柱状結晶をなす。

111 正長石（硅酸塩類）

1 母岩、花崗岩。 2 成因、熔融より来る。
3 成分、硅酸、礬土、加里。
4 用途、陶器の原料。 5 産地、下伊那郡下川路村。
6 特徴、硬度六、白色柱状底面に平行の劈開線明かなり、双晶多し、比重2.6、雲母石英と共生。

112 斜長石（硅酸塩類）

1 母岩、石英富士岩。 2 成因、石英富士岩より抜来る。
3 成分、硅酸、礬土、ナトリユーム、カルシユーム。
4 用途、無し。 5 産地、小県郡西塩田村。
6 特徴、硬度六、比重少しく前者より高し、柱状結晶は打違に双晶をなし所謂「チガヒイシ」をなす。

113 曹達弗石（硅酸塩類）

1 母岩、富士粟塊岩。 2 成因、復生。
3 成分、硅酸、礬土、曹達、水。
4 用途、無し。 5 産地、小県郡西塩田村。
6 特徴、白色繊維状に集り細片を取りて火に翳せば容易に熔融す。

114 黒雲母（硅酸塩類）

1 母岩、花崗岩。 2 成因、
3 成分、硅酸、鉄、苦土等。 4 用途、無し。
5 産地、上伊那郡太田切川。
6 特徴、黒褐色にして劈開著るしく其片に弾力性あり。

115 滑石（硅酸塩類）

1 母岩、鉄父古生層。 2 成因、
3 成分、硅酸、苦土。 4 用途、無し。
5 産地、諏訪郡金沢村。
6 特徴、硬度一、手指を触るれば脂感あり。

116 陶土（硅酸塩類）

1 母岩、裾花凝灰岩。 2 成因、復成。
3 成分、硅酸、礬土、水。
4 用途、磨き粉。 5 産地、上水内郡安茂里村。
6 特徴、呼気を吹かけ土臭あり。舌をつくれば吸付力強し。

117 褐炭（燃焼物）

1 母岩、第三紀層。 2 成因、炭化作用。
3 成分、炭素、水素、酸素、窒素等。
4 用途、燃料。 5 産地、小県郡依田村。
6 特徴、比重低く、容易に燃焼す。木理の尚ほ存するものあり。又松脂類を混ずるものあり。

118 褐炭（燃焼物）

1 母岩、第四期層。 2 成因、炭化作用。
3 成分、炭素、水素、酸素、窒素等。
4 用途、無し。 5 産地、北佐久郡小諸町。
6 特徴、火に投ずれば燃え比重稍低し。

119 石油（燃焼物）

1 母岩、第三紀層。 2 成因。
3 成分、炭化水素。 4 用途、無し。
5 産地、上水内郡浅川村。
6 特徴、比重1より低く、特異の臭気あり。

120 石鏃

石器時代の武器。

大抵黒曜石より造れるも稀には赤色硅岩より造るもあり。

五無斎曰く石鏃は敢へて岩石鉱物の標本には非れども今回の旅行中坪井博士並に田中子爵によつて発見せられ或は水上生

活の遺物なりといひ或は然らずという。余は神保博士並に田中子爵の主張せらるゝ後説を信ずるもの。且つ世の好事家の玩弄品となりて頗る散逸を恐るゝもの乃ち之を本標本中に納む。覧者諒焉。（明治四三、一、一　長野市商水活版所発行）

八　石器時代の遺跡湖中の山嶽

ソ子に関する憶説

准原人　石屋五無斎

文明開化の今日、定まれる家もなく、鉄槌六挺、蝙蝠傘一本、印半纏に腹懸、以つて酒食の慾を恣にして、岩石鉱物を遂うて移転するもの、之を准原人の石屋五無斎となす。殊に昨明治四十一年中、上伊那地学標本採集の折、不図したることより石鏃製造の方法を発明したることもあれば、益々其原人に近きを証するものなり。従来五無斎の筆ダラ〳〵とダラシなく長し。然れども是は学術上の事なれば之を条説せん。

第一条　ソ子は反嶺（そりみね）等の説もあれども、磯嶺の略、即ち湖中の山嶽としたる方、諏訪としては面白からん。

第二条　ソ子の位置は上諏訪町の北方大和といふ所の西湖岸を距る六七町の所にあり。東西二町半、南北三町半位の面積を有し、水深は三米、即ち八九尺以内なり。

第三条　ソ子の地質は表面極めて細微なる淤泥一二寸を沈澱すと雖も、以下小藤博士の所謂泥流なること。然り而して淤泥は都べて濁水の持ち来したるものにして、泥流は湖東なる霧ガ峯火山の初期に噴出したるものなり。

第四条　ソ子に産する遺物は次の如し。

一　石鏃。三四時間の採集中六七十個を得可き程に多量なり。

二　同破片、同上三四時間の採集中、二三百を得可き程に多量なり。

三　有紋土器の破片。同上六七分平方位のもの二個位得可き程に少量なり。而してその特徴とすべきは、従来他の陸地上に産するものよりは、一分五厘位のウスツペラなるにあり。

四　野猪の歯牙。同上三四時間中に得可き砂利の量は、普通三四升許りなるが、其中の一升許りを橋本福松君が、帝国大学へ持参したるものの中より、不図一個を発見したりといふ。是は東京帝国大学動物学教室の検定を経たる由なれば一点の疑なし。尚貧半堂君は更に立派なる牙を得たりといふ。

五　籌の実。是れ亦橋本君が大学に持ち行きたる砂利のうちより得たるものなり。植物学教室の検定によれば、現今のものよりは稍小粒にして、而かも炊りてありたりといふ。之れ是等の土人は既に其火食の道を知り居りて、鼻を欺瞞して此籌の実を馬喰ひたるを知るに足る。

第五条　ソ子に於ては他の遺跡地の如く石棒、凹み石の類、雷斧の類、石庖丁、石槍の類を産せず、或る人は此地より出でたる石槍の破片を得たりと言ひ触らし居れども怪しきものなり。

第六条　石鏃の原料及其産地は次の如し。

一　黒曜石。諏訪湖附近に産する本岩の産地は冷山、擂鉢山、星糞、和田の両峠なれども多分は星糞及び和田の両地ならんと推定す。

二　赤色硅岩。諏訪湖の西方金沢峠の物ならんか。尤も本岩は荒川岳中の各所に産す。

三　角岩、同前

四　粘板岩。上伊那郡の各所に産す。

五　玻璃質富士岩?。南北佐久の境上にある荒船火山の最後に噴き出したるものなり?。を附したる所以のものは顕微鏡上の検定を経ざるが為めなり。而して南佐久の土人は本岩を貿用したりと見えたり。

六　蛋白石。下諏訪町のうち高木及び横川各附近に産す。

第七条　ソ子は其昔湖中の一小嶋なる可しと推定す可き理由あること。

一　下諏訪町の南六七町高木附近には、一方陥落して一方隆起する所あり。然り而して其地質はさきに記載したるソ子の地質と同じく火山の泥流なり。

二　高島城趾は天正年間ソ子やら片端附近やら将た其他やらの土砂を運び来りたる様、伝説記録等の有るありと雖も鑿空に湖中の築城は、ヘボ大名の力能く及ぶ所にあらず。力の及ぶ及ばざるは左も右もとして、左様なる無鉄砲なる立案の脳中に産すること、空中楼閣と殆んど一般なり。されば高島城趾の如きは、必竟は当時のソ子若しくは湖中の島なる可しと推定す。且つ同城趾よりは橘本君のみならず五無斎さへも土器の破片二三を得たることありたり。尚高島築城の際ソ子より土砂を運搬し来りたりとの伝説は、今回の発見によりて目出度湖東野人の言となりたり。故に高島城は、片端附近より土砂を運搬し来りてソ子若しくは湖中の島の上に築城したるものなりと考ふるを以つて最も穏当なりと推定す。

三　偶然か将た然らざるか善くは分らざれども、高木附近の隆起地と今回のソ子と高島城趾とは、凡そ南北の方向に走り一直線上に在りて殆んど支那山系の方向と一致す。理学士山崎直方君は此諏訪の地たる釜無断層やら八ヶ岳火山列によりて出来たる南甲州に通じおる一縦谷が八ヶ岳噴火の為めに通路を絶たれたる水の、川岸、湊、二村間の凹地、即ち塩尻峠及び守屋火山の間を通過して、上下伊那の地を迂廻して天竜の流と変じ遠く太平洋に朝したるの余水、即ち諏訪湖なりといふ。此釜無断層線の方向、即ち支那山系の方向、即ち高木の隆起地と、ソ子と高島城を連結する一直線の方向と一致す。尚某理学士は、下諏訪附近に於ても断層の滑面ある岩体を見られたりといふ。去れば此諏訪湖及び其附近に起る土地の陥没隆起及びソ子と高島城趾の成因と変化とは、此釜無断層に関係あるものならんか。尚ほ五無斎は東筑摩郡の洗馬村に於ても、断層の滑面たる、有名なる鏡岩を見たることありと雖も、余りに想像説を書き連ぬれば、忘想説空想説となりて学者のお小言が八ケ間敷き故に、此位にて偖て止めん哉。

第八条　坪井博士は水上生活の遺跡地ならんかと言はれたる由なれども、甚だ不感服なり。不感服なるの理由次の如し。

一　水中に枠の如きものあればとは、唯一の理由なれども、島中生活なればとて枠をば打たぬとは限らず、且つ其枠たる未だ確実なるものにては無し。

二　諏訪の地たる信州一の寒き所なり。寒天製造、製氷事業、氷滑開設地、等の十三字之を証明す。其昔人煙稀少なる時に当つては、人の身体より発散する熱量等も、将た薪炭より放散する熱量も少きこととて、現今よりは今一層寒気酷烈なりしならん。現今と雖も湖岸の旗亭は、冬期甚だ寂寞を感ずるを見る。夏季は兎も角も冬期の氷上生活は如何のものにや。

三　水上生活の用は猛獣毒蛇やら敵人の襲来やらを防がん為めなり。本邦由来猛獣毒蛇少く、殊に諏訪を甚しとなす。湖岸附近、水上生活の遺跡、陸続発見せられて有力なる証拠物の出でなば兎も角も余りに断定を取り急ぐは稍考ふ可きことなり。

第九条　准原人の石屋五無斎は夏期の遊山場として、又石簇製造場として、湖中の島を撰びたるものならんかと推定するものなり。推定したるの理由次の如し。

一　石簇及破片の多きこと。

二　土器の破片、及び其他の石器甚だ少きこと。殊に漁具に用いたる重錘の如きものをも見出さざるは、頗る奇妙なる現象なりとす。敵人の襲来を恐れて、水上生活を営まんが為めには一ト所帯を持つこととて、有らゆる石器土器の類を所持すべき筈なり。然るに此物従来絶えて発見せられざるは、遊山場として将た避暑地として、又石簇製造所として、呑気なる彼等が一層呑気心を発揮したるものと断定するを以つて最も適当なりと信ず。

第十条　斯く猿が人真似をして、水上生活には非ず、島中の避暑とか種々なる説を為すと雖ども是未定の問題なり。尚ほ他日大に研究を要するの必要あり。然れども前段記載したるが如く、僅々東西二町半南北四町許りの狭少なる遺跡地なれば、徳川時代の初めの頃、

世の物数寄連が無暗に古墳を発掘したる例により、矢鱈に採集せられて之を売買品、若しくは金持連の宝物などにな

つては溜らぬ事なりと思ふが故に、上諏訪警察署に於ては、之が標木を立て、其以内に於ては蜆掻魚釣り一切相成らぬ旨、公衆一般殊に漁民等に厳命せられんことを希望するものなり。高山などに上つた事もなく植物の採集など一回もした事もなく、山といふものは広く且つ大く且つ高く且つ人間業にては、迚も行けぬ所頗る多き事業を知らず、盲滅法界に弐号活字にて高山植物の保護を絶叫したる新聞屋も、ソンジョソコラにあるの世の中なれば、ソ子保護願一条を附記するものなり。

以上、明治四十二年六月二十三日　　（信濃公論　第三五号　明四二、六、三〇）

九　売上帳之序

石屋五無斎

自序　（猿が人真似をして）

信州産の標本を以つて日本の地質を説明すべしと言はゞ諸君或は一驚を喫せらるゝ事ならん。然れども五無が信の地たる支那樺太の両山系の逢着点に当り、富士火山脈は其東部に断続蝟起し所謂日本アルプスは其西部に連続聳立し、更に鳥海那須の両火山脈は此地を以つて終点と為す。乗鞍火山脈中の焼岳は近来其活動を開始して浅間と其雄を競ふに似たり。然り而して犀筑竜曾の四大河は悉く源を此地に発す。去れば五無が信の地たる地質学上頗る複雑を極むと雖も其興味の津ウ津ウたる事も亦全国各府県の首位にあるは啻にお国自慢のみにも非ざるなり。故に能く信の地質に精通せば他は悉く類推し得べきなり。之を要するに五無が信の地たる夫れ鯛の眼肉にも比すべからんか、鯛の眼肉を以つて中等普通教育に於ける少年児童が知能を発達せしめんが為めの資料に供せば其効力の顕著なること与に比すべきもの無から

ん。標本の販売者として長野市の木賃ホテルを発するに望み一言を巻首に弁ずるものなり。

明治四十三年三月三十一日　於長野市逢瀬

（信濃公論　第七六号　明四三、四、一三）

十　長野県小県郡鉱物標本目録標

保科百助　撰

×印は保科氏其地方に於て採集し　○印は同氏の新発見なり

	名称	産地	方名	備考
一	自然黄硫　×	長村字角間		
同	同　×	東塩田村字平井寺		現ニ採掘願中ナリ
二	○赤鉄鉱	武石村大字下本入		
三	褐鉄鉱　×	武石村大字下武石	プセキ	村名武石ヲ音読シタルモノナリ
同	同　×	西内村字高梨	プセキ	黄硫鉄鉱ヨリ褐鉄鉱ニ変化スルニ際タリ前者ハ凝灰岩絶壁ニ産シ後者ハ河底ニ生シ其事情稍異ナルヲ以テ従ツテ其外観ヲ殊ニス
四	黄硫鉄鉱　×	傍陽村字上洗馬		
同	同　×	神科村字山口		
同	同　×	東内村字虚空蔵		
同	×	武石村大字下武石	ヂヤカ	チヤカ〳〵ト光輝ヲ発スルカ故ニヂヤカト名ツケ黄金色ヲ呈スルカ

	同	余里其他諸所	金武石	故ニ金武石ト呼フモノナラン？
	同	和田村字上和田 神科村字新尾	オンバガ子	黄金箔金ノ謂ナラン？
五	黄硫銅鉱 ×	神科村字山口		
	同	傍陽村字軽井沢		今ヨリ数十年前採掘ニ従事セシカ今癈坑ナリ
	同	西内村字熊倉 常滑沢其他諸所		熊倉ハ現ニ試掘願中ニシテ常滑沢ハ既ニ許可ヲ得タリ
六	斑銅鉱 ×	西内村字熊倉		其量極メテ微ナリ
七	○方鉛鉱 ×	？		本原学校補習生徒ナルモノ神川ノ下流ニ於テ採集スルトコロニカカルサレハ其産地ハ上流ナル傍陽長二村ノ中ニアラン？
	同	大門村字落合		
	同	武石村大字余里		中ニ微量ノ銀分ヲ含ム去レハ数年前銀山ナリトテ採掘ニ従事セシ「アリシカ資本不足ノ為メ癈坑セリ
	同	西内村字熊倉		
八	雲母鉄鉱 ×	和田村字下和田		前小県督業、村瀬七三郎氏発見スルトコロナリ
九	？	西内村字熊倉		余ハ此鉱物コソ閃亜鉛鉱ナラメト之ヲ某専門家ニ質スニ或ル一種ノ銅鉱ナリト余曰クドーデス？
一〇	方解石 ×	東内村字新尾		褐色ヲ帯ブ
一一	水晶 ×	傍陽村字上洗馬	六方石	六方柱ノ結晶ヲナセル石ノ謂ナラン？
	×	東西内村諸所		
	×	武石村諸所		

一二	普通石英 ×	傍陽村字上洗馬			
一三	木化硅石 ×	東塩田村大字下ノ郷	木石		
同	同	豊里村大字長入	同		
同	同	浦里村字越戸	同		
一四	○角閃石 ×	長窪古町字立岩			
一五	石絨	依田村字尾ノ山			
同	同	浦里村字越戸			
一六	柘榴石 ×	和田村和田峠絶頂	菱石	其結晶斜方十二面形ナルカ故ニ菱石ト称シ緒メノ玉ニ似タルヲ以テ	
			緒メ石	緒メ石ト名ツケタルモノナラン？	
一七	黒曜石 ×	同	星糞		
一八	蠟石	傍陽村字上洗馬		数年前採掘ニ従事セシカ今廃坑セリ	
同	同	武石村大字上武石			
一九	苦土雲母 ×	武石村大字下本入		或人曰蛭石ト余曰加里雲母ト之ヲ第一高等学校生徒某氏ニ質スニ蛭石加里雲母必竟同物ト是ニテ喧嘩両名目出タシ……	
二〇	苦土雲母	浦里村字仁古田			
二一	光線状泡石×	西塩田村字前山	蛇骨	蛇骨ト称スト雖モ箱根産ト全ク其質ヲ異ニス	
同	同	中塩田村産川			
二二	十字石 ×	西塩田村字前山	チガヒイシ	十字形ヲナス石ノ謂ナラン？此石ノ産地ノ我信濃国ナルコトハ既ニ久シキ以前ヨリ知レ居リタルモ其何レノ地方ナルヤヲ詳カニセス帝国大学ニ於テモ頗ル持テ余シモノナリシヲ同窓甲田慶次郎、河面松衛両氏ノ手ヲ経テ始メテ世ニ公ニセラレタリト云フ」比企云フ即斜	

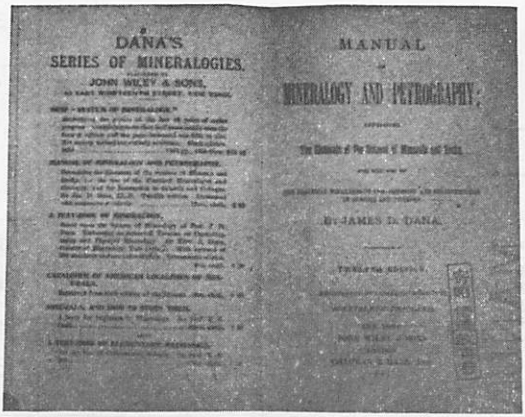
二三	硯石	×	傍陽村字上洗馬	長石ナリ
	同	×	西内村字高梨	其質極メテ悪シ
				其質傍陽産ニ勝ル
二四	陶土		東塩田村字平井寺	
二五	砥石	×	傍陽村字上洗馬	
	同	×	武石村大字下本入	
	同	×	神科村字畑山	
	同	×	同　字伊勢山	
	同	×	室賀村大字上室賀	
	同	×	青木村大字田沢	
	同	×	東内村字霊泉寺	
	同	×	西内村字高梨	
二六	石炭		青木村字田沢	数年前ヨリ既ニ採掘販売ニ従事セリ
二七	褐炭	×	武石村大字下本入	木理ヲ存ス
	同		丸子村	
	同		登里村字長入	
二八	?	×	武石村大字下本入	球状ニシテ中ニ緑色光線状ノ結晶物若クハ白色石英質ノ物質ヲ含ム之ヲ白アン黒アント云フ羽田貞義氏曰ク余ハ数年前之ヲ千曲河原ニテ採集シ高等師範学校某教諭ニ鑑定ヲ請ヒ置キシモ今ニ音沙汰ナシト之ヲ第一高等学校某氏ニ質スニ或種ノ鋼化合物ナリト余曰ドーモ?ソレハ」比企云フ即緑簾石ナリ
二九	?		青木村保福寺峠	其外部木化硅石ニ似タリ又白アン黒アンノ二種アリ何レモ薬用ニ供ス可ク疝気スバコニ特効アリト鹿教湯俳諧師嶺老人言フ之ヲ第一高
			焼餅石	

				等学校生徒某氏ニ質スニ香合石ト云フモノナリト
三〇	？	神科村字金剛寺	焼餅石	粘土塊ニシテ中ニ沙ノアンヲ有ス之ヲ振蕩スルニ響アリ武石産及ヒ
	？	浦里村字越戸	焼餅石	保福寺産ト全ク其質殊ニス
三一	？	武石村大字下本入	ドイン石	粘土質円筒形ノ土塊ニシテ粘土中ニ混在ス土円石ノ謂ナラン？」比
	×			企云即高師小僧ナリ
三二	植物化石	神科村字伊勢山	木ノ葉石	
	×			
三三	動物化石	別所村字院内	百足石	魚骨ノ化石ナリ
	同		百足石	
	同		貝石	

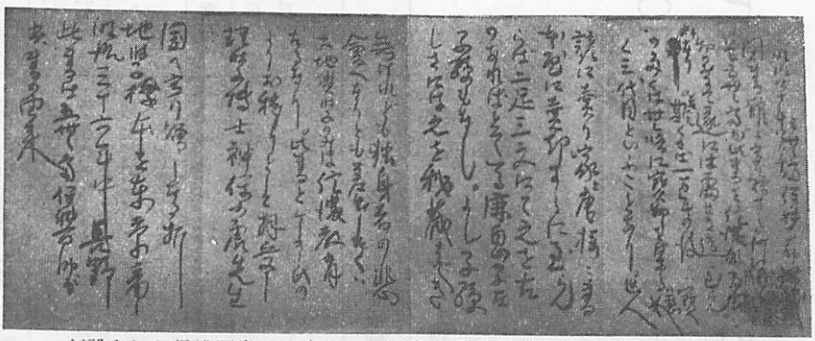
長野県北佐久郡横鳥村　保科百助

（国会図書館蔵　日本地質学雑誌　明二九、七月号登載）

十一　MANUAL OF MINERALOGY AND PETROGRAPHY† のとびらの五無斎手記



神保小虎博士より五無斉に贈られた洋書
（長野図書館蔵）



創設された信濃図書館に寄附した洋書の扉に記された文（保科五無斎図書献納印捺印あり）

保科五無斎図書献納章

（長野図書館蔵）

明治四十年四月十日

五無斎保科百助謹識

に寄贈する所以なり。

是五無斎が此書を信濃教育会図書館まき迄に至らん。

年の後には宝物のみにて遂には処せ集るの悪癖あり。若し斯くせば一万とあり。世人の多くは無暗に宝物をに売家と唐様に書く三代目といふこ之を古本屋に売却するに至らん。諺ばとて馬鹿息子ならば二足三文にてすべき子孫もなし。よし子孫のあれれども独身者の悲しさには之を秘蔵濃教育会なりとも差出したくハ無け此書とゲーキ氏の大地質学のみは信お移りとして拝受したるなり。

贈した折理学博士神保小虎先生より年中長野県地学標本を東京帝国へ寄此書は五無斎保科百助が明治三十六此書の由来。

論評編

一　五無斎百話……205
二　時事短評……249
三　諸論評……258
四　広告類……371

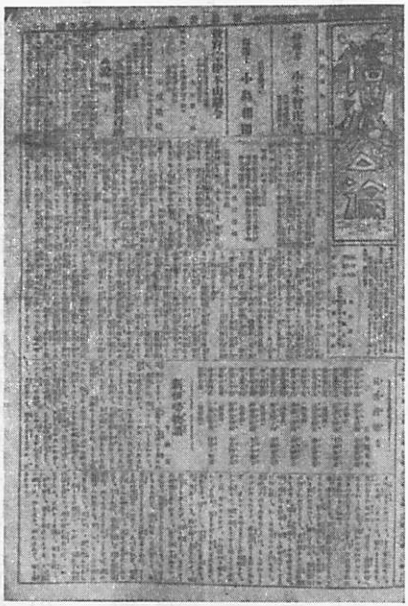
一　五無齋百話

一　遠近論

極遠い所のものと極近い所のものとは目に見えぬものなり

旭山の一本松の上にみん〳〵蟬が居るのを四阿山の半腹に居る蟷螂が祖先伝来の宝物たる斧を振り立てゝ狙ひつつありといはれてもソハ見えさうにもなし。然らば近い所のものは悉く見ることを得可きかといふに是も亦然らず。吾人は吾人の眼に最も接近し居る睫毛のある事さへも認めさる位なれば塵芥の眼の中へ転び込みたる折などには勿論見ゆべき筈はなし。支那の格言に山に入つては山を見ずといふことあり。又日本の諺に売卜者身の上を知らずといふことあり。是は其余りに近過くるが故なりと知るべし。此事を耶蘇教のお経には

なんぢ兄弟の目にある物屑を見て己が目にある梁木を知らざるは何ぞや。己の目に梁木のあるに



五無斎が編集発行した信濃公論（週刊）第17号（明治42・2・24号）の一部

如何で兄弟に向ひて爾が目にある物屑を我に取らせよと曰ふことを得んや。

偽善者よ先おのれの目より梁木をとれ。然らば兄弟の目より物屑を取り得るやう明かに見ゆへし（馬太伝七章）

とあり。又孔子家語といふ書に

哀公孔子に問いて曰くは寡人忘ることの甚しきものを聞く。徒りて其妻を忘ると諸有りや。孔子対へて曰はく。此れ猶未だ甚しからざるものなり。甚しきものは乃ち其身を忘る。（孔子家語巻三賢君第十三）

とあり。世上其身を忘れざるもの幾人かある。

小学校の先生は生徒に世話をやく職人なり。

巡査は人民に小言をいふ役人なり。然り而して彼等の品行と人格とは如何。寺の和尚は如何。耶蘇の坊主は如何。然り而して五無斎先生は如何などいはれたらば無論お恥かしながら御同様なりと言はざるを得ず。

二　極大極小論

物の極大極小は目に見えぬものなり。蚤や虱の睾丸の何れか大何れか小なるや肉眼にて鑑定し得可らざるは万人の異口同音に承認する所なるべきも大きなものが目に見えぬとはチト受取れぬ話なりといふ人もあらん。諺に天の高きは品数なしといふことあり。是は善い加減の言ひ分なれども宇宙の洪大無辺なるを証し得て余りあり。最遠の雲たる巻雲の高さは三万尺内外とあれども雪山と伯仲の間にあり。太陽と我地球との距離は九千二百七十万哩にして月球への平均距離は二十三万哩なり。

最近恒星の一たるシリヤスへの距離は太陽への距離の一百万倍即ち九十二兆七十億哩なるが更に最近恒星への距離は此シリヤスへの距離の何兆億々倍なるやも知るべからず。世界の大数学者と雖も位取りの出来ぬこと勿論なり偖此雲此

月此日此星への距離が殆ど同一に見ゆるとは豈奇妙なる現象ならずとせんや。然れども是尚ほ現今の学術によつて見たる宇宙の半径たるのみ。東西南北上下左右前後皆斯くの如し。而して吾人は常に宇宙の形状を見るに日月星辰の置き模様ある円天井の如しと雖も是等日月星辰の置模様ある風船玉と見れば稍正鵠を得たるものならんか。円天井と見るは普通にして風船玉の如しと見るは稍学術の素養あるに非すば能はざるなり。乃ち大きなものの見えぬ一証なり。是と同一の理由によつて今の代議士などは中流社会の代表者にして其学問と知識とは寧ろ中流以下に属するものなるが故に非人乞食が生活や労働問題など絶えて御承知なきと同時に府県郡市町村位なれば兎も角も帝国の国是や世界の経済などは分つたものに非す。分らぬならば分らぬでもよし。只分つたやうに気取る所が気障なり。乃ち蚤の睾丸が大なりと言ふもあれば否虱のがと言ふもあり。月か最も大きくして最も近く日は之に次ぎ星又之に次ぐなどと弁し小学校生徒の嘲笑を買ひ恒星と恒星との関係や大小と論じて識者の冷笑を招くの徒なり。

世間此類の事多々なり。

三　尻は禍の裏門なり

口が禍の表門ならば尻は禍の裏門なり。放屁して時々人に嫌やがられたるは五無斎の常に経験する所なるが尻の光の為めに人間といふ下らぬ趣味を沢山に持ち居る最高等動物の為めに玩弄品に供せられ之が為めに蚤籠といふ牢屋の中にて饑渇の苦みを受けて横死を遂ぐる蚤もあれば尻の頗る長きが為めに意地悪ろき餓鬼共の為めに嬲り殺しの刑に処せらるる青大将もあり。同じく尻長きが為めに勝手の方にて箒を倒に立てられ下駄に灸を据えらるるもあれば数年間尻をひさぎて終生石女となりて家庭の味を知らぬ芸娼妓もあり。然れども是等は専ら下等動物の社会に行はるる事なればさまで識者の頭脳を悩ますには足らざる可しと雖も青年男女学生間にまでも斯裏門問題が八ケ間敷きやうになりたるは少しく柄にも無きやうなれども纔かに深憂大慮深く慨嘆に勝へざるものあり。

四　青年男女学生の裏門問題

青年男女学生間の裏門問題は其当初京大坂や江戸村あたりの特産物の如くに思ひ居たるに近来に至りてはそろ〳〵田舎に迄も流行するに至りたれば府県の当局者は言ふまでもなく殊に青年男女学生を予り居る学校長教員に於ては充分に監督して貰ひ度きこと勿論なり。

然れども斯る場合に於て学校長教員は絶対無限の責任は無き筈なり。世の識者殊に新聞屋などは頻りに学校長教員の不行届を喋々喃々すれども眼と眼との無線電信を利用して暗夜人無き所両親や兄弟姉妹の目をぬすみてさへもすることなれば如何ともしがたし。論語といふ書にさへも宰予昼寝ねたりとありて孔子先生非常に嘆息せられたり。偖斯る場合に於て学校長教員の取る可き方針は速かに隔離法を実行して其病毒を他の生徒に感染せしめぬにあり。即ち遠慮会釈なくドン〳〵退学寧ろ放校処分を断行するにあり。コレラや赤痢病は仮令擬似症なりとも直ちに隔離舎に移すの法あれども教育上此事なきは少しく遺憾の事あり。

五　青年学生の類別

盛装せる美人を見て一向平気なるものあり、中学校の一二年生に此種の者多きやうなり又美人を見るや否や忽ち其視線を左右に外らして顔面忽ちに淡紅色を呈するものあり。中学校の三年生と師範学校の一、二年生に此種の者多きやうなり。学力は稍劣りたる方なるべく行々は落第もし兼ねまじき学生ならん。又眼尻を下げてチラと横目にて見る者あり。中学校四年生と師範学校の三年生に此種の者多きやうなり。何れは退校ものならん。又美人の通過するまでボカンと立往生するものあり。中学校の五年生と師範学校の四年生に此種の者多きやうなり。人情の然らしむ所とは言へ好配

偶を得たしとの妄念より敢へて然るなれば職員会議の結果的量減刑の例により罪一等を減じて芽出度卒業丈けはさせて貰ふ事も出来れども余り社会の為めには重きを為さぬ人物と知る可し。然らば五無斎先生天子御自身は何れの階級に属するとやと云ふに無論最後の一階級たる師範学校三年生の或るものに類似の点多く且つ同一の状態にて二十余年間継続しをるものなり。

六　女学生の類別

現今の女学生中稍褪色せる雛苔茶なる蝦茶袂を穿つて一向平気なるものあり。高等女学校の一、二年生に此種のもの多きものなり女学生の愛らしきは此種のものなり。又非常に長き蝦茶袂を腋の下の少し下の辺より穿つものあり。此種の者女学校の三四年生に多し。少しく評判は悪ろき方なり。紫色又は浅黄色の袂を穿ち被布などを着するものあり。此種の人女学校補習科の生徒に多し。五無斎など無粋のものには善くは分らざれども新聞紙上三面種の投書あるは此種の女学生なりとか。然れども桃色も縮緬や緋色本縮緬の袂の流行せぬ間は幾分見処ありと言ひたる人あり。何の事にや。

七　婦人の前にて男子は殊に意気地なきものなり

五無斎は元来巻煙草を好まず。其故如何となれば

第一　其直ぐ鼻先にて燻ぶるが為なり、第二　値段の如何にも高価なるが為なり。第三　其灰殻の時に貴賓の前をも嫌はず狼籍なることなり。等の数条に過ぎず。之に反して刻烟草には比較的如上の欠点なし。然れども汽車の中などにて美人と乗り合となりたる場合などには其実頗る苦心惨憺たるものありと雖も時に或は山桜位を奢ることもあるなり。而して是は五無斎独特の奇癖なるべしと思ひいたるに此頃汽車中にて友人の或るものが美人の汽車に乗り込むや否や財

布片手に敷島はなきやと高声に呼び立てて朝日許りですと言はれ仕方が無いなあ杯と怒鳴り散して忽ち相好を崩して件の美人を横目にてチヨト見たるなどは頗る愛嬌の一ツなりしも亦如何に世人が婦人の前にて意気地なきこと五無斎と同一なるの事実を証し得て余ありと謂ふ可し。世上是に類すること多々なり。

八　滑稽心の発現

前漢の司馬遷の著したる史記といふ書の四十九冊目には滑稽家列伝といふがあり西洋の滑稽本には伊蘇普物語あり我国にては一休曾呂利のあること誰も知る所なるが茲に如何にも滑稽極る一老僧ありけり。勿論伝聞の然らしむる所幾分の相違はあらん。然れども近来耶蘇教の会堂などには此種の事実に豊富なるやうなれば五無斎百話の一として掲載するものなり。五無斎の知れる一人あり。親友などにては勿論なし。只一両回此人こそ彼の人なれと或人より紹介を受けたる迄なり。今にては某県師範学校附属小学校の訓導なるが当時は一小学校の校長様なりしなり。此男学問の性質は稍善き方にて文部省の検定にて教育倫理などの免許状を所持し居る事なるが元来コンモンセンスの無き大戯者なり。偖其奉職せし学校は当時未だ新築の運に至らず仏教の寺院を借家してありたるなり。茲に又一人の裁縫教師あり。容貌は左程醜からず十人並以上なり。思案の外といふ諺に漏れず此両人の間には秘密条約が成立したりとの噂取々なり。一日此両人は他職員の帰宅後席を本尊たる阿弥陀如来の裏手に移し両人相対して何事か耳語き居たりとの事なり。日頃慈悲忍辱の教はありながら住持の老僧如何にも勘弁が附かざりしと見え烈火の如くに怒り出し十段目の光秀の如く挿し足抜き足窺ひ寄り襖障子をガラリと押し明け姦夫姦婦を取り押へ此霊場を潰さんとしたる条奇怪なり。いでお役場に通知し郡役所に届け出で相当の所分を申請せん。と息巻けば両人は忽ち壁銭の如くに平伏して其過を詫び入れども仲々聞き入る可き模様は無かりけり。然れども数度否数十度の詫言にさすが嫉妬心深き老僧も慈悲忍辱の教は此処と忽ち大悟徹底して遂に滑稽心と早変りし然らば愚衲は如何にも承引せり。然れども本尊にまします阿弥陀如来の御宥恕をも請はざる可ら

ず。仏教の儀式に合掌向仏片袒右肩とあれば右の片のみをはだぬぎて如来様の方に向ひ左右の掌を合せ従来の粗忽を謝し願今以後斯る不所存なき由を誓ひ百万遍供養といふこともあれば百万回南無阿弥陀仏と唱ふ可き筈なれどもソハ又余りに長時間を要すれば百遍供養を為すべし。と宣告され地獄で仏の思を為して一々其如くにして始めて許さるゝことを得たりとの事なり。木像に向つて人に物言ふが如く詫び入ること抱腹絶倒の至りながら其本人等は老僧の滑稽心とは知らずして良心の呵責にあひ脅迫なり恐喝なりとは思ひつつも老僧の言ふがまゝに為したるなれば万止むを得ずとするも此老僧の滑稽心こそ心悪くも亦愉快なれ。是も亦一種勧善懲悪の方便なるやも知るべからず。然れども早取り写真にて当時の現況を撮し置きたらばバックや滑稽新聞の好画題となりたらん。惜しきものにこそ。といひたる人ありたり。

九四慾兼備

動物は都て我利々々一天張りのものなり。只下等動物の慾は食と色との二道のみ。万物の霊長なりと自称する人類といふ最高等動物は更に名聞と利益の二道を加味す。動物のものたる饑ゆれば食ひ食ひて睡る。慈尾期に達すれば昼夜寝食を忘るゝの概ありと雖も其期を過ぐれば只食ふ事の一方のみ其慾たる頗る単純なるものにして又極めて淡泊なるものなり。

人類といふ動物は日頃其言論の頗る盛なるものなりに反して汚穢醜悪言語同断なり。即是等食色名利の念は一年三百六十五日の間昼夜寒暑の差別あることなし。熱に浮かされては其終生の秘事を暴露するもあれば夢に厭されては一生の隠事を発表するもあり。医家道徳の重んぜらるるの今日なれば其詳細は之を知るに由なきも精神病院の院長やモルヒネを用ひては外科手術を施したる医員や熱病患者を取り扱ひたる看護婦など喧嘩口論でもしたらんには夫こそ大変なれ。忽ち刑事被告人として裁判所へ引張り出され人間社会の交際も出来ぬやうになる可し。嗚呼恐ろしき事にこそ。

十　人生五期の説

友人柴崎虎五郎氏は人生七期の説を公にしたる事ありたるが五無斎は今その目何々なりしやを忘れたり。因つて今又更めて人生五期の説をつくる。第一、貪食期。一名食気時代、此時期は生後間もなく発達し十四五才より二十四五才に至るの間最も旺盛を極むる事なるが四十四五才頃よりは漸次衰え行きて六七十才頃よりは朝夕二食にてもよし。第二、漁食期　一名色気時代、人生色気時代に達する其地方に於ける風俗習慣や気候の寒暖身体の健否男女の異同によりて差異ありと雖も我帝国にありては十三四才の頃に至りて其萌芽を発し十八九才より二十四五才の間に於て最も旺盛を極め此儘にて二十四年程も継続し五六十才頃よりは漸次下火になり行くと雖も苟も生命ある間は全く消滅するに至らず。尤も伊藤某や桂某の如きは除外例なり。第三、釣名期　一名被煽動時代、人生虚名恋心の萌芽は早く三四才の頃より始ると雖もコハ僅かに痕跡を認め得べきのみ。二三十才の頃より漸く其発達を始め或は大地主とならんとするもあり或は大学者大政治家とならんとするもある可しと雖も高等女学校出身の優等生と結婚するときは案外にも夫限りにて凋落して次の拝金期に入るもあり然れども若し金銭に不自由なきもの、ならんには村会議員となり村長となり県会議員となり国会議員とならんなどと焦心りに焦心り祖先伝来の田地田畑迄も売り飛ばすに至る。四十才前後に至り其高潮に達するものとす。世上四十才を以つて、分別盛とすれども分別違を為すも亦時なりと知るべし。第四、拝金期　一名金気時代、人生黄金を拝すること五六才の交飴菓子を買ふ頃より其萌芽を見ることを得可しと雖も子供の四五人も出来長男を小学校へ入学せしむる頃の四十才頃に至りては其旺盛を極むるものなりとす。此期に於ける人類は実に支那人の如く無暗に金銭を得る事のみに汲々として仮令天窓の一つ位は打たるゝも金にさへなればと言ふ様になり行きて今はの際までも継続するものなり。世上金銭上の事にて命の取り遣りを為し公事訟訴を好むの性質あるは偶々以て這般の理を証明し得て余あり。雨宮某や大倉某の如きは比較的早く此時機に達し比較的晩くまでも此時期の生活を営む一種の精神病者

と見るの外なし。第五、拝仏期　一名二度ボコ時代、七十才以上ともなり喜の字の祝や米の字の賀でもするやうになれば或る特別なる人を除きては食色名利の念一時に消え失せて忽ち喜び忽ち怒り悲観かと見れば楽観の分子もあり。

念仏称名に余念なきかと思へば曾孫と飴ん棒や菓子を争ふの奇を演ずることもあるなり去れば七八十才以後の老翁老媼は再度幼時に帰りたる者と見るの外なし。人世五期の説の当否は暫らく擱き五無斎先生夫子御自身は何れの時期に相当するかとの問題は読者各位の問はんと欲する所なるべく又五無斎の大いに答へんと欲する所なり。曰く第一第二第三第四共に極めて旺盛なりと。

十一　四慾中の一二を節すべし

前両段既に論じたる所によつて読者各位は万物の霊長なりと自称する人類といふ動物は食色名利四慾兼備の横着者なるよしを明らかにせられたる事ならん。然れども若し此四慾中の一二を節約し得るものありとせば神仏と崇められ聖賢と尊ばれ英雄豪傑大家先生と持て囃さるゝに至る可し。支那に孔子といふ人ありたり。此人は儒教中興の祖にして随分評判のよき人なるが其利己心の少かりしは論語などいふ書に散見せり。鯉だの伋だのと子や孫もあれば妻君のありたること勿論なれども終に芸者狂ひを為したりとの評判を聞かず。又印度に釈迦といふ人ありたり。此人は仏教の開祖なり。耶輸陀羅姫といふお后もあり。瞿夷鹿野等の側室もあり常に数千の官女にかしづかれ或は音曲に或は酒宴に殆ど日も之れ足らずといふ程なる御父浄飯王の苦心経営も其効を奏せず遂に出家遁世し給ひし程なれば必竟は女嫌ひの方なりしならん。且つ釈迦牟尼の相場に手を出されたる事も聞き及ばざれば果して名誉心の無かりしや否やは疑問なれども我利々々一天張りな両敬大倉一派の商人肌ならさりしや明なり。又猶太国に耶蘇基督といふ人あり。此人は基督教の宗祖なり。我は神の子なりなど自称すれども勿論左には非るべし。如何なる運の巡り合せか十字架上に釘着けせらるに至る迄独身生活なり。而して此人の伝記たる四福音を見るに名利の念至つて乏しき様なり。之を要するに耶蘇基督の如き

は一種の気違と見るの外なし。狂としたらば躁狂の一種ならん。躁狂者に色と名利の念なきは少しも怪しむに足らざれども是耶蘇基督が神の子なり否神なりと尊信せらるゝの一原因なるべきか。是と話は痛く掛け離れ居れども五無斎は同一の筆法を以て維新の元老を評せんと欲す。伊藤某といふ人あり。此人女には五月蠅しとの事なれども金銭問題には比較的淡泊なり。又大隈某といふ人あり金を溜むる事は頗る上手なるよしなれども此人の醜聞をば耳にしたることなし。又山県某といふ人あり。色気も金気も稍淡泊なる様なり。而して最近二十余年間の政治史を繙かば是等三氏及其子分の離合集散に外ならず。今後尚此三系統の栄枯盛衰は政治史の数頁否数十頁を塡ることなる可し。我信州政客の中央政界に重きをなすなどは当分無き事と明らめざる可らず。

十二　五無斎の四大不幸

五無斎は四慾兼備の大愚物なり。故に大家先生でもなければ勿論英雄豪傑でもなし。然らば食色名利の目的物を所有するの権利を得たるかといふに是亦勿論一つも獲得し得ざるなり。穀屋からは兵糧改めにあひ酒屋よりは酒道を絶たれ肴は宴会に出でたるの外は年中喰ひたることなし。之は第一の食慾を充すこと能はざるものにして第一の不幸なり。一女性動物の採集を為さんとて満二ケ年信州の天下を跋渉したり。よい嚊をほしな百首といふ書籍を出版したれども売れ行きは如何にも思はしからず。売れ行きの悪しき位なれば尚可なり。よい嚊どころにては無く悪き嚊さへも見当らず。四十才の今日までも独身生活なり。又今後とて見付かりそうにもなし。是即色慾を満足せしむること能はざるものにして第二の不幸なり。師範学校の落第生兼尻から一番の卒業生なれば小学校長教員としても将又私塾の長としても其評判甚宜しからず。加え今や教育界より滑り出して家鴨屋となり了りたり。家鴨屋には名誉もなく地位もなし。是即五無斎に最も豊富なる虚名誉心を満足せしむること能はざるものにして第三の不幸なり。最後に五無斎は金銭に対しても不幸のみ打ち続きたるなり。生れ落ちて臍の緒を切りて以来綿服を繼ひ居たるに過ぎず。衣食に欠乏する程なれば住宅など有

らう筈はなし金は鐚一文も溜らず。鐚一文の溜らぬはよけれども借金も出来ず。切めて一二円位の時借が容易に出来る身分になりたればと思ふ事さへあり。是即利益心を満足せしむること能はさるものにして第四の不幸なり。四慾兼備の大愚物たる五無斎は又斯四大不幸中一つも欠如することなし。戯に於て悲しい哉。然れども翻つて考ふれば四大幸福を得たるの人果して幾人かある。痩我慢を振り廻はして敢て然るには非れども五無斎以下の薄運児も往々に見受くる様なり。読者各位以つて如何となす。

十三　良縁を求むる法

四十才の今日までも独身生活を継続し居たる五無斎が良縁を求むるの法と題して筆を執ること如何にも可笑しきやうなれども理論丈けとしては敢へて差支なからん。只実験説ならざるのみ。苟も真理の存する所其人の実際などは之を問ふを要せざるなり。偖良縁を求むるに当つて先づ第一に必要なるは品性の良否教育の有無身体の健全容貌の美醜門閥の高下財産の有無等を調査すること是なり。而も三四名の候補者を定むること肝要なり。碁の手に両劫といふ事あり。彼方が旨く行かねば此方を旨くといふ懸引なり。転んでも徒は起きぬといふ主義なり。偖愈斯の如く意中の人両三名乃至四五名の選択終らば地位あり名誉あり徳望ありて先方の名誉ともなるべき人物を見立て先方の親達へ懸合を始む可し。而して一両回位は善く〳〵家内相談を遂げて御返事を申上ぐ可しとて謝絶せらるゝが通例なり。一両回に止らずして三四回乃至五六回位も此災厄に遭遇することもあるなり。是は先方にても意中の人を定め置きて月下氷人の来るを待ちつつあるなり。八卦の本に待人来らずとありて年頃の娘を持ちたる親達は随分憔るものなれども出雲議会の協賛を経ざれば産土神とて越権の所置もなりがたく日を旷しうして久しきに弥るなり。然るに世の短見者流は深く神意の程も弁へずして無暗に怒鳴り出し余とても一疋一人前の男子なり。苟も男子たるものが女郎に対して頼みいる事やはある。然らば勝手にすべし。余も亦終生自身よりは言ひ出さぬ積りなり。若し仲人の来るありてたつて貰ひ呉れよと頼まれたること

もありたらんには其時こそは教育や品性其他一切を調査したる上にて兎も角もすべけれ。など途方もなき考を起し痩せ我慢を出さば忽ち五無斎の如き辛き経験を嘗む可し。斯る際に於ては痩せ我慢の強き人程面の皮が薄くて困り入るなり。面の皮が薄きやうにては迚も良縁などは求め難し。三四回乃至五六回の謝絶の如きは少しも意とするには足らざるなり。五無斎の知れる或る一人の如きは八年計画にて始めて良縁を得たりとの話あり。偖斯くの如くにして三四個所に同様なる口を懸け置かば両三年の後には必ず良縁を求め得べきこと疑なし。先方にても四方八方より申込み来れる口々を対照し比較研究して誰や善からん彼善けんと徒らに両三年の日子を費したれども偖思はしき良縁なきが為めに頗る迷惑し居る時ともならば案ずるよりは産むが易く左しも困難なりと見えたる縁談も容易く纏りて愛度所は高砂と呻り出すやうになるものなり。偖斯く一旦意中の人三四名を定め置きたる後の心得方如何。禁酒禁煙は必要なる要件なり。読書三昧に余年なかる可し。日々の職業には勤勉なるべし。苟も豪傑風なることは厳禁なり。兎角婦人は英雄豪傑を好まぬやうなり。男の方よりは女らしき女を要求すれども女の方よりは寧ろ女らしき男を要求するやうなり。且つ英雄豪傑と結婚したしなど理想高き婦人と来られては溜つたものに非ず。英雄豪傑といふもの元来余り多くは見当らず。村田清風の歌に

来て見れば聞くより低し富士の山　釈迦や孔子も斯くやあるらん

英雄豪傑と見せかけて置きて偖奥入の後に至りて田五作や権兵衛八兵衛にて忽ち破鏡の嘆を発したるもの五無斎の知れる人のうちにも数名あり。男子の豪傑尚ほ可なり。女丈夫と来ては実に大閉口なり。桑原々々。万才楽々々々。呵々。或人五無斎に問ふて曰はく閣下の四十才の今日まで良縁の無かりし理由果して如何と五無斎答えて曰く痩我慢の強かりし事。此結婚問題に就いてのみは非常に面の皮が薄かりしこと。豪傑風を装ひて酒色に耽りし事等は其主要なるものなりと。客唖然として去りぬ。

十四　蠅と人間

五無斎が長野県小県郡武石村の学校に在勤中理学士某といふ人来訪せられたることあり。乃ち打ち連れ立ちて大字下本入なる緑簾石（ピドート）の産地に至る。偶々学士は腹痛を感ぜられたれば如何はせんと相談を懸けられたり。斯の如き事に経験家なる五無斎は直ちに西行流の便所へと案内したり。暫らくにして学士は帰り来られたるが面色寂然土の如く又人色なかりければ五無斎は其異状ありや否やを問ひたり。

学士は如何にも困り入りたるが如き面持にて実はお恥かしき事ながら予が腹中には無数の寄生虫が繁殖したるやうなり。然れば鉱物の採集は是丈けにて一旦切り上げて帰京の上大学病院に入院すべしと言はれたり。此際に於ける五無斎は頗る落ち付き払ひたるものにてソハ長径三厘短径二厘位二疋宛並び居て蠢々たる一小動物なりしならん。之れ即ち金蠅の蛆なり。元来彼等は衣と住とには事を欠かねども食物と来ては常に蚤取り眼にて之を探索しつゝあるなり。一は自分に食するが為めにして一は子孫の為めに其倉庫を発見せんと欲するなり。苟も食物のある所悉へに悉へ待ちに待ちたる産卵を開始するなり。人間や牛馬の捨てたるものを拾ふとは如何にも慾の深きやうなれども之れ彼等の食物としては上の上なるものなり決して汚穢不潔なるものには非ざるなり。此処大凡何疋位の仔虫を養育することを得可きやの計算も出来夫々適当なる丈の仔虫を産み附け置き彼の清風に乗じて高く雲外に高飛びし又他の一地方に於て前と同様の事を繰返すなり。是を彼下等社会に於て喰ふものもなく着るものも無きに朝夕子孫繁殖動作を継続するものに比するときは素より天地月鼈提灯に鐘も啻ならざるなり。人を以つて蠅に若かざるべけん哉と。学士を始めとして同行のもの皆啞然たるもの之を久ふす。五無斎の無妻主義なる一つは此衣食住問題もあるなり。

十五　醜の字と臭の字と

孝経といふ本の中に在醜不争、在醜争則兵といふことあり。醜の字は衆の字若くは臭の字と同音なり従つて同義なりと知るべし。世上夫婦喧嘩といふ熟字あり。是は亭主が女狂ひをしたとか山の神が情夫を持ちたりとかの争にして其臭言ふ可らず。又兄弟喧嘩といふ熟字あり。是は遺産相続の争なり。又仲間喧嘩といふ熟字あり。是は金銭の貸借か利益配当の均一ならさるより起りたる争なり。農夫は畔を争ひ町人は一厘二厘を争ふ家鶏は雄々と争ひ家鴨は雌々と争ふ。少しく人の悪ろきやうなれど利害を離れて此喧嘩口論を高みより見物すれば如何にも馬鹿気切つたるやうなれども亦面白きものあり。家鶏の一種に闘鶏（しゃも）といふものあり。其性質極めて獰悪にして闘を好み其相手の死せざる間は其蹴合を中止せざるなり。之が為めに外国にては此闘鶏の技を比べて賭事さへする者もありとか。白井権八の話は犬の喧嘩が抑の原因なり。腕白小僧はヨクシ〳〵とて犬をけし嗾くることを以て日々の日課となし居るなり。世に新聞屋といふものあり。官臭を帯ぶるものあれば又民臭なるもあり。在朝在野の政治家を使嗾して政権の争奪を為さしめて楽しみとなす。然れども其黒幕の内には一種の政治家ありて此新聞を利用し使嗾して在朝在野の政治家を困むるものあり由是観之都ての動物は喧嘩を好むものにして殊に人類といふ動物は此喧嘩を見物することさへも好む悪癖ある者なりと見ることを得可し。

十六　毀誉褒貶

世の中の毀誉褒貶程つまらなきものは又と世間にあらざるべし。少しく悪に似たることを為せば毀られ少しく善に類する事を為せば誉あり。故に達人君子は少し位褒められたりとて有難がらず貶されたりとて不平も言はず。馬鹿かと思

へば馬鹿にも非ず利口かと思へば勿論利口ではなし。只浮世の議論や批評に耳を傾けぬのみなり。諺に与論必しも正しからずといふことあり。国会議員といふ者あり。又府県会議員といふ者あり。彼等は人民の与論を正当に発表すべき代言人なるにも拘らず或は自党の為めにし或は夫子自身の為めに其言論を二三にすることあり。日々の速記録は之を證し得て余りあり。又新聞屋といふ者あり。社会の木鐸を以つて自ら任ずと雖も或は恐喝取財の張本人ともなり又詐偽取財の尻持をも為す。又博士学士といふものあり。学問の独立など言へど多くは曲学阿世の徒なり。其外素人のへらず口に至つては殆んど一顧の価なし。瓜糞程の注意をも払ふの必要なかるべし。諺に盲千人眼明き一人といふことあり。旁々以て此不完全なる社会よりは有らゆる毀貶を蒙ること有りとするも左程心配の種とは為す可らざる筈なり。是即ち其二分の一は盲滅法界の評論なりといふ逃れ口上なればなり。然れども此逃れ口上あるの故を以て世間の悪評にも頓着せず我儘勝手の行のみせよとの意には非ず諺に火の無き所に煙は立たずということあり。煙の出でたる後には火の手も見ゆることありとの理を忘れぬ様にし度きものなり。

十七　毀誉褒貶（其二）

五無斎先生は頗る豪き人物なり。文章は福沢流に交ゆるに俳文の粋を以てす。狂歌は蜀山以上なり。信州地質の研究と来ては只々驚嘆の外なし。演説はお上手なり。殊に悪口演説は大の御得意なり。富貴も淫すること能はす威武も屈すること能はずとは真に閣下の謂手。

史記の世家為司職吏畜蕃息とあるからには孔夫子さへも牧畜家となられたる様なり。閣下の養禽事業に関する御近況如何。などと御世辞たら〳〵なり斯く有ること無いこと取り交ぜ真事虚事打ち混ぜて褒めそやさるる時の心情果して如何。幾分は嬉しきやう感ぜらるれども又冷汗を流すこともあるなり。然れども是は面と面とを向き合せ膝と膝とを突き合せたる時の事にして、蔭にては全然反対なる様なり。乃ち浮世に於ける毀誉褒貶の表裏をいふものなり。人間と号す

る動物の陰日方といふものなり。親兄弟を始めとして一族親類の毀誉褒貶に至つては此表裏なく又陰日方なし陰日方なく表裏なくんば夫にて可なるやといふに亦往々は間違ひ居る事もあるなり。是に骨肉以上の関係や利害の問題なれば偖致し方なし。由是観之毀誉褒貶の問題は全智全能の号する神仏と夫子自身の判断の外正当なるものはなけん。

十八　毀誉褒貶（其三）

人の毀誉褒貶といふものは存在中のみに止まらずして未来永劫継続もし変化もするものなり。北条義時の如きも一家断絶の場合なれば実は万止むを得ざるに出でたるなり。孫の時頼時宗等の功に面じて逆臣名簿の削除を歴史家の手許迄差し出すべく明智光秀の如きも、武士の面目として幾分の御容赦に預り度し。秀吉といふ奴は頗る喰へぬ奴なり。併し上には上あり。家康には遣られたでは無いか。

など愚痴を零すこともあらん。新田足利何れか忠臣なりやといふ問題は当時にあつては北畠親房の外確乎たる見識は無かりしならん。南朝を正統とするの議論が歴史家の与論となりたるに至りて其地位顚倒したりなど言はんも詮なし。其御本人として考へて見たらば御気の毒千万とも御道理千万とも申上げたけれども偖致し方なし、是は善く消し止めたりと思ひ居たる煙草の吸殻より山火事が起り善く埋み置きたりと思ひたる火より炬燵火事が出たりといふものなれば必竟は自分の過失なりと知るべし。

十九　答弁書と取消文

新聞紙などに悪口を書かれたる場合に答弁書を掲げ取消文を載する程つまらなき事は又と世間にあらざるべし。周章て却つて答弁書を書かば徒らに反対党に口実を作りやるに等しく取消文は自分の悪事を自分にて再び投書するの嫌あ

り。反対党に口実を造りて、やるのも野暮なれば自分の悪事の再投書も面白くなし。

伊藤博文といふ人あり。又大隈重信といふ人あり。此御両所に対する悪口は一年三百六十五日殆ど掲載せられざるの日は無けん。若し一々答弁書を草し取消文を出すとすれば少くとも書記の二三十人位は入用ならん。答弁書と取消文の為めのみに書記の二、三十人も雇ひ入るとせば如何に伊藤侯や大隈伯の富を以つてするも財政上に困難を感ぜらるるに至らん。否々悪口を毎日々々の新聞に掲げらるる様にならねば豪き人物になつたとは言へぬなり。大概の人ならば新聞紙などに二、三度か五六度も悪口を書かれたならば夫にて精神的の致命傷を負ひ名誉もなくなれば地位も無くなるものなり。然れども御両所の如きは齢既に耳順を過ぎて古稀の祝でもなさる身の韓国統監侯爵伊藤博文閣下と崇められ進歩党領袖伯爵大隈重信閣下と尊ばれ給ふなり。之れが何ぼう羨しき事ならずや。然り而して両閣下とも一回も答弁書を草せられたる事なかるべく取消文をも掲げられざるなり。五無斎は此点丈は聊か両閣下に私淑するものなり。

二十　答弁書と取消文（其二）

四五才位の小供に向つて坊さんはお利口なりなど言はんには仮令天窓の一ツ位は打つとも忽ち相好を崩して唯々と答へん。若し之に反して此馬鹿野郎など言はんには如何に飴ん棒を与ふるをありとも忽ち頭を左右に打ち振りて中々承服するの気色は無かるべし。然れども之は子供の時の事なり。十五ともなり二十ともなりて少しく事理を解するに至らば此位の煽動には乗らぬと同時に少し位は貶したりとて又左程に立腹もせざるべし。之を面の皮が厚くなりたるといふ。真に面の皮の厚くなりたる人は実に手におへぬものなり。五無斎の如きは蓋し其人ならん。其昔何時の頃にかありけん。何々とやら名前は忘れたれども雑誌やうなる小新聞ありたり。何の事か遺恨の種となりたるにか凡そ五六回も続けて五無斎の事を悪しざまに書きたること有りたり。当時五無斎は一篇の弁駁書をも与へざれば誹譏の告訴などをも提出せざりしなり。弁駁書を草し誹譏の告訴をなさんが為めには紙も入用なれば筆も袖口も切れ墨も硯も減り下駄の歯も凹

くなり黄金と殆ど同一価格を有する時間も空しくなり正直正銘の黄金も亦多分に費さゞるべからず。余事は如何にも忍ぶ可し。金銭を懐より出すことは袖口より手を出す程には簡単ならず。田舎のヘボ新聞何程の事かあらんや未来永劫五無斎の事を書き続け呉れよ。是も亦一種の広告なり。善悪共によし。素より広告料を払ひ置きたるに非ればソハデモ記者の随意に任せ置きたるに悪るロは五六回にて止み次ひで廃刊となりたり。蜉蝣に等しき田舎のヘボ新聞を相手にする程馬鹿風のものは又と世間にはあらざるべし。

二十一　自惚心の発現

人類といふ最高等動物は自分のみが頗る豪きやう常に吹聴するものなり。禽獣虫魚共に此事なし。町家のものより見れば田舎の親仁が粗衣粗食に甘んじ薪炭を運び米穀蔬菜の類を輸すを見ては如何にも馬鹿風なりと言はんかなれども又見る蔭もなき山家の老爺が一筋の手拭か一箱の燐寸を買ひたる折にも主人を始め番頭小僧に一同が平蜘蛛の如くに平伏して入らつしやい何か御用は難有う何うぞ又相変らずなど鸚鵡のやうに喋らねばならぬかと思へば此親仁とても衷心窃かに微笑を禁ずること能はざるべし。斯の如くにして商人は月給取りの収入少きを笑ひ月給取り商人の卑屈甚しきを笑ひ農は士を嘲り工は農を罵り巡査は教員のマンモン、センスに乏しきを喋々し教員は巡査のエデュケーショナル、アイデイヤなしと喃々す。少しく是等の境界を離れて見れば五分々々の争ひを見るの外なし。

二十二　嫉妬心の発現

人類といふ最高等動物が頻りに自分のみ豪きやう吹聴するものなる由は前段既に陳述する所の如し。然れども是は左程に親しくもあらぬ朋友故旧相会して酩酒屋か馬肉屋にて飲み合ひ腹の皮が張り目の皮が弛み初めたる時に起る事な

り。然れども晩秋初冬何時も曇り勝にして折々は雪模様さへもあるの夕二合半酒の晩酌を夫婦両人相擁して之を与にし菜つ葉漬の総菜にて外国米を喫し寝物語の抑などは又案外なる愚痴をも零し人の身をも羨むものなり。流汗淋漓風雨寒暑の厭ひもなく破れ衣に破れ笠夫婦共稼なる荷車曳きの境界より見れば二尺五寸の右手拭にて頬被りを為し七銭五厘の風鈴を腰にし握り拳丸の便利屋が浦山しかるべく其又便利屋先生より冬に上紺の半被股引夏は白地の襦袢一枚猿股一ッの軽快なる扮装にて停車場迄の往復が大枚金二十銭の車夫を羨むなる可し。然れども便利屋の建てたる倉庫もなく車夫の建てたる銀行も無かるべし。諺に盗人をしても一割には廻はらぬといふことあり中竟は其人の運命と明らむ可し。

妄りに他人の身の上を羨むは野暮なり。大聖孔子の如きも喪家の狗の如しと評せられ亜聖孟子の如きも一生素寒貧なりし様なり。五無斎の落魄不遇の如きは今更此処に記述する程の価値もなしと知るべし。

二十三　月給取り根性の発現

諺に自家の米の飯より他家の麦の飯といふこと有り。村落の青年は査公の達摩服に菊の御紋の帽章馬の革の長靴帯剣の厳しさを羨むかと思へば査公は又学校の先生が餓鬼大将として朝から晩まで下らぬ事を喋々喃々しながら俸給の割勘よきを猜むなり。而して其学校の先生方も亦郡長や知事の学殖頗る欠乏なるにも拘らず威風凛々として下級の官吏を顧使するを見ては頻りに不幸を言ひ其又郡長や知事も郡長会議や地方官会議より帰りては俸給の額如何にも少くして衣食住の不如意を喞ち無暗に罪もなき細君に当り散らすもありとか。然り而して茲に又一種の動物あり。ソハ言ふまでもなく府県会の代議員と国会議員となり。元来田舎の金満家に生れし道楽息子共なれば学問の性質極めて悪しく中学校卒業か私立大学の半途退学位が関の山なり。中年にして青雲の志を起し祖先の遺財になつて芽出度当選したれば更に柄にもなき悲望を企て議事堂々裏処士横議を敢てして一躍知事や局長の椅子を狙ひつゝありと聞くも笑止なり。斯くの如くにして農は商を商は工を工は月給取を月給取は年俸取を希望するなり。実に明治の御代は月給取り根性の旺盛を極むと評

したる人さへもありたり。然らば五無斎先生夫子御自身の御経歴如何と問はれたらば無論御同様なり而かも半途にて美事に失敗したる一人なりと言うを憚らざるものなり。

二十四　横着心の発現

五無斎の幼なるや其末子たるの故を以て両親よりは非常に可愛がられたり。此々を以て幼時の臆病と来てはお話になつたものに非ず。数へ年十五才の二月迄は夜中小便に起くるにも一人にては行けず日中と雖も仏檀の前に限り一人にては通つた事なし。是は、第一、化物か可怖かりしこと。第二、死者に霊ありと信じたりしこと。第三、泥棒の虞ありしこと。等が原因なり。明治十五年の二月親戚先なる上田藩の儒者恒川重遠先生の許に送らるゝことゝなりたるが夜中人跡稀なる家中町などへ使に行く事もありて頗る迷惑したるものの遂に化物に行き逢ひたることもなく御位牌様も自分の家のならねば只線香臭き押入たるに過ぎず他人の許に寄寓し居ることなれば如何にメンマな泥棒君なりとて書生の垢じみた着物など持つて行く筈はなしとの考へより臆病心も漸次薄らぎ行きたり。如何にも情なき心なれども事実なれば偕致し方なし。其後五無斎は書生を同宿せしめたること前後五、六十人にも及びたらんが一人として戸締りなどを厳重にしたるもの無し。是に由つて、之を観れば人の心は大概似寄り居るものと知るべし。

二十五　階級制度

田舎の青年より見れば巡査といふものが頗る豪きやう感ぜられ、巡査募集試験に前後五回共芽出度落第して、六回目に至り始めて及第したりとの奇談はあれども、巡査の目より見れば学校の先生の方が遙かに傑れて居る様見ゆるものなり。然れども又其学校の先生方より見れば、知事や郡長は非常なる豪傑風に見ゆるものか。中学校の先生にして可なり



五無斎百話の連載された信濃公論第11号（明治42.1.13号）の一部

の月給も取り評判さへも稍よかりしに、文官高等試験にては目出度数回の落第を重ね、今や浪々の生活を為し居るもの五無斎の友人のうちには一両名あり。巡査と先生、先生と郡長、郡長と知事といふ如く種々なる階級あるやうなれども尚一層甚しきものあり。町村吏員の集会を見るに、町村長、助役、収入役、区長、人民総代、村会議員、学務委員、祭典掛、組長、伍長等の席次は夫々順序ありて極めて厳格なるものなり。或人之を評して牛糞的の階級なり。三月雛の切り餅の如しと言ひたることありたり。五無斎の家に飼養する四つ子姫の如きは、一簑一笠の非人乞食や、フロックコート、シルクハットの扮装、抱への車などにて玄関に横付けするの高等官を見れば、無暗に吠ゆれども寒中麦稈帽を戴き、単衣の重ね着姿、素通し眼鏡、八の字髭ある人物の来訪者ありたる場合には、首を俛し尾を揺がし、彼女の最敬礼たる生ま温き接吻をば指の先や趾の端に捧ぐるなり。之を要するに彼女は人類の階級を以上三種とするものゝ如し。極端なる社会主義者や宗教家が主張するが如く、無差別平等論も議論丈けを聞けば頗る奇妙なれども断じて不可なり。我帝国としては先づ以て二階級位が最も適当ならんと思ふなり。

二十六　空威張りする人

一省の大臣や次官が給事に帽子を取らする位は難なし。然れども地方庁の長官が、節倹寧ろ吝嗇にて書生も置かず、

小間使を遣はず、下女をして炊事係と子守女を兼ねしめ、親類の子供を食料付にて預り置き、下男と玄関先の事務を扱はしめ、時々は夫子自身裏庭などへお出ましの上、靴磨きをなさる程なるにも拘らず、巡廻先にては部長や県属に外套を着せさせ、靴の直し方を命じ、帽子や蝙蝠傘を差出さしむること頗る言語同断の振舞といふ可し。此事何時しか郡役所か警察署にうつり動もすれば町村役場、小学校にも及ばんとするの勢なり。靴を直し蝙蝠傘を差し出する、バン問題の深く関係する所、又長上を敬するの致す処なれば直す人差し出す人には罪なし。

否々寧ろ其深情深く憐むに勝へたるものありと雖も、直さるゝ人差し出さるゝ人の人格の卑きを証し得て余あり。是は封建時代の遺風にして、泰西文明の諸国には有り得可き風俗習慣なりとも思はれず。競争の激烈なる今日にあつては、知事や郡長か雇書記となり、小使ともなり、給仕上りが一躍して知事となり局長次官となり大臣となる事さへもあるなり。成り上がりの場合はよけれども、成り下がりの場合もあれば、余り空威張りをせぬ事頗る肝要なることと思ふなり。

二十七　銀の煙管を所持する人

五無斎の知人に頗るハイカラ的なる一紳士あり。財産は中の上位なれば先以て衣食には事を欠かぬ方なり。此人銀の煙管を所持す。五無斎は例によつて自分のを何れへか紛失したれば一寸貸し給へとて、借りて一服飲みたることありしに、其灰殻を払ふに際し、自分の煙管の積りにて、灰吹にてかん〳〵と打ちつけたり。其人血相を変へて倩も〳〵不仕付なる人かな、ソハ銀の煙管なり。御先祖何左衛門殿の住み給ひたりと言ひ伝へある古屋敷より掘り出したる金銀貨を以て江戸村の村田に托して張りたるものにて、其吸ひ口の所と玉の所は英語にて言へばゴールドなり。是を我朝の語に翻訳すれば金といふことなり。彼是現今の金にしたらば拾五六円もかゝり居る事ならん。元来金銀といふものは、其質極めて柔軟なれば、銅分を混じ合金となして用ふるを普通とす。予が煙管の如きは純粋の金銀を距ること遠からず、忽ち打撲傷を受け易し。されば之を用ふるの際は、右の手を以て左の掌にて打つか、灰吹の上に当て置き、口にて軽ろく

吹き出すなり。加之銀の煙管は、煙草中の硫黄分を化合して硫化銀をつくり、其面も従つて粗糙となり居れば、吸殻の附着して容易には離れぬものなり。故に最も安全なる方法は角楊子の尖端にて掘り取るを善とす。乃ちコを見られよとて煙草入の中より角楊子一本を示されたり。斯くの如くにして五無斎は衆人広座のうち、意外の侮辱を蒙りたるなり。如何にも下劣な奴とは思ひつゝも、此紳士の言ひたる事のうちには、一点の間違ひも有らざるなり。他人の煙管を借りるときは、其銀なるか将た洋銀なるか、又真鍮製なるか純金製なるかに注意すること頗る肝要なり。之か為めには十年一日の如き交情も忽ち破烈するの恐あり。世の粗豪大簡にして豪傑肌なる人の宜敷注意すべき所なり。

二十八　顔面諸筋の発達

小学校の卒業式に取りたる記念の写真を見るに小学校の先生が一番利口そうにして、村長さんが其次なり。又町村長会議の時に撮りたる写真中にては、一番利口風に見ゆる郡長様も、知事や部長と共にうつしたる写真にては最も馬鹿面に見ゆるなり。数多き町村長のうちには知事以上の人物も有るべく、代々の知事必しも豪きには非るべし。見る処の目間違なる可きか。曰く否。元来人類と号くる最高等動物の顔面諸筋のうちには、威張り筋と面諛筋とが存在するなり。目上の人と居るときは面諛筋が最も多く表はれ、目下の人と居るときは威張筋のみが全盛を極むるなり。男女二人連写の場合に於ては、助手筋は牡の方にあらはれ羞恥筋は牝の方に顕はる。斯の如くにして満足筋、不平筋、有福筋、貧乏筋、忿怒筋、慢慢筋、萎縮筋、恐怖筋、泥棒筋、掏児筋等もあるなり。世口人相見といふものあり。是等諸筋の一張一縮によりて其人の身の上や、終生の幸不幸を判定するに、八九分通りは之を過つことなし。然らば五無斎先生夫子御自身の御面相中には何れの筋肉が最も発達し居るかといふに、無論助平筋、不平筋、貧乏筋、忿怒筋、慢慢筋、時に萎縮筋、恐怖筋位のものなるべし。然れども朋友交遊久しく相見ず、卒然として相親、歓然として新を語り旧を談じ、佳酒美肴数名の美姫を侍らしめ日暮れ酒闌にして履舃交錯し、杯盤狼藉、堂上忽にして独滅し各其択ぶ所に従ひ、羅襦襟

解け、微かに郷沢を聞く。此時に当り五無斎亦不平なし。面諛筋、満足筋、羞恥筋、萎縮筋、恐怖筋さへも亦大いに発現することと知るべし。

二十九　謙遜は美徳に非ず

謙遜は美徳に非ずとは、如何にも不謹慎なる文字のやうなれども、謙遜は悪徳なり慢慢は美徳なりとて之を奨励したるには非るなり。何を以てか謙遜は美徳ならずと言ふ。元来謙遜とは自分の出来る事も出来ぬやうに申し立て、聊かにても先方がヘコミたる場合には、遠慮なく附け上がりて忽ち本陣まで斬り込み自分は天晴れ名士なりと信じながらも、自分はつまらぬ者ですなど謙る故に、真につまらぬ人かと思うて普通の取り扱を為せば、非常に立腹してケンックでも喰はし兼ねまじき勢を示し是非共夫へと言ふまゝに上座に着けば蔭にては五無斎といふ奴案外無礼なり。彼は礼儀を知らぬと見えたりなど吹聴する事なり。五無斎は常に他人の一言を信用するの習慣なるか故に、往々此奇禍に罹りたることあり。此位の奇禍にかゝりたりとて聊か吃驚ともする五無斎には有らねども、心地は甚だ快きものに非ず。是は学校の先生方が余りに多く謙遜の美徳なる様教ふるが為めに、生徒は敢へて斯る偽善に陥りたりと見るの外なし。勿論教師の方にては偽善に導く積りには非るべきも成績は案外にも不良なるものなり。謙遜といふことは、名誉心深き人性に反するものなるが故に、如何に強意見は加へたりとて、教師の注文通りには行かず。されば謙遜といふ事は非常なる悪徳にてはなけれども亦左程の美徳には非ず。為るもよけれど為なくとも善し。慢慢不礼は断じて不可なり斯く言はば五無斎的屁理屈なりと評する人もあらんかなれども余り無理なる注文をせぬ方却つて善からんと思ふなり。

三十　卑に降るは高きより

諺に「高きに登るは卑きよりす」といふことあり。五無斎は「卑きに降るは高きよりす」と言はんと欲す。是は峠の峯へ登りたることなき人には、峠を下ることが出来ぬといふ意味なり。去れば狂歌を詠むとしても、古今や万葉位は読んで置かねばならず、狂句をつくるとしても、芭蕉や一茶の集位は見て置かねばならぬ筈なり。五無斎は四書経は半留りにて左国史漢は殆ど読まず。漢文など書けと言はれては書けそうにもなし。又唐詩選や三体詩は一度も手に取りたることも無き程なれば、床の間の軸物などは読めた例なし。今の言文一致論者の大多数は五無斎程も漢文の素養は無き様なり。其所謂文章なるものを拝見するに、長々しく呶々しくして殆ど読むに堪へず。

読むに堪へざる位なれば兎も角も意味の通せざるには殆ど閉口なり。是は卑きに降るに卑きよりするが為なり。去れば五無斎の格言の改造も、実は万止むを得ざるに出でたるなり。是と殆ど同じ道理にて貧乏人が麦飯を喰ひたりとて倹約とはならず。左程窶らからぬ人が唯々諾々言ひたりとて謙遜とはならぬ事と知る可し。此頃尚ほ多々なり。一々列挙し難ければ之を略す。

三十一　生徒の叱り方

小学校や中学校の先生方の中には、貴方何故騒ぐですかと言うて叱る人あり。然れども是程に危険なる質問は又と世界にあらざるべし。

中小学の生徒などは何れも思想の簡単なるもの、又先生といへば如何にも窶らきやう考へ居るものなれば斯様なる事を言ふ筈はなけれども、中に一両名少しく捩れたる生徒のあらんには必ず言はん。「先生の御教授は如何にも不調法に入

らせらるゝなり。学問上の素養は如何にも浅薄なるが上に論理も亦甚だ明晰ならず。加之音声低くして真に子守歌の夫の如く、頻りに睡気を催す。故に止むを得ず防睡剤として最前より両三名申合せ、ストライキの話や星や菫の談を致し居るなり。大枚の授業料を払ひ置きながら、毎日々々催睡剤に等しき御講釈、何とも恐縮の至りに堪へず」、など言はれたらば夫こそ大変なれ。忽ち烈士の如く怒り給ひ、学校長や監督官庁などに申し出で給ふとも遂に其詮なけん。一時生徒を鎮圧し給ふとも、子弟の心服を得んことは到底覚束なかるべし。要は只自分の担当すべき学科に就いては該博にして明了なる知識を包蔵し置きて、親切に教鞭を取らる可きにあること勿論なりと雖も又修辞学や雄弁法の一冊位は御読みなさる事肝要ならんと存ずるなり。

三十二　善意を以て人を解釈するものは幸なり

五無斎の家に四ツ子姫といへる飼犬あり。全身黄金色の毛皮を以ておほわれ、手足の尖端のみ銀白色なるが故に、若し精密に言はゞ四ツ白姫とでも命名くべきなれども暫らく四ツ子姫とは呼び做すなり。中肉中脊、顔長からず短かゝらず先づ以て十疋並以上の縹致なり。

而して彼女は如何にも宿世の果報薄かりしと見え、畜生道に陥りて犬ころとまで生れ下りたるさへあるに、生後数日にして其生母を失ひ、世にも憐む可き孤とはなりたるなり。一日塾生某々等相謀りて、日頃孤児院論などを喋々せらるるの塾長閣下、哀れなどて斯不幸なる小犬をば引取り給はざると、予が前に差し付けられたり。此に於てか五無斎は止むを得ず承諾の意を通じ、頗来予が家にて養育することとはなりたるなり。生後数日の後母に分れし事なれば、乳歯のみにて永久歯の生ゆ可き筈なく、肉類さへも与ふるに由なければ、麦飯など喰ひさうにもなし。止むを得ず五無斎は、弐拾弐銭づつのコンデンスミルク三ポンドを与へ、漸くの事にて粥より始めて普通の飯と肴の骨とを与ふるも妨なき迄にはなしたるなり。去ればその可愛さは又格別のものにて五無斎は時々片脚をあげて彼女の天窓を撫でやるなり。此際に

於ける彼女は首を俛し、尾を動かし、極めて暖き接吻を五無斎が趾の指端に捧ぐるなり。是彼女か五無斎に捧ぐる敬礼の最大なるものなり。耳朶を引ッ張り脊中を打ち、尾を抓ねるも亦爾かず。是は五無斎にのみに然るに非ず。五無斎の知己朋友や、一族親類の来りたる折の如きも亦然り。然れども風体賤しき非人乞食、其他一切物騒なる人物の来りたるをあらんには、一刻の猶予をも与へざるなり、一片の容赦をも加へざるなり。ワンの一語を発するや否や猛然と飛び付きて、退却運動を開始するの止む無きに至らしむるさま、尋常一様の婦人には似げ無きものなり。之を要するに彼女は其勇猛なる、虎豹犀象を凌ぐの概ありと雖も、亦五無斎及び五無斎の知人の為す所に対しては、都て善意を以て之を解釈するものに似たり。去れば予が時々肴の骨や黒砂糖の明き袋などを投げてやるも実は其謂なきに非るなり。

万物の霊長なりと自称する人類といふ動物間の交際は頗る面倒なるものあり。天窓をポンと叩けば軽蔑の意をあらわし、強くコツンと擲れば懲罰の意を表し、肩を打てば親愛、臀を押せば追ひ出し、膝を一寸突けば私語の意を知らするといふ様に、打ち処によつて各其意味を異にし、或は怒り、或は泣き、喜ぶもあれば不平を言ふもあり、指一本にても他人に触れたる際には、其何れの部分なりしやに注意すること、処世上の大秘訣と謂ふ可し。

三十三　悪意を以て都てを解釈するものは不幸なり

五無斎の家の附近には茶目と号くる野良犬あるなり。何れは洋犬と倭犬とか野合の結果、田圃の藁乳の陰などにて生み落される無宿者なるべければ、夫の聞くも恐ろしき肝取勝太郎の如き性質ならめとは近所合壁の評判なり。其毛色の雑駁なると、眼玉の茶褐色なるとは之を証し得て余あるなり。一昨三十九年中何時の頃にかありけん。確とは記憶せざれども五無斎は命の親とも頼む家鴨をば彼の為めに喰ひ殺されたることありしなり。五無斎は唯一の財産たる家鴨をば彼の如き畜生風情に嚙み殺されてもジット耐へて見て居る程の勇気もなければ、誰やらの評したる如く山賊式の風丰と、隼か鷲にも等しき眼玉を剝き出して先づ彼を睨め付け、次いで鉄鎚にひとしき鉄拳を振りかざして彼を追ひ掛けた

ることありしが、遂に蚤一疋をも捕へたること無き五無斎の事なれば、素より誅戮を加ふ可しなどの考は有らざりしなり。然れども爾来彼は五無斎を見るや否や直ちに尻に尾当てゝ駈け出すなり。口笛を吹きて呼ぶことあるも亦来らざるなり。握り飯の皮など与ふることあるも食はざるのみならず鮭の骨さへも亦顧みざるなり。茲に於てか知る。彼は五無斎を解するに都べて悪意を以てするなるを。其後随時観察する所によれば、彼の悪意を以て世人を解釈することは独り五無斎に対してのみ然るに有らざるなり。都べて人に対しても亦然るなり。之を要するに茶目の如きは其無父子なるの故を以て対た無宿者なる故を以て、有らゆる社会より迫害と虐待とを受けたるが為めに拗け者となり悪玉なり終りたるなり。即ち感化院か懲治檻にでも送らるべきものなること勿論なり。五無斎の愛嬢たる四ツ子姫の如きも、其教養宜を得ざるときは茶目の如きものと成り終るべきこと勿論なれども、さすが教育者上りの五無斎先生の為めに鞠育せられたれば彼女の如く十疋並の縹致骨柄を具へ、

捫ねくれもせず、捩ぢくれもせず正当の発達を遂げたるものなれば、孤児院出身の福徳円満なる大教育家、大宗教家に比すべきものなり。之れが感化院と孤児院設置上の難易といふものなり。感化院や孤児院の事、読者各位には必要なきやうなれども五無斎は警察署裁判所の御役人方や学校の先生方と継母に当らせらる人の為めに、幾分の御参考ともなれかしと斯くは御話申上ぐるものなり。

三十四　熱心五分冷談五分の説

五無斎の製造したる格言に熱心五分冷談五分といふことあり。是は新規新発明の格言なれば少しく説明を加ふるの必要あり。元来熱心といふこと必要なるには相違なけれども、冷談も又不必要なることには非るなり。大隈伯は熱心四分冷談六分の人なり。故に政治家としての伯は芽出度不成功に終りたり。板垣伯は熱心六分冷談四分の人なり。然り而して伯の末路は彼の如くそれ哀なり。有繋は伊藤侯なり。侯は先づ以て熱心五分冷談五分の大政治家とも評すべからん

か。統監としての成功如何は万人の与に疑ふ所なるべきも、是迄の所は先以て無難なり。大成功と謂ふ可し。是と同一の理由により、板垣流にして十二分の熱心ある両親には子供の教育が出来ず、大隈式にして俸給にのみ七八分の熱心を傾注する学校先生方の教育も亦余程覚束なき事ならん。

余り金銭財宝を得んと焦心るものに金持なく、余りに良妻を迎へんと焦つものにも亦良縁なし。支那の誰やらは日頃其苗の碩なるを希望するの切なるより、稲の穂を一々抜き出して歩るきたりとの話あり。是は勿論孟子先生の作り話ならんかなれども、醗酵もせぬ肥料を多量に施して玉葱を枯らし尽し、新鮮なる井戸水を多量に呉れたるが為めに、十数鉢の紅葉を火の点くやうにしたる失敗談を五無斎は所持し居るなり。山路愛山老嘗て五無斎が赤毛布麦藁帽の扮装を見て之を笑ふこと甚し。乃ち一首の狂歌を以て之に答ふ。

赤毛布（げっと）　麦藁帽の　意義問はば　ウオーム・ハートと、クールヘツドと

ウオーム・ハート、クールヘツドは英国の格言にして冷頭温心と訳す。即ち熱心五分冷談五分の意なり。有擧（さすが）の愛山老啞然たるもの之を処す。冷頭温心以て熱心五分冷談五分の説を述ぶ。

三十五　自他の説

学校の先生の中には自分の物は兎も角も他人の物は之を大切にせざる可らずと教ふる人あり。然れども是は如何にも不自然の甚しきものなれば、五無斎は自他の区別なく共に之を大切に取り扱ふ可しと教へたるなり。此事に関する五無斎が修身談の大要は次の如し。一、機械器具の類を取り扱ふに自他公私の区別なく、極めて乱暴なる人あり。此種の人は其志遠大にして小節に拘々たらざるの致す所

博徒や泥棒の親分は此種の人より身を起し時に総理大臣となる人をも出すことあるなり。二、又自他公私の区別なく機械器具の類を丁寧に取り扱ふものあり。此種の人は其心術極めて忠実なるの致す所にして、府県郡市町村の長となり

得る人や、局長次官となり得る人も此種の人の中より輩出するなり。去れば時に欠員のありたる折などには国務大臣ともなれる訳にて所謂良吏なり。三、又自分のものをば極めて大切に取り扱ひ、他人の物と見れば極めて乱暴に取り扱ふものあり。此種の人は其品性極めて下劣なるの致す所、社会の風上には置き難くし、去りとて又一人前の泥棒も出来ず三百代言か高利貸位が関の山なり。世界総人口の八九分通りは此種の人なりと知るべし。四、又自分のものをば粗末に取り扱ひ、他人の物は極めて大切に取り扱ふと自称する人あり。

然れども人目の繁き時のみは格別として、暗夜人無き所にては全然の性質をあらわすなり。此種の人に中小学校の教師、坊主、殊に耶蘇坊主として極めて適任なり。諸子夫れ此中の一を選んで可なりと。坊主の説教や先生方の修身談は濃厚なり。五無斎の教訓は淡泊なり。薩摩汁も旨ければ刺肉も亦不味からず。

三十六　姑と小姑

此頃一小学校長某来りて頻りに不平を言ふ。曰く「生が現今の学校に転任し来りたるは一昨年の事なり。然るに本村出身の教育家五名あり。其中の一人は高等師範学校の卒業生にして今や他府県へ出稼中なり。又一人は村内との折合悪しくして隣村の学校に通勤し、三人は現に生が部下にあり。其中の一人は年若き准訓導にして極めて職務に忠実なるものなれども残る二人には殆ど持て余し居るなり。教案の不仕末位は止むを得ずとするも、遅刻早帰及び欠席は彼等両人の外には無し。時間中と雖も彼等両人は教員室に来りて煙草を吸ひ、番茶を喫すること数々なり。生が不在中などには四十五分の時間を五分か十分間位教授し置き、何時も教員室に在るなり。而も月俸は二十円宛なり。之が為め経費に不足を生じ良教員を雇ひ入るの余裕なし。一人は現任助役の親戚にして、一人は某有力なる村会議員と無二の親友なり。前任校長の転任も是が為めなり。数年間教育に従事せられたる五無斎先生閣下幸ひに御教示を垂れられよ。」と五無斎答へて曰はく、世に姑といふものあり。所夫の妹なり。姑の八ケ間しきは天下の共に知る所なれども、小姑は其妹分

なるにも拘らず又随分と八ケ間敷ものなり。又中姑とも名づく可きものなり。是は所夫の姉若くは伯叔母などが、他へ嫁ぎ居たるものの時々帰り来りて小世話を焼く者なり。村長学務委員は是姑なり。村内出身の教員は是中姑たり、小姑たるなり。中姑小姑共に其家の生れなれば如何ともしがたし。それが癪に障らば自分にて離婚をするの外なし。離婚が厭ならば所夫の大事に妻女たるの職務を尽すべきのみ。所夫は是生徒なり。所夫とても無神経動物のみには非らん。足下の勤方悪しくして、此年若き所夫に離縁をされたならば夫こそ大変なれ。

再縁といふ事はあれども良縁は六ケしかるべし。元来小姑の世話などは余り多く焼かぬが善し。都べて世の中の事は手の中にて固るを丸だる如くには簡単ならぬが多し。舅姑たる村吏員や生徒の父兄が八ケ間しく小言を言はねばよし。若し又里方より両親や仲人にも比すべき郡長、郡視学の来りて小言を言ふこともありたらんには、離婚より他家へ縁付くなり、御随意に願ひたし。只々此中姑小姑の世話迄は焼き難し。自分の追ひ出されぬだけが一ト仕事なりなど言うて可ならん。斯の如くにして三、四年、乃至四、五年をも経過したる後は、自分の生みたる子供の手足も延び舅姑も孫の可愛さに優しくもなり。中姑小姑のうちには或は死亡するもあり、他家へ嫁入するもありてやがては自分が此家の真の主婦となりて、案外にも天下は泰平となるに至らん。然れども五年十年の後には娉株となりて弟嫁などより小言を言はるゝ時もあるべく、鬼に等しき姑婆として嫁共より悪まるるの期もあらん。是が浮世の習ひともいふものなれば致し方なし。諺に石の上にも三年といふことあり……尚ほ言ふ所あらんとせしも来客のありたる為巷が始り昼飯となりて其意を尽す能はず。

三十七　役場小使と学校小使との比較

役所向に奉職する小使は煙草盆の火を埋むることが上手にて、学校の小使は不調法なり。其故如何となれば、学校の先生は十五分の休みと朝夕の六回丈ケ煙草を吸ふものなるが故に、六回丈之を運べば可なる訳なり。之に反して役所向

きの人々は、一日在庁八時間中一定の時期なく、仕事の隙間々々を見計らひ各自随意にパクパク煙す習慣なるが故に学校小使の如き不調法にては、煙草盆の火のみにても優に一日の仕事はあるなり。即ち必要は発見の母といふが如く必要上火の埋み方を発見したるなり。然れども泣き児を騙し、子供の喧嘩を仲裁することは学校小使の方遖に上手なり。今仮りに学校の小使と役場の小使とが各其位置を交換したりとせよ。半年位は兎も角も、其後は何れも不都合なきに至らん。然らば学校の先生と村長とか其位置を交換したらば如何。五無斎の見る所を以てすれば、半年位にては役場事務にも慣れず、又学校の仕事も出来ぬ事と思ふなり。乃ち是れ校長村長共に不具者なるなり。故に校長は村長の事務が取れる程に村内の事情を知ると同時に、村長も亦教育上の事など研究するがよからん。校長村長共に不具者なるにも拘らず、村長は校長に対して小世話を焼き、校長は村長に対して不平を言ふこと不心得千万といふ可し。是と同じ仕方にて御亭主と妻君とが其仕事を取替たらば如何。二部長と中学校長とが其位置を交換したらば如何。国務大臣と代議士が其位置を顚倒したらば如何。答滑にして稽。

三十八　町村吏員と学校教師の経済眼

町村役場と小学校の糞尿を払下げたる人の言ひたることあり。曰はく、

役場の方は大便少く小便のみなり。学校の方は大小共に相半ばせり。故に之を払下ぐるに際しては、小学校の方余程高価に払ひ下ぐるも差閊なし。と、是は一方の経済眼が頗る詳密なるものなるに反して、一方が粗放なるを証するものなり。余りに緻密煩細なるも褒められたるものにては無けれども、又余りに粗豪太簡なるも賞す可きには非るなり。殊に町村会議員のうちには溲瓶を持参して町村役場学校に出勤するもありとか。然れども事実果して然るや否や。五無斎曰はく、府県郡立の学校教師は小学校の先生に比すべく、府県郡の吏員と議員とは町村役場吏員と、溲瓶持参の村会議員学務委員に比すべきものなりと。

三十九　日月二字の読み方

五無斎は今より二十六七年の昔、十二三才の頃にやありけん、年俸金五十銭にて郷里山部学校の授業生といふ大任を拝命したることあり、年俸金五十銭といへば如何にも馬鹿気切つたる様なれども、当時に在つては頗る異数の立身出世なりしなり。他人の功名手柄を忌むこと、浮世の人情とは言ひながら、近郷近辺のものよりは、猜忌と嫉妬の心を以て見られたる事もありしなり。今其一つを言はゞ隣家の畳屋某といふ人ありたり。此人は田舎にては先以て物知りの方にて、遠州流の挿花もし茶道の心得もありたるが墨のつきたるものは鍋の底でも善し、実語教、童子教ならば、東西南北よりも亦上よりも、又下よりも、又御好みとあらば隅違ひでもといふやうなる篤学者（？）なりしなり。或る時五無斎は此老人の瀬踏試験にて芽出度落第したり。ソハ日月二字の読み方なりしなり。当時何と答へたりしか今は確と記憶し居らざれども、日ジツ、ニチ、ヒ、月。グワツ、ゲツ、ツキ位のものなりしならん。此時老人は頭を左右に打ち振り、偖も〳〵無学文盲なる人かな、拙老は助教様などにては非ざれどもとの前置きにて。

第一　じつ　一日のじつの如し
第二　にち　毎日のにちの如く
第三　ひ　朝日のひの如く
第四　か　十日のかの如く
第五　ふ　今日のふの如く
第六　た　翌日のたの如く
第七　て　明後日のての如く
第八　ち　朔日のちの如く
第九　り　晦日のりの如く
第十　もす　終日のもすの如く
第十一　ごろ　頃日のごろの如く
第十二　が　春日のがの如く
第十三　に　日本人のにの如く
第十四　につ　日本晴のにつの如く
第十五　やま　日本武尊のやまの如く
第十六　くさ　日下部のくさの如く

第十七　へ　　日置のへの如く
第十八　うら　日者のうらの如く
第十九　いつ　日外のいつの如く
第二十　るす　百日紅のるすの如く

以上日の字の訓み方総計二十種也。

第一　げつ　残月のげつの如く
第二　ぐわつ　十月のぐわつの如く
第三　つき　大月のつきの如く
第四　ぎ　如月のぎの如く
第五　み　五月雨のみの如く
第六　た　五月帯のたの如く
第七　げ　海月のげの如く
第八　さか　月代のさかの如く
第九　さ　月水のさの如く

以上月の字の訓み方都て九種也。是は大阪発行の滑稽新聞に出て居たるものなれども五無斎の幼時受けたる試験問題と殆ど同様なれば一寸借用せり。

の如く書き並べられたり。此時に於ける五無斎は面色宛然土の如かりしなり。是は今より殆ど二昔半の古代なれども、現今尚片田舎の村会議員や学務委員のうちにも斯かる篤学者ありて、学校の先生を困らするものありとか。顰蹙すべきことにこそ。

（信濃公論不明のため　四〇、四一缺）

四十二　強持てのする人

其一　議員

五無斎の田舎の小学校長たるや、先以つて町村長学務委員や、部下の教員生徒に対してのみ然るべき筈なるに、町村会議員を遇するには止むを得ず何時も温顔を以てし、最敬礼を行ひ、心にもなき諛辞を以つて、する事の場合多かりしなり。是は教育費の削減などを、無暗にせられぬ為の予防策なり、それと殆ど同一の筆鋒、否口吻にて郡長は郡会議員

に、府県の知事は府県会の議員に、国務大臣は代議士に、各敬意を表するやうなり。是を議員の強持てといふ。代議士と言へば頗る豪きやうなれども、田舎の村会議員としても如何はしき人、五無斎の知れる代議士のうちにも数名あり。日比谷原頭の集合所に至らば、其数四五百に垂れんとす。貴族院の方殊に此種類の人に富み、款項目の分らぬ人、大多数を占むるよしなり。田舎の市町村会に至つては況んやに於てをやなり、偖斯る連中が、議事の進行中不恰好なる五所紋の羽織、仙台平の袴を着け、不釣合なる洋服を纏ひ、不調法なる田舎弁を振ひ、不謹慎なる言論を敢へてする処、頗る滑にして稽なるものありと雖も、腹の筋を棒にして笑ふことも出来ず、ソハ間違なり間抜なりと言ふこともならず。只詢々として原案の通過を懇願することなるが、理事者当局者の困難は、実に此辺に存するなり。天下の公会場たる議事堂々裏、各其旗幟を立て、正々堂々勝つも負くるも其事の善悪正邪如何にあらば、稍安心なるべきも、近来に至りて議場よりは委員室、委員室よりは曖昧茶屋の奥座敷に於て決せらるることとなり了りたり。実に議会操縦策は、小売商人の駈け引きよりも面倒なりと謂つ可し。

四十三　強持てのする人

其二　巡　査

博徒や土方の親分株のうちには、随分豪き人物もあるなり。腕前とても抜群なるが上に余り方外なる屁理屈も言はず。然れども又自分一身の顔に係ることもあり。法律や社会制裁も及ばぬようなる痴者に対しては、忽ち其人の脇腹に窓を明け、脳天を叩き潰す位の勇気もあり、力量もあるなり。去れば社会より畏敬せらるること、実は無理ならぬ次第と謂ふ可し。然るに玆に一種の役人あり。巡査是なり。其人物は左迄豪らくは非ず。腕前とても中以下なり。然れども村落に於て強持てのすることは予想外なり。是は虎の威を借る狐にも比すべきものならん。巡査の食ひ逃げ中々多しとは。或る飲食店の主人が語りたる様記憶し居るなり。似せ刑事となり似せ巡査となりて、強窃盗を働くもの、日々の新聞紙には

見ゆるなり。定めて本物の強窃盗もあり、無銭遊興者もある事とならん。似せ教師、似せ伝道師の詐偽取財恐喝取財は、新聞紙にも多くは見当らず。佐久間象山や、頼山陽は豪らければこそ似せ筆も多く有るなれ。五無斎の短冊などには似せ物一枚もなし。去れば似せものの有れば有る程益々其御本人の豪きを知る可し。然れども此豪しといふ文字にはプラス印マイナス印のある事とを知らざる可らず。

四十四　強持てのする人

其三　新聞記者

世に新聞記者といふものあり。江戸村のは中以上なれども、田舎のは中以下なり。似せ刑事似せ巡査の多きが如く、似せ記者の拘引などの記事が、時々新聞紙上に見ゆるなり。之に似せ物多き書画骨董の類を加へて似せ物多き三幅対とも為さんか。都ての新聞記者が悉く然りと謂ふ訳には非ざれども、其末寺末派に至りては、実に如何はしきものあるなり。五無斎は新聞記者にも非ず。又似せ新聞記者となりたる事も無けれども、時々は県教育の問題などを記述して或る人物を褒めもし貶しもしたることありたるが為めに、某金満家より、予が事を左も豪らそうに、如何にも慈善家らしく書き立て呉れよとて、料理屋にて芸者などを奢つて貰ひたることありたり。斯かる場合に於ける五無斎の困り方と言ふならば、到底他人の想像にも及ばざる事ならん。自分持の新聞にてもありたらんには格別として、持主のある新聞に如何しき人の伝記を投書すること至難中の至難事なり。五無斎は博徒やコソ泥に深交もなき故に、斯ることは遂に一度もなけれども、閣下よ。閣下は予が悪事の総てを知る。然れども閣下幸ひに予が悪事を特筆大書すること勿れ。警官や裁判官の方より暴露し来たらば、万止むを得ずとするも、閣下より吹聴されては実に困り入るなり。幸ひなる哉茲に佳酒美肴のあるあり。乞ふ一杯を過ごせ。など言われたり。とせよ。苟も自分の利害損得に関係せざる以上は、御酒は好きなり御意は善し。相成るべくは芸者なども善からん。貴下の請託は謹んで之を了す。然れども証人として警察署、裁判

所へ呼び出されたる場合ともならば、知つた丈ケの事実は之を開陳することを得るの自由を与へよ。などの条件附きにて、充分に頂戴することもあらん。本物の新聞記者となりたること無き身には善くは分らざれども、近頃の新聞を聞するに、余り慈善家ならぬ慈善家左程悪人ならぬ悪人の記事も多々なるやうなれば、斯かる説得、否記者徳もある事にや。穴賢。々々。

四十五　不健全なる社会

可怖(こわ)持てのける人、此外にも尚多々ならん、今一々記述するの煩を避けて、以上三種類の人に止め置かん。然れども此可怖持てといふこと、持てる人よりは持たする人こそ笑止なれ。議員が強(こわ)くば国務大臣は言ふも更なり。知事、郡長さては市町村の長官などにならぬが善かるべく、巡査が強くば曖昧茶屋などを始めぬが善し。新聞の記事などには何んと書かれても一向お構なし。馬鹿は人が利口になる筈もなければ、品行方正なる人が破廉恥漢となる事は万々なし。五無斎などは一種の広告なりとの見解より善悪共によし相成るべくば毎日毎日の紙上に書き立てて貰ひたしと主張し居れども、褒めても呉れず、去りとて又貶(なな)しても呉れず、案外にも天下は泰平なるものなり。仏家の説に、名利の念を放擲せよといふことあり。然れども五無斎は、終生名利の念を離れぬ積りなり。然れども不名誉なりとて悲しまず。不利益なりとて非常に立腹もせず。名利の念を離れたるが如く、離れざるが如き、五無斎独得の長所なり。此長所あるが故に、国務大臣や知事杯には成り度もなく、新聞屋の悪る口は、馬の耳に念仏、鹿の耳に題目と聞き流し、巡査や裁判官などには恩怨共になし。若し社会の人が悉く五無斎の如くならしめば、代議士となりたりとて余り多く屁理屈を言ふの機会もなかる可く、巡査なりとて威張られもせず、新聞記者は其役得、否記者徳を失ふに至る可し。之を要するに、強持てのする人の斯く多数なる間は、之を健全なる社会とは号(なづ)く可らざるなり。

四十六　国会議員の慚悔

世に政治家といふものあり。府県会の議員になりたさに、数千円乃至数万円の運動費を使ふもあれば、国会議員とならんが為めに、祖先伝来の田地田畑は言ふに及ばず、家庫迄も典売するもあるなり。偖斯くの如くにして、芽出たく府県会議員となり、国会議員となりて後、府県政に参じ天下国家を経綸すべしなどの才能は勿論なし。只窓数として居たり立つたりする木偶人形のみ。此種の人、往々立ち損ふことあるが為めに近来は憲政党は憲政党、憲政本党は憲政本党といふ様に各々其席次を区別しありと聞くも笑止なり。五無斎の知人某氏、幸か不幸かは知らざれども、先以つて芽出度国会議員となり、三ケ月の会期を済して帰県せられたれば、過る三ケ月間国会議員として日比谷原頭に蛙鳴、否啞迷を継続せられたるの感、果して如何と問ひたるに、其人答ふるよう、予は始めて国会議員となりて、政治家のつまらなきものなる由を発見したり。政府提出の予算案や法律案は絶えて分つたものに非ず。甲の説を聞けば甲の説が尤もらしく乙の議を聞けば乙の議が如何にもと思はるるなり。待合の夢未だ醒めやらず、居眠りをしては隣席の人や見ん、傍聴席の人や指さん。新聞記者や笑はん。院内総理咎めんと、安き心もあらざるなり。領袖連の中には、才覚以外の収入あるも有る由なれども左様なるものは遂に手にしたることもなく汽車のバッスは貰ひて居れども、如何にもマリキが悪ろくて横風に示されもせず。村会や郡会に出てたる折などとは、大に其趣を異にするなり。村長や郡長を相手にしたる折には、小意地の悪ろき事の一ツ二ツを言ひたるのみに……それ酒よ肴よ、やれ芸者よ娼妓よと……かれし身の、大臣方の傍などへは寄つたこともなく、口開けば腹見ゆるの古句の応用は此時と、隅の方に屈り居たるに過ぎず。斯くの如くにして院内院外、総べて啞同様なり。尚今後三ケ年間は毎年三ケ月宛の此啞生活を継続せねばならぬ筈なり。次期の選挙には無論出馬はせぬ積りなり。

と、五無斎は、町村会議員にはなりたることもなく、又帝国議会などへは見物に行きたることもなし。事実果して然る

ものにや八九分通りは承知の出来そうな話なり。

四十七　職業は其人の人格を左右す

職業の職の字は、食の字と同音なり。従つて同義なりと知るべし。人の世にあるや、食ふ為に生きているが、生きる為めに喰ふか、都べて哲学じみたる議論は暫らく擱き、兎も角も一日に三度宛は、必づ食せざるべからず。偖一日に三度宛は自分も喰い妻子にも喰はせねばならぬとすれば何か一つの職業なかる可らず、士といふ字は、今の言葉にて言はば、月給取りといふ事なり。斯く人の職業は、パン問題の深く関係する所なれば、月給取と然らざるとを問はず、一家成立の第一要義なれば其人の人格迄が追々に変化すること、是非もなき次第といふ可し。農家の人は飽く迄も質朴に、商家の人は何処迄も悪奸すく、学校の先生は矢鱈に小世話を焼く人となり巡査は無暗に怒鳴り散らし、新聞記者の利口がるは小面が悪くし、弁護士の理屈づくめなるところ、殊に毒々し。宗教家の殊勝らしくして偽善家の多き、泥棒の昼寐顔の柔和なる、其平生には似気なきやうなるは、其職業の必要上より進化したるものと見るの外なし。然らば山に千年川に千年なる五無斎先生夫子御自身の性格如何。無論御覧の如く以上の諸悪質、諸悪想を具備せること勿論なり。

四十八　其人の人格を知らんと欲せば共に牛鍋を突つくにあり

宴会の席などにては吸物椀の中の下地を余し、焼き肴の皮を残す程に上品なる人にして、共に刺身の鉢をつゝき、牛鍋を突く時には、周章て却つて三人前も馬喰ひ込み葱や馬鈴薯などは、一向に顧みぬ人あり。

偖此碗中の下地は、一種のソップとも言ふ可きものにして、滋養分は多く此中に存在する。なるべく、鮭の皮や、鯉の皮には、香気ありて且つ脂肪に富む。然らば世人は何故に斯く爪らなき事を敢てするかと言ふにソハ大に理由あり。下

地を残りなく吸ひ、皮までも残らず喰ふことは、如何にも厚顔ましきやうに思はれて、外見の如何にも不作法なるやう感ぜらるゝに因る。然れども是は人の美醜美悪は、外見の如何によるに非ずして、内心の如何にありとの理を忘却したるなり。五無斎などは、六ヵ敷事は知らねども、此位に簡短なる理由は善く々々弁へ居るが故に、貴顕神士の前をも憚らず皮をも余さずに喰ひ尽し、又骨をも舐りて恬として憚ることなし。尤も刺身の鉢や、牛鍋を与にする際などには、幾分の遠慮をも加ふるなり。刺身の三人前も馬喰ひ、鳥鍋の肉のみを拾ひ喰ひにすること、実は其人の人格に関す。刺身に代ふるに十円紙幣の八九十枚と、一円紙幣の一二百枚も盛り置きたりと仮定せよ。此人忽にして七八百円を着服することならん。鳥肉と葱とに代ふるに金銀貨の等分量を以てせよ、此人直ちに金貨のみを拾ひ尽さん。苟も鮑叔ならぬ限りは、忽ち絶交を宣告せん。分つに多きを求むることなかれとは、古聖賢の戒むる所なり。尤も酒は量なし乱に及ばずと、孔子先生さへも仰せられたる程なれば、乱棒せねば、少しは余分に飲みたりとて、左迄の無礼とはならぬ事と知るべし、此語の意味より推して、孔夫子を強酒家なりしやう考証する学者もあれども、事実如何のものにや、兎にも角にも、五無斎は孔夫子の此語丈けは日頃、感謝の意を捧げつつある者なり。

四十九　人類は腐敗物を嗜む動物なり

人間程意地の小穢きものは、又と世間にあらざるべし、稲といふ草の実をつくり置きて、其外皮たる籾糖を剝き、其の肉皮たる粉糖を去り、数回之を清水にて洗ひ流し、之を炊きて御飯となし、一日少くとも九椀を喫して之を胃中に運び、又小麦といふ草の実を石臼にて挽き、水と薬品とを加えて竈の中にて焼き、牛の脂を塗りつけて之を嗜み食ふ。是等の点より観察すれば、人間といふ動物は鳥獣虫魚の頗る進化したるものの様なれども、又余りに進化し過ぎて、大に退化したりと見ゆべき節も少からず。味噌といふものあり、滋養の効頗る顕著なるは、誰も承認する処なれども、実は大豆と麹とを腐らしたるなり。又醤油といふものあり。魚鮓を食ふに当りては、焼塩にては間に合はず、必ず此物を要

すること勿論なれども、之も亦豆と小麦とを腐らしたるなり。又酒といふものあり。米のみを腐らしたるもあれば、麦のみを腐らしたるもあり玉蜀黍を腐らしたるウイスキーは、英米諸国に珍重せられ、帝国議会の大臣席には、頗る必要なる飲料なり。葡萄の実を腐らして造りたる葡萄酒の数百年を経たるものは仏蘭西あたりにて非常に賞用せられて、其価一瓶にて数百円に上るもあり。又此葡萄酒は耶蘇教徒の結婚式には、少くとも一、二杯は無くて叶はぬものなり。茶人の舌打ち鳴らす玉露製の茶は茶の葉を腐らしたるなり。当世神士の銜へ煙管とも称すべきマニラの葉巻煙草や、越後の大鹿煙草は、青葉の際に寝かし置き腐らしたるなり。然れども是等は腐敗したるに非ずして、態々醗酵せしめたるなりとの逃れ口上もあれば偖よからん。最後に糸引き納豆といふものあり。如何にも鼻持ちのならぬものなり。糸引納豆々々々々と呼び歩るく声の朝夕絶え間なければ、随分売れ行きのよきもの、従つて。又之を嗜むもの多きを知るに足らん。是も亦醗酵の一種と言はんか、されども腐敗といふ方寧ろ適当ならん。余のものは忍ぶ可し。此物のみは鼻の下、頤の上に近づけ難し。五無斎或る時醤油糟の新鮮なるものを手飼の家鴨に与へたることありしに、彼女等は忽ち頭を左右に打ち振り恰もオ、五無斎よ、吾等は腐敗物をは好まざるなりと言ふものの如し。糸引納豆は与へては見ざりしかど喰ひさうにもなし。是に由つて之を観れば、人間と号する最高等動物は、腐敗物を好むこと家鴨以上なりと断言するも可なり。

五十　五無斎は酒も煙草も止めぬ積りなり

人間の意地汚きは前段述る所の如し。然れども、五無斎は酒も煙草も止めぬ積りなり。此頃五無斎は、南信教育大会に趣きたる序を以て、諸所方々を飲み歩き、一日三四回乃至五六回宛、二三日間飲み続けたり。乃ち四日目の朝例によつて三村某といふ友人の自宅にて、朝酒は質を置いてもとの諺もあれば、況して鐚一文も出さぬ酒ならばとて、遠慮会釈なく頂戴したりしなり。稍五六合も飲みたりし頃、嘔吐を催すままに裏庭に出でたるに、普通の小間物店に次ぐに血

嘔吐を以てせり。三村婦人は言ふも更なり。姪に当れる人も、頗る魂消たるものと見江、真青になり強意見を加へられたり。五無斎自身さえも、少しく驚きもし怖れもしたれば、一時は禁酒せんかとも思ひたれども、一日一ト晩休業したるのみにて、復飲み始むる業となしたり、人生酒の為めに死したりとありなば、何となく可愛らしき所あり。若し婦人の為めとあらんには、其野暮さ加減は言語同断なり。若しそれ遊女屋に於ける無理情死、一人心中など来た日には鼻持ちがならず。岩頭の感など、天晴天下の名文を書きたりとて、天知る地知る人知る吾知る失恋宗の大本山なりと、浅間や華厳のあらん限りは、人の記憶に存することならん。近来青年男女の間に於て、此風の事頗る流行するは遺憾此上もなし。統計表といふものの不完全なる世の中にありては、其数の詳細なることは勿論之を知るによしなきも、酒の為に死ぬ人の方、婦人の為めに変死を遂ぐる人よりも、遥かに少数と見ゆるなり。煙草を吸ひたるが為めに変死したる人一人も聞き及ばず。五無斎の酒と煙草とを止めぬ事、其謂れなきに非るなり。然れども五無斎は、敢へて世人に禁酒禁煙すべからずと教へたるには非ず、可相成は禁酒禁煙をも断行せらるると同時に、婦人の関係も少しく淡泊に願度しとの意に外ならず。殊に有為の青年男女の各位に対しては、況んやに於てをやなり。（五一～六二まで欠）

六十三　老翁老嫗の利用

孟子といふ書の中に

五畝之宅。樹レ之桑以。五十者可二以衣一レ帛矣。鶏豚狗彘之畜。無レ失二其時一。七十者可二以食一レ肉矣。

とあり。此語を平たく解釈すれば、先づ人並の百姓ならば宅地の周囲に桑でも仕付け置きて蚕でも少し飼ひたらば五十以上の老人には絹の着物でも拵へて遣る事が出来養禽や養豚でもうまくやれば七十以上の老人には肉や卵でもお上げ申すことが出来るといふことなり。偖て斯の如きことは統計表にも明了に記してはなけれども一戸五人の家族を部分けをすれば夫婦に若いもの一人子供一人老寄一人位の割合ならん。然らば帝国全体としては一千万人の老人がある訳なり。

是等の老人は主に天保弘化時代の生れなれば齢既に耳順を過ぎ還暦の祝（六十）や古稀の宴でも開く可き人々のみなれば喜の字や米の字の頃までもと願ふ孝子の情よりすれば世の中の劇務に鞅掌して貰ふこと如何にも御気の毒千万なれども戦勝国たる我帝国の現況は老幼男女の区別なく遊手徒食の行を許さず。例によつて五無斎は老翁老媼の利用法を建策せん。

第一　子守女の代用を為して貰ふ事。

諺に婆々育ちは三百安しといふことあり。爺々育ちも二百位は安からん。然れども五無斎は常に其愛子女たる赤ん坊を十一二才位にて而も無教育なる遊び盛り腕白時代の子守子供に伴はしむることの如何にも奇険千万なるを憂ふるや切なり。

第二　養鶏養豚の掃除夫給食掛りとを依頼すること。

如何に老人なればとて苟も病身ならぬ上は鶏ならば一二百羽豚ならば二三十頭位の管理の出来ぬ人はなからん。而して何れにしても一ケ年百円以上二百円以下の収益あり。尤も飼養法及畜舎禽舎の構造等については他日筆を改めて記述することある可し。

第四　養蜂箱の掃除方を依托すること。

養蜂箱の箱二十個位の掃除は左程面倒でなし。而して一ト箱凡十円宛の純益は受合なり。是亦少からぬ説明と研究とを要するものと知るべし。

此外尚種々の利用法もあらん。又其地方々々にて老人にふさはしき仕事もあらん。然れども今は以上三条を記したるのみなり。終りに臨んで予は一言を添へん。曰はく五無斎の書に斯の如き事が書きつけありたりとて之を老翁老媼たるものも亦僅々三四十年の勤倹貯蓄によつて得たる三百身代を鼻に懸けて六月の半ば頃迄も炬燵や火鉢を扣へ毎日毎日碁将棋の友達なども引張り散し居る権利はなきものと知るべし。要は只老翁老媼の方よりも少し位宛は小使取りを致すべしなど申し出づ可き義務もありと知るべし。（六四より六九まで欠）

七十　農家の献立

五無斎の米麦に就て知る処前段所論の如し今之を基礎として農家に必要なる朝昼晩三度の食物の配合を説かん。

朝食　米六分挽割麦四分の麦飯、三椀乃至五椀宛。
　味噌汁、三椀乃至五椀。香の物、小皿一ッ。

昼食　麦飯、三椀乃至五椀。
　味噌汁　三椀乃至五椀。農業繁忙などの折などは之を略するも可なり。然る場合は香の物の代用として瓜大根生マ葱等に生マ味噌を塗り附けて食ふ可し。

晩食　饂飩麦切蕎麦切等随意なり、焼き餅や積み入れは繁忙の際に用ふ可し。来客のありたる時の外は市場にて買ひ求めたる醤油や鰹節を用ふるに及ばず。生マ葱の細かに切りたるものが大根といふ草の根の細末せるを副へて用ふ可し。以上論ずる所甚だ簡単なるやうなれども五無斎が幼少時代の献立なり。鮭や鰤の切目などは年末年始の折両三回頂戴したるに過ぎず。尤も五月頃田植肴として鯡の乾物や赤鰯といふもの喰ひたること一両回あり。然れども五無斎の体量は十八貫五六百を上下し居りて或人は山賊式の風丰なりと評したる程なり。是は皆味噌汁と饂飩粉のお蔭なりと知る可し。

七十一　町場の妻女利用策

町場の妻女程意気地なきものは又とあらざるべし。下女や下男にかしづかれ何一つ為すこともなく、着物は仕立屋に三度の食物は下女に髪さえも女髪結に命して為さしめ常に薄暗きやうなる一室に閉ぢ籠り狆ころや猫児を相手にも居るに過ぎず。之を彼の荷車挽の妻女が赤ん坊を脊負ひながら車の後押を為し質餅屋の内君が両肌脱ぎにて餅搗の手伝を為

すものに比するときは始んど同日の談に非ざるなり。五無斎の子供の時分には社会の事物は今日の如く複雑ならず暮し向き万端気楽なりしも日露戦役以後世間は頗る物騒となりたり。何人も手足を遊ばして置いては鼻の下頤の上に能喰院建立の出来ぬ事となりたり。お寺の坊主も勤倹貯蓄の必要を説き郡役所のお役人も戦役経営を口にし小学校の先生さえも自己の経験上より割り出して月給取りで飯が喰へぬなど話すやうになりたるの今日なれば町家の妻女利用策を講ずるものなり。田舎の妻女は蚕を飼ひ田の草を取る等女相応否男子も及ばぬ程の仕事を為せども町家の妻女に限り此事なし。左れば愛嬌のよき妻君なれば最も妙なれども帳場に据え置きて縞袢浅黄股引の扮装にて番頭寧ろ小僧の仕事にてもなし花客大事に商売したらんには少くとも雇人の二人位は減員することも出来ん。果して能く斯の如くしたらんには客扱ひの上に於ても万事疎漏なく商売は日に月に隆盛に趣き子孫繁昌天下泰平の基ともならん。支那人のやうに妻女を暗室内に蟄居せしめ置く事如何にも不経済極まる事なれば一応御相談をかくるものなり。

（以上信濃公論第六号　明治四一、一二、九～第九五号明治四三、九、一五までの所載）

二　時事短評

○　小便でもヒラヌとは昔の考也

近頃、県に夥しく起りたる学校騒動は、教員同士、教員対児童、学校位置問題、等の種々錯綜したる不和事也、而して実際に立ち至り細密に観察せば、一として町村青年の批評的位置に於て干与せざるはなし、これもとより、生存競争の激甚を極めたると一般社会の道義の失墜を来したるに起因するものならんが、其の大部分に於て教育者たる人物の下

落を来したるの譏を免かるゝ能はざる也、教育と云ふ一閣に列る卿等よ社会の進運は町村青年が、いつ迄も卿等を目して小便でもヒラヌ聖人君子なりと思はざるを自覚せられよ、教育者たるもの、真に自省して可ならずや。

○　未だ階にだも上る能はざる也

西電は伝ふ、米前大統領ルーズヴェルト氏は亜弗利加猛獣狩をきりあげ、今やまさに欧州各国元首と会見せんために発途し以太利に於て、ローマ法王に面せんとして壮重、毅然として自己の主張を貫徹し、以て全世界の視聴を引き、今後益々大偉人としての同氏が一挙一動は、大に欧州言論界を賑はすべしと、ルーズヴェルトは男でごんす、真に痛快心事にあらずや、顧みて思ふ今や本県に於ても政党の培養期、所謂政星、北に南に東に西に来往漸く頻りならんとす、この際この秋、選挙民たるもの果して儀表人物が如何に物の役に立つかを見、次期選挙期に於ては、公議堂々已むを得ずんば快刀乱麻、主張のために五斗俵に屈せざる男らしき大人物を選ばざるべからず、若しそれ黄金のため神聖なるべき投票権を汚すごとき人に至つては、立憲国民学校の初学入門のみ、未だ階にだも上る能はざるものなり。

○　今日は何か御座いますかネー

『何か御座いますかネー』とノートとペンシルとを持つて、毎日諸官庁を尋ねまわる者は、言はずと知れた新聞記者也、丁度、紙くず拾ひや、ボロ買ひや、ガラクタ集め屋が、今日何か御座いますかネとやると甚だ相似たる者あり、諸官庁の官吏は、人間に関したる紙くづか、ボロかガラクタかのないと、いふをば、恥辱と心得、かいつて、実はこう

ゆう珍妙な事がありますと就中、警察署の如きに至つては、得意気に所謂三面材料を積極的に供給し来るに至つては、常識の欠如せる俗吏たること真に驚くべき次第ならずや、警吏は悪人の悪事を取押ふるものなりと雖も、あらかじめ、悪人の生せざる工夫手段につき充分焦心苦慮をめぐらざさるべからず、聞くが如くんば日々新聞の報ずる所謂三面記事に依つて悪人の自然に製造せらるゝ事は尠からざる也と、吾人は新聞記者と称する人も其の罪大なるべきも先づ警察官等が深くこの点に留意して新聞材料の供給を軽々にせざらんことを希求して已まざる者也。

○ 学務の移動は大賛成

与良県視学の野沢中学校長に任じたるは栄転にして最も適任也。参謀部の者は時々隊附となりて実兵の指揮に馴れざるべからず、隊附の者は又時に参謀部に入りて軍制其他作戦の計画を知らざるべからず。甲田氏の上高井郡長となりたるも亦頗る良矣。学務今回の移動は先づ概して我意を得たり。

○ 警察界往々斯事あり

荻窪政太郎なる巡査は、中野警察署在勤中芸妓落籍を種にして同町竹内久右衛門なる者を恐喝し数回に四百余円を奪ひ取りたりとて長野地方裁判所の公判に移さる。警察界往々にして斯の如き事あり、殊に刑事巡査を以て甚だしとす。其筋に於て厳重の取締を望む。燈台元暗しの譏を受くる勿れ。

○　去就は当てにならず

政友会の幹部連は先頃より運動を開始し、佐久小県其他の政客を歴訪して狐鼠〳〵と自党の拡張に努めつゝあり、先般来主義がどうの斯うのと勝手な熱を吹きて変節する手合は多く旧の政友会脱党組にあり。昨年変節せる者は今年も亦変節す。容易に引き込に応ずる者は又容易に脱党せん。彼等の去就は余り当てにならず。

○　女房持が却て不品行

独身者は危険なりとの理由を以て、高等女学校などの教師は大抵女房持也、女房持は品行良きものと決つて居れば安神なれど、安ぞ知らん是迄高等女学校などにて不都合を働きたる者多くは女房持のチャキ〳〵ならんとは、世の風儀が乱れたる時は女房持とて決して油断は出来ず。女学校などにては職員生徒間などの取締も出来得る限り厳重に願ひたし。男女間の交際は寛なるよりも厳なるが良し。昔の武士道的の教育は現時唯一の防腐剤なり。

○　官民協力の一大責任

堀田警務長の談、意外の反響を同業者に与へたるは寧ろ奇とす可し。彼の憂ふる所、此の忿る所、所詮は見解の差のみ。吾人を以て之を見る、社会の秩序を維持し、善良の風俗を希望するは官民を通ずる協力の責任なりと。宜しく忿り

を和げて身を慎み、憂ふるを止めて非を矯むに努む可し。

○ 悪徳新聞記者の取締

悪徳新聞記者の取締断行云々は、官の声に非ずして民の叫び也。一世を指導し、輿論を喚起す可き天職を有する新聞記者は、躬から社会の悪徳を退治するの武器を持する者に非ずや。武器を持して而して之を悪用す。斯る者に対しては何為ぞ官の力を俟たむ。同業自から制裁を加へて可也。

○ 佐藤県視学に嘱望す

佐藤君新たに小諸商工学校より入つて与良県視学の後を継ぐ。吾人は其の最適任者を得たるを喜ぶ者也。君の人格、識見、抱負は世自から定評のあるあり、敢て呶々を要せず。唯だ君に望む所は、信州の教育をして統計の教育たらしめず、実績の教育たらしめむこと是而已。

○ 危険極まれる検診法

トラホームの検診を励行するは衛生上頗る賞讃す可き美事たり。而も利弊は事毎に免る可からざるの数に洩れず、日に数百を検診する医士が、消毒の繁雑を避けて之を敢てしたる為め、却てより多く伝播せりと聞く。斯くては検診の任務を負へる医士が、反対に該病伝播の仲介者たるの奇観を呈するに至る可し。果して然らば「医者に養生家なし」の古諺我れを欺かず。トラホーム検診の事、竟に医士の手のみに委するは危険至極也。豈恐れざる可けむや。当局者たる者

宜しく相当の注意と設備を要す可し。

○ 信州出身高教議員

本県教育界が十年前と比較して今や高義清節の皆無なると意気地の甚だしく消沈したるとは徒に京童の悪口に依るのみにあらざる也、見よ本県出身の高等教育会議員を、或は其の所説あるをも抂げて政府薬籠の者となし或は亦其の言議てんで振り向きもされずして愚弄されたる中に稍聞くを得べきか、其は已に新時代棄却の遺駭ありとかや。

○ 大議論に傾聴せん

一体ならばこんどの如き学制改革と謂ふ大問題の持ち上つた時は議論が飯よりも好きな信山教育会は一歩他県を乗り越へて轟然として侃諤の上下は至る処に浅間山的爆発を試みらるべかりし筈也然るに今迄に一の堂々と銘付つて出でたる大文字大議論有之たるを聞かず徒らに過去の追憶や片々たる駄評では信山教育界の夜は明けざる也。

○ 起て眠れる教育家

斯くて閑雲野鶴を伴とする世捨てられ人で時世遅れの白髪頭が古今独歩誰も指をさゝせぬ程斯界に権威を持つのだと洵にあはれむ次第成ずや圭角消磨円転滑脱は小才子処世の要訣かは知らされども東西南北至る処に圭角の白兵戦を繰返

して鍛冶幾百回玉成されて始めて所謂裸百貫大男児の価値あるを知らすや起て眠れる信山教育家!!

○ 信州少年に一言す

雑誌信州少年生る。市下諸新聞紙は筆を揃へて地方には珍らしき綺麗なる雑誌といふ。産婆は神田某及其他某々諸氏一見殊勝の書振。然れども内容が果して少年の読物として妥当なるやは今急に断言すること能はず。たゞ吾人は是等の刊行物が朝に起り夕に死するの比々皆然るを思ふて本誌がよく前者の覆轍後車の戒を綴記して忘れざらば可。

○ 何ぞ死者に冷澹なる

戦時に於ては、やれ忠勇義烈の、やれ義勇奉公のと煽動的口調を以て持て囃しながら千戈一たび収まれば、忽ちにして忠勇烈士の功労を忘れ、慰霊の大典たる招魂祭にも参拝して国民の誠を尽す者至つて尠し。嗚呼、何ぞ死者に冷澹なるや。斯くして何ぞ一国の志気を鼓舞し事あるに方つて好んで殉国の大義を発揮せしむる事を得んや。

○ 軍人は国民の模範也

軍人は国民の模範也。故に仮令現役を離れて郷里に在る時と雖も、常に斯の自覚を有たざるべからず。然るに在郷軍

人中動もすれば斯の覚悟を忘れ、其容姿態度少しも不規律なる常人と異らざるのみならず、制服を着けたる上官に対してさへ敬礼を行はずして平然たる者あり。斯くの如き者は自ら模範の好地位を擲棄するものと云ふべし。

○ 敬礼は軍人の権利也

在郷軍人中には、上官に対して成規の敬礼を行ふを恥と思ひ居る者あるが如し。何ぼう大なる了見違ひぞや。敬礼は軍人の義務にあらずして寧ろ権利也。これをこれ思はずして敬礼を行ふを一種の恥辱と心得、特に群集中に於ては、上官を見るも故らに見ざる真似して敬礼を行ふことを避けんとす。噫、彼等果して軍人精神を有するか。

○ 光風斉月は軍人の心

軍服を持たざる者は別として、若し軍服を有ちたる者は、軍人の集会等には成るべく之れを着用して自己の軍人たる事を明示すべし。地方に於ける地位などを腹に有ちて軍服の着用を避けんとする如き輩は、軍人にして軍人精神なきもの也。軍人の精神は無邪気ならざるべからず。軍人の精神は所謂光風斉月ならざるべからず。

○ 学校教育と世人の過信

学校教育は、教育の一部分にして、教育の全体にはあらず。然るに、世人の多くは教育は学校にてするものゝやうに心得、自分は少しも其責任を分たず、教育の全体を挙げて悉く之を学校にうち委せ、何か事あるに方つても、其責任の全部を学校に負はしめんとする如き傾向あり。是れ世人の過信也。学校教育に重荷を負はしむる者也。

○ 世人は悉く教育者なり

児女の学校生活は、日曜其他の休日を合算すれば、其醒覚時の殆ど四分一に過ぎず、如何に学校教育に威力あるも、学校教育は校門外に迄其感化を及ぼし得るものにあらず。社会共同の教育力を以て、学校教育に援助を与ふるにあらざれば、学校教育は殆ど何の効果をも挙げ得ざらんとす。教育は社会全体の担任也。世人は悉く或意味の教育者也。斯の自覚なければ教育は無効也。

（以上信濃公論　第七十六号明四三、四、一三～第九十五号明四三、九、一五）

三　諸論評

小学校生徒の修学旅行に就て

在北佐久　保科百助

信濃毎日新聞第六千九百四十号を聞するに、県会議員としてまた県参事会員として県下知名の教育通として世に持て囃さるる田中救時君は、小学校生徒修学旅行廃止の議を提出せられたり。之れが為め県下の教育界は一大恐慌を来し、来年度以降に於ける小学校生徒の修学旅行は少くも半減する事ならん。我輩は曾つて数年前信濃教育界常集会席上、小学校生徒修学旅行全廃なる演題の下に立つて、極力小学校生徒修学旅行の非を論じたる事もあり、且つ去る明治二十四年師範学校卒業以来昨三十四年三月に至るまで満十ケ年間県下小学校教員奉職中未だ一回も修学旅行を為したることあらざる程の経歴あるものなれば、田中氏の廃止論は殆んど賛成を表するに躊躇せざるものなりと雖も、素人の教育論（失敬多罪）は往々其一を知つて未だ其二を知らざるが如き弊害あるを免れざるものなれば、聊か愚見のあるところを開陳せんと欲す。読者殊に県下各町村長小学校長以下各町村議会議員学務委員諸君等の虚心平気事の利害得失に就て比較研究あらん事を希望せざるを得ず。

熟々修学旅行の起りを考えるに、明治十六七年頃迄は専ら大学生あたりの専有物に属したるが如き観ありしと雖も、明治十八九年頃よりは商等師範学校並に地方の尋常師範学校尋常中学校に伝播し、同二十三四年頃よりは各小学校に伝染し、甚しきは田舎の尋常小学校生徒にして二泊三日位の修学旅行が流行するに至りては言語同断沙汰の限りと言はざるを得ず。得る処失ふ処を償ふに足らざるは知者をまつて後知らざるなり。田中氏の炯眼只々驚くの外なしと雖も、之を今日に発せずして数年前にあらざりしを惜むのみ。

小学校生徒修学旅行の有害無益なるは素より異存なしと雖も、余は小学校教員諸君が夏期若くは冬期の休暇を利用して数日若くは数週間の修学旅行を為し、人情風俗地理歴史及び博物学に関する実際の知識を拾得せられんことを希望すると同時に、各町村に於ては数十円乃至数百円の旅費を支給せられんことを勧告せざるを得ず。元来教育者の職分は平たく分り易く之を言へば他日各方面に適当すべき活人物を養成すべきにあり。活人物を養成せんと欲せば勢ひ活社会を研究せざる可からず。余は過る十ケ年間毎年少くとも五十日以上の旅行を為し、数十円の旅費を自弁し来りたる経歴あるものなり。其成績物は長野市高等女学校に就て余が鉱物岩石の標本を一覧せられよ。飾り付けの為にさへ百余金を費せり。五無斎独得の法螺のみにはあらざるべし。余は尚是等一ケ年僅々数十日位の旅行に満足せずして、昨三十四年三月を以て断然教職を辞し県下漫遊の途に上り、信州北部の山川を跋渉し備さに困苦を嘗め尽したり。其証拠物件としては、各地大磐石の上に先祖伝来の定紋たる角九曜を彫り付けたる事前後百数十回に及びたり。尚本年の事業としては信州南部の全体を遊歴、逐次全国の形勢を視察し尽し、明治四十年頃よりは再び県下の教育に従事せんと欲するものなり。教育事業豈空理空論を以て大成を期すべけん哉。

余は前数段に於て専ら空理空論を避け、自己の経歴上より小学校教員修学旅行の必要なる所以を陳述せり。然れども余の如き三十五才の今日まで内君を迎へざるが如き変人奇特の真似せよ旅行せよとは、今日普通一般の小学校教員諸君に対しては頗る無理なる注文なりと言はざるを得ず。五六円乃至二三十円位の薄給にて妻子眷族を扶持するさへ既に困難なるが上に、今又自費の修学旅行を強ゆるとは到底行はるる可き事にあらざるなり。去りながら御規則に定められたる程の割のよき旅費全額を支給せよとの注文も亦町村経済上言ひ悪くき場合なれば、余は町村会開会前に於て小学校長は各部下職員に就て来年度に於ける旅行の目的地及び実費の高を調査し、之を町村長に提出し町村会の決議を経て実費の二分の一以上を支給せられんことを希望するものなり。

一小学校に於ける数十円乃至数百円の金が無益に消費せらるるのみならず、往々道楽と化するが如き場合に至りては其弊害の及ぶところ生徒の修学旅行に劣ること万々なれば、之れが監督の方法を規定して報告書二通を調製せしめ、一通

は校長の手許に控へ置き職員の巡覧に供し、他の一通は町村長の手許に保存し置き町村会議員学務委員等の回覧に附さば、一方に於ては町村是研究の好資料となり、他の一方に於ては子弟教育上少なからざる効益あらん事疑あるべからず。

前数段陳述するところによつて、小学校教員修学旅行の必要なるは読者諸君の略ぼ了解せられたるところならん。然れども余は更に一歩を進めて、啻に小学校教員修学旅行の大切なるを主張するのみならず、町村長学務委員諸君に向つても亦修学旅行の必要なることを勧誘せざるを得ず。小学校教員諸君が教育の一方にのみ着眼して変通自在を欠くと同時に、町村長学務委員諸君が単に町村経済の一方にのみ着眼して教育の何物たるかを知らず、教育学や心理学の議論に至つては馬耳東風も啻ならず一向平気の平左衛門たるに至つては（田中氏は那然の教育学や彼日の教授論位は読まれたることならん）我聖の大に執らざるところなれば、町村長学務委員諸君は宜敷小学校に就て教育学や教育雑誌の類を借覧せらるるは勿論、数円数十円の旅費を投じて数日間乃至十数日間教育視察の旅行を実行せられんことを希望するものなり。

尚終りに臨んで更に一言すべきことあり。そは是迄小学校修学旅行流行の必然の結果として、各小学校に於て双眼鏡の購入せられたる事なり。田舎の老爺老婆がこれを見て御遊山筋の吸筒にはあらずやと苦笑せられたるの奇談もあり、且又双眼鏡の必要なるは勿論なるべしと雖も、遠のものを少か近寄せて見ると言ふ丈にて、天文台に備え付けある望遠鏡が天文を按ずる程に明了なる知識を得て知らず識らず喫驚仰天する程のものにあらず。望遠鏡をして望遠鏡たるの効能を顕はしめんとするには少くとも一台数百円乃至数千円の代価を払はざるべからず。去れば余は小学校に於て双眼鏡を購入するの費用を転じて数十円の顕微鏡を購入せられんことを希望するもの也。双眼鏡にて見得らるる位の事は肉眼にても慥かに見得らるるなり。蝶々の羽の鱗毛や植物の細胞は肉眼にては迚も視察することを得ざるなり。博物学や医学に顕微鏡の必要なるは我聖の喋々を要せざるは勿論、渡辺敏氏の玩弄品的噴水器や猫や鶏の剝製標本に勝ること万々なるべし。

前数条に於て余がくだくだしく論じたるところを約言すれば、

一　小学校生徒の修学旅行を全廃すると同時に小学校教員の旅行を実行すべき事
二　町村長学務委員の教育視察を実行せらるべき事
三　双眼鏡を購入する代りに一台の顕微鏡を備え付けるべき事

の三ケ条に外ならず。一言以て之を蔽へば、田中君の説に大賛成を表すると同時に更に新しき注文を提出するものなり。田中氏よ幸に賛否の御返答あらん事を希望す。若し全然余が説を御賛成とあらば兎も角も、否とあらば大に論議せらるべし。余も亦説明の労をとるに吝ならざるべし。若し何等の御返答なくば勿論余が説に全々御賛成と見て亦無用の筆を労せざるべし。田中君以て如何となす。書辞不遜幸に宥恕せよ。

（明三五、二、一六信毎）

風間冠峯氏の讃辞に就て　五無斎　保科百助

(一)

前長野新聞主筆冠峰風間礼助君は去る十二日の紙上に於て保科塾と保科百助君と題し溢美の讃辞を以て予が私塾と予が人と為りとを紹介せられたり、元来おだてに乗る性質ある予の事なれば一方に於ては喜悦の情自ら禁ずること能はざると同時に又他の一方に於ては聊か迷惑に感ずる次第もなきに非ず。如何におだてに乗る性質なればとて是程の讃辞を辱ふしては徒らに責任のみ重くなり仕事の之に伴はぬ事もあらば夫こそおだてに乗り切れぬと申すものなり。之を要するに予は是迄予が為に万事万端親切に世話して呉るゝ程の知己朋友といふものを一人も持たぬなり。真実の兄弟や親戚にさへも最近六七年間は何事も打明けて相談したる事なし。即ち学校の転勤辞職も信州漫遊も地学標本の蒐集も将た私塾の経営も一として深夜人なき所独り衽席の上にありて凝らしたる魂胆ならざるはなし。人皆兄弟あり我独りなし。四海皆兄弟と云ふ語ありと雖も甚不安心なる兄弟なり。之に反して有りと有らゆる迫害と窮乏とは絶えず予が身辺を囲繞しつゝあるなり。斯迫害と斯窮乏とを以て普通有り触れたる事と観念し居る予にして今や斯く迄の讃辞を辱うす。是

併しながら君の虚心坦懐赤心を人の腹中に推すの致す所なるべしと雖も亦予が平素喇叭的なる主義主張を買ひ被られたるの一人には非るか、予が君を知るに至りしは僅々一ケ年来の事なり。昨年の二月頃なりしか信濃毎日新聞の牛山将軍が出征に際し君と山本望峰君と四人一堂に会して午食を共にしたることあり。当時君は予が豚小屋然たる私塾を訪はれ英語位ならばお手伝致すべしと言はれたることあり。此に於いて予は昨年の五月英語専修科を附設してフリーマン氏の万国史を講説して貰ひ予も亦生徒中の一人たりし事あり。爾来数閲月君は長野新聞社を辞して横浜の商業会議所に転勤せられたり。是れ予が私塾遭難中の一にして現今英語専修科は徒らに其形骸を存するのみ。去るものは日に疎しの諺に洩れず其後は二三回書面の往復ありしのみにて敢へて深交ありしといふ程にはあらず。而して今や君は斯くの如きの讃辞を以て予を紹介せらるるに至る。予は如何にしても君が讃辞の如き仕事の出来得る人物には非ざるなり。其成効に至つては夫子自身と雖も聊か不安心の嫌ひなきにしも非ず。されば予は他日或は予が事業の悉く失敗の歴史に終り君をして不明の譏りを免れしむること能はざるべきかと日夜憂慮措くこと能はざると同時に斯迫害斯窮乏と苦闘しつゝ千辛万苦を排して予が初志を貫徹して以て君が厚誼に報い併せて数ならぬ自家の名誉をも維持せんことを希図するものなり。

(三)

世の中の邪推多き予が風間君に取り入り風間君を利用して一種の広告を為すにはあらざるかと疑はるゝ向もあらん。然れども此事絶えてなし。他人を利用して広告を為すなどは如何にしても予の為に忍びざる所なり。明らかに自分の名前を署して自分の事を広告するは予の最も長所とする所寧ろ得意とする所にして予が私塾の細小かなるに反比して何時も広告文の長篇大作なるは読者各位の既に知らせらるる所ならん。然れども是れ広告料の多寡による事なれば左迄咎む可き事にも非るべし。若し斯かる広告に瞞着せらるるものありとするも元来広告なるものには幾分の懸け値あるものなり広告したるものも亦広告半分位の義務を果さば先先づ以て上出来ならん。広告文の其実に比して少しく法螺的なりしなどは罪悪という程には非るべし。況んや法律上の罪を構成せざるに於てをや。

思ひ起せば今より三年許り以前予は通俗滑稽信州地質学と題し五ケ月に渡りての大広告を為したる事あり。是れ予が

十年間の事業たる長野県地学標本の整理費千余円を出し呉るゝ程の義侠心ある紳士はなきやと県下の富豪に訴へたるなり。当時信濃毎日新聞社の山路愛山君予を評して五無斎は我社の為めに信州地質学を物するに非ずして一種の広告を為すものなり原稿料などは遣らなくても善からんと調戯れたることあり。されば筆紙墨や郵税などは一切持ち出しにて毎日二三時間宛凡そ五ケ月間も脳髄を悩ましたることあり。結城律堂君などよりは幾分の筆墨料を差し上ぐる筈なりとの前約はありながら広告的の地質学を数月間掲載し貰ひたるの恩義もあれば今日に至るまでも一文も郵税などを請求したることなし。切めては新聞の一ケ年位は進呈して貰ふも敢へて差支なからんと思ひたれども夫もぎし〳〵取り立てられて何の容赦もあることなし。当時事情に疎き教員仲間よりは余程の原稿料を頂戴したる事ならんなどと冷やかされたれども其事絶えてなし。一枚の原稿料が大枚五円などいふ事は余程久しき以前の事若しくは非常なる大家の事なり。斯る相場は現今江戸村に於ても殆んど無しとの事なり。下らぬ論文や小説などを掲載して貰ひお負に原稿料を貪らんとする三文学者天狗連の為めに余分の事ながら茲に一言し置くものなり。之を要するに新聞事業とても一の商売なればなるべし。

(三)

昨年の夏頃なりしか予は数月間に渡りて予が教育に関する意見と満韓地方経営に係る考案とを公にして教育者諸賢並に当局者各位の参考に供し副産物としては予が私塾の主義方針をも広告的に発表せんと欲したりし事もありたり。然れども是も亦左迄の罪悪には非るべし。之を要するに予の如き極端に逆施倒行的にして迂拙なる教育主義も亦幾分か教育者諸賢の参考ともなるべければなり。予は下小中学校より上高等学校や大学に至るまで授業料の全廃せられん事を絶叫するものなり。教科書及び学用品は之を校費支弁とする事を希望するものなり。参考書は勿論校費にて購入すべきものなれども教師用の教科書は教師の負担たるべきものなり。学校といふものが若し果たして斯くの如きものともならば貧民の子弟も悉く入学することを得て天下の英才は自ら学校内に集る事とならん。富貴の人の子弟なればとて無智無能なる貴公子のみに強いて学問せしむるは人物経済上策の得たるものには非ず。又本人の為めには苦痛此上もなきとなるべ

し。学校といふものが若し果して斯くの如きものともならば其筋のお役人衆が最も嫌悪せられつゝあるの私立学校は自ら撲滅せん。此くの如くにして尚も社会に存立し得るの私立学校あらしめば先以つて真の私立学校といふものに近からん。よし社会に存立したればとて余り多くの差支もあらざるべし。一学級の生徒数を成るべく少数とする本県従来の方針は之れが復活を希望するものなり。是れ蚕の厚飼は損墜の多く出で易きものなればなり。小学校の卒業年限は之を満六才より八ケ年とするも又満七才より七ケ年とするも将た満八才より六ケ年とするも其成蹟は常に同一なるべければ先づ以て満七才より七ケ年とする事を可とするものなり中学校の卒業期限を満四ケ年として卒業生の学力を現在よりも稍豊富ならしむるが如きは左迄の難事には非るべし。小学及大学に於ては到底不可行とするも中学校及び高等学校に於ては学期を半ケ年宛とする事頗る便利ならん。一ケ年の落第は学生徒諸子の最も不便とする所否頗る苦痛とする所なるべし。小学校に於ても都会地ならば経済上絶えて不都合ある事なからん。中小学校の第一学年の終りに於ては必ず過半数若しくは三分の二以上の落第生を聳出せしむ可きものなり。お蔭にて及第はしたけれども尻から〳〵の口にては有り難からず。卒業したるは幸福なるやうなれども更に一歩も高等の学校へ入学する事能はざるべし。是れが最負の引き倒し親切の却て不親切となりたる話といふものなり。中小学校に於ては体罰さへも敢へてする程の教育ならずしては頼母しからず。字音の仮字遣ひを滅茶苦茶にするは宜しからず。之を国語に迄も応用するに至つては言語同断沙汰の限りと謂ふ可し。心理学の適用を誤り記臆時代にある幼年生徒に対して漢字の節減を為し其未だ推理時代にも達せぬ幼年生徒に向つて推理的学科殊に修身科などを課し君臣父子夫婦長幼朋友の関係や仁義礼智信等所謂五倫五常などいふものゝお説法を喋々するは頗るお門違ひの甚しきものと謂ふべし。自分にも出来ぬ事は余り多く喃々せぬ方然るべからん。元来予は演説好きの一人なるが自家の生徒の茶話会などに際しては殆んど演説したる事なし。何れも他より大家を聘して講話を依頼する内規となり居るなり。演説などをするときは無理弥理に出来ぬ事迄も出来るやうに言はずしては話の辻褄が合はぬものなり。他日生徒諸子より講堂修身の節は斯く立派に仰せられたれども偖今日の御ダラシは如何など突き込まれんことゝ心苦しかるべし。本読み器械や算盤繰り反し道具のみとなり居らば苟くも二割以上の誤謬なき以上は生徒

諸子より同盟罷校などをせらるゝの心配もなかるべし。是等は予が現時教育に対する愚見の骨格の一部分にして之に肉を附け皮を附し衣冠装束紅白粉侈ては香水迄をも塗り着くる事ともならば優に数日間に亘りて論議するの材料は有らん。然れども今は斯かる愚昧を演じて読者諸君を煩はさざるべし。

因に云ふ。中小学校とある所。行文の都合上によるものなれば師範学校や高等女学校其他各種の学校をも含有することと察せらるべし。

(四)

昨年の十一月頃なりしか、君は横浜より遙々書を寄せられて維持金募集の為め態々帰県すべきかと迄に申越されたりし事ありたり。君の好意謝するに余りありと雖も予は直ちに返書を認めて「多数の人より多額の金円を恵まれなば責任のみ益々重くなりて仕事は其れ程には出来ず多数の人をして不明の譏りを受けしむるに至りては其心苦しき事言はん方なく且つ近頃は寄附金流行の世の中なれば諸人の迷惑も思ひ遣らるゝなり。然れども予は敢へて寄附金を絶対的に非認するには非ず。予の人物を信任し予の事業を賛成し寧ろ冒険的に将た投機的に五百と千の金円を恵まるゝ事もあらば夫れも敢へて辞する所に非ず、無記名の寄附など最も面白からん、自家の事業を経営するの目的を以て予を利用し予を器械使するものもあらば弥々以て妙ならん。夫にも叶はずとすれば或は低利を以て若しくは無利息を以て五百金許りを十ケ年間貸与せらるべき義侠心に富める人士なかるべきか、予は此五百金中二百金を以て私塾の足し前となし三百金を以て満韓地方に於ける教育と実業に関する視察を遂げ自家の門下生は申すに及ばず教育上に就ては稍無謀の傾向ある県知事関清英君の為めに免職又は非職となりたる若しくは今後為らんとすべき数百若しくは数千の教育家を彼地に移住せしめ凡そ十ケ年の予定を以て彼地に於ける富源を研究せしめ置き満十年の後天晴彼地に押し渡り内地数万の貧民を繰り出し是等先発の同志を幹部として諸種の事業を企画する事ともせば戦後経営の一端たらんか。寄附金募集の事暫時御見合せありたし」と申し送り置き信濃青年団へ出席の為め上京の序を以て肥料臭き廠舎を纏ふて横浜に赴き君が厚意を謝したることありたり。

更級郡の友人宮入源之助君の如きも亦予が為めに維持金の募集をせよとて親切に忠告せられたるの一人なり。君の如きは気早にも既に一ト口を二十円と定め誰某は幾口誰某は幾口と其下した書きをさへも示されたり。然れども予は尚ほ前説を主張して其好意を謝し置きたるのみ。

更級郡に一人の変り物あり、予に対しては一ト昔半以上の弟なり、丸山尚といふ、郷里にては相応に財産もあるよしなれども今は松本町に住して見る影もなき一商店を開き一日数回同一の資本を運転して体操遊戯の器械標本などを鬻ぎ其利得を以て数名の苦学生を扶持しつゝあるなり、君常に曰く予は斯の如き献身的事業を営み居るが為に朝夕窮乏を免れず、酒色に耽り不義の負債を生じ又首のまわらぬ程ともならば三百や四百の金円を償却し呉るゝものもあらん、喧嘩口論さては詐偽窃盗を働き入監の身ともならば日毎々々の差入物位は来らん。若し夫れ不治の疾病に罹り病床に呻吟するの身ともならんか数百乃至数千金と雖も寂然瞑目して芽出度西方浄土に向ふて出発するに至る迄は数年乃至十数年間一日の如く看護を受く可きの権利あり而して今や斯くの如しと、五無斎聊か同感の情禁ずること能はざるものあり、世上幾多の難問題中数学問題とパン問題程予が頭脳を悩すものは又とあらざるべし。

(四)

維持金募集の事既に斯の如く困難なりとすれば本塾の講師たる藤森良蔵君や小池久吾君とも相談の上毎月一回位宛演説会にても開会して幾分の会費を徴集し私塾維持の一法となさんか、是れ自家の労力によつて得たるものなれば寄附金に勝ること万々なるべしと思ひ居たる矢先弁護士丸山軍士君の宅にて有名なる古代の政治家として能弁家なる小池平一郎君に邂逅し君が政治家能弁家以外に於て頗る軍事通なりし事に及び吾人の如く御同様に長くして且つ広き三寸の舌頭を所有し居るものは芝居小屋でも借り受け演説会でも開き鼻の下頤の上を糊するの資に充て一部分を恤兵部へ出金する事ともせば彼我の為め便利ならんと、茲に於て予は本年一月二十八日を期し時局に関する通俗学術大演説会といふものを開会したり、当時予想外の入場者ありて新聞紙などには聴衆無慮七百名とありたり、然れども実数は五百四十内外に過ぎず、其内百枚許りも進呈し置きたる入会券もあり幾分は雑踏の為め会費未徴集の分もあるべく且つ軍人の家族並び

に学生の入場者意外に多く為めに実収入は三十一円許りに過ぎず、小屋代もあり、広告料あり、其他諸雑費あれば、去れば差引き一円八十何銭かの余剰ありたる筈なれども当初予が懐中にありし一円余の大金は何れかへ紛失したるやうなり、然れども是は紛失したるにてはなく全く帳面の附け落しなるべし、第一回は斯くの如くにして殆んど損益なしと雖も第二回こそは十か二十もせしめてやらんと思ひたる事実なり、慰労会費を節減せんが為めに上田町には赴きたるなり、よつて第二回は当時呼び声の高かりし立川雲平君に依頼せんとて即日立川君が帰県の日取りを問ひ合せやりたり、而して二月九日一寸帰省四五日滞在其間ならばとの返書ありたり、当時予は窃かにおもへらく既に先月末に開会し置きながら未だ旬日を出でざるに第二回を開かんこと諸人の思はくも如何とは思ひたれども二月下旬若くは三月上旬ともならは各学校にては学期試験も始るべく且つ二月十一日は征露詔勅煥発の第一週年にも相当すればとて其れが紀念の為に乃ち同日開会の事に決定して夫々準備に着手したり、然れども此こゝに意外の珍事は出来せり、県会議事院に於ける立川氏の満韓地方視察報告大演説会なり、会主は何れも当地在住のお歴々にして傍聴は無料なり、小池君の演説は久々にて一回聴聞したれば立川君の演説を今一回聴聞せば先づ以て演説の大豊年なりなど私語れんは人情当さに然るべき事ならん。

(六)

立川君に対する談判の模様は次の如し、曰はく「前約のあるにも拘らず同一の演説を一日違ひ位にて会費のある方となき方とにて演説する事やはある、斯く諸方にて招待せらるゝ事貴下の為めには頗る名誉ならんも聊か迷惑を感ずるものもあらん、予の如きは其一人なり、民権自由論者にして所謂社会主義の演説でもせらるゝ程ならば先方への出席を謝絶せらるべし、若し又官権見たやうなるものを崇拝せられ八方美人主義ならば此方の会へ御出席なきやう願ひ上ぐるなり、世に八方美人と云ふ語ありと雖も七方位の外出来ぬものなり、貴下幸ひに其一を選んで可なり」と厳談に及びたり、君は最初「何れへも出席せざるべし」と言はれたれば「夫れならば差支なし又斯くあるべき筈なり、諸種の準備もあれば」とて将に辞し去らんとしたりしに立川君の言はるゝやう「足下の方も会費なしにしては如何千人の入場者あり

と見て五銭宛ならば五十円、十銭宛ならば百円なり、夫れ位の金ならば吾々有志の間にて……」と言はれたり、話し半ばにして予は断然「左様なるお話は甚た恐縮の至りに堪えず、其位の処にて中止せられたし」と。既にして立川君は三たび其語を継続せられ「已に新聞紙上に掲載しあれば是れ聴衆に対して約束したるものなり、両方共出席致すべし」との事なれば予は断然貴下の出演を謝絶すべし」とて談判は全く破裂となり了りたり、然れども、「上田の方は如何」とありたれば「此事上田には何等の関係もなし、貴下の御随意なり」と言ひたるに立川君も亦上田の会へは出席ありたるなり、斯くの如くにして音楽隊となり引き札となり会費不徴集の会員を募りて一時の虚勢を張りたるが為めに最後に至り彼是四五円の不足を生ずるに至りたり、沢山にもあらぬ日本中の知恵を搾り出して工みたる、私塾の維持法は芽出度失敗に終りたるなり、新聞紙などには聴衆無慮八百名など書き立てらるゝ事頗る盛会なるやうなれば態々取り消文を出す程ではなけれども彼奴頗る夥しき多くの金円をせしめたりなど計算さるるの材料となりたるは聊か心外の至りに存ずるなり。

(七)

数年前信濃教育会に於て機業の講習会を開きたる際予は半官半民的に織物標本を調製したるに五無斎は数十金を着服するなるべしとの嫌疑を蒙り百数十金の損耗を見たることあり、現に其時の借金は八九十円許り当長野市に残り居て如何にしても其家の前のみは通行しがたき場所二ケ所あり、尚予は此外にも不義理の借金二三十円許りあり満四ケ年の浪人を継続して此位の借金なれば先以つて経済上手と誇りつゝも聊か心苦しき次第と謂はざる可らず、此頃当市の書肆増屋の主人に此事を話したるに『利子迄は兎も角も元金丈けは御返却ありたる方宜しからん、夫れに就き考え付きたるは例の鉱物標本の残品を頂戴して小供の玩弄品に調製して売り捌きたらばと思ふなり、凡そ商売屋というものは人足が多くなれば為る程相応に利益の多きものなれば無口銭にて御奉公致すべし、呉々も例の借金は御返却ありたる方然るべからん、商人といふものゝ実に細きものなり、早咲きの梅のように二りん三りんと争ふてみたる金は五十と八十踏み倒されては溜るものには非ず』と如何にも真宗坊主か耶蘇坊主の説教然として親切に話されたり、残品は三四駄位もあるべけ

れば一塊を五銭位宛に売るも百や二百の金は出来ん、然れども亦例の嫉妬深き人の即断にて彼奴またうまい事をするな杯言はれんは必定なり、痛くもあらぬ腹を探られんも有難からず、又或る時は酒屋は到底不向きならんかなれども、別品の妻君でも貰い受けて煙草店でも出したらば如何と考えたることもあり然れども別品の妻君を貰ひ受くること既に甚だ覚束なく殊に官業となりたる以来は郵便切手売下と同一にして手数料は甚だ僅少なりと聞いては聊かギャフンと言はざるを得ず、ギャフンとは猫の鼻へ鬢附油を塗り附けたる時に彼女の驚駭斜めならざるの状を形容したるものにして数年前の流行語なり嗚呼迫害と窮乏は遂に余が身辺を離れざるべきか、此頃当市の岡本幸平君に邂逅したるに在天の神様も大抵にして吾人をお助け下さりさうなものなり、石油も幸ひに幾分宛は皆出ることなりたれども一日平均数百石宛申出て貰はねば算盤の玉が取れず嗚呼』と、五無斎も亦聊か同情の涙禁ずること能はざるものなり。

世の中には随分偽善の多きものなり。時節柄兵士の出征及び入除隊等に際しては彼是周施の労を取り若しくは何やらの会へ出席しては亭主気取りにて軍人の遺族などを接待して其実自家商業上の広告を為すものありとか、此頃予は或る兵士の入隊に際し其立振舞に招かれたることあり、当時一人の軍事狂をもつて目ざされ自からも名乗り居るの一人あり。空涙をこぼしつゝ其行を送るの演説を為し神様仏様のやうに豪らがらせつゝあるを目撃せり、然れども其演説中如何にしても予の聞くに堪えざるの一節あり、あからさまに書き立てられたらば迷惑する人もあるべければ記者が心中に預り置かんかなれども彼は彼れが自称する程の軍事狂に非ずして一種巧妙なる自家商業上の広告を為す大偽善家なるよしを発見したら、因つて予は多数の客人が退散したる後にて二三の人を立会人となして其不心得なるよしを詰責し爾来少しく嗜まるべきよう警告し置きたる事あり、然れども予は比較的偽善少き人間なり、有体に白状すれば予は、

偽善　一〇ベルセント　偽善　二〇同　　真善　五同　真悪　六五同

合計　五無斎百助くらいのものならんか、是予が自らも許し読者各位も亦一も二もなく承諾せらましところならん、呵々。

以上記述したる所繰り返し〳〵読みもて行くに又例の広告めいて来たる様なり。自惚強きと高慢話多きは人間という

動物に免れ難きものなれば読者各位の御諒察を乞はざるを得ず。

◎ほめられた事はよけれど　責任の　愈々重く　なるぞうたてき

◎金ホシナ　女房もホシナ　子もホシナ　生徒ホシナと　大団円我はいふなり。

（長野新聞　明治三八、三、一四第一九一九号より同二三日第一九二八号まで連載）

土谷政吉君之逸事　五無斎　保科百助述　（三、五を欠く）

一

予が滑稽文に長じ狂歌に巧みなるは普く世人の承認せらるゝ所にして自分ながらも亦一点の疑念なき所なるが故人の逸事などを記述するは其最も不得手とする所なり。然れども今や知己の一人たる土屋政吉君の逝去に際したれば何とか一言なき事能はず。是れ君は県下知名の教育家中最も多く世人に誤解せられ又誤解せられつつあるの一人なればなり。五無斎の如きは浮世の所謂名誉なるものに対しては殆んど無頓着なる様なれども時に或は一両回ばかりも誤解を招きたるをあり。斯る際に於ては何故か余り有り難くは感ぜぬものなり。同情相憐むと云ふ本文もあれば聊か君の逸事の一端を物する事とはなしたるなり。読者諸賢幸に焉を諒せよ。

明治三十八年四月　五無斎　保科百助　識

此文素と土屋君逝去の当夜午後十時より午前四時頃迄に於て一気呵成になりたるものなりしが自家見聞のみによるときは則ち頗る遺漏多かるべきと事実相違の点も亦尠なからざるべきを慮り新聞紙上にて逸話を募り訂正を加へ而して後之を公にせんと欲し其趣きを「なにやかや」欄に出し置き以て今日に至りたれども誰一人として片言隻語を予に寄するものなし。茲に於てか予は又人類といふ動物が如何に人の美を為すの性質に乏しきかを感じつゝ止むを得ず自家一己の見聞せし事実のみによつて不完全とは思ひつつも之を世に公にする事とはなしたるなり。読者諸君幸ひに再び焉を諒

せよ。

明治三十八年六月　五無斎　保科百助再識

予が土屋君に対して稍深交ありしは僅々一二年前よりの事なり。否十数年の古代に於ては全く怨敵たるの思ひをなしたるをさえありたるなり。君が侫弁をふるひ毒舌を吐きたるは予が師範学校在学中同人間の大に気障とせし所にして現今尚ほ予が鼓膜を振動しつゝある様感ぜらるゝなり。君が生前余り多くの同情を社会に有せざりしは事実にして死後も亦恐らくは然るべきことならん。勿論予とても君の人物や行動に就ては今日と雖も尚ほ不感服の点尠からず。然れども是或は誤解の然らしむる所なるべきかよし誤解に非ずとするも君と幽明所を異にするの今日復君を泉下に呼び起して妄りに喧嘩口論を仕掛くるの必要なかるべし。よし必要ありとするもソハ又愚の極点と謂はざるを得ず。故に予は批評的に君の人物性行の善悪正邪を議論し判定するに非ずして君の性行中大に旌表すべきもの頗る世道人心に裨益あるものゝみの事実を事実として有りの儘に記述せんとは欲するなり。

二

予は順序として十数年前より君と予との関係を記述すべし、前条既に記述したるが如く師範学校在学中予は全く君を蛇蝎視したり、是は長野県師範学校同窓会設立の事に就てなり、今より考へて見れば屁でもなき事のやうなれども当時予が力瘤の入れ所は現時に於ける五無斎とは聊か異りたるやうなり、ソハ単に予等在学生が発意によつて設立したる同会を君及び他の先輩諸氏が押領して我物顔に振舞ひたるが小癪なりといふに過ぎず、茲に於て予等在学生は一同脱会の上更に学友会なるものを設立したり、現に師範学校内にある学友会なるものゝ濫觴は概して以て斯くの如し、其後同窓会は有耶無耶の間に立ち消えとなり学友会のみは今に繁昌しつゝあるなり。

次は去る明治三十三年中予が上水内郡大豆島小学校在勤中の事なり。当時予は役場吏員及び村会議員等と屁でもなき事より大衝突を来し此衝突は引いては郡視学たる君に及び郡長其他にも波及したる事ありしなり当時予が生マ意気論の筆鋒は殆んど天下に敵なく君の迷惑を感ぜられたるは蓋し多大なりし事ならん、然れども一昨年頃より予は大豆島村に

も帰参が叶ふ事となり同窓会などには招かるゝ事ともなり現に塾生なども同村出身のもの多数を占むる事ともなりたれば今となりては何でもなき事なり。

君が飯田の高等女学校より長野市の高等女学校に転勤せらるゝの風説あるや予は其極めて不適任なるべきを感じたるの一人なり徒らに感じたるのみならず余分の事とは思ひつゝも渡辺老人に向つては反対運動を敢へてせしの一人なり、当時渡辺老人は足下の言はるゝ所ろ一理なきにあらざるやうなれども予は別に見る所もあれば足下の忠告には応じ難しと。蓋し同老人は君の人と為りを看取せられつゝありしならん、教頭としての君の成蹟は真善美を兼ねたるには非るべきも先づ以て好成蹟なりしならん。君の能力が驚くべく寧ろ恐るべきものなりしは敵も味方も異論なき所なりしならん、長野市の高等女学校が他の三個所に比して敢へて遜色なかりしは君の功与つて大に力ありと為さざるを得ず麤豪太簡にして世の中の事には一向無頓着なるが如き渡辺老人の着眼点は蝦蟹類のそれとも比較すべきものならんか。

四

明治三十三年頃なりしが君は上水内郡育英会なるものを発起せられたり。当時君は金五十円を差出し置き県郡会議員町村長学務委員及び小学校長等数十名を城山館に招待して同会発起の趣意を陳べ其賛成員たり勧誘員たらんことを嘱托せられたるを両三回ありたり。其費用とても亦頗る巨額の金円を要したるならん当時県郡会議員の公職および郡内有数の富豪家の先生方が徒らに君の御馳走のみを受けて出金をば為さざりしもの最大多数を占め教育以外にして出金したるもの僅々一名ありしとは聊か笑止千万と謂はざるを得ず。其癖議論だけは頗るお盛なりしやう記臆し居るなり。兎角議員など云ふ連中が其議決権を鼻先へぶらさげヘボ論を提出して当局者を苦しむるは昭代の一大缺点と謂はざるを得ず。立憲制度に就て聊か疑を容るゝの余地も幾分はあるやうなり。金を出さぬならば議論をば差し控ゆるが宜しかるべく議論をする位ならば満場の会員をして後へに瞠若たらしむる程に出金するの覚悟なかるべからず。尚一驚を喫すべきは君が上水内郡を去つて下伊那高等女学校に転勤せらるゝや右の寄附金の割戻しを請求したるの小学校長もありたりとか予は幸ひにして其人々の名前を聞き洩したり。恐らくは事実無根の事なりしならん。

ヨシ否らずとするも事実無根とせざるを得ず。斯くの如く君が苦辛惨憺たる経営に成れる同会は三百四十余円の集金にして見る影もなき一小会たるに過ぎざるも其後故上水内郡長青山勝謙君の遺族より金五十円を寄附せられたるもありて今にては五百円許りとなり居るよしなり。斯五百余円は如何にも鼻糞程の目腐れ金にして殆ど使用の途なきに苦しむ程なれども百年か千年も利に利を付けて積み置く事ともせば君が理想通りの育英事業を完成するの費用としても充分なるに至るべからんや。鼠算や利息勘定といふものはなか〳〵面白きものにて此五百余円を年一割の重利にて積み置くときは明治百三十八年既ち今より満百ケ年の後は正に六百八十九万円余となる筈なり。育英会は愚か簡単なる信州大学位は出来るをならん。五円や十円の端金に未練を遺して浮世のお笑草とならぬやう出金者の諸君に一言し置くものなり。

当時君は五無斎にも亦二十五円の御用金を申し付けられたり。是は一ケ月分の俸給といふ意味より割り出されたるものなるべし。然れども予は直ちに答へて言へり。ソハ実に結構なる御企てなれども今日の処にては成立覚束なからん。人類といふ動物は懐から手を出すをさへも余り好まぬ方なれば予定の金額の十分の一にも達せぬ事と知るべし。且つ予は来年の三月は満十ケ年の義務年限も明けたれば芽出度教職を辞し県下漫遊の途に上る身なれども貯へとては一厘一銭もあることなし。何れ友人共の財布が目当てなれば真平御免を蒙りたし。尤も五円位ならば如何に工面しても差出し申すべしと言ひたるに君は直ちにそは実に結構なる御企てなり。然らば予は足下の御企てにも出金せず又育英会への御出金を受けずお互に棒引にすべしと言はれたり。斯く話の早分りのするやうにては寄附金などは予定の百分の一にも達せぬものと知るべし。

(六)

君は金三十金を懐にして予が私塾を訪はれ予が面前に突き付けられたり。予は斯の如き見る影もなき一小滑稽私塾の為に金円を恵まるる事其意を得ず。成効は自分ながらも甚だ覚束なしと存ずるなり。釈迦に説法かは知らざれども君は虚名誉心に駈られて予が私塾に寄附せらるゝには非ざるか。若し左様なる事にては実に恐縮の至りに堪えず。貴下の好意を空しくするにてはなけれども此寄附金の吹聴をせよと仰せられては甚だ迷惑なり。公衆中などにて御吹聴ありては

尚更以て有りがたからず。無記名などならんは尤も妙ならん。何処やらの私立学校の補助費のやうに塾主五無斎の品行を方正にせよなど条件附には非ざるか。且つ是を以て小生の毒舌を痲痺せしむるの魔睡薬などならんには近頃奇怪千万なりと言ひ放ちたるに、君は莞爾として足下も亦何ぞ疑ひ深きの甚しき、左る事絶えて候はず曲げて御受納ありたしと。茲に於て予は更めて君が好意を謝して之を受納し直ちに生徒用の教科書を購入したり。斯くの如きの浄捨金を以て徒らに予が嚢中の財となし之を道楽費に使用せんは予の最も忍びざる所なればなり。予が蔵書中教育家A氏寄贈とあるもの是なり。是等由緒ある蔵書を借りて返さぬ書生の多数なるは返す〳〵も遺憾千万なる事なりと謂ふべし。

本年一二月の交予は私塾経費の一助にもかなと二回の演説会を催したるあり、当時少々行違ひの廉ありたるは読者各位の既に御承知の事ならんが君は予の如き乱暴者に対していたく同情を寄せられ東京地方より更に満韓地方の視察を遂げ新たに帰朝せられたる人士か若しくは之と匹敵すべき位置あり名誉あるの紳士を聘して予が催しにかかる演説会を盛大ならしむるの策をも講ぜられたりとか、是は後に他の人より聞きたる所なり、真偽は素より知らず、然れども君の力瘤の入れ所は往々常人と異る所あれば強ちに無根の説にても非りしならん、是等はお役人様抔の眼より見たらば教育者にあるまじき行為とも謂ふ可きものならん、然れども予は教育者とても此位の意気地なきやうにては実に頼母しからぬ事と思ふなり斯くの如くにして演説会の当日たる二月十一日は来れり、君は同僚の職員や貴婦人方迄をも同道にて来会せられたり、満韓視察費のうちへ金五十円寄附との申込みありたり曰はく予か郷里三水村附近の地は交通機関の発達進歩せし以来は農民の其職を失ふもの著しく多きを加へ足下の所謂笊餔の現象は所在踵を接して起り貧富の懸隔は益々甚しく之を救済するの途殆んど有る事なし、恐くは他の地方とても亦然る事ならん足下よ幸に彼土に押し渡り充分に実地を調査したる上にて移民なり出稼きなり宜敷頼み入るなり、尤も御都合によりては私塾の経費のうちへ御流用下さるるも苦しからずと。今回に於ける予は敢へて君の好意を辞せざりき、其故如何となれば君は一旦言ひ出したる事は如何にしても後へは引かぬといふ意気癖あるの紳士なればなり、本年三月頃より君が病床に臥されて稍重症なるを聞きしより予は六々見舞にも行かぬといふ方針を取りたるなり、君の死後四人の遺孤もあるをなれば斯の五金は定めつ破約とな

るが当然ならん。貸した金さへも斯る際には余り厳しくは取り立てぬが浮世の義理人情ともいふべきものなればなり、五十円の金が欲しくて時々見舞に行きたりとて後指さゝれんも面白からず、時に一両回は見舞に行きたる事はあれども心にも思はぬ譃言も呈しがたく（病気はドウデス）（モウ半月デス）モウ三日デス位の応答のみにてソコ〳〵にして辞し去りたるなり、四月二十四日は来れり、次の如き一葉の端書は予が手許に到着したり。

御約束の視察費御渡申上度候間花咲町自宅迄御塾生一名御遣はし被下度候

四月二十四日　土屋　政吉

長野市妻科　私立速成中学保科塾主　保科百助　殿

(七)

と、是が氏が絶筆の一にして今や予が書筐の底に蔵められつゝあるなり、後にて聞けば君は君が到底病気平癒の見込みなしと達観せらるゝや在院して多分の財宝を空費して徒らに病床に呻吟するも無念なりとて赤十字病院より退院せられたるの当日なりとか。浅間山の噴火孔や華厳の瀑布に投身する程に死を急ぐは頗る考えものなれども生理的将た病理的に観察して到底回復の見込みなきにも拘らず服薬し摂養してアタラ苦痛を長むるの必要もなからん。絶えず君の病床を見舞はれたるの人より当時の情況を聞くに是迄十数年来肺病を煩ひたる事は屢なれども今度の如き重患はなかりしなり。肺病の経過といふものは斯々次第のものなり。如何程牛乳や鶏卵を飲め〳〵と仰せられても是程の吐血ありたらんには補給の道は相立たず、胃の腑の消化力も大に衰弱し居れば飲食物は胃腸の内を素通りするに過ぎず、早晩は死すべきものなり。御親切は謝するに余りありと雖も在院して服薬を摂養して徒らに病苦を長むるも無益なりと。是れ真に今はの際に於ける大悟徹底の極意に非ずや、宗教家は常に言ふ、宗教の作用によつてのみ真正の安心立命は得られるべきものなりと。知識明了なるもの斯くの如きの安心を得らるべしとせば、宗教も亦社会の為には無用の長物となり教育者は又教育一天張所謂理学宗の根拠を得るをならん。君は四月二十六日友人某氏に托し市中のお花市に就き諸種のお花を買ひ蒐めしめ之を瓶中に挿み渡辺敏先生御夫婦を招待して花見の会を催し死の近きにあるよしを陳べ愉々快々のうちに

此世の暇乞を告げられたりとか。而して君が逝去当日即ち五月十一日の如きは朝来満面に笑みを湛え嘲るが如く誇るが如く正午頃よりは稍人事不省に陥り二時半頃に至り全く瞑目を了られたりとか。其五月四日頃に書かれたりといふ辞世めきたるものを見るに

一日天使来り告げらるゝやう、汝の病は癒えぬるぞ、汝は再び生きぬるぞ、我は天使に対してうなずくのみ、心に何の喜びをも生ぜざるなり。（天使は固より仮説なり）

と、素人としては如何にも名文なり、此位の文章の出来る人は世上幾人もある事なし。天使は固より仮説なりとあるからには夢物語にも非ず、精神錯乱の結果譫言を書き連ねたりとも見えず、必竟当初は病気平癒の見込みありたるものが終には回復の目途立たずと知りたりとの意を美文的に排列したるに過ぎず。然り而して是丈けが君の如上の安心を得られたる唯一の原動力なるべきか。曰はく否。予は次回に於て君が安心の本源に就て記述する所あらんとす。

(六)

君は文久元年の六月を以て上水内郡三水村字倉井の一農家の生れ敢へて富豪の分限者といふ訳には非ざりし由なり。去れば幼少時代より極めて質素なる生活を為し苦学励行を以て聞えられたるは勿論の事と謂ふ可し。其明治十二年に師範学校を卒業せられたる以来或は小学校長教員となり、或は郡視学となり、以て高等女学校の教諭となるに至るまで県下教育の為めに尽力せられたるもの茲に二十七年、其間県下教育の為めに貢献したるもの尠からざりしならんと雖もソは読者諸賢の判断に任せ置かん。此の二十七年の間に得られたる俸給は一ケ年平均四百円宛とするときは則ち一万零八百円となる筈なり此の一万円は如何にも僅少の額にして之を道楽息子の遊蕩費か小政治家の運動費にでも使用したらんに風前の燈にも此すべきものならん、然れども君は敢へて一銭一厘をも之を空費する事なく頗る節倹否寧ろ吝嗇と評せらるゝ程に貯蓄せられたるやうなり。予が君の寓居を訪問したる際の如き茶の湯の沸き居たる事などは只の一度もあることなし。煙草盆の火も先以て燧木附きにて稍三十分も経ちて後本物の火が出るといふ寸法なり。牛乳や鶏卵の如き滋養分は常に用ゐられたる可きも贅沢なる魚膾や走りの煮肴などは喰はれたる事はなからん。酒は勿論盆と正月の二回位な

るべく衣服の如きも常に綿服のみなるは申すまでもなく洋服の十円以上なるは一着のフロックコートのみならん、然れども有益なる事業なりと認められたる場合には数十金を擲ちて敢へて愛惜の色あることなし。数十万円の財産を抱へ居りながら図書館を設立するなど法螺のみ吹き居りながら時局を口実に一部の書籍をさへも購入せぬ餓鬼も県下に両三名はあるなり。是等の餓鬼共には売家と唐様に書く三代目積善の家には余慶あり積不善の家には余殃ありなどいふ文句を白紙に認め黒焼にして二週間分も飲ませたく思ふなり。明ら様に書き立てたらんには君の本意にも背く可く御当人の迷惑も尠からざるべければ態と朧めかして書き連ねん。君の近親中不幸のみ打ち続き君の助力によつて一時の急を救はれたるもの両三名もある由なり、小学校時代より師範学校高等師範学校時代迄を通して学資を君に仰ぎ今では天晴れ某県師範学校教頭の栄職にある仁もありと聞く、女子高等師範学校在学中君の助力を得たる某女史の如きは現に某外国王家の家庭教師となり居るなり。某郡視学の如きも幾分の関係ありとは聞けども善くは知らず。同僚たる某教師の遺族の如きは良人の死後は夫々衣食の途を立てて貰ひたる上に月々五円宛の補助を受けつゝありたりとか。是は女中を置くの費用を節して得たるものゝ由なり。育英会の事業と予が私塾に寄与せられたるは前条既に記述したる通りなり。殊に驚く可きは君が逝去十数日前に支払はれたるものにして其一は予に寄与せられたる五十金なるが東京遊学中の某氏に恵まれたるもの若干今は既に十数年の前に故人となりたる教育家某氏の遺孤に送られたるもの若干三口を合計するとき殆んど金一百円に垂んとす。

(九)

此外にも君の施されたる慈善事業は多々ならん然れども所謂陰徳なるものを行ふの趣旨なるべかりしか多くは陰密の間に行はれ其詳細を知るによしなし。予に寄与せられたる八十金の如き家内相談もなかりし事勿論なり。若し相談したらば成立は無論覚束なからん。遺族の事其他万端を引き受け絶えず君の病床に侍して金銭出納の事迄も主られし中野文治郎氏の如きも五十金の行方は予より承知せられて一驚を喫したる程なり。五人の家族を残し置きて明日の日も知れぬ病人にして百金を支払い此世の暇乞を告げらるゝとは近頃多くは見聞せざる所なり、予は如何にも君の心懸の殊勝なる

に感じたるの一人なれば稍偽善家の口吻に似たる嫌ひなきに非りしかども君の死後或は予に申し残し委嘱せらるゝ事はなきや。五無斎も亦一個の男子なり御遠慮ありては却つて迷惑なりと言ひ出でたるに君は左る事絶えて候はず充分とは参らずとも夫等の事は申し残し委嘱し置きたる向もあり、但し長男丈けには如何にしても普通の教育丈けは授けたしと思ふなり。万が一学資金に不足を生ずる事もありたらんには君の塾にて苦学生にても使用して貰ひたしと。此に於いて予は更に一驚を喫せざるを得ず。君の助力によつて一人前となりたるものは既に十余名に及びたるさへあるに遺族の事は充分とは行かずとも八九分通りは世間の御厄介にはならぬと云ふに至つては殆んど常人の企つて及ぶ所に非らん。以上記述する所によつて之を観察するに君の所謂安心は生理的将た病理的に死の到底免るべからざるを観念したると同時に身分相当否身分不相当なる陰徳を行ひたりとの自信ありたると遺族の心配は殆んどなしとの信念に基くものなりとせざるを得ず。殊に君が逝去前十数日に支払はれたる三口合計金一百円の如き最も有力なる君が安心の一大原動力とせざるを得ず。

以上記述したるが如く君の事業は頗る称賛に値するもの尠からざるに反して生前死後共に余り多くの同情を社会に有せざるは読者諸賢の疑なき能はざる所ならん。然れども是は大に其理由なくんばあらず、君は余りに智識明瞭にして議論好きなるの弊あり。其唱道する所時に或は不理窟なるの嫌あるも君は直ちに何とか理窟を付けて而かも理義明晰に駁を烏とも言ひ包むるの能力ありたるやうなり。燃ゆるが如き熱情は或る特別の人のみに注がるゝなり。大多数のものは其恩沢に浴するを得ざるのみならず若し誤つて反対の位置に立つ事もあらば君は之に向つて所謂攻撃と所謂迫害をも敢へてするの意地悪ろき性質をも加味しありたるやうなり。斯く智識明瞭に情熱し意志の強固寧ろ痩我慢の強き人は迚も社会に同情などは得ぬ事と知るべし。知り居る事も知らざるものゝ如く装ひ八方美人主義にして九分九厘位迄は他人の説に賛成するやうならば社会の同情は悉く一身に聚り万事成効受合ならん。

(三)

五無斎の如きは滑稽寧ろ不理窟否浪人者の権力によつて社会の各方面を罵倒し尽したるの一人なるが其末路は定めて

憐む可きものならん。今更口を噤みたりとて信用の回復も覚束なく且つ老先短き身にもあれば罵倒は継続する事とせん、只心臓痲痺か脳充血等にて一日も早く頓死せんことを希望するものなり。心臓病や脳病になる妙薬は例の御神酒なるべければ予は終生禁酒などはせぬ積りなり。是等両病のうち其一ならんには辞世の歌など迚も間に合ふ可き筈もなければ筆の序にかくなん。

ゆつくりと　娑婆に暮して　さてお出で　わしは一ト足　一寸お先へ

五無斎の死の早からん事を祈らるる向信州の天下には頗る多きやうなれば予はあべこべに諸君の無病長生ならん事を祈るものなり。豊大閤が

露と置きつゆと消えぬる　我身哉　難波のことは　夢のまた夢

の歌は公の薨去前十二年に出来居りたりと聞けば聊か早やうなれども差支はなからん。土谷君の生前死後共に余り多くの同情を社会に有せざりしを見て辞世の歌迄も物する五無斎の心事宜敷御推察ありたし。浮世の毀誉褒貶の如何に関せず土谷君の逸事を記し併せて自分の事迄も吹聴したるの如斯。読者諸君以て如何となす。

土屋政吉君之略歴

文久元年六月　上水内郡三水村字倉井の一農家に生る
明治九年九月　長野県師範学校飯山支校へ入学
同十二年六月　長野県師範学校全科卒業
同十四年四月　上水内郡柏原学校訓導拝命
同十五年八月　上水内郡柏原学校四等訓導拝命
同十九年一月　任上水内郡日里学校長兼三等訓導準官等十三等
同十九年四月　任上水内郡黒川学校訓導兼校長準官等十三等
同二十年四月　任上水内郡黒川学校長兼訓導
同二十年十月　任長野県上水内郡長野学校訓導
同二十一年　任長野県上水内郡上水内学校訓導
同二十五年六月　任長野県上水内郡視学
同三十四年四月　任長野県下伊那郡高等女学校教諭
同三十五年三月　任長野県長野高等女学校教諭
同三十八年十一月　肺を患ひて逝矣法名安然院釈浄覚政義居士

お断はり

花咲町一少女より書き送られたる和田峠にて小揚人足傭入の逸話小説的なる事実を麗妙なる筆に上す、君の性格を顕はし得て余蘊なし、然れども余り長文となりたれば掲載は見合せとなし謹んて予が筐底に秘蔵し置かん、只少女のお名前こそ聞かまほしけれ。

此文を見て金八拾円を足下の私塾に寄附すべければ拙者の死後はべらべらと書き立てゝ貰ひたしなど御注文ありては迷惑少からず、之を要するに慈善事業や寄附金などは骨董品と同じく少しく時代が経ち錆が附かねは値打は顕はれぬものと知る可し。呵々。

（長野新聞　明三八、六、三〇第二〇二七号より同七、一〇第二〇三七号まで所載）

図書館創立私見

（信濃教育会附属の）　五無斎　保科百助

一

兎角不順の候。各位益々御健勝戦後経営の重任を負はせらるゝ事御同慶の至りに御座候。

偖五無斎事幸に四十年来頑健に有之今回信濃教育会附属図書館金銭物件の寄附勧誘掛を無報酬無旅費にて拝命し原会長渡辺副会長を始めとして図書館創立委員長土屋良遵其他各事務員の下風に立つ事と相成申候。

因之同館設立に関する愚見の一般を開陳仕候間新聞社に於ても将又読者各位に於ても凡そ一週間の紙面を御割愛被成下度此段御願申上候。

偖五無斎保科百助は漫遊癖あり且大仕掛の仕事を好むは信州に於ける満天下の御承認ある所に御座候。然る処五無斎は不幸にして金銭に縁の薄き方にて私塾の経営も半途廃塾するの止むを得ざるに立ち至り韓国人の教育に手を焼き養禽事業に失敗し筆墨行商人と成り下り申候。落体の法則は一三五七九なること物理階梯と申す書にて始めて拝見仕候処五無斎堕落の法則は一五九十三に御座候。

偖筆墨行商人として日本全国を漫遊致す事明治三十年以来の素志に有之且幾分は是等行商に関する事項を研究致し候へども元来天窓を下ぐる事大の不得手なる身には長野県ならば兎も角も他府県などにては到底覚束なくと存候に付県下を彷徨く事極めて不本意には候得共去りとて糊口の資を得るに途なく五無斎餓死すなど二号活字にて見出しを附し新聞紙に書き立てらるゝ面白くなく浅間山や華厳の瀑布を煩さば五無斎発狂せりなどの誹りを免れず。元来気違ひじみたる五無斎が発狂したりとありては是れ発狂の自乗冪と申者に御座候。

他府県行商の事次の事実にても明了に御座候。五無斎は去る二月二十一日東京市を発し板橋駅より小車を軋しつゝ浦和前橋を経て高崎に至る沿道を商ひ廻り候処浦和にては埼玉県師範学校長小島政吉君の紹介あり前橋にては群馬県師範学校長羽田貞義君の案内状ありたるが為め其日々々の糊口には何等の異状は無かりしかども其他の地方にては商売皆無の有様に御座候。殊に前橋より渋川を経て明治村に至りし折の如きは道程五里の坂道を上り学校二役場二其他富豪と見ゆる二十余戸を歴訪したるにも拘らず商売は僅々六銭に御座候。是は流芳水筆と申す筆二本を売りたる代金に御座候。二割五分の利益なれば純益は一銭五厘に御座候。一本は愚痴をこぼしたるが為に腰掛茶屋の主人が買うて呉れ一本は明治村の旅舎の娘の恩沢に浴したる次第に有之候。是れ五無斎が非常なる恥辱を忍びつゝ先以つて長野県下を一巡するに立ち至りたる所以に御座候。

二

偖従来長野県には幾分の名誉もあり又幾分の地位もありたる五無斎が純粋の筆墨行商人にては遣り切れ申さず候に付き何とか面白き工夫は無きかと種々心胆を砕き居り候処恰も善し二月上旬の頃にもやありけん日本一の小学校長として又長野高等女学校長として将又信濃教育会の副会長として分名ある渡辺敏先生の上京せられ宏文学院教授高橋貞吉君と会見せられたる折五無斎を創立委員に任命して幻燈器械や大声蓄音機などを買ひて与へ巡廻講話を為しつゝ寄附金募集の事を担当せしめたらば或は適任ならんかと言はれたる由を同君より承り及び候処当時何等の考案もなく又是ぞ取り立てゝ言ふ可き程の工夫も付かざれば其不適任なる旨を以て一応謝絶致し後にて考ふれば稍高橋君の感情を悪しくはせず

やと心痛仕候。

偖五無斎は一問題の起る毎に種々考案をめぐらし終夜睡ること能はざるの習慣なるが同夜も亦例の不眠症に襲はれ終夜一睡の夢をも結ぶこと能はず煩悶に重ぬるに煩悶を以てし翌日に至りては人と対話することさえ物憂く何となく呆然自失の体なりしに正午頃弘文書院の折井最一氏来訪せられ離杯を傾けつゝありしに又々渡辺老人の言はれたる話を又聞したりとて語り出でられたれば二三対話の末自分と自分の舎兄たる保科丈之助所有の書籍全部二三千冊を寄附して之をお囲となし県下の学者教育家を始めとして政治家法律家は申すに及ばず其他有りと有らゆる階級の人々より書籍の寄附をして貰ふの策に出づべしとの考案を得たれば之を折井君に語り出でたるに同君も亦痛く此挙を賛せられ即刻百部以上の寄附を致すべしと申し出でられ候。乃ち善は急げとの諺を応用して杯盤狼籍の間に於て一書を認め埼玉県師範学校留置にて吉報を得たしと附記し之を渡辺老人に致し翌日即ち明治四十年二月十九日信州政治家の泰斗無辺渡辺国武子を麻布蟆池の邸に訪ひ曩きに御依頼を申上げ置きたる十余枚の御揮毫を拝受し御暇乞を申上ぐるの序を以て信濃教育会附属図書館創立の事務をも取り扱ふべく殊更に創立方法等迄をも簡単に申上げたるに数日来五無斎筆墨行商の事を甚だしく非難せられ五無斎糊口の途に就ては種々御配慮ありたる同子爵は甚く此挙を御賛成あり五無斎よりは閣下の御尽力を御願致したしと申し出でさるに先ち。

ソハ結構なり。及ばすながら幾分の尽力は致すべし。

と仰せられ候。話の早分りすること慥かに英雄豪傑の一資格かとも恐察仕候。

当時五無斎の脳中には又々一の巧案を按出仕候。ソハ言ふまでも無く寄附金募集の場合に当り百円以上の寄附者に対してはお移りとして同子爵の揮毫を贈呈することに候。渡辺内蔵頭の御揮毫も可然候。福島少将や辻教育会長のも可然候。中村不折丸山晩霞両画伯の絵画殊に可然候。素より一々御承諾を経たるにては無けれども御不承諾にも有之間敷と存候。尚当日五無斎は同子爵邸の縦覧を願い出でたるに鴨をば驚すべからずの条件のみにて例の草茸三棟の離れをも一覧するの光栄を得申候。是等三棟の離れは何等の装飾こそ無けれ和漢洋の書籍が狼藉たるには驚き入候。此こに於いて

五無斎は又々一ツの考案を得申候。ソハ言ふまでも無く是等御蔵書中の或るものを無論頂戴することに御座候。是等多数の御蔵書中には民間の吾々には金銭づくにて購入の出来ぬものが多かるべく候。両画伯や福島少将の御屋敷へ行きては見ざりしかども之れ亦同様たるべく候。弥六重平は申すに及ばず山頽樋勘長七の輩とても之を辞するの辞なかるべく候。信州に於ける満天下に各位一人として之を辞するの勇気なかるべく候。

三

戦前戦後経営の為めに六億二千万の経費を支弁せざる可らざる我帝国の臣民は或は官或は半官半私の寄附金に苦しめられつゝあるの今日妄りに金銭を懐中より出すことを好まざるの現況に御座候。尤も金銭を懐中より出すことは袖のなかより手を出す程には簡単ならず候。然れども読み古したる書籍の一二部位を寄附することは左程面倒なる事には無之候。否他日の記念として一二部位は保存して貰ひたしと申し出るが当然と存候。否々虚名誉心に駈られて誰やらの如く或は苦学生或は韓国人の教育に手を出して美事に失敗し苦しまぎれに筆墨の行商人となり図書館の下働きを運動するなどは断じて不可なれども一二部乃至四五部位の書籍を寄贈し置きて世の学者教育家を益し併せて自分の名誉をも永久に伝へたし位に簡単なる名誉心は人世極めて必要なる事と存候。是五無斎保科百助が自ら進んで物数寄にも此図書館創立の大任に当る所以に御座候。

斯の如きの想像寧ろ妄想に耽りつゝ五無斎は明治四十年の二月二十一日筆墨行商人として板橋駅より商ひ始めて旧仲仙道通りを辿り申候。

四十から　筆屋　六十　代議士で　七十以後は　総理大臣

本郷の追分にて宿屋の番頭より小車を受取りたる五無斎は夫の雪山に十二個年の難行苦行を積まれたる釈迦牟尼仏が車　童子の泣き別れと御対照可被下候。同夜蕨駅の一木賃ホテルに宿し候以来は例の半風先生と連夜同衾に御座候。

むづ〳〵と何かそこらを這ふまゝに　あづまの空の　しらみこそすれ。

数日の後浦和駅に着し直ちに師範学校に小嶋政吉氏を訪ひ渡辺老人の吉報を尋ね候処未着との事に御座候。数日間浦和滞在中は師範学校に日参を致候処何れも未着々々との事に御座候。五無斎は殆んど失望仕候。乃ち長文句の書面を老先生の許に認め群馬県師範学校留置にて吉報を得たしと附記し十数日の後前橋駅に至り直ちに羽田師範学校長を訪ひ机上を一瞥するに五無斎宛の一封あり。差出人を見れば勿論老先生なり吉?。凶?。諾?。否?。五無斎由来呑気男なれば書面などを周章狼狽却りて見たる事は無けれども此時のみに限り両手両腕に汗を漲しつゝ直ちに封押し切りて読みもて行けば簡単に、其時期に非ず寄附金は見合せ。との事にて五無斎兄弟唯一の財産たる二千余冊寄附の諾否さへも明記無之りしは遺憾骨髄に徹し思はず悪声を発したるやう記臆致し居候。羽田貞義君の温顔に接して始めて稍回復仕候。

次に見たるは今井猪之助兄が韓国行きの通知に御座候。今井兄は同郷の友今や此快報に接して悲喜の感交々至り候。斯くの如くにして数日間を前橋市に費し渋川を経高崎市に至り嫂病死の報に接し申し候。既に野辺送りも済みたる後数日の事なれば急ぎて帰る必要はなけれども何となく済まぬやうなる心地なれば直ちに汽車に乗り軽井沢に下車し此処にて今井兄の書面を受け取り申候。是は今井兄と五無斎とが無二の親友たる某軍人の結婚問題に御座候。葬礼婚礼が一時に集り稍閉口仕候。尤も余り火急を要する程の用事にても無く且つ道路泥濘如何にも小車の曳き悪くかりし為め途中稍手間取り申候。二十二日岩村田に至り候処臼田校長より卒業式の祝辞を依頼され易水居士と大に飲み二十四日中佐都村に至りしに同窓会の演説やら同村の篤志家池田静作翁の伝記に序文を書けなど窘められ申候。中津学校に於ても引き続き演説せよとの事にて之も亦辞するに由なく直ちに出発したりし為め文章などはドンナもの出来て居たるか一向夢中に御座候。二十五日夕刻帰着仕夜食をも認めず直ちに墓参を為し其足にて友人吉村氏を訪ひ伊藤校長の寓居に宿し翌朝午前三時に起き出で大屋下り一番にて帰長仕候。帰長以来或は原会長を尋ね鈴木市長を問ひ大沢県参と会し両新聞社に至り無報酬記者たらんことを要望したれども許されず斯の如く東奔西走殆んど寧日否寧時なく漸く昨三十一日の評議委員会にて五無斎が要求の凡二分の一許りは許容せられたる次第に御座候。

偖茲に三ケ条の五無斎の為めには迷惑なることが出来仕候。即ち成るべく書籍を貰はずしてお金を貰ふ事（一）巡回先より一々荷物を送つて貰はれては財政困難なる教育会は頗る迷惑なれば成るべく寄附者より運賃や荷造費を支弁し貰ひ呉れよ（二）又希望通りの目録を印刷せんが為めには金十五円を要すべければ普通の罫紙に鉛筆にて横罫を入れ呉れよ（三）との事に御座候。

五無斎は由来金を貰うことの不調法なる男に御座候。金を借りに参りても遂に言ひ出さずに帰る事度々に御座候。日頃面の皮が厚きやうなれども又非常に薄きことも有之申候。金を貰ひ度し娘を貰ひたしなどゝは何時も言ひ出し兼ぬる方に御座候。寄附金の方は更に他の委員を御任命相成度候。且つ酒に酔ひたる折などダラシの無き方なれば如何なる間違を為すやも計り難く候間信濃教育会へ直接御送金願上候。

加之五無斎は金を貰うことよりは本を貰う事が上手に御座候。小車を引張りつゝ一々書籍を貰ひ歩く事は他の御方には余り馬鹿々々しくて出来ぬ事に御座候。五無斎は筆墨行商の序を以つて致す事なれば如何に見苦さしき事にても可致候。斯く致さねば同一の書籍のみが集りて夫こそ汗牛充棟も啻ならず迚も遣り切れたものには無之候。

偖斯くの如くにして愈一万部位の書籍を貰ひ蒐めたりとせば壱弐万の県補助を出願するが順序に御座候。県会にて満場一致を以つて可決すべきは五無斎の保証する所に御座候。之を要するに信濃教育会附属図書館とは申せ其実長野県の模範図書館なり図書館の総本山なりとも見ねばならぬ故全然県費を以つて設立するも違法には無之候。是は五無斎が県当局者と県会議員の各位に対する申状に御座候。長野市は県庁の御膝元にて諸官衙の在るが為めに参十余年来土地の繁栄は莫大なるものに御座候。平たく申せば是等諸官衙に奉職せる官吏方や諸種の学校に於ける教師生徒の数は一万に近かるべく長野市総人口の四分の一は長野市より金を奪うの人に非ずして金を振り蒔く人に御座候。其遣払たる金高の一割が純益とするも優に図書館の二つや三つは出来可申候。如来様の御利益あるは今更申上ぐる迄は無けれども県庁様の御蔭も亦莫大なるものに御座候。現に松本や上田の三十余年来長野市の繁昌を羨むを見ても其一端を窺ふに不難候。斯

の如くにして池田は大町を羨み小諸は岩村田を悪み申候。而して其池田大町や小諸岩村田を羨む者も漸次多きを加ふると見え都会地は村落に比して戸口増加の傾向を顕し来り申候。之を要するに都会地は村落に毒して利益多きもの暮し善きものなるを知るに難からず候。

斯く長野市の繁栄に大関係を有する諸官衙学校の全然市営にかゝるものは僅々三小学校と市役所のみに御座候。来年度は高等女学校も県立となる由に御座候。商業学校県立論も近き将来たるべく候。実に長野市の為めには限りなく有難度き事なれども立科山下に生れたる農夫たる保科五無斎若し北佐久郡選出の県会議員たらしめば県会議場々裏稍不平を申上ぐ可き筈に御座候。信濃教育会の図書館へ壱弐万円位御差出相成候とも一向差支無きことゝ存候。信濃教育会の図書館とは申せ長野市に置かるゝ以上は松本や上田の人より見れば長野市の図書館と見做さるべきものなるが故に松本や上田よりの寄附金は先以つて一文もなしと見て可然候。諏訪や飯田に至つては況んやに於てをや御座候。是は五無斎が長野市民の各位に対する申分に御座候。

五

然れども上田松本の人や諏訪や飯田の人とても信濃教育会の図書館を以つて直ちに長野市の図書館と見做し給はばソハ慥かに一種の僻見たるべく候。長野市は県庁の所在地にして又信濃教育会本部の所在地に御座候。移庁論や本部移転論なれば兎も角も若し模範的図書館を置くとすれば長野市の外適当なる候補地無之候。移庁論は久しきものなれども先づ以つて今日の位置は動かぬものと御明らめ被下度候。故に道理の早分りする人ならば無差別平等に金銭物件の寄附あるべきは殆んど疑を容れざる所に御座候。是れ五無斎が県下百三十万の各位に対する申分に御座候。

次に五無斎は旧川中嶋郡即ち上下水内高井更埴三郡の各位には殊更に御注意申上度と存候。百年後に於ける各位の子孫は慥かに新図書館を利用すべき事頗る想像するに難からず候。長野市民各位に次いで精々御尽力願上候。

由来南北信の差別を附して折々物騒なることのあるは寧ろ心外千万に御座候。五無斎が或る二三の友人等は五無斎信州論の外一物もなし、絶えて他の府県を知らず日本を知らず、日本の領土を知らず、況んや世界の大勢をや、国を去つ

て一年ならば復信州論などは担ぎ出さゞる可し糊口の資を得るが為めとあらば万止むを得ず、図書館の創立も可なれども先づ以つて信州の行商は三ケ月以内に切り上ぐ可し、と冷(ひやか)したり忠告したりして呉れ申候。先頃上京の節帝国議会をも縦覧致候処南信論北信論や上田論長野論の代議士各位を見て直覚的に御気の毒千万との感を深め申候。共進会敷地問題に就ては旅籠屋根性より割り出すも深く利害の関する所なれば算盤を取つての上の位置争なれば一向差支無之候得共物産陳列場など申す事は愚の極と評さねはならず候。若し長野市に物産陳列場を置くとすれは七味唐辛と五種香との出品あるに過ぎざれば是れ長野市の恥辱と申すものに御座候。若し又松本町に置かんか簀細工(みすゞ)の弁当籠と押絵の雛人形とのみなれば是れ松本町の恥辱と申すものに御座候。若し夫れ上田町に至つては寧ろ滑稽に御座候。

年寄向の万筋の紬縞一反の出品なれば稍寂寞を感じ可申候。蚕種などを陳列し置かば甚だしく其外観を損し殊に四五円の交出穀種を変ずべく候。由来我長野県は養蚕国に御座候。又製糸国に候。織物国にては無之候。陶磁器は殆んど皆無なるが上に漆器は飯山製の仏檀のみに御座候。故に我長野県に於ては先つ以つて信濃博物館を設立して其中の一室に物産陳列場を置く位にて宜敷と存候。尤も近き将来に於ては水力電気の工業国と相成るべきは又一点の疑なき所に御座候。是れ即ち博物館と物産陳列場とが分離を要すべき時期かと愚考仕候。

兵営敷地問題の運動に至つて近頃以つて笑止の至りに御座候。師団や旅団の位置は所謂運動位によつては左右の出来ぬものゝ随一に御座候。聯隊の位置も亦従つて同様に御座候。桑園が潰れるからなどの陳情書は近頃笑止の至りに御座候。戦捷国たる我帝国は軍事上より其他一切の事を割り出すが如く見ゆることも有之申候。是は所謂運動に御従事なされたる方々の篤と御承知の事と存候。所謂位置争の観念は五無斎の最も不要とする所に御座候。各郡市町村は各一個所宛の図書館を要するの時期を明治五十年と予言致し置候。其節は又々御尽力願上候。

（長野新聞　第二六七二号～二六七六号　明四〇、四、六～同四〇、四、一〇所載）

県立感化院の位置について　二

五無斎　保科百助

斯くて共進会の跡片付も未だ出来さるに、県庁も立てねばならず、師範学校も増築せねばならぬ場合となり、重ねて数十年来の移庁論を再発し、斯く面倒なる問題にたたみかけ〳〵又々感化院問題と来られては、稍頭脳の明晰なるものと雖も間違いたる措置を為すこと素より当然の事なりとす。乃ち当然の事なりとは雖も、英照皇太后御崩御の折、宮内省より御下賜金もあり、多額の県費を投じて之を設立することなれば、軽々に之を観過して可ならん哉。乃ち五無斎の研究したる所を論述して県当局者の諸君と県会議員諸君の参考に供せんと欲す。

人の善を為し悪を為すといふには、是非共一人にては出来ぬことなり。去れば、ロビンソン・クルーソーには、善も無く悪も無く造物主がイブを製造せさりし以前のアダムが背徳の行を為したりしこと創世記には見えず、魯西亜が囚人を西比利亜に送り、帝国に於ても北海道集治監のあること極悪非道の人間には罪悪を犯すが為に好都合なる他の人間の多く住居せぬ地方を撰びたるものなる可し。即ち、感化院は監獄の一種にして、且其規模の小なるものなり。地方繁昌策とはならぬものなり。之あるが為に鼻を高くすることも出来ぬものなり。五無斎をして松代町長たらしめば、江戸村附近の何処やらにて、癩病院の設立を拒みたると同一の筆法にて、感化院の設立をお断はり申し上ぐ可し。ヨシ癩病院程に忌むべきものに非ずとするも、避病院位に厭なものならん。乃ち五無斎は、東筑摩郡の桔梗原、上伊那郡の中野原、佐久郡の追分原、南佐久郡の延山が原、上水内郡の飯綱原、若くは上高井郡の菅平等を撰ばんと欲するものなり。但し、菅平にては、稍費用の多額なるを恐る。是は日用品の缺乏より来ることと知るべし。

感化院設立法の詳細に入らんは、本論の趣意に非ざれば、ソハ他日に譲ることとして此所には、其の一斑を叙して以て感化院の位置たる前記各地方に於ける荒漠たる原野に於てせざる可らさる所以の理由を明かにせんと欲す。

熟々感化院と実業否職業との関係を案ずるに、是等悪少年は、他日、官公吏や会社員や銀行員若くは教育家と為すこ

とを得可きかというに、其甚だ不向なる可きは屁を見るより明かなるの道理なり。其故如何といふに、凡そ是等の諸職業に従事するの人は極めて公共心に富むの人ならざる可からず。而して是等不良少年の公共心の観念極めて微弱なるが上に自己本位、即ち得手勝手宗総本山管長の権化再来とも謂ふ可き者なればなり。是れ即ち自分に能く似た様なる安月給取り製造を以つて教育家の本職なりと心得居る様なる教育家には、感化院長が出来ぬ事と明らむ可し。

（まだ〳〵長い）

参事会員某氏揚言して曰く、大山知事は浪費者なれば、準禁治産の宣告を与へ、属吏どもは臀押しの悪漢なれば、此奴等を感化院へ叩つ込んでくれたら可からう。呀ツ聞かれたか聞かれたか。

然らば此感化院の児童をして他日商業に従事せしむ可きかといふに、是も甚だ其不向なるを見るなり。商業といふことは、金銭物品の交換なり。熟々世上に行はるる罪悪の種類を統計するに、男女間の問題が其一半を占め、金銭上の問題又其一半を領す。大飯を喰ひ大酒を飲むことなどは罪悪に非ざるなり。大法螺を吹き独身生活を為すことなどは不徳義には非ざるなり。斯くの如くにして金銭を取扱ふの商業は、感化院児童将来の仕事には非ざるなり。乃ち少たりと雖も都会地を択ぶの必要なきなり。之を言ひ替ふれば、乃ち松代町を以て設立地とするの必要なきなり。

然らば、工業は如何と云ふに、工業の種類は極めて多きものなり。曰はく織物なり。曰はく漆器なり。曰はく陶器なり。曰はく何。曰はく何と其種類の多きこと支那の熟字に百工とあるを見ても能く其種類の多き所以を知るに足らん。且つ、是等工芸の技術を習得せんが為には、各自特別の技能を要するが故に、能く活版職工となるを得べき者も下駄屋職人とはなれぬこともあり。機屋の弟子となるの能力はありながら石屋にも適せぬといふこともあるなり。斯くの如く工業なるものは、各其先天的の技能を要するものなれば、若し、感化院に於て工業を課せんとすれば、勢ひ院長院母学術教師下男下女あるが上に、是等百工の実科教師を聘せざる可らず。且つ、将来の工業は益々大仕掛のものと為るが故に、職工同志の喧嘩口論も思ひ遣らるるなり。乃ち知る、工業も又感化院向には非ざるを。

之に反して、若し農蚕の業ならんには、如上の缺点なし。農蚕の業務は一人にても出来ることなり。他人と関聯した

る問題の起ること意外にも少し。悉く是れ自ら耕して自ら喰ひ、自ら織りて自ら着るの法なり。若し余りあるときは、則ち之を市に輸す。人類といふ小利口にして小意地の悪ろき金銭と女には目の無い厄介なる自称最高等動物を相手とせずして、天地山川草木禽獣虫魚の自然物を友とし、此方より害を加ふることも出来ねば悪感化を受くることもなし。且つ、其業務たる甚だ簡単なるが故に只々手足を上下左右前後に敏活に運動さえすれば、相応の収入もあるなり。在院七八百年にして、三百円乃至五百円位の貯金をつくりて遺ること此農業に頼るときは屁でも無きことなり。而して、最も利益の多き農蚕業は新開地にあり。然り而して北海道樺太は申すに及ばず、満韓西比利亜南米の地に移住せしむ可きの健児は、多く此荒漠たる新開地に設立したる感化院より輩出すべきこと受合ひなり。五無斎豈無用の弁を好まん哉。

之を要するに、感化院の設立は今日に始りたるに非ずして政府及び県当局者の宿題たりしなり。即ち、今や既に必要不必要の問題には非ざるなり。然れども県当局者は此内務省より課せられたる宿題を考究し置かずして登校し、偖一週間前に出して置きたる問題の解答をして見せよと塗板の前に引つ張り出され即座に解答を試みんとして奇妙奇天列なる事を誤多〳〵説明し始めんとしたるを参観人たる五無斎の為に何にソンナ解答があるものか。ホカの生徒さんは何う思ひますか。と一本やられたりと申すものなり。之を海津学舎と名つけたりなど滑稽も亦甚だしからずや。

同級生たる三十九人県会議員諸氏以て如何となすや。

五無斎曰く、若し本問題を完全に解決せんには、新開地と感化院との関係及び在院中三百円乃至五百円貯金が出来、之を資本として北海道移住の方法等迄を詳論したらんには、如何に蒙昧なる県当局者及び県会議員の諸氏と雖も、之を松代町に置く可しなどの議論は忽ち消滅すべしと雖も紙面に限りあり遺憾此上もなし。

（信濃公論　第六号　明治四一、一二、九　その㈠は公論紛失のため欠く）

長野中学生徒騒動に就いて

此頃の新聞を見るに長野中学校に生徒騒動が有りたりとの事なり。実に困つた事と謂ふ可し。然れども五無斎は又他の一方より観察して、近頃の如く生徒騒動のなきも亦稍憂ふ可き事とも考ふるなり。是れ青年学徒の意気銷沈を表すものなればなり。

熟々今回生徒騒動の真相を案ずるに、漢文科の教師が気に喰はぬから乱暴を働きたる犯人の出でざるを怒りて、此教師に授業を休止されたるを苦に病んで、或る生徒が内通即ち生徒探をしたりとて他の生徒共が拳骨を振舞はんとせし事の大きくなりたるなり。然れども五無斎を以つて之を見れば、生徒の乱暴を働きたるは生徒の悪しきなり。教師の授業を休止したりしは、自分の不調法に心付かずして怒り損ひたりと謂ふものなり。他の生徒が此内通者に拳骨玉を振舞はんとせしは、少年気鋭の然らしむる所、勿論善には非ざれども悪徳とも謂ひ難し。五無斎は寧ろ此内通者を悪むものなり。昔、梶原景時といふ人あり。影口言ひ中興の祖なり。只でさへ中違をし勝ちなる頼朝義経の間柄是より漸く宜しからず。梶原といへば、芝居などにてす悪まれ役者なり。乃ち知る。世上一般此影口言ひを悪むことを。

松平信綱幼なりし時、其幼主君たる竹千代君即ち後の三代将軍徳川家光公は侍りしに、主命にて夜中御父将軍徳川秀忠公御居間の屋根へ小雀を捕りに行き、過つて中庭に転び落ちたることありたり。将軍家驚き賜ひ太刀押つ取り御台所燭を執りて出で見給ひしに信綱なりければ、其主使者を詰らせ給ふに只々自分が欲しくて欲しくて溜らさりしと答ふるのみ。将軍家益々怒らせ給ひ彼を巨嚢中に入れて尚之を責め給ふに、嚢の中より之を争ひて暁に達し日中に至る。幸にして御台所より残飯の御振舞に預りたれば、稍饑えざることを得たれども、十一時間も嚢の中に入れられては溜つたものに非ず。然れども遂に其実を吐かず、将軍家をして根気負をせしめたるは頗る豪らき度胸なりと謂はざるを得ず。若し之が五無斎たらしめば、貴様の餓鬼の竹の野郎に頼まれたるなり。膏薬代も遣こさぬが上は、此責め折檻は何事ぞな

ど怒鳴り度き所なり。然れども遂に其実を吐かず。将軍家の彼を放免せられし後、御台所と共に以つて六尺の孤を托す可く以つて百里の命を寄すべしと仰せられて彼を見送られたりといふは頗る無理ならぬことと謂ふべし。故に五無斎をして長野中学校長たらしめば、此梶原式の生徒を保護せざるのみならず。殊更に校長室に呼び出し、其不心得を嘖め漢文科の先生には少しく、御手柔かになど嘆願せんと欲す。

先年、菅野某なるものあり。嚢叩きに逢ひたりとて裁判沙汰となりたること有りたるも遂に物には成らざりし由なり。コンナ事は世上幾らもあることなり。然れども拳骨法は如何にも野蛮なり。乃ち五無斎は此拳骨法に代ふるに万歳法を以つてせんと欲す。万歳法とは何ぞや。即ち全校生徒打ち寄り、之を体操場に引張り出して此意気地無しの生徒探万歳を三唱するなり。之を五無斎式制裁法といふ。長野中学の教員生徒諸氏を以つて如何となす。

（信濃公論　第八号　明治四二、一二、二三）

小平龍谷を弔ふ長歌並びに短歌　五無斎

嗚呼君は
信濃の国は諏訪郡　湖東村の生れにて
姓は小平名は小平　竜谷居士は其の号で
父は貞三母たよ子　明治戊辰の六月に
孤々の声あげ空気をば　始めて吸ひし事なれば、
今年はまさに四十才　飲みつ語りつ忍ばんを
幽冥籍を異にして　泣き悲めど甲斐ぞなき
頃は明治の十九年　長野の師範に在りし時

君は成績佳良にて
余は勿論不の字にて、
離れじものと試験前、
大に我慢はしたれども、
されば入学した時は、
業を卒へしは一ケ年、
然も尻から首席なり、
折節君は東京の
試験にチヤント合格し、
定りたれば長野なる
宴を開きて飲たるが
綽名得たるは伊那の人
埼玉県の師範校
又其次は佐久の人
怒り上戸の名家なり。
笑ひ上戸の君にして
喜びあれば笑ふなり。
哀しき折も笑ふなり。
其外やたらに笑ふなり。
諺あれど是は又
常に上席占めたれど
尻からなりと同列を
一二週間焦心つつ
遂に堪へ得ず落にける。
同じけれども辛うじて
後れて次の年の春
さてこの時の恥しさ
高等師範入学の
不日上京する筈と
西洋館に留別の
さて其時に泣き上戸
姓は小島で名は政キ
長を務むる大家なり。
姓は大沢名は茂十
さて其次は大笑ひ
無暗に笑ひわらふなり。
怒れる時も笑ふなり。
楽しくなれば笑ふなり。
わらふ門には福来る
例外中の例外か。

明治の二十七年に
タッタ一年許りにて
あひて両親兄弟も
後に残して真暗な
其後絶えて逢はざれど、
天国行か極楽の
偕五無斎は例により
義務年限の十年を
石屋となりて満二年
今は筆屋となり下り
めぐり〳〵て今ここに、
父の貞三絵かきにて
長弟雪人発句師で
豪のものなり其他の
あるは画工の卵なり。
小平の遺志つぎ考古学
拾ひ蒐めし土器石器、
来る人毎に示すなり。
竜谷文庫設けたり
三間程の小家にて
高等師範卒業後
忽ち二竪の襲撃に
二世を契りし妻君も
冥途の旅に旅立ちし
笑ひ上戸の君なれば
往生まさに紛れなし。
例の如くに零落し
終るや否や辷り出し
鳥屋となりて一二年
金箔つきの火の車
君の生家を訪へば
神職医師を兼ぬるなり。
江戸村迄も聞えたる
二弟も或は医師となり
是等兄弟三人にて
研究重ね折々に
辺狭きまで並べ立て
殊に記念の為にとて
間口は四間奥行は
築山泉水松と竹

梅の古木も見ゆるなり。　　四季折々の草花も
君にあやかり笑ふめり。　　是は正しく世の中に
類稀なる事ならん　　扨も是等の人々に
案内乞ふて殊勝気に　　香華捧げて南無阿弥陀
君の墓所を吊へば　　うそう悲くなりにける哉。
「物に皆へんやうもなし」前号本記事中十五行目に右一行脱落す。

（信濃公論　第八、第九号　明治四一、一二、二三～四二、一、一）

師範学校案の成行如何

師範学校案の成行果して如何。師範三校案を賛成したるは、下らぬ社長を戴き居たる信毎子を筆頭に、上田新聞之に和し、与良県視学に御親戚筋なる二宮三次郎、八木与一郎の両君と、長野県小学校長中の最高級者木川寅次郎君及び太古代の教育家にして政治家たる殿城の田中救時君等の数人に過ぎず。而して之が二校案を賛成したるは、県下の教育家、政治家及び新聞屋の大多数を占むるなり。乃ち知る県下の与論は二校案なるを然り而して県知事大山綱昌君は猛然として再議を命せられたり。県会議員小島友太郎君は知事不信任案を提出せられんとしたるなり。宮沢議長の気の利き過ぎたるが為めに、議長不信任案を絶叫したるものもありたる由なり。県会議員中の大多数は、此の期を利用して退場を急ぎたるの形跡あり。之は解散風を恐れたるなりといふ。蓋し或は然らん。是に於てか五無斎は、県会議員不信任案を県民諸君に提出せんと欲するものなり。

県会議員諸君中の或るものは文部省、内務省に向つて陳情書を捧呈し、次いで四五人の委員を上京せしめられたる由なり。之は斯く無くてはならぬ筈なり。若し原案執行ともならんには県民大会を催すべしと主張するものもある由な

り。之も亦斯く無くてはならぬ筈なり。まさか文部省たり内務省たるもの之が原案執行を命する筈は万之れ無かる可しと雖も若し然ることもあらんには内務、文部両大臣をも不信任なりと主張せざるを得ず。最後に五無斎は新聞記者不信任案を社会に提出せんと欲するものなり。其の理由次の如し。

県会議員の諸氏が陳情委員を上京せしむる程ならば、新聞記者も亦陳情委員を上京せしめて可ならん。二十九日頃市下の新聞屋袂を連ねて知事や部長を訪問して少しく語弊はある様なれども圧迫を加ふ可しとの議ありたれども、遂に立消えとなりたる由なり。越えて三十日五無斎は信濃・長野・信越の三社に向つて四社連袂知事部長訪問の交渉を開始したるに、一社として之に応するものなし。長野中学校長小寺甲子二君が蔭にて新聞記者殊に五無斎の事を悪ろく言ひたりとて或る社と或る社との記者が袂を連ねて同君を訪問して、如何にも下らなき問答などを掲げ、暗に五無斎を教唆するが如き口調にて惜気もなく二号活字などを使用する癖に、知事部長の訪問は出来ずとすれば、脛の辺に擦過傷でもある連中と見えたり。

之を要するに、世の所謂新聞屋連はビスマーク式の面相を具備する威風凛々たる夫の洋犬にも類するものならん。其這々頑々頗る四近を圧するものありと雖も戸隠や鬼無里あたりの猟家に飼養しある一小猫大の猟犬に若かぬことゝ知る可し。之に於てか五無斎は、新聞記者不信任案を決議せんと欲するものなり。

最も最後に五無斎は潮事務官以下学務当局官吏の不信任案を決議せんと欲するものなり其の理由は次の如し。

県下の教育家、政治家新聞屋の連中挙つて反対とあらば、再議などを命ずることなく、直ちに二校案を提出するか、若くは先ず以つて長野師範学校に二百四十名定員丈ケの復築工事を施して、一二年延期して深く二校三校両案の利害得失を研究すべしと遁つて除く可き所なり。然るに事茲に出でず。飽くまで再議を命じ、原案執行を知事と国務大臣に迫るが如き事を敢へてす其頑冥不霊殆んど済度すべからざるものあり。然れども原案執行命令の出でぬ今日なれば、敢へて遅しとすべきに非らず。速かに臨時県会を開会して、長野師範復築案若くは二百四十名定員丈ケの長野師範復築案を提出して、一ケ年延期を断行して貰う様知事に申請すべきものなりとす。

然れども事茲に出でず、飽くまで前説を固執して原案執行とも成りたる暁には、県の為めには申すまでも無く、大山知事以下お役人衆の為めにもならぬ事と知る可し。他の新聞屋悉く口を噤むの今日と雖も、楽観して油断すべきに非す一文を草すること然り。

（信濃公論　第一〇号　明治四二、一、六）

候ふ可く候ふ

左の一篇は、在東京高等師範学校附属中学校教諭伊藤長七氏の書翰なり。君は信州諏訪郡出身の教育家にして書生の世話好きなること藤森良蔵、小川平吉を加えて三人男なり。爾後追々投書もあることならむ。

（信濃公論　第一一号　明治四二、一、一三）

五無斎答へて曰はく

拝復。仮令太陽が西山の嶺より出で信濃川南に流れ候とも日刊とは致し申間敷候。本社主筆牛阿弥飯田弟治君も大株主草華庵の雪鞋牛山清四郎君も将た社長兼小使たる小生も学問経歴共に少き方にて脳味噌乃品払底なれば、暫らくにして種切れとなるの恐れ有ればなりに御度候。且つ多数末派のヘボ記者などを抱へ候節は、中学などへも連袂訪問を致さねばならず候。中学校長の小寺如き者迄に英書などを突き付けられて赤恥をかゝせられ可申候実際貯蔵銀行を喰べた或人の事は書かずに、当市にて稍徳望のある坂口佐太郎君の事などをデカク悪ろく書かねばならぬ様な事も出来可致候。個人攻撃と飽種の裏面には必ず恐喝取財詐偽取財などを含み居り可申候。三人共学問経歴は少き方なれども、詐偽取財恐喝取財は甚だ不調法に御座候。

以上の理由により断然日刊新聞とは致し申間敷候。二銭五厘の金にも困り候より、紙上を以つて御断はり申上候。匆

々頓首。百拝

（信濃公論　第一一号）

県庁舎の位置に就いて

此頃の新聞を見るに県庁舎の位置に就いて或は堂裏の辺が善からんと言ひ或は加茂の宮附近ならざる可らずと論じ或は県会議事堂近傍ならでは然る可らずなど議するものありて其うち最も有力なるは共進会の敷地跡と云ふ説なる由なり。然れども是れ将た途方も無き議論と謂ふ可し。天竺浪人筆墨行商人たる五無斎の目より之を見れば県会議事院附近殊に岡田の方に近寄りたる辺とせざる可らさるものなりと断定せざるを得ず。請ふ少しく否大に之を論ぜん。

第一、長野市といふ町は鰻否鯰の寝床見た様な町なり。若し共進会敷地跡を以つて仮りに県庁舎の敷地となしたらんには、善光寺様及び県庁殿の両本山が殆んど同一の所にあるが故に箱清水及び上松の辺迄が悉く市街地なる訳にて青大将否針金虫の寝室然たる町とならん。町の長さの無暗に長くならんは、市の繁栄上決して策の得たるものに非るなり。下水内郡に飯山町といふがあり。其昔は本多豊後守が城地たりしのお蔭を以つて将た信越線が通ぜざりしの故を以つて下越後と川中島地方との要路に当りて居たりしが為めに相応の繁昌を為したるものなりしが、其後漸次衰へ行き殊に最近拾余年間は四近の村落に水害打ち続きたるさへあるに、本町より肴町愛宕町を経て北町へ出るの道路を変更して本町より直ちに北町へ出るの新道をつくり殊に数年前飯山中学校の位置を北町に定めたりしが為めに少しにても商業を営まんとするものは勢ひ此新道へ移店せざるの止むを得ざる場合に立ち至り商業の萎微不振は頗る非常に夥しく明治二十四年の交同地小学校に奉職したる五無斎の目より之を見れば何とも申上げようの無き程に御気の毒なり。之れ即ちウナ子ド式の町と為したるの致す所なり。殷鑑遠からず九厘を隔つる近き飯山町にあり。長野市会議員たり区長たらるの諸氏、飯山町の町勢を研究せられて可なり。

ウナ子ド式の町内に於て商業が萎微不振に陥るの理由果して如何。比較的商業の経験少き五無斎などが斯の如きこと

を言ひたらんには嘸喫仰天せらるゝ向も多からん。

然れども現に大門町などに於ては、材木屋を開始せしめぬ事との内規あるに非ずや。信濃銀行と拾九銀行との建物は一面、市の装飾物たるが如き観あるも、片端町の姿となりて附近の商店をして寂れしむるの事実もありと謂ふに非ずや。江戸村の神田本郷の辺には書籍商軒を並べ日蔭町には古着商屋を列ぬと雖も各相応の売れ行きあり。否相応の売行きあるのみならず本屋を始めんと欲せば神田本郷、古着屋には日蔭町ならざるべからざるの事実あるなり。妻科の風景館が失敗したるも之が為めなり。鳴子園の廃業し高鶴の屋賃の安きも之が為めなり。今県庁舎を共進会敷地跡に新築して箱清水上松一帯の地を以つて悉く市街地と為さば市中到る処売家貸家の貼紙を見るに至らん。市中目貫の場所と雖も借るもの無きに困じ果て、材木屋位ならば兎も角も、菜つ葉大根屋借ては駄菓子店の如きものありて市廛の間を点綴せん。外観の美醜位は尚忍ぶ可しと雖も商業も亦お飯にならざるを如何せん。お飯の問題は実に市民各位の休戚に関す焉。

第二、斯くの如くにして若し愈々善光寺附近に県庁舎の位置が定りたりとすれば、桜枝町、横沢、箱清水、上松附近の地が長野市第一等目貫の地となり市廛櫛比。肩摩轂撃、車馬絡繹、往来如織の巷と比し、善光寺様の霊場も何もあつたものに非る位は屁でも無けれども、失火近火の虞れ無きにしも非ず、仁王門が焼けて拾余年なるも再建も出来ぬ様なる長野市民や市当局の諸君が、若し善光寺炎上の暁ともなりたらんには迚も移庁論の為めに詐取られたる七万位にては止らぬ事と知る可し由来五無斎の如き宗教の事には極めて縁遠き方にて四十年来一度も如来殿を拝したる事無き程の痴者なれども、歴史上の好標本として此大伽藍を永遠に保存し度しとの考へより東横町西横町以北一帯の地を以つて寺院及び二三飲食店を除くの外市民の住居を許す、江戸村に於ける上野公園様のものとせんと欲するなり。まさかソンナ事は無き筈なれども、武田信玄の如き豊臣秀吉の如き為政家ありて之を甲府に移し之を京都に転するか如き事ありたれは如何。長野市民の激昂は移庁論当時に数十百万倍するものならん。乃ち知る善光寺様の有難味は県庁舎に数十百万倍することを、故に又乃ち知る。善光様を保護する此責任亦県庁舎に数十百万倍与るを。

第三、以上第一第二に於いて論じたる所は重に長野市繁栄策より来りたる所論なれども更に五無斎は之を衛生上より

論ずることとせん。実に長野市民は糞小便の喰ひ直し飲み直しを実行しつゝあるなり。犬猫牛馬の糞小便尚ほ忍ふ可し。自ら放り自ら飲むに至つては愚も亦甚しと謂はざる可らず。長野市の井水は実に一種の鹹味を感ずるなり。是れ何によつて然るか。勿論糞小便の地下水に浸入したるものたるなり。数年前より糞壺の改造を八ケ間敷警察署より干渉せられたるが為めに近来は幾分此鹹味を減じたるの兆ありといふは稍喜ばしき現象なりと雖も、糞小便の喰い直し飲み返しは遂に免る可らさるなり。乞う地質学上より之を論せん。

往生寺及び高等女学校及び善光寺境内以南鐘鋳川以北の地は実に地質学上第四期洪積層に属すなり。此地に発達せる洪積層は大峰山郷路山、葛山附近に発達せる山崎理学士の所謂裾花凝灰岩が、数十万年の古代更級、埴科、上水内、上高井此平担部即ち善光寺平が尚水内湖たるの当時流れ込みたる土砂石礫たるに外ならず。土砂石礫中の土のみが水内湖の水の為めに流れ流されて鐘鋳川以南及び越後の海へ流れ行き、此洪積層中には砂礫と石とが磊々として存在するなり。砂礫の中へ糞小便を放り落したらんには、直ちに地中に浸み込むべきこと屁を見るより明かなる道理なり。市中に雲突く許りの大厦高楼漸次建築せられたるが為め雨水の地中に浸み込む分量少き代りには、犬猫牛馬偖ては人間といふ動物の糞小便放り流しの量益多きを加ふるが故に、長野市中の井水は益糞小便の濃溶液となるなり。箱清水、上松一帯の地悉く市街とならば、大門、西町、東町、西の門、東の門以南、鐘鋳川以北一帯の地は、井中一滴の水なきに至らん桜枝町なる旧ての字現の緑館が家賃の稍低廉なるも之が為めなり。警察署や旧県庁の井水が稍鹹味の少きは、警官の一喝を恐れて糞小便を放り流しにせざるの致す所なり。師範学校の井水汚濁甚しきも拘らず鹹味の少きも亦之が為めなり。糞小便の喰ひ直し飲み返しは如何にしても御気毒の次第なりと謂はざるを得ず。

江戸村に多摩川上水のある如く、水道を長野市に敷設せんとは久しき以前よりの宿題なり。乃ち宿題なりと雖も大金の係ることなれば問題は問題とならぬなり。即ち問題とならねば相変らず糞小便の喰ひ直し飲み返したるなり。

之に反して鐘鋳川以南の地は地質学上第四期沖積層に属するなり。前上既に論したるが如く郷路、大峯両山より流れ込みたる土砂石礫中の土のみが流れ込み沈澱したるものなれば雨水を始め糞小便の地中に浸み込むの分量非常に僅少な

るも、其昔裾花・犀の両川が此地方を通過したることもあるが故に、拾数尺を掘り下ぐるときは砂礫と石ころとより成るの厚層あるが為めに清冽なる貯水もあるなり。地中の事とて善くは分らざれども、此砂礫層頓がては裾花、犀の両川にも造絡し居るなととて、井水の枯渇すること殆んど無からん。殊に鐘鋳川以北の地を以つて田畑山林若くは公園地と為したらんには、後町通りと二線路三線路共に松本市と同様に地上噴泉を見るに至らんか。地上噴泉の事ヨシ松本市の如くならずとも、柄杓井となる位は朝飯前の事なり附属小学校前桐畑附近に其一例あり。

松本市に於いて地上噴泉の多きは、本郷、岡田二村に亘れる洪積層の上に降りたる雨水の地中に浸み込みたるものが、沖積層粘土の為めに蔽はれたる砂礫層中に包含せられたるものゝ噴出したるなり、若し松本市にして井を堀ること無からんか、悉く奈良川河畔に噴出することとならん。南深志町に地上噴泉の無きは、桔梗ケ原の洪積層中に浸み込みたる雨水の、松本市の南方松本村附近に湧出し終りたるが為めならん。斯の如きの適例は上高井郡豊洲、日野二村の辺にもあることなり。一々其例証をば挙け難し。

去れば五無斎は横町、桜枝町以北の地を以つて公園地及び善光寺の境内とするのみに止らず、更に鐘鋳川以北の地を以つて一大公園否長野市民が飲用水の貯水地と為さんと欲するものなり。五無斎豈無用の弁を好まんや。

然れども、鐘鋳川以北、帯の地を以つて一大公園と為さんは稍〻らすぐるの嫌あるなり左れは之を以つて野菜園と為すも一向差支あることなし。野菜園となすときは同じく糞小便の喰ひ直し飲み返しならずやと反問せらるる向もあらん。然れども植物の根は此糞小便を吸収することに最も妙を得て居ることなり即ち糞喰ひ小便のみの専門家なり。専門家たる植物にして一塊の糞一滴の小便を喰ひ外づし飲み逃がすの理あらん哉。即ち長野市民は清浄無垢の噴泉を得て糞小便の喰ひ直し飲み返しの役目を免る。

第四、以上第一第二第三に於て論じたる所は重に長野市の繁栄策及び衛生上より論じたれども、以下県民一般の都合上より之を論ずることゝせん。吾々県民一般の立脚地より之を見れば、実は何れの地に建築せらるるも一向差支なきやうなれども、停車上に遠きは車賃の稍高きを恐る。長野市の諸君が糞小便の喰ひ直し飲み返し遊ばさるゝは自業自得なれ

ども、各位の御放り遊ばしたるもの丶御附合は何とも恐縮せざるを得ざる次第なりと謂はざるを得ず。此点は長野県民とは言ず実は日本全国民否世界人道の為めに之を長野市民諸君に嘆願するものなり。

以上論じたる所此単に学問上よりの立論なれば、下らなき社長や大株主の御気嫌を伺ひたるに非ず、且つ未だ多数の読者もなきことなれボイコット喰ふの心配も無き天竺浪人筆墨行商人たる五無斎が白真剣の脳産物なり。長野市民諸君と県庁のお役人衆は申すに及ばず内務当局の各位以つて如何となす。

最後に信濃、長野、信越の三新聞屋、諸君以つて如何となす。（信濃公論　第一二号、第一三号　明治四二、一、二〇～同一、二七）

県庁舎敷地問題について

県庁舎敷地問題に就ては五無斎等が先鞭たる信濃毎日長野及信越の諸氏が一言半句之を論究せられさるに先たち、前号及び前々号に於て其梗概を論じたるは、読者各位の既に御承知ある通りなり。然れども今又茲には其の補遺とも見る可きもの一二の条を書き並べて見んと欲するなり。ウナ不ド式の町は商業上甚だ便利ならぬ事、歴史上の好標本たる如来堂をして失火近火のおそれなからしむること衛生上糞小便の喰ひ直し、飲み返しを避く可きこと、停車場への距離を短縮せしむべきこと、の根本的の原理より割り出して詳細に之を論議したるは、前号並に前々号の要旨なり。以上少しく市区改正の上より之を論ずる所あらんと欲す。長野の市街たる能く南北には通行し得れど東西に歩くなどは殆んど不可能なり。買物をすべき商店の為めにも便利悪しからん。長野の地に遊ぶものは先づ第一に市区改正の必要を感ずることならん。市区改正の事、多少金銭を要するの事業にもあり且つ何時着手すべしとの期限も明確ならぬが故に兎角延び〳〵になり易きを常とす。大地震か大火事の後ならねば思ふやうには出来ぬ事と明らむ可し。大地震か大火事の有るを期待することを少しく如何なるものにや。ヨシ万々一不幸にして大地震大火事の有ることありとするも、各自財産を蕩尽したる後の事とて思うようには出来ぬ事と知る可し。明治の初年以来、時々問題たりし移庁論も全会一致にて永久長

野市と定りたるの今日なれば、或人の如く法律論なども担ぎ出さず七万のものは拾万も拾五万も支出するが善かる可く、且つ此期を利用して市区改正の事を発起するなどは、極めて賢明なる仕方といふ可し。故に若し五無斎をして長野県知事たらしめば、県庁舎の敷地をば県会議事院南方の地と指定すべし、若し長野市民中の或るものが小理屈を並べ立つるものあらば、懇々其不心得を諭すべし。兎角官吏根生として説明の労を取ることなく発表の当日まで、一言半句も之に言及せざるは、悪習癖慣と謂はざるを得ず。蚕糸専門学校の折の如き、略ぼ上田町と決定したき事がら長野松本諏訪位は兎も角も坂下飯田辺までも担ぎ歩きて売らん哉売らん哉と歌ひ歩く等は言語同断沙汰の限りと評する外なし。上の好む所、下も之より甚しきものありの原理により市長迄が今日迄、何とも口を明かぬが如きの態度を執りつゝあるなり。若し五無斎をして長野市長たらしめば、預め議事院南方の低地と定め置き相当の技手、寧ろ技師を選任して市区改正図と之に要する費用とを精算し置きて愚図々々申上ぐる市民等に対して一々之を説明するの資料に供す可し。若しそれにて益々市民が愚図々々申上ぐるに於ては、直ちに掛冠の上大門に於ける一洋物商として社会に立つ可し。市長の職たる名誉たるには、相違なしと雖も、若し充分なる職責を尽すことを為さずして、市永遠の利益に反するが如きことあらば、其不名誉も亦之に逆比例することゝ知る可し。五無斎が満市民諸君の意嚮に反しつゝも敢へて此の如きの論を為すもの徒らに異説を立て平地には波瀾を起すものに非ず。信濃毎日、長野、信越、の諸新聞屋はありながら、一言之を論究することを為さゞるに反して新聞屋以外、チットは道理の分つた記者あることを、天下後世に伝へんと欲するものなり。民は之をしてよらしむ可く之をして知らしむ可らずの原理を墨守して、一言半句も県庁舎の敷地を指定せざるの役人衆もあれば購読者のボイコットを恐れ、日頃減口を叩き、不急の国家問題などは喋々しながら県庁舎敷地問題に就ては何等の意見を発表せざる新聞屋もあり。役人たる頗る難く新聞屋たるも亦苦しき哉。五無斎は天竺浪人筆墨行商の身なり明治一百年を以つて死期と定めては置けど、今回突然黒内障即ちソコヒに罹りたる如く、何時冥途の旅へ趣くやも知れず。親もなく妻なき身には、子孫の有らう筈は無く、鐚銭六文なければ三途の川を渡さぬとあらば再び娑婆に戻る迄の事なり。斯く名利の念至つて淡泊なれども頼まれもせぬ事を為し、頼まれもせぬ議論を書くことが四十二年来の

悪癖なり。県庁舎の敷地問題に就ては、長野市繁栄策の上より又公衆衛生の上より稍、之を詳論したり。然れども茲には考古学上より、又歴史上より之を論ずることとせん。今より二三千年前は学者の所謂、水内湖即ち善光寺平が尚ほ湖沼たりしの当時今の善光寺平の地は、水湿多くして到底人間の棲む可きの地に非ず、河伯を主宰と仰ぎ、鯉鮒鰌蜆田螺蚌などの領域に属し、時々周囲の丘陵に住居したる吾人の祖先が独木船に取乗りて、遠征を試み折に触れては多量の穫物を満載して凱歌を奏したる事もあれども、時には河伯に肛門子を抜かれ、魚腹に葬られたるも有りたるなり。斯る人民の遺跡は長野市高等女学校の敷地より頗るデカク発見せられたるなり。数年前、高等女学校敷地々平らしの折数十個所の竪穴と弥生式の土器が馬の脊に積みたらば十二三駄も出でたるなり。此弥生式の土器は初めは江戸は本郷向か岡弥生町にて発見せられたるものにて、学者社会にては未だ充分なる研究はなき由なり。高等女学校の敷地にある位ならば、往生寺坊主学校辺にもあることならん。五無斎曾つて神郷小学校附近の丘陵より掘り出したるものを見たることあり。又今の商業学校敷地附近や、妻科の辺よりも発見したることありたり。又クロホツクル土器石器の類は鐘鋳川以北の丘陵地にても、折々発見するなり。斯く遺物の多きを見れば二三千年前の長野市は大峰郷路両山南麓の地にありて東長野西長野などと呼びたることならん。又今の善光寺境内にては、折々布目瓦といふを発見するなり。之は阿弥陀如来が跡を垂れ給ひし折のものなる可れば、正しく千余年前のものなり。又五無斎が始めて長野市を見たりしは、明治十四年頃なりしならん。当時の長野市は重も鐘鋳川以北にありて意気地なき道者町なりしなり。二十六七年後の今日鐘鋳川以南の繁昌に又格別なり。

斯の如くにして二三千年前の長野市は今の高等女学校と往生寺の坊主学校附近にありたるものなるさ、阿弥陀如来垂跡後、明治維新に至る迄は重もに鐘鋳川以北の地に引き移り爾後益々鐘鋳川以南沖積層地に引越し運動を為しつゝある の現況なり。之は考古学並に歴史学の教ふる所にて、文明開化の超勢といふものなり土地が安きの故を以つて将た見掛けの善きを以つて城山論を為し鴨の宮附近説を主張し旧県庁舎跡などゝ頑張るは、文明開化の大勢を知らぬ大痴者の我利〳〵論といふものなり。寧ろ大峯山か郷路山の頂上に新築したらば善からん。役人衆並に新聞屋諸君、以つて如何

となす。

（信濃公論　第一四号、第一五号　明治四二、二、三～同二、一〇）

教育宗総本山辞令

小県郡傍陽尋常高等小学校訓導兼校長　丸山新一郎

願に依ラズシテ本職並兼職を免ズ

元上高井郡須坂小学校訓導　手塚縫蔵

任小県郡傍陽尋常高等小学校訓導兼校長　月俸三十五円給与

人の出処進退は中々以つて六かしきものなり。人を出処進退せしむるは愈以つて六かしければ、更に七の字を添へて七六かし若くは七面倒なとの言葉を以つて之を形容するなり。知事学務課郡長、郡視学を始めとして市町村長学校長学務委員村会議員等のうちに小意地の悪ろくしてオタテの利くやうなる人物の権力旺盛を極むるに当つては良教育家跡を暗まして二に二を加へて四、三から二減いて一残る、アイウエオカキクケコなど朝から晩まで喋々喃々するに反して、所謂良教育家時を得顔に栄転又、栄転と県内を横行濶歩することなり、ガラにも無く君に忠親には孝義勇奉公自弛不息など途方もなき熱を吹き廻り歩るき宛然熱病患者の如し、教育界の不祥之より大なるはなし。本年の始めなりしか将た昨年の頃なりしか今は判然記憶し居らされども上高井郡井上小学校にては数十冊の書籍が無くなりたる由新聞紙上に見えたり。越えて数日校長の丸山新一郎氏は小県郡傍陽小学校長に転任せられ同校長小泉鶴松氏井上小学校長に任せられたり。其後五無斎筆墨行商として同地方に至り、井上村は言ふまでもなく、隣校の校長訓導、其他に就いて丸山氏の平生を探索するに一人として之を称賛するものあることなく、女教〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇し若くは〇〇せんとしざる噂を続々指を屈するに遑あらず。或は婦人会の折人の〇〇〇〇〇〇ひて肘鉄を喰べ、村内の若者よりは肇骨の雨や石の礫を頂戴したること、毎日なりし由なり。井上学校に於いてのみならず、前任地たる柵村にても殆んど同様の噂さ頗

る豊富なり。前々任地等亦然りと或人の言ひたり。其外聞き込みたるの評判非常に多けれども、詳しく記する余白なし。偖此〇〇罪と云とは中々重き刑罰なれども、被害者の出様によつて法律上などにても案外気楽に済むようなことでも学校などにては大禁物なり。現に佐藤貴江、神沢ちかの両女教員は休職となりたるに非ずや。而して之は〇〇も〇〇なり。殊に両女子の如きは、其肉交なきを主張す、当時尚ほ社会は休職を以つて軽きに失すとなす。只放火犯人たる芳憲に関係したるが為めに甚く世の同情を失ひたるなり。両女教員の罪は左程ならざるに運と拍子が悪ろかりしなり。而して丸山氏は〇〇〇〇。ヨシ後に〇〇となり法律上にては罪人とならずと雖も、教育上にては一歩も之を容すべからざるなり。偖男女の関係は一種特別のものと見て仮に百万歩を譲りて之を大目に見るとも、学校の財産を売却したるなどは如何にも勘弁なり難し。之を〇〇罪の夫に比して法律上の制裁は頗る軽ろからんが、其罪たる頗る余程非常に下品なり。然かも公々然と新聞に出されて取り消をせざるを見れば、事実たるに相違なからん。殊に五無斎筆墨行商の序、之を精探し置きたり。休職退職位にては満足せず宜しく正当なる懲戒免職に附すべきなり。偖郡長と知事は盲判を捺すことが常識となり居れば殆んど之を追究すべき程の勇気は無けれども、郡視学と学務課の役人衆は如何にも粗漏杜撰なる辞令を発したるものなりと謂はざるを得ず。又上高井郡視学穂崎熊蔵君と郡長樋口君とは丸山新太郎氏に泣きつかれて困りは困つたものゝ之を売りつけたりと謂ふものにして其〇〇甚だ悪ろく、小県郡長武井君と郡視学三ツ井弥太郎君とは斯かる〇〇〇なる教員を売りつけられて善い馬鹿を担ぎたりといふものなり。往昔中島精一君嘗つて埴科郡に郡長たりしの日、青木某なる〇〇〇の名人を下高井郡より売り付けられたることあり。既に手続は済みたるの後なれども登校は及ばずとの書面を発し置き、直ちに願によらずして本職を免じ免許状迄をも褫奪して貰ひたるの先例あり。是は三ツ井視学並に武井郡長の御参考に供するものなり。元来本社に於ては斯かる不祥の文字を記載する内規にては無けれども傍陽小学校教員諸氏の為めに御気の毒に堪えず、無邪気の生徒諸子が可愛さに一文を草するものなり。（本社には不祥なる活字これなきに依り止むを得ず〇〇の塡字を用る申候、読者諸君幸ふ之を諒せよ）

之も亦昨年の暮頃にやありけん今はよく記憶し居らざれども須坂小学校の首席教員たる手塚縫造氏と、新任校長木川

寅次郎氏との間に何か意見の衝突ありたるやうの記事当市にて発行する新聞紙にてチラト見えたるやうなり。越えて十数日病気休職の由之れ亦新聞紙上にて見たるなり。五無斎は今より満十八年前師範学校尻から一の卒業生にして木川君とは同学の友、少しの恩怨なきのみならず、何方かと言へば入魂の間柄なり。之に反して手塚氏とは一面の識も無ければ、恩怨共に無し。然れどもチラホラ道路風説する所によれば、手塚氏は悪人にては無きのみならず教育に非常に熱心なる人なる由なり。而かも教育上には燃ゆるが如き熱血を注ぎつゝありとか。然れども到る所ろ校長とは常に衝突する由なり。東筑摩郡和田村にては平林校長と衝突し又須坂校にては前校長小林氏とも衝突したる由なり。然れども校長と衝突する位の事は何でも無し。何でも無きのみならず寧ろ祝すべきの至りなり。少くとも郡視学や校長の命維れ奉じ折々其御鬚の塵を払ふが如き教員連に比して遙かに見上げたるものなり。其校長と衝突する所以のものは、真に其学校の前途を憂ふるものなればなり。然れども亦首席教員以下のものより学校の前途などを余りに多く憂へられては校長としては随分困ることもあるなり。熱心といふことは勿論悪徳には非れども、往々は狂気染み易きものなり。切めては温心位にして貰ひ度きものなり。山路愛山翁嘗つて五無斎が赤ゲット麦稈帽の扮装を評して奇を衒ふは善けれども斯くては亦奇矯に過ぐとなす。五無斎直ちに、赤ゲット麦稈帽の意味問はゞ Warm heart と Cool head。とウオーム、ハート、クール、ヘツド、は英国の格言にして冷頭温心と訳す。冷かなる天窓を以つて和を啄き温き情を以つて子弟を教育すといふ意味にて、教育の真髄なり五無斎嘗つて熱心五分、冷淡五分の説を為す。是は手塚氏の為めには煎薬として飲ませ度き程なり。今や手塚氏は病気でも何でもなく東京なる某宗教学校に在学中なりとか。宗教家といふものは、中々苦心惨憺なるものなり。宗教家の偽善と腐敗とは教育界の夫よりも豪らし、校長と衝突する程熱心なる伝道師は忽ち教会より破門せらるゝこと受合なり。

孔席暖なるに暇あらず位は何でも無けれども耶蘇基督は磔柱の上に死恥をかきたり。死恥をかきたる耶蘇は二十世紀の今日まで、欧米人の思想界を支配したれば尚ほ地下に瞑すべし。今世紀の後半紀に於ける基督教に世界到る所に於いて全く無用の長物とならん。悪い事は言はぬ故、再び教育宗に帰山して山間の一小学校位に校長とならるゝ方然ら可

らん。教育も遣り方によつては、中々面白きものなり。教育の面白味ある由は本山管長口づから指示する所あらん。偖五無斎は学務課の役人衆と上高井郡視学穂崎君に向つて一つの申分あり。〇〇罪は兎も角も学校の古本を売り飛ばす程に下品なる品性の人には、教育は出来ず。校長と衝突はしても部下の職員や生徒と睨み合をせざれば夫にて充分なり。明治二十四年師範学校卒業以来同三十四年三月に至る迄の満一ケ年間、五無斎対校長村長郡長郡視学知事学務課の衝突は長野県教育史の数頁を塡むることならん。其後とても同様なり。黒内障即ちソコヒにて一旦廃業せんかとも思ひたれども近来追々快復に向ひつゝあり。明治一百年迄は継続事業とし時々御機嫌を伺ひ申す可し。斯く衝突好きなる五無斎も義務年限丈けは無難に通過したるなり。只々学務課や郡視学の御覧之愛度からざりし為め退識の折、一時金百五六十円を取り外づしたると俸給の余り振はざりしことは有り。然れども教育は中の上なりしなり。中の上なる教育を施さんが為めの下らなき学務課と郡視学とは、眼の上の瘤なり。乃ち五無斎は明治三十四年の三月義務年限の終るや否や　不肖百助事、明治二十四年三月長野県師範学校卒業以来、満十ケ年間夫の人の子を賊ひたること尠からず甚だ恐縮の至りに付来る三月廿五日限り斯然辞職仕候間此段、御届申上候也、明治三十四三月廿日。

長野県北佐久郡蓼科高等小学校訓導校長兼北佐久郡蓼科実業補習学校訓導兼校長　保科百助　印

長野県知事　押川則吉殿

との辞職届を提出したりしなり。当時の組合長小泉重央氏は之を郡役所へ取り次がれたるなり。郡長は河村備衛君にして郡視学は八木与一郎氏なりしなり。辞職届とは頗る奇抜なるが上に、夫の人の子を賊ふとは豪らき文句なり、病気か家事の都合にて辞職願とせられたしとの事なり。学務課の役人共を見限りての離縁状の如きものなれば届にて沢山なれども郡長郡視学には何等の罪もなし。日頃懇意の間柄なれば、家事の都合と書き直し遣りたるなり。爾来満八ケ年間信州の山河を跋渉し信州地学標本の採集を為し、之を県下の学校其他に致し、お移りとしては木杯やら銀盃やらを頂戴し、私塾の経営に手を焼きお移りなしに信濃図書館創立に尽力したる等種々様々の事業に手を出したれども、故業忘じ難しの原理により何時も教育上に関係あるの事業のみなり。自ら進んで教育宗総本山管長に任じ訓令を発し辞令を出す

所以のもの皆これ教育の普及発展を思ふの情、切なるものあればなり。斯くの如く真に教育の為めを思ふものに対して校長、村長、郡長、郡視学などは最も禁物なり。故に若し五無斎をして上高井郡視学たらしめば事情を打ち明けて、手塚氏を小県郡傍陽学校に売りつけん。若し五無斎をして小県郡視学三井弥太郎君たらしめば、或る人を買はずに直ちに手塚君を三十五円若くは四十円にて買ひ入れん。〇〇罪は兎も角も一冊十銭にて学校の図書を売却して酒色の費に供する程に下品なる教員に珍値を出して之を買ひ入るゝとは言語同断沙汰の限りと評せざるを得ず。且つ丸山君は検定試験に合格したるの人なれば、義務年限もなきに反して手塚君は数年前の卒業生なれば尚は多少の義務年限あり、義務年限ある人に無理鋒に病気休職を書かしめ、一方男子師範二校案などは如何にしても県民の忍ぶ能はざる所なり。辞職願を病気と言ひ立てよと諭旨したる樋口郡長保崎郡視学失態の一にして、薄々は夫と知りつゝ之を許可するやう知事へ取り次ぎたる潮事務官以下各学務課員瞞職の毀、遂に免かる可らざるなり。之を要するに当局者は適才を適用するの原理を忘れたるものと謂ふ可し。若し五無斎をして長野県知事大山綱昌君たらしめば原案執行などは暫らく見合せ置き、此失態を演じたる郡長郡視学に転免を断行し此瞞職の嫌ひある学務課員を翻弄することに大蛮勇を振はん。当市にて発行する新聞屋連も何故かロを噤みつゝあて面の悪くさに不祥の文字を陳列するものなり。

（信濃公論　第一五、一六、一七号　明治四二、二、一〇～同二、二四）

教育宗総本山辞令

任小県郡上田町立男子尋常高等小学校訓導兼校長　月俸六十円給与　長野県視学　与良熊太郎
任諏訪郡諏訪町立高等女学校教諭兼校長　月俸五十円給与　長野県属兼視学　細川　周太
任小県郡中塩田尋常高等小学校訓導兼校長　月俸五十円給与　長野県属　甲田慶次郎
任上伊那郡松島尋常高等小学校訓導兼校長　月俸五十円給与　長野県視学　唐沢貞次郎
任北安曇視郡学　月俸五十円給与　小県郡和尋常高等小学校訓導兼校長　務台　彦市

明治四十二年三月三十日　教育宗本山管長　五無斎保科百助

説明

昨年の県会に於て政治問題と教育問題とを交尾して、提出したるは勿論大山冥府なり。然れども師範三校案を提出したりしは県視学たり県属たりし与良熊太郎以下四名のものに外ならざるなり。潮事務官の如きは只其員に備はり只其印を捺したるのみ。過失には相違なかる可きも勿論罪悪とはならぬ筈なり。古来幼主過あるときは其師たるものを罰するの法あり。故に其伝たり其師たるものも亦責を引いて切腹し辞職するを以つて慣例とす。問題を孳尾して出すこと策の最も拙なるものにして、再議を命じて置きながら原案を執行することなく妥協の結果無条件の無期延期などは愚の骨頂といふものなり。本管長と同業なる長野新聞主筆山本聖峰君は荐りに大山知事の栄転を希望しつつあるにも拘らず依然として其職に居らるゝやうなり。是れ帝国議会開会中にて、政府当局者の斯の問題を忘却し居るにてもあらざるか。夫とも信州第一の大新聞なりと自称し居る信毎主筆文学士大原里靖君などが筆先に力瘤を入れぬ為めに当局者は左程の大問題と心得居らぬにか。偖々困つた事と謂ふ可し。

文学士、文無士とも語呂で言ひ。　文学士、文泣士とも語呂で言ひ。

知事事務官の交迭は政府当局者の権限内に属し学務課員の抜き挿しは本管長の管轄内に属す。乃ち前段の如き辞令を発するものなり。次郎に於ては与良熊太郎を上田男子に、細川周太を諏訪高等女学校に、甲田慶次郎を中塩田に、唐沢真次郎を松島に、務台彦市を北安曇に転任せしめたるの理由を述べ引き続きて学務課員の新任命を為さんと欲す。

与良主席県視学は北佐久郡小諸町の出身にして本管長と其郷関を同ふす。且し附属小学校にては先生々々と呼びたるものなり。恩怨共になし。五無斎の実地授業などはカラ物にはならざれども六十点として貰う辛うじて尻から一番にて卒業したるは有り難たすぎて今でも涙がこぼるゝ程なり。即ち有り難た過ぐるが故に其御恩報じの一端として其現今の地位に久しく恋々たる可らざるを忠告せんと欲するものなり。貴官の豪かりしは実に附属小学校時代なりしなり。郡視学として令命は無かりしやうなり。首席県視学としては況んやに於てをやなり。御本人さへ薄々は御承知ならんも県下

の輿論は貴官の引退を希望するや最も甚だ切なりとす。

其事の真偽は県下の教育家にお神酒を振舞ひ置き眼くるめき耳熱する頃を見斗らひ温言以つて所思を吐かしめよ。必ず思ひ半ばにも九分九厘にも過ぐるものあらん。数年前上田高等女学校長に欠員ありしとき小県郡長武井一郎君は貴官を以つて同校長に擬(あてが)ひたりと聞く。

米の飯を喰ひこぼしたりと謂ふものなり。今や上田男子小学校に空位あり。女子小学校長鈴木君の八ケましさ加減は到底秋野太郎君以上なり。然れども貴官とは師弟の関係もあれば左程六ケ敷問題も持ち上らざる可しと言ひたる人あり。蓋し或は然らん。仮令然らずとするも大概な所にて見切りをつけずば頓(や)がて転任口無くなることもあらん。是れ本管長が貴官を以つて上田男子小学校長に任命したる所以なり。

細川視学の学務課生活は頗る甚だ長きものなり。乃ち長しと雖も何等の旨味は無かりしやうなり。然れども強いて其旨味のある所を求めは其学務課の古典を暗んずるにあり。学務課の古典に明らかなる丈ケそれ丈ケ脳味噌は古しとの批難到る所にあり。

県会開会中説明の補遺として何時も蛇足を添へらるゝこと頗る有り難き迷惑なりとは代々の学務課長殿がこぼしたる愚痴の一節なり。今や上諏訪高等女学校に於ては一時間に合せの黒沢町長を校長心得として態と空位と為し置き貴下を歓迎じつゝあり。若し本管長の命に背き徒らに躊躇逡巡することもあらんには是亦米の飯の喰ひ囓すといふものなり。

甲田属の学務生活も亦甚だ長きものなり。統計表などに付箋を下ぐるは君の最も得意とする所ならんも、眼光小に過ぐ。一県の教育問題などはカラ分つたものに非ず。殊に女親も無きに其子女を郷里に残し置き、眼を小さくし声を細くして晩酌を下宿屋樓上に執るなどは子弟教育上害のみありて寸毫の益なし。幸にして守屋喜七君去つて附属小学に入る、好機逸すべからざるなり。

務台視学の無能力なるは殆ど満県下の認むる所なり。北安曇郡視学に空位あれば速かに任に就く可し。

唐沢視学のお上手ものにして稍悪性を有すること是亦満県下殊に上伊那教育家諸君の認むる所なり。其第二の故都と

して長らく就職したりし中箕輪村教育の支離滅裂なること言語同断なり。斯く支離滅裂を致したるもの悉く貴官の責任に属す。速かに帰任して之が善後策を講ずべし。

県下教育家に口なく筆なし。本管長微服旅行中各教育家連中より訴へ出でたるものを綜合して此辞令を発し此説明書を作成す。

教育宗総本山辞令

任長野県視学　月俸一百円給与　北佐久郡小諸小学校訓導兼校長　佐藤寅太郎

任長野県属兼視学　月俸七十五円給与　長野市後町小学校訓導兼校長　三村　安治

任長野県視学兼属　月俸七十五円給与　上伊那郡飯島村士百姓　芦部猪之吉

明治四十二年四月十四日　教育宗総本山管長　五無斎　保科百助

（信濃公論　第二二号、第二四号　明治四二、三、三一、同四、一四）

師範学校卒業式　式上　五無斎　保科百助

長野県知事大山綱昌君以下満場の紳士学生諸君。予は本校第四回目尻からの卒業生なるがさきに第一回の卒業生たる須坂小学校長木川寅次郎君が同窓会員を代表しての希望演説ありたれば新聞記者として誰に頼まれたるには非れども一場の宣戦演説をして見んと思ふなり。当長野市にも新聞屋は多数ありながら本日臨席せられたるもの意外に少数なるが上に、仮令臨席せられたればとて祝辞演説をせらる程の資格なし。乃ち不省自ら憚らず一言を諸君に呈する所以なり。

只今知事の訓辞は音吐朗々たるのみにて普通一遍のものなれば、更に一顧の価値あることなし。馬場県参事会員の演説は政治家寧ろ銀行業者たる立脚地より論ぜられたるもの、又木川須坂学校長の希望演説は実に沈痛を極めたりと謂ふ可し。偖柴垣校長の告辞は校長たるの立脚地よりして左もある可き筈なり。

言々辞々丁寧懇切を極む。然れども教育社会に於ては大に諸子を歓迎すべければ其覚悟して任に赴けとの意味を漏らされたるは遺憾少なからずと思惟するなり。日露戦争に於ける希代の戦捷は国運の進展を致し義務教育年限の延長は教員の払底を来す。然れども是れ只一時的の現象たるに外ならず。明治三十六年の本月本日本席に於いて五無斎は笊籬の説を演べたるなとあり。笊籬とは笊の中に籬を入れたる形にて、水なきに困じ果て泡を吐き泡をかみつゝあるの象教員の過剰を意味するものなり。既にして日露戦争は開かれたり。当時の知事は関清英君にして貸長屋の主人よりも経済眼の低かりし為め教育費に大削減を加へられたるの結果千何百人かの校長教員は転職するの止むを得ざる場合となりたり。校長教員の職たる一種の商品とも見做すべきものなれば需要供給の関係は時々刻々に変化するものなり。義務教育年限の延長したるが為めに一時教員の不足を訴ふることあるも亦忽ちにして其過剰を見るに至らんか。

師範三校論などは実に愚の骨頂なり。

是は大山知事を始めとして学務課の役員衆や野心ある政治家馬場歳次君などの御都合筋と言ふものなり。県会議員の大多数は之に反対し、信濃毎日を除くの外県下の新聞屋悉く之を賛成せず。以つて其多数意嚮の存する所を察するに難からざるなり。明治二十一年頃より同三十四五年頃に至る迄は実に本県教育者の大豊年なりしなり。柴垣校長の大早の雲霓を望むが如しとは真に此十余年間教員の払底を形容したる辞にして其後は頓と引き立たぬやうなり。論より証拠諸君の俸給が三十円となり五十円となるは或る特別なる人を除くの外先づ以つて六つかしからん。甚だ不祥なる申し分なれども真の人物真の教育者には笊籬の現象なし夫こそ大早の雲霓も宜ならざるなり。教育と教授とは勿論其意味の広狭を異にすれども真の教育者には真の教授法も出来教授法のうまき人頓がては真の教育者見たやうなものなり。五無斎初老を超ゆるもの既に二教育社会を去りて満八年。然れども今や新教授法の研究に余念なく之を松本女子師範の矢沢校長や河野教頭及び当市の渡辺高等女学校長並に群馬県の羽田師範学校長等にも逐一縷陳して其が批評を需め置きたり。当附属小学校の主事訓導以下教生の諸君に対しても批評を乞ふ筈なりしに、遂に其期を失へたるは終生の恨事なり。将来益々研究を重ね来年一二月の交之を発表するの期もあらん初老の今日県下教育社会に継子扱ひを受けたる五無斎保科百

助新進の教育者たる諸君に対して教授法研究に関する宣戦を布告するものなり。之を以つて祝辞に代ふ。

（信濃公論　第二三号　明治四二、四、七）

当世百迷惑　五無斎

一　新婚旅行者と道連れになりたる時
二　隣室の睦言が幽かに聞ゆるとき
三　嫁入聟入の一行と出合ひたる時
四　子宝多き人と同道したるとき
五　月下氷人を頼まれたとき
六　馴染芸者を友人の呼ひたる時
七　女学生を同道して呉れと頼まれた時
八　ウラ若き婦人にお脊中をと言はれた時
九　人跡稀なる所にて婦人に出逢ひ出歯男かと怪しまれたるとき
一〇　西行流の便所に籠り居たるにフト美人の通りかかりたる時
一一　年頃の婦人と道連れとなり似つかはしき夫婦だなどと噂された時
一二　番頭や遣手婆の前にて少しはた出しナサイなど言われたる時
一三　女の客が来訪したる時
一四　五無斎先生は女の味など御存じあるまじなど言はれたる時
一五　始めて細君を世話された時
一六　眉毛のなき大島田を世話されたる時
一七　旅費に究して友人の家に泊り込まねばならぬ時
一八　百金許りも入用なるに此位にてと直くに五六十金を抛げ出されたる時
一九　昼盗人に這入られたるに鐚一文も無かりしとき
二〇　来客のあるにも拘らず酒道を絶たれたる時
二一　来客の折番頭小僧より居催促を受けたる時
二二　月給の差押を喰べたるとき
二三　新聞記者の肩書を見て又強請かと蔑まれたる時
二四　五無斎め時々小使を強請りに来るなど虚勢を張る

人のありと聞きたる時
二五　始めて筆屋になりたる時
二六　始めて筆屋車を郷里へ引き込んだ時
二七　立派な人物が筆墨の万引したるを見付けたるとき
二八　評判程には飲めませんなあなど言ひつゝ徳利など片付けられたる時
二九　下戸の家にて酸き酒を出された時
三〇　糸引納豆のみにてデカク酒を強ひられた時
三一　無暗に妻君を叱りつくる癖ある人の家にて酒を飲みたる時
三二　一升入の硝子瓶にて酒を買う人の家にて飲みたる時
三三　立派な家へ泊り込み飲み過ぎて反吐を吐き放溺したる時
三四　往来にて立小使を為し居たるにフト警官の通りかゝりたる時
三五　便所の中にこもり居たるに下女の来客に対してお留守ですと言ひたる時
三六　便所にて塵紙を忘れたるを発見したる時
三七　便所の前に姿見の鏡あるとき
三八　炬燵の中にて放屁したるものある時
三九　放蕩息子に意見して呉れと頼まれたるとき
四〇　銭湯にて睾丸を洗ひたる泡を流されたるとき
四一　有名なる五無斎先生など言はれつゝ上等室に案内せられたる時
四二　滑稽の積りにて自分の急所をつかれた時
四三　短冊ならば兎も角も絹地など突きつけられたる時
四四　弁士紹介の折非常に称賛せられた時
四五　上手な人に先へ演説されたる時
四六　新聞に称めて書いて呉れと頼まれた時
四七　左程にも無き人譬へば知事などに面会謝絶を喰べさせられた時
四八　松本小学校長三村寿八郎君より来翰ありたる時
註日　同氏の書翰中二三ケ所乃至五六個所は必ず読めぬ所あり
四九　数学画学音楽の試験
五〇　卒業式の時
註日　是は言ふまでもなからん

以上五十迄は五無斎の筆なり。以下は読者各位のうちにて願ひたし。（信濃公論　第二三号　明治四二、四、七）

与　土屋良遵君書　五無斎　保科百助

土屋良遵君足下、足下の信濃教育会に於ける演説の甚だまづきものなりしは殆んど多数信州教育家諸氏の認むるところなり。貴下の一ト度統計的に二十一名退学処分が其当を得たるものなるよしを断言せらるゝや満場忽ち喧々諤々貴下の演説は遂に中止せざる可らざるの止むを得ざるに立ち至りたり。要之師範学校長の方針や退学処分の弁護などを喋々せらるゝは聊か越権の仕方と言はざるを得ず。

吾人は師範学校長原竜豊君其人の口より直接に之を聞くを得ば素より謹聴し置きて他日お手際拝見の時の材料となさんも、末流の一教諭たる貴下より之を聞くの耳たぶを有せざるなり。否予のみならず信州教育家の多数は予と同感なることならん。否々同感ならざる可らざるものあるなり。世或は貴下の演説を以て師範学校長原竜豊君の内命に出づるとなすものありと雖も是れ或は然らざるべし。又然らざるものあり。原君は高等師範学校卒業生兼文学士従六位長野県師範学校長の栄職にあるの紳士なり。豈末流の一教諭をして自己の意見を代演せしむるが如きの愚を為さんや。然れども同総集会に於ては数日前迄に演説の大要を略記し予じめ会長の許可を受くるの規定あり。原会長とても万更貴下演説の内容を知ざるはなき筈なり。与良小県郡視学が会長の責任問題なりと絶叫したりしは此辺の意味なりと知るべし。然れども亦此規定は実際有名無実なるよしなれば、先づ以て会長は貴下の演説の内容を知らぬ事なるべし。

世或は貴下の心事を疑ふものあり。誰にも頼まれたるにはあらねども得意の達弁をふるひ一方に於ては師範学校教育殊に十数年以来の校長教員其人の訓育其宜しきを得ざるよしを喃々して其不都合なるを攻撃するが如く見せかけ、一方に於ては学校の方針や二十一名退学処分の適法なるよしを吹聴したるものにして、校長其人の御覚え芽出度かれと希望せられたる所謂的演説なりとなすものあり。予も亦志か感ずるものの一人なり。貴下幸ひに貴下の内心に向つて問わる

ることあらば貴下の内心は貴下に答へん。曰く然りと。当時此演説が五無斎の口より出でしめばと私語きたるものあり。然れども多数の聴衆中には五無斎も亦遂に御用演説を為したりと誹るものもあるに至らんか。如何にしても貴下の演説は不適なる題目なりしなり。殊に校長原竜豊君の強酒や禁酒の広告までをもせられたるは近頃以て御苦労千万なりと言はざるを得ず、臼田松太郎君の如きは涙をふるつて貴下の為めに惜しみたるの一人なり。予の如きは原竜豊君の為めに弔したるの一人なり。多数教育家の内には貴下の如き外面粗豪太簡を装ひ内心極めて邪智奸佞なる教諭殿の講説を我慢して聴聞せねばならぬ師範学校生徒諸子の為めに悲しむものあるよしなり。信濃教育会員の殆んど全体が非認したる貴下の演説を臆面もなく再び信濃毎日新聞上に掲載せられたりしは男らしき様なれども、彼安禄山が蚯蚓を食ひ尽したると同一筆法には非るべきか。便々たる腹を撫しつゝ唯赤心あるのみと申し上げたる安禄山は大逆無道の反臣なり。由来豊頬繊目便々たる腹を抱へ居る人は油断のならぬものなり。〇〇〇〇氏の如き人や〇〇〇〇〇〇氏の如き人には度々だまされたりと予が知れる一人は語られたり。予は貴下の演説を直接に聴聞したるの一人なれば、貴下の信毎紙上に寄せられたるの論文は一読せざりしかども題目は変つて居りたりと思ふなり。恐らくは其内容も大に異り居ることならん。涙をふるつて貴下の為めに惜しみたる臼田松太郎は当時批評者の一たるの責任を負ふて降服的謝罪状を昨日の信濃毎日新聞紙上に寄せられたり。予は臼田君の謝罪状を見て聊か不幸を感ずるものの一人なり。如何にしても貴下の演説と行為は師範学校教員たる貴下の為すまじきものなり。要之貴下は師範学校教員たるの資格なし。少くとも本県内に於て教育家たるの資格なし。故に予は次の三策を献ぜん。

一　速かに長野県師範学校の教職を辞し他府県へ栄転せらるべきこと。

二　必しも現在の地位を失はざらんと欲せば、原竜豊君及び県下の教育家諸子に対して謝罪状を出し今後十年間教育演説を禁止せらるべきこと。

三　以上二策にして之を採用するを能はざるの事情なりとせば厚顔横面以て自滅の日を待たるべきこと。

予が曩の所見概ね以て斯の如し、土屋君以て如何となす。

（自筆原稿による　信濃教育会所蔵）

謹　告

本県選出政友会代議士（大偽士）立川雲平君事今回堀川監獄署在勤を命せられたるに就ては不日有罪の決定を見るに至り、代議士辞任届も提出可被致、位記勲章返上式も了りたるの結果として、近々ソガ補欠選挙の行はれんは屁を見るより明かなるの理なれば、当然出馬せざる可らずなど、朋友知己よりの謹告書山積致候へ共、新聞屋として又石屋として社会に立つ以上は遊手徒食の堅にも無之、従つて頗る繁忙を極め候間、御親切を無にするに当り候段、恐縮の至りに候共、今回は謹んで出陣致さぬ筈に候。右不悪御思召被下度、此段失礼ながら紙上を以つて御断り申上候。

草々敬具。

前衆議院議員候補者　五無斎　保科百助

（信濃公論　第二八号　明治四二、五、一二）

雨敬が銅像と殖林　天竺浪人　五無斎

明治四十二年四月二十六日、午前十二時二十八分五十九秒、雨敬氏が軽井沢の別荘に至り、馬鹿丁寧に名刺を通し、銅像拝観の意を述ぶ。勿論謝絶せらるゝ筈もなければ屋後の丘上に登りて一覧せしに、丘上更に巨石を積み上げて、人造の丘をつくり、妻君が丸髷姿の座像を安置し、更に雨敬先生夫子御自身の分をも御製造中なり。費用は蓋し数万金の上々に出でん。是は雨敬未だ微なりしとき、商業上失敗を重ね、復どうする事も出来ぬ折柄、妻なる人に、ゆ文字を七つ屋に曲げ込んで、二円の金を調達して貰ひ、其の後はトントン拍子にて、段々に今日の富を致したるが為めの返礼なりと云う。之を漢文にて、頗有内助之功焉と刻す。都べて漢文にて書けば、ツマラヌ事、綺麗になるものなり。

西郷南洲先生や、大村兵……銅像の前に出づれば、何となく……か下がる心地もするなるに、是れ将……

……―メの念、転た禁ずること能はざるなり。

昔継体天皇の朝、筑紫の国、即ち今の九州に磐井といふ謀反人あり。薩摩薨中興の祖なり。其の生前に造りたる墳墓は、南北六十丈、東西四十丈とあり。六十丈は百間にして四十丈は六十六間四尺なり。百間に六十間の古墳、之を日本第一となす。今日の金ならば数十万の費用を要したることならん。又、三河万才の総本家に、徳川家康という人あり。其幼時は嘗つて静岡県のササラ売りなりし由なるが、横着宗総本山の管長とて遂に豊臣氏の天下を奪い、江戸村に家移りを為し、征夷大将軍となり、七十五才(?)の高齢にて、目出度地獄旅行に出懸けたりとの事なり。其地獄旅行を思ひ立つ前、腹心のものに内意を含め置き、日本中の大小名に命じて、日光廟を経営せしめたりという。其結構の壮大なる、日光を見ぬ間は結構と言うなとの、新しき諺も出来たる程なれば、今日の金ならば数百千万億円を要したることならん。悪戯をする位ならば成可くデカキが善し。文明開化の今日に生れながら、一千五百年前の磐井や、三百年前静岡県のササラ売小僧にも及ばぬ位ならばイツソ此んなことはせぬに若かず。

ドウセ為すなら　デカイ事なされ　地球質に置き　酒飲んでうツ呉べえ。

五無斎信州の山河を跋渉なるもの前後数回、其の間刻する所、角九曜の定紋の数は蓋し二三百の上に出でん。是は生前石碑をつくり置くの微意なり。費用はゼロなり。偖て、

雨敬が財産とて何十代、何百代も続くものには非ず。何れは他に転売せざる可らざるの必要も起らん。此銅像あるが為めに土地の売価は一二割を減ずることあらん。仮に五無斎が此地を引き受くるとするも、銅像だけは癩の種故に他に移転するか、若しくは打ち毀して貰はねばならぬ筈なり。近時石碑のワルデカキものや銅像を建設することが大流行なれば、茲に瞳んで一大痛棒を加ふるものなり。

雨敬由来詐偽ペテンの術に長じ、不正鉄管を売り付くるには妙を得たれども地質地形を見るの明なく農林の業に至つては況んやに於いてをやなり。元来此東西長倉の地は甚だ遠からざる古代に於て浅間鼻曲荒船三火山の裾野に在りたる一大湖沼の遺跡たるなり。方言谷地と称するもの到る所にあり。現今と雖も往々魚類の生息するものあるは其一証なり。

之を以つて普通地下一二尺乃至三四尺を掘り下ぐるときは直に清水の湧出するを見ん。落葉松たるもの頗る水湿を好まぬの性質あり。楊柳の如きものならばイザ知らず落葉松を此湿地に植え付くるとは言語同断沙汰の限りと謂ふの外なし。加之上層之七寸を除くの外は悉く浅間火山より噴出したる浮石層たるなり。浮石は其名の示す如く其軽さ加減は、今日の女学生のお尻の夫れよりも豪らし。之を以て植付後両三年間の成長率は稍驚く可きも四五年乃至六七年の後其根は漸く盤らんとするに当つては忽ち此浮石の含水層に逢着するが故に、又一歩も進むこと能わずして只東西南北四方八方に這ひ回るの外ある可からず。東西南北四方八方共に自分と同類たる落葉松のある有れば食物即ち肥料の無きに困じ果て何十年何百年を経過するも充分成長して棟梁の材となることは蓋し覚束なからん。尤も数百千年の後落葉松の糸柾材を截り出して額縁などに売り込むとの考案かは知らざれども雨敬が死後数十代の事なり。来年の事を言えば鬼が笑うの世の中に数十代の後を期すること遠き深慮かは知らざれども余り賢明なる仕方とも思はれず。賢明不賢明は暫らく別問題とし霖雨数日上層の土砂少しく其粘り気を失うに際し、烈風強雨、ベッ幕無しに吹くこともあらんには直ちに吹き倒さるゝの腐あるを如何せん。雨三年前の霖雨と颶風とは先づ以て其初幕を演じたるなり。其徴証到る処にあり。今後尚ほ一層激烈を極むるに至らば復一木を留めざるに至り銅像徒らに存して路傍の馬頭観世音と選ぶなきに至らん。実に気の毒なものなり。然らば斯地の植林をして充分に成効せしむるの方策如何。雨敬、兎も角も読者各位の聞かんと欲せらるゝ所ろ又五無斎の言はんと欲する所なり。植林事業に対して銅像の建設は禁物なり。銅像を建設するが為めに要したる数万金を投じて縦横に溝渠を通じ地下の悪水を排除するの挙に出でんか。数年ならずして落葉松の成長昔日に数倍するものあると同時に其根は漸次下方に伸長し行きて烈風強風に逢ふも横倒となるの患なく棟梁の材を得可きは言ふまでもなく糸柾の額縁も亦多分に得らるゝことゝなり、山火事の憂もなく子孫の代に至り之を他に転売するの際一二割乃至三四割も高価の地所と変じ銅像移転と破壊の心配もなし。是が一挙両得否三四得五六得といふものなり。尚玆に一言志たきことあり。近時大林区署にては離山払下げの事あり。諸人雨敬が植林の不成績なるを見て之を払ひ下げんといふものなし。其馬鹿さ加減言語同断なり。雨敬が植林の失敗は気候の寒きに非ずして地下に於ける悪水の為なり。離山

には悪水なし。地質は浅間より噴き出したる浮石層のみにあらずして、雌山特有の雲母富士岩の破片や細粉もあるなり。ヨシ烈風強風に逢ふも一向差支あることなし。五無斎もし一二万の金あらば、若し払下げ代金の頗る低廉ならば謹しんで之が払ひ下げを為さん。敢て子孫の計を為すに非ず、敢て銅像建設の敷地を得んが為めに非ず。チトデカ過ぐる様なれども、国家百年の大計上小悪戯を演ぜんと欲するものなり。五無斎豈雨敬に私怨あらん哉。

予告　軽井沢の利用論は他日、章を改めて論議ある所あらん。（信濃公論　第二八、二九号）

軽井沢附近の土地利用論　五無斎　保科百助

軽井沢小平原の一部を払ひ下げて、何か一ト儲けせんとしたるは、御牧が原の開墾家として有名なる鳥居義処君なり。鳥居君は、此地に於て太陽の光線熱線共に欠乏なれば、人力の以つて又如何ともすべからざるを見て取り、之を川田小太郎といふ男爵殿に売り渡したるなり。男爵殿は此地に牧場を立てんとの思召にて大仕掛の大開墾を企て、燕麦などを栽培し給ひし事はありたれども、是亦芽出度失敗に終り給ひたり。軽井沢の地たる、牧畜業には不適当なる可きか。曰く否。諺に士族の商法といふ事あり。是は華族の牧畜業なり。留守居のものに旨く遣られたるならん。現に稲垣氏の如きは牧畜業を以つて成効しつつあるなり。之は後に所見を記す筈なれども、神津氏の如きは、物見山牧場にて美事に成効しつつあるなり。温度は軽井沢と伯仲の間にあり。伯仲とは兄弟といふことなり。

伯は兄といふ字にして仲は中の弟といふ字なり。軽井沢は土地の稍低きにも拘らず、物見山よりは温度は華氏の一度を減ずといふ。是は浅間風の影響と知る可し。牛馬を飼ふには牧草が必要なり。牧草は何れも草本なるが故に、ヨシ地下水が地下三四尺の処にあるも、一向差支あることなく、ヨシ浮石層なるも、烈風強雨の為めに吹き倒さるゝの患なし。殊に養豚業などならんには、菊薯や馬鈴薯を多量に而も容易に得らるるの便あり。苟も華族の実業ならざらんには、其の成効蓋し疑なからん。

尚ほ五無斎は、此軽井沢附近の地を以つて、江戸村及び高崎前橋二村等の野菜園となさんと欲するものなり。暖国に産したる野菜類は其成長も早く、産額さへ最も豊富なれども、味の一点に至つては遙かに寒国産のものに及ばざるや遠し。之を以つて長野附近にては、芋井村産の菜つ葉を上品となし、飯山地方にては、野沢蕪を賞用す。之れ寒国産のものは其味ひ濃味なればなり。諺に京の着倒れ、江戸の喰ひだふれといふことあり。之れ京都の人は、身体の装飾に念を入るるの風俗なるに、江戸の人は口腹の栄養に意を凝らすの習慣なるを意味するものなり。

江戸村の人とて万人が万人此の軽井沢産の野菜を嗜むか嗜まぬかは疑問なれど、神田の兄さん先づいの一番に喰ひ付かん。中流以上の貴顕紳士、亦続いて馳せ加はらん。ヘボ教師、ヘボ官吏の如き迚も御相談にはならぬ事と知る可し。偖軽井沢附近の地を以て、江戸村及び其他の野菜となさんとは、五無斎が数年前よりの計画なれば、其栽植すべき野菜の種類も方法も、将た又其広告手段の如きも充分に研究し置きたれども、紙面に限りあれば、乞ふ他日を期せん。諏訪上伊那の郡境たる御所平崎の一軒家なる清水屋に七泊八日を費し、同家主人の丹青になれる菜つ葉大根を噛りつつ軽井沢附近の土地利用論一篇を草す。

（信濃公論　第三二号　明治四六、六、九）

乍恐以書面御願申一札之事

乍恐書面を以て御願申上候。今般内務大臣平田男爵閣下には、山梨、長野、新潟の三県下土百姓町人共が従事する産業視察として、御巡視あらせられ候趣、有難き仕合に奉存候。不肖五無斎保科百助事、先般来教育実業振興の方便として、或は演説に或は新聞に四十二年間一日の如く奔走尽力致居候得共、微力にして其万分一を達すること能はず、奉恐入候。

去れば今般の御巡視を期として拝謁の栄を得、長野県の休戚にかゝる二大問題を具陳致し度と存候得共、玄関番の遮る所となりたれば、失礼をも顧みず紙上を以て御願申上候。

一　今般閣下には、越後の国大河津の分水工事を御巡視相成る趣、有難仕合せに奉存候。抑も大河津の分水工事は、去んぬる明治三十九年の帝国議会に於て、費用一千五百万円、拾五個年の継続事業として可決せられたるものなるも、只々着手せられたるのみにて、此分にて押し行かば、二十年二十五年と経過致し候も、竣工覚束なき儀と奉存候。実に信濃川の氾濫は、新潟県下米産の不十分なるより県内米価の昂騰を来し、百姓町人共の難渋一ト方ならず、且つ善光寺、飯山両平原の浸水は、只々稲といふ草を耕作するのみにて、米という実を収入することも叶はず、迷惑至極に奉存候。偖此両平原に於ける浸水を防禦する為めには、下水内下高井の間にある峡、上境の両つの滝を切り開き、立が花、桑名川間の河筋を改修致すにありと存居候得共、下越後の者共彼是故障申立候より、従来長野県知事の手を経て、下高井、下水内の両郡長より度々嘆願に及ぶと雖も、内務省に於ても、越後人の迷惑を念願に置かせられ御許可無之甚奉困入候。然れどもゆめゆめ越後人の迷惑を顧みざる次第には無之候間、十五個年の年期を十年位に切り上げ、立が花、桑名川間、千曲川筋改修の儀、国庫支弁にて宜敷御願致度奉懇願候。

二　長野県知事大山綱昌といへる人、大のお祭好きにて、さきには長野県蚕糸業衰滅費四十万円を政府に献納し蚕糸専門学校を上田町に創設し、長野県贅沢心養成費五十万円を投じ一府十県の共進会を長野市に開催し、県庁舎と師範学校を焼失せしめて、復築工事費として彼是六十万の経費を県民に負はしめたるさへあるに、師範二校案を県会に提出して、議会と県下識者の大反対を買ひ、再議に附し、大多数にて再び之を否決するや、更に内務大臣に向つて原案の執行を稟請したるなど、上を上とも思はず、下を下とも考へぬ仕方と評するの外無之次第に御座候。昨年中不肖五無は大山迷府の尊号を上つり候得共、本年の議会に於ても、又々師範二校案を提出せねば善いがと心痛致居り候。然り而して本年の県会に於ては、何とかして此案を提出せしめぬ様にと、県内の識者は思ひ思ひに首を鳩めて下相談を致し居るの次第に御座候。若し不幸にして本案の再提出を見るに至らんか県会は全会一致を以つて之を否決すべく、知事は又々再議を命ずべく、ヨシ再議に附したればとて、之を可決するは長野県百年の大計上より止むを得ざる場合なれば、二回三回は申すに及ばず、五十回百回之を否決するは、火を見るより明らかなるの理に御座候。若し又不幸にして原案執行と

もならば、愚民其の常として、竹槍蓆旗をもつて内務省へ押し寄する事あるやも難斗と奉存候。従来四五年間の経験によれば、大山知事の得意は極めて辞令に巧妙にして、お祭騒ぎに熱中する方なれば、神奈川、兵庫、大阪、東京等の知事に栄転せしめられたる方最も適任ならんと乍恐推察たてまつり候。

右の二個条は、目下長野県管内に於ける二大問題に御座候。御巡回先きを期として、紙上を以つて御願致す段、何れも恐れ入候得共、不肖五無斎一家の言には無之、実に長野、新潟二県三百万の百姓町人共が難渋を見るに忍びず、宗五郎、嘉助等の先例に倣ひ敢て之を閣下に嘆願致す次第に御座候。恐惶謹言。

教育実業両宗総本山管長　五無斎保科百助

内務大臣　平田東助殿

（信濃公論　第三六号　明治四二、七、七）

職人根性　石屋五無斎

其二

明治四十二年の夏、松本女子師範学校の矢沢米三郎君より、鉄鎚五挺を新調して貰ひ度しとの事なり。乃ち高遠町第一等の鍛冶職某の家に就て之を注文す。其之を注文するに当つては、何時も虚言のみ言ふ男と見て取りたれば、呉れも其間違なきやう言ひ含め置きたり。曰く

一　昨年中上伊那教育会にて注文したる折、唐鋼の無垢にてつくりたるものにて百目弐拾弐銭は如何にも高価なり。ソハお役人衆よりの注文なれば兎も角もとして、今回の分は石屋五無斎のなれば、和鋼の上等にして重さは弐百目前後なること。

二　本職とは言ひながら、尚鉄鎚にのみ力の入らずして、兎角柄を挫き易ければ柄の穴を大きくすること。

三　日限を誤らざること。コハ漫遊人の常として、直ちに他に向つて出発せねばならぬ為めなり、殊に人足二人を率ゐ居るが上に、更に二三人の人夫を雇ふの必要もあり、五人六人にて一日を空ふせば由々しき大事なり。

等の条件附きにて、偖価は何程なるかと問ふに、百目弐拾五銭なりといふ。弐拾五銭とは高価なり。拾七八銭位で出来るでは無いかといふ。然れども弐拾参銭よりは一文も負からぬといふ。弐銭位引いて貰ふも貰はぬも同じ事なり。弐拾五銭にても善し、以上の三件を間違なく出来して貰ひ度しとて別れたり。元来彼は高遠第一の名手なれば、極めて完全に出来して貰ひさへすれば弐銭位の事は、何でも無しと思ひたればなり。殊に何時も百目参拾五銭四拾銭宛も御支払なさる矢沢君のものなれば、稍高価なりとて差支なからん。

然り而して期日に後るること数日、其間お百度を運びたるなり。然れども此点は五無斎肛門周囲の蜂窠組織炎に罹り、一週間の休業を為したりし為め、余り多くの不都合を見ざりしなり。鉄鎚の穴は遂に注文通り大きくならぬなり。コハ如何に厳重に談判すとも先入主となり、利きが悪ろしとて大きくはせぬなり。其の頑固さ加減は言語同断なり。鋼の点に就ては、成程高遠町第一等の職人丈けありて、如何にも善く出来たり。然れども地金をスイツツルとしたる為め、鋼の着き方悪しくして、忽ち離れて仕舞ひたるもの一挺あるが上に、鋼の厚さは如何にもウスツペラなり。コハ弐拾五銭といひたるものを、弐銭値引きしたるが為に、普通厚さ四分位を着く可き筈なるに二分位となしたるなり。コハ直ちに鋼の着け代へを為さざる可らざるなり。且つ少しく堅き岩石に逢へば、忽ち亀裂を生じ易きの欠点あるなり。よつて之を詰責するに、左る虞れ無きのみならず、若し無暗に厚ければ鋼の離れ易きものなりと強弁るなり。亀裂を生じ易きの原理は次の如し。兎角素人は稜の所を打ち着けずして、之を平打ちにしたがるものなり。終日仕事をする苦労人には迚も出来ぬ事なれども、一旦の糞力は素人よりも豪らし。石が堅ければ堅き程糞力の量を増加して、其成効を焦心るものなり。之に反して苦労人にありては石が硬ければ硬き程、兵法家の所謂気合を定めて稜の所にて軽ろく、ポンと打つ。コハ物理学の所謂惰力を応用するものと見えたり。偖期日を誤りたりとて、本人の為めとはならぬが上に、此方にては随分困り入る問題なり。之は各自経験する所なれば、更に説明するの必要なし。穴の大小は左までの損益問題ならず。

鋼の厚さを稍薄くしたりとて、二三銭乃至四五銭の相違ならん。斯く彼が二三銭乃至四五銭を利せんが為に、悉く注文外づれの品たるなり。飽く迄素人と見くびりて飽くまで其一利益を貪らんとす。然り而して是れ金五銭は百万円の二千万分の一なり。乃ち知る百万の富をつくるが為めに、二千万回の虚言を言はざる可らざるを。

（信濃公論　第四二号　公論第四一号を欠く故にその一なし）

其三

明治四十二年の六月上旬、上諏訪町第一等の紺屋某店に於て印袢纏を新調す。背には祖先伝来角九曜の定紋を附し、襟には諏訪中学校長寺島伝右衛門君に頼みて、石屋五無斎と篆書にて書いて貰ひたり。文部省視学官の針塚君よりも、又県庁の高等官連よりも、将又神保博士や田中子爵よりも、何等の崇りは無かりしかども、北安曇郡長大浦瀬君よりは、デカクお眼玉を頂戴したるもの是なり。価は仕立上げにて何程なるかと問ふに、壱円五銭なりといふ。常々二方より聞きたるものよりは遙かに廉なり。乃ち廉なりと雖も、言ひ値以上を差し出さんも如何と思いたれば、其儘にして打過ぎたり。越えて七月、諏訪郡北山村の新湯に浴し、少閑を得たれば、之を洗濯したるに、殆んど浅黄色とはなりたるなり。既にして印袢纏を二方に給するの必要起りたれば、再び同家を訪ひたる折、其染方の甚だ不都合なる由を詰りたりしに、お値段がお安いからとの事なり。値段が高いからマケよと言ひたる覚えなし。斯く染方の悪しかりし事、其意を得ずと言ひたりしに、実は印袢てんなどお召しなさる御方にはこれ無く、只一時面白半分にお召しなさる事と心得たれば、少しく手加減を致したる儀にて、何とも恐れ入るとの事なり。

偖此手加減匙加減といふこと商業上の懸け引きといふものかは知らざれども、職人に取つても、将た商人に取つても禁物なり。此紺屋殿の如きは彼長野〇〇工場主人の如く、敢へて価を貪りたるには非れども、斯かる手加減匙加減を為すやうにては、迚も百万の富をつくる資格なきものならん。五無斎近来は百万円を五年間に溜むる決心なれば、斯る手加減匙加減を為さぬ筈なり。

（信濃公論　第四三号　明治四二、九、一）

補欠選挙に就て　前衆議院議員候補者　五無斎　保科百助

此頃上伊那郡太田切橋下に午睡の夢を貪りつつありしに、五間許りの鼻先きに於て馬車馬の放溺したるがありたり。牝馬のと耳くに至つては一層六さくろしき心地す。金銭に別条は無けれども多数新平民を大株主とする屠獣会社よりの収賄と来ては醜又臭の最も甚しきものなり。

前衆議院議員立川雲平は其有罪たる可きを自覚し予想して辞職したるが為に、ソガ補欠選挙は来る八月三十日を以て挙行せらるる由なり。之れが為め知事大山綱昌は内務省に召喚せられ、帰来早々警察署長会議を召集して三家検事正を立会はしめ堀田警務部長を従へて出座し、峻厳なる選挙監督を為しドシドシ検挙すべしと命令したりといふ。之れ将た途方も無き事と謂ふ可し。

熟々第一帝国議会議員選挙当時の事情を按ずるに、夫子自身名乗り出でたるものは非常に少く運動費の如きも一千円以上を費したるものは暁天の星の如かりしが上に、其当選したるものも其職に堪えずとなし半途辞職を申出でたるものも有りたる程なり。されば当時の代議士は明治時代の教育を受けぬ事とて条約国の名称などは勿論読めず、甚しきに至りては予算案中款項目の意義さえ解らぬが多かりしかども人格丈ケは稍高きがありたるやうなり。

然るに何時しか代議士を以て石碑面を飾り嫁娶に際しても便宜多き事となりたれば、猫も杓子も金さえあれば我先きにと候補を名乗り出づることとなり、贈賄の結果目出度当選したるは長けれども両三年の後には祖先伝来数万乃至数十万の財産を滅茶苦茶にせざるは無きより、且つ又議会に於ける生ける計数器とならんも如何と勘つきたるより、少しく心あるものは我は製糸家となり或は蚕種商となり銀行業を営むものあれば御得意の石屋に隠るるもあるやうに成り行きたり之。が為めに石塚重平者が死亡したる折の補欠選挙に際して非政友派は古代政治家の好標本とも称す可き堀内賢郎を立たしめ、政友派は脳梅毒に悩みつゝある小林万次郎を引張り出す事となりたり。堀内は目出度失敗し小林万は五万

の金を遣はされたるさへあるに 人悪るなる工藤善助や前島元助等に電車中に取り残されガッタ息子の小川平吉が為めに新聞に出されたりといふ。之れ神聖なる帝国議会を弄ぶものに非ずして何ぞ哉。一昨年の総選挙に際し北信政友会は四名の候補者を得ること能はず。辛うじて四国産の立川雲平と低能児たる安川保次郎両人を出したるのみなるに、其得点さえ多からぬが笑止なる。偖其一人たる雲平が今回の事件にて辞職するや又々之が候補者も得るに究し、非政友派にては男妾の降旗元太郎を擬し、政友派にては南信下伊那生れお人善しの金満家上柳喜右衛門を立たすが為めに北信よりは県会議長宮沢長次県参事会員馬場歳次の両人南信よりは丸山盛雄平野桑四郎の両県参事会員が泊り込みにて飯田に来り、跛代議士翠川鉄三立会の上強談判を為し漸く其の承諾を得たりといふ。北信選出代議士の補欠選挙ならば北信から出すのが普通なり。斯く候補選定に苦心惨憺たるを見れば、北信地方は馬鹿者の 金満家が漸く無くなりたりと見えたり。

夫れ然り。豈夫れ然らん哉。五無斎は其利口ものの増殖したるを見るなり。五無斎は宮沢長次馬場歳次が心事を疑ふものなり。否疑ふに非ずして次の如き推定を下すものなり。曰く、補欠選挙なれば年限も短縮せり。然り而して夫子自身は尚春秋に富む。来る可き総選挙にても可なり。又其次きに来る可き総選挙にても不可ならず。先づ以て丸山平野を先鋒として馬鹿もののお人善しの金満家たる上柳を煽動て上げて置き、偖自分の出る時には一切ロハ主義との野心なるを。然り而して丸山平野も亦同主義なるを。

偖以上四人が出たりとて帝国の問題などは分つたものに非ず。分らぬならば分らぬでも善し。只々ロハにて出られては大変なり。前記小林万が五万を振り蒔きたる折に、実際選挙人の得たるは番茶小半斤白銅一つとの事なり。採集旅行にて四月以来各地にて人夫を質ひて見たるに一日六七拾銭づつなり。若し所謂運動員共が諸種の圧迫を受けずば、夫とも其所謂候補者なるものが果して立派なる人物ならば兎も角も、現今の有様ならば是非共多少の日当丈ケは各選挙人に得させ度きものなり。

茲に於てか五無斎は次の四条を提按せん。

第一、選挙法を改正して普通選挙となし、収賄人数を数十倍すること。

第二、被選挙権法を改正して、地価金五千円以上若くは之を同等なる財産を有するものに非れば立候補するを得ざること。

第三、郡長警察署長に内訓して、同上の資格あるものは悉く必ず立つて候補者となるやう勧誘せしむること。

第四、郡長警察署長に内訓して、成る可く収賄したるものを県費にて賞するの規定を設くること。

斯の如くにして数年の後には理想の代議士も出来、議会も亦従つて改善せらるるに至らん。上平田内務大臣大山知事を始めとして各選挙人諸君以て如何となす。

（信濃公論　第四三号　明治四二、八、二五）

補欠選挙に就いて（三たび）

前衆議院落選候補者　五無斎　保科百助

無競争の補欠選挙開票の結果は、上柳喜右衛門が一万五千の大多数を以つて当選し、降旗元太一千五百票を得て次点となり、更に中嶋精一老人が八百の得票ありたる様子なり、最も役に立ちさうなる中嶋老が、得票最も少く、稍勝れりと見ゆる降旗元太之に次ぎ、最もお人善しの金満家たる上柳が最高点とは、如何にも困った現象といふ可し。然れども五無斎は、更級地方の青年が騒ぎ出したるため中島老が八百の得票ありたるは、真に天下国家の為めに、蔭ながら一大白を挙げて之を祝するものなり、五無斎若し五六百の金あらば斯青年各位を応援する為め、信濃公論五万部を印刷して之を各選挙有権者に配ち、大に此腐敗せる政界を攪乱しやらんとは思ひたれども、又斯くせば信濃公論の広告にもならんかとも思ひたれども、又斯くせば上柳の運動費二万円が三四万円に増額せらる可しとは思ひたれども、最後の勝利は現生マを多分に所持し居る上柳に帰すべければとの懸念より、偖止めにしたり。然れども松本地方の青年諸氏が降旗元太を担ぎ廻したるに至つては頗る大に不平を訴ふるものなり。政友非政友の妥協は、降旗元太が少なからぬ現生マをせしめたるに非ずやとの疑あり。然り而して此疑ある降旗を担ぎ廻るとは抑何等の失礼ぞや。若し是が五無斎などならんには屁

一つ放りかけても遣らぬなる可し。殊に候補断念の広告文に老母迄をも引つ張り出すに至つては、言語同断沙汰の限りといふ可し。五無斎の友人に未だ蚤一疋でも殺した事の無き程に篤実温厚なる郡視学あり。或る時一小学校教員某が郷里の方へ転任を求めて止まず。元来彼の転任を希望するは、家に浦若き妻君のある事なるが、コを自分の膝元に引き寄せて同一学校に奉職し偕老同穴の実を挙げんとするに在れども、表面丈ケは親の死目にも逢はなかつた事など語り出で、果は空涙まで流して掻き口説きたる由なり。此際に於ける視学殿閣下、デカク怒り出し、妻君を引き寄せたしとならば明日に引き寄せ度しと言ふが善し。両親までも引張り出すに至つては、不孝焉より大なるはなし。且つ戦勝国の教育者たらんものは台湾樺太は申すに及ばず、支那朝鮮否五大州をも股にかけねばならぬ筈なり。父母在せば遠く遊ばずとは弐千余年前支那に行はれたる道徳説なり。殊に一人前の男子として空涙を雨下すなど、彼の法廷にて泣き出して日本中の笑ひ草となりたる横井時雄と好一対の痴呆漢なり。妻君を引き寄せ度しとあらば明白に引き寄せ度しと言ふが善し。と叱りつけたるに、其痴漢遂に其実を吐きたりといふ。降旗元太の行は此痴漢と同一種類に属す。斯かる痴呆漢たる降旗元太を担ぎ廻る青年諸君の行動は青年事理を弁ぜざるの致す所なり。諺に遂事は説かず既往は尤めずといふことはあれども、深く将来を戒むるものなり。

（信濃公論　第四五号　明治四二、九、八）

師範三校案　五無斎

此頃道路風説する所によれば師範三校案が県会に顕はるる由なり。実に困つた問題という可し。長新の山本聖峰氏は頻りに一校論を主張し、信濃の大原里靖氏は簡単に前号の続き論をなして、松本に男子師範を置けば軍隊の感化を受けて軍人気質の教員が出来るといふ。然れども今日となりては何とも致し方なし。其故如何となれば昨年の妥協やら何やらによつて既に一部原案の執行せられたるものあればなり。長野師範の附属小学校を県庁の焼け跡に移して着々工事中なり。附属小学校の敷地と建物とは何物に御使用あることにや。長野市へでもお払ひ下げか。五無斎が主張したる如く少

しく定員を増して県庁の焼け跡までを男子師範となし附属小学を現今のまゝとなし置かば、少くとも県民は二三十万円を利する筈なりしなり。知事以下学務課員諸君の遣り口は融通の利かぬものと評するの外なく、大塚辰君を中心とする南信の議員諸君は不慮の敗北を招き馬場歳君を中心とする北信の議員諸氏は意外の奇勝を得たりといふものなり。然り而して宮長君を中心とする花岡五明の輩長野市と明治の初年より居たる県庁舎の位置を松本へ取られはせぬかと乙な所迄も心配して長野市の寄附金額を多からしめ師範生徒の数を少くし幾分は土地の繁昌をも感じたるの感あり。大沢君以下の議論教育上としては最も正皓を得たるもの。然れども政治家としての君は稍失敗の譏を免れざる可きか。若し五無斎をして君の地位にあらしめば西筑摩とも言はず将た又諏訪とも言へねば上伊那郡伊那富村辺に男子師範をなどと論じ、長野市の寄附金を強奪の一方南信地方に地盤を固め置きて以て馬場歳氏が男子師範を上田町に引つ張り他日代議士候補を名乗り出づるに対せんとす。コハ是れ余り教育者の議論に耳を傾けたるの致す所なり。凡そ政治屋なるものの教育者臭きは禁物なり。理が非でも非が理でも成るべく自己の勢力範囲を拡張するが肝要なり。馬場歳君日頃の温厚なるに似もやらず此辺の秘訣を応用して奇勝を得たるぞ愉快なる。然れども今日と雖も事未だ遅きに非ざれば、大沢君たるもの伊那富男子師範論を提出すべきなり。五無等も亦謹んで提灯を持たん。提灯を持たんとするの理由如何。

一　男子師範一校説は理想なり。コレ天に二日なく地に二王なきの原理によるものなり。教育家の本山豈二ある可けんや哉。

二　然れども大山迷府否冥府は意外にも一部の原案執行を敢へてせられたり。師範三校の運命茲に於てか定る。

三　茲に於てか五無斎は敢えて大沢君及び君を中心とする南信議員諸氏を勤めて伊那富男子師範問題を提出す。

松本に男子師範を置くこと甚だ不可なり。

不可なるの理由次の如し。

一　軍隊の感化を受くるなどとは大の愚論なり。却つて軍隊と喧嘩を為すの例に乏しからず。拾余年前名古屋師範に此例の稍大仕掛なるものありたり。何れは恋の敵などにてもあらん。兵隊さんは善く巡査と衝突するものなり。故に又

師範生徒とも喧嘩す。

二　女子師範生徒と兵隊さんと何か一種の関係を生ずることあらん。天口酉卒したる兵隊さんが女生徒を追いかくる位の事も亦あらん。然れどもそんな事は何処にもあり。勿論祝すべきには非れども甚しく弔するにも及ばず。

三　此頃一部署長の他に転任を命ぜられたる折移転料に四五十金を費したりとコボしたるを耳く。松本女子師範の移転料は蓋し必竟二三万円を要することならん。二三万の金尚忍ぶ可し。教育上無形の損失蓋し量る可らざらん。之を要するに松本女子師範を他に移転すること甚だ以て不可なり。宜しく現在の松本女子師範をば其儘となし置き上伊那伊那富村に一男子師範学校を設立すべし。

然れども是非共達而といはば上田の分を男子師範とすべし。

より以上は五無斎又一歩を譲ること能はざるものなり。敢えて知事学務課員並に県会議員諸氏に教ふ。

（信濃公論　第五八号　明治四二、一二、七）

県会議員諸君へ

五無斎

吾等は一昨日の県会を傍聴せり。図書館補助費千五百円は五百円を減じて一千円となりたり。亀井事務官を始めとして与良細川の両県視学は番外席にありながら御一言もなし。或は学務課の諸君は会長が師範学校長や女学校長なるが為めに余り乗り気にならぬ為めなりとも言ひ、或は余り吐嗟の際とて面を喰べたりとも伝ふ。

議会がコを否決したるの動機は或は土橋実也君の言ふが如く、県教育の大問題なる師範学校問題に就て何等の意見をも申し述べぬが如く、万事に就て活潑なる活動をせぬが為なりとも言ひ或は其外なりとも伝ふ。然れとも表面委員会修正の原因は本年の不景気なるが為めなりといふ。来年再び景気の立ち直ることもあらば千五百円は弐千円となり三千円となる訳なり。可祝々々。

（信濃公論　第六〇号　明治四二、一二、二二）

年賀状　五無斎

新年の御慶愛度申納候。旧年中は一ト方ならぬ御愛顧を蒙り難有尚ほ本年も相変らず御贔負に預り度と書くが普通なれども五無斎は相変りまして書かんと欲するものに御座候。

一　五無等事従来拝金主義を見ること蛇蝎の如くに有之候処愈四十二年の覚り大に金取り主義金使い主義と相成申候。

一　溜めたる金は之を有益の事業に使用可致其一部を以つて○○○を○○し○○することあるも大部分は育英費に可供候。

一　支那の誰やらの書に天下の英才を得て之を教育せんと有之由に候。之れ即ち教育若くは育英等二語の起源と承知致候。

一　鈍物教育は五無等の最も嫌ふ所に候。然り而して現今の教育皆然らざるは無しにて御座候。頗る甚だ慨嘆の至に御座候。

一　育英事業の第一義は各市町村費を以て成績優等、体格強健、人格高尚なる者に中等程度の教育を施すことに御座候。

一　育英事業の第二義は県税を以て各中等程度学校卒業生中の豪ら者を選挙して更に高等なる学術を修めしむる事に候。

一　更に県税を以つて一の中学を設立し県下八中学より各優等生を推薦せしめて一学級となし之を教育せば珍無類と存候。

一　上田町なる蚕糸専門学校の組織を変更して一の高等学校となすは経済上又教育上策の得たるものと乍憚五無等は信じ候。

一　若し夫が出来ぬとならば桔梗が原に一の高等学校設立は早晩せねばならぬ筈に候。之れ五無等が数年来の宿願に御座候。

一　偖ヨを実行せんとすれば何よりも先づ〇問題に候。知事学務課を始めとして県郡市町村会議員諸君の御一考を煩し候。

一　若し諸君にして御賛成なくば五無等は大に金儲主義を実行して之れが経営の任に当らんと今や専ら同志糾合中に御座候。

一　五無等の金儲主義豈世の我利我利者流と一般ならん哉に御座候。活眼を開きて以て我等の行動を御監督可被下候。

以上。

明治四十三年正月　　五無斎保科百助

信濃公論愛読者各位御中

（信濃公論　第六二号　明治四三、一、五）

全国漫遊趣意書　五無斎

轟等（われら）は既に諸方の新聞紙に広告し衆人広座に於て吹聴し置きたる如く、愈商工業並に教育視察の目的を以て日本全国を漫遊する事となりたり。然らば何が故に視察を必要とするかといふに各種の物産標本を蒐めんとするが為めなり。標本を蒐めて何にするかといふに殆んど実費に等しき価を以つて之を長野県下の学校及び其他に売り込まんとはするなり。標本を売り込んで何とするかと言はは一方帝国に於ける普通教育の発展を期すると同時に又他の一方に於てはお金を溜めんとはするなり。然れどもお金の物たる諸人渇仰の御本尊なれば、轟等の如きウス野呂が持ち居らば直ちに踏ん奪くらるることもあらん。故に轟等はお金を儲くるや否や先づイの一番に従来の借金を返済す可し。偖愈借金の返済が出来たらば郷里長野県北佐久郡横鳥村に別荘兼本宅を新築すべし。宅地は旧幕時代に於ける山部村役場のありたるもの又

維新以後は小学校と為り居たるものにして誰の所有といふにも非ず。故に人より怨恨を受くるが如き野暮な宅地に非ざればとて親戚某が買うて置いて呉れたるものなり。別荘兼本宅を作るの目的如何。ソは天下後世五無斎が旧蹟はなど尋ねられたる、折既に廃家に属す、今尋ぬるに由なしなどありては遺憾此上もなし。乃ち二三百坪の地を卜して果木栽培園となし維摩居士が方丈の室を学びていとも小やかなる木の丸殿を建て、膳椀皿鉢偖ては夜具蒲団の類を備え置きて諸人一泊の料に供せん。偖其次ぎは如何。図書館倉庫の建築なり。同倉庫の建築に就ては信濃教育会評議員諸氏の議決中少しく不穏の個条あれども凡そ之等の事に就き怒りを発せざるは姦等四十三年来の憲法なり。建つると言ひたる故には無遠慮に大きものを立つ可し。偖又其次は如何。赤十字病院への寄附にして其額凡そ五千円なり。赤十字の事業たる素と姦等の稍好まぬ所なれども入院費前納の意味なり。偖又々其次ぎは如何。例の優等生保護問題と桔梗が原高等学校問題となり。コは余り度々書きたる問題なれば今改めてコを詳説するの愚を為さざる可し。

偖斯くの如くにして五無等は充分お金の使ひ道を知れるものなれば四十二年の非を覚り頗る大いに金儲け主義となれるなり。然らば如何にしてコを儲くるかといふに中等学校用の標本製造なり。兎角江戸村あたりの標本屋は実費一円を要したるものを拾円づつに売るの悪癖を有す。姦等は一円のものを二円に売らんとするの方針なり。即ち清く儲けて清く使はんとするものなり。清く儲けて清く使ふこと之れ今回全国漫遊の根本原理なり。上州前橋にて正午十四日

（信濃公論　第六四号　明治四三、一一九）

金剛砂

山路愛山先生、愈本紙の為めに応援の筆を揮はる。我等は唯泣いて先生の高誼侠情を感謝せんのみ。先生の応援は我等の為めに百万の味方を得たるよりも心強し。

○

「僕も身が自由になるならば、君の軍に参加して記者独立軍の一陣を拝承たく思ふ程なり」「君よ君の新聞を金持だの紳士だのに、其金持たり紳士たるの故を以て売らんと勉むる勿れ。我々の援兵となり我々の書いたものを読むものは、唯だ茅屋の平民のみなりと覚悟せよ。則ち貧くして機関新聞を持つ能はざる人のみと覚悟せよ。金持にも立派な人物は沢山あり、されど多くは根性のきたなきものにて、且其心事の極めて微慢なるものなり、左様の奴とは絶交し、茅屋の平民にのみ君の新聞を売り玉へ。僕の独立評論は甚だ微力のものなれども頗今君の仕事の提灯持に供すべし。君よ奮闘せよ」と言何ぞ痛烈なる。我等之れを読んで焉ぞ先生の俠情に泣かざらんや。

○

其財産としては僅かに数万円の株券のみを所有する者にして、時に或は数十万の金を運用する如き不思議なる事実あり。呵々、事実は口よりも筆よりも多弁也悪戯者也。

○

真の事実は蔽ふべからず。若し強いて之を蔽はんと欲すれば石叫ぶべし。山鳴るべし。

○

打撃は打撃なり。然れ共其打撃は御自分の為め也、社会の為め也、忍ぶべし忍ぶべし。

○

今の世は盲人が盲人の手引を為すもの也。相卒ひて溝に陥ること敢て怪むに足らず。

○

花を盗むも金を盗むも其罪たるに於ては同一也。然れども其動機を詮議せず唯外面の事実よりして之れを観れば、花を盗む方何となく風流らしく感ぜらる。

○

東筑の一中学生は某高等女学校生徒と自然主義を実行して之を妊ますと。学生も学生なれど監理の目も又節穴同然な

りと云ふべし。

○

昔者唐と云ふ国に熊の皮を敷きて妊みたる女あり。女は敷物に迄注意を要す。

○

我妻をさへ治むること能はざる者、何ぞ一郡を治むる事を得んや。郡を治めんと欲せば先づ其妻を治めよ。課長を敲すんは疝気筋也。閣下は化物の正体を見屈けんとならば、先づ台所の笊の下を注意せよ。

○

佐久は名馬の産地也。然れども他国よりの輸入品には、動もすれば主人を嫌ひて主人の僕を乗せたがる馬あり。

○

旦那此処らで一けん参りましよ。シャン々々、相こでシャン、も一つシャン

伴せく、何によ持つて伴しよ、御馬になつて伴せ、誰を乗せて伴しよ、大井さん乗せて伴せ、ヒンヽ々、旦那此処らで一けん参りましよ、アハハハハ。

（信濃公論　第七三号）

○

樹の上の猫は安く、屋根の上の狗は危し。実力ある者は何処に行きても飯の食ひはぐれはなけれど、実力なくして高き地位に昇れる者の末路程憐むべきは無し。

○

我陣地の如何を顧ず。唯だ敵陣にのみ突入する者は兵を知らざるもの也。

○

事業の失敗は、多くの台所の隅の鼠穴を塞がざるより起る。創業に長ずる者は多く守成に短也。失敗は多く我長所に基く。

○

本紙にて堂々攻撃したる人達は大抵首にせられたり。本紙は一人の私論を掲げず多くは輿論の代表也。輿論の力は恐ろしき者哉。

○

若き、中等教育者、言を為して曰く、奏任教授になれば、虎の巻といふ教科書訓蒙を援かる。

○

一般にも売らず、勿論学校にも、他の予習等にも非売発行也、著書―書肆―奏任教授のみもとより他見無用なり、と。

教育者は、所謂、奏任教授の虎の巻を授からざるべからざる運命に立ち至りしならば、須らく高蹈勇退せよ、乞ふ馬脚をあらはさざれと、語り終つて呵々大笑す矣。

○

信州学枢の府、出歯の豪、森小三を出し、手に手の式の駈落ちならぬ駈上り教員をいだす、マッタ、お次は某女生の張満病、謂ふ勿れ、これらの徒のみ、しかく低落せりと、これが○○気質なれば也。

○

一夢に襲はる、額上三角紙、フロック姿の厳しき人、意気揚然腕車を駈つて行く、行く先は共同墓地、到れば、多勢の小なる人大なる人に指揮せられ、多くは、是れも亦、フロック姿はフロック姿なれども、向ふ鉢巻に、ヅボンを捲くり上げ、鋤おつとつて、一つ二つの穴を掘る。

○

さて掘り上げて、ヤレ一服、で其の風態の可笑さに、われ思はず失笑を禁じ得られず。呵々大笑すれば、諸君も亦亦大笑……。

○

醒むれば、盧生邯鄲の夢のやうで、何が何だか分らざりけり矣。

○

頃日三村、佐藤、柴桓、与良、松下、務台の諸君を訪ふ。近頃のやうに学校騒動日和のひたつゞくには、てもさても弱つた者なりと、嘆つこと頻りなり。

○

柴桓君、曰く、今に於てこれらに対して、何らまとまりたる考なしと。

○

公等が平常修得せし、智徳学才は、事件起れる其際に、直ちに抽象的にもせよ発表し得らるゝ程度に達せざるや。

○

今に於てまとまりたる考なしとせば、いつまとまりたる考を聞くを得べきや咄。

○

定見は或時期を劃して、常住ならざるべからず。事変に処するこの定見より割り出したる考ありてこそ、一貫の「生」意義ある「命」あるといふべけれ。

○

公等が、生徒に試験問題を課するとき、何ら纏りたる考なしとの答案を得ば、公等之を如何とかする。

○

鼠を捕ふるの秘訣は赤手之をつかむあり。然れ共恐れて寛く之をつかまば却つて彼れの反噛に逢ふべし。故に力を極めて一時に眼の球の飛び出る迄之をつかまざるべからず。悪人を征伐する往々之に類するものあり。

○

地方官吏の出世の極点は郡長様也。警官よりするものあり、県属よりするものあり。分け登る麓の路は異れど郡長と申すお月様を拝し奉る例は此も彼も同じ事、さて其お次は曰く御要鎮々々。

○

うか〳〵と高根の月の美に憧れ玉はゞ、何時しか其脚下に木人来り迫り兎奴来りたどる。うまくにげて銀行の支店長、にげ損ぬれば保険会社の募集員。

○

炙もすえつければ、すえ度くて〳〵堪らずといふ。全身炙の痕だらけになりても、少しく病ある毎に灸の香を嗅がねば居ても起つても居られずといふことなり。人の習慣程恐ろしきものは無し。

○

活きた新聞あり、死んだ新聞あり。

○

新聞の文章は学校生徒の教科書にはあらず。常に人心の何物にか触れざる可らず。少し位の瑕はありても人心に触れ居る文章は人に読まる。人に読まれぬ文章などは書かぬ方が好し。骨折損なれば也。

○

人も読まず、又何の反応もなき文章之を称して死文と申す。縁喜でもない。

○

金と共に我等の常に貯ふべきもの三あり。一に曰徳、二に曰実力、三に曰趣味。

（信濃公論　第七〇～七七号　明治四三、三、二～同四、二〇）

鏡に対して我顔を見よ

前号には、須坂学校の紛擾に就き校長に対して聊か苦言を呈したれど、今回は不平職員に向つて少しく注文致したき事あり。諸君は紛擾の原因を校長にのみ負はせ、自分等の方には何の過失もなきかの如く考へ居らるゝ如くなれども、局外に在りて公平に観察すれば、諸君の方にも亦蔽ふべからざる大過失あり。

若し仮りに校長のみ

が悪しとするも、多人数にて党派を作り其勢を恃みて種々不穏の挙動を演ずるが如きは、寔に智慧のなき談なりと申すべし。校長が馬鹿にして、どうしても鉄拳の制裁を加へねば真人間になれぬと見込を付けたらば、何ぞ一人にて之れを決行せざる。

我等は腕力を悪しと

云ふにあらず、口で理解して判らぬ奴には腕力が一番也。これは個人も社会も国家も同様、交渉の最後は腕力となるは当然なれば腕力も時には痛快にして面白し。併し寅さん一人位擲り付けるに徒党を組むとは随分意気地なき談ならずや。

併しそんな事は最後

の事也。校長の人格を無視しての事也。苟も校長たるべき者を袋叩きにせねば他に制裁の途なしと云ふ如き学校は、既に人の子を教ふるの資格なきものなれば、そんな学校に何時迄もヘバリ著き居るに及ばず、潔く身を引きて他に適当の場所を求むるが好し。何ぞ紛擾の過中に投じて身を誤り人を誤ると愚をなすを要せんや。

蓼山木川寅次郎君は

果して諸君の言ふ如き馬鹿な人間なりや。我等は決して斯く信ずる能はず。我等は木川君の学識を信ず、我等は木川

君の人物を信ず。彼如何に老たりと雖も、袋叩きにせねば覚醒の途なき如き判らぬ人物にはあらず。我等は斯の点に関して木川君の為め大に弁ぜざるべからず。

由来須坂校には種々

の積弊ありて誰れを校長にしても治め難き学校也。管理者側にても町の側にても殆ど手にあぐみたる結果、学識あり経験あり気骨ある木川君ならばとの事にて、彼を知る者相談して他に類例なき程の高給を払ひて彼を迎へたり。

然るに彼は知己の望

を空うして偶是迄にもなき紛擾と失態とを持ち上げたりといふに過ぎず。是れに依りて木川君の人物は上りもせず下りもせず、唯だ須坂校に於ける積弊深くして木川君其人の力にても尚之れを剪除する能はざる事を表白したるもの、木川君には寧ろ気の毒也。

不平も可不満も亦可

然れども我等不平不満を唱へん時、自ら省みて其不平不満に価値ありや否やを吟味することも亦最も必要なり。不平職員は其不平を唱ふる前に方りて、我は果して不平を唱ふる資格ありや否やを省みざる可らず。若し其資格なくして不平を唱ふるは価値なき不平を唱ふる者にして、役に立たず。

鏡に対して我顔を見

よ。己惚鏡といふ事はあれど、常識ある者ならば、鏡に対して冷静に我顔を映せば我顔に墨の附き居る位は判りそうなもの也。我顔の墨を落さずして他人の顔の汚れたるを責むるはちと無理な注文也。我等は不平職員のうちにも、生意気な奴あり無学なる奴あり其素行の如き随分如何がはしき者あるを耳にす。鏡に対して先づ我顔を見よ。而して自ら汚穢を発見せざれば幸也。

（信濃公論　第七三号　明治四三、三、二三）

慨世危言　佐久の小僧

(三)

小僧の腑に落ちぬことの沢山ある中に、一番面白くないことは第一番に言ふた官権万能主義だ。近来佐久地方には神社合併といふことが行はれる。何故そんな面倒臭いことをするのかと聞いて見ると、郡役所からの内達いや厳達だといふ話、その理由はと聞けば、神社の数多いのは第一敬神の本旨に反く、由緒も何もない社を多く置くのは経済上頗る不利だなど下らぬ理屈を並べ立てゝ居る。小僧のひそかに思ふ所は全く是と反対じや。古からよくある隠祠魔神なぞを廃してしまうのは誰も異存はないが、いくら無縁起にせよ無格式にせよある一地一村乃至は一部落一家族或は一個人の尊崇して神社とし年々歳々祀を絶やさずに祭り来つたものを人の力を以て無理に急劇に廃祀してしまひ、一村若くは一部落に一社とせよと云ふのは頗る無法な話じやあるまいか。なるほど其筋の人の言はるゝ如く経済上には善くはないかも知れないが敬神の本旨に反くとは何の理由かわけが分らない。一体人間の精神界を支配する信神なぞいふことが今の官吏のいふが如くにそう単純な理論一遍で推し透すことの出来るものではないのだ。たとひ人民が一木を建て一石を刻むとしても各々それ相当の精神上の崇拝の原因があつたのじや。もしも其原因となつた事実が今は伝はつて居らないにしても一旦其処に立つて神なるものが存在して居るといふ感念がその社のあるところの土地の人民の脳裏に刻まれてあるからには、一年中に何十回祭をしようとも何百回参詣をしようともよいじやないか。勿論不経済には相違ない。然しながら世間の複雑なる状態はお祭の数を一回にして出て来る余財位は又他の方面の冗費として消費せられる位な見透しが彼等官吏にはつかぬのか、そんな机上の議論でこの紛糾錯雑な実社会が律せられるものと思ふのか。なんだ馬鹿々々しい。内務省あたりで千遍一律の空論を弄ぶ連中が御手柄しげに人民の大切な〳〵精神界のことにまで立入事とはなんと情ない浅ましいことではあるまいか。トカク県下我国の趨勢は下らない半可通の西洋風に吹きまくられて官権が一たび

振り廻されればどんなことでも出来ないこともないというような感念が官となく民となく一般に瀰漫して居るらしい。独逸は独逸たるべし、西洋は西洋たるべし。日本には日本だけの別段の歴史がある。彼の長所を採るのはよいがそれたがめに数千年来積み来つた自家の長所までなくしてしまうのは面白からぬことではあるまいか。それから引続き小僧の胸中に醸積してある不平は数限りはないが、今度は今一つ風教に関したことを披露して見ようか。

見玉へ公論の読者諸君、今の宗教家殊に僧侶の有様を、その意気地なさ加減、その無学の態たらくは実に言語同断じや。小僧の見地はこのことについては悲しい哉佐久地方の小天地に限られて居るから一般にそうだとは言ひかねるが、もし一片の蕨くづが江河の淀みに動くを見て一江の流れを知り、一葉の落つるを見て天下の秋を知ることを得ば、小僧が浅間山麓の井底に於ける管見をもつて信州一般位の状況位にあてはめることが出来ぬこともあるまい。

小僧ある時、ある寺の普山披露式に列したことがある。その式場で都合三人の僧侶が祝辞を朗読した。その文を聴いて居るに三人が三人ともちやうど「テニヲハ」の使ひ方が出来て居ない、それはまだしも、その文章ときたらお話にならない。お経の文句をあちこち持ち寄せて来て、素人の吾々がきいて居ても前後首尾の少しも貫通しないものを吾は顔に声高々と臆面もなく読み上げて居る。あんなことでは小学校の准教員位な人達にも遙か劣りてある。一事は万事じや。この事で彼等僧侶連中の価値が分る、といふたらチト速断すぎると読者諸君のお咎もあるか知れぬが、其外のことなぞは言はぬが花らしい。現今の佐久地方の大部分の僧侶連はたゞ葬式用の道具としか見えない。「葷酒不許入山門」は何の看板だ。山門樓上の五百羅漢は何の飾だ。壮大（チト大袈裟か知れぬ）な其法窟は何の用あるか。金光燦爛たる其仏像は何のために並むで居るのか。更に汝が着て居る其法衣綺羅あたり怯ゆき其袈裟は何のしるしか。

㈢

一体、小僧の了解の出来かぬる節は下の理屈だ。昔はいざ知らず現今は法令上一般僧侶に肉食妻帯を公然に許されて居る、それだから僧侶といへども一般俗人の如くに葷を食ひ酒を飲み女人に親しむで毫も差支へはないという普通世間並の議論これだ。

なんだ、苟も世の心靈界を司るべき高き尊き役目を帶びて居るところの僧侶たるべきものが、法令に出たからその通りに從つて行へばよいなどといふ不見識のことで仕方があるものか。法令は法令じや、法令は俗世界の仕事じや、法令は僧侶を一匹の人間として取扱つたのである。法令は僧侶を生きた仏とし肉体を超脱し万縁を解脱した肉塊としては取扱はないのである。然るに其法を楯にとつてしたい放題を振舞ひ、時としては色に荒み酒に溺れ放縦度なきことをして恬として省みないものがある。

小僧の議論はチト頑固かも知れないが、其処が危言の危言たるところだ。人間に生れては立派なことを言ふてもだめだ。自然に生れ具はつた性欲といふものがある、甘味を見れば食ひたい、身を労するより楽がしたい、異性を見れば情慾も発動する。これはた〻自然に任せて置いたなら氾濫した水が堤塘を決するが如く防ぎきれるものではない。それだから非常に堅固な防禦を作つて常々からこたを防ぎ止めるだけの保障をして置かなければならぬ。それにはどうしたならよいかと言へば、宗門の法則を昔に逆戻りさせて僧侶は肉食妻帶す可からずといふ禁制を新たに制定するのじや。随ふて法令には理論と矛盾してもかまはぬから右の如くに制定するが宜しい。そうして一般俗人にもなる程僧侶といふものは俗人の為し得ない節制を厳守すべきものである、心靈界の支配者たるものにはまたそれだけ重い責任が懸つて居るはいと実地に目撃をしなければならぬ。小僧はわざ〳〵奇言を弄して快とするものではない。心の真底から現今当地方の僧侶の無学無識無節制を慨嘆して此説をなすのだ。嘗てある人の著した本にこういうことが書いてあつた。山の中の村落に持たせたいものは善い僧侶と善い医者と善い教育者だと。小僧の思へらく、た〻に山間の僻邑ばかりじやない。どんな都会でも此三つは緊要欠くべからざるものだ。而して現下信州各地を見るに、善き教育者はある。善き医者はある。然しながら善い僧侶は暁天の星の数よりも少ない。実に慨嘆の至りに堪えぬ。親愛なる公論の読者諸君は僧侶に対する小僧の此新提案を容れらるゝや否や。

（信濃公論　第七三号～七四号　明治四三、三、二三～同三、三〇公論七二号を欠く㈠なし）

長野根性を打破す可し

他所より長野に来る時、何処に行きても彼所に行きても一種不快の空気に感ずべし。我等は昔より斯の不快の空気の因つて起る原因をさして長野根性と称へ来れり。

長野の人が之を聴か

ば怒るかは知らねど、事実全く斯の如し。これは他所とは全く反対にて、初めて接する時には土地も人情も風俗も所謂初見の快感を惹き起さるゝ筈なれども、夫れが全く反対にて、長野に来れば初めより不快の感を誘発せらるゝとは如何にも情なき次第也。

長野根性はケチ臭き

根性也、シミッタレた根性也、乞食のやうな根性也、穢多のやうな根性也。其訳が聞きたくば、以下少しく例をあげ、御説法申し上ぐべし。斯の良薬は少しく苦過ぐれど我慢して召し上らねばとても難病は治り申さず。厭でも一通り御聴候へ。

右や左のお旦那様が

長野人の御先祖様なれば、さてこそ長野人は斯くまでに根性が卑しきなりなど云ふ者もあれど、我等は決して夫れ程迄に長野人を下司張つた人間なりとは思はず。長野人にも中々豪き所あれば、悪い所さへ直せば決して進歩の見込みなきにあらず。

長野商人は鼻先思案

の商人也。一時金が儲りさへすれば、後から如何なる檻褸が出やうともそんな事は構はず。百年の大計は愚か十年の計画は愚か、一年先の見越しさえ本途には立たずして只管鼻先勘定にのみ執着するを常とす。これは善光寺の膝元にあ

りて通り一遍の旅客を相手とするより起りたる悪しき癖なるべけれど、これが抑長野商人を邪道に引き堕す原なる故、斯の鼻先思案を先づ第一に打ち破らざるべからず。

長野は昔より人物を

出さず。其癖長野人は寛容の量に乏しく、他所より来りたる者を来り者と称して之れを卑しみ、政治上にも実業上にも成るべく斯の来り者を排斥し、長野生立の者のみを以て出来得る限り諸種の活動機関を組織せんと欲する傾向あり。

此頃は稍其弊を脱し

たりといえども、以前より市役所などの顔触を見ても、可成長野生立の者か、さなくば市重立者の縁類の者を引き集め、長野人の勢力をこれ見よがしにうち誇りて得々たるの形跡なきにしもあらず。市政紊乱の噂高きにも拘らず、未だ目覚しき改革を見る能はざる亦故なきにあらず。

見よ洗湯に行きても

床場に行きても、買物に行きても、訪問に行きても、至る処としてケチ臭き長野根性の発揮し居らぬ所なきを。湯屋の流しの穢なくして洗桶の小さき、床場の設備の狭くして洗ひ湯の少なき、商店の番当小僧等の無愛嬌にして且つ品物の悪き、主人も家人も概して横柄にして訪問者に無礼なる。

数へ挙ぐれば一とし

て癪の種ならぬは無し。上田に行きても松本に行きても、諏訪に行きても、頓間は即ち頓間なりといへども、間抜けは即ち間抜けなりといへども長野程に甚だしくは無し。

長野は一県の首府也

一県の首脳也。商業を初として其他何事にても他所に向つて其範を示さざるべからず。然も長野市にして既に斯の如くんば、我県発達の前途も亦心細しと云はざるべからず。長野根性はケチの代名詞也。ケチは暢達の敵なれは速に之を打破せざるべからず。

（信濃公論　第七五号　明治四三、四、六）

学務官吏の栄転　東京にて　五無斎

昨年中県視学唐沢貞治郎君松本高等女学校長に、県属甲田慶治郎君は此程に至りて上高井郡長に、更に首席県視学与良熊太郎君は野沢中学校長に栄転せられたる由なり。偖其後任者としては昨年中松下金六君が入庁せられたるのみにして果して誰が後任者なるか在野党の五無等には何とも分らず。或は行政整理の結果此儘に人員を減ぜらるゝ事にや。経費多端の今日夫も亦面白からん。且つ県庁の仕事など所謂加減乗除の四則と御通牒に及び候也の書ける人には誰にも出来る事なり。余りに屁理屈好きなる人々が五人も六人も寄り集り居ては、所謂団栗の身長比にて何時も議論に花が咲き、船頭多きの結果は船舶を山巓に運搬するの奇を演ずることもありて、下らぬ法律命令は雨の如く下るにも拘らず県内の教育は到る処不評判なり。がいして又嘆ずべきなり。斯る場合なれば五無等は松本高等女学校の為め又上高井郡民の為め将た野沢中学校生徒の為めに是等諸君の栄転運動を以つて祝すべしと為すか、将た又祝す可らずと為すかは頗る疑問なれども、学務課の為めには一大白を与げて之れを祝せざるを得ず。然れども若し下らぬ人物の再び入庁することもあらんには聊か倍旧の不平なきこと能はず。若し緜而入るゝとならばウント立派なる人物一二名を入る可し。更に現在の人々のうちより一二名を他に栄転せしめらるれば辛更に更に甚し。五無等元来学務課員半数改選論を唱導するや久し矣。更に近来に至りては全数改選を絶叫したる事もありき。然り而して今や其一半は改選せられたるも他の一半は依然たるなり。同じく其一半が改選寧ろ改撰せらるゝならば何とか改撰の仕方もありたらんと実は聊か否大に不平を訴ふるものなり。五無等元来学務課員諸君に対して恩怨共になし。若し恩怨のありとせば只々公務上に就てのみ。たゞに学務課員のみならず日本国民に対しても恩怨共に無し。只時々恨みを四方八方より一身に引き受くることあるのみ。是れ気障な奴耳障な事と思はれんかなれども、県下の為めに聊か一言せざるを得ず。否此事に就ては押川、関両知事の時代より大山知事の現代に至るまで、屢々言ひもし書きもしたるものなり。本日の長野新聞を見るに新任力石事務官は豪らき

人なりの評あり。蓋し或は然らん。乃ち同事務官の着任を斯として五無等の言はんと欲する所を披瀝したるものなり。

四月九日　午後八時執筆

（信濃公論　第七六号　明治四三、四、一三）

学制改革案と世論

○高等教育会議員　輿論として国民は伝て曰く。

第一　改革案の高等中学校は実際に於て其の予期する高等普通教育機関にあらずして、依然として大学の予備校たるに過ぎざるべし。

第二　将来高等中学校は各府県に一校宛設立さるゝに至るべく、然らば勢例の猛烈競争試験ある必せり。然らば改革案の骨子と称すべき年限短縮は有名無実の者となり何の価値も有之ず。今回の案たる当局苦心の跡歴然として掩ふべからず。大体に於て満足に近き案也。故を以て一部修正加除するあらんも無事通過すべしとて竜頭蛇尾政府薬籠中のものとなれり。

○帝大は文相が今回の改正を断行するに当つて我を疎外し何等の挨拶をも為さゞるといふを執圏き頭から反対の態度に出づると風評されたるが、果して激昂して曰く

今日の改革案の骨子は単に中学の修業年限一ケ年短縮といふに過ぎずして他に何等別種の意味あるにあらず。現今すでに中学卒業生の学力劣等なるを、斯くすれば尚其上に劣悪を加ふ。而かも他に根本的改正の行ふべきあるをば、徒に皮相の改正をなして而して社会に未成品を供給する如き吾人の最も忌避する所以、乃ち国家が其の根本改正としての教育政策としては現今高等学校の年限を短縮することなり。

とて最後に学者君子の淵叢にも似合はず、稍威赫的に

場合によりては大々的反対運動を為すも亦已むを得ざるべし、云々と結べり。

○東日　は三日連載頗る綿密に論議して曰く、案たる本邦教育界十数年来の宿題にして歴代文部大臣一人として之に手を染めざるなし。小松原氏亦就任の当初より規画計営至らざるなく、而も桂総理大臣の奨励鞭韃を加ふあり。外に貴衆両院議員の督促要望あり。殆んど二ヶ年の日子を閲し慎重細密以て当れりと称す。然るに其の案の発表せられしを見たる吾人は尠少ず失望せり。

とて暗に小松原氏も亦其器にあらざるべしとなし、高等中学校が高等普通教育を授くる処とせば、国家は之に制限を加ふること能はざるを以て勢大学教育を受けんと欲するものも亦多数なるべく、然らば現今の綜合大学制を改め単科大学制に依らずんば到底所謂高等窮民の減少を防ぐ能はず。必修外国語を一外国語とするとせば頑強なる反対は大学教授派に依て起るべし。而かも大学制度に寸毫の改変を為さず。入学試験は矢張り二外国語を行ふ。高等中学校は或は純然たる外国語学校と化し去らずや。斯の如くして其卒業生は尚且常識の発達したる穏健なる好紳士也と称すべきや。

と大気焔を挙げ、更に現代中学卒業生との関係を論じて、現今中学校の上に更に高等普通教育機関を設くるごとき、大学と中学との間に別種の教育機関ある全世界の中たゞ我国のみ。而して高等普通教育ある国民としては今日の中学校卒業生にて充分也。此上に教育ある国民を養成する如き一種の贅沢也。要するに大学の根本的改革に伴はざる下級諸学校の改革は寧ろ無益の業、大学の根本的改革は下級諸学校の改革と機会を異にして実行すること難し、とて全然大反対に出で、更に、今回の案たる学制の改革にあらず、実に学制の改悪也本案は之を撤回して更に慎重の調査研究を遂げんことを勧告す、云とゞ。

（信濃公論　第七八号　明治四三、四、二七）

文界廓清論

(一)

本紙前号の、堀田警務長の談話と嶺間生の卓上雑説が導火となり、悪徳記者云々に就て大分其処らに問題が燃え上り、やれ同業を侮辱したの、やれ警務長の責任を問ふのと血道をあげて騒ぎ居る者ありとかや。さてさて困つた人達なるかな。我等は事の序を以て一言し置かざる可らず。

(二)

臭いものには蓋をせよ、同業者間の陰事を発くは得策にあらず、自己階級を同くするを忘れ、漫りに悪名を附せんとするは天に向つて唾を吐くなりなど、随分色々の批難あるやうなれども、我等は如何にしても彼等の言葉に賛成は出来難し。元来悪徳記者征伐などには雙手を挙げて賛成すべき人達が賛成せざるのみならず、却つて之れを批難攻撃する如きは、寔に以て不思議千万なる現象なりと云はざるべからず。

(三)

新聞事業には政府も出来得る丈けの保護を加へ、従つて記者にも奏任以上の待遇を与へつゝあるの今日なれば、記者たるもの〻撰択に意を用ふるは実に新聞社の責任なるにも拘らず、実際の状態は如何。現時記者と称して社会を横行する輩にして、真に記者たるの資格を具へ、其学識に於て其品位に於て共に世間より敬愛を払はれ居るもの果して幾人かある。

(四)

悪徳は新聞記者の冠辞にあらざるは実に信毎紙の言の如し。然れ共悪徳の二字が恰も新聞記者の冠辞なるかの如く世間より誤解せらるゝは何故ぞや。幼稚なる世間が尚ほ未だ記者の社会的地位を認め得ざるも亦其原因たるべしと雖も、是迄記者自らの行動が遂に斯る悪声を招きたるの傾向亦決してなきにあらず。

(五)

苟も社会の木鐸を以て任じ、導師を以て許すものは、自重自愛、自ら励み、自ら修め、自ら養ひ、仮令世間よりの注文なくとも、其学殖に於て其品格に於て充分社会の信任を受くるに足るものなかるべからず。然るに悪徳記者多しなど

世間より噂せらるゝは、実に文界に籍を置く者の堪え能はざる侮辱と云ふべし。

(六)

今の新聞社が記者の撰択を忽せにし、安物をのみ猥りに買ひ込む所より、近来新聞記者の品位著しく下落し、彼等の中世間より敬愛せらるゝ者尠く、逆また蛇蝎視せられ、指弾せらるゝ者多きは実際の事実也。真に新聞の天職を自覚し斯業将来の発展を希ふもの、誰れか斯の現象に眉を顰めざるものあらんや。

(七)

悪徳記者といはれたりとて、自分が悪徳記者でさへなければ決して怒ることはあらず。怒るどころか自ら戒飾し自ら反省し、社中若し如何がはしきものあらば、断然之れを戮にして以て社会に謝せざるべからず。所謂サーベルの権威に依らざれば、文界の廓清が行はれざる様にては、斯界の前途も亦頗る心細しと云はざるべからず。

(八)

記者風を吹かせて料理屋を飲み倒す奴も悪徳也。身分不相応の贅沢を為し借りた金を返さぬ奴も悪徳也。人の妻を姦し人の女を冒し、妾を蓄へ物を盗み、恐喝して金を取る奴のみが悪徳にはあらず。而して文界の腐敗は文界自ら其責に任ぜざる可らず。我等が文界の廓清を絶叫するもの、豈徒らに同業階級に悪名を負はしむる為めならんや。

(信濃公論　第七八号　明治四三、四、二七)

悪夢を見るの記

五無斎　保科百助

聖人に夢の有りや無しや善くは知らず。孔子君なども若い時分には時々周公を夢みられたるやうなり。五無等幼時狐の夢と少時昇天の夢とを見ること屢なり。前者は人間を誑す程に豪らきものなりとの俗説盛んに流行し、且つ其実物さへ附近に棲みたるが為めにして、後者は列仙伝といふ書を愛読したりしによる。偖其後のものは之を筆にせんも愧かし

ければ略することゝし近来時々夢みるは火山の爆発と地学旅行に関するものなり。明治四十三年四月二十三日小県郡依田窪教育大会に出席するの約あり。其前夜見たるものは甚だ複雑なり。早朝郷里北佐久郡横鳥村なる一友の宅に立ち寄り、酒食を共にしコを立ち出で誰なるか今記憶せざれども両三輩にて群馬県師範学校?に至りしに、長野県地質の講義を為すことゝ為り、日本地質図を壁上に懸けんと焦心りたる位にて直ちに次の幕となり、便所はと問ふに彼処に行けといふまゝイザ趣き見れば蓊欝たる森林中の一小池なり。恰も穂高明神が池に髣髴たり。只数十丈の深き処前世界の植物林立するは野尻湖の如きを見る。勿体なしとは思ひたれども盛んに放尿し始めたるに、女生徒の一群前を過ぐ。愧かしきこと限りなし。放尿場の事とて其周囲の汚きこと言語同断なり。停車場の便所の夫の如し。躓き転ばんとして僅かに免る。掌を汚したれば附近の泉にて洗ふ。偖此池の一部森林中の一老樹の枝より鉄鎖を下げ十字架の如きものを造り、其上に座し数十年一日の如く鞦韆(ぶらんこ)するものあるを見る。其理由はと問へば、脳の具合が悪しき故にとの意ならんか其示指を其頭上に置く。既にして二三人士の為に附近の地質を説明し将さに帰途に就かんとするに、工藤善助下村亀三郎等五六の人に要せられて小帰りし、又々一の池畔に出づ。人工を加へたるにはあらねども四壁直立物悽きこと言はん方なし。既にして過つて池中に陥ちんとして僅かに両手を左右の岩角に支ふ。商業学校の丸山弁三郎君来りて五無等を引き上げんと焦心すれども手の付け様もなし。是れ又君も共に陥るの恐れあればなり。故に一ト度池中に陥りて後善後策を講ぜんかとも思ひたれども、自ら進んで陥るに忍びざるものあり。左やせん右やせんと大苦悶の中に目醒む。偖此池の構造は前日某穀屋にて肥料標本中不正品の原料として籾糠の粉を注文せんとして石臼の構造やら鼡などが陥りて又昇ることを得ざるものありなど聞きたるに起因す。抑も吉夢か将た凶夢か、大方諸君の判断を待つ。

（信濃公論　第七八号　明治四三、四、二七）

短き大演説

五無斎　保科百助

丸子村　逆さによめば　こまり村。順によめ〳〵　順によめ〳〵。とは是れ拾年前五無等が丸子村の学校問題につき大紛擾を来しつゝありし折、本公園に於て大音声に詠み上げたる所なり。今や某模範村の如きは盛んに其秩序を乱しつゝあるにも拘らず、本村の如きは其後秩序全く立ち日に月に其隆運に赴くを見る。甚だ祝すべしとなす。爾今以後再びコを逆読するが如きこと無くんば幸更に甚し。

因曰ふ。当日殿城村長田中救治君気勢甚だ揚らず。

（信濃公論　第七八号）

通俗新案国語教授法　一名ニギリギン式教授法第二篇

緒　言

近頃教授法の研究は殆んど其極点に達したり。是船頭多くして船山巓に登るものか。五無等は一臂以つて船を山巓より引き下さんとするもの。世の父兄生徒諸君殊に村長村会議員学務委員諸君の必ずコを一読せられて五無等に協力せられ此大業を成就せしめられんことを。

明治四十三年五月四日　　信濃公論社長兼記者　五無斎保科百助

（信濃公論　第七九号　明治四三、五、四）

新案国語教授法　始り　一名 Nigirigin 式教授法第二篇

凡そ現今各教育者諸君が執らるゝが如き教授の形式に於て、児童が能く之を理解し之を記憶し、他日之を実地に応用せんことは至難事中の至難事にして、若し之を理解し、之を記憶し之を実用に供し得るものあらば、コハ一種の奇蹟として之を評せざるを得ず。然れども五無等が以下論議する所によりて専心一意児童教育の任に当りたらんには、各児童

の之を理解し記憶し之を応用し得んことを屁を見るより明かなるの理にして、若し之を理解し記憶し応用し得ずとすれば、之も亦一種の奇蹟たるなり。即ち世上幾多の教授法は所謂教授法にして、五無等の教授法は真の教授法即ち覚えさせ法たるが故なり。以下逐次之を論ずる事とせん。

世上幾多と言はゞ余りに放言高論なるかの疑ひあれども、五無等は其放言高論たらざるを信ずることゝせん。之れ何によつて然るか。凡そ現今の如く交通の便利なる世の中にありては、又各国の言語文章を各其国語に翻訳することの自由自在なるの世の中にありては、又外国の言語文章を竊かに翻訳して恰も自分の脳中より生産したる新創見新発明なるが如く吹聴するを以つて得々たるの学者教育家多き時代にあつては、凡そ地球上何れの地方に於てか或る軽便にして而かも実用多き方法の発見せらるることあらば、忽ちにして其他の国語に翻訳せられ忽ちにして之を実地に応用せらる可ければなり。五無等不幸にして他人の著訳書を閲読する余裕無きもの茲に二十年。実際教授の任に従はざるもの茲に十年。而かも適当なる児童教授の真方法は未だ発見せられざる事と見え、児童の父兄よりは怨嗟の声を聞くもの多きは兎も角も、近来は世の教育者諸君よりも是等の嘆声を聞くこと屢なるが上に、未だ其矯正法の発見せられたるものあるを耳かず。頗る甚だ憾む可しとなす。乃ち頃日来二三教育者の諸君に聊か愚見のある所を談りたるに、七分通りは賛成なり、又多少参考となる可き節ありなどの評言を辱ふせり。七分通り談りたるのみにて七分通りの賛成を得、多少話したるのみにて多少の参考ともなる程ならば、若し十分に多く語り出でたらんには十分の賛成を得多大の参考と為す可き筈なり。

（信濃公論　第八〇号　明治四三、五、一一）

初雷

今日は何だから日が吉い、今日は何だから日が悪い。今日は誰の記念日だから何う云ふことを為さなければならぬの、やれ何のかのと、昔から日に関する迷信が何処の国にも行はれる。理性から観れば馬鹿々々しい事だが是れも人情の自

然かも知れぬ。

迷信の原は記臆だ。嘗て快不快を味はつた記臆が情の方面から迷信を喚び起して、さてこそ日に迄も吉凶の差別を立てるものと見える。花の咲いた日に嬉しい記臆が結び附いて居れば、花の咲く日は何時になつても吉日と思へるのであらう。

人の恋も記臆だ。犬猫のやうに記臆力が薄ければ人間の恋といふものは成り立たない道理だ。誰れ彼れさんでなけりやア厭だなど云ふ執着力はつまる所記臆だ。若し記臆力がなければ誰れ彼れと極めて之れに執着する訳はない。忘れては厭よなどゝ云ふ言葉が恋の附き物であるところでも知れる。何うぞ此事を忘れずに居て頂戴な。

人は大抵死といふものを悲観する。人は死ぬから情けない、死ぬから詰らない。若し人に死といふものが無ければどんなに嬉しからうと考へる。併しながら死は人間に必要なものだ。人の一生を鼓吹するものは死だ。死は人の一生を意味あらしむる。

万一人に死といふものが無ければそれこそ大変だ。死が無ければ善も無意味だ。悪も無意味だ。倫理も道徳も全く必要は無い。惰けて成るべく楽をして暮す者が畢竟徳といふことになる。

死は恐ろしい面相を以て人間に対するけれど、実は人間の恩師だ。人間の鼓舞者だ。死の意味を深く頭に入れないものには、いくら学問を為ても到底人生の意味は解らない。死を教ゆるは実に学問の目的である。

（信濃公論　第八一号　明治四三、五、一八）

小学生徒の修学旅行に付て

今や小学生徒修学旅行の好時期にて至る処此の催しがある。子供の為好個の慰安でもあるし、又見聞を拡からしむるに唯一の方法だ。余は此の挙に双手を挙げて賛同する。然りながら之れを卒ゆる教師が生徒をして少しでも得る処あら

しめる様心掛けられ度きものなり。単に運動のみとなれば学校にても沢山なり。春は吾等をして発達成育を実際に於て教ゆる時だ。子供は此の草木と等しく成育の尤も急速の時なれば、此の時代に於て其の生物発育の意義を漠然ながらも覚らするは尤も必要なる事と思ふ。故に此の趣旨を教師諸君が持せられて催さられん事を望むに切である。又生徒の団体が汽車にて旅行する折、乗車駅に前以て申込もなく突然押寄せて来る事があるとの事で、斯る時には鉄道掛員は非常に困難を感じる。故に三日前位には其の乗車駅に申込置かれたしと某駅長の談なり。余翌も嘗て鉄道に従事せし事ありき。此の点は大に乗客者一同が諒しなくてはならぬと思ふ。鉄道は軌道の上を走るもので、客車等の配置は頗る精確に且つ敏活それぞれ扱つて居るから、乗客者も亦之れを悉知し、鉄道員が何程位の努力をして居るかも感謝して欲しいと思ふ。近来便に過ぎ随て従車業者を軽ずる様な趣はないかと思ふ。又再三耳にする処なれば敢て一言を煩すものだ。

（信濃公論　第八一号　明治四三、五、一八）

渋沢男爵一行歓迎会席上

五無斎　保科百助

二

女子に高等教育を施すの必要なしとは文部省あたりにも行はるゝ議論なりと見え、之等の施設経営なし。高等教育会議等にも之等の問題が起りたるを聞かず。貴衆両院に於ても亦然り。是に由つて之を観れば、帝国の輿論は明かに女子高等教育の必要を認め居らぬ事と見えたり。単に其必要を認めざるのみならず、文部省等に於ては高等女学校の一種として甲乙両種の実業学校にも比すべき実用的高等女学校の設立を希望せらるゝやうとなり、五無斎も亦斯く無くてはならぬ筈と思ひ居たるなり。

高等女学校といふ名称が既に妙珍なり。宜しく女子中学校と呼ぶ可きものならん。成瀬君が女子大学なる名称も亦少しく疑問なり。同大学にては果して大学程度の教育を施しつゝありや否や。恐らく女子高等師範の程度の今一層低きも

のならん。慶応早稲田其他の私立大学も何だか受け取れぬ大学なり。之を要するに女子大学なる名称は、徒らに虚名誉心高き女子を吸収して教育を以て一種の営業と為すものにあらざる無きを得ん哉。

今回長野市に来られては左様の事は無かりし様なれども、斯かる必要も無き学校を起して寄附金等を募集せらるゝこと如何のものにや。私立の大学の嚆矢なりとて誇りたる京都なる同志社も、新嶋襄先生一ト度死して五公子立つことを争ひ、今や中学校たるの特権さへも失墜するに至りたり。流石は三田の慶応義塾なり。福翁存生中に於て寄附金募集の事ありしや否や五無之を知らず。岡山孤児院の如き濃飛育児院の如き、時々来県して諸種の興行物まで為して浄財を募集するやうなれども如何のものにや。信濃毎日、長野、信越の諸新聞社之が提灯持ちを為すに至つては言語同断なり。井上文泣博士が奉加の方法の頗る巧妙なるは別項記載の如し。然れども成瀬君万歳なり。本日所用ありて森村翁の御演説は之を拝聴するの光栄を有せざりしも、渋沢男爵の分は其後半を拝聴せり。殊に男爵が亜米利加人カーネギーを引いての御演説難有過ぎて涙が溢るゝ程なり。最早士百姓共が汗水たらして溜めたる端金や、木の葉商人が一二銭銭と儲けたる臍繰に御用は無からん。日本のカーネギーとも称すべき渋沢森村の両翁あらば百万二百万の金は直ちに弁ずることならん。

最後に今晩の会主たる鈴木小右衛門君以下に一言す。善光寺の一美観たる仁王門の焼失は既に二十余年の古代にあり。後町小学校内の盲唖学校は十余年前の設立にかゝると雖も、私立とも付かず市立ともならぬ有様なり。日本のカーネギーにも比す可き男爵の御来長を機として之等の奉加帳を持参せられたらば如何。信濃教育会内の附属図書館も大勧進邸内の養育院亦然り。殊に日本唯一の女子大学長一行を歓迎するが為めの宴会に賤業婦を侍らしむること、大の失態なり。今後切に御注意ありたし。

野人礼節に習はず、時に失礼の言もありたらん。然れども幾重にも御許容ありて五無等が日頃の疑問に対し成瀬学長の明答あらば幸更に甚し。

因に云ふ成瀬君よりは一言のお答も無く、満場只某高等官の二回拍手したるを見る、蚊の泣くやうなる声にて感謝の意を表したる銀行会社員頗る甚だ多し。

（信濃公論　第九五号　明治四三、九、一五）

金の使ひ方

五無斎は常に衆人広座のうちに立ちて、金を溜むることは不得手なれども金を使ふ事は上手なり。百円の金を溜むることは殆んど不能なれども、百円の金を五百円位に光らする位は朝飯前のことなり、と吹き立てたるの一人なり。然れども近来に至りて三十九年の非を悟りたり。金銭を使ふ事は溜ることよりも案外に困難なることゝ見え、十億内外の金を溜めて之れが使用法に就いては困却しゐるカーネギーもあり、タッタ五百円の目腐れ金を使い損ひて思案に迷惑をさせたる大倉某もあり。故に爾来五無斎は金を溜むることも亦使ふ事も共に不調法なりと云はんと欲す。然れども若し万が一にも金の溜りたることもありたらんには、之れが費消方をば他人に依頼せんと思ふなり。自分で持つて居ては危険此上もなし。無証文無期限無利息にて盗賊や掏児に貸与するも有り難くなく、如何はしき銀行会社は低利なるが上に破産の恐あり。意気地なき子供に渡すときは道楽費となり、御陰にて道楽息子や道楽息女となり、妻君に遣し置かば頓がて役者狂ひの資金とならん。実に野暮の骨頂と謂つ可し。五無斎一夜厠中にありて三十五万円使用法を発見せり。金満家の参考ともなりぬれば左に。

第一条　金一万宛を一市十六郡の郡市長に依頼して各市町村に配付して貰ひ、学校長教員学務委員等協議の上村内の秀才を抜擢して中学教育を受けしむること。此金計十七万円也。

第二条　金一万円宛を県下八ヶ所の中学校長に依頼して、校長教員協議の上校内の秀才を抜擢して更に高等専門の学問を修めしむること。此金計八万円也。

第三条　金一万円宛を県下四ヶ所の高等女学校長に依頼して、校長教員協議の上校内の秀才を抜擢して更に女子高等の学術技芸を修めしむること。此金計四万円也。

第四条　金一万円宛を県下四ヶ所の実業学校長に依頼して、校長教員協議の上校内の秀才を抜擢して更に高等なる学

芸を修めしむること。此金計四万円也。

第五条　金一万円宛を男女両師範学校長に依頼して、校内に於ける秀才を抜擢して更に高等なる教育上の研究を為さしむること。此金計二万円也。

と。是は如何にも空想論なりと云ふ人もあらん。然れども敢へて実行しがたき事には非ず。金さへあれば誰にも出来ることなり。若し七十万円なれば一万円づゝとある所を二万円宛とすれば可なり。私立学校を立て生徒の募集を為し、苦学生の人物試験などを一々実行したらば其煩雑なること殆んど名状すべからず。昼夜衣帯を解かず寝食を忘れて東西南北四方八方に飛び廻るも其成功は甚だ覚束なし。殊に慈善事業などに手を出さば忽ち辛き経験を嘗むるに至らん。是は五無斎の数回経験したる所なれば努々一点の疑あるべからず。偖て斯く自分一人にては廻り切れぬとすれば、勢ひ夫々金子費消委員を雇入れざる可らず。雇人根性といふ一種の性質は誰にもあることなれば数多き雇人の中には費消方を工夫せぬもあり又天性無能力なるもあらん。又何十何万百万の金子を托することなれば忽ち悪心を起して之を胡魔化さんとするもあらん。且つ斯く一々俸給を支払ふとすれば、成績の見るべきもの無きが上に百万の金も五十万か三十万の光を放つに過ぎざるべし。郡長のうちに六百円郡長もあり八百円郡長もあるなり。師範学校や中学校の校長連は千円以上千二三百円が普通相場なり。其以下の人々も皆俸給に衣食するの人なり。俸給に衣食する人なれば幾分の除外例はあれども無責任の人のみには非ず。市町村の名誉職に至つては況んやに於てをやなり。斯の如く金子費消委員の任命は政府や県当局者の任命し置きたるものを無料にて借用し、監督は地方長官にして貰ひ、報告書は拝見するに及ばず、百三十万の県民諸君幸ひに之れが監督の労を取れなど洒灑たらば其気楽さ加減は与に比すべきもの無からん。即ち十万の金は十万に光り、百万の金は百万の価を失はざる可し。此金子費消方法は普通有り触れたるものにして敢へて珍とするには足らざれども、大仕掛にすればする程意外の奏功を見るに至るべし。

（信濃教育第五〇七号）

味噌汁論

農家の諺に味噌菜を喰ふやうにては金が溜らぬといふことあり。味噌菜とは五無斎の最好物とする所の生マ味噌や焼

味噌を嘗め、又は間引大根の葉や茄子大角豆等の味噌醢等を謂ふなり。偖是等の味噌菜を用ふるときは自然食事も進むもの故に身代も溜らぬといふことならん。又地方の豪農と呼ばれ町場の紳商とも云はるゝ人の勝手元を見るに、三年味噌といふがあり。三年とは名のみにて四年五年なるもあらん。既に水分は失せて黒褐色に変じ、臭気鼻を突き殆んど食ふに堪えず。然かのみならず節倹なる家庭にあつては其味噌汁をつくるの際振塩を為すなり。振塩とは味噌の分量を減するの方針にて一掬の塩を味噌汁に加ふるなり。去れば斯かる家庭に於ける味噌汁は名のみにて其実は黴臭き一種の塩水に過ぎず。豪農紳商といはるるの人蒼白色の人多く夭折者多きも是れが為めなり。五無斎謂へらく、斯る事は倹約とはならず。野菜多ければ余分の米飯を要すとは惑へるの甚しきものなり。成る程一回二回位は余分に喫する事もあらん。然れども一年三百六十五日の三倍即一千九十五回共飯一椀宛を過食する事は殆んど不可能ならん。人の胃腸の力には自ら際限あり。過食暴食は忽ちにして胃腸の病を生ぜん。且つ味噌菜の如き味噌汁の如きも同じく胃腸の一部を占め米飯の位置を占領するが故に、副食物の多きは偶々主食品たる米飯を減ずるを得べし。而して米飯は高価なり。是は飯一杯と味噌汁一杯との価格を比較するときは直ちに判然すべし。故に五無斎は常に米飯一杯を扣へてまでも味噌汁や野菜の類を馬喰ひ込むなり。高価なる米飯のみを食して素通りをされては溜つたものに非ず。五無斎天下随一の貧乏人なれば衣服と住宅に対しては嗜みなし。然れども味噌汁位は充分に吸ひたしとの方針にて、斗糀四合塩となすなり。斗糀とは豆一斗合塩とは豆一斗に塩の中に糀一斗を入るゝ事なり。尤もこの糀一斗は糀屋の桝にて五六合なり。四四升を入るゝ事なり。斯の如くにして製造したる味噌の凡そ一ケ年を経過せるものは、聊かも臭気なく銅褐色を呈し少しく甘味を帯び、稍濃厚なる味噌汁を造り杓子を其中に突き立つるときは其儘にて敢へて左右に顛仆することなし。偖斯かる濃厚なる味噌汁にて新鮮なる野菜や豆腐を煮、鰹節か煮干の魚を加へたるものは味噌汁大王とも称すべきものにして、金満家の家庭や下宿屋などにては一度も喰ふ事の出来ぬものと知るべし。天下国家を経倫すべき議論なれば兎も角味噌の講釈など如何といふ人のあらんかなれども、斯味噌汁は日本料理のソップとも称すべきものにして、国民衛生の深く関係する所豊国強兵の本源とも謂ふべきものなれば、五無斎百話の一として掲較するものなり。（信濃教育第五〇七号）

師範三校説と移庁論に就いて

向寒の節、追々県内の政治期に入り候為め学者も政治家も将た亦新聞屋も御同様繁忙を極め稍愉快を覚え候ものゝ、他日我長野県教育の為め否県政上の為め容易ならざる事件出来仕候につき茲に教育宗総本山の管長たる保科五無斎も亦其意見のある所を開陳可致候。必ず熟読玩味せられ度と存候。頃者当市に発行する新聞を見るに、師範三校案が本年の長野県会に顕れ可申旨記載有之候。是は途方もなき曲事たる可く候。同業の信濃毎日は官辺の意を迎合して之れが提灯持を為して賛成の意を洩らし、長野・信越の両新聞は絶対に反対の見を縷陳致可居る由に承り及び候。松本上田の新聞は未だ之を閲読する光栄を有せざれども、何れも賛成観を掲げ居ること遙察致居候。然れども之を賛成する信濃毎日新聞の態度は、師範学校を上田に与へて県庁をば長野市に置かんとするの御用新聞口調にて、長野、信越の両新聞は県庁をも亦師範学校をも長野市に置くの議論を掲げ、自分の新聞を長野市及附近の諸君に売りつけんとの商売根性より割り出したる議論に御座候。松本の新聞は松本の利害上より打算し、上田の新聞は上田の損得上より議論可致候。

然れども是必竟は正議公論とは云い難しと存候。我信濃公論は長野県二市十六郡の利害損得の上より立論可致候。信濃公論は便宜上長野市にて発行致居候得共、長野市のみの負は致し申間敷く候。ヨシ之が為めに長野市の読者を悉く失ひ候とも遺憾なき次第に御座候。もし長野市を追ひ立てられなば、五無斎の郷里なる北佐久郡横鳥村か牛山雪鞋の故郷たる諏訪郡豊田村へ移転可致候。偖府県会に於ても又郡市町村会に於ても問題を遊牝ますといふ事は実に謂れなきの骨頂に御座候。然れども県庁の役人衆も師範学校問題と移庁問題を孳尾して提出せられ、新聞屋までが之を交尾まして議論するの現況なれば五無斎も亦此二問題を交接なして議論可致候。感化院の設立地迄も之に関連し居るとは外面用意の頗る周密なるやうなれども、之れ実に大山明府（冥か将た迷か）の慣用手段たる八方美人主義否十六方否々三十二方美人主義より割り出したるの考案否巧案に御座候。然れども感化院の設立地に就ては他日筆を改めて議論可致候。大山明

府の巧案によれば、長野師範に増築工事を施して二百四十名の生徒を収容し、松本の女子師範を男子師範に改造して同じく二百四十名の生徒を養成し、今の松本の女子師範を上田市に移転せしめて同じく二百四十名の女生徒を在学せしむ可き由に御座候。偖々困り入たるは大山冥府に御座候。偖々驚き入りたるは学務当局の官吏に御座候。此困り入りたる知事此驚き入りたる学務課員によりて蚕糸専門学校は上田町に設立致され申候。今又他日の厄介物たる三つの師範学校が出来可申候。今日となりては何とも致し方なし。乃ち我公論は大に其非なる所以を開陳して県会議員諸君の参考に供し、之れが否決を強請するものに御座候。学務当局の官吏が主張する所を聞くに、県下の学級数丈の正教員を養成するの必要ありとの事なれども、コハ非常なる謬見の一たる可く候。由来正教員准教員と云ふ名前がヒョンなものに御座候。支那の孔子君などは師範学校の卒業生には無之候。三田の福翁の如きも亦所謂正教員准教員にては無之候。免状などは一本も所持されぬ様に承り及び候。又三田の福翁には免状の呉れ様無きに究したるの余り、一桁否二桁も飛び越して大博士の称号を承りたしと当時の文部省より申し出でたれども、芽出度辞退されたる由に聞き及び候。斯かる次第なれば小学校の先生方も、普通の読書算が出来るうへに一種の感化力のある人物ならば誰にも出来る筈に御座候。無理鎗に怪しげなる師範学校卒業生を以て各学校の各学級に配置せんとするは愚の極りに御座候。仮に学務課の注文通りに学級数丈の教員を養成したらんには、学務年限中のものにして服務することの出来ぬ教員が多数出来申候。若し強ひて之を服務せしめんとするときは、開校以来同一学校に勤続して、学力も相応にあり、生徒にも亦父兄にも信用ある立派なる村夫子を退隠せしめざる可らざるに至らん。是即ち長野県の教育を破壊するものに御座候。是は空想寧ろ妄想より割り出したる議論には無之、実際問題に御座候。明治三十七八年日露戦役の起るや、長野市あたりの貸長家の主人よりも経済眼の低き関清英という剛情知事のために一学級の生徒数を増加せしめられ候為、千余人の教員は衣食の道に究し、巡査志願を為し学校の小使にまでも住み込みたるものありしやに承り及び候。爾来長野県の教育者は萎縮病に罹り申候。此上多数の教員を養成したらんには、萎縮病の自乗羃三乗羃百乗羃が出来可申候。学務課の役人衆が権威を弄し愛憎好悪を自由自在にし傲然として人間職を辞する迄も其椅子に齧り付きて居んが為めに好都合なる可きも、県下教育の為め慶

事には無之候。且又夫程に正教員が入用ならば、長野の男子師範と松本の女子師範とに二部生を置きて、中学校と商等女学校の卒業生に一ヶ年位教育学教授法を教へて、毎年毎年三百人も五百人も教員の製造法を可被成候、中学校や商等女学校濫設の結果、農工商の実用向ならぬ高等遊民や、標の折れぬ羽織を縫ふ程に無器用なるが上に三度の飯さへ六々炊けぬやうなる女学生が多数に出来て自然主義の実行に余念なきの折柄、斯る救済事業は目下の急務に御座候。中学校商等女学校と師範学校の教育法に相違あるやうに吹聴するものあれども、夫は出鱈目論の一たる可く候。何れの学校にても2に2を加へて4、5より2引いて3残る。君に忠、親に孝、と教へ居り申候。天といふ字を千と読むものも無ければ、地といふ字をテンと教ふるものも無之候。加之五無斎を以て見れば中学校高等女学校の出身者を一ヶ年間養成したらんには、四ヶ年間師範学校にて養成したるものよりも遙かに立派なる教員が出来可申候。師範学校の入学生は多くは貧乏人の子弟に御座候。貧すれば鈍すの諺の如くドウしても下品なる人間が多きやうに御座候。之に反して中学校高等女学校の卒業生は何れも有徳者の子女に御座候。少くも四五ヶ年間に小千円の工面の出来る家の子女ならでは、中学校や高等女学校の卒業は出来申す間敷候。此セチ辛き世の中に小千円の金を懸けて其子女を教育するの家庭は、中産以上寧ろ第一流の財産家に御座候。衣食足つて礼節を知るとの諺の如く、稍人格の高きは比較的中学校高等女学校の卒業生に多かるべくと存候。学問ばかり出来ても飯の喰へぬが為めに、学務課の役人衆や郡長郡視学や村長助役学務委員村会議員の裏門をコツコツと軽く叩くやうなる教員には、迚も旨き教育は出来申間敷候。少しにても気に喰はぬことがあれば、帰去来の辞でも口吟みつゝ五斗米の為めに膝関節を屈せん哉と辞職届でも出して直ちに銀行へでも飛び込むやうなる人ならでは、真の教育は出来ぬ筈に御座候。五無斎嘗て小県郡武石小学校に長たるの日、赴任の当日辞表を認め、村会議員中の八ヵ間し屋に内容を明さずして封印せしめ置き、満四年の後留任勤告運動委員の多数来りたる折開封して之を示したること有之申候。武石村の学校は当時八ヵ間敷学校にて、五無斎赴任の当日新旧両校長送迎会席上五無斎に辞職を勧告したる者もあり、気早な連中二十人許りは拳骨を固めて起立したる程の権幕に有之申候。

当夜辞表を認めたるも亦全く之れが為めに御座候。然り而して武石村に於ける五無斎の成績は中の下位には参りたる

次第に御座候。此処を善く善く御勘考可被成候。且又師範学校の入学生中には徴兵が怖さに入学するものも多数なる様に御座候。現に五無斎保科百助の如きも慥かに其中の一人に御座候。徴兵を厭やがるやうなる者には迚も忠君愛国論などは出来申間敷候。五無斎は北佐久郡の一水呑百姓の家に生れ学資金無きが為めに師範学校へ入学したるものに御座候。之が為め義務年限が終るや否や直ちに辷り出して石屋鳥屋筆墨屋とまで成り下がり申候。

筆売と　落ちてふたゝび　溜の中、落る時には　おつるものなり。

筆売りと　落ちて二度目は　溜の中、三回目には　二階からなり。

筆売は　車が重く　溜くさく、二階からでは　命危し。

こころある　人に見せたし、五無斎が　鳥の料理と　国のれうりを。

生徒の数が多数なれば感化が及ばぬとの議論は素人論に御座候。生徒の名前と顔付きとを一々記憶し居らねば感化が出来ぬなどとは極たる僻論に御座候。当時教育者間に非常に持て囃され居る二宮尊徳翁は、上杉鷹山公の事を書きたる野芹といふ書と、県下松代藩士恩田木工の事を記したる日暮硯といふ書によつて大感化を与へられて、今や小学校生徒の模範人物となられたる次第に御座候。松本小学校の校長三村寿八郎と云ふ人物は、五無斎と同時に入学し同時に落第し而も卒業の際には尻から一二を争ひ居たるものなるが、終に五無斎の勝利に帰し目出度尻から一番は無論五無斎にして、辛じて尻から次席の位置を占めたる程の大愚物なるが、生徒の数三千職員の数九十六七人を手下に使つてドウやらカウやら校長が勤まつて居り申候、而して松本小学校は小学校としては世界第一の大きな小学校のやうに承り及び候。渡辺敏君なども一時長野市全体の小学校長たりしが上に、高等女学校長と商業学校長を兼ねて居られたる事も有之候。城山西東後町西東及び鍋屋田など五校に分設するなどは、文部省の規則を墨守して臨機応変の所置を知らぬ長野県の学務課の役人衆が新発明法なれども、文部省の役人衆よりお目玉を頂戴して、再び渡辺老人を引張り出して鍋屋田の校長となし、首席訓導の鈴木が校長職見習を卒業したから今度は城山に転任せしめて、中沢某に校長見習の実地演習を為さしめつゝあるの現況なりと或る悪口屋は評し申候。何だかヒョンなものに御座候。当初渡辺老人を単に高等女学校長の専任とし

たるは、松本の三村寿八郎（すはと読む。是れ師範学校在学当時の称呼なりしなり）が稍人望あるを見て高等女学校の校長兼務などを出願して来られては大変なりとの懸念よりなりと伝ふるものあり。上諏訪小学校長の岩垂今朝吉（ガンダレ、ケサキと読む）中学校教諭を兼務して居るが上に高等女学校を兼任せしめ度しと町会が決議して出願したるが小面悪くしとて、町長の黒沢某を高等女学校長心得に任命し置くとは、是れ亦学務課の役人衆の新発明なり。町長の高等女学校長兼務は広い外国の事はイザ知らず日本中の一異彩を放つものと謂ふ可く候。町役場に御通牒に及び候也を書いていても生徒の顔は見ずとも又名前は知らずとも十分なる感化の及ぶ事として、黒沢町長を高等女学校長に任命して岩垂を排斥したるものらしく候。一方に於ては斯る事をして置き乍ら、師範学校の校長のみは三百人以上は感化が及ばぬとは自家撞着に非ずして自課撞着と申すものに御坐候。甘い親仁やお袋には一人息子一人娘にさへも感化が及ばず候。如何に学校が小さくとも感化の及ばぬ校長には教育は出来不申候。二三千年も前に生れた周や天竺の孔子君や釈迦君などは、隔世感化というものを五世界数百億万人に与へ居られ申候。去れば十二学級以上は感化が及ばぬなどの議論も規則も反古同様なるものに御坐候。今仮りに松本市に就いて云はんか。仮りに北深志学校南深志学校の二校ありとせよ。教員間の軋轢は申すに及ばず生徒迄が種々なる衝突を来す可く候。之れ頓がては議員選挙にも影響を及ぼす可く候。議長副議長や市参事会員の選挙迄も八ケ間敷く相成り可申候。

松本市は北深志町南深志町と二つに別れねばならぬ破目に陥り申可候。松本市の小学校が男子部女子部源地部となり居る事さへ、松本市の教育の為めには慶賀の出来ぬ事に御坐候。

長野市の城山西東後町西東鍋屋田などは況んやに於てをや御坐候。長野松本共に附属小学のある事さへも教育の為めには不吉なる現象の一たる可く候。是は人間の悲しさに附属の先生方は市立の学校生徒よりも自分の生徒の方が出来るなどと自惚れ、何に附属がと市立の学校先生方は吹聴する悪癖あるが為めに御坐候。自惚心高慢心の養成と発達とは教育上由々しき大事件に御坐候。下高井郡高社山麓に平岡村といふがあり。中野町に接近し居るが故に菜つ葉大根も相応には売れ、山には肥料用の青草もあり、養蚕の業比較的に発達して戸数は五百三十何戸かを有し、村内出身の現任県

会議員には市川治兵衛池田虎助の両君あり、村内の中央役場の辺より最遠距離は十五町何十間かに過ぎず、高等小学校は中野町に組合ひ、単級学校は三つあり。何れも小さな学校のみなれば感化の及ぶことは蓋し莫大なるものならん。是れ即ち文部省及び長野県学務課連の理想的模範の教育法かは知らねども、五無斎は遺憾ながら不賛成を申上けねばならぬ筈に御坐候。師範学校を三校置く方便利なるや否やの問題は遠く例を他の府県に求むるに及ばず、二三円の汽車賃を奢んで隣県たる新潟県に到らば自ら明了と相成申可候。新潟県の中央なる長岡市に女子師範あり、同学の友河面松衛氏此れが校長たり。而して他に新潟高田の両市に各一個所宛の男子師範学校もあり。此両師範の卒業生は月々上越下越の悪感情を養成しつつあると同時に長野市附近のヘボ政治屋連は松本市に移庁すべしとの議論あるを苦に病んで郷津湾築港をお囮に使ひて、上越を割いて長野県に合同せんなどの野心を懐くかと思へば、長野市にて発行する諸新聞殊に信越新聞などヒョンな名前の新聞が自己の懐を肥さんとの悪手段を弄して益上越下越の悪感情を挑発するやうなる議論を書くもあれば、高田や直江津にて発刊する諸新聞も魚心あれば水心ありなど洒落れ込んで長野県に秋波を輸り、陰に陽に下越のものに波鏡談を持ち懸くるなど言語同断不埒の行ひのみ多き次第に御坐候。斯の如き次第にて若し愈々師範三校説の成立することもあらんには、南信北信の悪感益々高まり、教育上のみ位ならば兎も角、頃がては之を県治上に迄も及ぼし、県庁や師範学校に火附等盛んに行はれ、其度毎に十六郡の県民は県庁や師範学校を再築三築四築五六築致さねばならぬ筈に御坐候。県庁の位置などは交通機関の発達したるの今日、苟も停車場のある所なれば何れにしても宜敷御坐候。上水内の柏原でも諏訪の富士見にても宜敷御坐候。県庁の位置争は必竟長野松本両市及び附近の菜つ葉大根売りの立場より立論したるものに御坐候。只此菜つぱ大根屋の為めに時々古川芳憲に出られては夫こそ溜つたものには無之候。県庁舎の位置に就いては長野松本両市及び附近の菜つ葉大根屋をして解決せしめよ。十六郡の議員は成る可く郡部の利害損得問題より打算して寄附金の成る可く多き方に決議して。之を内務大臣に哀願して可なり。五無斎など天竺浪人筆墨行商兼石屋新聞屋の目より見れば、長野市を繁昌せしむるも将に又松本市を隆盛ならしむるも何ちらにしても一向差支なし。且つ長野市の商人とても孫末代迄長野市に居らねばならぬといふ必要もなからん。松本市の商人とても

下宿屋を始めたくば長野市に移住して可なり。共進会閉会後未だ数日ならざるに、下宿屋旅籠屋の明き屋到る所にあり、御世話申すべし。尚ほ明治五十年には世界博覧会が江戸村に於いて開設せらるゝ由なり。ホテルの設備が出来ぬ為に四十五年を五十年に延期したりなどいふ者さへあるなり。尚繁昌の都市は英吉利に倫敦あり、仏蘭西に巴里あり、など五無斎は調戯つて見たき一人に御座候。之を要するに郡部の為甚だ不経済なるが故に、五無斎は県庁は長野松本何れにても可なり、長野に男子師範、松本に女子師範各一校づつの現況維持説を主張して、極力之が遂行を絶叫するものに御坐候。偖斯の如き場合に於て仮りに五無斎をして長野県知事たらしめば、下らぬ学校とは云へ蚕糸専門学校が上田市に置かれたるの今日、県庁をば長野市に据え置きとなし、南信七郡殊に東西筑摩諏訪と上下伊那の県会議員を抱き込むが為めに富貴楼にて二三円の会費にて一杯飲まして置いて、桔梗が原高等学校頓がては信州大学設立など洒落れるものに御坐候。前任知事関清英君などならんには五無斎の此説の如きを採用し呉るゝやも知る可らずと雖も、平岡村の小学校を以て理想的模範小学校と心得居らるゝ大山明府以下学務課の役人衆が、市川治兵衛池田虎助二県会議員の集会たる長野県会と相談の上、何の様なる決議を為すやは頗る見物聞き物に御坐候。身を新聞屋に置く天竺浪人の五無斎なれば其の何れに決するやはお構へ無けれども、偖々困つたものに御坐候。

終りに望み五無斎は三十九人県会議員の諸君が此文章を熟読玩味せられて、其起立を誤られざる様希望するものに御坐候。最も最後に五無斎は長野県知事従四位勲三等大山綱昌君に向つて、閣下若し大山冥府若しくは迷府に非ず真に明治の御代の明の家の明府たらしめば、若し果して不良二千石に非ずして良二千石たらしめば、速かに此師範三校案を撤回して、更に桔梗が原高等学校頓がては信州大学設立案を提出せられ度、不肖五無斎敢へて犬馬の労を執るをと辞せざるのみならず、関清英君以上の敏腕家として警視総監は愚か内閣総理大臣の椅子を奉納可致候。若し夫れ然らざらんか、筆墨の仕入の為め上京の序を以て刺を県治局長若くは内務大臣に通ずることもあらん。閣下乞ふ、其一を択んで可なりと申し上ぐるものに御座候。尚ほ書き度き事は多々なれども此位にて擱筆可仕候。草々敬具　五無斎　保科百助

長野県知事　大山綱昌　殿

三十九人県会議員各位御中

追啓　本信濃公論第四号に於ては七千余言二頁を費して師範学校並に県庁舎共に現状維持説を主張致し、本号に於ては感化院位置問題に関する私見を申述べ始め候得共、尚不安心なるの点少からざれば前論の不足を補ひ可申候。

由来問題を交換すといふ事は在野政治家即ち議員側の致すことに御座候。去れば当局者より之を交接して出すといふ事は心ある為政治家の敢へてせざる所に御座候。ヨシ之を遊牝すとするも其細工の如何に巧妙にして素人には分らぬ様なること肝要に御座候。然れども大山冥府今回の遣り口は文学上之を小刀細工と申上候。都べて斯る場合には大鉈若しくは大鉞を要すべきに是は又格別に御座候。若し是れが前任知事関清英君ならば疾風迅雷耳を掩ふに暇あらず。恰も之れ落雷後に於ける神代杉の如く綺麗サッパリ解決致すべしと或人は評し申候。蓋し或は然らんかとも被存候。茲に所謂疾風迅雷的解決法とは如何なるものなるかといふに、五無斎の所謂桔梗ヶ原高等学校頓がては信州大学に御座候。五無斎が信州大学設立論を致候折此疾風迅雷論が出で候故に、直ちに信州大学問題と解釈したる次第に御座候。尚信州大学論に就いては他日章を改めて之を詳記するの期ある可くと存候。古川芳憲の放火事件や、厭世の結果日本海に投身し劇薬を仰いで自殺したるものもあるを見て、直ちに前任原師範学校長や新任柴垣師範学校長が是等不都合なる生徒を養成し感化したるが如く云ひ触して師範二校説の説明用に供して得たるの学務課もあれば、之を受け売りして揚々たるのヘボ新あるに至つて言語道断沙汰の限りに御座候。之を要するに出歯り屋も火附けも自殺者も是れ一種の流行病と見るの外なく候。然り而して此流行病の初発患者は八百屋のお七と藤村操とに御座候。尤も如何に流行病なればとて之を感受すべき素質の無きものには感染致さぬ様に御座候。肺病は人間社会に在りては極めて恐るべき伝染病なるやう承り及び候得共、蛇や蛙が之に感染して北里病院に入院したりとの談は神武以来未だ聞き及ばざる所に御座候。即ち是等の素質あるものが此流行病に罹りたるものに御座候。去れば少しく不都合なる生徒が罷出したりとて、男女師範二校論の論拠とはなり申す間じく候。両個の男子師範を設立するは宗教上両本山を立てたりと申すものに御座候。宗論は是よく漸く盛んならんと被存候。末寺未派は申すに及ばず信徒や信徒総代の間にも厭ふ可き一種の党派を生ず可く候。同一小学校

内に長野派松本派を出すべく候。校長や郡視学の苦心は今より察せられ申候。郡視学や学務課の間にも長野派松本派が出来可申候。二部長閣下も此両派の議論を調和するに苦しみ申可候。郡視学会議なども随分八ケ間敷事と存候。尤も是は明治五十年以後の事に御座候。新潟県にては三校を一校とするの議論今や県会にて火花を散らし居る由に御座候。我長野県に於ても明治十六年頃迄二校なりしを漸くの事にて一校としたるにて候。再び之を二校とするに就ては余程の論拠なくしては叫ぶ可らずと存候。中学校高等女学校や各種実業学校の如く卒業の後は何れの方向へ行かうとも本人の得手勝手なる種類の学校ならば兎も角も、是は地方税を以て衣食の費を給し同一の義務年限を附し、協同一致以て同一の職務に服役せしむ可きものに御座候。去れば師範学校は其性質として必ず一校たる可きものに御座候。支那の諺に天に二日なく地に二王なしと有之申候。此辺を善く〳〵御勘考願上候。加之五無斎は松本女子師範学校長矢沢米三郎君に向ひ同情の念転た禁ずること能はざるものに御座候。松本の女子師範は長野師範より分家し五六の星霜を経て斯く昨今に至り膳椀皿鉢鍋釜の類も揃ひ菜つ葉大根も蒔きつけたる位のものに御座候。今又更に上田に新宅を構へ膳椀皿鉢菜つ葉大根の蒔き付けを為さんが為めには、更に五六の裘葛を経さるべからざる次第に御座候。十年間新世帯の世話など致し居り候ては、子弟に教育を授け貯金など為すに至るは何時の事やらに御座候。若し五無斎をして松本女子師範学校長矢沢米三郎君たらしめば、速かに部下の職員と共に同盟辞職可致候。百尺竿頭更に一歩を進めて飯田町にも亦一個所の女子師範学校を設立したらば如何。学校数丈ケの男女正教員を得んこと近く数年の後にあり。勢ひ学校も少さくなるが故に感化も細かき所迄行き亘りて、古川某や神沢佐藤両女教員の如きものを輩出せしむることも無く、大山冥府の総花政略も隅々まで行き渉りて長野県の教育是より見るべきものあらん。然れども天下豈斯の如きの馬鹿気切つたる事あらん哉。

最後に五無斎は潮事務官以下各学務課員の各位に問はん。各位は真に男子師範二校説なりや否や。各位の中心を解剖しては実に無礼此上も無けれども、各位も亦吾人の如く男子師範二校説には不賛成ならん。然り而して其之を敢へてする所以のものは只々長官の意見なれば万止むを得ずといふに過ぎざる可し。五無斎は寧ろ各位に同情の涙を濺ぐの一人なり。最も最後に五無斎は大山知事に問はん。閣下果して当初より男子師範二校説なるか。然れども是れ閣下の本心に

は非る可し。野心ある政治屋連の恐喝に逢ひたるには非ざるか。五無斎は寧ろ閣下に同情するものなり。最も最も最後に五無斎は信濃毎日新聞記者に問はん。理窟の分らぬ県参事会員などを社長や大株主に持ちたるの諸君は実に厄介なるかな。悪いことゝ知りつゝも曲筆せねばならぬこともあるやうなり。故に五無斎は諸君に対しても亦同情の念転た禁ずること能はざるものなり。最も最も最後に五無斎は男子師範二校説の総火元なる某県会参事会員に向つて、此故に夫の佞者を悪むの一言を呈せんと欲す。斯く書き終りて最初より読みもて行けば首めの大部分は候文体にて尾の一小部分丈けは記事文体に御座候。何事も急がしき折と感情の激したる折はコンなものに御座候。非常に繁忙を極め居り候まゝ更に更め写すを須ゐず。無礼失敬此上も無き次第に御座候。草々。

（信濃教育　第五〇七号　昭和四、一、一）

四　広告類

週間新聞　信濃公論　営業振り改正広告

主筆兼編輯　牛阿弥　飯田　弟治
大株主記者　雪鞋　牛山清四郎
社長兼小使　五無斎　保科　百助

信濃公論は昨明治四十一年十一月三日、辰天の佳辰を以て孤々寧ろ頑々の声を上げ、爾来月を閲するもの四号を重ぬるもの十又五。

其内容の如何は読者各位の間自ら定評あらん。自分にて見れば何となく善き新聞なる様なり。偖新聞は善く出来たれども商売は下手なり。加之五無斎黒内障即ちソコヒにて二眼明を失す。依而営業一切を共同新聞店に托する事としたれば、自今以後各新聞売捌店に就て御購読あり度し。各新聞売捌店に於ては月勘定の筈なれば乃ち代は見ての御戻りといふ寸法なり。従来本社へ直接御注文の分は、帳簿一切を共同新聞店へ譲り渡し置きたれば、従前通り無難に配達ある筈なり。尚ほ前金ならずして御申込み有之候分は此際各売捌店へ御払込み有之たし。営業振り改正依而如件。

信濃公論社長株主記者兼小使　半盲人　五無斎　（信濃公論　第一六号　明治四二、二、一七）

一　肥料標本調製実費販売広告　五無斎　保科百助述

此頃元県庁の焼け跡に長野県肥料検査所主任坂本義人君を訪ひ、偶々肥料論に及びたりしに、君は言ふ、現今統計表の示す処によれば、我長野県にて施用する肥料の総額は三百余万円なれども、実際は六百万円に下らざる可し。此六百万円の肥料中一両年前迄は優に壱割位の不正品を混合しありたり。更に十年以前に於ては二割五分乃至三割の混和物ありたりといふ。六百万円の一割は之れ六十万円也。年々六十万円を奸商等に踏ん奪くられては中々以って溜つたものに非ず。是何によつて然るか。農家一般の諸君が斯学の智識を欠如するに職由す。然り而して斯学の智識を普及せしむるは各郡市町村農会と小学校の教員諸君に待たざる可らず。近時各郡市町村農会に於ては頻繁に各郡農事巡回教師やら蚕学校の教師などを聘して斯学に関する講習会講話会を開かるゝ様なれども、其標本なきが為めに何れも総論の部のみにて各論の部は稍忽緒に附せらるゝもの〻如し。肥料学の本部とも号すべきは其各論にあり。総論の部は大体に就て大法螺が書いてある故面白ろ可笑しく善く了解し得れども、各論の部に至つては実物なきが為め隔靴掻痒の嫌らひ無くんばあらず。乃ち五無等は此欠陥を補はんが為めに、肥料標本を調製して実費販売を実行せんと欲す。若くは実業数育の進歩発展、多少の効果なくんばあらずと深く確信するものなり。

偖今回坂本君に托して蒐集したる標本の種類は次の如し。

第一　鉱物質肥料

1過燐酸石灰。　2特製過燐酸石灰。　3精過燐酸石灰。　4強過燐酸石灰。　5トウマス燐酸。　6グアノ。
7硫酸アンモニヤ。　8智利硝石。　9石灰窒素。　10硫酸加里。　11塩化加里。

第二　動物質肥料

12蒸製骨粉。　13魚骨粉。　14タンケージ。　15乾血。　16角蹄粉。　17獣皮粉。　18魚粕粉。　19鰮〆粕。　20餅〆粕。　21さなぎ。　22さなぎ粕。

第三　植物質肥料

23菜種粕。　24雑植物粕。　25大豆粕。　26飴粕。　27ヤシ油粕。　28印度産菜種油粕。　29ホップ粕。

第四　配合肥料

30牛印完全肥料　31鹿印完全肥料。　32富士印完全肥料。　33同。　34籠目印完全肥料。　35同。　36日星印完全肥料。　37同。　38桜玉印完全肥料。　39同。

第五　過燐酸製造原料

40燐酸。　41同。　42同オウシヤン。　43ラントペプル。

第六　不正肥料の原料

44マンダラ貝。　45火山灰。　46カーバイト残滓。　47小管の土。　48芒硝。　49陶土。　50籾糠の粉。　51鉋屑の粉。

偖是等の標本は二オンス入れの罐詰めとなし、腐敗醱酵の患なき様クロロホルム一滴宛を注ぎキユルク栓を施し封蠟にて固く之を封じ、更に坂本君の説明書を添ふることゝせん。従来の標本は何れも説明書を欠くこと第一の缺点なり。標本を見つゝ説明書を再読三四読更に五六読八九読せば、如何に脳力の低度なるものと雖も之を了解し記憶せざるの理

由あらん哉。若し斯くの如くにして之を理解し記憶せずとありては、之れ一種の奇蹟たるなり。偖五無等が是非共本標本を買つて貰ひ度しと思ふは、

第一　農業補習学校を附設しおる小学校なり。

第二　県立若くは郡市町村立の甲乙種農学校なり。

第三　各郡市町村立の農会なり。

第四　各市町村の青年会なり。

第五　各郡市町村の肥料商諸君なり。

第六　各市町村に於ける財産家篤農家の諸君なり。

殊に肥料商財産家篤農家の諸君にしてコを購入せられ、充分之を研究せられたるの後之を其地の小学校へなど寄附せらるれば愈以つて妙ならん。小学校に於ても各其主任を定め肥料学の蘊奥を極め、青年会婦人会若くは町村農会等に於て大演説大講話を試みられなば、其地方教育実業の進歩発展は自分ながら驚く可き程とならん。従来婦人会青年会及農会等の振はざりしは、兎角実用に益なき古人の嘉言善行など御説法を聞かさるゝが為めなる可し。五無等幼少の折親類廻りすることを嫌ひたり。是れ其伯父叔母より諸種の御説法を頂戴するが癪に障りたるが為めなり。

偖小学校などにては時間が無くて困るといふ人もあらん。然れども雨降りの折の体操時間など二三時間を割愛せられたらば善からん。説明などは殊々しく為るに及ばざらん。只々説明つきの標本を巡覧せしむれば足れり。学校で覚ゆれば善けれども覚え無くとも善し。学校にて標本を見て置かば、他日農商業に従事するに当つて必要を感ずるに至らば、再び学校に来りて標本を見せて貰ひ度しと申し出ることもあらん。今度こそは自らの必要上必ず諸種の事柄を理解し記憶することゝならん。

偖物の売買に当つて先づ第一に必要なるは値段の折合が肝要なり。五無等近来頗る金を溜めんと欲すれども余り慾をかき度くも無し。要は只教育と実業とを進歩発展せしめんが為めに安価なる標本類を供給すれば足れり。故に若し予約

者の数、百組以内なれば、着手せず。百組以上二百組以下ならば、一種六銭宛即ち凡三円の事。若し、二百組以上三百組以下なる時は、一種五銭五厘宛。即ち凡そ二円七十五銭の事。若し夫れ、三百組以上ともならば、一種凡そ五銭宛。即ち一組大凡二円五十銭の事。

勿論運賃は各自御自弁の事なり。素と五無等は資本の有り余れるに非ず。余分のもの製造し置きたりとて詮も無し。去れば此際至急折り返し御注文を乞ふ。予約金は一文半銭も之を徴収せず。

手紙の往復等にて御互に金を使ふは馬鹿らしき事の限りなり。請求書領収証の雛型等封入にて御申込みあらば更に妙々。

坂本氏の説明書は次号より本紙に掲載す。

（信濃公論　第七八号　明四三、四、二七）

繭種類標本調製実費販売広告

我大日本帝国は養蚕国なり。然り而して我長野県は全国中の首位を占む。養蚕国の小学校教師も将た生徒も繭の種類位を知らずして可ならん哉。是れ本標本を調製して之が実費販売を為す所以なり。

標本は小県蚕業学校にて本年飼育したるものを払ひ下げて之をつくる。三オンス罎入一種類五粒宛十六種にて価金一円也。

其種類左の如し。

第一　春蚕の部。

1小石丸。　2又昔。　3中巣。　4白竜。　5姫蚕。　6角又。　7青熟。　8青白。　9支那種。

第二　夏蚕の部。

10白竜。　11新屋。　12飛白。

第三　秋蚕の部。

13白竜。　14新屋。　15飛白。　16虎蚕。

何でも五無等のつくりたる標本は、総ふり仮名字説明書付きなり。説明書は小県蚕業学校長農学士三吉米熊君なり。以上十六種の標本あらしめば、青年会婦人会若くは町村農会等にて一席の講話材料が出来たといふものなり。聴衆の満足は癪の種なる修身上のお説法を聞くに勝ること万々億々なり。之れ又払下げの数量を定むるの必要あれば至急御申込を乞ふ。説明書は肥料説明書の終結次第本紙掲載。　（信濃公論　第七八号）

穀菽標本調製実費販売広告

我国は古来瑞穂の国の称ありて、且つ人類中の草食類の住居する処なり。故に諸国の学校教師も将た生徒も是等穀菽類の標本無くして可ならん哉。是れ本標本を調製して之れが実費販売を実行する所以なり。且つ五無等は去る明治四十二年を以つて岩石礦物標本を調製販売し尚ほ土壌標本調製の企てあり。岩石礦物標本に次ぐ土壌を以てし、更に穀菽蔬菜桑樹肥料及繭の種類に及ばゞ可ならんも、仕事の繁間もあれば資本の都合もあり。然り而して本年度に於ては下伊那上水内及び北佐久郡の為めに各其郡下に産する岩石礦物の標本を採集しやるの前約もありて、多数の日子と資本を要するの仕事は出来ず。今本標本の種類を列記すれば次の如し。

第一　稲の部。

1上州。　2興四郎。　3兵蔵コボレ。　4信濃早生。　5島田。　6毛京。　7脛切。　8縞坊主。　9関取。

10白三助。　11野沢早生。　12保村。

第二　大麦の部。

13三徳。　14六角　15ゴールデンメロン。　16独逸春蒔。　17タ子ツト。　18綿内早生。　19エルコルキオン。

20関取。　21甲州。　22虎の尾。　23ハンペン。　24スッパクール。

第三　小麦の部。

25金槌。　26フルッ。　27饅頭。　28オレゴン。　29モルト。　30達摩。　31赤坊主。　32鬼柄。　33ベルベットチヤツプ。

第四　裸麦の部。

34三島。　35米裸。　36郡益。　37豊年。　38日本一。　39号外。　40カネツカ。

第五　大豆之の部。

41オカメ。　42銀大豆。　43玉造。　44麹子要。

是は本年我長野県立小県蚕業学校にて栽植せられたるものを払ひ下げて、標本に為さんとするものなり。標本の製方は三吉校長の新案に成り、ランプの竹ボヤのうちに納め一部は穂の儘を見得可く一部は粒と為したるものを納む。去れば各乙種農学校若しくは篤農家の諸君に於ては、直ちに之を翌年の種子となしコを種類試験の用に供し得可し。価はと言へば、百組以内ならば着手せず。若し、百組以上二百組ならば一種七銭宛即三円の事。若し、二百組以上三百組以下ならば一種六銭五厘即ち一ト組二円七十銭の事。若し、三百組以上ならば一種六銭宛即ち一ト組二円六十銭の事。運賃各自御自弁の事。

斯くの如く殆んどランプのホヤを一本買ひすると同様の値段なれば、五無等の調りたる標本の安価なるは五無等の喋々を要せざる所なり。只如何にしても数が少くては、印刷費等が嵩む故何分にも困り入るなり。穀菽標本の四十余種あらば、又以つて青年会婦人会及び農会等の繁昌を来さん。実業補習学校の生徒も亦小学校の生徒も、目の遊山をすることとならん。偖本標本にも亦小県蚕業学校長農学士三吉米熊の著にかゝる説明書を添ふること勿論なり。三吉農学士の説明書、繭の説明書の済み次第本信濃公論紙上に掲載すべし。　（信濃公論　第七八号）

毒蕈種類標本調製実費販売広告

人間程意地汚きものなし。去れば年々毒芹を食ひ河豚を喰ひ毒蕈の中毒にて死亡し又非常なる苦悶を為すもの、世間其例に乏しからず。然り而して我長野県は蕈の種類最も豊富なりとは、斯学の大家理学士河村清一君の証言せられたる所なり。乃ち五無等は茲に長野県立長野高等女学校教諭八木貞助君に托し乏れが蒐集を試み、之れが種類標本を調製して実費販売を実行するものなり。食用蕈類までもと思へども先づ本年は毒蕈類十種内外に止めん。説明書は理学士河村清一君の校閲を経て八木君専ら之に当るの方針なり。

偖蕈類の標本は標本瓶やらフオルマリンの高価なるが故に、左程安価には参らぬものなり。一種三銭以上四十銭以内と御承知あり度し。江戸村の標本屋は一円にてつくりたるものを十円宛にて売るの方針なるやうなれども、五無等のものは一円にて調りたるものは二円に当るの方針なり。偖其種類は

1天狗茸。 2足高紅茸。 3紅茸。 4卵天狗茸。 5月夜茸。 6一本占地。 7辛初茸。 8毒初茸。 9柿占地。 10狐の松明。

此外にも種類は多けれども、必しも数多く取れると云ふ訳には行かず。先づ本年は是丈けに止め置きて、逐次研究の出来採集の出来るを待ちて標本とせん。是又採集上の都合もあれば至急御申込あり度し。

八木君の説明書は逐次本紙に掲載することゝせん。

淡水産貝類標本　淡水産魚類標本　鹹水産介類標本　鹹水産魚類標本　樹木種類標本　樹木種子標本　土壌種類標本　桑樹種類標本　地文説明類本　陶器標本　陶器製造順序標本　漆器標本　漆器製造順序標本　織物標本

等は矢沢米三郎、河野齢蔵、八木貞助、岡田邦松等の諸氏と協議中に属し、未だ其種類定価製造法等を発表するの好期に達せず。然れども本年中に無論着手する筈なれば、来年度の予算にて御購入あり度し。（信濃公論　第七八号）

日記編

一　売上帳三（通称筆売日記）……381
二　巡業日記……425
三　病床日記……434
四　長野県地学標本採集旅行記……441
五　勧焼岳登山文……500
六　三たび東上日誌……503
七　ブラツキ日誌……505
八　坪井博士に随行して野尻湖に遊ぶ……514
九　上水内郡産岩石砿物採集旅行記……517
十　機業日誌並に機業地視察報告書……518

明治四十年

売上帳 参

衆議院議員候補者筆
墨行商人全国漫遊者
五無斎　保科百助

（同売上帳表紙）

商標

●●●
●●●
●●●

此商標は先祖保科弾正以来の紋所なるが五無斎の代之を商標としたるなり

（同表紙裏）

一　売上帳 参

当時候補を名乗り出でたるもの五無斎の外に三名あり。一人は下高井郡中野町の小林万次郎といふ素封家の大馬鹿もの他の一人は古物展覧会にでも出品すべき前の北海道庁勅任事務官正五位堀内賢郎といふ案外愚物と飯山町の生道心佐々木天朗といふ㊞印なり。尚この外に北佐久郡協和村の比田井弥右衛門といふ老人ありたれども半途にて河野広中という男に口説かれて堀内に譲りたり。

紀念の歌

当選は、迚も駄目だめ。ダメなれど、筆の広告したるなりけり。

新聞広告には金六円と外に為換料及郵税にて金二十四銭合計六円二十四銭を費したるなり。

三　何人と雖五無斎より、筆墨を購入したるものは金額品名は勿論各自の官爵勲位姓名を丁寧に記載すべきこと第二冊目の前言中に述べ置きたる通りなり。

四　筆は二割五分墨は三割硯は二割の利益にして甚だ薄利なれば値引等一切せざる可し。

五　色紙短冊扇面等に揮毫する場合には筆墨料と金五厘を申受く可し。乃ち五厘の短冊は一銭に売り一銭の短冊は一銭五厘に売る可し。

六　五無斎の書きたる色紙短冊の類は大小便所の帖付用として最も適当なり。

七　五十銭以上の買物を為したるものには景品として五厘短冊一枚を呈す可し。

明治四十年九月十九日

補欠選挙執行の当日　上諏訪町玉川館に於いて

五無斎　保科百助　謹識

明治四十年九月二十日

金一円八十銭　硯一　諏訪郡四賀村　岩波　守江

金一円五十銭　〃　〃　今井　肆郎

金一円十五銭　硯一　諏訪郡四賀村　溝口　源作
金二十五銭　筆一本　〃　今井　肆郎
金六十銭　筆短冊　諏訪郡中洲村　伊藤　一哉
金四十銭　墨一丁　〃　同　人
金四十銭　墨一丁　諏訪郡四賀村　北沢　英寿

中洲学校下金子分教室に立ち寄るお茶とお菓子を頂戴せり乃ち五厘短冊に、

お茶一つ頂戴したる御礼に、
下手ではあるが書いてまゐらす、
四枚書きたんだ二銭であるなれば、
高きやうても亦やすきものなり。

境村長殿のおしりらしく諏訪郡役所の宿直室にて飲む短冊書きたる序に二十八年撮影写真ある絵はがきに

自分にて見てもどうやら色男
無理にてはなし彼奴のほれしも

金十五銭　墨一丁　中洲学校　新村　辰雄
金六銭　墨一丁　中洲学校　金井　貞雄
金九銭　諏訪郡役所　五味　作平
金十五銭　境村長　小林伊重郎

右〆金六円五十五銭也

九月二十一日　諏訪郡役所

一金八十銭　墨一丁　諏訪　郡長　広長　本光
一金二十一銭　筆六本　諏訪郡役所　藤原　光年
一金二十四銭　筆二　諏訪郡役所　五味　作平
一金十銭　筆四　〃　西沢　睦次
一金十銭　筆　〃　五味　作平
一金二十銭　筆八本　〃　西沢　五郎
一金十銭　筆四本　〃　藤原　光〇
一金四銭　筆一　〃　五味　作平
一金四十九銭　筆七　〃　諏訪郡農会
一金六十九銭　諏訪郡長　広長　本光
一金十六銭　筆二　両角　金作
一金二十二銭　牛山竹治郎

〆金三円三十五銭也

九月二十二日　諏訪教育会

金十五銭　諏訪郡役所　西沢五郎

本日信濃教育諏訪部会に出席して諏訪発展策なんかんと題して出鱈目論を為す。

又本日の信濃毎日新聞を見るに開票の結果

一七九三三　金持の息子　小林万次郎
一四四七四　政治家門閥家　堀内　賢郎
差三四五九　金力－閥力＝3459

因に云ふ。両方とも其馬鹿さ加減は殆ど同一なり故に此式中には之を加へず。

昨二十一日県属平川房吉君選挙監督に来られ共勝負何れた

るへきやを以つてせり。五無斎答えて曰く小バ万勝たんと。平川県属の曰はく又何故かと。五無斎答えて曰はく小バ万は大馬鹿に金力あり従つて、選挙前二三日頃に至り急に一万円位擲げ出し兼ましきなこと。今此結果を見たり予か言の空想ならざりしを証し得たり、佐々木天朗二十九点の得点あり。五無斎の次の如し。

南佐久郡二北佐久郡三小県郡一上水内郡二南安曇郡三東筑摩郡二諏訪郡一上伊那郡二松本市二計十八票也。

六円二十四銭の広告料を要したる筈なれば一票に対して運動費を要したるは三十四銭六厘六毛余なり。若し此割合にて計算するときは金六千二百二十二円七十五銭さへあればバ万と同一の票数を得可き筈なり戯に於て悲しい哉。

今宵鶴鳴館に於ける茶話会に出席して恩田木工の談を為す。右終つて黒河内視学の歓迎会にあやかる。

十七銭　墨一丁　北山小学校　関　佑一郎
一金十六銭　墨二丁　五味時三郎
一金五円　筆一本　諏訪　諏訪部会
〆金五円三十八銭也

九月二十三日　月　下諏訪学校

一金七十銭　上諏訪町　小松　政重
一金三十銭　〃　寺島　静江
一金六十銭　下諏訪学校　浜　孝吉
一金三十二銭　〃　岩波　磯夫
一金一円也　〃　宮坂　喜重
一金十九銭五厘　〃　佐伯　金作
一金八十七銭　〃

本日信濃毎日新聞を見るに更級郡の得票四あり是にて二十二票となりたる訳なり。うれしきこと限りなし、二十二票訂正

一金二十四銭　下諏訪　鮎沢　秀夫
一金二十一銭　〃　山田　一郎
一金一円八十銭　〃　今井　四郎

今井君、紀念の為めに一円八十銭の硯を買う可しといふ乃ち告別の歌をつくる。

左様ならハイさようなら此次は、
　商売替へてお目にかゝら舞

一金一円也　下諏訪町　両角　直哉
一金五十二銭　〃　河西伊寿蔵
一金二十銭　〃　長崎　正雄
一金三十二銭　〃　河西友三郎

お茶と菓子を頂戴したる御礼に下手ではあるが書いてまゐらす。

〆金八円二十七銭五厘也

今宵五味君来られ諏訪郡にて売りたるものの勘定を為した

るに百三十四円十七銭二厘引益は三十三円五十四銭三厘なり四十二日間に之れ丈けの商なれば雑費一円宛を要するとすれば、九円の不足彼是十円位の不足ならん。

今宵菊本に宿す。

此に尚売上帳第一冊目に記載せしもの十七円八十五銭二口合計百五十二円二銭二厘あれば二割五分の利益として三十九円〇五厘の利益なり。

九月二十四日　火　秋季皇霊祭

一金三十銭也　大筆一　下諏訪町　五味時三郎君

一金二十八銭　筆墨短冊　〃　河合　和助

〃金五十八銭也

本日は秋季皇霊祭なり、商売に出たりとてうまく行かざるべしと下諏訪菊本に滞在せるなり五味君は昨夜来訪せられたる折売河合君は今宵問われたる折に売りたるなり河合君は下諏訪町の書画骨董屋にして短冊ほしさの為めならん下諏訪の秋を見る。

九月二十五日　水　小井川学校

一金一円五十銭　筆墨　平野村　今井　槇蔵

一金七十銭也　筆二〇　〃　小井川学校

一金五十銭　墨　〃　今井君

一金九十銭　硯一面　〃　武居　久助

一金一円十二銭　墨筆　〃　八幡　金次

一金九十六銭　平野村　佐々木梅吉郎

一金十六銭　〃　滝沢君

一金十四銭五厘　筆　三宅喜三郎

一金十二銭　筆更紙　松田　周吉

一金一円二十銭　筆　吉村　酉三

一金四十九銭　筆　佐々木梅吉郎

一金三十八銭　墨〇　中沢　巡査

一金十銭　短冊　吉村　酉三

〃金八円二十七銭五厘也　利益二円六銭八厘也

九月二十六日　木　川岸学校

金一円三十五銭　筆墨　笠原川岸村長

金八十銭　筆　北沢　校長

金四十銭　墨　同人

金五十銭　筆　鮎沢佐金太

金二十五銭　墨　林　国一郎

金十五銭　〃　藤森　ます

金十八銭　筆　宮沢　米康

金八銭　藤森　女史

金八銭　笠原謙吉郎

金二十五銭　筆　林　国一郎

金八銭　鮎沢佐金太

以上川岸学校

金二十五銭　筆墨　鮎沢佐金太
金一円六十銭　硯筆　宮沢捨三郎
金一円二十銭　硯筆　宮沢　源弥
以上川岸役場
金一円五十銭　硯　鮎沢佐金太
金七十五銭　筆墨　川岸村役場
金一円二十銭　筆墨　笠原謙吉郎
以上又々川岸役場
計金九円三十四銭　利益二円三十三銭五厘
松茸にてお酒を頂戴す。

九月二十七日　金　平出学校
金一円七十五銭　筆三〇　朝日学校
金一円五十銭　墨一五　〃
金四十銭　墨一　〃
金三十銭　大筆一　〃
金五十銭　筆　小口　太一
金三十二銭五厘　筆　堀内　伝治
金二十銭　筆　長田音一郎
金十二銭　筆　松田　健三
金八銭　筆　徳武　燐治
金八十四銭　筆墨　原　才三郎
金十五銭　筆墨　野沢省一郎
金二十三銭　筆墨　矢嶋　種次
金十九銭五厘　筆墨　松田　健三
金八銭　扇一　原　須賀
金十九銭五厘　扇一　村上　千葉

徳武君柿の絵ある絵はがきを示さる。
歌をかき、足は下手だとあたまかき、
志ぶ〳〵ながらかきてまゐらす。
村上君笑という字を題にて何かよめといふ。
楽しくも亦悲しくとも只笑へ　笑ふ門には福や来ら舞
朝日学校職員諸子の催しにて茶話会を開かる図書館に関する談話をなす。
一金十四銭　筆三　平出　竹人竹日斗
一金二十二銭　筆一・墨一　同　実愛堂
朝日村米屋旅館に宿す。米屋の主人予を長野市山本屋土屋実也氏の部屋にて見たりといふ。多分知るまじと思ひたるにより茶代を置くまじと思ひたれども今は止むを得ず短冊十葉を書きて与ふ。小県の種屋南波吉左衛門といふ人

九月二十八日　土　伊那富学校
金一円十五銭　筆一・墨四　野沢　軍次
金五十二銭　墨　小松今朝次郎
金二十八銭　筆一・墨二　小沢　長人
金五十一銭　筆三・墨二　溝口　義雄

金二十三銭　筆三・墨一・短冊　中村丑太郎
金十三銭　墨一　吉江　清
金十銭　墨一　○井　潔美
金三十七銭　筆五・墨一　松田　守男
金二十五銭　筆一・墨二　栗林菊五郎
金二十五銭　筆二　平出　㊞か

伊那富警察署にて伊藤巡査甑箪に紅葉をものしたる絵をものして何か書けという乃ち筆とりて、

甑箪を見てはしきりに思ふかな、

田立姫をばかゝにほしなと。

九月二十九日　日　上伊那東筑摩　発平出至北小野

北小野島田屋に宿す。

九月三十日　月　東筑摩北小野、上伊那

金七十一銭　中島　栄宗
金七十銭　米山　武成
金三十銭　宮沢　正雄
金四十二銭五厘　小口惣太郎
金一円二十六銭　チクマチ学校

本日東筑摩郡筑摩地役場の入口にて収入役某君の為め五銭の白銅貨を両替しやりたるのみにて直ちに門前払を喰ひたれば。

筆を買へ又墨を買へ両替をするか為めにと我出来ぬなり。

金九十銭　墨九丁　小野学校
金九銭　筆　小野学校　伊藤　秀衛
金十六銭　筆二　小野学校　下島勝次郎
金十銭　朱墨一　小野学校　岡野　謹弥
金四銭　筆一本　小野学校　佐々木盛雄

九月三十日　小野村役場

金二円六十五銭　筆及墨
金四十銭　筆及墨　小野藤太郎
金六十五銭　筆及墨　小野亀一郎

小野村役場にて小野たか子が八十路の坂を越えたれば人間職を辞するの準備として都べての業務を擲ちて気楽に暮すよしをきいて。

はて慾の深き姿なり稲の葉や
ものの種でも食ふ積りか。

金九十八銭　筆墨　小野村役場にて　宇治　光治
〆金八円三十六銭五厘　利益二円十九銭一厘也

今日小野村役場にてお酒を頂戴す。

歌よみの徳は御酒を頂戴し筆をうつたり法螺を吹いたり

今宵川島村○○屋に宿し主人と飲む。

一金四十銭　一金四十銭　一金二十銭
一金七銭　一金五銭　一金七銭

一金四十銭　一金五十五銭　一金十五銭
一金五十二銭　一金五十五銭　一金十四銭
一金四銭　一金五銭　一金二十銭
〆金三円八十五銭也　利益九十六銭二厘五毛

郵便局登記所にては門前払

十月一日　火　上伊那伊那富学校　朝日村役場

十月二日　水　上伊那郡朝日学校

一金五円也　筆墨硯等　朝日学校職員

本日同校職員諸君と共に河原に到り岩石の研究を為し午後樋口に至り之より、東方の山に上り地学上の実地指導を為す秩父古生層のみなり帰りて馬肉屋にて飲む。

十月三日　木　上伊那　朝日松島

一金二十一銭　一金四十八銭　一金四十銭
一金三十二銭　一金三十八銭　一金三十銭
〆金二円九銭也　利益五十二銭二厘五毛

今宵木の下の旧友城取君に宿す。　歌よみの徳はロハにて泊り込み　筆を売つたり法螺を吹いたり。

十月四日　中箕輪村

一金三円三十五銭　墨一丁・筆四本　市川　利正
一金四十九銭五厘　墨一丁・筆二本　小平　一雄
一金十八銭　墨一丁・筆二本　小山　ゑい
一金二十五銭　墨一丁・筆二本　大賀　つや
一金十六銭　墨一丁・筆二本　毛利　喜十
一金二十四銭　墨一丁・筆二本　向山　政幌
一金二十四銭　墨一丁・筆二本　城取実次郎
一金三十銭　墨一丁・筆二本　米山　定昌

城取君と小平君が墨水を茶と間違へて飲みたるを見て歌よめといふ然れとも遂に出来ぬなり。

歌よめと君は言ふとも時として
出来る時あり出来ぬ時あり。

城取君東箕輪のキ印藤沢増金君に何か書きてつかはせといふ。

伊那の地を金箔つきのひのくるま
めぐり〳〵て君を訪ふら舞。

十月四日

金六十五銭　筆　中箕輪村役場　笠原明一郎
金六十五銭　〃　〃　千葉田六郎
金十九銭　〃　〃　桑沢定次郎
金四十銭　〃　〃　唐沢　海次
金三十六銭　〃　〃　中坪　俊三
金二円　医師　〃　管沢　正光
金一円五十五銭　南箕輪学校　〃　井口　文一
金六十銭　〃　〃　相山　豊十
金一円也　〃　〃　吉田喜三郎

〆金十二円六十一銭五厘也　利益三円十銭也

今宵箕輪村の大たきに宿す。本日売れ行甚だよし目出度し目出度し。今宵郡会議員選挙の事務所が予が旅宿に置かれたるが為めに頗る賑かなり。夜食後当地の寺沢某といふもの来り扇面四奉詔紙二葉を携へ来り二つ切りとなして何か書き呉れよといふ。のち書きて与えたるに筆も買はす墨も買はず勿論謝儀など持つては来ず八十銭の墨なれば一二銭位は多分損耗ならん。

十月五日　土　上伊那郡役所

金五十銭　筆墨　郡役所　伴野文太郎
金二円十四銭五厘　筆墨硯　〃　宮島道三郎
金二十四銭　筆　〃　池上久太郎
金二十六銭七厘外に四十銭也　筆墨　〃　林　茂
金八銭也　筆　〃　中嶋　隆人
金九十五銭　筆　〃　折井今朝十

今宵上伊那教育部会の宴会に招かる。座中小猫といふ手弱女の侍るあり彼女は信濃毎日其他に小猫の三階落ちなとの見出しにて書きてありたる豪のものなり。

新聞で承れば小猫どん
ニャンともキャットとも御気の毒なり。

十月六日

金二円二銭　筆墨硯　伊那男子尋常高等小学校
金十三銭　〃　有賀峰三郎
金一円　〃　山岸　三郎

福沢　桃十

本日上伊那教育会に於て演説す。両日共に伴野氏に宿す。

〆金八円四十五銭二厘也　利益二円十一銭二厘也

十月七日　月　上伊那

一金七十五銭也　筆十本　伊那男子高等　福沢桃十君
一金四十五銭　筆墨　伊那男子高等　有賀峰三郎
一金二十銭　墨　〃　清水　象柔
一金十銭　墨　〃　和合標一郎
一金十銭　〃　山岸　善一
一金三十二銭　伊那役場　根津稲三郎
一金十二銭　〃　中村　重吉
一金十七銭　〃　御子柴繁一
一金十銭　〃　佐々木才三郎
一金四十二銭五厘　筆一五　〃　伊那町役場
一金四十五銭　墨二　〃　池上今朝治郎
一金四十銭　墨一　〃　根津稲三郎
一金一円八十銭　硯一　〃　同　人
一金六十銭　筆六対　〃　小林　茂理
一金四円十五銭　筆墨硯　肥料商　伊藤　寛治

〆金十円十三銭也　利益二円五十三銭三厘

郡役所連と何とかいふ料理屋で飲む。

十月八日　火

金一円三銭五厘　筆墨　郡役所　平　只　吉
金六十銭　墨　手良村　向山　友吉
金十四銭　筆　郡役所　伴野文太郎
金十九銭　墨　〃　大久保幸四郎
金四十銭　墨　〃　伊藤　九衛
金十五銭　墨　〃　大久保幸四郎
金二十五銭　筆　中箕輪村　笠原正太郎
金四十銭　墨　美和村　伊藤　銀十
金六十銭　水筆十本　上伊那郡役所
金一円二十七銭五厘　水筆十本・朱墨五挺・墨三挺　同郡参事会用
金五十銭　水筆十本　同　郡会用
金二十五銭　水筆六本　山田　藤治
金十四銭　真書二本　小岩井佐健
金六十銭五厘　筆墨　久根下美賀蔵
金十二銭　筆一本　伊藤　九衛
金一円八十一銭　硯墨筆　伊那女子学校　田中　郡十
金二十四銭　伊那女子学校　吉田　一郎
金十九銭　〃　有賀善十郎
金十銭　〃　井上　うめ
金十銭　〃　上野おりん
金四銭　〃　小平はまよ
金五銭　〃　安藤よしを
金十八銭　筆　〃　田中　郡十
〆金八円八十六銭五厘也　利益二円二十一銭六厘三毛

十月九日　水　上伊那

金十五銭　墨　伊那警察　矢沢　溪雲
金二十一銭　筆　〃　太田　敏門
金四十五銭　筆　〃　渡辺金三郎
金三十二銭　簾　〃　矢沢　溪雲
金二十五銭　墨　〃　千葉亀之助
金五十銭五厘　筆簾　〃　椎原源二郎
金三十六銭　筆墨　裁判所
〆金二円二十四銭五厘　五十六銭也

今宵有賀校長来り伴野氏方にて飲み更に三人打連れ立ちて箕輪に押しかけ附属の訓導を窘め（酒）福住といふ料理屋に飲む。

今宵伴野氏に宿す。

十月十日　木　農学校美篶学校　上伊那

金三円九十五銭程　美篶学校職員諸君
金一円五十銭程　〃　黒河内太閤君
〆金五円四十五銭也　利益金一円三十六銭二厘五毛

本日学校職員諸君と共に芝居を見る市川市十郎之が座元なり。今宵学校に宿す芝居見物のためには五十銭を投じて纏頭となしたり。数日来の疲れにて飲めず。

十月十一日　金　上伊那

金六十八銭　筆墨　美篶村　畑　友喜
金九十銭　〃　〃　春日　利弥
金二十銭　墨　〃　橋爪　勇男
金四十五銭　筆墨　〃　松浦　平五
金五十五銭　〃　〃　掛川　伴衛
金七十五銭　〃　〃　矢島　学而
金十銭　筆　高遠町　森山　義治
金五銭　筆　〃　続木喜代松
金二十五銭　筆　〃　池上　文彦
〆金三円九十三銭也

本日金五十円を玉川堂に送る木曾屋松田屋共に宿を断はる。

奥の間に宿はいけぬと断りの
こゑきく時ぞ夫ハか南し幾。

今宵高遠町稲田に宿す、壮士芝居を見る。諸掛十三銭也

十月十二日　土　高遠学校　高遠役場　高遠警察

一金五円　筆墨硯　高遠町学校　中村　国穂
一金三十九銭　筆墨　〃　天野　五三
一金三十九銭五厘　簾筆　高遠町学校　上条けさ枝
一金三十七銭　筆　警察　松本　勝治
〆金六円二十五銭五厘也　利益金一円五十六銭五厘也

十月十三日

金九十四銭也　上伊那高遠町　大平伊久弥
金十二銭也　〃　松本　勝治
金三円五十銭　〃　中田　矩知

分署長閣下其他より高遠公園の桜のはな色撮せる絵はがきにものせよといはる。

既に花あればとうやら酒肴
をなこほしなと我はいふなり。

又鉾持桟道の絵はかきを示さる。

写真にて見れば景色はよけれども
ゆきて見たらばぞつとするら舞。

長野新聞を見るに片々集に求婚女の名を以つて五無斎は高等女学校の学生に好かるゝの資格ありやとあり。乃ち

1　四十年独身で居る。我なれば
都べて女に持てぬなるべし。

2　御希望と。あらば直様。飛んで来い。
後と押し一人至急入用。

3　お前さん。女であるか。但し又、
男であるか。男ならいや。

4　資格なし。無論資格はなけれども
すかれたりとて不平てはなし。
本日は手良村青年団の為めに演説すべき旨上伊那郡参の向山君と約束しおきたれば雨中を冒して出でたちたるに警察に呼び止められて二時頃迄も歌なと詠み居たるなり。二時頃に至り少しく霽れたれば乃ち手良村に至る道路甚だ悪し。

〆金四円五十六銭　利益金一円十四銭也

手良小学校の二階にて夜食前一杯をきこしめす向山君村長君を来り会せられたり、向山君
此野郎議員候補の直打なし　世をば嘲る事のするとき。
といふ歌やうのものを示さる。
議員たる資格は無論無けれども
ほかの野郎にやありと思ふか。

一金四十銭　墨　手良村　中山　幹
一金三十五銭　〃　〃　鎌倉亀之助

今宵手良青年会に於て演説す、右終つて御酒を頂戴す。

十月十四日

金十銭　筆　手良村　柴田佐伝次
金二十五銭　筆　〃　向山　友吉
金五銭　朱墨　〃　鎌倉亀之助
金十五銭　〃　〃　穴山　故吉
金四十銭　墨　手良村　林　八十司
金一円五十四銭　〃　〃　手良村役場
金六十銭　筆　〃　〃
金三十銭　〃　〃　〃
金一円五銭　硯　〃　向山　友吉

名は百と附けし親父の其心　数の頭は、丸で〇なり。

保科君に邂逅して　向山

金四十銭　墨　手良村　宮原源太郎
金六十銭　〃　〃　宮下　義雄
金三十銭　〃　〃　大下　克

向山先生早朝より来られ御酒を頂戴す向山先生去るに臨みて金一円を携へ来り是は短冊代なりとて突きつけたり。短冊はお酒の御礼の積りなれば更に四銭宛の筆二十五本を与ふ。

一金一円也　筆二五　向山友吉君

箕輪学校に至る売れす。更に同役場に至る門前払なり。それより天竜川を渡り木の下に出て殿村に至り車をは学校に托して一旅舎に宿す。夜食後当地の役場員某氏来らる何か書くやうにといはれたりお酒など頂戴す。

〆金七円四十九銭也　利益一円八十七銭二厘五毛

木の下君に示すとて
筆売りに此処へきの下きたしるし

うけてほしなと我はいふなり。

十月十五日　火　上伊那

昨夜泊り合せたるは諏訪の田螺屋なり。彼の売りし田螺は今朝の膳に上りしなり。喰ひ悪くきこと限りなし。自分の売りたるものが斯くも喰ひ悪くしとありてはヒョンなものと思ひたるにか田螺を食ふの法は斯の如しと言はぬ許りに巻頭の方を噛みつぶして焦れども喰ふ可くもあらず。見れば頭は過半不毛の原野となり居るの老爺なり。ハマラメといふこともあれば歯先つ其用を為さぬものなるに近頃以つて気の毒の至りなり。更に語り出るを聞けば此老爺は素と高遠町に在りて穀物と荒物とを商いたるものの由なれども七年の間に妻を三人迄無くし七年の間に両親を失ひたる由なれば三年に一つ宛の葬式を出したる訳なれば葬式料は勿論薬代とても莫大なりしならん。最初の妻は三年の間病み次なるは三ケ月最後のは五六日にして死したり。妻といふものは怖くなりたりといふ。左もありなん。幸なることには子供はなし然るに姪某を養子となし横浜なる某商店に奉公させ一ケ月二十円位は取るやうなる身分となりたれとも千三百円の借金を此老爺に残して六年前に蹤跡を暗まし捨て手紙一本もよこさねば亜米利加へでも渡りしならんといふ。人世の悲惨察すべきなり。

金八銭　　筆　　南箕輪学校　守谷　真三

金一円六十銭　筆　　西箕輪役場

金一円八十銭　硯墨　　西箕輪村　小林　豊吉

〆金四円二十八銭也　　利益金一円七銭也

今宵坂下に帰り藍屋に宿す。

十月十六日

上伊那連合運動会見物

今宵大に飲む。伊藤肥料店の舎弟君閣下伴野郡視学閣下黒河内美篶小学校長閣下。

今宵藍屋に宿。

十月十七日

神嘗祭　　坂下滞在

筆行商には土曜日日曜日及祝祭日等都べて禁物なり。

十月十八日　上伊那郡男子小学校

一金一円五十二銭也　四銭売の墨　三十八丁

一金一円四十銭也　五銭五厘の墨　二十八丁

一金三円五十四銭也　六銭売の墨　五十九丁

一金一円五銭也　三銭五厘売の筆　三十本

一金一円四十八銭也　四銭売の筆　三十七本

〆金八円九十九銭也　是は依托なり。右定価の五分引八円五十四銭五厘一毛也

午後伊那第一尋常小学校に至る。一本も売れず。乃ち帰り

て藍屋に宿す。古梅園の荷物を開く四銭五銭及六銭の墨なり四銭五銭の墨は稍悪きやうなり。子供でも六銭以上の墨を用ゐしむるの必要あり。今日古梅園へ金十九円を送る。五銭六銭及七銭売の墨を仕入れたが為めなり。

十月十九日　春近尋常高等小学校

一金二円六十七銭五厘　筆墨料　福沢　清文
一金三十七銭　唐木安五郎
一金二十二銭　黒河内文吾
一金十七銭　坂井　衡平
一金三十四銭　酒井今朝次郎

東春近尋常高等小学校

一金十銭　筆墨料　牛山　正一
一金十二銭　〃　林　義司
一金十七銭　〃　富村　寿
一金十銭五厘　〃　保科偉三郎
一金十二銭　〃　小林　禎吉
一金四銭　〃　赤羽　其よ

〆金四円八十三銭也　利益金一円二十銭八厘也

東西春近役場学校の四ケ所を訪ふ。学校にては多少売り行きありたれども場役はへけなり。

坂下に帰り藍屋に宿す。

十月二十日　荒木又右衛門　柳生旅日記をよむ。

十月二十一日　東春近村　月

野溝伝一郎君のうちにて飲み一本も売らず原新田にて二度転び富県村北福地に宿す。

十月二十二日　火　富県村新山学校

一金二十銭　墨二丁　六波羅弥十
一金十五銭　墨二丁　武井吉兵衛
一金十二銭　筆三本　〃
一金十銭　藤沢新太郎
一金五十銭　森　弥三
一金六銭　山崎　弥平

〆金一円十三銭也　利益二十八銭二厘五毛

早朝北福知を発し校長清水滝次郎氏を訪ひたる新山小学校に運動会のあるあれば行かぬかといふ。是も時に取つて面白かるべければと生徒の後に就いて新山に至り運動会を見る。久しく教職を離れて呑気生活を為し居たる五無斎に運動の巧拙なと分らず。只面白かりしに過ぎず。帰路峠越にて、直ちに校長清水滝次郎氏に至り例によつて飲む。村長君も訓導某君も来り会す。耳熱し興到り棋を囲む校長清水君中々の笊棋なり。又と得難き好敵手なり。

十月二十三日　水　富県小学校　雨

金一円〇九銭　筆及墨　稲垣袈裟三

金十銭　墨　伊沢錦太郎
金一円〇三銭五厘　筆及墨　下平彦三郎
金三十銭　筆及墨　小牧長太郎
金一円　筆及墨　清水滝次郎
金三十六銭　墨　児童
金八十七銭五厘　墨　〃
金四十七銭　筆及墨　畑谷　巌
金一円八十一銭　筆墨硯　橘爪千代造
金三十三銭　筆　児童
金二十九銭　筆墨　畑谷君
金六十一銭　筆及墨　藤沢左右衛
金十銭　墨　下尾民治郎
金二十三銭五厘　筆　那須　米市

〃金八円六十銭五厘　利益金二円十五銭一厘也

清水校長を辞し富県学校に至りしに売れ行き甚だ善し。村長君も来られ七円余の商あり。午後一時去つて富県村役場に至る村長収入役共に不在なり多少の売れ行きあり。午後四時雨中を冒して河南に向ふ。途上石墨類数多散乱しあるなり。乃ち採集を試み前懸に包み之を河南学校に渡す。日暮時正に六時過ぎなりしも職員各位なほあり。南爪の馳走を受け打連れ立ちて高遠町諸田に至り宿す。

十月二十四日　木

此諸田に一人の女中あり。女中といへば稍大袈裟なれども実は一個の立派なる女侏儒なり。

年令十一才尋常科卒業とはいへど身長は二尺五寸以内なるべし。是は精密に測りたるには非れども障子の丈を五尺四寸と見ての目の子勘定なり。高遠の奥二里許りもある溝口のものにして昨年中火災に罹りたりとか。更に語り出るを聞くに此子の両親は此児の家に夫婦養子に趣きたるものなるが祖父祖母（ちちはは）なる人の頑蒙なりしにもよるが母なる人離縁となりて更に他に嫁入りし父なる人次いで離縁となりて更に他の妻を迎へ他に移住したれは隠居の方に養はれつゝありしも更に新しく夫婦養子を貰いたるが為めに現在の我家は他の人之に代り住み今や奉公人として他家に住み込み居るなり。祖先の霊を祭るの旧慣は勿論悪事には非るべきも養子制度の弊一に茲に至るか。

人世悲惨の極にこそ。殊に五無斎の如き鬼神をも欺く程の荒くれ男をして紅涙熱血を灑がしむるは父なる人は日毎々々に穀物の仕入の為めに此高遠町に来るも一度も立ち寄りたる事なきに反して母なる人は一ケ月に一度位は必ず此家を見舞ひ時折は柿なと恵み呉るることもありとか。柿の実漸く熟し始めたる今日此頃の事なれば数日前金額に積りて大枚金一二銭の母の恵みに浴し事の経路を語り出るものなるべし。此児の将来如何なる運命に陥るかは素

より測り知るべからずと雖も迚も六な事あらざるべし。嘘。

幸不幸等級(しな)はあれども是は又　上に上あり下に下あり。

河南学校

金十一銭也　筆一対　中村忠右衛門
金二十銭也　墨一丁　伊藤　博明
金七銭也　筆一対　同人
金五十四銭五厘　筆十一本　北原琴二郎
金十銭　墨一挺　北原　けん
金十一銭　筆一対　伊東　正一
金三十一銭　筆二本・墨一挺　北村　勝雄
金四十銭　墨一挺　小松錦一郎
金三十銭　墨一挺　中村　久弥
金一円七銭　筆三本・硯一面　同人
金八十銭　硯石一面　小松錦一郎

〆金四円二銭五厘也　利益一円六厘也

高遠町学校に至る。牛飲馬食

十月二十五日

一金三十二銭　簾一枚　高遠　中村　国穂
一金二円五十五銭　硯一・墨大一・小四・筆大一・小美箋　黒河内太門
一金六十銭　個筆十五本　黒河内太門
一金八十銭　筆及墨　登内　民吉
一金八十七銭　筆及墨　桜井　勝平
一金十一銭　墨　斉藤　きみ

〆金五円十三銭也

高遠学校に至り更に美箋学校に立ち寄り坂下ある屋に宿す。

今宵伴野視学と飲む。松月といふ茶屋より伊那富の役人衆より視学の処へ使来る。乃ち打ち連れ立ちて之に趣く。隣室に伊藤肥料店主人あり又々之に趣く。

十月二十六日

一金二十六銭　筆　上伊那郡役所　伊藤　大人

赤ん坊製造術を無料にて　教へてやらうドウダ娘子。

此歌上伊那紅虫病予防の或る別品を見て野心頻りに起りよみ出でたるものにて近来の傑作なり。

今日長野新聞を見るに頓首生の名を以つて五無斎先生今猶御壮健にて例の筆墨行商を御勉励に候やとあり。

例により何時も達者で困るなり

死ぬに死なれず商は下手。

金四十銭　墨一　池上久太郎
金一円也　硯　千葉徳太郎

〆金一円六十六銭

十月二十七日　日

白井権八をよむ。

金一円二十五銭　二十五銭　硯一・筆十本・墨二

野溝伝一郎

おろし　伊那町　伊藤寛治君

一金二円也　觴詠　四〇
一金二円四十銭也三俣　六〇
一金八十銭　光華　二〇
一金二円五十銭　旭花　五〇
一金二円四十銭　大盤　四〇
一金一円二十銭　岩上松　二〇
一金六十銭　孝　一〇
一金一円四十銭　暢陽　二〇
一金一円四十銭　佳日　二〇
一金三円二十銭　山谷　四〇
一金一円八十銭　烏玉　二〇
一金一円八十銭　精守　二〇
一金五円　仁義礼智信　五〇
一金三円七十五銭金菊　二五
一金四円　和風　二〇
一金七十五銭　並打花墨
一金四円　上和下睦　四〇
一金三円　易水　一〇
一金四円　金神仙墨　一〇
一金一円二十銭　上紅花墨　三
一金一円二十銭　上紅花　一丁筆　二〇
〆金四十八円四十銭也　八掛三十八円七十二銭也
一金二円二十五銭　小鷲　五〇
一金一円　金琅玕　二〇
一金二円七十五銭　鹿毛　五〇
一金二円　小兎共　五〇
一金一円五十銭　流芳水筆　五〇
一金一円五銭　狸毛真高　三〇
一金一円六十銭　大晋唐　小橋四〇
一金七十五銭　金不換　三〇
一金一円六十銭　上品木〇毛　四〇
一金二円十銭　一觴一詠　三〇
一金八十銭　吊髪　二〇
一金一円二十銭　大鷲　四本
一金七十五銭　中鷲　三本
一金六十銭　四〇　漢擘　五本
一金一円二十銭　小羊立毛　十本
一金七十銭　小晋唐小階　二〇
〆金二十一円八十五銭　筆掛十八円五十七銭二厘五毛

硯の部

一金一円　羅紋硯　一面
一金一円五十銭　唐硯　一面
一金八十銭　赤間硯　一面
〆金三円三十銭　二円六十四銭也
大〆金七十三円五十五銭　五十九円九十三銭二厘五毛
本日伊那町伊藤寛治君へ卸を為す一割〇儲けなれば五円九十三銭二厘五毛のまうけなり。
時に野溝君に商ひたるもの二円利益五十銭あれば彼是六円半許りの利益ありたる訳なり、然れども伊那町に滞在久しきにわたり九円余を支払ひたれば差引多くの利益にはあらぬなり。

十月二十九日

一金三十三銭　あゐ屋　一金十三銭　あい屋
同日
一金二十六銭五厘　小筆五本　佐伯
一金十四銭　同二本　伊藤
一金二十四銭　孝墨二・飛燕二　小田切雅男
一金一円　紅花一・上和下睦一・天素二　春日
一金一円五十銭　羅紋石硯一　同人
一金二十六銭　秋風甘雨一・飛燕一　新谷
一金四十銭　天寿四・上和下睦二　酒井
一金二円　紅花二・仁智二・神仙一　小田切
一金三十銭　簾　同人
一金四十銭　紅花墨　山口
一金三十銭　簾　同人
一金十七銭五厘　天の水筆一本　酒井
〆金七円五十九銭也　利益一円八十九銭七厘五毛
愈々以つて伊那町を発し西春近の学校へ立ち寄り少かの商を為し、宮田村に至る。宮田学校山口訓導の不在なりしかど此々に春日といふ目の明きたる人によりて売れ行き甚だよし。今宵銭屋八左衛門氏に宿す。校長赤羽長窟君来訪夜食を共にす。国定忠治をよみ始む。

十月三十日

金七銭　筆一本　玉置
金五十八銭五厘　墨一個・筆十本　銭屋
金一円十銭　筆十六本・墨五丁　福沢泰江
金二十九銭　筆七本　原亀折
金十七銭五厘　筆三本　小川谷茂四郎
〆金三円十四銭五厘　利益金七十一銭八厘也
宮田駅を発し赤穂小時又校に至る練習会とやらにて、中々忙しきやう見受けたれば玉泉堂よりの荷物を改め見役場に至る少し売れ行きあり今宵宮下校長に宿す。
今日玉川堂へ金三十円を送る片桐学校へ荷物を送り、呉るるやう申送りたり。

十月三十一日

金十三銭　筆三本　赤穂学校　坂井喜扶
金一円十四銭　筆二本・墨一丁　赤穂小学校
金一円　筆十対・墨一丁　染織学校
金十四銭　細筆一対　千村　通彦
金十銭　墨一丁　水上今朝太郎
金二十銭　墨一丁　気賀沢勘五郎
金十八銭　細筆二対　気賀沢勘五郎
金二十銭　墨一　倉田　友幸
金十四銭　墨一丁　守屋　男重
金三十一銭　墨一丁・筆三本　赤穂警察　小宮山太郎
金二十銭　墨一丁・筆三本　村田源兵衛
金二十銭　墨一丁・筆三本　守角賀紋弥
金七銭　墨一丁　宮田学校　岩崎三蔵
金十銭　同一丁　山口　庄松
金八銭　筆二本　山岸　晋
金十七銭五厘　筆六本　野溝　翠治
金四十銭　筆十一本　酒井　正司
金三十六銭五厘　筆尋常用筆十本・外三本　赤羽長重
金八十五銭　墨孝五丁・飛燕五丁・旭花五丁　赤羽長重
金五十五銭　墨二丁　同人
〆金六円五十九銭也　利益一円六十四銭七厘五毛

赤穂小学校警察署と宮田小学校を商ひ宮田駅銭屋に宿す。

十月総〆　百九十九円三十二銭四厘
利益金四十九円八十三銭一厘也

十一月一日

金八十銭　筆五本・墨四丁　山浦浪三郎
金一円十五銭　硯一〇　新谷新太郎
金二円五十九銭五厘　筆墨代　竹内　万衛
〆金四円七十四銭五厘也　利益一円十八銭六厘也

今宵伊奈村の新井といふ料理屋に泊る。あるじ鶏の毛を引くの手前甚だ覚束なければ直ちに刀を奪ひて日頃鍛へにきたへたる五無斎の熟練の程度を示してさてよめる。

こころある人に見せ度し五無斎の
鳥の料理と国の料理を

十一月二日

金三十銭　墨一挺　村上啓太郎
金一円四十八銭五厘　硯墨・筆六本　宮脇　真迎
金一円二十五銭　筆墨代　小池　鶴蔵
金二十五銭　筆代　竹内　万衛
中沢学校
金三十銭　墨一挺　伊藤作一郎
金三銭五厘　筆一本　伊藤作一郎
金四十二銭五厘　筆墨代　下馬　伊之

金七十銭　筆墨代　源谷　久馬
金十八銭五厘　筆代　佐藤弥三郎
金七銭　筆代　竹村　兼吉
〆金五円一銭也　利益一円二十五銭也

伊那村を発し中沢村に至る役場にては売れず学校にて売り大にのみ今宵森田といふ旅籠屋に泊る。

十一月四日　月　雨

一金三円　筆墨　中沢学校
〆金三円也　利益七十五銭也

中沢村を発し天竜川を渡り赤穂に出でチヨット学校ニ立ち寄りたれとも売くれす、飯島村ニ寄りし頃学校のひけ過きなれば役場ニ至る。是も亦絶えて売れす。今宵扇屋ニ宿す。

十一月三日　雨

一金十三銭　筆三本　中沢学校生徒
〆金十三銭也　利益金三銭二厘五毛也

天長節

天長節祝宴会に招かる。教育論をなす。中沢といふ宅中々富みの程度高し。

十一月四日

今日飯島村にて新旧村長及学校職員連合にて五無斎歓迎会を開かる。先年鉱物標本を同村学校に寄附したるによるとか。鉱物標本寄附のお礼として宴会を開いて貰ひたるは是が、抑も始めてなり。嬉しき事限りなし。万才々々万々才。

十一月五日　火

一金一円五十銭　筆　飯島尋常高等小学校
一金二十銭　墨　飯島村　林　茂樹
一金二十五銭　筆　飯島村　北村　藤作
一金二十銭　墨　飯島村　渋谷　専
一金十四銭　墨　飯島村　酒井伊之吉
一金四十五銭　筆墨　飯島村　林源　次郎
一金二十五銭　筆　上伊那郡飯島村役場用
一金十四銭　筆　飯島村　山田織太郎
一金三十三銭　筆墨　飯島村　唐沢　源一
一金四十四銭　筆　飯島村　久保田正雄
一金二十四銭　筆墨　飯島村　森谷　英吉
一金二十銭　筆　飯島村　飯島　長男
一金十四銭　筆　飯島村　羽生　直一
一金六十六銭　筆墨　飯島村　森谷　定吉
一金三十三銭　筆墨　千村　与造

飯島村の千村与造といふ老人

五無斎の吹き出す法螺はどことなく

　廻りて深き音も色もなく。

といふ歌を示さる。

法螺百も金と女に見放され

色青さめてグーの音も出ず。

〃金五円五十七銭也　利益金一円三十六銭七厘五毛

役場の先生方より金五十銭を恵まる乃ちお移りとして五銭の墨十丁を擲げ出したり。

十一月五日

夕刻保科五無斎君突然飯島より来る。即ち同人相会して田切分教場に小宴を張り快談三更に至る。想起す五年の昔君が岩石採集の当時予が諏訪郡玉川村に於ける僑居を訪づれ相携て小泉山麓柳川の畔に飛白岩を拾へりし事を、今茲初秋山浦温泉に遊ぶの途、柳川橋を渡り偶々当時の五無斎を回想して一首を詠める歌に曰く、

　此川に石拾ひたる五無斎の　乞焉姿が今も目に立つ

今や君筆墨を商として県下漫遊の途にあり当時の弊衣敗帽に代る前垂姿いとおかし、茲に記して以て紀念となす。芦部芦菴識

十一月六日

一金一円六十六銭　筆墨　芦部猪之吉
一金一円六十六銭　筆　宮沢　一良
一金三十八銭　筆　園原清五郎
一金三円三十銭　筆墨　〇保村役場
一金二十五銭　筆　竹沢　虎蔵
一金六十銭五厘　筆墨　岸本　与
〃金五円六十五銭五厘也　利益一円四十一銭三厘也

十一月七日

一金十九銭也　筆　下村　亥雄
一金十一銭也　筆　宮沢　信雄
一金十一銭也　〃　石神　福次
一金十七銭五厘　〃　倉田　利一
一金四十三銭五厘　筆墨　細田貞七郎
一金二円四十二銭　〃　宮沢栄太郎
一金一円四十五銭　〃　藤沢村役場
一金一円二十九銭　〃　岡本喜代太郎
一金四十五銭　〃　小島光弥
〃金金六円十八銭也　利益金一円五十四銭五厘

十一月八日

本日岸本与君の案内にて上片桐学校及役場にて売る売れ行きよし。

岸本君何か書き呉れよといふ乃ち何とかいふ大判の紙に国の為めの歌を書きて与ふ。金一円を紙に包み寸志と記し之を予がふところに致す乃ち九玄の極といふ墨と顕徴無限といふ墨をお移りに出したり。

十一月八日　金　晴　片桐学校

一金七十五銭也　筆　竹内　寛一
一金四十五銭也　〃　松村　弘

一金四十銭　墨　暮石　義一
一金一円三十銭　墨筆　片桐村　松村〇治
一金五十五銭　筆　同　前沢　勲雄
一金二十銭　墨　同　大場　茂雄
一金二円　筆墨　同　前沢　二郎
〆金五円七十銭也　利益一円四十二銭五厘也

前県会議前沢二郎氏に米山秀雄氏の宅にて邂逅す。米山君も一種の奇人なり。衆議院議員の候補に立ちたる折端書を寄せられたることあり。前沢氏の案内に片桐村役場に至りて売る。前沢の紹介ありたるか為めに案外に売れ行きありたり午後五時半頃前沢氏は当地第一等の素封家にして紅葉を庭の内外に植ゆ。時正に晩秋稍後れたれども紅葉の反射に室内為めに赤し。

秋されは紅葉しにけり前沢の　庭の景色も奥の座敷で。

是は米山氏と主人の翁と飲みつつありての作なり既にして米山氏は所用の出来たりとて辞し去り舎弟某君代つて来らる。絹短冊上等短冊二葉に揮毫し、午後九時半頃就寝、今日前沢氏の緩と押絵かきの眼にて見たらは頗る好歌なりしならむ。

十一月九日

今朝午前三時半小便に促されて目が覚め又就眠すること能はす硯を引きよせて高等工業学校論一篇を草す。文章も趣意も中以上に出来たる積りなり。此文便所行きの塵紙に認めたるものにして新聞に出して三段位のものならん。前半段は便所行蠟燭の火を用ひ後半段は久しぶりにて行燈の光を借り添削は太陽の光線を使用したるなり、前沢氏を辞し天竜川を渡　南向小学校と役場に至る何れも売れず役場前の某旅舎に宿す。小池賢三原清山の諸氏来訪大に飲む。

十一月十日　日　晴

本日午前一時白木屋の二階より落つ。是は昨日小池賢三原清山といふ人と外に学校の先生が来りて飲み過ぎたるか為めなり。本年の春友人吉村煙嶺氏の宅にて小便溜の中に落ちたるさへあるに今や二階から転び落ちたり。危き事限りなし。

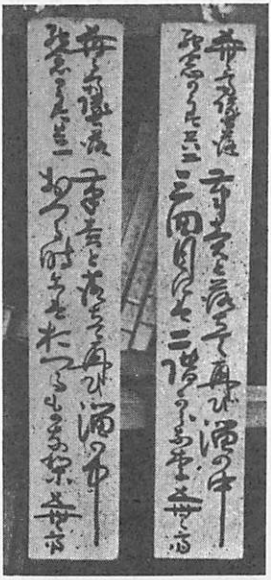
筆売と落ちて二度目は溜の中　三回目には二階からなり

ふで売りと落ちしはつらく溜くさく

二階からでは命危し。

午前九時頃南向を発し片桐村に至り中田国手の治療をうく。経過がよければ善くなり悪しければ切開を要す。然れども命には別条なしとの事なり。お礼は九玄の極一丁

一金三十銭　墨一丁　米山　〇雄
一、たゞ　墨上等一丁　中田
一金十万円と号す羅紋硯一ケ　同
〆金一円三十銭也



筆売日記11月10日詠たる記念のうた（11月25日の項参照）

只に治療代として最上等の墨一ケを贈り米山中田両氏より橋本亭に於て昼飯の饗応を受けたれば原価にて売りたる為め全くの利益は金二十銭位のものならん。午後二時片桐を発し飯田に向ふ。荷車を曳くに堪えざれば飯田町に至り居商を為さんが為めなり車夫を雇ふて荷車を曳かしむるに大枚金一円十銭なりといふ。

さきには一円六十五銭の酒食料を払ひ茶代や下女への心付けを為し治療代として最上の墨を贈り一円十銭の雇人料を払ふ酒といふものは随分馬鹿気切つたることなり此後如何なり行く事やら米山君の手紙を持参して池田町の白木屋に至りしに此紹介状が仇となりて泊めては呉れず。是は長野県下の名士なるが故に粗末なる待遇も出来ずとの懸念よりなりといふ。人は名士と見ん。然れども二階から転落して然も大負傷を為したるを自覚せず後とにて発見して他の人より其当時の模様を聞いて始めて驚く程なる大白痴もの自分ながらも稍明きれ切る程なり。

世の人は名士とも見ん然れども

ダラシ無きこと言語同断。

今宵兎も角も白木屋に泊る。

十一月十一日　月　晴　下伊那飯田

六十三銭	筆墨	中学　井出　茂太
八十二銭	筆　〃	島地　五六
六十銭五厘	筆墨　〃	渡辺　謙治
六十七銭	〃　〃	池田　常吉
八十二銭五厘	〃　〃	岡田　邦松
二十二銭五厘	筆　〃	丸山　錦吾
六十七銭	筆　〃	福沢悦二郎
二十九銭	筆　〃	成能栄三郎
八十三銭・十一銭	筆墨　〃	小山七五三
五十七銭	〃　〃	竹村　太郎
二十二銭五厘	筆　〃	市瀬　保三
三十銭	墨　〃	福沢悦二郎
二十二銭五厘	筆　〃	橋部　清美
二十八銭	〃　〃	井沢　伊一
十八銭	〃　〃	斉藤知久二郎

十八銭　筆　〃　松鹿福次郎
四十銭　〃　〃　岩井才太郎
一円　筆　郡役所　松下喜太郎
二十五銭　〃　〃　杉本勝太郎
二十八銭　短冊　〃　杉本勝太郎
十二銭　墨　郡役所　菅沢　喜一
十四銭　墨　〃　岡田　太門
二十二銭五厘　筆墨　〃　松村　正樹
一円　筆　〃　柳沢　平作
五十銭　筆墨　〃　浜　音之助
五十銭　墨　〃　小幡　代吉
十九銭　筆墨　〃　西沢浦太郎
十銭　筆　〃　星山　勝馬

〆金十二円十二銭也　利益金三円三銭六厘

南向村にて転落し負傷は案外経過よく只幾分の疼みを覚ゆるのみなれば中学校に至りて見しに玉川堂よりの荷物到着しありたり。古梅園よりは二円の運賃が係るが如何送荷すべきやとの手紙なり是が無ければ商い仕悪き故直ちに電報にて直く送れ言ひ送りたり。中学にて荷物をほどきたりし為め売れ行き中々よし。

郡役所に至る郡役所にても売れ行き中々よかりしも支那筆と紅花墨のみにて、他の品の売れさりしは遺憾此上無し、白木屋にては泊ることか出来ぬとの事なれば高坂と言ふ旅館に宿す。岡田邦松君の紹介なり。今日玉川堂より送り越したる墨及硯のうちには唐硯と唐墨とあり。唐墨の一円以上のものには真珠を象眼す。行商人たる五無斎始めて之を見たるなり。普通行商の商ふものの内には絶えて見ぬ処なり。南信社を訪ふ。長野新聞私に五無斎墜落を報ず。

十一月十二日　下伊那郡役所飯田

二十銭　墨　松村　正雄
二十五銭筆　赤羽　連
二十銭　墨　北沢　潔
二十五銭筆　奥村　了蔵
三十三銭　筆　三井弥太郎
三十二銭筆　久保　彦治
三十銭　墨　三井弥太郎
十一銭　筆　佐々木堅三
十七銭　筆　三井弥太郎
五十銭　筆　菅沼　関一
八銭　墨　原　雄太郎
四十銭　硯　三井弥太郎
五十銭　墨　近藤　赤嶺
七円十五銭硯　浜音之助
一円十八銭墨　鎮西　清信
七銭　墨　佐々木堅三
五十銭　墨　小笠原賢太郎
二十銭　墨　後藤　真人
四十一銭　墨・筆　牧ノ内永治
八十五銭　筆墨　関口慶蔵
三十銭　墨　田中八百吉
五十銭　筆　牧島　多牧
四十銭　墨　中島　健

二十四銭　柳沢　市作　二円二十銭　菅沼　喜一
以上下伊那郡役所　十二円〇四銭
六十九銭　筆墨　宮沢幹太郎
八十銭　墨　熊谷　重雄　四十二銭　筆　小木曾な越
八十銭　墨　安藤　すみ　四十銭　〃　中村　秀雄
二十二銭　墨　中村　秀雄　三十銭　〃　中村七五郎
八銭　〃　駒瀬　しま　十銭　〃　上原徳太郎
十六銭　筆　諸岡　茂　十九銭　墨　宮下　春祐
十六銭　筆　小林　宣
次に飯田小学校
計十六円三十六銭
二十七銭五厘　筆　飯田学校職員
利益金四円八銭八厘也

本日下伊那郡役所に至る。売れ行き甚だ善し。
神官の近藤先生頻りに神職連の間を運動し呉れたるによること与りて力あり。郡役所へも売れ行き甚だ善かりし。
午後二時頃飯田町小学校に至る旅宿の主人高坂君大に周旋の労を取られたるによることならん。
同学の友宮沢鍾太郎君来宿主人の高坂君と飲む同学福島文之助君も来宿せらる。宮沢君よりは故人岡島房太郎君の逸事を聞く充分長歌をつくるの好材料なり。
同族寿久禰蚕種予防吏員として此地に在り。来り訪ふ。
既にして、県庁の剃刀課長早川繁夫君当地小学校訓導宮下春祐君と共に旅館高坂を訪ねらるビールや日本酒を出したれども飲まず。図書館の話もあり渡辺問題もあり代議士候補者の墜落問題は勿論の事なり是早川君の発句たり何の事や分らすよく聞けば選挙の事に関係ありとか。五無斉が二二迄や小六月　ひんよつた二万近さや秋の暮　日本橋区和泉町守屋

十一月十三日　晴　飯田
二十五銭　筆　宮下　秀三　二十銭　墨　宮下　秀三
十銭　筆　関島　佐吉　四十銭　墨　溝口多津司
二十銭　筆　溝口多津司　二十銭　筆　太田　太吉
十銭　墨　太田　太吉　十銭　筆　清水　留吉
十銭　筆　平沢　甚吉　十銭　墨　関島　佐吉
十二銭　墨　黒川小三郎
以上下伊那警察署
飯田中学校内尋正講習会
八銭　筆　松本為吉　十四銭　筆　両角　清重
二十三銭　筆　中平朝三　十五銭　墨　小池　宗夫
八銭　筆　塩沢道太郎　二十銭　墨　北沢半次郎
八銭　筆　林茂一　十五銭　墨　中島庄一郎
十銭　墨　立沢栄一　八銭　筆　林周　昌
十銭　墨　林周昌　八銭　筆　児島　元蔵

四銭　筆　林元　太郎　十七銭墨筆　原　光蔵
七銭　筆　三輪　慎吉　十五銭　墨　窪田　宗雄
十二銭　筆　窪田　宗雄　十八銭　筆　宮島　美彦
三十九銭　筆　宮沢　秀文　四十八銭筆墨　竹村定男
三十八銭　筆　片羽　武夫　十五銭　墨　林　恒
十六銭五厘筆　林　恒　十八銭　筆　林　城衛
十銭　墨　林　城衛　十八銭　筆　福沢　慶一
三十八銭　筆　川平　正美　七銭　奈原　扼作
十八銭　林　淳一　十三銭　松下佐平治
十八銭　松下　光梁　四十銭　林　淳一
五銭　鈴木　英雄　四十銭　木下　武彦

以上中学校

〆金七円七十八銭五厘也　利益金一円九十四銭六厘也

本日も亦売れ行き甚だ善し。中学にては教員講習科の生徒諸氏に売り又寄宿舎の生徒に売る。教員某氏の吹聴ありたるが為め売れ行き甚だ善かりしなり。本日は警察と中学のみなり明日は何れへ行くか。

宮田学校へ古梅園定価表の催促手紙を出す是にて前後二回なり定価表貸す馬鹿もなし而して借りて返さぬ利口ものあり。

今朝上松氏を訪ふ。是は白安の旅籠料を取つて呉れさりし為墨六七丁を持参したるなり。

早川地方課長を訪ふ図書館の問題と渡辺令嬢問題となり、夕食前土屋良遵君来訪図書館問題の報告なり。

十一月十四日　木　飯田

金二十銭　墨筆　裁判所　近藤碩太郎
金二十五銭　墨筆　裁判所　山田　徹二
金二円七十銭　墨筆幷・硯　裁判所　髙橋　昇
金一円七十五銭　筆墨　中学　林　喬雄
金九銭　筆　中学　松〇福四郎
金十銭　筆　中学　岩井才太郎
金十銭　筆　中学　井沢　仁一
金五十七銭外に金八十銭　筆墨　滝沢八郎右衛門
金五十銭　筆　鳥羽三千三郎
金四十一銭五厘　筆　富岡　秀美
金五十銭　筆　保科寿久禰
金十五銭外に十銭　筆墨　元島　定男
金十銭外に　筆墨　伊藤　乙弥
金十五銭外に十銭　筆墨　佐藤　岩衛
金十銭　筆　吉沢和三郎
金五銭　筆　林喜　三治
金十銭　筆　北原　唯一
金十銭　筆　井上　藤二
金十銭　筆　母袋　省三

金十四銭五厘筆　中島　豊　金五銭筆　足立　由雄
金十銭　筆　甲田　貞雄　金十銭筆　平出弥太郎
〆金九円四十二銭也　利益金二円三十五銭五厘也

米山秀雄氏より端書三葉来る。

其後とてあきもほしなと思へとも
　噛んだほぞから筆墨は出ず。

五無斎の鋭鋒挫く剣あり　丈三寸の竹の古釘。

夜をかけて傷兵送る秋の野や　流星幾つみんな美へ飛ぶ

押す二郎挽く五無斎の筆墨屋　顔に紅葉の色紙短冊。

五無斎曰此歌よし狂画を添ふ是も亦よし。

　天を呑み地を呑む保科五無斎が
　　負しやうぶしようで酒も飲み得す。

五無斎曰、酒も呑み得ず直訳語なり酒も飲まぬかなどすべし、狂画を添ふ甚たよし、五無斎左手に繃帯を施し独坐して切歯扼腕するの体なり　五無斎。

　かゞこともやがては伸びん志やくとりの
　　おかしなさまも時にこそよれ。

又中田国手より来翰

　五無斎はむさい男と思ひしに　左程にもなき青二才かな

五無斎翁を断ちしより三十八九位と見る人あり其以前に於ては五十才位と見たる人もありたり中田氏の此歌、無理ならぬと謂ふ可し。

　ひのくるま後に引きつれ行く君を
　　向ふ見ずとは思はざるなり。

住みなれしやかたをあとに筆売の
　車引きつつ　君世を渡る。

七ころび八起といへば今四たび
　ころばぬ先の杖買い給へ。

五無斎曰く最後の歌の意味通せず八起といへばをど。と改む可し。

筆売りと落ちしは自得溜渡　二階からでは危篤なりけり

十一月十五日　金　飯田商等女学校

十五銭　筆墨　中原　重松　八銭　筆　木下　時蔵
七十九銭　筆墨　戸村軍治　三十五銭筆墨　栗林　松
五十七銭五厘　筆墨　栗栖きし
五十七銭筆墨　栗林　よし　三十五銭筆　秋田　笑恵
十銭　筆　戸村　軍治　七銭　筆墨　商松　四潮
五十二銭筆墨　中原　重松
一円五十銭　硯　有賀　奥遠　二十四銭筆　波多　市松
五十銭　筆　女　学　校　四十銭筆三把　伊藤信雄
二十銭　筆　商松　四潮　五銭　筆　三井

十一月十五日　金

十六銭五厘　筆　宮沢みさえ
十二銭五厘　筆　松下　朝子

二十五銭　筆　三石みさと
二十九銭　筆　笹江　志げ　十七銭　筆　新井　巴
十三銭五厘　筆　原　まち　九銭　筆　北町谷みを
八銭　筆　林　志津ゑ　三十銭　筆　野原　青
十二銭五厘　筆　市瀬ふじゑ　二十銭五厘　田村　肇
二十五銭　筆　清水　秀尾　十六銭　宮島　清
五十銭五厘　筆　関口穂寿枝　八銭　木下　孝
四十三銭五厘筆　北原みやき　二十一銭　平田　生
二十一銭五厘筆　宮内　いめ　十六銭　岩崎　清
十六銭五厘　上山寿々み　十三銭　小林
十六銭　飯島　ちず　七銭五厘　松沢
八銭　吉沢たるゑ
二十銭　林　並枝
四十二銭　田原楼主人
四十五銭　田原楼主人
十二銭五厘　松尾
〃金十二円二十銭也　利益金四円五銭也
昨夜新調の衣服をまとい独木橋を渡り誤つて水中に落ちんとするを夢み驚き覚むれば一燈閑なり。ランプを掲げて漢楚軍談をよむ。
唐沢県視学来訪。
本日高等女学校に趣く、売れ行き甚だ善し。
本日同族勝治氏よりの書簡に接す。筆墨行商の資本たる三百円の無尽に全会一致にて掛捨てとなりたりとか。同郷人の温情掬すべきものあり。五無斎是にて重荷を卸したるなり。
本日北原阿智之助氏に邂逅す。
本日玉川堂より荷物到来代金二十七円四十五銭也、本日古梅園よりの小包到着代金引替なり三十五円九十八銭也。

十一月十六日　土　下伊那高等女学校

金四十銭　墨一丁　木下　蘇雲　金四銭五厘谷　こず江
三十五銭五厘筆〃　佐藤　相城　金十二銭　塩田みつじ
金十二銭　筆　市村　軍治　金三十二銭　井深
金十六銭五厘　伊藤　信雄
金三十九銭筆五丁　井出　茂太
金四十銭　同
金三十四銭　矢沢　つる
金二十四銭　吉川まつえ
金二十四銭　福沢　つぎ
金十二銭　沢柳　千識
金二十四銭　塩沢ちかい
金二十八銭五厘　岡田　すづ
金二十八銭五厘　波田野さかえ
金二十八銭五厘　秋田　つね

金十銭　谷　こず江　金四銭　北原すえ子
金四銭　今牧　穐生　金十二銭　棚田　美知
金四銭　後沢　はる　金十銭　後沢　はる
金十銭　田村　逸生　金七銭　宮島　清
金八銭　増田み津ゑ　金十二銭　谷口寿々ゑ
金十銭　秋山つるよ　金四銭五厘　後沢　はる
金八銭五厘　北原す久子　金十九銭五厘　後沢　みよ
金四十一銭　筆墨　矢沢つる
金四十銭　墨　松尾氏　金二十四銭　筆　松尾　氏
金二十四銭　筆　松尾氏　金十銭　秋田　つね
金十銭　波多野栄　金十三銭五厘　片桐　声香
金九銭　林　金二十銭　竹村いすゞ
金四銭五厘　仲村はま　このあと三十九名
〆金十四円三十四銭　内〇印金四円四十八銭
一円五十銭　筆　高等女学校　十六銭　筆　か山
三十二銭　筆　高等女学校　四十銭　墨　波多
四十銭　墨　高松　一円四十銭　硯墨　田泉楼主
二口〆金十八円五十二銭也　利益金四円六十三銭也

本日再び高等女学校に至る。職員諸氏の尽力により生徒間にも売れたるなり。四円六十銭の利益といへば頗る豪きやうなれども恩師高島省三氏への弔慰金一円と羅紋硯一枚（一〇〇）紅墨（四〇）一ヶ外に墨の普通品五六丁（四八）を破損して殆ど売るに堪えず宿料とても払わねばならぬ訳なれば差引一円許りの利益なり。然れども羅紋硯は見本として自家用として用ふれば左迄の損耗にてはなく紅墨は半値にて売り他の破損せる墨片も大工の墨壺用に売らば二三銭位の価格を顕さん。去れば全くの損耗は一円以内ならん。何事も考え様明らめやうにあることなり。

十一月十七日　下伊那教育部会

九十銭　筆十本　稲井学校　後藤米五郎
（編集者註　外十一名の記載あり略す）
〆金六円十銭五厘也　利益一円五十二銭六厘也

本日仙鶴にて懇親会あり是へ出席。

十一月十八日

十二銭　藤岡春枝（編集者註　外十四名記載あり略す）
〆金五円二十八銭五厘
此外ニ帳簿ニ記載せざるもの五円許あれば、
〆金十円二十八銭　利益金二円五十六銭五厘也

今日米山君より端書来る。

かくやすの筆墨なりと思ふ哉
　なるべくならばたゞでほしなと
筆墨をしたゝか買えば思ふ哉　五無斎式の車ほしいなと
年頃の娘はないか思ふ哉　こんな殿御を婿にほしなと
筆墨はお手のものなり行く先を

かきまわしつゝ君世を渡る

赤車あかの他人と思へども　君の筆墨まつとほしなと

此のうち意味の通ぜざるもあり、懸字違もあり今日玉川堂へ注文書を発す。

十一月十九日

三十銭　墨　郡役所　　加藤松四郎

編集者註　（外に十名記載あり略す）

金三円八十九銭也　利益金九十七銭二厘

今朝宮下覚斎を大和旅館に訪ふ。天竜橘に遊び開善寺に遊ぶの一首を寄す。

郡役所に至る多少の売行あり、銀行を三ツばかり歩きたれども売れず、百十七銀行にて少し売れたるのみ。

古梅園より荷物到着代金引替小包なれば乃三十六円十八銭を払ふ。

玉川堂よりも荷物到着四十一円十四銭也

玉川堂より墜落の見舞として短冊一百葉を送り来る乃ち近作数十首を書きて之を郵便に托す。

伊藤長七氏に書面を発す是ハ機械標本売捌きの為めなり。

十一月二十日

一円三銭　筆墨　宿屋にて　　宮沢忠三

編集者註　（外に四名の記載あり略す）

下伊那教育品研究所

一金四銭　徳醇（一半）　一金四銭　三保之松原（二）

一金五銭　天骨小（一半）　一金六銭　小鶴小（一半）

一金五銭　旭花（二）　一金六銭　孝（二）

一金六銭　飛燕（二）　一金七銭　天骨大（二）

一金七銭　伏鬼（二）　一金九銭　千歳芝（二）

一金八銭　松鶴大（二）　一金十銭　枯骨（二）

一金九銭　富煙（二）　一金十五銭　富士形（二）

一金十銭　達摩（一半）　一金二十銭　文史三決（二）

一金十五銭　樵夫（二）

一金二十銭　香煙（一半）

一金二十三銭　後　素必要〇〇〇

〆金一円八十九銭也十九丁

右は友人福島文之助氏の需に応じて一々定価附を為し、下伊那郡教育研究所に致したるものなり。

今朝朝食前小池丹一郎氏来訪、氏は肥料商に関係あるの人、又南信日日新聞にも関係ありとか。

当商坂旅館に滞在中なる宮沢宮下原の三氏より御呼立になりたれは之に赴く多少の商あり元来本日伊賀良学校ニ赴く筈なりしも時正ニ午後一時を報じたれば中学校とふ。学校に至る又多少の売れ行きあり福島文之助氏の周旋により下伊那教育品研究所の為めに前記の墨をいたす。

二口　〆金五円四十六銭五厘也

利益一円三十六銭六厘也

十一月二十一日

一金五十六銭　筆墨　飯田中学校生徒　木下真雄
編集者註（外に七名記載あり略す）
〆金六円四十四銭也　利益金一円六十一銭也

伊賀良学校に至る。売れ行きよし。同役場も至るべけなり。

一金三円九十七銭　高坂隆次

十一月二十二日

一金十銭　墨　飯田中学校生徒　下島繁一
編集者註（外に八十名の記載あり略す）
〆金十五円五十七銭也　利益金三円八十九銭二厘

十一月二十二日

本日中学校に趣き小使室にて売る。例の突喊に逢はぬ新法を発明せり。故に斯くの如く成績よかりしなり。又同校習字科の教師井沢君の助力もありしなり、今日玉川堂より荷物到着せり。

保科勝治氏より来翰無尽の事なり、舎兄頑々堂村長に就職せしとの報知勝次氏より来る馬鹿者にて困るなり、殊に六学年となり、新築を前に控へての村長は中々困難なるものなり。

布半より二十年来の売余り品たる墨来る実に見事なものなり。夕食後飯田学校教員数名来訪。今宵墨の整理をなす。

蜜柑一箱を買ふ。黙心の為めなり。

十一月二十三日　新嘗祭

一金三十銭　筆十五本　林医師

負傷の際無料にて療治して貰いたれば原価にて売りたれば運賃丈けは持ち出しなり然れども一銭位のものならん。

上郷西学校に至り展覧会を見る。岡田邦松氏に宿す。山歩きの友達なり。古代にあつては頗る不平家なりしも近来は好々やなり。打見たる処にては大満足のやうなり。肉とサンマにてお酒を頂戴す夕飯なと喰つたか喰わぬかを知らず。

十一月二十四日

牧島修太郎君物数寄といふ題にて歌よめといふ。どんなものがすきかと問ふに鉄砲がすき花火がすききらいなものは酒なりと答ふ乃ち筆とりて、

鉄砲や花火がすきで酒きらひ
　然らはきかう豆は如何にと

金七十九銭　筆墨　上郷邨　牧島修太郎
金四十二銭　筆墨　〃　上田　兵吉
金五十九銭　〃　〃　岡田　邦松
〆金一円八十銭也

昼飯の時にサンマ飯を頂戴す。味甚だ佳なり。猫ならすとも肴を混したるもの中々によし。飯田町高坂に帰る。端冊

一百葉を書す　郷里の無尽講の連中に送らんか為めなり。
利益金四十五銭

十一月二十五日

金二円五十銭　硯　座光寺村役場　原貞〇〇
編集者註（外に八名記載あり略す）
〆金九円二銭也　利益金二円二十五銭五厘也
今朝無尽講の連中へ謝状幷に短冊四葉宛を送る国の為め君の為めつくすと五無斎墜落記念の歌三種在なり
午前九時半飯田を発し上郷村岡田氏に至る肝腎要の荷車の鍵を忘れたり。乃ち岡田氏の子守女を借りて取りにやり座光寺学校に至る上郷西学校の展覧会とやらへ行くよしとやらにてゴチ〳〵して居たれば売れず役場に至りしに中々売れ行きよし此処にては円余を売る今宵座光寺村並木屋に宿す。
さて当並木屋といふは如何にも不可思議なる旅籠屋なり。予が到りし頃は日暮時なるにも拘らず燈口さへもなかりしが故に田舎旅籠と思ひの外支那的の美人即ち丸ぼちや先生もおはすなり。夕食後漢楚軍談などを読みつしありしに十七八才の青年の入り来るもの三名あり。予が室より三つ目の室にてキキキャキャと騒ぎちらすなり。勿論若き女子の声をもプラスしたるなり。十時頃とも思ひし頃予が寝ねたる次の室は彼等の為めに寝室となりたるなり。（三行欠く）
たること例によつて例の通りなり。漢楚軍談などは読む可くもあらす。且つ何時迄も長起きして彼等を苦しむるも罪ならんとランプを吹き消し蒲団引き被きて眠らんとするにねむられず。蚤や虱のせせるも逐ことならず。目を明いて居れば小便も出度くなるものなり。床返りもしたくなるものなり。然れどもしか為さんには彼等を驚かすの恐れなきにしもあらず。蛇の交尾するを見れば必妖ありとも言ひ伝ふめれば人間の孳尾するを驚かさば臆がて我身に祟りあらん。少くともあすの朝飯の時飯の盛り振り悪からん。味噌汁のお替りなは無論出来ぬ事と知るべし。さすが三十余貫の荷車を曳きて上り坂下り坂を往復する五無斎減食の祟ありて如何にももやり切れず。

奥の間にももを踏み分け鳴く人の
こゑきく時ぞ夫はか南しき

時辰例の十二時を報ずる頃は心身共に疲労して前後も知らずグッスリと寝込みたり。彼等四たりの若連如何に巫山の戯れを為したるか知らず。
五無斎は明治元年六月八日の生れにて今年はまさに四十才。孔丘が不惑といひし年輩なれば只々好奇心にかられて眠れぬのみなれども若しも十年二十年の古昔ならんには親仁は兎も角も子息の小冠者が承知せざる可し。今宵子息の小冠者時に目をさましたること無きにしもあらずと雖も。

目覚ますな。何事も無し只睡れ。
　ねこが内所で。水を飲むらん。
といひたれば、
　しやけの骨。喰ひたる猫も。大水を。
　飲みなばやがて。お中病むらん。
など寝言のやうに言ひつゝグッスリと熟睡したる様子なり。
右の外何の不思議は無けれども、此宿の女将が次の間にて襖越しにあなた中学の島地さんを知つて居るかなと言ひたるは何か仔細もあらんと耳障りなりし。是以上を物するときは天機を洩すの恐れあり穴賢々々。

十一月二十六日　火　下伊那郡

一円七十銭　墨　座光寺役場　原貞〇〇
編集者註（外に十四名記載あり略す）
〆金十一円二十二銭也　利益金二円八十銭五厘也

早朝並木屋を辞し市田の学校に至らんとせしに座光寺役場の原塚田の二氏尋ねられ布半のすみやら二円二十銭の硯やらを買ふ。乃ち昼前に六円程の商が出来たるなり。
午後一時下市田の学校に至る此処でも亦相当の売れ行きあり。学校前の一旅店に宿す。相客は稲扱屋なり。宿の主人は中々滑稽なる男なり。予を伴ふて林直太郎氏に至らしむ。村夫子なり。議論は中々盛なるものなり。学殖も田舎としては相応にあり。殊に新聞などは粉糂しく読居ることならむ。酒なと出して呉れられたり。此村夫子先生暫りに気軽なりとて称賛す。
　気は軽ろく財布もかろく身もかろく
　　重きは筆の車なりける。

十一月二十七日　水

一金三円三十銭　山吹学校　坂井校長
編集者註（外に四名記載あり略す）
〆金五円二十一銭也　利益一円十銭二厘五毛

市田学校前の旅舎を発し山吹学校に至る多少の売れ行きあり初雪も降り始むるやうなる天気にて後には雨と代りたり役場にてはペケなり今宵大島村古町の福島屋に宿す料理兼旅人宿なり。馬肉にて飲む。自暴自棄のみなり。今宵田舎客来りて午前一時頃迄飲む音するなり八ケ間敷事限りなし。女中うすのろのやうなれども男をたらすことは極め上手なりと見えたり。

十一月二十八日　木

一金二円九十銭　大島学校　久保田治一郎
編集者註（外二名記載あり略す）
〆金三円五十銭　利益八十七銭五厘

早朝大島学校に至る。多少の売行あり役場に至るにペケなり。

玉川堂へ金五十円送る。
天竜川を渡り 生田村部奈に 至り 部奈格君を問ふ。 不在なり。怪しげなる小売店に至り泊らんとせしも泊めては呉れず。牛缶と鋼一疋を喰ひ福与まで帰らんとしたれども部奈氏より迎の来りたれば再ひ部奈氏に至る。財政は紊乱のやうなり。是は厳父団造翁か公共事業其他にてつかひ果したる後をうけたるが為めなりとか。格氏の父の遺志をつき部奈橋の加設に狂奔中なり。

此親がありて此子もありしなり
　此子がありて此橋もあり。

十一月二十九日　金

一金一円　筆墨　生田村　部奈格君　是は特別原価にて売りたるなり。編集者註（外に十名記載あり略す）

〆金六円四十九銭五厘也　利益一円三十七銭四厘也

部奈氏を辞し生田村役場に至る多少の売れ行きあり。松下村長と共に某料理店に至り午食を共にす。

会計はといひしによしと言ふ。乃ち二十銭の墨二十を出したるに取らず。夫ならばといふて河野村に至る。又々多少の売れ行きありたれども日暮方にて思ふ程には売れず今宵河野村の沢本といふ旅舎に宿す。相客は講談師なり。

十一月三十日　土　少雨。雪

一金五十二銭五厘　河野役場　編者註（外六名略）

〆金五円五銭五厘　利益一円二十六銭三厘

今日河野村の沢本にて便所に趣く。壁上美人の石版画を掲ぐ一は花中之花と題し他は酔花遊墨水と題す。多分は向島辺の美形ならん。ソハ兎も角も大小便所に書画の類を貼布すること新案といふべし。本売上帳の例言中に記し置きたる如く五無斎のうた此大小便所用に適す。予は切に五無斎のうたが大小便所に貼布せらるゝを希望するものなり。

午前八時半沢本を発し河野学校に至る。昨日売りたることとて売れず。役場に至りたるも亦思はしからず。

正午河野村を発し神稲村に至る途中田口といふ所に庚申塔の多数なるには驚きたり。いざとて数へ見るに百八基あり。神稲学校に至るべケなり。役場にて大島正治君の歓迎をうけ多少の売れ行きあり。のみならず鳴与といふ料理屋にて昼飯の饗応を受く。

横前不惑君より是非に立ち寄り呉れよといはる。乃ち之に趣く多少の売行あり。已にして大原君亦来られ硯一枚売れたり。

今宵阿島に趣かんとしたれども 遂に 島文といふ旅宿に宿す。

不惑君撫子道楽あり何か撫子に因める歌よめといふ。

不惑までひとり身で居てなでしこの
　うたやなんとかよめるものかは。

今宵の相客は稲扱屋なり。本日は十一月の末なれば本月中の結算を為す。

十一月分総計　二百六円七十二銭也

利益金五十一円九十銭五厘也

是は二割五分としての計算なり。然れども安墨は二割にまはらず筆は二割二三分硯も亦破格品等の為めに二割二三分となる筈なれば実際は是より以下の率ならん。且つ毎日宿料其他にも平均一円宛位を要するが上に実際懐に入りたるは二十円前後なるべし精算したるものも〇にれは知らずこんな事では駄目なり。来月よりは大憤発を要す。

十二月一日　日

十一月の月は商を余程うまくやりたる積りなれども純粋の利益は二十円内外なり。一ケ月二十円とすれば一ケ年に積りて二百四十円なれば二十円月給取に同じく養蚕にて四十貫の繭を取り十七八石の米を売る中農の仕事なり。然り而して是は算盤珠の上の二十円なり。荷物の別に殖えたりとも見えず玉川堂の借金や其他をも返したる覚えもなければ何たか有耶無耶なり因つて本日よりは利益の終りに其日々々の遣払をも詳細に記述すべし。

一金十三銭五厘　筆墨　山本富十郎

編集者註（外二名記載あり略す）

〆金三十三銭五厘也　利益金八銭四厘也

本日の遣払

一金二十八銭　宿料　一金五銭　茶代

一金二十五銭　昼飯料　一金一銭五厘

合計金五十七銭五厘　差引不足金四十五銭九厘也

今宵飯田に帰る。赤羽連、保科寿久禰両氏と篆刻師の〇〇君来る。大に飲む。

玉川堂よりの荷物来る、古梅園のもの未だなり。

十二月二日　月　晴

一金六十銭　信濃教育会　秋元正親㊞

高坂旅館内五無斎宛の手紙来る。用向は玉川堂の並紅無墨をほしきよしなり。品切につき古梅園の奈阿といふ墨を送る。長野より注文の来りたるなればうれしきこと限りなし。

一金四円八銭　斎木村　城下清一

一金一円十銭　〃　中山弥次郎

阿島の学校にてはお菓子とお茶を頂戴したれどもペケなり、小川伊久間学校にて大に売る。

〆金五円七十八銭也　利益金一円四十四銭五厘

本日の遣払

一金一銭五厘　渡船料　一金十二銭　昼食料

一金九銭五厘　郵税

〆金二十三銭也　差引純益一円二十一銭五厘也

今宵阿島の藤屋に宿す。

十二月三日　火　曇

一金七十銭　喬木村　関国三郎

編集者註（外に八名記載あり略す）

〆金四円七銭五厘也　利益一円一銭八厘也

本日の遣払

一金三十二銭　宿料　一金十七銭　昼飯料

一金二十八銭五厘　景品

〆金七十七銭五厘　純益二十四銭三厘也

今宵何とかいふ礦泉宿に宿す。下久堅役場はペケなり、喬木役場は無人なり。

信濃図書県補助千円の上へ五の字を鉛筆にて書き加へよとの文章一篇を掌して之を長野新聞に投ず、土屋良遵氏及信濃図書館の創立委員に一書を発す是は過日西沢図書館の看板を掛けさせて呉れよとの手紙の返事なり西沢にあたまを下ぐる代りに三十九人の県会議にあたまを下げて千の字の上へ五の字をのせて貰へとの趣意なり。

御酒もよしお料理もよし殊にまた

此家の女中でかく別品

明治四十季十二月四日　水曜日

一金六十四銭　筆墨　下久堅郵便局　山下孝太良

一金一円八十三銭　筆墨　竜丘村役場　編集者註（外に五名あり略す）

〆金四円八十銭也　利益一円二十銭

本日の遣払

一金四十五銭　宿料　一金五銭　茶代

一金五銭　梨一個　一金十四銭　郵税

一金十六銭　昼食　一金四銭五厘　景品

〆金八十九銭五厘　差引純益三十銭五厘也

本日下久堅村を発し天竜川を渡り竜丘村役場に至る。竜丘村と松尾村との境にて木曾山林学校生徒三名に逢ふ。高坂隆次氏に金五円を送る古梅園の墨の代金なり。

昨夜侏儒の女と結婚したることを夢む馬鹿気切つたること限りなし。今宵時又の〇〇宿す。今宵浜下伊那郡長其他面〻の席にて仮寝を為して頗る大きな鼾声を発したるに五無斉天竜川の坂道を引き上げたるが為めに敢へて斯の如しと噂するを耳にしたるも何となく身体疲労し居たれば如何にも堪え得ず我と我が鼾声に驚かれ目も醒ぬれど又直ちに大鼾声を発しては自ら驚きたりと夢む。是が夢中の夢又夢の自乗羃といふものにて文学者の夢に夢見る心地すといふものならん。既にして隣室に客ありはた〳〵と拍手し命ずる声と小便に促されて目醒むれば隣室の本もの〻客人手を打鳴すこと十数回宿の娘のへーといふ声又々十数回。何れは酒飲の他より帰り来れるが酒なと命ずるにてもあらん。隣

家の腰眛店にて尚絃歌の声のきかるるなり。自分が此喜劇のうちの主人公となり居る時には何が何やら分らねとも自ら真剣のものには実に有難くなきものなり。此辺妖風甚盛んなり。時は午前〇時頃にもやあらん禿筆を嘗め硯の中を撫で廻しつゝ記すること爾り。と書きつけつゝありし姐さんアラ困る—厭ヤーオヨシナンショすうちやんおつかさんが用がある早くなどの声も聞ゆ二階の階子段をトン〳〵〳〵〳〵下の廊下をタン〳〵〳〵ホントに仕方が無いな—宿屋商売も亦禍なる哉ハタ〳〵〳〵〳〵へ——ッ長火鉢の傍にてもへ——ッ既にして上官らしきもの下級官吏らしきもの応答の声も聞ゆ。



我国で名物男見立つれば保科五無斉
伊藤博文（荒木茂平氏蔵）

十二月五日　木　晴

金一円六十二銭五厘　筆墨　竜丘村　田中重太郎
金一円二十一銭　墨筆　竜江村　池田　吾市
編者註（外九名記載あり略す）
〆金八円六十四銭也　利益金二円八銭五厘也

本日遣払

一金五十銭　宿料　一金六銭　茶料
一金五銭　渡橋料　金一銭五厘　郵税
〆金六十二銭五厘也　差引純益一円四十六銭

朝食後直ちに竜江村に赴かんとせしに収入役田中君来らる昨日と今朝にて墨五十丁を売りたれは荷物の整理を為すか為めに殆ど半日を費す。時又にて午食を認め竜江村学校に至りたるのみにて役場には至らず学校のみにて相応に売れ行きあり。

御木曾秀十君に行き逢ふ松本時代の旧知なり。今宵時又に宿す。古梅園へ書を発す紅花墨一丁八分形及四分の一形の注文なり。

本日竜江学校地質講話の依頼ありたり。

明治四十年十二月六日

金四円十銭　筆墨　下川路村　今村弥一

編集者註（外三名記載あり略す）
計金八円三十五銭　利益金二円八銭八厘

本日の遣払
一金六銭五厘　郵税　　一金二十銭　昼食料
〃金二十一銭五厘　差引純益一円八十六銭三毛也

本日下川路校に至る。校長は興津一二三といふ同学の友にして首席の訓導は嘗て大豆島学校奉職中准訓導として苦労を頼みたる人なり。

興津君には遂に逢はず故に又売れず。村長今村信夫君の紹介を持、津路といふ財産家に至る不在なり。関島俊といふ人を問ふ。同学の友故関島房太郎君の舎兄にして関島式上簇蔟折器を販売す。是は関島房太郎君を弔ふの歌を物するに当り其材料を得んとするなり俊君扇子一本を示さる乃ち一首の歌を（この空白の所ニ扇面の図あり）残して来る。

三十で立つ人もあり死ぬもあり
四十筆屋と落る人あり。

今宵時又に宿す。相客は鼻緒の卸屋御百姓なり。

十二月七日　土　竜丘小学校

一金二円三十銭　下平芳太郎　編集者註（外十六名の記載あり略す）
計金十一円七十三銭也　利益二円九十三銭二厘

本日の遣払
一金五銭　みかん　　一金三十五銭　会費
差引純益金二円五十三銭二厘

竜丘村新旧村長送迎会に出席す演説を為したれども酒が始りたると時間の切迫し居たる為め甚不手際なり今宵時又松川屋に宿す。竜丘村の有志家の諸氏前後三組許り襲撃す。大に酔ふて前後忘却す。

十二月八日
一金二十七銭五厘　竜丘学校生徒某　利益金六銭九厘也

本日の遣払
一金三銭也　橋銭　純益金三銭九厘也

竜江学校に至り地質学の講話を為す竜丘竜江両校の職員連合の会なり二円の御礼を頂戴す今宵時又松川屋に宿し校長君と大に飲む。

十二月九日
金六十銭　今村正一　編集者註（外四名あり略す）
〆金二円二十二銭五厘　利益金五十五銭六厘

本日の遣払
一金二円　宿料　　一金三十八銭　茶代
一金十八銭　昼食料　　一金二十七銭　景品
〆金二円八十三銭　△差引金二円二十七銭二厘不足

今村氏方にて売り居たる下田直樹といふ老人来り茶一つとて五無斎を其書斉に誘ひて酒など飲ませられたり。

十二月十日　火　雨

一金一円六銭五厘　宮沢君註（外に五名記載あり略す）
　メ金四円十二銭也　利益金一円三銭

本日の遣払

一金三十二銭　宿料　　一金三十銭　下駄一足
一金十五銭　名刺入　　計金七十二銭
差引純益三十一銭

十二月十一日　水

一金四十五銭　墨筆　高坂旅館御主人様
一金一円二十銭　硯墨　予防事務所　保科寿久称夫
編集者註（外に六名記載あり略す）
　メ金二円八十六銭也　利益七十一銭五厘

本日遣払

一金九銭　郵税　　一金十銭　斬髪
一金三銭五厘　たばこ　　一金十五銭也　真田紐
　メ金四十七銭五厘也　純益金二十四銭也

本日高等女学校の依頼により信州地質の講話を為す。時間は四十五分なりし為め思ふやうには出来ず。

本日某老人より来翰。かゝを貰へとなり。財政紊乱につき結婚式を挙ぐるも事も出来ざれば辞す。

藤森良蔵伊藤長七両氏へ書を発す。一は算術代数幾何三角の文部の検定が取れたるを祝し他は厳君の死亡を弔せしなり今宵斬髪おつくりを為す。妻君の周旋をすべしとの書面が来る程なれば全然見捨てたものでなし。故におつくりをしたるなり。

五無斎夫人の長所と短所。

姓名知らず。学力尋常正教員　容貌美ならず。体格稍小なる方。年令二十八。性質温順にして困苦に堪ふ。財産なし。門閥よし。

是は所謂仲人殿の申分なり。実物は是より二三割を減じたらばよからん。先方では貰ふて呉るゝならば喜んで応ずべしとなり。或は是よりも亦一二割を減ずるならんか。仮令どのような人でも来て呉るるとは感心なものなり。

　財政の都合と未来の方針さへ立たば見合ひなどはせずもよし直ぐにも貰はんものを。嗚呼貧程つらきものは無し。戯れに於いて悲しい哉。来年は金をも溜むる積りなれば妻君も必要なり。何れ其中には代議士となるの希望もあり。代議士などになれば又々妻君の必要もあらん。偖其次は総理大臣なり。総理大臣は無論妻人同道にて諸所の宴会にも出ねばならすと知るべし。

(1)　かゝに来る人しあなれは五無斎を
　　あまり馬鹿には。するなもろびと。
(2)　これはまた。かりそめならぬ。人ならん。
　　筆屋の五無を。志たふかぎりは。

(3) 衣食住。共になき故。故に辞す。
然れども又惜しきものなり。
(4) 人生を。五十とすれば、あますところ
たんだ十年。故に辞すなり。
(5) 然れども。七そぢ八そぢ生き延びは
銀婚式も出来るなるべし。
(6) 世の中を渡る商人。金をたえ。
明日をも知らぬ。死出の道かな。
(7) 世の中に。貧程つらき。ものはなし。
かゝに来る人。あるにつけても。
此歌如何にも不手際なれども筆さへ取れば何とかよめるものなり。

明治四十年十二月十二日

高等女学校へ売りに行く、売れ行きよし五円ばかりもありたらん。八ヶ間敷かりし為記帳せず。
本日の遣払
一金一銭五厘　はがき
利益金三円七十五銭　差引純益金三円七十二銭五厘
本日高等女学校教員諸氏の需に応じて信州地質の話を為す。右終つて宿直室にて豚にてお酒を頂戴す。高等女学の宿直室なとにてお酒を飲みたるは今日が始めてなり。其昔浜郡長が埴科郡長たりし時蜜蜂を箱に移してやりしお礼として同役所の宿直室にて飲みたる時の事を思ひ出して愉快なり。

十二月十三日

メ金四円三十九銭五厘編集者註（外に飯田学校外郡役所十四名記載あり）　利益金一円九銭九厘也
本日遣払なし

十二月十四日

一金二十七銭也　上郷東学校（下平郷之外十名記載あり）
メ金七円六銭五厘也　利益金一円七十六銭六厘
本日の遣払
一金五銭　短冊十枚　一金十銭五厘　郵税
一金十一円七十三銭　宿料同館へ払
一金一円二十銭　墨一ヶ
メ金十三円八銭五厘　差引不足金十一円七十六銭五厘
校長神谷硯の裏に何かものせよといふ。乃ち
此硯穴のあく程すりもせば
やがて手書きと君ハなるら舞
今宵飯田小学校の女教師小池かつゑといふ人来る。午後十時まで種々の談話を為す。

十二月十五日　日

一金五十九銭也　小池かつゑ　（外に大島村、飯田町の者三名記載あり略す）

メ金一円七十銭也　利益四十二銭五厘

本日の遣払

一金二十四銭　扇子三本下女三名へ

一金二十銭　香水一宿の娘へ

一金三十銭　昼飯料　一金二銭五厘　栗三合

一金二十銭　郵税郷里へ小包

メ金九十六銭五厘　差引不足金五十四銭也

本日大平峠を越えんとせしも急に上京したくなりたれば飯田町を発し市田村の牛牧といふ処に至り宿し、中田鎌君を問ふ不在なり即一木貫ホテルに宿し、高等工業学校の位置に就てと文章一篇を草す。新聞三四段位のものなり。大要は上田町を可とするの説なり。文章も善く趣意も善し。候文体なり。

十二月十六日　月

一金三十五銭　易水星一・筆二　中田館　編集者註（外十二名記載略す）

メ金六円七銭也　利益金一円五十一銭七厘五毛

一金三十銭　宿料　一金十二銭五厘　郵税

一金七銭五厘　郵税　一金十二銭　煙草

メ金六十二銭也　差引純益八十九銭七厘五毛

山吹の追分鍵屋に宿す。今宵の相客は下駄の鼻緒の卸屋と女の呉服となり。

十二月十七日　火

一金三十銭追分　鍵屋主人　編集者註（外に七久保飯島学校などあり略す）

メ金二円三十七銭也　利益金五十九銭二厘五毛

本日の遣払

一金三十銭　宿料茶代　一金二十銭　昼食料茶代

メ金五十銭也　差引純益金九銭二厘五毛

本追分を発し何れの学校役場へも立ち寄らす直ちに赤穂村に赴かんとせしに疲労甚しき為め飯島村の役場学校立寄りしに多少の売れ行きあり。助役某君頻りに模範村論を為す。話につり込まれ遂に長談議を為し日の西山に没せんとするを知らず。止むを得ず飯島駅の扇屋に宿す山田助役場飯田〇造二氏来訪飲む。

十二月十八日　水

一金二十銭　飯島駅　扇屋の主人公　編集者註（外に赤穂校其他九名あり略す）

メ金十円七十九銭也　利益金二円六十九銭七厘五毛

本日の遣払

一金二銭　〇養　一金三十五銭　宿料

一金二十二銭　昼食料　一金十銭　茶代

メ金七十八銭也　差引一円九十九銭二厘五毛

本日飯島を発し赤穂に至る帰路なれば売れまじと思ひたる

に案外にも七円余の売行きあり。
役場にても亦多少の売れ行きあり。宮田村に至る役場にてはぺケなりしも学校にて少し売れ行く今宵宮田村の銭屋に宿す。

十二月十九日　木

一金七銭五厘　河手丑太郎　（外に七名記載あり略す）
メ金三円三銭五厘也　利益七十五銭九厘也

本日の遣払

金十銭　茶代　　金三十五銭也　宿料
一金二十三銭也　昼食料　一金二銭也　みかん四
メ金七十銭　差引純益五銭九厘也

今宵伊那町ある屋に宿し有賀校長と飲む。

十二月二十日　金

一金三十四銭　南箕輪村　馬場元太郎　編集者註（外九名の記載あり略す）
メ金三円五十銭五厘也　利益金八十五銭也

本日の遣払

金三十五銭　宿料　　金十三銭　昼食料
金六十五銭　墨一丁（有賀氏へ送る）　一金六銭五厘　景品
メ金一円二十四銭五厘也　差引不足金三十九銭五厘也

南箕輪役場にて加藤敬亮君
五無斎が筆の命も荷にやみて
かきまわしたるみ方と一文字
といふ歌やうなるものを示さる。
四十年さらせし恥の不足にて
書き廻るなり日本全国

此地の神官鈴木純一君何か歌書けといふ聞けば隣村長瀬の人なりと、
御近所と聞けばなつかし身を大事
神をたいじに氏子大事に

馬場元太郎君庭上の松をよめといふ。
相まつて共に名誉をあげよかし
松は君まつ君は松まつ

今宵松嶋駅もん屋に宿す。

十二月二十一日　土

昨夜関嶋房太郎君を弔ふの歌一首幷短歌を脱稿す少しく不細工なる所もあり。

弔関嶋房太郎君歌一首幷短歌　五無斎　保科百助

鳴呼君は　信濃の国　下伊那の　飯田の下の　下川路
大字小寺の　生れにて　姓は関嶋　名は房太　父は林蔵
母とく子　明治戊辰の夏四月　歓を音さんの　縁日に　オギャーと言ひし　事なれば　六月八日に　生れたる　五無斎よりは　二タ月と　十日の兄で　あるなれど　長野の師範に　ありし日は　我は上級　君下級　折節五無斎　転げ

落ち　同じ級とぞ　なりにける　あとの烏は先になり　先
の烏は後トになる　諺あれば　是非もなし　倩も五無斎
満四年　君と同じく　棲みたるが　明治の二十　三年の
夏の頃にや　ありたら舞　愈来る　三月は　どうやら斯う
やら　卒業と　定りたれば　さて此処に　尻から連の　会
合し　畜髪団を　組織して　各威張り　散しける　其一人
は　斯く申す　五無斎ほしな　百助で　山羊々々々と
綽名さる　又一人は　佐久の人　姓は神津で　名は甚蔵
びんづるまなこ　鰌ひげ　女子子供に　好かるべき　資格
たつぷり　お座します　倩其次は　会長の　尊号受けし



下伊那郡山本村　林　文之助
上伊那郡東春近村　小笠原末造
北佐久郡長土呂村　神津　甚蔵
上伊那郡東箕輪村　藤沢　直枝
諏訪郡富士見村　樋口勘次郎
東筑摩郡波多村　百瀬喜源治
上伊那郡東春近村　飯塚　昇
諏訪郡上諏訪村　浜　利三郎

小県郡豊里村　宮原午四郎
諏訪郡落合村　森山辰之助
小県郡富士山村　工藤　文太
南安曇郡烏川村　和田喜一郎
北佐久郡横鳥村　保科　百助
北佐久郡長土呂村　神津利三郎
東筑摩郡新村　武居東一郎
北佐久郡本牧村　大沢茂重郎

南佐久郡桜井村　臼田　直治
北佐久郡小諸町　土屋　政七
下伊那郡下川路村　関島房太郎
上水内郡鳥居村　河野竹治郎
南安曇郡梓村　三村寿八郎
諏訪郡上諏訪村　鵜飼　初弥
小県郡東塩田村　清水菊太郎
上水内郡長野町　中沢　照琳

君にして　うは髯下ひげ　頬髯も　あたりせきまで　生ひ繁り　鬚の中より　両の目と　鼻のみ出し　厳然と　椅子にもたれし　其風情　チャンとロスケ酒　生き胆を　冷し尽して　白旗を　高く掲げて　余儀もなく　降参々々　降参と　遂に言はせし　帝国の　陸海軍の　軍人と　見紛ふ程の　大家なり　然れども又　此三たり　成績甚だ　悪しくして　尻から一は　無論五無　びんづる眼の　甚蔵も会長関島　房君も　尻から五番　以下でなし　偖も翌年三月の　二十六日　午前九時是等の三たり　打ち連れて校長浅岡　先生の　三歩前にて　立ち留まり　最敬礼を施して　又も進みて　志ほらしく　両の手重ね　証書をば　押し戴きて　廻れ右　舌をペロリと　出したるが　笑はぬ者ぞ　無かりける　偖も同年　六月は　六週間の　現役に　服する事の　ありたるが　やがて期も満ち　除隊だと　定りたれば　聯隊長　河野大佐の　検閲に　山羊の五無斎　百助は　聯隊旗手の　官爵と　勲位姓名　これ如何　試問を受けし　のみなるが　君は勅諭の　五ケ条を　如何にと問はれ　たりけるが　無論記憶し　居らざれば　にはか作りを　思ひ立ち　何かぶつ〳〵　言ひ出でて　聯隊大隊　小隊の　隊長始め　同班の　下士卒迄も　驚かし　且つは困らせたりけるが　偖其時の　可笑さは　物に譬えんやうもなし　是は正しく　有髯の　害としみるの　外はなし　偖五無斎は　北信の地を遁ひ君は　南信の　天を翔りし　事なれど何が何やら　其後の　様子は絶えて　知らぬ故　今年明治の　四十年　五無斎筆屋と　成り下がり　金箔つきの　ひのくるま　めぐりめぐりて　今茲に　君の実家を　音なひて　舎兄の俊と　いふ人や　戸籍役場に　立ち寄りて　就いて委細を　尋ぬれば　萬壁姓を　冒しては　明治の二十　六年の　冬とし聞けば　家付きの　お何の君と　偕老の　契りをかため　同穴と　言ひ交はせしは足かけで　言へば六年　満五年　何等の風波も　無かりしに　離婚沙汰とは　なりにけり　離婚となりし　年月は明治三十　一年の　頃は七月　十二日　死せしは越えて十九日　午前八時と　聞ゆれば　一週日の　其前は　夫よ妻よと　言ひ交はし　一週日の　其後は　夫にもあらず妻でなし　お前は死にやれ　わしは又　他しをの子と　契らなん　おさらば更ばの　捨て台詞　言はるゝ人と　言ふ人の　けぢ目は天地　月鼈か　ブラ提灯と　釣鐘の　つりも合はぬが　不縁する　原因(もと)とし聞けば　不縁され　実家に帰り　両親や　兄弟衆の　暖かき　看護受けつゝ　安らけく　長き眠りに　落ちけるが　明日は死すてふ　前日の十八日は　夫々に　端書認め　明日は　朝疾く死亡　致すべく　えかいお世話に　なりました　先取り急ぎ　草々と書き送りつつ　次の日は　遺言などは　抜きにして　墨押

し磨らせ　扇面に　三十而死（サンジフジシ）と　大書して　さて其次に
人は三　十にして立ち　我は三　十にして死す　さても世
は　様々なりと　んの字を　書かんとせしに　腕しぶり
墨黒々と　扇面を　けがし尽して　他の文字も　見えざる
やうに　なしたるが　此時息は絶えにけり　豊太閤が　露
とおき露と消えぬる　我身かな　難波の事は　何とやら
かねて詠み出で　書いて置き　臨終の折に　孝蔵主　呼び
て年月　花押をば　半分書いて　がつくりと　往生したる
逸話にも　優り劣りは　あらざらん　さて五無斎が　悠然（ゆうぜん）
と　婆婆に暮して　さておいで　わしは一とあし　チョト
お先　辞世の歌を　よみ散らし　書きて散らすも　豊公や
君にあやかり　仲間入　せんが為めなり　トウタ房君
反歌
三十で立つ人もあり死ぬもあり　四十筆屋と落る人あり

金二十銭　墨一丁　中箕輪高等小学校　山口登

編集者註（外に十三名記載しあり略ず）

メ金四円五十九銭也　利益金一円十五銭

本日の遣払

一金三十三銭　宿料　一金三銭五厘　郵税
一金二十一銭　昼食料　一金二銭　景品
メ金五十九銭五厘也　差引純益金五十五銭五厘也

本日学校其他にて遊び過し平出に至ること能はず再び松島駅のもん屋に宿す。相客は諏訪の人伊勢参宮の帰途にあるものなり。

関島房太郎君を弔ふの歌一首を下川路村長今村信夫氏に郵送して之を関島氏に渡す。

今日金三十円を玉川堂に送る。

今日中箕輪村役場にて藤沢増十郎氏に面会す。東箕輪の人なり。予に是非共立ち寄りて吹きて呉れよといふ。忙しければよらずといふ。然れども遂に遊び過ぎて此処に泊りしなり。

十二月二十二日　日　朝日学校

一金十六銭五厘也　伊藤彦弥
一金四十二銭也　野沢省一郎

十二月二十三日

金十二銭五厘　草間明三註（外四名記載あり略）
小石川伝通院前　沢柳政太郎　中村不折　丸山晩霞
小川平吉　山路愛山
熱海伊豆山　渡辺国武

仕入の部

五十二円八銭也　玉川堂
十月　六日　四十二円八十一銭也　玉川堂
十一月二日　四十四円七十二銭也　〃

十月　一日	七円十二銭也	〃
六月　三日	六十円五十八銭也	玉川堂
十一月十一日	二十七円四十五銭也	玉川堂
九月三十日	三円二銭五厘	古梅園
十月	十三円也	古梅園
十一月十一日	三十五円九十八銭也	〃
十一月十九日	三十六円十八銭也	〃
十一月十九日	四十一円十四銭	玉川堂
十一月二十二日	三十三円九十一銭	玉川堂
十二月一日	三十四円七十四銭	〃
十二月二日	十二円十二銭	古梅園
十二月九日	三十二円三十七銭	玉川堂
十一月十四日	一金十二円十二銭	古梅園へ送る
十一月二十八日	一金五十円	玉川堂へおくる
十一月十九日	一金三十六円十八銭	古梅園へ払
十一月十五日	一金三十五円九十八銭	古梅園
十一月十四日	一金四十円也	玉川堂へ送る
十一月九日	一金四十円	玉川堂へ送る
十月三十日	一金三十円也	玉川堂へ送る
十月二十八日	一金五十円也	玉川堂へ送る
十月十八日	一金十九円也	古梅園へ送る
十月二十一日	一金五十円也	玉川堂へ送る
九月二十七日	金四十円也	玉川堂へ送る

二　巡業日誌

埴科郡南部職員会へ出席して地学の講習を為し簡短なる実地指導を為したるの日誌をものし始めて置きながら中絶して読者諸君に申訳なし。然れども是は他日に譲り以下下高井下水内二郡を巡業しつゝある筆屋石屋新聞屋兼演説屋の五無斎が商売の為振を書いて見んと欲するなり。

十一月三十日　午前六時起床同行の若林君来る。乃ち一切の準備を整へて出発するものなり。本日五無斎の訪ひたるは、上水内郡三輪尋常高等小学校。同吉田尋常小学校。同東部組合高等小学校。同東部乙種農学校。同若槻尋常小学校。同神郷尋常高等小学校。同鳥居尋常高等小学校の七校なり。以上の学校にて筆も売り石も売り又新聞の申込をも受けたるなり。本日の行程約三里なり。世間から見れば新聞屋筆屋などは気楽な商売のやうにも思ふ可れども敢へて左に非ず。今宵豊野駅の藤巻といふ旅宿に泊る。夕食後大凡十本許りの手紙を認む。

十二月一日愈々本日は下高井郡高丘小学校と平野小学校とにて演説すべきの日取りなり。乃ち同行の若林君には添書と筆墨とを持たせて、上水内郡長沼尋常高等小学校。同村役場。同巡査駐在所。同神郷村役場。同駐在所。同鳥居村役場。同尋常高等小学校。の七個所へ立寄らしめたるに石も売れ筆墨も売れ新聞の申込みもありたる由なり。

偖五無斎は六花霏々たる泥道を金箔つきの火の車を引張りて立か花の船橋を渡りて高丘小学校に至るの途上立か花船橋の船数を数へたり。是は爾後下高井下水内の各町村に於て演説すべき信州の地質地形を論して信濃川治水問題と立か花架橋問題に及ぶなる演説の材料なり。之を池虎先生や市川治兵衛翁に聞いて見たらば差当り之を存ぜぬ知らぬと答ふるなる可し。船橋の船の数位知らずしては架橋問題の通過も蓋し覚束なからん。斯る県会議員を選出したる下高井郡民は頗る迷惑なる哉。午前九時半高丘学校に至る。諸人驚かずと謂ふことなし。新聞社の社長兼主筆たるもの盲縞の筒袖前垂の扮装とは各人の予想せさる所なればなる可し。演説は二時間以上に渡りたらん。始めての事とて如何なる橋を掛く可きやを言ひ忘れたり。聴衆中の或る熱心なる仁より橋の種類はと問はれてソハ無論ツリ橋なりと答へたり。乃ち越後の小千谷と十日町の間に懸けあるものと同様の橋なり。池虎先生や市川君には橋の種類の考案なども無からん。県庁のお役人などにも無論あらざる可し。市川君も池虎君も是非橋を架けたくば五無斎の門を叩き説を叩きて可なり。之を要するに五無斎程に信濃川治水問題を研究したる者、広き外国の事はいざ知らず日本としては五無斎以上のもの一人も無し。

午後二時半平野村に至り演説す。無論二時間以上を要したれば日暮れ時となりたり。今一と幕遣つて貰ひ度しとの希望もありたる由なれども遂興業せず。村長校長其他教員諸君より御神酒を頂戴す。今宵或る人の為め下駄を履き違へらる。是は長野市にて誰やらに履き違へられたる跛下駄なり。今又履違へられたれば履違ひの自乗幣なり。午後九時中野町に至り中野館に投宿す。中野館に泊り込みたりとは如何にも贅沢ならずやと言ふ人もあらん。然れども是は新聞を取つて貰はんが為めなり。又広告でも出して貰はんが為めなり。敢へて虚勢を張りたるには非ず。

十二月二日　午前七時起床、午前九時日野村小学校に至り校長菅君より同校生徒用の墨百挺分の利益金五十銭を受取る。此商法は極めて斬新なる五無斎が新発明方なり。即ち何々の墨何百挺を何々学校何々君方五無斎宛代金引替小包郵便にて御送り被下度しとの書面を書き、焼餅大の印を捺して之を其学校長に渡すなり。学校にては直ちに之を古梅園に致す。古梅園にては五無斎に送りたる積りにて既定の

如く値引しあるなり。学校にては定価の一割位安く買へるなり。五無斎も亦手紙を書きたる報酬として定価の一割を受くる筈なり。あとの一割は小包料や破損品や荷造費等となるなど。予は斯かる珍しき商売の仕方が我長野県全体に行はれんことを希望するものなり。其故如何となれば他人も善かれ五無斎も善かれといふ方法なればなり。午前十時演説を始め正午に終る。聴衆の稍少かりしは遺憾此上もなし。又御神酒を頂戴したれども午後の差支ともなりてはと痩せ我慢にて飲まず。然れども喉は頻りにグウ〳〵といふ。

午後一時半頃延徳村学校に至り演説す。聴衆意外に多し。是は水害の本場なればなる可し。

今宵五無斎の為めに慰労会を開かる有り難きこと限りなし。即ち是は下地は好きなり御意は善しの原理によるものなり。中野館に帰りしは彼是午後の九時過ぎなる可し。斯く毎日二回宛御神酒を頂戴すること悪ろくは無けれども経費多端の折柄御神酒をば抜きにして夫れ丈新聞か筆墨でも余分に買ふて貰へば夫こそ最妙珍なりと思ふなれ。

十二月三日　午前七時起床、午前九時中野尋常小学校に至る。五無斎の演説は五日の晩にして貰ひ度しの事なり。乃ち本日は純粋の筆屋と新聞屋となり税務所郡役所警察所予防事務所等に至る。筆も売れ新聞も又石も売れ行きあり。

午後五時中野町を発し湯田中に至る。途中臍と大骨とは同居を始めたり。乃ち地豆を買ふに一合一銭三厘なりといふ。一銭三厘とはヒョンナ値段なり。一銭か若くは一銭五厘としたらば善からん。二合にて二銭五厘にするか若くは三銭とせよと言ふに二銭五厘にて善しといふ。今宵湯田中なる万屋伝蔵氏に宿す。昨年来の定宿なり。

平穏小学校長小林徳次郎氏来訪。当地の報徳会にて演説せよといふ。此地に山本慎治郎といふ人あり。小二宮式なり。毎朝午前四時に起きて屋後の小高き所に登り湯田中人士の惰眠を醒ましつゝありとか。感心なる心懸けといふ可し。即ち小林大校長閣下と共に同会場に至る。山本会長演説の真最中なり。小林大校長が戊申の詔勅の捧読と講話とあり。五無斎も続いて二宮尊徳先生に隔世感化を与へたる松代藩士恩田木工が事蹟を語りたるにお手際至つて悪しかりし。是日暮視を読みたるは数年前の事なればなる可し。演説のお礼としては薩摩芋一本を頂戴す。同行の若林先生頗る恐悦の体に見受けらる。

午後十時過ぎ万屋に帰宿す。主人は奇印なりとの評高けれども五無斎などの目より見れば左程にてもなし。更に主人の語り出るを聞けば偽せ公論記者鳥羽某なるもの来田せしとの事なり。やられたかと問ふに然らずとの事なり。他のヘボ新聞屋の如く詐偽恐喝を以つて本領とはせぬ我社の

偽せ物なれば思ふやうに仕事の出来ぬは素より当然の事なり。可笑しきこと限りなし。

十二月四日　午前七時起床、九時下高井郡穂波学校に至り演説し、午後は平穏学校にて演説す。

平穏にては人寄り甚だ悪しく夜に入りたり。夜間瀬の大校長否長校長鈴木松樹氏来る。明五日講演会開会時間打ち合せの為めなり。鈴木氏は身体長大にして山賊式の面相を備具す。同行の若林子露西亜先生の尊号を上る。保科村の青年両夜筆買ひに来り、同氏を誤認して五無斎となし、平身低頭恐る〳〵筆を売つて呉れといふ。満座哄然たり。以つて五無斎が如何に悪人なるかと世人に想像せられつつあるを察するに難からず。元祖鴨南蛮君が宛寸法の想像馬も此露西亜先生を生き写しの様に書いて送こすならん。既にして酒宴は始りたり。露西亜先生女将に命じて小林大校長に至急御来車を乞ふと言ひ送りたり。女将帰り来り、例によつて例の如く風気なれば出向き難しとの挨拶なりと復命す。露西亜先生大に怒り左も有りならんお大事になさいと言ふて呉れと念入りに言ふ。

十二月五日　午前七時起床、午前九時湯田中を発し夜間瀬学校に至る。露西亜先生出で迎ふ。此地の篤農家池田弥蔵君先づ在り。煎り豆を田舎の金米糖と号し菜ッ葉漬を刺身と呼び点心として供せられ、更に専売特許草履製造法を喋々喃々せらる。少時貧賤なる家庭に育ちし為め鄙事に多能なる五無斎の事なれば熟々此草履を検するに経繩のなひ方は草鞋の如くし稗身と稈皮とを分ち稗身にて鼻緒を立て稈皮にて之を保護し鼻緒を経繩に引ッ懸くるなり。更に池田氏は此草履の効能を述べて若し百四十万の県民挙つて此草履を用ふるときは期年ならずして県庁舎の再築が出来得べしと言ふ。更に其精算と聞けば此草履は草履の全く切れて仕舞ふまで鼻緒の切れることなし。

即ち一ケ年一人平均三十銭宛の利益あり。一人三十銭之を百四十万倍すれば四十二万円なりと言ふ。成る程算盤の上の違算は無し。若し各町村農会若くは個人にも実費にて此草履の見本を所望とあらば何万足にても送る可しと池田君は力味却りて居られたり。県庁舎再築に誤熱心なる大山明府は此池田式草履二二履万足をお買上げありて之に自今県民たらんものは必ず此池田式草履製造法に準拠して之を製造し穿用す可しとの訓令を添へて之を各町村に御下附ありて可なり。夜間瀬学校の演説は聴衆意外に少かりしも悉く熱心に聞かれたるやうに見受くるなり。例によつて又々御神酒を頂戴す。然れども前に三個所の演説会を控へ居る五無斎は之を飲むこと得ず。遺憾此上もなし。

午後二時過ぎ平岡村金井学校に至る。聴衆場に充つ。学校は学務課の役人衆の模範学校なり。然れども教育宗総本

山にては飽くまで之を否認す。信濃川の治水問題の演説中にさへも何か是等の語気が洩れたるやう記憶す。此処にても亦御神酒を頂戴す。然れども今宵中野町東座に於いて開かるべき通俗講談会を前に控へ居たる五無斎は十分に之を飲むこと能はず。遺憾此上もなし。午後七時中野館に帰り夕食を認め直ちに東座に至る。沢村中野税務署長演説の真最中なり。次いで、佐藤中野警察署長の迷信の利弊なる演説ありて五無斎の信濃川治水問題の演説に移る。五無斎の出席前吉原下高井高等小学校長の講演会発会の辞長田郡長の戊申詔勅の捧読もありたる由なり。

尚同講演会は今回を発会として時々開かる可しとの事なり。長く続けば善き会合ならん。尤も長く続かずとも遣れば遣つた丈けの効能はあり。

午後十時中野館に帰り将さに寝に就かんとす。北信新聞の関潜竜吉原会長と外に御名前は忘れたれども某国手も来られ慰労の宴を開かれ午前一時頃に及ぶ。換言すればデカク飲みたるなり。

十二月六日　午前六時起床、八時出発平岡村の間長瀬に至る。池虎君の御本城此地にあり。今日は長丘学校に至る筈なりしも農産物の品評会あればとて校長村長連名の断り手紙ありたれば此間長瀬校に至りたるなり。小部落の事とて聴衆の集合せるもの場に充ち小使をして出迎へられたり。斯く遅くなる筈は無けれども平穏学校にて下宿ホテル主人恩賜の麦稿帽を便所に落したれば某雑貨店にて夏帽の売れ余りを買はんとせしに風体の如何にも商人風ならざるがありて絹ハンケチを商ふを見る一貫目九円なりといふ。如何にも安きものなり。一貫目九円ならば十貫目九十円なり。殆ど十分の一の値なり。何れは盗人の贓品にてもあらん。然らば僕断然一貫目を買はんと言ふに今此所には持ち合せなし。然れども宿屋には二三貫目ありといふ。

絹ハンケチ一貫目といへば少くとも二百枚位はあらん。之に狂歌一首宛を題し信濃公論社長兼小使五無斎などの文字を染め出し権堂や鶴賀の姐さん方に一枚宛才暮として配布し置きたらんには公論社の名広めともならん。左なり〳〵と思ひたれども斯る際に手附金など渡したが最後忽ち雲を霞と逐電さる可きこと受け合なればソコ〳〵にして間長瀬学校に向ふ。途中小使君の迎へらるゝあり。間長瀬学校に至れば聴衆場に充つ。信濃川治水問題は昨日既に拝聴したれば何か外の事を承り度しとの注文なり。乃ち農家の副業養豚論を遣つて除けたり。此こに論と題したるは頗る味のあることなり。五無斎未だ養豚を為したることなく又未だ完全なる養豚場をも見たることなし。殊に養豚に関する著書などは十余年前に一二冊許りも読みたるのみ。乃養豚法若しくは養豚術と題せざりし所以なり。然れどもお役

人衆や学校先生方の実業演説以上に実際的なるは夫子自身は申すに及ばず各聴衆諸君の首肯せらるる所ならん。此所にても亦御神酒を頂戴したれども科野村に於ける演説を前に控へ居る身には飲めず。例によつて例の如くお腹の虫がグウ〳〵。

由来此間長瀬の学校は大山冥府以下学務課連の所謂模範学校にて就学歩合などは百中百ならんも町村教育機関の支離滅裂といふ点より見れば慥かに悪模範学校なり。池田虎助、市川治兵衛の両人夫れ之を再思三考の上適当なる処置を為すべしなど教育宗総本山の管長は言ひ度き処なり。

午後一時過ぎ科野村に至り何とかいふ木賃ホテルに車を托し置き同村の学校に至る。聴衆頗る非常に少く役場員学校員を除きては僅々数名に過ぎず。ドッチかと言はゞ気抜けでもするが通例ならんも万事につけて廻毛の天窓の真中に無き五無斎の事なれば信濃川治水問題につき滔々数千万言を縷陳せり。聴衆が少いからなど小言を言ひたらんには演説などを依頼するもの一人も無くならん。曾つて一俳人あり、某村に至りて演説し且俳句をも添削して遣りたりしに謝儀が無かりしとて愚痴を零して近い日本中を喋舌り散らし歩き、尚且之に類する所行多かりし為め俳人の俳の字を廃の字に改めざる可らざるに至りたる聞くも哀れの物語あり。斯ることを現在に目撃しつゝあるの五無斎は殊に喉頭に力瘤を入れて喋舌り立てたるなり。斯くの如くにして演説ぶりの稍善かりし為めか夕食後更に今一ト興行せよとの依頼あり。乃、木賃ホテルに帰りて夕食を喫し再び学校に至り演説す。題目は農家の副業養豚論なり。之れが養豚論の第二回目なれば稍滑稽に出来たと見えたり。例によつて例の如くお神酒を頂戴したるのみならず更に同村農会より演説の謝儀を貰ひたり。然れども五無斎の私すべきに非ればこを公論購読料のうちへ編入せり。

十二月七日　午前七時起床、朝食を終り倭村に向ふ。之より道路漸く悪し。午前九時倭小学校に至る。午前は倭村午後は木島村の予定なりしも木島村よりは御断りありたればお御腰を据えて骨延ばしを為し午後二時過ぎより演説す。演説は稍長過ぎたり。三時間以上にも及びたらん。今宵倭学校の宿直室に泊る。校長矢亀悦吉青年会長山田虎次郎の両君周旋至らざるなくデカク酔ふ。

十二月八日　午前六時起床、六花霏々たり積ること六七寸。雪は火の車の輪に附着して重きこと限りなし。若林ナゼ車を押さぬかと五無斎は言ひ先生ナゼ車を引張らぬかと若林は言ふ。

雪道に　筆屋車の　重くして　なまくら鎗の　やりきれぬなり。

安田の渡に至る。一里には余程足らぬ道程なれども殆ん

ど、三時間を費す。乃ち若林氏を上木島往郷の二村に向はしめ五無斎は飯山町に至り、昨年来の定宿たる某旅宿に至り若林氏と会す。往郷学校にて今宵是非ともやつて貰ひ度しとの事なり。彼是する間に往郷学校の首席教員村松作次氏来訪せられ是から直ぐ行つて貰ひ度しといふ。乃ち雪道を犯して同校に至り信濃川治水問題を演説す。此村松氏は同学の友村松民治郎君の令弟にして其直情径行却つて阿兄に過ぐるものあり。他日良教育家たるの資格あり。近来の師範卒業生中珍しき人物なり。穂高の旅宿に帰りたるは午後十一時半頃なりしならん。

十二月九日　午前六時起床、穂高分署に至り法螺を吹き居たりしに荒木校長来署只今より直ぐにとの事なり。乃ち同校に至りしに聴衆堂に充つ。選挙の折などに有名なる湯本国蔵君なども居られたるやうなり。水害の本場とて熱心に聴かれたるやう見受くるなり。演説の終りたる後学校の前の一旗亭に至りお神酒を頂戴したれども例によつて禁酒同様なり。遺憾此の上もなし。此荒木校長とは二十年前少年気鋭の五無斎デカク喧嘩をしたることあり。今此優遇を受けては衷心少さか安んぜざるものあり。

午後二時穂高村を発し瑞穂村に向ふ。時間の稍後れたる為め小使君は途中まで出迎へられたり。三時半頃瑞穂学校に至りしに聴衆堂に充つ。信濃川治水問題を演つてのけたり。時間の切迫し居たる為め一時間許りに縮めたり。

農産物品評会のありし当日とてデカ〳〵に慰労会を開いて貰ひたり。是は下高井郡農会長や郡農事巡回教師の慰労会にあやかりたるなり。デカク飲みデカク酔ふ。

十二月十日　午前六時起床、野沢温泉に至り同学の友森繁吉氏に宿す。二十年来宿料を払つた事のなき定宿なり。貧乏人には出来ぬことなれども酒の呉れ振り甚だ善し。朝昼晩の三度づつ御神酒を供せらるなり。同行の若林子頗る恐悦がるは無理ならぬことと謂ふ可し。数年前長新の伝田芋村信毎の植木露香の両君と此地の婦人会に出席して所謂求婚説を演つたことあり。当夜は何等の異状も無かりしに翌朝聞けば又々大砲が一門出来たりといふ。

艦二艘　砲三門は　善く出来た
夫もととなり　妻もかかなり。

是は三年許り前の事なりしに又々大砲一門を増加したりといふ。此分にてやがては一ダース位も出来ん。五無斎には船渠もなく砲兵工廠もない、嘻、嗚呼。Ah！今宵前坂青年会にて演説するの兼約あり。蕎麦の饗応ある筈なれば昼飯の時より準備し置きて五時頃前坂学校に至る。大きな雞が屠りありたれば五無斎刀を執りて鳥の割き方の講習を為す。諸人驚かずといふことなし。

こゝろある　人に見せ度し　五無斎が

鳥の料理と　国のれうりを

夕飯としては此雞肉にて、シッポクとなしたるなり。若林先生非常に恐悦がりて息もせず打ち食ふさま今も尚眼に着いて居るやうなり。今宵の演題は養豚論なり。此地の老農笹岡老人も亦席にあり。養雞養豚には手を焼きたる事あるの人なり。五無斎の演説には甚く感服して聞いて居られたる様なり。演説終りて後例によつて例の如くお神酒を頂戴し、午後十時半森氏に帰宿して再び飲み大に酔ふ。主人眼を細くして越後節を歌ふ。本日下高井郡堺村と下水内郡の水内村とへは都合により参校至し難き旨を通知して行かぬ事とせり。之は野沢附近雪の深さ三尺余なるに恐懼の念を懐きたるの致す処に非ず。然れども若し我慢の痩せたるものを出さば下水内上水内十余個村数百千の聴衆諸君に対して日程変更より来りたる御迷惑を及ぼすの患あるが故なり。

十二月十日　午前六時起床、森陽造君の墓に謁す。主人森繁吉君の令弟なり。管々しき事を言ふよりは石碑の全文を記するに若かす。然るに碑文六づかしければ略す。朝飯の時にも飲み、昼飯の時にも飲み、午後一時過ぐる頃会場たる豊郷小学校に至る。聴衆堂に充つ。野沢の地たる幾度も遊びたることありたる為め聴衆殊に多し。然れども雪の為めに眼を煩ひ始めたると咽喉病に罹りたるは殊に堪え難し。数日来眼の工合何となく悪しかりしも今日右眼にては人の顔などは申す迄もなく障子の骨さへも見えざれば片桐国手の治療を受く。演説は治水問題なり。演説の終りたる後某民家に至り湯豆腐にて御神酒を頂戴す。何時も綿名を付くることに妙を得たる若林子竹林の七賢人然たる人のみの集合なりといふ。森氏のお屋敷に帰りたるは彼是九時頃なりしならん。帰来又々飲む。お神酒や唐辛は眼病と咽喉病は最も適薬なり。

十二月十一日　午前六時起床、九時野沢温泉を辞するに当り又々飲む可しとは主人主婦を始めとして老大人の御下命なり。然れども雪道にお神酒は禁物なり。乃ち市川村に向ふ。雨交りの雪降りなり。夜来の雨にて雪の量は稍減じたれども尚二尺を超ゆ。新しき足袋に藁履を穿ち居たるも雪の中へ履み落し履を取らるゝの恐れあれば新しかりしかど破れたるものと同一の取扱を為す。冷度きこと限りなし。

彼や是やにて頗る手間取れ途中学校生徒の出迎ふるあり。午後一時頃市川学校に至る。聴衆堂に充つ。背に腹は代へられぬの原理により先づ以つて　お斎に就き、治水問題を演説す。

演説が終るや否や仏家の所謂般若湯なり。主人側にて小田切村長榊原校長を始めとして何れも一人当千の酒飲みなり。座談中恩田木工が事を記したる日暮硯と吉田松蔭愛読

の書たる産語の解題に及ぶ。小田切村長此二書の紹介を望むや切なり。以つて知る可し有給村長たる小田切君が如何に其所轄せる市川村をして模範村たらしめんとするかを。然れども市川村は模範村たらしむる為めには極めて好都合なる村落たるなり。昨来稍紛擾のありしは折節遇然の事のみ。難治村たる瑞穂村は馬鹿に幅広き村落たるに拘らず是は郡道に沿へる丈ケ長き村落たるに外ならず。甲は戸数等級割の極めて複雑なるに反して乙は少さかの面倒もなし。山地の利益も同じき代りには信濃川の損害も同じ律なり。小言を言ふものも悪ろく言はるゝものの損なり。体操場の潰れたるが為めに学校の位置まで動揺せんとしたるは惜む可し。然れども今や平和の局を結ぶ。芽出度きこと限りなし。此辺専ら牛馬の繁殖に適す。唯一の財産ならん。村長校長等の諸君に言ひ置きたれば詳しくは書かず。

十二月十二日　午前六時起床、午前九時朝食を終り岡山村に向ふ。市川村役場に立ち寄りたる為め意外に時間を空費せり。正午下水内郡岡山村に至る。同行の若林子野沢にて意地六さを為し鮭の骨を咽頭に引つ懸けたりといふ。五無斎は例の眼病と喉頭病なり。乃ち岡山医院に至り院長殿の治療を受け、昨年来の定宿たる某旅宿に至り午食を喫して午後一時頃岡山なる桑名川小学校に至る。聴衆は多しといふ程には非れども久しく五無斎の至るを待ちしものの如し。演題は何時もお定まりの治水問題なり。此地以前は相応に繁昌したる場所なりしも信越線の影響を受け経済上の事情は頗る悪しきものの如し。夫れかあらぬか四つの尋常小学校ありながら一つの高等小学校なしといふ是も大山迷府以下学務課連の模範学校ならん。然れども五無斎は敢えて之を賛成せず。学務課及び郡長郡視学村長校長等職務怠慢の致す所なりなど言ひたる心地す。演説の終りたるは午後五時過ぎなりしならん。ホテルに帰りたるに吉越君を始め二三の人の来訪せらるるありてお神酒を頂戴す。頂戴し終りてお斎に就かんとするに岡山医院長渡辺君来られ酒戦を挑まれ遂に戦死したるは五無斎なり。

十二月十三日　午前六時起床、朝食後直ちに出発。旅舎岡山館の前を過ぐ。吉越君の居城なり。筆を売り新聞を売り広告を取る。午前九時。グンシヤウ河畔に至り船頭善兵衛氏の椽先に憩ふ。昨年の秋土地の名前やら橋の名前を問いて置きながらお前は何処だと問ひ返へされたるにマア天竺浪人のやうな者なりと答えてデカク怒られたる所なり。当時左の旧作を録して遺りたりしが現今果して所持し居るや否や。

我故郷は　長野の南　十又五里
　世をサク郡　村はヨコ鳥

正午常盤村に至り午食を喫し太田村に至る。今日の日取

ならねば前の通り明日として貰ひたしとの事なり。乃ち一日間の骨延ばしを為す。嬉しきこと限りなし。何とやらいふ木賃ホテルに至り太田小学校長水野了天君と共に飲む。眼病も咽喉病も無暗に悪ろくなりたれば思ふやうには飲めず。遺憾此上もなし。

十二月十四日　午前六時起床、午前九時学校に至り十時より演説す。太田村の村治は稍善き方ならん。学校の新築は見事にして耕地整理なども一部分は立派に行はれ居るなり。之は紀浦治郎君が下水内に郡長たられたる折の遺物ならん。斯る村柄なれば聴衆以外に多し。のどの痛き事も忘れて演説す。今日雪模様なれば若林子をして外様村に徒歩提嚢庵主人北沢量平君を訪はしむ。金不換のお得意先なり。聞く所によれば同氏は既に二十余年来此筆のみなりとか。国手としての氏の技倆はゴム之を知らず。然れども慥かに此辺の奇印なり。クロボツクル時代の土器石器多し。世の好事家就いて一覧せられて可なり。

（信濃公論　第六、七、八、一〇、一一、一三、一六各号
明治四一、一二、九～同四二、二、一七）

三　病床日誌

明治四十一年十二月七、八日頃にやありけん。一日三回七八時間宛の演説を為し、其都度御神酒を頂戴したるが上に筆墨を売り、新聞の注文取りを為し、尚ほ且つ二三里の雪道に火の車を運転す。労働も心痛も一と通りならず三通り四通りもあることと知る可し。病魔襲来の兆、漸く至る。野沢温泉にて片桐国手の治療を受けしは此時なり。平生病魔の恐ろしさを知らぬ五無斎の事なれば、薬瓶をば森大校長の家に忘れて来りたるなり。岡山村にては岡山病院の治療を受く。一二回目薬を点したる後、薬瓶はポケットの中にて覆没して仕舞ひたり。其後も稍悪しかりしかど夫れ儘にして打ち過ぎたり。同月二四日帰長。数年来薬礼などをしたることなき成本国手の治療を受く。只雪目との事なれば結膜炎ならんとの想像にて洗ひ薬と点眼水とを恵まれたり。一二度点したるのみにて全治するの光栄を有したるなり。洗ひ薬などは手を着けたることさへもなし。余り病気にかかつた事なき五無斎の生平概ね以つて斯の如し。明

治四十二年正月二十五日五無斎生年四十二歳厄年に当る。予而長野商等女学校長野県師範学校並に郷里なる芦田、横鳥、三都和の三尋常小学校に寄附すべき長野県地学標本の整理に取りかゝりたり。標本の数二万に近く助手六七名なり。仕事を始むるや否や一気呵成を旨とする五無斎の事なれば朝は早く、夕は晩く帰来公論社の事務を執り午前一時に及ぶ事さへもあり。

就寝の後も不眠症に陥るもの連夜なり。時分は善しと病魔忽然として襲ひ来る。乃ち成本国手の診断を受く、睡眠不足の結果結膜炎が来たる様子なり。先達の薬に余り物あれば夫にて宜しきや。只一つ可笑しき事には障子の骨などが善く見えぬが、ヒヨンナ事もあるものなりといふ。成本国手曰はく、ソナタ大変なり。結膜炎位にてはソンナ事なし。或は視神経炎即ちソコヒならん。不幸にして予は眼科医に非ず。眼底を検査すべき装置なし。

至急眼科医に就いて診察を受けらる可しと言はる。日頃物に動ぜぬ、五無斎なれども此時のみはデカク喫驚仰天したるなり。眼科の医師にて停車場附近の久保田君の懇親の間柄なれども道の遠きを如何せん。成る可く近き所にては、誰善けんといふに権堂の沼田君然る可しとの事なり。乃ち同夜沼田氏に至る。

案の通り視神経炎なりお若い時の悪戯もお手伝に出かけたりなど御説法に預る。悲しき事限りなし。何とやらいふ薬を注射して貰ひたり塗擦薬は当方より差し上ぐべしと雖も、内服薬は成本国手より貰ふ可しと添書を渡さる。乃ち再び成本医院に至る。近頃は世の中何となく暑季の成り行く習ひなるに両国手推譲の美、以つて天下国家に伝ふ可きなり。是は二十九日の午後十一時過ぎの事なり。帰来寝に就きデカク心配し、終宵眠ること能はず。家には兄弟もあり甥もあり姪もあり。郷里及び附近の村落には、親戚縁者はあれども二十余年来ブラ〳〵生活を営み居たれば今では他人同様なり。一眼を害ひしのみならば尚ほ其日々々の生活には差支無からん。若し両眼を失はゞ按摩の親玉塙保己一程の記憶力もなく西洋按摩の兄さん株なるソオーセット程の経済眼もなし。又快復の見込みなきに非れば、又々右眼もある事なれば浅間華厳行きも尚早からん。五無斎の死を希望せらるゝ向きも到る所に多き由なれども五無斎発狂せりなどと新聞の三面種とならんこと終生の恨事なり。公論は是れ長野県の教育と実業を発達進歩せしめんが為めに信濃川の治水問題を論じ中央西線の碓氷の迂回線の速成を期し、信州大学を桔梗が原に設立するが為めに、起りたるもの今や其十四号を発刊したるのみにて半途廃刊せんは残念至極なり。大隈某にはあらねども明治一百年を以つて死期と定めたる五無斎も聊かヘコマさるを得ず。午前五時頃より半

睡半醒の状態に陥る。チヨン髷天窓の父君とお後室姿の母君の夢枕に立ち給ふもうたてしや。

明治四十二年一月三十日　午前九時起床、直ちに障子の骨を見るに、無暗に太く鴨居の上に掲げある額面の文字などは読めぬやうになりたり。悲しきこと限りなし。既にして事務員諸氏の入り来るありたれば、具さに病状を報告す。高松老人甚く同情を寄せられ、知人中ソコヒを煩ひたる人の経過を説くや詳かなり。俗説とは思ひつつも米の字に迷が掛り始めたり。昨夜大株主牛山将軍に手紙を出し置きたるものの何となく気係りなれば、左の電報を発す。ソコヒニテ、一ガン、ミエズ、シヤノ、一ダイジ、スグカヘレ、ホシナ。

午後沼田療病院に至るの序を以つて、牛阿弥主筆を訪ひ、一時事務所を同氏の宅に移すの相談を取り極め、直ちに帰社して右の趣きを各事務員の諸氏に謀る。勿論異論の有らう筈はなし。午後六時過寝に就く。催眠薬を成本国手より貰ひ置きたれば之を服したれども今眠れるか〳〵と屈托しつゝあれば遂に眠れず。電気燈の光さへ朧気になり行くぞ哀れなる。

一月三十一日　午前十時半頃起床、昨夜も半醒半睡の状態に陥り、種々前途の事など案じ煩ひたる疲労の為めなり。牛山令夫人来訪、一方悪ろしければ他の一方も亦悪ろくなるものなりとの俗説を伝ふ。今日は障子の親骨さへも見えぬなり。乃ち愈事務所の移転を為す。万事を擲ち静養せんが為めなり。上水内郡津和小学校久保田氏来られ出演し呉れよとの注文あり。眼病なれば辞す。沼田医院へ日参すること前日の如し。

二月一日　午前九時頃起床、直ちに入浴す。入浴の帰途牛山雪鞋氏を訪ふ昨夜帰宅せしとの事なり。嬉しきこと限りなし。談話は朝食後に譲るとし、一旦帰宿して朝食を終り左眼を押さへつゝ県庁舎敷地問題を草しつゝありしに牛山将軍入り来りデカク怒りつけられたり。然れども既に一文を草し終りたるの後なれば直ちに筆を擱く。此時馬鹿アツの一言今も尚ほ耳に響きつゝあるの心地す。既にして牛阿弥主筆入り来りライスカレイは駄目なりと繰り返さる。何の事やら意味深長なり。後にて聞けば藪医竹庵の異名なりとか。沼田眼療院への日参前日の如し。然れども左眼にては障子の親骨さへも見えぬやうになり、電気燈の光も見えすなり行きたり。只幾分明暗を弁するのみ。日中眠りたれば、夜中寝に就くこと能はず。沼田眼病院より貰ひたる催眠薬と成本国手より貰ひたる催眠薬のチヤンポンを為し、且つ余り居たるものが勿体なさに分量が過ぐるとは思ひつつも一息に之を飲み尽したり。胃腸の間、自ら不穏なり。一夜七八回便所に行くお腹の大掃除は出来たる様なれども

便所に行き度くて溜らされば尚数回、便所通ひを為したりしに後には下るものなきに困し果て、薄赤き水のやうなもの七八滴を洩すに過ぎず、便所通ひも今は六かしくなりたり。

二月二日　前夜に引き続き便所通ひをするもの数回今は何とも堪え難し。乃ち成本国手の出珍を煩はす。眼の療治は一切見合せとなし終日食はず終夜寝ねず。成本国手よりは、お薬を頂戴したるが上に雞卵のお見舞品に預りたり。是は貧之人の役徳なり。然れども鶏卵は不消化なれば喰ふなとの仰せなり。豚と其祖先を同くするの五無斎生年、四十二才今回始めて鶏卵を消化せぬ程なる大胃腸病に罹りたるなり。日頃湯水好きなる五無斎なれども之を喫むこと能はざるは、苦痛中の大苦痛なり。今日、東筑摩郡坂北小学校長、細井茂氏より六日出演せよとの端書来る。病気なればと辞す。今宵非常に疲労したれば熟睡す。眼病益々悪しく、又明暗を弁ずること能はず。愈々本幕に達したるなり。

二月三日　午前七時頃起床、飯を喰ふでも無ければ茶を飲むでもなし。隻眼なければ、新聞を見ても右眼の直ちに疲るれば、論説位なり。昼飯の折、葛湯一杯を頂きたるのみ。沼田眼療院へ行きたるは、午後四時頃ならん。今宵夕飯として鶏卵入の味噌粥二椀を喫す。偖愈々一眼は駄目となりたれば、右の一眼丈ケを取り留め置きて、従来為し掛けたる仕事の跡始末を為さん。若し両眼ともに失明江ずは、洗湯屋の二階便所近きあたりの四畳半位を借り受け、事務員の者に一二の新聞を読んで貰ひ、論説一二を筆記して貰わん。下宿料の外に煙草代と番茶料とさへ貰へば充分なり。夫れに付けても公論の発展を計らざる可らず。之れが発展策としては、彼よからん此れよけんなど下らなき妄想に耽るも可笑し。然れども亦、眼が一つ。見江ずは頓て。六無斎。さて其次は、七無さいかナア。

　コン畜生。盲れて仕舞へ。今一つ。浮世の醜を。絶江て見ぬべく。など思ひ続けたるともあり。

二月四日　午前七時半頃起床、何時にもなく斯く早起したるは、お腹の空きたるが為めなり。明暗の弁別なきこと前日の如し。午後沼田眼療院へ行きたること前日の如し。沼田眼療院を出て忽ち思ひ付きたることあり。ソハ別事ならず。神武帝御東征の砌、孔舎衙坂にて不覚を取り給ひしは、日に向つて御弓を放き給ひしが為めなり。今西町より東町に出で、更に権堂に趣くこと眼の療治としては方角甚だ悪し。若かず西町より西へ西へと進まんにはと。乃ち久保田眼科院に至らんとして、赤十字病院の門前に至り、路の遠きに困じ果て遂に此処に興津学士を訪ふことゝせり。何用あつて来たかとの事なり。ソコヒにてと答ふ。然らば

眼科の方へ行けと言はる。特別念入れて見て貰ふ様、紹介を頼むといふ。然らばとて眼科室に至り、北原君の治療を受く。副院長閣下の紹介なれば、中々丁寧に見て呉れられたり。黒内障にて原因は分らず然れどもマア療治して見んと言はる。北原国手は稍大兵肥満の方にて、堂庭の地蔵尊に酷似たる友人丸山弁三郎君、其儘にして何となく愛敬のある顔だちなれどもマア療治をして見やうとは素人好きのせぬ言分なり。然れども素人好きのする人必ずしも油断はならぬ故、此方にてもマア療治をして貰つて見んと思ひたり。日参かと問ふに日参に及ばずとの事なり。乃ち水薬は成本国手より貰ひ、何やらの注射は北原君にして貰ふことせり。此眼科室にお二人の看護さんがお座しますことなるが、北原君にあやかりたるものと見え、何れも美人といふ程にはあらざるも愛敬のよき方なり。楽しくも。亦悲しくも。只笑へ。わらふ門には、福や来らん。

豚と同祖なる五無斎鶏卵さへも消化せぬ程なる大胃腸病も今宵は、全然癒りたり。大飯を喰ふ。今日小県郡浦里村生島国作君より出演し呉れよとの注文あり。病気なればとて断はる。

二月五日　無事、明暗を弁ぜざること前日の如く。愈々駄目と明らめたれば、切なきこともなし。九分九厘右の眼は移らぬとの証言を得たれば、大に安堵す。

二月六日　午前七時起床、明暗を弁ぜざること前日の如し。例に依つて例の如く朝湯に趣き朝食を終たる後赤十字病院に至る。

北原国手と看護婦先生と語るを聞けばレンズにて光線を当るときは幾分の反応ありとの事なり然れども一向何物も見えぬなり。

帰宿後総本山辞令の説明書一篇を草す。牛山雪荘将軍入り来りデカク叱られたり。叱られたるば我慢のやせたるものを出したるが為めにして叱りたるは数ならぬ五無斎を思ひ給ひて事なり。嬉しき事限りなし。

二月七日　明暗を弁ぜざるあと前日の如し読みつけたる新聞の論説丈けを読みたるのみ。隻眼なれは疲労甚しきが為めなり。

二月八日　明暗を弁ぜざることかなりによつて例の如し。心の迷いか日の天に冲する頃に至りて壁と障子との区別が幾分あるようにも見た座敷の形が何どなく四角に見ゆる心地す。午前九時郷里より同族の友保科勝次氏見舞にとて来られたり。乃ち打ち連れ立ちて病院に至る既にして牛山将軍牛網朝臣も入り来られ、予て相談しおきたる営業全部を共同新聞店へ一任すとの談判略ぼ纏まりたるを次ぐ。勝次君が来られたれば御神酒を出す筈なりしも主人公たる五

無斎は眼病にかゝり居るさへあるにお客様は痔なりとの事なれば態々差し扣へ居たるに、新来の御両所鼻息甚だ荒くお神酒を出して之を祝せという。乃ち貰ひものと鮭の缶詰やら生雞卵やら湯豆腐やらにて飲む。咽の辺にてグウグウと一種の音響を発するなり。折節商業学校へ寄附し置たる長野県地学標本の御移りとして迷府殿より頂たる木抔ありたれば毒見と於納杯丈ケは其任を全ふせり。然れども牛山将軍監視の下牛阿弥朝臣がお酌せらるゝなれば蚊の涙程にて目薬程は無論なきことに知るべし。夫やこれやにて公論の継続も出来ることに なりたれば眼が段々に見ゆるやうになり、座敷がドウしても四角に見ゆる心地す。

二月九日　勝次氏と打ち連れ立ちて長野商等女学校に至る。高等女学校に赴きたるは鉱物標本の整理室即ち五無斎眼病を起こしたるの御旧蹟を弔んが為めなり。今日は何となく障子襖の親骨が見ゆる心地す。ドウも心の迷にては無きやうなり。

二月十日　今日病院に至るに硝子窓の壁とは明かに見得らるゝなり五無斎夫子自身の喜びは申すまでもなし。申すまでも無しと申すまでもなし。北原ドクトルを始めとして愛敬のよき看護婦さん迄が喜んで下さるやうなり。之は左も有る可き事なり。世間の悪ろ口屋は口を極めて田舎の藪医竹庵は態と病気を長引かして薬を売るの計を為すと。然れどもコハ斉東野人の言なり。病人を早く治せば速く癒すほど名医たるの証跡天下に明らかになり、従つて薬も余分に売るるやうに為るものなり。藪医竹庵一名ライスカレイは深く病原を究むること能はず、従つて之を治療すること能はざるなり。為さゞるに非ざるなり。為さざると能はざるとの区別概ね以つて斯の如し。而して是は赤十字病院なり。赤十字病院とて一も二もなく全く善しとは言ひ難からんも五無斎の眼丈けは慥かに癒くなり始めたるなり。患者中五無斎と同日に来りたるもの二名あり。而かも同じやうなる病気なり。見江ぬ眼にて五無斎の方を見やりつゝ私のはまだ治り始めぬと言ふぞ哀なる。

二月十一日　紀元節、昨日までは壁と窓とか明暗其度を異にするのみなりしが、今日は障子の親骨の所と柱が見ゆる心地す。斯く一日々々と明るくなり行くを見れば五無斎遂に廃人とはならぬなり。乃ち廃人とならぬとすれば何か仕事を見付けざる可らず。

筆屋も新聞屋も終生止めぬ積りなれども其利益甚だ僅少なり。只其日々々の生活に差支なしという丈けにては面白くも可笑しくもなし。乃ち長野県地学標本再度の採集と実費大配付の事を決心す。紀元節とは二千五百余年の昔我大日本帝国に目鼻がつき始めたる記念日にして半盲人五無斎の眼が慥に見え始めたるの当日なり。長野県地学標本の大

採集と大販売とは帝国否世界各国の教授法に一大革命を来たさん。

斯く大妄想否大想像否々大理想に耽りつゝ下女の言うなとも隣座敷の人の動作も将た又頓狂なる豆腐屋唐辛屋の呼ぶ声も一切耳に入らず。呆自失否望然自得しつゝあるの折、松本女子師範学校教頭河野齢蔵氏の御入来ありたり。過般照会し置きたる牛の頭骨標本製造法を直伝せんとて御入来にて同学の友小諸小学校長佐藤寅太郎氏が文部省より旌表せられたる式場に参列せられんが為め御来長の序なりとか。偖々幾つもお目出度き事の重りたるものなり。頭骨標本製造の事などは、ソッチ除けにして地学標本再度の大採集と五無斎式新案博物学教授論を為すもの凡そ三時間ノベツ幕無しなり。氏も亦斯説を傾聴せられ大賛成なり。可断行々々々と言わる。嬉しきこと限りなし。

二月十二日　今日病院に行く。障子の小骨までありありと見ゆるを報ず。喜ぶものは五無斎の外北原国手を始めとして四五の看護婦さんにして羨むものは同病相憐まざる可らざるソコヒ患者なり。斯くの如くにして障子の小骨を見た額面の文字も見江天井の廓などが悉く数へらるゝに至りつつ遂には新聞の題字が読めるやうになりて十数日の後完く全治するに至りたるなり。此後の記事を別に面白みもなし。故に此位にて擱筆せん。

然れども茲に物理学上光線の強弱に関する実験説否経験説一条を附記せん。障子の小骨が見え新聞の題字が読める程になりても電気燈の光は見えぬものなり。電気燈の光の見ゆるは尚ほ数日後の事なり。乃ちコンナ強弱表が出来たり。

第一　日光、洪大無辺の光輝あり。
第二　月色。日光に次ぐ。
第三　アーク燈。カラお話にならず。
第四　電気燈。タワイなし。
第五　ランプ。蠟燭の類に至つては

光線の仲間入は出来ぬ程なり。コンな事の実験は絶対に出来ぬもの経験は何うしても有り難くなからん。之を大尾となす。（信濃公論第一五、一六、一八、二一号　明治四二、二、一〇～同三、二一）

四　長野県地学標本採集旅行記

石屋　五無斎

長野県地学標本第二回の採集を思ひ立ちたるは明治四十二厄年二月初旬黒内障即ちソコヒに罹り一眼明を失せんとしたる時の事なり。如何に厄年とは言へ五六日にして太陽の光線さへも見えぬやうになりたるなり。片眼なれば敢へて差支なきやうなれども是が雙眼ともなれば世は真の暗夜なり。両親共に中風や卒中の血統あるが上に日頃大酒を飲む五無斎の事なれば何時生命に故障のあるやも図られず。

○我死なば共同墓地へすぐ埋めろ
　やいてなりとも生までなりとも
○遊つ久りと娑婆に暮して偖おいで
　わしは一ト足チヨイトお先へ

などの歌も出来て居れば何時何時死んでも差支はなきやうなれども、実は明治一百一年六月八日出つる時を以て芽出度眠るが如きの大往生を遂げんと欲するものなり。然れども生者必滅会者定離の原理により近き将来に於て地獄若くは極楽の旅行をせねばならぬ破目となる事もあらん。斯くては余りに腑甲斐なき事なれば終生の事業を繰り上げて本年中に一つ遣つ付けて見んと思ふなり。

斯の如くにして此旅行を思ひ立ちたるは二月上旬の事なれども〇のなきは四十二年来一日の如く千々に心胆を砕きたるなり。幸にして共同新聞店の武田兼助君御兄弟やら、恩師



鉱物採集の姿
（写真の裏面に自筆の裏書きあり）
明治35年11月末日撮影
2ケ年の旅にカナケはぬけにけり
鍋釜ならばさぞやよからう

正木直太郎先生の妹聟たる上田町の柳沢太郎兵衛君やら、北佐久志賀村出身斉藤祥三郎君の如き俠気ある○持が相談し給ひて資本金を出してやらんとの事なり。地獄では仏が必用なれども娑婆では金なり。乃ち五人打寄り脳味噌と黄金を出し合ひ契約書に調印したるに三月下旬の事なり。明治四十一年四月四日午後五時五無斎が下宿ホテル山吉に於て立ち振舞を為す。会するもの。長野市高等女学校長　渡辺敏君。長野市城山小学校々長心得　中沢照琳君。信濃公論主筆牛阿弥　飯田弟治君。同大株主雪鞋　牛山清四郎君。共同新聞店主　武田兼助君。の五氏と五無斎の六名なり。尚此外にも県参事会員の大沢辰君やお神主の宮沢春文の命尊へ夫々使を発し置きたれども御出席なかりしは終生の恨事なり。然れどもデカク飲みデカク酔ふこと例によつて例の如し。

四月五日　月　長野を発し更級郡中津通明塩崎の三校を訪ひ、注文取りを為し稲荷山停車場前の一旗亭に宿す。

四月六日　稲荷山停車場前の一旗亭を発し、稲荷学校長宮川久三郎氏を訪ふ。学校がつくづく厭になりたり。信濃公論へでも逗入り度くなりたりとの事なり。社の経済も思ふ様に行かぬ五無斎は月給取りになり度くなりたりと言ふ。午前九時半桑原小学校に至り石斧採集の事を依頼す。此地の石斧は矢の羽形の双晶を為す。中々の好標本なり。長野市茂菅のものも木曾の御岳山のものも遠く此地のものには及ばず。午前同校を辞し八幡、更級、戸倉、埴生の四校を歴訪して午後七時過稲荷山町手塚屋に宿す。相客は諏訪郡製糸家の検番殿なり、製糸家の内幕談などを聞く。

四月七日　今日桑原村に英雲富士岩を採集する筈なりしも雨天なれば日程の変更を為し、屋代杭瀬下二町村を経て四番上りにて上田町に至り、辰野洋服店を訪ひ村上村産の軟満俺鉱と硬満俺鉱とを見る。夫より十数年来の宿々たる馬場孝に宿し、高等女学校蚕業学校中学校並に女子小学校の各校長諸君を歴訪す。

四月八日　木　午前秤座の柳沢太郎兵衛君やら、肥料商の伊藤伝兵君やら、砂糖商の伴得次郎君やら、活版業者の中沢勝次郎君やら、薬種商の小林文作君やらを歴訪す。色々な用事がありたるなり。午後二時小県郡の城下泉田浦里の三校を歴問して仁古田の生島国作君に宿す。生島君は明治二十八年以来の友人五無宗の一人なり。同君の養父幸次郎翁が台湾より到来の胡瓜を下物にて御神酒を供せらる。主人側も話好きにしてお客人は有名なる五無斎なれば且つ話し且つ飲み且つ酔ふ。

四月九日　金　晴　午前九時生嶋氏を辞し浦里村越戸に玄能石の採集を為さんとす。生嶋氏父子同行せられたり。偖然らば愈本日より採集を開始せんとするに思ふやうにな

るものは一つも見当らざるなり。明治三十年頃五無斎が始めて採集に赴きし頃は幾らでも有つたものなれども、近頃は採集の為めに江戸村附近や其他よりも無暗矢鱈に来遊すると見えたり。学術の進歩は頗る喜ぶ可きも聊か閉口まざるを得ざる次第なり。乃ち生島氏と共に青木小学校に至る。旧知青木小学校長小林直次郎氏に依頼し学校生徒か人足を雇ひて採集をして貰はんが為めなり。然るに校長閣下はお留守なり。乃ち止むことを得ずして同校教員諸氏に頼み置き生島氏と袂を分ち、別所村に至り、十余年来の定宿たる相屋に宿し、別所学校に至る。校長塩沢氏同地産の白鉄鉱を示さる。是は同所女神山産のよしなり。白鉄鉱は黄鉄鉱と同じく成分は硫化鉄なれども結晶系を異にす。即ち同質異形の一例なり。元来本鉱は今回の標本中には入れぬ筈なりしも編入することとなし採集を依頼す。今宵同村戸倉直蔵氏来訪。此地の畸印なり。此畸の字は俗に奇にして正理に合する場合に用ふる文字なり。夫子御自身も読者各位も其意のある所を誤解し給ふこと勿れ。午後七時より同十時半までノベツ幕無しに語る。

四月十日　土　晴　別所温泉を発し西塩田村小学校に至る。弘法山の斜長石と手塚の沸石とを採集せんが為めなり。斜長石の採集は如何にも細きもの故に大人でも小人でも同じ事なれば、同校生徒諸氏に採集して貰ふの条約を締結して直ちに東塩田小学校に至る。上原校長閣下御赴任の当日とて茶話会の催しあり。何か面白き事を話せとの所望なり。乃ち新聞屋窘めの話を為す。諸人驚かずといふことなし。斯くしつゝある間雷雨ありて雹さへ降りしきれば依田村行きの日程変更を為し、鈴子の一旅人宿に泊る。宿料は二十五銭なり。此地の小学校は五無斎が去る明治二十五年中一ト度奉職したることある事とて校長問題に就いては村当局者に談判して見度き事あれども此所暫らくは言はず。何れ其中に。

四月十一日　日　晴　東塩田を発し富士山小学校に至り山田校長に面会用事も済みたれば直ちに出発、砂原峠を越え依田村に至るの途上（途中と書いても可し、然れども途下とは書く可らず）下村利忠太氏に邂逅す。芝原に腰打ちかけ往を語り来を談ず。依田村小学校に至りたるは午前十時頃なりしならん。乃ち同校の炭部屋に入り込み褐炭の室内採集を為す。本鉱物は同地産の由にて脈も相当に太く其質も亦稍善き由なり。木理を存するものなり。琥珀を混ずるものあり、又時に黄鉄銅鉱をも含むものあり。琥珀と言へば頗る立派なれども上等なるものには非ずして杉の木の松脂なり。黄鉄銅鉱を含むは此褐炭の疵なり。今日婦人会あり。何か演説せよとの所望あり。演説は禁物なれども石炭を貰ひたる義理もあれば止むを得ずして演説す。午後

六時丸子村に至り翠川に投宿す。

四月十二日　月　晴　腰越橋の所に至り柱状節理の標本を採集し小林運送店に托す。主人清之助君しきりに校長の悪口を言ふ一々道理あり。然れども又大人気なき所あり。今宵工藤前代議士を訪ふ。氏は或る人種の大偽士に非ず。其所以如何とすれば篠原剤などを販売せざればなり。学校問題に就いて談ずる所あり。

丸子村逆さに読めばこまり村
順によめ〳〵順によめ〳〵

是は過る明治三十三年中柴崎虎五郎氏が上伊那郡に転任したる所の作なり。今茲に記す所以のものは余り校長などを窘めぬやう忠告せんと欲してなり。

四月十三日　火　晴　午前七時丸子村を発し、東内村に従弟赤沼伝助君を訪ひ西内村小学校に至り、校長横山裕君と打ち連れ立ちて鹿教湯温泉なる内邑亭にて飲む。内邑亭は二十余年来の定宿なり。丸子村なる小宮山新聞店の主人公やら蚕科乙種農学校の収入役兼学務委員なる塩沢慶治氏に会見す。会見など威張つたやうに面白くなけれども近来の流行語なればチヨット書いて見るものなり。

四月十四日　水　晴　久保田利作氏と外一名の若者を雇ひて西内村熊倉なる閃亜鉛の産地に至り、六百個の標本を採集し、帰路鹿教湯温泉附近にて黄鉄鉱の採集を為す。石油箱に四つあり。今宵雨降りなり。寝心地甚だ善し。

四月十五日　木　雨　午前七時過ぎ起床、正午荷造を終り晴間を見計らひ内邑亭を辞し、所沢峠を越え武石村に至り叶屋に宿す。校長佃元次郎氏来訪少しく飲み寝に就く。隣室に客あり。馬耕講習会の講師君と村吏員なり、デカク飲みデカク騒ぐ。午後十一時半頃御神酒の効能漸次薄らぎ行き目醒む。稍不平なり。然れども自分も長飲して隣室の客を困らせたる事数百千回なれば愚痴をこぼす権利なし。

四月十六日　金　晴　所沢に至り御坂凝灰岩の標本を採集す。石工一人外一名の若者を雇ひたるなり。午後六時帰宿せしに教員諸氏の歓迎会あり、村内の教員吏員悉く御出席ある可しとの事なれば出席す。今宵伏見源太郎氏の風穴を見御神酒と太打蕎麦を頂戴するの兼約ありたれども遂に行かず。教育の必要論より田村又吉翁の悪ろ口を叩き武石学校改築論に及びたる演説を為す。二次会を五無斎の歓迎会となりたり。五無斎此地の小学校長たるもの満四年。当地鼻垂らし小僧共今や一人前の大人となり、或は役場吏員となり、或は教員となり、各相当の位置に達し居るが中に本年七月東京帝国大学を卒業すべき医学士高橋信美、法学士柳沢雅休の両人もあるなり。明治四十年の三月筆墨の仕入元なる玉川堂の店頭にて此の両人に行き合ひたることのあ

りたるが今や鼻の下に髭などを植林し始めたらん。然れども玆に一つ悲しむ可きは工学士中原林之助氏の死んだ事なり。氏は五無斎が直接の門下生に非れども中学時代と高等学校時代には時々五無斎のホテルを訪ひたるものにして中中の法螺吹きなりしも亦時々法螺学の教授をして遣りたるものなり。本年の七月迄も生存し居たらんには此の山間の一小村落に一小学士会が開かる可きに実に惜しきものなり。デカク酔ひて寝床に入りたる迄の経過を知らず。多分は池田作治郎君の保護を受けたるものならん。

四月十七日　土　晴　午前八時頃出発。一の瀬河原にて石英閃緑岩の標本を採集す。今宵権現なる斉藤市之助氏に至る。婦人会にて演説せんが為なり。演説は養豚論なり。同行者は佃校長と岩下訓導となり。演説の前後御神酒を頂戴し午前二時に至る。市之助氏は小県蚕業学校の卒業生にして役場書記なり。厳君吉右衛門氏は五無斎在村当時の学務委員なり。十年前の事を語り且つ飲み且つ酔ふ喰ひ過ぎて少しく腹痛を感ず。

四月十八日　日　晴　午前五時起床直ちに便所に行く。胃腸の間少しく不穏なるが為めなり。又々御神酒を頂戴し午前八時半頃下本人となるを橘詰伊作氏に至る。氏も亦五無斎当地の学務委員なり。午前九時緑礬石の産地に至る。大学教授連やら標本屋に荒らしつけられ思ふやうには採集も出来ず、遺憾此上もなし。今日下武石区青年の為めに演説するの兼約ありたれば急ぎ帰らんとするに、此地の有志馬耕講習会講師の慰労会を開く可ければ出演せよといふ。止むことを得ずして出演す。演題は山林整理論なり、午前八時半下武石区青年会へ出席。演題は同じく山林整理論なり。斯く度々山林整理論を為すこと武石村の富を二倍しやらんが為めなり。幸いにして小県蚕業学校の卒業生にて役場書記なる池内寛治氏二回共傍聴せられたれは或は事実として現はるゝこともあらん。

四月十九日　月　曇雨　武石山に外部褐鉄鉱に変じたる黄鉄鉱に変じたる黄鉄鉱を採集す。小県蚕業学校の卒業生なる伏見寛柔君酒肴御持参応援隊として高松君伏見君など同道にて来らる。山の上にての御神酒は又格別なり。酔ふて石上の一睡を貪る、殆んど華胥の国なり。午後五時半武石小学校職員諸氏と共に滝沢伝氏に至る。結婚披露の宴なり。浦山しきこと限りなし。酒三行紀念帳に何かと書けといはる。ト、の名前は伝にしてカ、の名はリやう子なり。何としても歌にはならず、乃ち或人に代りて偕老同穴の意味を、

君と予は　千代に八千代に　さゞれ石の
　いはほとなりて　苔の生すまで

と書きつけたり。酔ひ過ぎて床に入りし迄の経路を知らず。今宵滝沢氏に宿す。

四月二十日　火　晴　滝沢伝氏を辞し叶屋に帰り、荷造を為し将さに出発せんとす。下武石青年会の金井大八郎来られ荷造りの手伝をせらる。既にして役場書記の池内寛治氏も来らる。沖区に於て青年婦人報徳の諸会を合同して開く可ければ是非共今一泊せよと言はる。然れども武石村の滞在は四日五泊に及びたれば謹んで辞す。荷作りの際五無斎誤つて釘を踏む。深さ六七分。

斯かる時　左こそ深くは　踏まざらめ
　面の皮ほど　厚くありせば

池内よりは御神酒を、宿屋の女将よりは足袋なとを頂戴し、長窪古町を経て長久保新町に至り、十余年来宿料などを払つた事なき山崎屋に宿し、学校を訪ふ。松村校長以下酒井小山両訓導何れも旧知の人なり。乃ち飲み乃ち酔ふ。帰途同所の遊廓を見る三十年以前の御旧跡はある筈なれどもソを訪ふの勇気なし。三十年以前土地繁昌策の一として設立せられたるものなれども今後は又土地繁昌策の一として斯る娼売は断然廃業するがよからん。余分の事ながら村当局者に一言するものなり。

四月二十一日　水　晴　午前八時半小学校に至り同校尋常科の五六高等科の一二年諸子と講話す。附近地質の概説なり。此地の門閥家にして悪ろ口屋の石合又一氏来校。蓋し五無斎を罵倒せんが為めならん午前十時尋常五年級以上の生徒五六十名を引卒して和田村の青原山に至り鉄鉱母を採集す。酸化鉄にして雲母に似たる鉄鉱といふことなり。多分に産し交通の便さへよければ御相談になれども産出の量多からず。数十年前腰の金を掘られたる馬鹿ものあり。其遺跡尚ほ存す。採集も思ふやうに行かされバ中山の鍛冶屋に托して此地を引き上ぐ。此地を引き上ぐるに際して鉄槌二挺を新調す。長野市後町小林鉄工場にて百目三十五銭宛を投じて造りたるもの何れも其用を為さゞればなり。殊に大鉄槌の如きは長さ寸余の割口三つを生ず。而して此地のものは百目十六銭宛なれども歯のマクレ若くはカイル事なし。長野の商人と長野職人とは遂に信すべからざるものなれども五無斎は鍋屋主人松橋久右衛門の証言を信じたるなり。此地の鍛冶屋に払ひたるもの一円外に一日を此地に費したる為め諸雑費一円合計二円を費す。是は小林鉄工場主が二三十銭を儲けたるが為めに起りたる損害なり。尚今後幾十円の損害を見ることならん。今宵長久保新町なる山崎屋に宿し主人公を相手に飲む。懐旧談あり。長し。故に略す。

四月二十二日　木　晴　長久保新町を発し笠取峠を超え、芦田、望月、塩名田、御馬寄を経て岩村田に至り、二十五日校長会のある由を聞き込みたれば直ちに小諸町に至らんとせしに、本日は九星頗るデカク善しと見に嫁入り聟取り

非常に多く人力車一台もなし。元来石屋の分際として人力なとに乗る筈はなけれども武石にて踏みたる釘の稍痛みを感ずるが為なり。乃ち岩村田柳沢旅館に宿す。本日五無斎郷里の地籍内を横貫す。然れども遂に立ち寄らざるなり。是は夏の禹王が先例に倣ひ三たび家門を過ぐれども遂に入らぬものなり。

四月二十三日　金　晴　午前五時半岩村田を発し人車にて小諸町に至り小山太郎氏を訪ひ、人足数人を雇ひ昧噌塚山に至り、泥炭と浮炭と火山灰を採集し午後八時に至る。今宵小諸与良町の大黒屋に宿す。相客は馬車の別当殿にして隣室に客あり。夫婦ものなり。乃ち御神酒を頂戴す。大黒屋は商人宿にして丁寧懇切を極む。

四月二十四日　土　晴　今朝馬車屋先生喰ひ逃げを為す。太き奴と謂ふ可し。早朝小諸町を発し馬車にて岩村田町に赴く。校長会にて注文取りを為さんが為めなり。注文取りも相応には出来たり。今宵三個所にて三度飲む。相手は湯本易水、大沢茂十郎、笠原辰次、森泉三代太の数氏なり。湯本君は三度とも御出席なり。本日の記事頗る長し。然れども書かぬが花ならん。

四月二十五日　日　晴　今日北佐久郡躬行義会発会式を同地招魂社境内に開かる色々な人が集り色々な祝辞がありたるやうなり。広長郡長より祝辞をなどいはれたれども郷里の竹馬の友多き所なればお断り申しあげたり。講演会の方へも出席せず。又懇親会の席上演説をも見合せと為し、只々専門に飲む、宿屋に帰りて旧友諸氏と飲む。然れども内務省の役人浅山正名君へは知事の栄転論を伝言しやり、潮事務官には学務課全数改選論を為しやりたり。是は酒酔本性違はずの原理によるものなり。

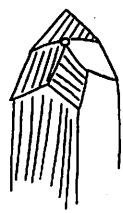
四月二十六日　月　晴　午前五時起床、吉村北佐久郡会議長を訪ひ朝飯を喰はずに馬車にて御代田より汽車にて軽井沢に至る。離山の雲母富士岩を採集せんが為めなり。油屋に至り小林校長より差遣せる人足は来て居ぬかと問ふ。五無斎此の時不遜の点ありたらん主人も亦頗る不遜を極む。是は不遜の交換と言ふものなり。然れども客商売の人には不遜は禁物なり。乃ち市田屋に宿することゝ為し東長倉村役場に至り、更に雨敬の別荘に至り銅像を見る。頗る豪らきものなり。雨敬由来感服の出来ぬ男なれども夫婦相和の情厚きは寧ろ敬服すべきなり。

四月二十七日　火　晴　軽井沢小学校小林弥八君来訪。君は五無斎と殆んど同郷の士にして稍読書癖ある士なり。只軽井沢学校を新築して内外人を驚かさぬを遺憾とす。既にして昨日頼みたる人足の来りて荷造りを了りたれば会社に托し置き此地を発し、雨敬が殖林の中を横貫し西長倉村なる塩沢発地の二部落を通過し、上州北甘楽郡西牧村字高館

に至る。地質学上既に荒船火山の大噴口中に入りたるなり。其の高館に至るの前一種沸石様なる鉱物を発見す。乃ち之を神保博士に致す。別所屋の黄鉄鉱を白鉄鉱となし、甚く同博士よりお目玉を頂戴したるが為めなり。其後博士より本鉱物に対する鑑定書を接手せり。

拝啓過日御送り被下候鉱物は左の如き品形（第一図）にして多少第二図の如き外観を呈し候、先ツ来沸石 Pasin ならんと認め申候右御返事まで草々頓首二伸右標本頂戴致し置き候て宜しきや御返事願上候。

第1図



第2図



夫より山及山を上下して物見山の牧場に至り、神津郡太郎に面会し一ト通りの視察をなし、午後七時過ぎ北佐久郡志賀村字駒込に至り、宿屋の無きに困じ果て駒込分教場に至り外山新松氏に宿し、御神酒を頂戴す。外山氏は幾分旧知の人として牛山大株主とは懇意の間柄なりと今宵此地の青年数輩来たり雑談に耽る。此地の青年は学校を以つて若い衆宿と心得居るもの〻如し。若し率ゆるに其道を以つてせは大に青年の風儀を一変するに至らんか。

四月二十八日　水　晴　人足の都合にて午前は採集することを得ず。午後桃木沢に至り第三紀の砂岩を採集す。凝灰質にして鹹水産貝類の化石を含む。即ち第三紀時代に於ける該地方の尚ほ海底にありしを証するものなり。今宵外山氏に宿す。今晩の御神酒は五無斎のおごりなり。両人の人足其喜ぶこと限りなし。

四月二十九日　木　曇後雨　午後三時過ぎ駒込を発し内山に向ふの予定なれば午前は玻璃質富士岩の採集をなす。荒船火山口より噴き出したるものなり。元来此玻璃質富士岩は臼田町の稲荷山に於てする筈なりしも何れも同一なれば時間の経済上此地に於てせしなり。已にして天候漸く悪しく雨さへ降りしきるなり。乃ちお御腰を据ゑて三度外山氏に宿す。此地の青年諸子両三輩至る。乃ち家兎を屠りて少しく飲み五目飯を炊きデカク喰ふ。食後諸種の室内遊戯あり。此地百戸許りもあれども八分通りは須江姓なり。維新前にあつては陶の字を用いたりとか。何れは毛利氏の為めに厳島にて辛き目に逢ひたる陶晴賢君等の末葉ならん。須江はスエにして陶はスエになり。何ぜ書き替江たるものならん。

四月三十日　金　曇　今日内山村に至り、星尾峠に木の葉の型ある第三紀の頁岩を採集し、荒船山の頂上に角閃富士岩を採集する筈なりしも天候頗る甚だ悪しく今にも泣き出

さん許りの空模様なり。空模様よりは五無斎が泣き出し度なりたり。乃ち日程を変更して角閃富士岩は諏訪にて採ることゝなし。人夫共に〇を与へて星尾峠の第三紀頁岩を採つて貰ふことゝし、志賀村に至り村長神津勘三郎と大地主の神津猛君を訪問し、岩村田町に至る途中種馬所の前を過ぐ。種馬所とは馬政局の種馬を置く所なり。見ても善けれども見無くても亦善し。此種馬所の為めに北佐久郡は何万円かの金を寄附したる筈なり。利益としては寄附金の一割にも五分にも廻らざらん。尤も郡民の心得方如何によりては二割三割にも廻らん。只岩村田附近の人が思ひたる程の利益なしとの意なり。種馬所を引つ張りたるは渡辺郡長にして之を利用するは一に現任郡長広長君の手腕に存ず。正午岩村田を発し中込村を経て南佐久郡野沢町に至り、町の入り口にて孟宗竹の竹の倅の下車するに会す五無斎垂涎正さに三尺、乃ち金十九銭五厘を投じていが一を購ひ雪鞋翁への進物にせんとす。既にして東信新報社の臼田町なることを知る。其昔弥次喜多先生方の梯子を買ひたると好一対の話ならん中学に至るの途中臼田民助氏に会し明日出演すべしと要請せらる。断りたれども御承引なし。乃ち打連れ立ちて野沢小学校に至る。校長は旧知遠山光治君なり。運動会の慰労会もある筈なれば晩餐を共にせよと言はる。名刺をば同校女教師某嬢?に托して雪鞋将軍に致し、デカク頂戴し俥にて午後十一時臼田町東信新報社に至る。雪鞋将軍時刻延引を詰責して止ます。然れど五無の鼻息も亦甚た荒らし。乃ち打連れ立ちて大和喜に至りで飲む。就辱迄の経路を知らざること例によつて例の如し。

五月一日　土　晴　翌朝頗る朝寝す。酒酔本性違はずの原理により本日雨天なる可きを信じたればなり。然り而して天気晴朗空中一点雲なし。雪鞋将軍より酒不可飲のお小言を頂戴す。曰くは五無斎の身体は五無斎の身体にして而かも五無斎の身体に非ずと、ソウ言はれて見ればソンナ気持もするなり。今日南佐久郡役所に至り養蜂養豚の実況を見る。実業上の悪模範とならねば幸なり。乙種農学校に至る。校長一人にて生徒は三組あり。郡会などにて八ヵ間敷無ければ幸甚し。尤も県立上伊那農学校などにても教師は十人にして生徒の数六人といふことありたるやう記臆す。本山郡長矢島郡視学の手腕を要す。農学校の一室にて教員の監督は無けれども生徒四名打ち寄り実習として熱心に草履をつくりつゝあるを見る。内三人は草履つくりの手前少しく誤れるを発見す。出過ぎるやうなれども気の毒のあまり飛び入りの教授をなす。五無斎少うして卑し。故に鄙事に多能なるなり。午後三時前山村役場に前代議士にして現任村長たる早川権弥君を訪ふ、村長の職たる香具師や堀川監獄在勤の某君等に勝ること万々也。本日午後八時より大沢

小学校にて同地青年会の為めに演説す。題目は養豚論に仮りたれども金銭を如何に使用すべきかの問題に論及せり。大沢村は二百四五十戸の小村なれども阿部善蔵翁等（等の字意味深長なり）の尽力により今や県下の模範村となりつつあり。模範村とは小金のある村の異名なり。衣食足つて礼節を知ると言ふことはあれども又腹の皮が張れば目の皮の弛るむとは怠惰心の発生を意味するなり。今宵臼田校長の官舎に宿す。壁間臼田直次君の肖像を掲ぐ。君は臼田校長の令兄にして五無斎と同学の友たり。往年肺を患ひて遂に起たず、蓋し級中の豪ら者にして南佐の雄鎮たりしならん。民助君阿兄に及はずと自覚するもの〻如し。善哉々々。

五月二日　日　晴　今日岸野村に雞鳴会「慶明の宛字」といふ飲み会あればとて前代議士の早川権弥君やら前代議士木内信君の令弟政太郎君等より勧誘を受けたれども遂に行かずして田口村に至りウラル石輝緑岩を採集す。臼田学校の職員二名従ふ。旧知佐々木鉄之助氏の案内を乞ひたり。佐々木氏は小諸小学校佐藤寅太郎氏の令弟にして此地の財生家名望家にして篤学の士なり。御神酒と夕飯を頂戴す。今日旧知高橋周助君に弁当を命ず。高橋君は同学同勤の友にして今や製糸業に従事しつ〻あり。昨年一昨年の不景気にて数万の損失を致したりとか、ヨセば善いのに舌切雀、とか何とか言つて見度きものなり。然れども隣人其他日大いに為すある可きを予言す。想起す西筑摩郡山口村に同学の友市脇房太郎といふ人ありて同じく製糸の業に従事したりしを、然り而して今果して如何。

五月三日　月　晴　今日臼田学校に於て臼田附近各小学校長教員諸氏の為めに南佐久の地質地形を論じて、Zigigin式教授法に及ぶなる演題にて演説す。信濃公論の大株主にして東信新聞の主筆たる牛山雪鞋翁前座として教育上より見たる習慣といふ題にて講演せられたり。右終つて大和喜楼にて御神酒を頂戴す。聞く所によれば爾来毎月一回名士を聘して、講演会を開く可き発会式なりといふ。発会式ならば今少しく大家を要すべきに五無と雪鞋卿か、光栄身に余る次第なりと謂はざるを得ず。今宵東信新報社に宿す。

五月四日　火　晴後曇　午前九時臼田町を発し高野町に至り旧知高見沢理仲君の病を訪ふ。君は五無斎と同学の友にして恩師浅岡先生の小模型なり、昨年中肺患に罹りて一時危篤に頻したりしも今や漸次快方に向ひつ〻あり。更に語り出るを聞けば左肺の中葉其用を為さゞるも他に伝播するの兆候なしと。好漢自愛せよ。午後一時高見沢氏を辞して栄、海瀬、大日向の三校を歴訪し、大日向村古屋なる玉田旅館に宿す。今日志賀村の青年須江海次郎なるもの至る。五無斎の仕事の仕事を助ん為なり。

五月五日　水　曇後雨　午前八時人足三人を雇ひ高橋に至り、輝石を採集す。少雨霏々たり。デカク困りたり。今日石灰小家にて味噌汁の饗応を受く。

五月六日　木　雨　今日雨降りなれば仕事を休み、大日向鉄山に至る。臨時休業にて不得要領なり。

五月七日　金　曇後雨　人足三人を雇ひ中生代白堊紀の泥板岩を採集す。雨中の採集は余り香ばしくなし。大沢臼田両校の演説は斯くも覿面に報い来たるなり。爾来演説は大禁物なり。

五月八日　土　曇後晴　人足三人を雇ひ都沢に至り石絨を採集す。一時日本晴の事はありしも雷雨の兆候あり。今日人足共にお神酒を振舞ふ。仕事は中以下なれども御神酒は上戸なり。

五月九日　日　曇後晴　大日向滞在は五日六泊なり。毎日々々の雨やら曇天やらにて頗る厭やになりたり。与志本運送店主人の語る所によれば大日向志賀の二村は非常に湿気多きにも拘らず川上、相木地方は晴天多しと。五無斎謹んで天文地文を按するに大日向志賀附近の山は薄つぺらなり。東風至る毎に忽ちにして雲霧雨を将来するなり。相木川上の地たる所謂秩父の厚ツペラなる諸山に連れは、此雲霧若しは雨を泊来せざるが為めなり。大日向の地たる風は東西の一文字に限り東風ならば雨、西風ならば晴と限るなり。五無斎毎日午前五時に起き出て天文地文を按じつゝ衷心頗る安んぜざるものあるにも拘らず土人の天候に頓着せば山稼ぎを為すの様頗る面悪き心地す。今日古谷にて人夫三人と共に中生代の赴き松本支配人の案内にて構内を一覧し、同氏より磁鉄鉱六七十貫の寄附を受け深く其好意を謝し一婦人と道連れとなり、午後七時半海瀬村に赴き、海瀬館に宿せんとせしに、忽ちお断はりに逢ひたり。悲しきこと限りなし。乃ち七八年前よりの定宿たる大黒屋に宿し、若主人を拉して栄座の芝居を見る。斯く定宿を措きて海瀬館に泊り込んとしたる理由如何。五無斎答へて曰く海瀬館は臼南第一等の旅人宿兼料理屋にして酌婦の三四人も居る由に聞けばソが御顔ばせをも拝し度く、且つは三四の美姫を擁して芝居見物と酒灑、英雄閑日月を装ふて見んと思ひたるなり。長野あたりにて四五の芸者同道にて芝居見物を為さば忽ち二三十円もフン奪くられん。而して此所は酌婦にて位一級を下れば四五円にて済み、天晴色男風を吹せんとせしに越中式にて忽にして先方より外れたるぞ笑止なる。

五月十日　月　曇　四ツ谷の鍛冶に托して鉄槌の修繕を為すに殊に火を強く入れて貰ひたり。小林鉄工場の主人や鍋久の大将より小言もありたればなり。然れども一ト度古生代の粘板岩や硅岩なとを打つかく時は直ちに角がスクンでマクレて仕舞ふなり。此鍛冶工に鑑定せしめたるに和鋼に

は相違なきもお砂糖而かも黒砂糖なりといふ。是が正当なる鑑定なるやも知れず、然れども職人といふ奴は虚言ばかりを言ふて始末におへぬものなり。午前十時四ツ谷を発し高見沢理仲君の病を訪ひ、畑八穂積二校を歴訪し、一木質ホテルに午食を喫し、此地の金満家黒沢腐次郎君の金の溜め方を研究し、穂積村役場にて同君が同村小学校に寄附したる一万円の寄附条件を見る。気に入らぬ所も頗る多々なれども之を紙上に批評せんは聊かお気の毒故に暫時預り置く事とせん。偖此一万円寄附条件の起稿者は二宮三次郎君ならんが都べて二宮式なり。若し五無斎にても御相談あらば今少し何とか工夫もあらんに実に惜しきものなり。午後北牧小学校長伝田源蔵君を訪ひ、海の口なる遠山国手と同乗馬車にて海の口に至り、一鉱泉宿に宿し宿帳に五無斎と記しありたる為め此地の分署長たる旧知馬場甚三郎君の来訪あり、相客は氷豆腐屋二名紺屋一名なり。余り相客があり過ぎて話もならずと馬場君のお屋敷に至りデカク御神酒を頂戴す。乃ち川上行きを約して午前一時帰宿。

五月十一日　火　曇後雨　馬場署長が事務の終るを待ち打連れ立ちて午前十時海の口を発し広瀬通りを為し広瀬小学校に至る。教師一名にて生徒は六組五十余名ありといふ。コンナ事では教育は出来ず、頗る困つた事といふ可し。午後一時川上村のうち御所平に至り、一旗亭に投じ梁越しを午食とす。梁越しは川上名物蕎麦焼餅の一種なり。其之を製造するに当り、味噌を混ぜたる蕎麦粉を湯にてユルク掻き之を椀の中にて固むるの際熟練なる婦人のものせるは時々梁を越して再び椀の中に帰り来ることも有るよりの名なり。午後六時頃此地の駐在巡査林君来訪ありたれば三人鼎座にて飲む。今日川上郵便局長井出拡君来訪。青年会にて達つて演説せよとの注文あり。新聞屋といふ弱い客商売をして居る身分なれば謹んで十四日を約す。

五月十二日　水　雨　馬場署長林巡査同道にて此地の由井久平氏を案内に穴沢山なる電気石の産地に至る。此地の電気石は工学士高壮吉君の誤鑑によりて俗に十勝石と称へ来れるものなり。偖此電気石は平たき斜方六面体と六角柱の聚形を為し、外面雲母に変ずるもあり。又全然雲母となりたるもあり。其全然雲母となりたるものは電気石の仮晶を為せる雲母といふも差支なし。其太くして短きは此鉱物を著名ならしめたる所以にして五円十円を投じても是非共採集を為さんと欲したれば久平氏に托して更に多数の人夫を上すことの約束を為して、川上村のうち居倉に至り上田安平氏に宿す。

五月十三日　木　雨　馬場署長林巡査同道にて川端下なる水晶山に至る。案内人は此地の井出市松氏なり。市松氏は十余年前よりの知り人なれば方解石、柘榴石、透角閃石及

水晶各六百個宛を採集して貰ふの約束を為し、坑夫小屋にては味噌汁を市松氏の家にては粱越を頂戴して午後六時大沢山なる川上館に宿す。今宵林巡査は帰署せり。

五月十四日　金　雨　川上館主人を始め此地の青年至る。鉱物の鑑定を依頼されたるなり。午前十時川上館を発し此地の郵便局長井出喜重氏に至り御神酒と昼食とを頂戴し、同地尋常小学校に至り演説す。演題は養豚論なれども更級埴科上下水内高井及び長野市等一市六郡の為め山林保護の事を衷訴嘆願したるなり。右終つて慰労会を開いて貰ひたるに又々一幕を演ずべしとの事なれども疲労甚しければ辞す。今宵井出喜重氏に宿す。

五月十五日　土　晴後雨　本日馬場署長帰署。井出郵便局長同道して人夫二人を従へ穴沢山に至り終日電気石を採集す。得る所五六塊には過ぎざるなり。五六塊に過ぎざるは善けれども仮令何十人何百人の人夫をかけたればとて六百の標本を得るの見込も立たぬなり。乃ち原なる井出喜重氏に帰り宿し、快談数刻三吉米熊君との関係やら山村論やら子女教育の事やらを聞く。紙面狭隘一々之を掲ぐるの余白なし。只々井出氏の長女は東京女医学校第一期卒業生にして現に其附属病院の外科部長なることと氏の妻君は五無斎と殆ど同郷なる望月町の人にして同郷人たる韓国師範学校の教員今井猪之助君の妻君とは姉妹の間柄なるの二個条附記するに止めん。

五月十六日　日　雨後烈風晴　午前七時井出氏を辞し、人足を雇ひ何とやら云う広漠たる原野を過ぎて山梨県北巨摩郡長坂村に至り大黒屋といふに午食を喫す。此辺の原野は実に寥ら広きものなり。植林でもしたらんには大金が上がる事ならん。尤も軽井沢と同様排水の工夫なくんば頓がて失敗に終らん。其昔武田機山君が平賀の源心和尚を攻むるに当り一旦帰国と言ひ触らし置き更に取つてかへすが為めに勢揃を為したる延山が原も此辺の事と知る可し。雨が寥ら過ぎて何が何やら分らず信州路に比して甲州路の悪ろきこと言語同断なり。是は大山綱昌先生が山梨県に知事たりしの日共進会といふお祭り騒ぎを為して県費を多分に使ひたるの影響ならんが長野県にても頓がてコウ成らねば善いがと思ふなり。午後二時長沢村にて川上村の人足を帰へし、更に人足を雇ひて荷物を負はしめ日の春停車場に至りしに一分間の事にて四番の上りに後れ停車場前の一旗亭に憩ふ。金鵄勲章もありなど出鱈目にならべつつ飲食費を喰ひ逃げせんとする壮士を見る。警官の出張ありて事なきを得たり。午後八時過ぎ日の春駅を発し九時甲府に着し米倉旅館に宿す。旧知山梨県師範学校長森山辰之助君来訪大に飲む。

本日午後三時頃より霰る。後烈風と変じたり、火事でもあ

れば大変なり。久しぶりにてお不尽さんに行き遇ひたり。

○五無斎が入府と聞いてお不二さん
　出迎へするが綿帽子して

○綿帽子かすみのきぬのお富士さん
　チヨイト色目をつかふべらなり

○おふじさん日毎に諏訪の水かゞみ
　余程あなたはおしやれものなり

最後の一首は十余年前の作なり。天下後世に伝へんとして併せ録するものなり。

△鍋久主人と小林鉄工場主へ△

鉄槌三挺ともナマクラに御座候。今更御返却申すも如何且各地到るところ学校長教員諸君やら町村吏員諸君やら警察官諸君やらのお手伝ありたる節、おもちや用としてあてがひ置き候。御安心下されたく候。以上　五無斎

五月二十四日　月　晴　荒川山中六泊七日の滞在も実は厭やになりたれば、人足には一日分の日当を給し尚午後は御料局の仕事も出来れば、半日分の日当が貰へるやうなる恩典を施しやり、午前五時半頃より緑色板岩の採集に取りかかり、正午悉皆採集を終り、荷造及発送の事は清水屋主人に託し置き、矢ケ崎技手に別れを告げ将さに出発せんとす。技手殿閣下此地産の岩石は凡そ何程位なるか一々名称を附し呉れよと所望せらる。乃ち河原をあさりしに、古生代緑色粘板岩。同白色硅岩。同赤色硅岩。同輝緑凝灰岩。同石灰岩。中生代白亜紀礫岩。同砂岩。同泥板岩。飛白岩。蛇紋岩。石英粉岩。の十一種を得たり。尚御所平峠の頂上より少しく下らは秩父古生層の最下部なる輝岩を得可き筈なり。学者社会に於ては南佐久郡大日向村トリゴニア砂岩のある地方以東を山中地溝帯と称ふ可きものならん。僅々十町以内にして、十二種の岩石を産するも亦謂なきに非るなり。午後一時清水屋を発し、仏平峠を越え松目を経て富士見村のうち原の茶屋に下らんとす。誤つて路を失し御射山神戸に下る。路松目を経るものよりは遙かに善し。五無斎何ぞ悪運の強き。代議士小川射山やら県属細川周太やらの原産地なり。耕地こそ異なれ正直ものの名取豊太郎も亦余り正直ものならぬ樋口勘次郎なども、皆此富士見村産にて同学の友なり。射山が小利口なるは満天下の認むる所にして、周太が大馬鹿なることも亦県下の異存なき所ならん。午後四時原の茶屋に到り、二回目の午食を喫し、僅々三分五十九秒の事にて四番の汽車に乗り後れ、渡辺千秋が別荘を見、終列車にて上諏訪町に至り常盤館に宿す。十余年前の定宿たる牡丹屋は擬万葉の長歌を詠みたるが為めに、又布半は江戸村の歌よみ左千夫が室に闖入して甚く冷かしやりたる為め、其後は一回も宿泊するの光栄を

有せざるなり。

五月二十五日　火　日本晴　中学校やら郡役所やらに至る。中学校に至りたるは長野の事務所より為替の来否を尋ねんが為めなり。然るに来て居らぬとの事なり。旅にて〇の無き程心細きことはなし電報三度に及ぶ。而も留守なれば明日との事なり。乃ち寺島中学校長より時借りして四番上り列車にて再び富士見村原の茶屋に至り桔梗屋に投宿す。

五月二十六日　水　雨　今日松目附近に至り石英粉岩を採集せんとするに、盆を覆へすが如きの強雨なれば華胥の国に遊ぶもの六時間。午後富士見小学校に至り関佐一郎君等に面会し大に吹きたり。富士見小学校は改築を要すべきものなり。尚ほ木の間尋常小学校は之を富士見小学校に合併す可きものなり。県属細川周太君やら樋口勘次郎君やら代議士小川平吉君等の原産地たる富士見村の教育紛擾に紛擾を重ねつゝあるなり。必竟彼ら三人の勢力は郷里の古老と青年に及ばざるか。今後余り大きな顔をせぬがよからん。

五月二十七日　木　晴　今日神戸なる素人土方小林万助至る。乃ち更に一名の人夫を雇ひて松目に至り、粉岩の標本を採集し金沢村の定宿松坂屋に宿る。小林万助は富士見村神戸の産にして射山式、樋口勘式、周太式にあらぬ極めて忠実なる青年なるが、学問も少しは出来る様子にて是非共従遊したしとの懇望なり。時農事繁忙の期節とて、行く先き々々にて人夫を得るに困難なる可ればとの懸念より、二三週間同行す可きを約したるなり。

五月二十八日　金　晴　古林万助同族万治外一名を伴ふて至る。之にて都合二万一百なり。夫より四人打連れ立ちて金沢峠頂上賽の河原に至り、赤色硅岩の標本を採集す。

五月二十九日　土　晴　金沢の御料林中金山を経て滑石の産地に至る。金鉱は怪しきものなり。故に採集せず。滑石は立派なり故に採集す。中に極めて良好なるものありたれば特別の取扱ひを為し置きたるに其儘に忘れて来たり。今日金沢村にて雇ひたる人足某は祭文を善くす。伴随院の長兵衛を語る。二万一百頗る悦に入り、ブツカキの労苦を忘る。午後六時発四番の下りにて上諏訪町に至る今日諏訪郡教員諸氏運動会と懇親会とあり少しく遅かりしも懇親会へ出席しデカク頂戴したり。今宵常盤館に宿す。

五月三十日　日　晴　諏訪教育会へ出席 Nigirigin 式教授法一名 Gdndaredn Methode と謂ふ演題にて演説す。相客は長野師範の村松民治郎君と東筑摩郡新村小学校長の小池泰治君となり。

五月三十一日　月　晴　小諏訪の高木にて蛋白石の標本を採集す。案内人は雨宮九平なれば総計二万一百九也。

六月一日　火　晴　今日上諏訪町の東北賽の河原に至り角

閃富士岩の標本を採集す。同行は 20109－9＝20100 なり。今日高島小学校角間新田分教場を観る。教員は今井甚四郎氏にして鶴髪童顔八十三才の高令者なり。長野県知事大山綱昌、県視学与良熊太郎、諏訪郡長田章、上諏訪町長黒沢次是、高島学校長岩垂令朝吉及び角間新田の人民一般に命令す。〃今井翁の月給をデカク上げて恩給の沢山取れるやうにして遣り退職を命じ区民一般にて金五百円を慰労金として差出す可きものなるを〃。今宵俳人貧半堂来る。明日ソ子の石器を採集す可きを約す。

六月二日　水　晴後雨　二万は昨日取り残し置きたる角閃富士岩を取りに行き一百は貧半堂の小沢幸太郎君同道にて漁舟を雇ひ所謂ソ子に至り、石器時代の遺物を採集に趣く。豊田村の郡会議員某君も同道せられたり。姓名は聞きたれども忘れたり。勿論五無斎の事なれば酒肴を携帯したるなり。曰はく菜ッ葉。曰く焼き串、曰く〇〇〇、既にして漸くソ子に至れば高島学校の篤学者橘本君三沢休職大尉を従へての採集なり。五無斎と郡会議員殿は〇〇〇に熱中し貧半堂と橘本君及び三沢大尉殿は採集に余念なし。先づ当初に得たるハ、金沢峠の赤色硅岩を原料としてつくりたる完金無鉄の石鏃にして、或は上伊那郡荒川嶽の角岩、上伊那北部に産する粘板岩、若くは和田峠に産する黒曜岩及び高木附近に産する蛋白石を原料として造りたる石鏃及び破片を採集せり。斯の如くにして五無斎船採集の成蹟は橘本船に勝るの形勢なりしも二十五円入りの財布及び四円の銀側時計を乗船の場所に遺失し置きたりしを発見す。乃ち半途引き返したりし為め石鏃四十有余を得たるのみ。察するに橘本船にては七十個位を得たらんか。尚ほ五無斎は有紋土器の破片二個と外に高師小僧と其成因を同ふするかとの疑ある鉱物を採集せり。石鏃の最も完全なるもの四土器の破片二と奇妙なる鉱物は之を東京帝国大学地質学教室の神保理学博士に致したり。都べて大学などへ標本を送るには最優等なるものを差し出すべきなり。ソ子に関する私見は次号に之を掲載する事とせん。午後一時ソ子の採集を了る。因つて熟々考ふるにソの遺跡は日本全国としても初めての発見なれば学者も教育家も将た物数寄連も陸続採集船を浮ぶ可ければ今回の地学標本へ此湖底の石鏃を入るゝの決心を為し、貧半堂に托して六百個を採集する事とせり。午後二時二万帰り来る乃ち二万一百にて藤森権之助氏の石置場に至り、板状節理を有する輝石富士岩の標本を採集す。雷雨敷々到る。ヒドク閉口せり。

六月三日　木　曇　午前輝石富士岩の補足採集を為し、一切の荷造を了り、上諏訪町を発し湖東の一旗亭に木の芽田楽をパクツキ、下諏訪に至り町長小口君に面会、蚕糸専門学校問題に就て互に失敬の交換を為したる当時の無礼を詫

び合ひ、下諏訪上諏訪共に鍵湯といふもの多く公浴場のなきは土地繁昌策としては甚だ不向なる由を述ぶ。町長閣下話がワカりたる如く又ワカラザルが如し。是には種々込み入りたる事情もありといふ。込み入りたる事情等は漸次解決するが善からん。午後三時下諏訪役場を辞し、和田峠西餅屋に至り犬飼に宿す。途中樋橋といふ所にて水戸の志士武田耕雲斎に属したる今弁慶の不動院全海以下六士の姓名を記せる石碑を見る。元治元年十一月二十日討名と記せるのみ。実に御気毒千万なり。野花一茎を捧ぐ。聊か敬意を表せんが為めなり。

六月四日　金　晴　西餅屋より上ること五六町の地道の右側にて玄武岩の標本を採集す。信州の広き玄武岩を産するは此地のみに限る。今日二十円入りの財布を置き遺れ二万に拾つて貰ひたり。大日向以来是にて三回なり。乃ち紙幣のみを容るべきハイカラ式小形の財布を購入するの大決心を為す。

六月五日　土　雨　雨中を冒して和田峠頂上に至り母岩附きの柘榴石を採集せんとするに寒さベラボウに甚し。乃ち和田峠東餅屋なる牧夫の家に至り午食を喫しつゝ暖を取り、午後二時頃西餅屋に帰る。二万買ひたる草鞋は如何にも不経済なればとて仁王様用大の草鞋を調り呉れたり。厚くして穿き心地甚だ善し。

六月六日　日　晴　柘榴石の補足採集を為す。今日東餅屋にて牧場の牛の帰り来るを見る。牧牛は他より預りたるものにして百余頭あるも牧牛は只一頭にて自由交尾を任せつつありとか。秦の始皇の如く三千の宮女は無けれどもアラビアンナイトの王様の如く毎日々々新しきを御す。五無斎生年四十二才未だ定まれる妻もなく感慨無量なり。人にして牛に若さる可けん哉とても称すべきものならん。偖此牧場といふものは相応の利益もあらん。然れども此東餅屋牧場の如く垜も結はず無制限に放牧し置く事和田村全部の経済上果して如何のものにや。下諏訪町も和田村も交通機関発達の結果従来益々疲弊すべき運命を要す。之を救ふの道只植林の一あるのみ。下諏訪町長たり和田村長たるも少しく御勘考ありて可ならん。昨今両日和田峠頂上道路の修繕を見る。小県郡の監督殿ハ一日も御出張あらざるらしく、石垣の積み様言語同断なり。長さ一尺直径三四分の鉄棒一本あらば何の石でも直ちに抜き取れさうなり。他日帰長の上本県参事会員諸君に向つて此石垣の石抜き取り法を御伝授申上げん哉。

六月七日　月　晴　午前六時西餅屋を発し下諏訪発電所の対岸に到り安緑岩を採集す。安緑岩とは安山岩のやうな輝緑岩のやうな岩石といふあとなり。今宵下諏訪町の菊本に宿し、友人山田禎三郎君が厳君兼蔵翁に邂逅し、御神酒を

頂戴す。乃ち御移りとして古代語にて言はゞ白拍子てふもの二を捧ぐ。二万喜ぶこと限りなし。白拍子先生五無斎を知れるらしく何か扇面に書けといふ。酔余新作も出来ざれば旧作おふじさんの歌などを書きてやりたり。就蓐迄の経過を知らず。

六月八日　火　晴　今日松本の兵営より兵士五六百人許り下諏訪泊りとやらにて宿屋は一軒もなしといふ。乃ち下諏訪小学校の宿直室に泊り込むの約を調へ平野村に至り、明治十七年来の友人今井楓三氏に至り、横川谷への道程を問ふに二里なりといふ。二里と一里では三里にして往復六里なり。旅人宿は無かといふに無しとの事なり。且つ今井君の家にては妻君が八回目の分列式を行ひたりといふ。三人にて泊り込まば由々しき大事なり。乃ち今井小学校の宿直室に泊めて貰ふの約束を為して、更に今井富蔵なる人夫を雇ひ、総計二万一百十六人にて横川谷に到り黄色なる蛇紋岩を採集し、午後七時今井小学校に帰り宿す。今井君御神酒を供せらる。而して夫子御自身は禁酒なり。然れども新しき徳利の来る毎に一杯丈はお相伴するといふ妙な禁酒もあつたものなり。若し徳利を小さくし盃を大くせば禁酒せざると殆んど同一なり。二万早く寝に就き、五無は目を細くして二十六年来の懐旧談を語り目を太くして今後五十八年間の大方針大抱負を吐く。

六月九日　水　雨　今日横川に御坂層の礫岩を採集するの予定なりしも雨降りなれば又十一日より梅雨の期節にも入れば、又十九日二十日の両日は信濃教育会の総集会なれば、又二個月来デカク飲みデカク働きデカク光線にて眼を焼きたるが為めにソコヒに罹りたる左眼の調子何となく可笑しく一人の人は二人に見え、二疋の馬は四疋に見ゆる等の事あれば帰長の念転た禁ずることは能はず。若し此儘にして十八日迄採集を継続せば今回の事業の二分の一は採集を終る筈なれども再び入諏することゝし一万は帰村せしめ、一万を伴ひ上諏訪下諏訪を経て神宮寺に至り、御坂層砂岩の有り場所を指示し、数年来の定宿たる桔梗屋に宿す。湖南村の金子徳郎なる信州の一の宮諏訪社の案内し呉れ説明頗る詳かなり。其昔健御名方君は徳川慶喜式にてヒドク恭順の意を表したるものなるに今や日本第一の大軍人として尊崇せらるゝを見る。妙な現象もあればあつたものなり。尚ほ本社附近には吉良上野介が倅某の墓あり。健御名君と好一対の弱虫なり。当時幕府の役人衆も中々人が悪ろしと見えたり。尚ほ当社附近には武田機山君が七十二の疑塚の一つがありと云ふ。七十二の疑塚をも築き置きながら棺桶を湖底に沈めたりなどの伝説あり。信玄は遂に地下に瞑せざる可か。今宵金子君とデカク吹きたる折短冊取り出で何か書けとの注文なり。五六首の戯歌を書きたる序で

友人米沢武平君の厳君三十郎翁をよめる歌を書いてやりたり。想起すれば一昨年頃なりしが県会議員選挙ありし折三十郎翁七十六の老軀を提げて馬を陣頭に立て昼夜の御奔走なり。折節五無斎筆墨行商として此の桔梗屋にて翁と泊り合せたることあり。政治といふ事には頓と無頓着なる五無斎可笑しさに堪へずして、

年寄りのくせに冷水　飲むならば
やがて病死の　種となるらん

と思ひ続けたれば翌早朝家人に托して之を翁に致したるに既に先刻お立ちとの事なり。遺憾此上もなし。然り而して翁は目出度政治上の死を遂げられたるなり。偖此中洲村は友人松本女子師範学校長矢沢米三郎、後町小学校長三村安治、東京府視学浜幸治郎、永明小学校長矢崎慶三郎氏等の原産地なるが学校は一村二校を有し、二号見出しにて中洲学校問題とは殆んど五百回以上も新聞には見えたるならん。何が何やら知らねども大概にして折合を附くるが善からん。由来諏訪郡の諸学校は第三期の新築を経たるもの甚だ少し。郡視学は欠員なれば詮方なく郡長長田君に向つて一寸御奮発を御注文申上ぐるものなり。

六月十日　木　晴　神宮寺を発し永明玉川二村に至る。小林万助に角閃石と飛白岩の在場所を教へんが為めなり。角閃石の産地に就ては苦心惨憺或は村長を訪ひ、或は収入役を訪ね、学校職員に心当りを尋ねて貰ふ等殆んど有らん限りの手段を尽したれども絶えて手懸りなし。是は奸商某が関係人に口止めを為し置きたるに起因するものゝ如し。筆誅を加ふること筆序なれば何の雑作は無けれども偖止めん。尚ほ角閃石の事は該村小学校教員諸氏に依頼して此地を引き上ぐ。午後一時頃発の汽車に乗り後れたれば、小林万助に別れを告げ、馬車にて上諏訪に至り、常盤館に宿し斬髪などを為し一さといふ足袋屋に頼み置きたる腹懸と紺平といふ紺屋にて調りて貰ひたる印半天の着初めを為す。フロックを着れば紳士に見え、腹懸をかくれば石屋にも見ゆるなり。常盤館の女将笑ふこと限りなし。尚印ばんてんに附したる石屋五無斎の五字は諏訪中学校長寺嶋酒落斎君の押竜にかゝる。茲に謹んで謝意を表するものなり。尚々一さ足袋店にては五無斎を新聞屋なりと見て取り、非常なる廉価にて調り呉れられたり。新聞屋の如く新聞屋の役得として黙つて見て居る訳にも行かず信濃公論半年分を進呈するものなり。今宵真松座にて大井憲太郎君等一行の政談演説を拝聴す。国民議会といふものを設立したいから賛成し呉れよとの注文なり。政府の悪口を叩き代議士（大偽士）等を罵り普通選挙を絶叫する等趣意は頗る賛成なれども演説はお下手なり。都べて明治十三四年頃小池平一郎、竜野周一郎等が喋りたるもの而かも言ひ廻はし方非常

にお下手なり。乞食の子も三年経てば三才になるとの譬の如く大井君も随分お年が召したる様子なり。お気の毒千万なり。今日橋本福松君来訪。一昨日帰諏したる由にて神保博士よりの伝言あり。曰く。一、信濃公論一号と四号が無くて困るから至急送り呉るゝこと。二、旅行記、数日分抜けて居りはせずや。若しあらば之を掲載すべきこと。三、奇妙なる鉱物は面白さうなれども、何んだか分らぬこと。四、今月末頃には諏訪湖研究の為め出張する筈なり。其時分には何処に居るか。等なり。五無斎風情の書きたるもの、悉皆大学に保存せらるゝこと光栄身に余る次第なり。然れども今手許になし。誰そあるか。御所持にて而かも御不用の方は、東京帝国大学地質学教室神保博士宛にて御送りを乞ふ。第二条に就ては留守居番の牛阿弥朝臣が罪なり。（だから留守居番は厭だと云ふの蛇。牛阿弥）第三条に就いては何とも致し方なし。第四条に就いては再び諏訪にあらん。尚ほ橋本氏は坪井博士の驚駭を報ず。曰く、五無斎といふ奴飛んだ奴なり。六百の石鏃を採集されて溜るものか。寧ろ買ひ上げやうか、夫とも警察署へソ子保護願を出さうかと。然れども五無斎は玆に坪井博士に御答へ申し上げん。五無斎が此のソ子の石鏃六百を採集する所以のものは、敢へて私利を営むに非ず。実は五無斎長野県地学標本を採集するに当つて、折節湖中生活の遺跡が発見せられたるなり。よつて紀念として今回の標本中に入れんとはしたるなり。ボール箱代四円二十銭硝子瓶代六円採集七八円都合十七八円の損耗を見つゝも尚ほ之を今回の標本中に入れんとする情実は、長野県の教育を思ふの情切なるものあればなり。去れば六百の石鏃は、一時御貸し申し上げても善し。其内の参考となる可きものは、無代にて進呈致す可し。五無斎奇人の聞えあれども凡そ三界に妻なき身にしあれば、奇物を愛して之を子孫に伝ふるの必要を認めざるなり。博士なるもの心を安んぜよ。

六月十一日　金　曇　今朝大井憲太郎氏を訪ふ。昨夜演説会場にて観察したる大井君と絶えて異なることなし。来客もありて雑談に時を移す。大井君鉱物標本号を見て、火山灰と褐鉄鉱と黄鉄銅鉱の所在を手帖に書き抜く。同じく山気はあると見えたり。然れども、

信州の山に金気は絶えてなし
人の腰なる〇（まる）は格別

座中の一人小川平吉は政府の犬なりと素破抜く。無論ソンナものなり。余り多分に運動費をも貰はずに彼を投票する人の多分にあるは善い面の皮といふものなり。午前八時上諏訪を発し下諏訪に立ち寄り、塩尻にて下車、神津君に面会して本年の春或る人（曰く言ひ難し）に対して申訳の無き事のありしを詫びて貰はんとしたるに不在なり。乃ち

次ぎの汽車にて松本に至り、河野、野本、湯本、三村三氏と飲み三村氏に宿す。

六月十二日　土　晴　今朝友人工藤文太氏の令夫人の病篤にあるを聞く。乃ちお見舞に出懸けたり。漸次快方に向ひつゝありと聞けば、先づ以て安心なり。一ト足の事にて主人文太君に拝謁するの光栄を有せず。遺憾此上もなし。今日保里写真店にて新装束の撮影を為す。（四八四頁写真参照）不日写真銅板として之を本紙に掲ぐることゝせん。美髯勧工場を見る。商の仕振りを見んとするなり。場主高野君、五無斎の帽子に何か書きつけたしといふ。窓外という馬鹿物が居なかりし為め、久しく清潔なりし麦藁帽子は、

義務の中に光栄あり。労作の中に名誉あり。

と題せられたり。褒められたるのか、貶されたるのか知らず。然れども褒められたる事として、謹んで敬意を表するものなり。午後二時松本市を発し、馬車にて梓川を渡り南安曇郡島々に至り、数年来の定宿たる清水屋に投宿す。隣室に松本測候所大久保技手、出川南安曇郡書記一行の焼岳見分より帰られたるに会し、焼岳噴裂の模様を聞く。

六月十三日　日　晴　小林善兵衛なるものに荷物を負はせ、徳吾峠を越え、上高地温泉に至る。行程六里。数年前此地に遊びたる折よりは村道は四方八方に通ず。上高地温泉株式会社は長野大林区署長閣下に対して、大いに敬意を表して善からん。是れ林道の開設は同温泉の繁昌を統発すべければなり。然れども松本、善光寺、及び飯山地方の諸君は敬意を表すべきの理由なし。梓川の川幅広きは県下有数なり。此上村道などをつくり、明科の製板所にて盛んに製材されては、稲といふ草を作る可き水田を押流すの虞あれば也。今日島々の村外れにて島々抄紙場の廃墟を見る。数年前島立村の人田中和一氏等の発意になり、二十五万円を要したるものなりとか。話は半分か三分の一位に聞きたるが善からん。抵当流れにて松本商業銀行に入りたるものが、同行の破産と共に今や六三銀行へ引き継ぎたりとか。六三銀行の前途は果して如何。夫は偖て置き抄紙場としては殆ど望みなし。規模の小なると原料の欠乏とは割勘の悪ろきを証す。然れども三千円位ならば発電所用として五無斎之を買ひ入れん。松本と大町にも電気会社のある有れば、或は損が行くかは知らざれども、男の意気地買ふと言ふたからには御引受申さん。六三銀行の飯島、阿部、馬場の諸君以つて如何となす。本日通過せし所の地質は、秩父古生層の砂岩、粘板岩、硅岩、角岩等の互層より成り時に極めて薄き石灰岩、輝緑凝灰岩より成り、山高く谷深く五間を隔つれば道を見失ひ、十間を隔つれば今後何れの方向に向つて行く可きやも知らず。牛阿弥朝臣をして此地に至らしめば鉛筆の嘗め通しなる可し。五無斎は時々路傍の

岩石に鉄鎚を加へたるのみなれば、僅々七時間にして此六里の路を通過したるなり、上高地附近に至り焼岳を一瞥す。思ふた程でなし。穂高岳は何時見ても雄大なり。温泉巡り幾度しても心地よし。之は五無斎の役得なり。今日道にて嘉門次に遇ふ。嘉門次は穂高明神が池の主なり。年内三分の二は此山中にありといふ。曰く猪狩、曰く岩魚釣。嘉門次は上高地附近の案内をさす可く殊に菫青石の産地名を問ふ可き必要人物なり。然り而して今や其下向を為すに会す。五無斎たるもの多少の感なくんばあらず。然れども斯様々々の石にして、凡そ此明神池より二里許り鎗か岳に向つて右の方沢といふ程の沢にあらざる程の小沢なりといふに、嘉門次は忽ちハタと両膝を打ち左なり〳〵熊倉沢なりといふ。是にて産地名さへ分ればと善兵衛に善く〳〵言ひ含めて貰ひ右と左とに袂を分つ。上高地温泉に達したるは彼是四時頃なりしならん。上高地温泉は花崗岩の破れ目より湧出し焼岳とは何等の関係あるものの如し。然れども兎角素人は、何か此間に関係なきものの如く言ひ触したるが悪癖あるものなり。之れ自分の談話に面白味有難味を附けんとするが為めならん。

偖浴場の屋根を見るに、厚さ三四分許り火山灰の堆積し居るを見る。之を番頭の徳公に質すに、六月一日の大爆発の際に降りたるものなりといふ。乃ち徳公に頼みて之を採集せしむ。之れ今回の標本中に入れんとはするなり。

六月十四日　月　雨　夜来頗る強風雨なり。午前九時頃よりは梓川満水の為め、浴場は汚水の吐き口を塞ぎたる為め、濁水侵入の害あり。蓋し六尺位は出水したらんか。採集には出懸けられず湯には入ることを得ず。語らふ可き人とては、番頭の徳公と、下女のお久と、牛馬預り所の上条百次郎翁と、岩魚捕りの立岩（たてや）九九市さに、昨日蒲田峠にて、人相の悪ろき奴に強いて荷物を負ひ遣らんと言はれたるが恐ろしかりし故に、此宿に泊り込みたりと云ふ除隊されたる許りの弱虫の兵隊さんと、外に一人の先生とのみなれば天気祝を挙行す。〇〇〇は十三本と註せらる。今捕つた許りなる岩魚は牧牛翁と九市さとの提供物なり。

たてや九市と、言ふたとて出るな
　出てば五百の　損が行く

立岩（たてや）は五無斎が故郷、横鳥村の隣村長窪古町の一耕地なるが、長久保女郎屋へ侵略したる折などの俗歌ならんか。サア行かうの立てやを地名に結びつけるなど中々振つたものなり。本年六十の老人なれば元治慶応頃盛んに歌ひたるものならん。牧牛翁は七十の老人なり。此両老人が満水を期として、朝は未明に夕は暮れかゝるを待ちて出漁することなるが、三四時間水中をあさり廻りて平気の平左衛門なり。徳公などは三十分許り岩魚を追ひ廻し来りてお久を追

ひ廻すのみ。牝の方年若にて色気充分ならざるぞ笑止なる。天気祝の効空しからず、夕方よりは晴れたり。就蓐迄の道行を知らず。

六月十五日　火　晴　昨夜の天気祝其効を奏し上天気なり。乃ち人夫三人を雇ひ焼岳に上る。所見前号大久保技師の調査の如し。蒲田峠の嶺にて、直径一寸五分許りなる火山礫六百を採集す。今回の標本中に加へんとはするなり。角閃富士岩？若くは輝閃富士岩ならんか。今日蒲田峠の半腹にて長さ五尺許りなる青大将君に会す。人夫三名にてワイ〳〵言ひつゝ勝太郎を演ず。人夫中非常なる弱虫あり。然れども欲心は強き方と見え、其五十銭乃至一円を値すべければ、山分にせよと罵るを聞きて勇気忽ち百倍し、弱虫先生主任となり勝太郎を演じ了りたり。是は焼岳登山前の事なり。下向の後、弱虫の勝太郎先生、頻りに熊笹を探し廻るものの如し。何を探すかと問ふに、一円の損を為したりといふ。熊笹の葉の上に置きたりといふは真赤な虚言にて、実は窃かにマッチの明箱の中に隠匿し了りたるなり。一円は愚か五十銭にも二十銭にも売れざらん。此山中の事なれば彼奴売却方にも困難するなる可し。欲深連の所業概ね以て斯の如し。

六月十六日　水　晴　今日熊倉沢に至り菫青石（渡良瀬沿岸のものに酷く似たり）を採集する筈なりしも、水量尚ほ多くして川を渉るに便ならざれば此地を引上ぐ。善兵衛と嘉門次と清水屋の主人、即ち上高地温泉宿の主人に頼み置きたるなり。今日徳吾峠の半腹にて午食を喫ひつゝ右足の草鞋破れ始めたるを発見す。如何はせんと左右を見廻すに、大林区署の小屋の中にて叩き藁を発見す。何も話の種、新聞の種と草鞋を調り始めたるに善兵衛笑ふこと限りなし。少ふして卑しかりし為め鄙事に多能なる五無斎は無難に之を製り遂げたるなり。只最後の結びの辺り何となく可笑しきやうなり。五無斎若し新聞が売れず、若し標本が売れすば、町端れの一小茅屋を借り受け、草鞋屋と化せんのみ。何アに五斗兵の為めに膝関節を煩はさん哉。午後五時島々に着。現に安曇村長にして白骨温泉の持主として有名なる斉藤静馬君に面会す。白骨の石灰華を採集する筈なりしも、道七八里を隔つるが為め、信濃教育会の祭日も近寄り居る事とて、同鉱物の採集は之を同君に托する事とせり。想起すれば去る三十五年中、同君の宅に宿し、裏二階の上等室にて太田伯一郎君やら、宮沢徳弥君やらを閉口ませやらんと、茶の湯の空講釈を為して、三人の下女先生が、各自稽古用の茶具を持参し来りて、サア一服お立て遊ばせと来られたるには、アバエコバエにて忽ち此方が閉口まされたる事ありたり。南安曇郡役所を距る十三四里なる一温泉宿にて、不覚を取りたること末代までの名折には非

れども、御先祖のアダムさんやイブさんに対して申訳なき次第なり。

六月十七日　木　晴後夕立　善兵衛同道島々の入口にて角岩の標本六百を採集す。元来本岩は御所平峠にて採集する筈なりしも、兎角硅岩と紛らはしきものなれば、此地にて採集したるなり。即ち角岩の好標本なり。標本三つ四つを製造したるにナマクラ鉄鎚の頭は既に円ろくなりたり。今日小負傷を為すもの凡そ九個所、中二個所は本年ソコヒに罹りたる左眼の角膜上に印痕ありと、後に赤十字病院の北原国手は言はれたり。

六月十八日　金　晴　島々を発し波多、新、嶋立の三村を経て松本に至り、汽車にて長野に至らんとす。切符売君甚だ不遜なり。頗る怒鳴りつけたるに、横合より横口が出でたり。是又不遜を極む。鉄道も一つの営業なれば、余りデカキ顔をせぬが善からん。刺を通ずるも如何かと思ひたれば、其儘にして汽車に乗り込む。西条にて汽車中のランプの如何にも暗きを発見す。他の列車悉く然らざるはなし。是はトンネル内にて試験したるなり。数年前苦学生に、何ぜ停車場へ石油売りに行かぬかと問ひたるに、一合も五勺も売れぬ故にと答ふ。何の為やら今に分らず。乃ち刺を駅長に通じ明るくして貰はんといふ。駅長君平身低頭到らざるなし。是は新聞記者の役得なり。午後四時長野に帰り、細谷警部を送るの宴を某所に開き、就寧迄の経過を知らず。

六月十九日　土　晴　信濃教育会へ出席。長野県地学標本箱を陳列す。ソネの演説を為す。某氏等と会飲す。

今宵某所を侵撃す。以上。

六月二十日　日　曇　今朝某氏と会飲す。午前九時親友松尾君同道にて信濃教育会へ出席す。松尾君頻りに文部視学官針塚長太郎君の演説に茶々を入れる。人間違にて五無斎は地方課長早川繁夫君の為めにシヨマミ出されたり。コンナ事に何時も気転の利くは早川君なり。コレ君が今日あるを致す所以ならんか。五無斎は独り松尾君のみを残し置くに忍びず、乃ち打ち連れ立ちて退場して復入らず。斯くの如くにして佐藤君の演説も、白沢博士のも将又樋ぐ勘のも之を拝聴するの光栄を有せざるなり。午後四時松尾君と袂を分ち、教育会の来賓やら、岡田事務官やらを案内して、信濃教育会の事務所に至り、既に到着せる分の標本数十駄を示し、議事院借り入れに関する話などを為し、犀北館に針塚視学官を訪ひ友人松尾君の粗忽を謝し、ソネ産石鏃一個を献納し、お移りとして大枚のお金を頂戴し、城山館に於ける招待員の慰労会へ出席し、新聞屋の某に反省を促したるのみにて何事も申上げず、某豪傑と、両松尾君等と同道にて山吉ホテルに帰る。此間珍聞奇談あれども之を

詳記する余白なし。

六月二十一日　月　雨　某豪傑ビールを御所望なり。而して両松尾君忽ち賛成の意を表す。乃ちビール会の催しあり。更に豪傑を招ぶ。牛阿弥朝臣駕を枉げられ、橘本君も亦尋いで至り、晨より夕に達す。ビール三十三本。日本酒三本合計三十六本、即ち三ダースなり。

六月二十二日　火　曇　長野滞在。病院に至る。

六月二十三日　水　長野滞在。県庁に至る。橘本君来訪。堀井博士の依頼を伝へらる。乃ちソネ産六百の標本を御貸し申上ぐ。

六月二十四日　木　梅雨　高等女学校に至る。菫青石の見本を嶋々に送らんが為めなり。

六月二十五日　金　梅雨　午前は昼寝。午後橘本君を訪ひ○○○を頂戴す。明日一番にて諏訪に赴き神保、坪井両博士と湖沼学の泰斗田中子爵と会し、ソネを見る筈なりしも、連日の梅雨に諏訪湖氾濫の恐れあれば電報にて日延べを為す。

六月二十六日　土　雨　今後五十八年間の予定は略決定し居りて、挙々其方向に向つて進行しつゝあれども、明日の日の事は頓と予定なきは、天竺浪人五無斎の常習なり。今朝五時に目醒む急に上京し度くなりたり。乃ち朝湯に行き飯も喰はず一番にて上京す。汽車中にて宮入源之助君や

ら平林露骨君やらに邂逅ひ標本の註文を取る。小諸軽井沢にては浅間山其後の形状と噴煙の模様とを視察せんと思ひたれども、遂に雲霧の遮ぎる所となり其意を果さず、午後二時半頃上野着。電車にて日本橋の古梅園に至る。硝子屋を尋ねんが為めなり。明治三十六年中、日本橋あたりにて硝子罎四五千本を求めたることあれども其家の名を忘れたるなり。品川あたりに大きな硝子屋ありとの事なれば、電車にて品川に至り交番にて聞いて見ればビール罎の製造所なりといふ。是は仕舞つたりと再び電車にて銀座通りに出で、京橋日本橋の表通りを探す。ドウしても前に買ひたる家ではなし。尋ねあぐみて、数年来の定宿本郷東竹町の旭館に泊る。今日電話にて明日何時何分何秒何ちらへ伺へばよろしきやと、神保博士へ問ひ合はせたるに、明日午前八時自宅へ出頭すべしとの事なり。今宵九段下の玉川堂に至る。商売の一時休業を詫びんが為めなり。今日碓氷峠を越ゆるに際し、列車内のランプ見るに只一つにて、加之も其火は最と小なり。松本停車場に見たる所と同じ。トンネル内ランプの暗きは近時の流行と見えたり。後藤蛮爵大臣若し鉄道庁時代と汽車の乗工合如何と問ひ給はゞ、五無斎何をか知り申さん。然れども駅員の横柄なると、ランプの暗きを覚ゆるのみと答へ申さん。

六月二十七日　日　神保博士を訪ふ。今回採集したる標本

の肉眼上並に顕微鏡上の検定をして貰はんが為めなり。快く承諾の意を洩らせたるは、今回の標本が日本一、否世界一なるを評するものなり。数ならぬ信濃公論の旅行記に就いて、質問を受くるもの約一時間半。既にして田中子爵の来訪ありて、ソネ談に移り所見を述ぶ。坪井博士とは説を異にすれども、神保博士、田中学士も水上生活には反対なり。既にして〇〇〇を頂戴す。オルゴール附のコップ、田舎にては見ることを得ず、是は横浜なるタイムス社よりの寄贈なりとか。古文書を拝覧す。明治十四五年頃、大学予備門の試験表やら、各国の旅行免状やらなり。殊に珍しきは博士が大学時代の退学命令書と、復校嘆願書となり。怪力記念として扉に附けありし太き螺旋釘の曲れるがあり。是は博士の友人某氏が大学生暴動の折、閾を排して攀喰を演じたる時の記念品なりといふ。今や桐の箱に納められ、白縮緬の上に座す。五無斎は四十二年来信州の小天地に屈み居れば斯る好記念品と古文書とを所持せず、頗る愧づ可しとなす。午後二時、博士を辞し、小石川なる藤森塾を訪問す。塾生諸氏の為めに一場の演説を為す。五無斎の自叙伝なり。既にして〇〇〇を頂戴す。今日五無斎の服装に驚きたるは博士の下女君と藤森新夫人となり。新夫人は中々美人なり。良チヤンを御亭主に持ちたる新夫人は禍なるかな、是れ其私塾は頗る立派なる発達を為すべけれども、黄金には縁薄ければなり。近々分列式もありとか祝すべし、祝すべし、然り而して又浦山し。

六月二十八日　月　雨　お茶の水の附属中学に伊藤長七君を訪ふ。数分間の談話にて要領を得たり。乃ち伊藤君の紹介を得て、泰東同文局なる河村理助君を訪ふ。本年十月以後文房具と化粧品の店を開始せん為めなり。河村君は教育者出身の商人なり。得る所少からず。二時頃発の汽車にて浦和に下車し師範学校長の小島政吉君を訪ふ。犬塚といふ字書き先生と久米由太郎君の遺孤某氏来訪中にて、話が交錯して面白くなし。即ち去つて高橋貞吉君に至る。無論〇〇〇を頂戴す。久し振りなれば色々な話がノベツ幕無しに両方の口より出づ。只々主人貞吉君痔の療治をしたりとて、〇〇〇を飲むことの出来ぬぞ遺憾なる。今日お茶の水の辻電話にて四五円入の財布を置き忘る。然れども一時間の後思ひ出し帰りて見れば其儘にて在りたり。財布を無くさんとしたるもの是にて四回なり。五無斎何ぞ悪運の強きや。

六月二十九日　火　雨　浦和を発し高崎にて午食を喰ひ、午後七時半帰長。今日も亦浅間は見えず、残念なり。

六月三十日　水　雨　何でもなし。只三度飯を喰ひたるのみ。

七月一日　木　郷路山に趣く。三斜硅石を石屋共に採集し

て貰はんが為めなり。後町の盲唖学校を見る経費が足りなくて困るとの事なり。左もありなん。是は市立にすべきものなり。市の補助は三百円にして英照皇太后御下賜金のうちより百五十円の補助は如何にも少額なり。市のものも馬鹿なり。市営にして置いて県費補助を多分に頂戴してドシ〳〵生徒を殖すやうにすべし。松代の感化院を悪ろく言ふにては無けれども、明治三十三年より出来て居たる盲唖学校なれば可なりうまくやつて貰はねばならぬ筈なり。敢へて市当局者と県当局者に命令す、曰く来年は市立にしてデカク経費を増せと。

七月二日　金　雨　午前は午睡を貪る。牛阿弥主筆御来臨あり平田内相歓迎会に行くかとの御下問なり。案内状はと問ふに無しとの事なり。既にして長野新聞社に至る。案内状はと問ふにありたりと答ふ官民歓迎会なり。信濃公論社のみを継子扱ひにしたる面の悪さに出席する積りになりたり。懐中を改むるに一円九十銭あり。乃ち十銭を慎平主筆に借り羽織をば某氏に借りて出席す。玄関番は平川乾の両県属なり。申込がないから行かぬと言ふ。達つてと言ひたるに会主に相談すべしと云ふ。乃ち控所に至る。田紳堂に充つ。既にして平川属チョットといふ。行きて見れば会主に相談したれども、話が纏まらぬといふ。乃ち宮沢県会議長を詰問す。平身低頭の交換を為す。更に岡田部長に相談したる模様なり。今日平川、乾の両県属に平身低頭するもの正に八万八千八百八十八回なり。而して両属の謝絶口実は百二十人と定めたれば駄目なりとの一点張りなり。然らば欠席ありたらば入会せしめよといふ。既にして成島ドクトルの御入来あり。申込みなしとて断はられたり。何時もならばズン〳〵入会が出来る筈なれども、五無斎一人を入会せしめぬやうに為度き為め、遂に成島君は五無斎の犠牲に供せられたるなり。既にして下伊那郡大島村北原紀一君の人り来るありて、下伊那郡長欠席なれば、其名代として出席したりといふ。乃ち会主に相談すと号して三十分を費し、外にも其例ありたれども帰らしめたればとの口実にて、是亦五無斎の犠牲に供せられたるぞ気の毒なる。斯くの如くにして欠席者は慥かに二名ある筈なり。席のある以上は五無斎出席の権利があるやうになりたるなり。平川君之を会主に相談すといふて退き復来らず。呼び出しを懸くるもの数回なれども来らざるなり。乃ち城山館のお神に一種のお茶を命じて飲む。稍再出勤の嫌あれども芳醇無比なり。刺身は切り屑なり、価はと問ふに五十銭なりといふ。如何にも安値なればとて一円を給す。背後に、

平田内相　遙迎会　五無斎花挿

を掲げ且つ嘆じ、且つ飲む。斯の如くにして五無斎は遂に会員の悉く帰りたるを

見届け、二階座敷に玄関番連か開き居たる慰労会席上に闖入して、一種のお茶を頂戴す。平川某風を喰べて逃げ、乾君やら佐久間義三郎君やらが在り。茲にても諸人の退席を待ちて、人車にて山吉ホテルに帰り又々飲む。番茶も幾度も飲めば酔ふものなるの真理を発見す。今宵内相に嘆願せんと欲したるは、大河津分水工事と信濃川治水問題となり。即ち別項の如し。是は更級、埴科、上下水内、高井及長野市の一市六郡のバン問題なり。知事栄転願は昨夜の御恩報じなり。敢へて平川、乾の両県属に教ふ。斯る際に会主や部長に相談をかくるは禁物なり。只々玄関番一存にて謝絶すべきものなり。

七月三日　土　曇　午前山吉ホテルにて乍恐やら、旅行記やらを物す。午後附属小学校に至り、佐藤主事やら、訓導さては教生諸子に向つて物見山牧場談を為し、師範生の品種改良の必要を説く。午後城山辺をブラツキ、岩下神太郎君の養鶏所を視察し、堂裏のあたりを彷徨ひ、上水内郡東部乙種農学校長西川豊次郎君に邂逅ひ、同氏の養鶏を見る。サスガに農学校長だけありて非難すべき点少し。茲にて福岡県鞍手郡立農学校よりの標本注文を取る。午後六時頃、丸山弁護士の前を過ぎたれば、チヨット立ち寄りたるに、夜食を共にし商業学校の寄宿舎に至り、舎友会にて演説せよとの注文なり。乃ち〇〇〇をば簡単に切り上げ、同寄宿舎に至り演説す。商業論なり。是は玉川堂と古梅園の品を仕入れて、一二ヶ年間筆墨行商に従事して得たる経験談なれども、一事は万事との譬の如く、凡そ小売商人丈けは五無斎既に其秘訣を覚え込みたるなり。此秘訣によりて五無斎は本年十一月三日頃より長野市に於て文房具化粧品の小売店を出し、満三年の後には大仕掛なるデパートメントストアと為し長野商人を平降ますと同時に一方各華客諸君の便宜を図らん。五無斎四十二年間の非を悟り、大々的拝金主義者となりたるなり。

七月四日　日　雨　長野市を発し再び採集の途に上る。諏訪に出で神保、田中両先生一行に加わらんとしたれども、安曇行きに変更したるなり。午前七時俥にて長野を発し、安茂里村に校長長峰彦吉郎氏を訪ひたれども不在なり。乃ち単身小市に至り、陶土と真珠岩の標本を採集す。前者は裾花凝灰岩の崩壊したるもの、又後者は同岩を貫きて噴出したる火山玻璃の一種なり。午後一時小市を発し、土木吏員の諸氏と道連れとなり、栄村中条に至り加賀屋に投宿す。相客は郡吏員の某君なり。加賀屋は数年来の定宿なれども田島君楽隠居を為し其主を異にす。

七月五日　月　雨　児島備後三郎君の外套を着し、人足二人を連れ雨中を冒して城下に至り、化石の附着し居る第三紀礫岩を採集す。元来第三紀礫岩は北安の青具にて採集

する筈なりしも水成岩の標本には成る可く証拠物件として化石を必要とすればなり。本日買ひ入れたる石油の空箱は新旧取り交ぜて十二銭宛なり。稍高価なる心地す。由来石油の空箱は停車場までの巨離の自乗に逆比例するを以つて原則とす。是迄二百個許りを買入れたる経験によれば、六銭五厘以上十二銭以下なり。尤も長野市のみは杏の輸出期に相当するを以つて、一個十四銭づつなり。本年中には石油の空箱六七百を購入する訳、従つて八九十円を支出せねばならぬ筈なり。是にて五無斎今回の事業の稍デカキを知り給へ。

七月六日　火　雨　中条を発し、高府、小根山を経て千見に至るに十二時過ぎなれども飲食店なし。乃ち学校前の一小雑貨店に至り素麺を食ふ。時正に養蚕期なれば、鍋の中に落し味噌を為し、葱の葉の枯れかゝりたるを切り込み、煮干の魚を入れ、更に素麺を加へ、五無斎自ら火を焚き且つ調へ且つ食ふ。味絶佳なり。只塩の頗る鹹かりしには聊か閉口せり。午後一時千見を発し、青具学校に立ち寄り、岩石鉱物の鑑定などをしてやり、北安曇郡神城村小学校に至り校長の小野彪次郎君と打連れ立ちて飯田なる田中屋に投宿す。是は始めての定宿なり。例によつて〇〇〇を頂戴す。神城医院長大室栄太郎君も来られデカク飲む。大室君は上水柳原の人数年前此地に移り住し、今や同好会会長の栄職にあり。営業も頗る繁昌すると見え、毎日々々アルコホル漬となり居るやうなり。今日大黒山の黄銅鉱を見る。従来長野県に産する黄銅鉱中本鉱の右に出るものなし。実地踏査したるには非れども、脈も相応に太き由なれば第二の足尾たるやも知れず。明治三十七八年の日露戦争に際しては、弾丸用銅材の欠乏も不利益なる講和を余儀なくせられたるの一因なりと聞く。軍国多事の今日同鉱山の大発展を希望するや切なり。今日神城村にて桑の実を喰ふ。一つ宛摘み取るも面倒なれば、蝙蝠傘を倒懸し、糞力を出して枝を揺り動かすに、成績頗る佳良なり。彼是五六合を喰ひたらん。指端や唇頭の暗紫色となるは稍不作法なれども、天物を暴殄するに忍びざるなり。

七月七日　水　雨　児島備後三郎君の外套を着し人足二人同道にて大黒岳より流出する平川の川原に至り石英斑岩の標本を採集す。由来日本アルプスの称ある安筑両郡と西飛騨越中の境上にある岩石は、随分八か間敷ものもある由なるが、本岩の如きも慥かに其一なり。数年前の地質学雑誌に本岩の記事あり、就いて見られたし。

今日北城学校と大黒岳鉱山事務所に至る。事務所に至りたるは同鉱石五六十貫を貰はんが為めなり。然り而して所長閣下御留守なり。乃ち小野校長と田中主人に托して貰つて貰ふ約束を為す。今宵児島式外套を田中屋の椽側の上に

置きたるに、何者とも知れず黙つて拝借し行きたり。細くなき奴と謂ふ可し。駐在所へ届けては置かねども、序の折返却する方善からん。

七月八日　木　雨　児島式外套と人足両人同道前日の如し。又々平川に出で黒雲母、花崗岩を採集す。午前にて採集を了り馬車にて此地を引き揚ぐ。道、青木、木崎、中網の三湖畔を過ぐ。三湖共にほゞ南北に走れる一直線上にあり。地質学上第三世紀時代にあつては、松本平も一の湖水なりしならん。神城、北城の二村も湖底にありしならん。然り而して山梨県の大部分も亦湖中にありしならん。即ち山梨湖、諏訪湖、木崎湖、中網湖、青木湖、北神湖など名付く可きものならん。コハ支那山系と略ぼ其方向を同うせる一大断層線上に排列せらるるものと見て可からん。此頃湖沼学の大家田中子爵と神保博士の宅に会したる折、華厳の瀑布に投身するよりも、中禅寺の湖水に投身する方遙に勝れる由を聞く。之れ六七十米以上の湖底に投身せしものは、死後体内に瓦斯の発生することあるも、圧力の関係にて再び浮び上ることの虞なきが為めなりと。然り而して青木湖の最深処は七十米内外もある由なれば、厭世投身者の為めに好墳墓の地なる可し。近日のうち五無斎は一つ株式会社として、青木湖厭世自殺者送達船を浮ぶるの計画中なれば、続々乗船せられて可ならん。今日馬車にて乗り合ひとなりたるは、水内村の蚕種商なり。木崎湖畔にて共に〇〇〇を頂戴す。下物は赤魚の魚田なり。今宵大町に至り始めての定宿入山に泊る。城下郡視学来訪、デカク〇〇〇を頂戴す。蚕種屋先生頗る迷惑したらん。

七月九日　金　雨　今日仏崎に至り硅灰石を採集し、高瀬川上流に至り野宿をする筈なりしも、黄金の荷物を南安豊科に廻はして貰ひ置きたれば、又南安教育会のあるあれば、縁日商人の真似を為し俥にて豊科に至り、始めての定宿安蚕館に泊り、黒河内視学と新聞屋某と〇〇〇を頂戴す。午後五時半より十二時に至る。之は翌朝即ち今朝下女君より聞きたるなり（七月十日午前八時）

七月十日　土　曇　南安教育会へ出席 Nitrigin 式教授法に関する演説を為し、標本の注文取りを為す。成績佳良なり。会員諸君の滑稽演説もあり、真面目なるもあり、又慷慨悲憤なるもあり。午後五時閉会。黒川郡長、黒河内視学、太田伯一郎、工藤文太、小穴憲吾等の諸氏、五無斎を仙郷に案内せらる。無論〇〇〇を頂戴したるなり。今宵安蚕館に宿す。無論〇〇〇を頂戴し、隣室の客に迷惑を与へたること例によつて例の如し。

七月十一日　日　曇　今朝工藤氏とパイ一を傾く。パイ一はパイ三となりたり。然れども午前十時を報ずるに驚き蒼皇朝食を認め、工藤君は教育会に、五無斎は大町に向

ふ。若し教育会に出席したらば信毎の大原文無士、長野師範の柴垣君等の悪るデカキ音の演説やら、唐沢弁護士の流暢なる講義が聞ける筈なりしも、商人たる五無斎には何等の益なからんと信じたれば、偖止めにしたるなり。十時半俥にてチヨツト池田学校に立ち寄り、簡短に〇〇〇を頂戴し、騨屋に催されて大町に至り、常盤村なる仏崎の石灰山に至り、硅灰石の採集をば、同石灰山なる降旗酒造衛氏に依頼し、大町に帰り入山旅館に宿す。数日間〇〇〇を頂戴し過ぎたる為めに、胃の腑は何となく不穏の兆あり。高瀬川の松原にて吐す。瀉の無かりしを見れば、腸には何等の異状も無かりしならん。今宵〇〇〇の代用品としてピツトル散と鶏卵とを用ふ。八坂神社御移転、王子権現君と同居寄留せらるゝ事と定まり、愈よ明日御出発の日取りなればとて、御送別の御祭礼ありて、何としても寝られず以つて晨に及ぶ。

七月十二日　月　蚤後雨　大町小学校に至る。子供の為めに演説せよとの事なり。二十年五万四千円といふ演題にて演説す。自己の失敗談より神津邦太郎氏が物見山牧場談を為したるなり。午前十時郡役所に至り郡長大浦頼君に面会して今回の地学標本を北安曇郡内に売れるやう頼みたるに殊の外御立腹なり。郡長君頻りに五無斎が服装の非を鳴らして止ます。衛も人に物を頼むといふには其服装は如何にも不穏なる由御説法の百曼陀羅を連発せられたり。然れども郡長君の当日召させられたる脊広服は正さに西洋にては労働服にして礼服には非るなり。五無斎が労働服と大差なきものならず全く同一なり。何か一種の関係ある人よりの御説法ならばイザ知らず初対面に此御説法では聊か恐縮せざるを得ず。偖郡長君が何故に斯く御立腹ありたるかといふに支那にては君父師の外は呼ぶに其の本名を以つてするを得ず必ず字を以ふとの規定あり。譬へば本名頼ならば子幸とか伯福とか仲願とか季望とか夫々字をつけ置きて同輩間にて之を呼び合ふことなり。地学標本の売り込みを頼みたるは適々君が本名頼と衝突したるにて無礼此上も無し。然れども五無斎未だ嘗つて君の本名さへも知らざりしなり。字に至つては況んやに於てをやなり。斯くの如くにして五無斎は標本売込みなど郡長に頼みたるの非を覚りたれど標本を北安曇郡は一切売り込まぬの決心を為し然らばお頼申さぬ御勝手になさへと言ひ放ちて去り二つ三つ用事を足して葛の湯に向ふ。葛の湯に向ふの前郡長の不心得は五無斎に向つて謝すべく五無斎の無礼は郡長に向つて謝すべく居中調停の労を執る可きよし一課長君と郡視学君とに言ひ残し置きて去る。

午後三時平村のうち大出に至り遠山作十郎氏を訪ひ緑石の採集方を依頼し大枚のお金を支払ひ午後六時葛の湯に至

る葛の湯は曽遊の地なり。

くづの名は　いと聞き苦るし　今日よりは

薬の御湯とも　五無は称へん

コハ明治三十五年中矢が崎奇峯兄と高瀬川上流の湯股に遊び東沢より有明山の南に出で中房温泉に浴したる折本歌いたるものなり。日本政府の財政は如何にも困難なりと見え此高瀬川の沿岸にも林道が出来たり。棟梁の材となる可きものは殆んど一本も無ければ薪炭林としての林道ならん葛の湯への浴客道としては目出度きこと此上も無けれども高瀬川の氾濫と旱魃とを如何ん抑も亦百姓町人共がバン問題を如何ん。大出より葛の湯まで山高く谿深し。山高く谿深きは山の急傾斜を意味するなり急傾斜の地二間巾の林道を通ず、岩石の大なるもの小なるもの五無の頭上に落ちんかと疑はれ五無の方亦谿底に顚ひ落ちんかと危まる。若し雪駄将軍発企の懐疑会を此地に開かしめば此石は落ちるであらうか抑も又落ちぬであらうか若し落ちたりとせば吾人は死ぬであらうか死なぬであらか、抑も死とは何ぞや生は寄なり死は帰なりと云ふと雖も帰とは何れに帰るのか石が落ちて死ぬと谿に墜ちて死ぬと帰路の遠近果して如何など同じやうなることを繰返して散会となり又次回とならん。〇〇〇を頂戴し過ぎて大胃病に罹り身体の疲労を覚えたるの五無斎なれども高瀬川の浪音高き為め又半風子兄弟のため終宵眠ること能はず。午前三時に及ぶ。

七月十三日　火　強雨　朝来強雨、高瀬川満水、増水正さに三四尺温泉場にての強雨悪ろく無し。講談本二三冊を読む。温泉は川の両側所々花崗岩の間より出づ蓋し此高瀬川は断層によつて出来たるものらしく、故に温泉も亦断層に関係あるものならん。辛党甘当に変じて菓子を喰ふ。

七月十四日　水　晴　葛の湯を発し大町入山旅館に至る。途上蝙蝠傘を忘れて来たりを発見し馬子に托して持つて来て貰ひたり此馬子修身書にでも書きつけたき男なり。十銭の謝儀をといふに取らず。他より貰ひたる酒あれば一パイといふに一パイも遣らぬといふ。大形の煙管に火を点けて逃げ去る。仮令大浦君は何んといふとも印袢纏腹懸の勿能は顕著なるものなり。午後五時迄は至つて閑なり。世上忙殺の熟字あれば斯かる際には閑殺の文字を用ふ可きなり。此所に至りて何事も書く可きことなし。乃ち「北安教育の前途を想ふ」なる一文を草せんとしたるに大町小学校の川添君より〇〇〇一樽を送られたれば指し向ひにて飲み就尊迄の道行を知らず。一課長君と郡視学君とを介して反省を促し置きたる大浦郡長よりの挨拶なし。

七月十五日　木　晴　天候漸く恢復したるもの、如し。白骨温泉に行かんかとも思ひたれども城下郡視学に促され

て驛にて大町を発し池田を経て明科に至る。相乗客として上水栄村の人津和村の人北安の人某あり。何れも其お名前を知らず。停車場にて僅少の時間ありたるに扇面と短冊に何か書けと言はる。硯と筆はありながら墨をば豊科の安曇館に遺れ置きたれば硯に唾し筆を噛みて怪しげなるものを書き付く。午前十一時二十分発の汽車にて明科を発し岡谷に降り製糸大王片倉兼太郎翁を驚かし遣らんと思ひたれども偖止めにしたり。是は時間の都合悪しかりし為めなり。午後二時青柳停車場にをり御射山神戸に小林万助氏を問ひ、明日永明村小学校にて落合ふべき約束して六時発の汽車にて茅野駅に降り、永明学校に至り、更に竹村訓導を訪ひ、例の角閃石問題の消息を尋ねたるに不得要領なりといふ。即ち更に今一応談判して貰ふ可きを約し永明館に宿す。今宵何とやらいふ虫のランプの附近に群集するもの方に八万八千八百八十八疋なり。尤も多く杯の中に溺死したるものゝ数を数へたるに十三疋ありたり。諏訪の好避暑地とならぬは是等の虫も一原因を為すことゝ知る可し。想起す。南安葛の湯の便所には糞蠅の数正に三百疋許り居りたるを同温泉場には小便所二つ大便所二つあり。一方の大便所に百疋許りの糞蠅が居たれば更に他に入らんとするに是も亦前同様なり百疋許りの糞蠅一時に翔ひ立ちて手足や顔に容赦なく冷たき六本の脚にて這ひ廻るぞ気持悪ろ気なる各五十疋宛も居る筈なれば以上合計三百疋なり。翌朝即ち今朝此の記事を書きつゝ朝飯を喰たりしに焼き串の魚の腹中蛆虫の数正さに八百八十八疋あり五無斎何んぞ虫運の善き。

七月十六日　金　晴　茅野停車場前の永明館に二万を待ち合す。一番の下りにて来る筈なりしも遂に来らず。永明小学校に至り二万を待ち合せ打ち連れ立ちて湖東村を経て北山村に至り新湯に着したるは午後四時頃なりしならん然れども採集に行く事もならねば休養を為し、明早朝登山することゝなせり。今宵〇〇〇を頂戴す。偖此新湯といふは立科横岳二山の間に湧出する微温泉なり。人間の体温と伯仲の間にあり然れども是は出口の事なり。湯壺にてば慥かに一二度を減することならん湧出の量多きが故に極めて清潔なり。其温度低きが故に血液の循環を鈍くす。故に沐浴中にあるの人を見れば青白色を呈し殆んと死人の如し。然れども其一ト度浴し止むに及んでや躰温の頓に上昇するを見る乃ち知る本泉の効能は冷水浴に等しきを。

七月十七日　土　晴　二万一百打ち揃つて立科横岳両火山の間にある一小奇生火山擂鉢山に至り緑色にして泡沫多く而かも其泡沫が鎔岩流出の際引き延ばされたるが如き外観を呈する黒曜岩の中間物なるを示すものなり。尚山崎理学士の八が岳火山地質調査報文によればエウタキチツト

構造を有する火山玻璃もあれども今回は之を採集せず今朝途上西行式のお便所に行く糞蠅の群飛すること例によつて例の如きが上にブユといふ虫の襲撃を受く。両股両臀の敵は難なく之を撃退せしめたりと雖も肛門附近のものには危険物の附着しあれば彼等の侵撃に任せ置きたるに其後落し紙に附着せし血痕によつて之を算へたるに正さに十有二疋なり。以つて其の如何に襲撃の猛烈なりしかを察するに難からざるなり。午後五時新湯に帰へり一切の荷造りを了り明治温泉に至る。温泉と称すると雖も微温程にてもなく全くの冷泉なり。含有物の主なるものは鉄と炭酸瓦斯なれば暑中飲料などを製造するに適当なるものならん明治三十五年中、

明らけく　治る御ゆぞ　有りがたき

旅に疲れし　ゴムサイの身は

など書き与へたることもありたるが当時の主人は廃業して現今は宮坂久蔵といふ人が営業しつゝあるなり。乃ち案内者一人を雇ひ呉るゝやう主人に頼み置きて寝に就く。

七月十八日　日　晴　午前六時起床。茶臼山に橄欖輝石富士岩を採りに行かんとして案内者はといふに頼み置かずといふソハ以つての外なりと詰ふに是なる老人をとの事なり。見れば七十有五の釜の火夫津金次郎兵衛といふものなり。元来橄欖富士岩は塩基性の岩石にて比重の稍重きが上に道路稍険悪加之道程稍遠し。七十余の老人を相手に六百の標本を脊負ひ来らんは二万一百の能く弁する所に非らず乃ち茶臼山行は明日の日程となし更に明日は必づ一人の壮者を雇ひ入れて貰ふの約束を為し置きて冷山に至る蓋し同山の泡沫多き黒曜岩を採集せんが為めなり。明治温泉より一里には充たざるなり。此次郎兵衛老人は八ツ手のものにて渋温泉のみにも八年間居たる由なれども山の案内など絶江て知らず。然ども幸にして五無斎は去る三十五年中一ト度び登山して採集したることもありたれば一時間の後其産物を発見して何等の故障もなく午後五時過ぎ帰宿。

七月十九日　月　晴　今日は愈々茶臼登山なり。案内者はといふに昨日頼み置きたれども未だ来らずといふ乃ち次郎兵衛を案内人として今一人も案内者堀内弥金次には急ぎ来りて追ひつく可きを伝言し置きて先づ発す。一里半許りを進みたる折弥金次至る。是にて一行五人となりたるなり。斯く多数の人夫を同道するの理由果して如何。午後の二時頃には悉皆採集を了り荷作りを為し諏訪郡の神宮寺か上伊那の御堂垣外迄も行きて泊り翌日は紅柱石を採集せんが為めなり是れ同鉱物の産地は御堂垣外の駅を距る四五町の地なればなり。宿屋の寝坊と弥金次の後れたる為め出発の時刻も後れたるさへあるに此時既に道を失ひ居たるなり。弥金次、次郎兵衛の両人は尚ほ東に進む可きを主張し五無

斎は一直線に茶臼山に向つて進む可きを抗弁し遂に五無斎の勝利に帰し北方茶臼山に向つて進む。黒班立ちにて通路なし。只々ワイ〳〵連の通りたりと覚しき足跡を認むるのみ。ワイ〳〵とは山林盗伐の隠語なり頗る困難を極む。七八町を進みたる比ひ一平原に出で茶臼山を望見す。是即大石峠にて南佐久郡畑八村に通ずるものなるが茶臼山への本街道なり。さきに進みたるは南佐久郡の最南端北牧村へ通するものなり。此間約一時間を費す。乃ち更に黒班立ちの中を進みたるにワイ〳〵の頗る盛況なるに驚く。是は御料局長の渡辺千秋子や友人春宮祐一郎君などに話してやりたきものなり。頂上迄彼是八九町なる可きに一時間程を要したるぞ笑止なる。頂上に至りたるは正さに是れ午後〇時三十分なり。乃ち午食を喫し六百の標本を採集し終りたるは彼是れ五時半頃なりしならん。帰路は御料局にて造りたる切り明けに取る。無論平坦砥の如しといふに非れども三十分にして山麓に達す。弥金次、次郎兵衛の両人木の切り杭に腰打ち下ろし煙草を吸ひ握り飯を噛る。二万一百は休まずに進まんといふに案内を知ればお先へといふ。然らばとて急ぎ休息もせず明治温泉に帰り来たるは彼是七時半頃なりしならん。足元も殆んど見えぬやうになりたるなり。然り而して両案内人は帰り来らさるなり。宿元よりは捜索隊を出して貰ひたるなり。午後十時半頃迄は起きて居たるに両人共帰り来らざるなり。是では案内人には非るなり。正さしく之れ不案内人といふものなり。案内人の迷子之を天地開闢以来の出来事と余り待ち厭みたれば十時半寝に就く。

七月二十日　火　晴　午前五時起床、両人はといふに弥金次は十一時半頃帰へり来りたれども次郎兵衛は帰へり来たらずといふ。乃ち弥金次を叩き起したるにネボケ顔にて起き出で来り狐に欺かされて佐久に下ること一里半なる頃ほひ漸く正気づき具さに艱難辛苦を嘗め尽して昨夜帰り来りたれども更に次郎兵衛の行衛を知らず脊負ひ来りし一百八十の標本は佐久に置きて来りしといふ、弥金次の分既に斯くの如し。次郎兵衛の脊負ひ居たる一百も素より当にならねば二万に命じ更に再度茶臼山へ登らしめ未々勘定書を徴して自分は永明上諏訪の二町村を経て二つ三つ用事を弁じ車にて神宮寺に至り杖突峠を越江御堂垣外に着し伊勢屋に投宿し明日採集の準備を為す。

記

一金三円十五銭也　宿泊料九泊分
一金九十銭也　昼飯九飯分　一金二銭也　紙代
一金十二銭也　あやめ二ッ
一金三十銭也　わらじ一足代
一金一銭也　まつち二つ代

一金五銭也　胡瓜漬物代　一金二十五銭也　菓子代
一金六銭也　焼串一つ代　一金十六銭也　玉子四つ代
一金五十四銭也　石油箱六個代
一金二十五銭也　同駄賃
一金八十銭　堀内弥金次日当
一金一円也　津金次郎兵衛日当二人
合計金七円三十五銭也

茶代は此外なり。二万の報酬も亦此外なり。〇〇〇をば頂戴せざれども相応にはかゝるものなり。不案内料一円八十銭は如何にも高価なり。ドウシテも高きものなり。不案内の。—料金一円八ジュ銭とは—本日右の顚末をば湖東村の巡査駐在所に届け出で置きたり。其後管轄違ひなるを発見したれども此方の心行丈ケは届きたる積りなり。角閃石は到底見込み立たざれば雨宮九平より購入する事とせり。俳人雪人を訪ふ。不在なり。半月以上も帰り来らずといふ。呑気男といふ可し。

七月二十一日　水　晴　午前九時二万到り次郎兵衛昨二十日午後三時迄は帰り来らずといふ。乃ち一書を明治温泉に発す。一円八十銭の不案内料は癪に障れども亦七十五の老人と聞けば気の毒にも感ずるなり。午前十時藤沢小学校高等科生徒八名を案内者として滝の沢に至り紅桂石を採集す。本鉱物は山崎中村の両理学士を始めとして矢沢松本師範学校長やら数ならぬ五無斎までが数回行きたるものなれども其産地を詳にせざりしに今回始めて其一小瀑布の下約三十間瀑布に向うて右の山腹なるを突き止めたり。殊に直径六七分長さ四五寸なるを得たれば之を東京帝国大学の神保教授と東京帝国博物館の藤森君に致す但し運賃先払なり。

七月二十二日　木　晴　二万の外に清水七之助なるものを雇い東箕輪村長岡新田の石灰山に至り炭質石灰岩を採集す。藤沢学校長柿の木駒司君も同道せられたり。五人にて採集する程でもなければ、柿の木君と五無斎とは長岡新田に至り菫青石の産地を確かめんとするに、石灰山より流れ出る小川と長岡の本流と会流する所、花崗岩と粘板岩の触接部に於て出来たるものなりしなり。標本として好箇のものなれども又浅間のものよりも将又上高井地のものよりも少しく外観を異にするより、今回の標本中に加へんかとは思ひたれども、産出の量多からざれば取止めにしつ。偖此辺の土地は明治以後の新開墾にかゝり、桑園など開け居れども蚕をば養はぬ由なり。某一軒屋にて昼飯を喰ふ。妻君は哺乳動物人類科中の別品類に属し、昨年中よりの相識なり。隣保打ち寄り葛の皮剝最中なり。此の葛の皮は、之を遠州地方に輸出するに一貫目五円なりといふ。本年の繭相場よりは稍高価なり。用途はと問ふに、絹糸を経に本植

物の皮を綽に、以て一種の葛布をつくり、軸物などの表装に用ふといふ。色々の仕事もあれば有つたものなり。夫より進むこと半里、此開墾場の最終点に至るに藁小屋の主婦お茶を飲めといふ。乃ち立ち寄りてプク一を喫し、番茶を喫み茶つ葉滓を喫ふ。味ひ頗る甚だ佳なり。厩はありながら壁なく、便所はありながら扉なし。夫と両人の中に、当才の子息あるのみなれば、扉の必要も無からん。山中生活の呑気さ加減は到底都人士の想像に苦しむところならん。午後七時御堂垣外に帰る。道すがら保科弾正が蛇山の城を瞰る。戦国時代野武士共の城跡、只々ケチなものと評するの外なし。ケチは此地方の方言下らぬものとの意なり。

七月二十三日　金　晴　但し夕立あり二万一百七人にて三義村芝平の石炭山に至る。太古太統片岩系の石灰岩を採集せんが為めなり。外観ケチな石灰岩なれども、其質最も善し、恐らくは信州第一ならん。肥料としても亦工業用としてもなり。明治四十二年七月二十三日午後一時十一分十一秒五無斎保科百助謹んで之を証明す。午後四時御堂垣外に帰り、荷造りを為し、之を伊勢屋に托し二万と打ち連れ立ち長藤村を経て高遠町に到るの途中雷雨にあふ。然れども格別の事なし。藤沢村を発するに臨み、村長藤沢某、校長柿木某、郡長宮沢某、郡視学有賀某に命令す。曰はく藤沢学校問題の解決を付く可しと。又前郡長平林斧吉、前郡視学伴野文太郎を譴責す。曰はく日頃良郡長良視学の聞えはありながら、藤沢学校問題の解決を為さざりしは職務怠慢の致す所なりと。今日肛門の周囲何となく不穏の兆あり。恐々ながら銭湯に行きたる折、右の手にて探り見たるに、温度は摂氏の四十度五分を示し、高距二センチメートルを増す。立科山麓プユ軍十二騎の襲撃を受けたるの致す所なり。乃ち刺を高遠小学校長中村国穂君に通じて面会を求め、又一書を富県小学長清水滴次郎氏に致し、若し切開の場合ともならんには、二万へ夫々指図をして貰ひ度き由を依頼す。長野高等女学校教諭八木貞助、松本女子師範学校長矢沢米三郎の両氏より来翰、前者は黒川谷採集の案内せよ、後者は片麻岩片岩類及化石を含める岩石各四十宛を採集し鉄鎚五挺を註文し呉れとの命令書なり。乃ち、

御下命の趣謹ンデ御請ケ仕候也

明治四十二年七月二十三日　石屋五無斎花押

松本女子師範学校長　矢沢米三郎　殿

長野高等女学校教諭　八木　貞助　殿

との請書をば差出したり。

七月二十四日　土　晴　二万を率ひて弁天岩に至り輝緑岩と黒雲母剝岩とを採集すべきやう命令し置きて自分は東高遠なる豊島病院に至り院長の診察を受く。肛門周囲の蜂窠組織炎なりといふ。中学校卒業生位にては読めぬやう

なる名称なり。偖々寥らき病気に罹つたものと云ふ可し。嗚呼悲しい哉。切開せずに済む可きかと問ふに否との事なり。然れども塗沫剤にて潰かして見んとの事なれば帰宿して素人考にて凍氷など買ひ求め冷罨法を施して見たれども其効ある可しとも見えず。乃ち捨て置きて切開期の到るを待つ。今日鍛冶工銀杏屋と高遠分署とに至る。前者は松本女子師範の鉄鎚を註文せんが為め、又後者は迷ひ子次郎兵衛の安否を尋ねんが為なり。今に何等の通知なしとの事なれば多分生存し居るならんと稍安堵の思を為す。今宵中村校長の来訪あり。乃ち二万を案内し貰ふ可きを約す。高遠にて疾病に罹りたるは五無斎の悪運の強きなり。是れ中村校長のある有りて五無斎の名代を勤められ、豊島国手のある有りて治療に事を欠かねばなり。然れども十日余の手後れとなるは遂に免るべからざらんか。

七月二十五日　日　晴　二万は弁天岩に至り黒雲片岩の標本を採集し、五無斎は数年来の定宿諸田に籠りて小説や種々雑多なる書物を読み且つ眠る。昨今両日山盛四杯づつの飯は喰ひながら便所行きをせず。是は二日間労働を休みたる為め胃の機能を活潑ならしめ糞になる分迄も悉く消化し尽したるなり。即ち五無斎は糞にて造り鼻先や風上に置けぬものなりなど作文の資料とはなりたるなり。

七月二十六日　月　晴　二万は中村校長の案内にて山室川畔に至り石墨片岩の採集に赴き五無斎は豊島病院に至り腫物の切開をして貰ひたり。五無斎常に好んで壮言大言すと雖もイザ切開など宣告されたる折には十八貫三百目の躰軀全身粟を生ず。近頃以つて、笑止の至りなれども偖致し方なし。長野高等女学校八木教諭御来高あり。乃ち中村校長と鼎坐して。

初日　高遠町を発し角閃花崗質片麻岩。鹿塩片麻岩輝緑岩黒雲母剝岩石墨剝岩眼球片麻岩等を採集しつ三峰川を遡り更に黒川沿岸に沿ふて絹雲母剝岩緑泥剝岩十枚岩輝岩蛇紋岩輝緑凝灰岩を採集しつゝ美和村の戸台に至り中生太統白堊系の岩石化石等を採集し戸台泊り。

二日目　戸台を発し黒川の本流を遡り赤河原に至り此間石灰硅岩砂岩粘板岩等を採集し同日帰高の事。

三日目　高遠町を発し河南村を経富県村に至り清水同校長の案内にて高津屋に登り砂質片麻岩晶質石灰岩硅灰石及角閃片岩等を採集し即日帰高の事。四日目以後は八木教諭御随意御行動の事。

等の三条を協議し〇〇〇にうつる。二万も両先生方も不調法にいらせられ又五無斎は病中の事とて気勢甚だ揚らず只二本を傾けたるのみ。傾の字味あり。倒すに至らぬぞ笑止なる。

七月二十七日　火　晴　二万は両大家の案内を為して戸台

に趣き五無斎は豊島病院に趣きたるのみ。

信毎記者福山天陰の来高を聞く。辞を卑ふして之を招致す。天陰の陰の字は陰険の陰の字なり。大浦式に御説法の百曼蛇羅を並べて遣らんと思ひたれども第三者たる立会人なければ偖止めにしたり。

富県小学校長清水滝次郎氏の来訪あり。高津屋行きの事を依頼す。清水氏は素と小池姓にて二年違ひの学友なり。上伊那郡地学旅行の折大学教授の綽号を取りし人なり。〇〇〇を供す。僅々四本のみ。

七月二十八日　水　晴　二万は両大家の供して戸台より帰り、五無斎は豊島病院に行きたるのみ。今宵二万と両大家にて二瓶〇〇〇〇を傾けたるのみ。敢へて倒したるには非るなり。

七月二十九日　木　晴　二万は河南村に角閃剣岩を採りに行き両大家は高津屋に砂質片麻岩晶質石灰岩等を集むる為めに出発せられたれば五無斎は豊島病院の日参前日の如し。尚八木教諭は同所に於て電気石の好標本一個を得られたる由なり。想起す今より十年の昔東京の標本屋金石舎の主人（名称忘れたり）某が五無斎を標本採集人として召し抱へんと東京なる某旅宿に来りビールやら洋服の装飾品やらを贈りて五無の歓心を買はんとしたる折示したるものと同一の品なるを。当時五無の一商人の召抱人とならぬを見て取り産地を秘してコソ〳〵と逃げ帰りたる事のありたるが今や其産地を確むるを得たり。然れども其産出の多からざる由なるぞ遺憾なる。今宵二万一百八にて傾けたる〇〇〇の瓶数僅々二のみ。

七月三十日　金　晴　八木教諭四時出発権兵衛峠を越えて御岳に向ひ二万は角閃花崗岩質片麻岩の採集に五無は旅宿にありて病院通ひと此旅行記をものす。時に午後四時四十分三十二秒。（此の間本文不明）編者

八月六日の続き

と。書き了り是を郵函に托したるに、忽ち日程変更の必要起りたり。ソハ富県村桜井のチンワルド雲母は、産出の量多からず、高鳥谷の電気石、亦同様なるべく、又同所乃砂質片麻岩は、坂下附近にて採集する方費用に於ても将た日限に於ても、優に一日を減ずるが為めなり、乃ち諸田に帰り、一切の勘定を済まし、伊那町に向はんとす。茲に八木教諭より中村校長の五無斎両人宛の到来物あり、苹果と水密桃となり。依て之を諸田の一家族にも一個宛を配ち、夫子自身も其内の二個を喰ひ、余は悉く中村校長に致さんとして同家を訪ひたるに、干栗を多分に拝領するの光栄を有したり。コハ前日学校の植樹としては、韓国産の栗の樹に限るべきよしを語り出でたるが為めなるべし。車の中にて其一ッ二ッを試みたるに味頗る甚だよし。コハ充分乾燥し

置きたるものを更に数日前蒸し直したるものなる可し。乃ち独り自ら食ふに忍びずして、之を乗合の諸君に致す。午後七時過ぎ坂下町着。数年来の定宿あい屋に宿し、夕食後新任校長瀬戸歌次郎君を大野屋に訪ふ。稍辞意を漏らしたれども〇〇〇の変応あり、一別以来の雑談に耽り、午後十一時半に及ぶ。

八月七日　土　晴　人夫三人を賃ひ、小沢川の北岸に砂質片麻岩を採集せんとするに、山抜けのありて見当らず。乃ち其南畔に至りて之を採集す。河原の中なればデカク熱し。乃ち水を湛へて一孤島をつくりて移り住す。午後七時帰宿再び瀬戸君の御来臨を煩しむ。旅宿の主人友太郎氏も御出席ありたり、主人無斎程も飲けぬ癖に、中々の愚図々々なり。且つ梯子の名人とて、五無斎と二人にて七瓶を倒したるにも拘らず、妻君が厳重なる監視の隙を窺ひ、料理屋に趣き一時過ぎに帰りたりとか、コハ翌朝人夫共が私語くを耳きたるなり。

八月八日　日　晴　午前七時人夫三名を率い、小沢川に至り古生代の雲母粘板岩を採集す。下流にての採集は危険なれども、粘板岩位なれば差支なし。午後五時採集を了り、車にて宮田駅に至る。瀬戸君〇〇〇一瓶を恵まる。曰はく車の中にて飲めと、車中の乗合は男三女二なり。一人の女中は製糸工女らしく稍磨のウスッペラなる方なれども、一人は重々しき方にして愛敬善く、且つ福相あれども話の模様より察すれば破鏡再び照らさぬの愁嘆ありと推せらる。乃ち先つ中村校長の贈り物たる干栗を出し、次に瀬戸校長の餞別品に及ぶ。蓋し両校長の好意を空ふせざらんが為なり。午後六時半、宮田駅なる数年来の定宿銭屋に投宿す。御〇〇〇〇す。（読者諸君試みに此数字を充たせ）

八月九日　日　晴　午前八時人夫三人を伴ひ西春近村藤沢川の沿岸に紅柱石を採集す。本鉱物は去る明治三十五年中、五無斎の新発見にかかる。新発見の動機は次の如し。曰はく、此処商務省の土性図には、第三紀層となり居るなり。三紀層なれば動物の化石は兎も角も木の葉の化石位は是非共なくてはならぬ筈なり。是れ四周の地たる太古代若しくは古生代の地質なるに、此処のみ三紀層たる以上は、慥かに諏訪湖の半分位の面積を有する山間の一小湖なるべく、従つて周囲の山岳より、木の葉などの舞ひ込む可き道路なればなり。然るに足一ト度其地に到れば、何んぞ驚かざるを得可けん哉。太古太統の雲母粘板岩中、本鉱物を含み居たるなり。世上屁と鉄砲、提灯に釣鐘などの譬へあれども、是はアダムとイブの事蹟を、ナポレオンやエリザベスの事蹟と誤りたるものと謂ふ可し。午後四時採集も了り、銭屋の勘定を済し赤穂に至り、八年

前一回泊りたるのみの定宿穀屋に投宿す。夕食前赤穂小学校に至る。財政窮乏に陥りたれば、校長宮下貞象君より金十円を借らんが為めなり。然り而して暑中休業中とて校長閣下の御留守なるには少が閉口せり。乃ち当時居合せたる小平君以下の諸氏に金子調達方を依頼す。今宵〇〇〇をも頂戴致さず終夜財政問題に腐心し日程変更と決心す。元来晶質石灰岩は、中沢村落合に変更したるものを、再び富県村に変更して、二万に採つて貰ふ事とし、両雲母花崗岩と、花崗質片麻岩を太田切川原にて集むることとしたるなり。本年は何故か太陽君が六七月の交、田植休みを三十日間も御継続遊ばさされたる埋め合せにもとの思召か、凡そ三十日間も暑中休暇を遊ばされず、之れが為めに夏蚕の成績頗る良好なるより、農家の繁忙大方ならず。時正に大根と蕎麦蒔なれば、此数日間人夫の賃金は非常に高直となりたるさへあるに中沢村にては学校新築中との事を聞き及べば、人夫を得んが為めに一層の困難を来すべければとの懸念もありたるなり。偖斯く日程変更と決定して見れば安らけく短期の死亡を為す。

八月十日　火　晴　午前八時出発人夫三名を率いて、赤穂村西方の原野に至り、柘榴石を採集す。八封本にあるような成績にて、始め悪ろく終り善し。然れども之を捨つるに忍びずして、石油箱四〇許りも採集す。太陽君暑中休暇中休暇を遊ばされぬ結果として此附近の殖樹枯死するものあり。又芝草の悉く枯死したるを見る。試みにマッチを擦りて之に点火するに、忽ち方二間四方に及ぶ。乃ち蒼皇之を消し止む。ヨハ一寸来いを喰べぬ為めなり。夕食前小平君来訪、金五円を御調達ありたり。茲に明記して謝意を表す。謝意を表せんが為めに〇〇〇を供せんとして、例によつて例の如き会を催し、旧知鎌田君の御来臨をも仰ぎ、十二時頃閉会したるに、アバエコバエにて、一切の会計は御両所にて御済し下されたりとの事なり。乃茲に謹んで謝意の自乗冪を呈す。

八月十一日　水　晴　太田切川原に至り、花崗質片麻岩を採集す、下流採集のこととて原料を得るに窮し、花崗岩なども交りたるやうなり。前車の覆かへる後車の誡めといふこともあれば、後の標本採集の為に注意し置くものなり。

八月十二日　木　昼少しく雷雨　人夫三名を賃ひ、大田切川原に至り、橋下に両雲母花崗岩を採集す。両雲母花崗岩は一に正花崗と称し、駒ヶ岳の特産なり。今日橋上を通過する牝馬の、五無斎の鼻先五間許りの処にて放尿す。頭の上でなかりしは不幸中の幸福なり。牝馬のと聞けば一層汚き心地す。今宵赤穂小学校長来訪。デカ〇〇〇を頂戴す。諏訪人物評より県人物評に及ぶ。学務課評をなした

るや否やは読者各位の判断に一任す。

八月十三日　金　晴　人夫三名を賃ひ大田切川に黒雲母の標本を採集す。八封本式にして始め悪ろく終り善しの成績なり。午前丈ケにて採集を終りたれば、旅舎穀屋に帰り此記をものするに際し、伊那村の精神病者を以つて自任する佐藤藤次郎氏来訪〇〇〇一斤を送らる。曰く、師範学校半途退学生、曰はく第二高等学校卒業生。曰はく帝国大学半途退学生。曰はく上伊那郡長藤村にて願ひによらずして免職された生。曰はく伊那村の土百姓。其語る所悪るデカクして且つ不平ダラ〳〵なり。乃ち知る五無の性格と余り大差なきを。干時明治四十二年八月十四日午後七時也

八月十三日の続き、

と書きつつ酒む。下物は曰く奈良漬、曰く山葵、曰く胡瓜と味噌。偖君が慷慨悲憤と来ては並大抵のものならず、先づ北安大黒岳鉱山が、江戸村あたりの我利々々一天張りなる成り金党の手に落ちたるを慨するに始り、五無斎が社会に於ける不遇を憐むに中し、社会の腐敗堕落を痛論するに終らんとして、〇〇〇も亦残り少なくなりたれば、飽かぬ袂を分ち君は郷里に、五無斎は飯嶋村に向ふ。此間君は手拭を両眼に当て、オイ〳〵と泣く、殆んど古の高山彦九が流なり。只一つ大に閉口したるは余り新しくとなき金入二ツを贈られたることなり。然れども其厚意を空ふせんも如何且ツ余り度々財布を無くし勝ちなれば、謹んで申し受く。下女君の車が来りたりといふに、驚き、蒼皇之に御したるに、冷〇を六七合も煽り立てたることなれば、何ぞ溜らん殆んど前後を忘却し、左右の見境なし。田切といふ所に芦部蘆庵を訪ふ筈にて、車を下りたれども蘆庵の見付からぬに困じ果て、飯島駅に至り何とやらいふ二三年来の定宿に泊らんとせしも忽ち御断りにあひ大黒屋に宿す。

八月十四日　土　晴　地震あり。今朝目醒むれば同宿四人なり。内一人は売薬師にして、二人は伯楽即ち俗に馬喰といふものなり。支那では五無斎の如き駅才と離る可らざる密接の関係を有するは伯楽なるに、我国にては牛馬を売買して飯を喰ふ営業人なるが故に、馬喰ふの字に書き替へたりとか。午前六時半大黒屋を発し、片桐村飯沼といふ所より天竜橋を渡り、南向村に至り此あたりの精神病者下平露骨の原産地を問ふに、是より二十余町ありといふに驚き、直ちに鹿塩地方に向ふ。対岸の片桐村は同じく精神病者なる露月場の原産地なり。此附近何ぞ精神病者の多き。偖此南向村より大鹿村に通ずる道路は彼信州第一の高峰赤石山より発する天竜川の一支流小渋川に沿へるものにして、東西南北上下四方八方に屈曲し、通行の困難殆んど名状すべからず、一人の屋根茸の如く、上つたり降つたり、縦横十文字に歩かねばならず鈍鎚なり。鈍鎚とは遣り

切れぬを意味す。午後二時大鹿村の内桶谷といふ所に至り大河原小学校の分教場を訪ふ。北安曇郡長大浦頼君などならんに何でも善けれども此処は小学校なり。腹懸のみならんも如何、切めては石屋の礼服とも称すべき印袢纏なりともと、腰のあたりの革鞄の附近を索むるも見当らず、乃ち知る赤穂の穀屋か、飯島の大黒屋か若くは車の中か将た赤穂飯島間の道路に遺棄したりしものなるを。午後三時落合といふ所に至り、一旗亭に二度目の昼飯を喰いつゝありしに稍強震あり。午後五時大河原に至り始めての定宿吉田屋に投宿し明日の準備を為す。

八月十五日　日　曇少雨　地震あり人夫二名を賃ひ小山訓導同道にて青木川に沿うて上り中沢といふ所に至り、緑石を求むるに見当らず。是は八年前の記憶の確実ならざるを証するものなり。然れども此附近の蛇紋岩にて飛白岩の稍良好なるものを発見したれば、コを採集す。諏訪郡小泉山のものは小飛白に御所平のものは中飛白にして、此地のものは大飛白なり。然り而して午後二時頃に至りて、白地の飛白岩をも見出したれば、是も亦採集することとしたり。荷物の重かりし為め、又少しく時刻の後れたりし為め更に人夫二名を雇ひて午後六時半頃帰宿。今日長野より金の荷物到着し居たればコを受取り、宮下大校長と小平訓導に返金し、二万に金十円を送る。今宵の相客は蚕種商なり。浮世の罪悪をデカク犯したるものらしく、寐言の百曼蛇羅を繰り返す。其声泣くが如く訴ふるが如し。今日小山訓導より村誌を借覧す。宗良親王並に御子尹良親王の御遺跡は、本郡波合村にもあり、何れが正志きかを知らず。然れども両方共に幾分づつ正しとしたる方適当ならん。只余日なき為め御遺跡地に到ること能はざりしを遺憾とするのみ。

八月十六日　月　曇少雨　地震あり。昨滝本理学士の下伊那郡教育会にて地質学の講習あり。明十七日千秋楽なるを耳にす。乃ち人夫三名を賃い午前六時半出発小山訓導同道にて、ヘレフリンタ様鹿塩片麻岩らしきものを採集す。後に滝本理学士に聞いて見ればらしきものにも非る由なり。午後一時採集を了り此地を発す。八里の道中而かも峠越なるにも拘らず、滝本学士の御機嫌をも伺ひ、且つは同講習会の期を利用して、一ト演説を試み、標本の売り込みをなさんが為めに、飯田町迄赴かんとはするなり。途中部奈といふ処に至り、旧知部奈格君を簡単に訪問せんとして道を失し、福与といふところに至る。乃ち道を失したりと雖も是れ飯田への本街道たるなり。午後七時山吹村に至るに日漸く暮れんとす。車を求むるに見当らずデカク閉口せり。午後一時より峠越七里半許りを歩みたるが為め足の痛み甚しく、且つ曇天にして暗く石コロに躓く事の多ければ、市田村なる一昨年来の定宿藤屋に泊る。時に午後八時半なり。

多食を喰ひつつありしに稍強震あり。横動のみにして上下動の無かりしは、震源地の遠きを証す。斯く毎日毎日地震のあるは何処かにデカ地震のありたるものに相違無きを推定するものから、之を宿のものに問ふに只知らずといふ。即ち短期死亡を為す。

八月十七日　火　曇　午前五時起床、六時市田を発し七時半飯田着。高等女学校なる下伊那部会の夏期講習会に出席。滝本学士の地史論聴聞。十一より十二時の間小学校に於ける礦物地質教授法に関する演説をなす。今日新聞二を耳にす。曰はく江州の大地震。曰はく信越新聞社長兼主筆佐藤桜哉クンの喰ひ込み。前者は吊すべく後者は祝すべし。講習会閉会式後滝本学士を訪ひ○○○を傾くる筈なりしも、古川副会長を始め、下伊那教育会の幹部諸君より午餐を饗せらるる事となりたれば、某料理店に托して天竜鰻の蒲焼を学士に致し、福島に至りて○○○を頂戴す。頂戴するの前少閑ありたれば、越中褌三を新調す。下女君を始めとして諸人驚かすといふことなし。宴会の始るや五無斎は例によつて例の如く、佐藤桜哉君が罪悪史の一節を語る。衆皆快哉を連呼す。今日座光寺村にて、一農家の家鶏の為に茄子の葉と桑の葉を喙まるるを防がんとして石灰を散布するを見る。由来家鶏は石灰を好む動物なり。偖茄子といふ植物は一種の毒草なれば、普通にては余り好まぬ方ならんも石灰が喰い度さに悉く喙み食ひ尽したるぞ笑止なる人間は余程トンマナ動物なり。

八月十八日　水　晴　赤穂より石屋の礼服たる印袢纏来る。案の如く穀屋旅店にわすれ置きたるなり。滝本学士を巴正木屋に訪ひ見送りを為す。郡長河村備衛君を郡役所に訪ふ。標本売込みを依頼せんが為なり。然り而して御登庁なし。既にして給事君小包が来て居ましたとて持ち来る。一昨明治四十年中筆墨行商の折。玉川堂より来て居たる荷物なり。是はとばかりデカク驚きて封押し切りて之を検すれば、羅紋硯十枚あり。標本採集旅行に硯などを売つて居る訳にも行かねば、原価売をなす。郡役所にて七枚売り、旅宿に帰れば旅宿の主婦一枚を買はんと言ひ、富草小



新調の石屋五無斎腹掛け印半てん
昭和42・6・12松本にて撮影

学校長松沢三吉君も、同村の佐々木喜雄君も各一枚宛をといふ。是にて十枚の硯悉皆売り尽したるなり。但し郡長郡視学は不在なれば強売を為したるなり。午前十時松沢佐々木の両君と共に飯田町を発し、車にて富草村に向ふ。蚕病予防事務所の新井隆太郎君も同行せり。同地産の花崗岩を採集せんが為めなり。道にして二十六円入りの財布を高坂旅館に遺れ置きたるを発見す。然れども主婦に預けおきたるなれば、再び入飯す可しと決心していい帰りせず。正午時又に達し天竜川の通船を求むるに、既に出発したりとの事なり。乃ち一旗亭に憩ひ午食を喫す。〇〇〇は四人にて僅々三のみなるに、七万五千円宛をフン奪くられたり。美形五あり。七万五千円のうちには美形扶持料も籠り居ること、知る可し。午後二時下川路村に関島俊君を問ふ。令弟房太郎君が絶筆三十而死と書したる扇面を借らんが為なり。如何にも珍らしきものなれば之を木版に彫刻して本紙に掲載すべし。午後二時半車を賃ひて下川路を発し下条村のうち山田口に至る。賃銭は五十銭にして更に五銭づつの馬糧代を強請らる白米一升の代金なりとか乃ち之を給す。御車先生之を私するに忍びずとして且つ愛馬の意を吾等の一行に示さんとして一個四銭づつの鶏卵二個を馬糧に混じて之を与へんとす。五無斎は其嗜まざるべきを言ふ。先生之を耳にだも掛さるなり。然り而して馬復之を食はざるなり。或は水を混じ或は青草を混じて之を強ふるも遂に之を食はさるなり。先生怒りて馬の太と腹を蹴る。乃ち蹴られたりとて草食動物は終に草食動物たるなり。世上之に類すること多かり。午後七時過ぎ富草村の首府粟野に達し一旗亭に宿す。竜江小学校の林君先つあり、五無斎等一行の至るを待つ。今宵校長松沢君よりの招待を受け〇〇〇を頂戴し、かあと式教授法論を為す。

八月十九日　木　曇少雨　午前五時起床、予而運送屋に托し置きたる鉄鎚はといふに未だ到着し居らずといふ。乃ち頼み置きたる人夫一名を解雇す。既にして大下条旦開下条学校の教員諸氏数名の来村せられたれば、富草村の各地を廻り地学上の実地指導をなし、矢沢女子師範学校長より依頼されたる化石を含める水成岩の標本を採集す。午後五時簡単に〇〇〇を頂戴す。

八月二十日　金　曇後雨　人夫二名を雇ひ富草村のうち浅野に至り、花崗砂岩?を採集す。?を附したるは稍怪しき花崗岩なればなり。午後四時採集を終り、松沢校長に別れを告げ、牛山富草分署長を簡単に訪問し、下条村のうち何とやらいふ所に至りし頃、稍雷雨のありたれば滝本館に投宿す。此滝本館は中々勉強旅館のよし牛山署長より聞き及びたる所なるが相客非常に多く十余名あり。女将は中々別品にして愛敬あり。芝居の売り込み屋あり、飴屋あり

蚕種商もあれば洋服屋もあり。而して洋服屋先生は最上客にして、石屋五無斎を最下等下の下の客となす。

八月二十一日　土　晴　午前五時半滝本館を発し、下川路村を経て、伊賀良村のうち中村尋常小学校に至る。同地産の正長石を採集せんが為なり。校長君は不在なり、しかれども使丁のものに案内するよう言ひ含めありたれば、同人を案内者として水晶崩に至る。此地下川路村に面すれば、或は下川路の地籍なるやも知る可らず、当初一物を得可くも見えざりしにベクマタイト中に正長石の産するを見る。嬉しき事限なし。元来長石の標本は是非共無くては叶はぬものなれども、南佐久郡茂来山のものも、又西筑摩郡田立村のものも、既に採集し尽したるの今日此新産地を得たるぞ愉快なる。結晶面を具へたるもあれども、双晶など有りや無しやを知らず。蓋し渋泥の附着し居ればなり。本日鉄鎚を一農家に托して持参せざりしを悔ゆ、又金庫を持参せざりしを悔ゆ、乃ち財嚢を叩きて金二円を得之を案内先生に交附し採集方を依頼して此地を発し、鼎村を経て再び飯田町に至る。時に午後七時過ぎなり。夕食後郡役所やら南信新聞社に至り、県下にて発刊する諸新聞の綴込みを借覧し、補欠選挙に関する一文を草す。疲労甚しく文章も思ふやうには書けず。乃ち浄書などしたりし為め午前二時に及ぶ。夏の夜は短きものなり。

八月二十二日　日　晴　午前五時起床、俥にて大平峠の一の瀬といふ所に至りて下車し膝栗毛に乗る。若し俥にてコを越えんか。十一里の道程にて三円六十銭を踏ん奪くらるべければなり。午後七時半、西筑摩郡吾妻村、吾妻橋なる吾妻館に投宿す。一方は車夫部屋にて、一方書生共の泊り込めるあり。書生共の馬鹿騒ぎ実に驚き入るの外なし。数人の下女共入り替り立ち替り之に和し具さに猥せつを極む。車夫共も溜り兼ねて悪る騒ぎをオッ始めたり。斯くして午前一時にも及びたればお人善しの五無斎なども「餓鬼共一貫八百目の玄能にて叩つ殺すぞ」と怒鳴りたり。乃ち怒鳴りたりとて彼等の馬鹿騒ぎは遂に止まる可くもあらざるなり。乃ち一策を案じ宛然木曽谷全体に響き亘るかと疑はるる程に、手を拍ち女中を呼び、吾妻橋上に一夜を明すべければ夜具を持てといふ。書生共も車夫先生方も是には避易したりけん。又一語を発せず。乃ち短期死亡に墜つ。今日太平峠にて石屋の親分を運送引きと誤り、是なる荷物を吾妻橋まで持ち行き呉れよと頼み、デカクお目玉を頂戴したり。乃ち信濃公論社長兼記者五無斎保科百助と印刷せる名刺一枚を出し、公論一葉を添へ謹んで謝す。石屋先生稍恐縮して其粗忽を謝す。是は謝罪の交換といふものなり。今日蘭といふ所にて桧笠を購ひ、直ちに幼時厳君より教へられたる、

艸（草冠）や廿（二十）の門に。門立てゝ

東や　東や。蘭や　蘭。

なる歌を書きつく。是は誰の作なるやを知らされども、朝鮮式漢文教授法より思ひ付きたるものならん。朝鮮にて支那の文字を教授するには、天あり。地つち。玄くろ。黄き。日ひ。月つき盈みち。晨かけと何百回何千回も暗誦せしむる由なり。現今教育法の如く屁理屈のみベラボウに多きも如何、記憶力の極めて旺盛なる中小学校生徒などに対しては此極端なる暗誦教授法も或は面白からんと思ふなり。

八月二十三日　月　晴　午前六時起床朝食を終りたる後、隣室に闖入して、恭しく名刺一葉を突き付け、偖昨夜の亡状を詰責し、且つ本人の官爵勲位姓名を問ふに、此附近の郵便局長某の子にして飯田中学校長嶋地五六君のお弟子なるが此附近小学校に教鞭を執り居る由なり。乃ち深く後来を誡めて無罪放免と為やりたり。午前八時出発、田立村小学校に至り、螢石の採集方を依頼す。村長君が善く知り居る由なれば、校長君と打連れ立ちて村役場に至りしに御登庁なし。乃ち採集方一切を同校長に托して此地を発し、美濃国恵那郡阪下といふ所に至り中央西線の下りか上りか知らざれども、一時三十八分の汽車にて西筑摩郡三留野駅にて下車し、車にて大桑村のうち須原に至り、田中屋に投宿す。偖明日の準備にとて人夫を求むるに秋蚕の時期にもあり、鉄道工事中の事とて見付からぬといふ。乃ち須原尋常小学校に至り百瀬老校長に謀る。折節村内有力者二名程御来談。御酒宴御催し中の事とて、容易く人夫を得たるぞ嬉しき。偖此田中屋は余り広くもあらぬ宿屋なれども、夫婦連れの土方十六人も泊り居るが上に普通の泊り客の十五六人もありて、頗る混雑を極む。今日山口村にては旧知市脇房太郎氏を問ふ筈なりしも、田立学校の女教師某嬢に、氏が在不在を尋ねたるに、多分不在なるべしとの事なれば、偖止めにしたり。氏は同学の友にして極めて篤実温厚の士なり。八年前君を訪ひたる折、公共事業の為に金が入用なれども、余り多くも有らねば、是より製糸家とならんと言はれたることの有りしが今や実業家として尽瘁せられつゝありとか。其成績はと土地のものに就て之を尋ねるに、昨年一昨年の不印なるにも拘らず氏のみは其影響をば受けざりしといふ。殊に一村の人挙つて氏を信用するものから村内にて生産する繭の如きは、一粒と雖も他に売り出さるることなく、悉く氏の許に持参し来り、只々目方を掛け之を帳簿に記入するのみにして、一切後と勘定なりといふ。豪らき人物といふ可し。偖五無斎の友人中、此式の人二あり。一人は北信下高井郡野沢温泉小学校長の森繁吉氏なり。両氏共学問は出来ぬ方にして、目を細くしてお米

のソップを吸い上ぐるの性癖あり。利口かと思へば左程利口にも非ず。馬鹿かと思へば勿論馬鹿にもあらぬなり。色黒く鼻高き方にて稍土方式なれども女にも嫌はれずして諸人の尊敬を受く。代議士としては無論上柳喜右衛門以上なり。

八月二十四日　火　晴　午前七時出発人夫二名を卒ゐ大桑村のうち殿区の石灰山に至り、フズリナ化石の稍完全なるものを発見す。午後六時採集を終りたれば荷造りを為し、大桑高等小学校長原君に托して帰宿す。本日午後稍強震あり。横動のみにして上下動なし。震源地の遠きを証す。

八月二十五日　水　晴　須原なる田中屋を発し、車にて浦嶋子が釣を垂れたりと言ひ伝ふる寝覚に至り、少しく早かりしかど蕎麦を喰ふ。佐々木の蕎麦よりも分量は少なきにも拘らず、四ツにて二十四銭を踏ん奪くられたり。外に鳥の肉を目薬程少々喰べて六銭合計金三十銭也。是は日本一の高価ならん。寝覚は曽遊の地なれば行かず。

ねぼけたる目もさめさうなところなり

　これはこれはと両手あげまつ

午前十時上松より渡船して木曽川を渡り、小川といふ所に至り、山路を辿りて王滝村の鞍馬橋に至る。石英斑岩を採集せんが為めなり。偖此鞍馬橋は信州一、否、日本一の絶景ならん。寝覚を十も二十も積み重ねたるやうな景なり。画伯中村不折が物せし鞍馬橋は、頗る甚だ珍品なりしと言ひたる人ありたり。此絶景に対して、何か一首の狂歌なかる可らずと去る三十五年中も又本年も頻りに焦心たれども遂に一句を得る能はず、甚だ愧づ可しとなす。偖此鞍馬橋附近にて宿屋を求むるに一軒もなし。乃ち止むことを得ずして上流一里を隔つる神官滝亀松氏に至り一宿を乞ふ。主人亀松氏は数年前一面識あるの士なり。羽織袴にて出て来られ御岳山繁昌策を問はる。乃ち神津学士に依頼して御岳火山の説明書地質図などを印刷に附し実費販売などしたらば妙ならんといふ。既にして校長永井総吉君の御来訪ありたれば〇〇〇を供し奉りたり。

八月二十六日　木　晴　人夫三名を賃ひ鞍馬橋下に至りて石英斑岩の標本を採集す。午後四時頃本日の用向き丈は結了したれば直ちに此地を発し午後八時福島町着ホテルを求むるに何れもお断りに逢ひたれば福島警察署に至りて保護願を出したるに兼ねて一面識ある巡査某君宿直なれば非番なる巡査に案内して貰ひ益田屋に泊るの光栄を有するに至りたり。乃ち〇〇〇を供す。

　今日鞍馬橋にて越中褌二腹懸一を洗ふ。稍季義山が殺風景の譏を免れざるべけれども偖致し方なし。褌の方は河原

にて干したれども腹懸の方は濯ひたる後直に着用す。襞一つも出来ず。此新法は五無斎が新発明の一にして洗濯学上一大新紀元を劃するものと謂つ可し。

八月二十七日　金　晴　郡役所やら木曽工業株式会社やら小学校やらを訪問し一日間の保養を為す。午後此地の旧知諸君五無斎の為めに小宴を参河屋に張らる。座中三回目の監獄署在勤を命ぜられたる信越新聞社長兼主筆佐藤桜哉クンの歓迎会を開きたるを悔ゆるものあり。恰も懇親会は開きたれども新聞に名前を書いて貰ふ丈ケはお断りなりと諷するものの如し。元来新聞屋に褒めて書いて貰ふこと嘗へば絶世の美人が出歯亀に暗夜山道を送りて貰ふが如く半送御無心筋を申し込まるるの虞れあればなり。ヨシ五無斎に此事絶えて無きも世人の誤解を招くことなきにしも非ず。是れ公論には余り人の事を褒めては書かぬ所以なり。此家の女将秀治君の御臨席あり。容貌は当福島産県参事会員にてチヤキチヤキ筋なる大沢辰次郎君の Second Wife の達磨の君に生きうつしなるが上に信州の虚業家岡本幸平君式の金歯あり。千秋の爺さんデカク参りたりとか。夙に泥水社会の足洗ひを為し此家の女将とまで出世したるも亦謂れなきに非ざるなり。又二代目秀治の跡目相続を仰せ付かりといふなる花といへるがあり。素より初代秀治に及ぶ可くは有らざれども亦美人たるを失はず。只野田六ハンマーに宜敷といふ。ハンマーは英語鉄鎚の意なり。野田六鉄鎚とは何の事なるかと問ふに長野県技師正八位野田六次様を早口に言ひたるなりといふ。五無斎は九月十五日過ぎならでは帰長せぬ筈なれば手つ取り早く紙上を以て野田六次君に言伝つるものなり。イヨウ。ベスト。

八月二十八日　土　雨　今日は旧暦盆の十三日なれば人夫なし。乃ち教員講習所の宮川君同道にて福島町の町離れなる塩淵といふ所に至り鉄道用にとて切り出しありたるものを奥村といふ下受負人に譲つて貰ひ花崗斑岩の標本を採集す。此所にて工夫二名を賃ひ採集し居たるに本職の石屋後藤某なるもの無報酬にて手伝ひ呉れたり。此後藤といふ人物は中々面白き男にて話上手なり。一同愉快に仕事を終り午後五時帰宿。

八月二十九日　日　曇　午前中は短期死亡を為して英気を養ひ午後福島青年会へ出席。木曽将来の発展策なる演題にて演説す。樹種改良牧牛馬品種改良論と御岳山繁昌策となり。最後に桔梗ケ原大学論を為す。相客は宮川君と御料局の内藤学士となり。今宵同青年会より西洋のビールといふ御神酒五を頂戴したれば夕食後なりしかど即座に口をきり其内の二を提供す。既にして宮川君御用金五円を懐にして来られたれば和洋の御神酒を供し午前一時に及ぶ。以後財嚢四個共に空虚となりたれば三日松本着迄は五無斎と

いふ動物は運賃先払の宿送りなり。宿送りの厳命を受けたるもの宮川君の外の三人あり。曰はく師範生の某曰はく、宗賀村の素封家小松留四郎、曰はく塩尻小学校神津利三郎の三君なり。茲に謹んで謝意を表す。乃ち謝意を表すと雖も世の新聞屋の如く只取薩摩の守には非るなり。福島にては諸方より信書を接手す。中に小林万助より来りたるものあり赤穂の宮下学校長に送りたる為替券と同人に送りたるものと入れ違へてありたるなり。四十を初老といふことなるが五無斎稍〻碌〻し始めたりと見えたり。ハツ、、、ハー。

八月三十日　月　晴　午前九時福島駅を発し駸にて藪原に至り此にて下車す。相客は石屋の後藤某なり。下車するや西筑摩郡視学刈間徳次郎君に邂逅ひ一旗亭に憩ひ君は渋茶を五無斎は昼飯を喰ひ補欠選挙談に及び爾後断然候補断念の意を洩す。曰はく理由は簡単なり。

一　万以上の金なきこと。　二　立川雲平。上柳喜右衛門等と同一なる人物かと笑はるるが切なきこと。　三　国家問題など絶えて分らぬこと。　四　江戸村あたりのスレッカラシ共に混ぜつ返さるるが癪に障ること。　五　桔梗が原大学設立準備にて寸隙を得ざること。

午後一時鳥居峠を越え楢川村の奈良井に至り数年前の定宿徳利屋に投宿し明日採集すべき大久保産爪頭方解石の下検分を為す。

八月三十一日　火　晴　午前五時起床人夫一名を従へ大久保に至り爪頭方解石採集し午後二時採集を了り此地を引き上げ宗賀小学校の鈴木君と道連れとなり更に一人の御岳道者と道連れとなりたり。此男中々の豪ら物にて十一年間穀を絶ち蕎麦粉栗及び野菜類を食するのみ。味噌醤油の類は申すに及ばず酒も煙草も一切厳禁なるが今回の巡拝は日光古峰が原成田の不動さんやら宗五郎大明神様より富士の浅間社甲州の駒が岳木曽の御岳に徒跣参りを為し今やその帰途にあるものなりといふ。偖お前は何処の何兵衛といふものなるかと問ふに上高井郡山田村百四十九番地湯本広吉といふものなりと答ふ。更に其の目的とする所は何なりやと問ふに末世の衆生を済度するが為めなりといふ。何処まで豪ら物なれば新聞に書いてやらんといふに是をも併せてと両手を差し出すを見れば前膊の背面に長径二寸四五分短径一寸七八分の火傷痕あり。ソハ又何かと問ふに一ケ年二回宛荒行を行ずるに当つて手燈を点ずることなるが一期に百十二挺宛今日迄には既に千百十丁を燈したりといふ。偖々豪き痩我慢といふ可し。此痩我慢あらば世上何事か成らざらん。長野県地学標本の採集など実に朝飯前の仕事なり。今宵本山なる一旗亭に宿す。名稍忘れたり。故に記さず。校長小林君来訪〇〇〇を頂戴す。

九月一日　水　雨　本山産のクリノイド石灰岩を採集す。

化石の保存は稍完全なり。午後三時採集を終り洗馬なる素封家小松留四郎氏を訪ひ今朝鈴木訓導に托して借りたる金五円の謝礼を述べ簡短に○○○を頂戴し午後七時頃東筑摩郡の塩尻の大校長神津利三郎氏が江戸屋ホテル着。茲に本物の土方二人あり。正さに請負師の某を強請りつゝあり。五無斎が到るを見て仲間入りをさせんとて自分共の官爵勲位姓名を名乗り偖お前はといふ。五無斎は其以而非石屋なるを明言す。然れども彼等是を信ぜざるなり。然らばとて信濃公論社長兼記者と印刷せる名刺一葉を突き付く。彼等両人啞然たるもの之を久ふし復一語を発せず。数分間にして出で行きたり。新聞屋の威土方の金筋を圧す。金筋は金子御入用筋の略語にて彼等社会中の遊歴人なり。午後七時頃より○○○は始りたり。十時頃かと覚ゆ故県会議員荻上兵五郎氏の子息正夫氏塩尻遊廓潮尾楼の楼主荻原高治氏同道俥夫一名を従へての御闖入あり。議論は頗る旺盛を極む。乃ち越中褌を提供して緩和剤となす。荻上君ヨを佩用せられたるやうなり。最も古きもの一は之を便所に投じ他の一は夫子御自身御佩用中なり。是にて三越中の行衛不明に非るなり。斯くの如くにして五無斎は遂に潮尾楼迄拉し去られたり。今宵潮尾楼に泊りたりや否やは疑問なり。又神津大校長の御同行ありしや否やも亦疑問なり。世上疑問の種類多かり。

九月二日　木　雨　人夫二名を賃ひ、第三トンネルに至り、古生代粘板岩の標本を採集せんとしたるに、上条の石灰山に至りたる頃ほひ、少雨あり。乃ち石灰小屋に立寄りて少時休憩を為し、平たき斜方六面躰を為せる方解石を得たり。乃ち金一円を給して、ヨを採集して貰ふの約を整へ、トンネル附近に至り、更に人夫一名を雇ひ、此の日の日程を終り、江戸屋ホテルに帰りて食欠す。一昨年頃師範学校を卒業したる、何とやらいふ快男児来る。名称産地を忘れたり。只今時の師範学校卒業生には似合はぬ言舌せる田力なり。

昨夜の記事と今宵の記事と前後せり、改め写すも七面倒なり。

九月三日　金　曇後雨　朝来○○○を頂戴す、斯く朝来○○○を頂戴するの理由如何。曰わく天候回復を祈らんとはするなり。然れども遂にその効能あるべくも見えざれば、午前何時かの汽車にて塩尻駅を発し、松本にて下車し、郡長浜音之助を訪ひ、標本採集の顛末を報告し、簡単に○○○を頂戴し、松本女子師範学校に至り過般採集の下命を蒙りたるの料金を頂戴し、稍有福を感じたれば、松本兵営に立寄り同郷の青年士官立野少尉を拉し、浅間温泉に入浴し○○○を頂戴せんと思ひたれども、既に帰寓との事なれば同温泉なるよしの湯に至り、俥夫を立野少尉に馳せ簡単に

夫子御自身御一人のみにて〇〇〇を傾けつゝありたるなり。偶々隣室にては横田大豪傑養蚕家鳥羽黙爺大僧正御酒宴最中なり。浅間名物女性音楽家の某の君も御同席なるやうなり。既にして御両所御揃ひにての御闖入ありき、快談の末怪力迄をも現はされたり。然れども天機洩す可らず。然り而して立野少尉は遂に来らざるなり。

九月四日　土　雨　早朝目醒むれば急ぎて帰らんとするに、鳥羽大僧正昨夜の粗忽を詫びんなどとて〇〇〇御持参ありたり。本年の初夏寝起のビールには、四人にて三ダース迄も倒したることあれば、又夜来少しく風邪の気味ありたれば、謹んで辞し浅間を発で松本に至り、長野より金の荷物を受取り、東明堂医院新家実次郎氏を訪ひ、風邪薬を貰はんとせしも不在なり。乃ち去つて保里写真店に至り友人関嶋房太郎氏が、三十而死の絶筆を写真銅板にして貰ひ、三村大校長を学校に訪ふ。松森蟻村氏も亦折節来られ大気焔なり。既にして昼飯を共にするの議起り某牛肉店に至る。大校長の君は何か他に送別会にてもある由にて中座せられたれば大概にて切り上げ、更に松森氏が弘文社の印刷所を見、百瀬長涯氏を信州婦人社に問ひ、〇〇〇など頂戴せり。午後五時三村大校長に至り、梓学校の工藤文太氏とも会飲せんとしたるに御留守なり。既にして主人公も帰られ、下伊那郡視学古川竹次郎も来会せられたり、若し三日以前ならば東京の樋ぐ勘氏も居られたる由なれば茲に五人組の同級会が出来たる筈なり。病人のこととて雞卵を混じたる〇〇〇など頂戴し、デカク酉卒ふ。

九月五日　日　晴　午前原稿などものし、正午松本市を発す。発するに臨み、福島以来の借金を返却す。松本の市外れにて車に乗る。同乗者以外に多く三台に分乗す。中に一老翁あり、年歯方に六十有余、人品骨柄衆に秀づ、其郷貫を問へば曰はく、上伊那郡伊那村の人で伊那村の学校は、上伊那郡藤沢伊那富の両小学校に次ぐの老朽校舎なるが、曩きに伴野郡視学、平林郡長は昿職の廉を以つて教育宗総本山管長の詰責に遇ひたるものなり。乃ち一日も早く校舎の新築すべきを命ず。後に白骨温泉に互に其本職を語り出つれば、此老人は古代の上伊那郡選出県会議員宮地実翁なりといふ。斯の如くにして五無斎は島々の清水屋に泊り、宮地翁の一行は稲扱まで赴かれたる由なり。偖斯く二回も島々に赴きたるの理由は如何。予而依頼し置きたる菫青石の採集がして無き故なり、彼の採集運搬費等も支払ひ置きたる焼岳の火山灰、及火山礫の発送して無かりしにも一驚を喫したり。是は五無斎より金二円の渡し不足ありたるが為めなりといふ。乃ち金八円を渡す。菫青石採集日当三日分三円嶋々までの運搬費十貫目につき一円、即ち五十貫金五円合計金八円なり。二円の渡し不足は人夫善平に聞いて

貰ふことゝし、後日明了となりたる暁に於て之を支払ふ可きを約す。今宵清水屋に泊る。〇〇〇などは頂戴せず、是は〇〇〇続きにて胃の腑は何となく不穏の徴候を現はし来りたればなり。

九月六日　月　曇　早朝嶋々を発し稲扱小学校に立ち寄り、渋茶の饗応に預り、ブラブラと途上の風光を眺めつゝ行く、木曽の桟道など昔家らかりしかは知らず、然れども今は中央西線の為に全く俗了して仕舞ひたるが、此処には五無斎が目にて見ても、幾分画題になりさうなる所無数なり。午後五時半白骨温泉着湯本斉藤静馬氏に宿す。斯く白骨に至り斉藤に泊りたるは、同地産の石灰華を採集せんが為めなり。元来同地方の石灰華は、木の葉の痕を印し、其成因やら白骨といふ地名を説明するに必要なれば、是非共今回の標本中に之を加へんとしたれども、道程余り遠きが故に、又費用の成るべく軽減せん事を欲したるが故に、又当家の主人にし安曇村長たる静馬氏は、八年前の旧知なる故に、之が採集方を依頼し置きたるなり。然り而して静馬氏の意中を忖度するに、採集など小面倒なり。其儘に打ち捨て置かば彼奴復来るべし。新聞屋などいふ動物の入浴は却つて当方の広告にもならん。若かず之を打ち捨て置かんには位のものなる可し。之は横着心の交換といふものなり。横着心の交換には双方共怒り立つるの権利なし。偖愈愈自分の座敷も定まりたれば、主人静馬氏に逢はんといふに、番公も女中も亦之を主人に通ぜざるなり。通ぜざるの理由は簡短なり。土方風情が何をとの意なり。成る程と思いて刺を通ず。主人出で来りて番公や女中の粗忽を謝し、新座敷の一番へ転居を命ぜらる。隣室は旧知洗馬郵便局長丸山完逸君なり。

世の為めに。尽して保科。命にも。
かはらぬものは。功なりけり。

の一首を示さる。既にして当大野川小学校長竹山索次氏も亦御来訪ありたり。即ち今日途中にて需め来りたる岩魚を下物にて〇〇〇は始りたり。四人車座にて食欠む。懐旧談もあれば横着心の交換談もあり、既にして最新表三階桐の間の主人公より急飛脚あり、曰わく即刻出頭すべしと。至れば黒川南安曇郡長以下の面々なり。無論〇〇〇を頂戴したるなり。談話は縦横十文字四方八面に飛び散り何れも不得要領なり。只デカク食欠しデカク酉卒す。

九月七日　火　雨　午前八時出発、黒川郡長、竹山校長の御同行あり。両青年を案内に人夫一名を従へ小梨平に至り、石灰華、即ち俗に木の葉石なるものを採集せんとす。然り而して思はしきものは見当らざるなり。見当らぬ事尚しのぶ可し、強雨盆を覆へすが如し乃ち……の農作小屋に入り込み、火を焚き暖を取る。既にして野荒しの刑を犯し

て、馬鈴薯を拾ひ来り炙り食ふ。味凡ならず、此処にては此小屋の主人が犯せる罪悪の一を発見す。然れども窃盗は相見互のやうなものなれば謹んで記さず。既にして雨漸く霽れたれば、神津学士?が見付けられたりとか言ふなる雹石の産地に至るに見当らず。天候のみかは採集迄も不漁なり、乃ちツイドホシなる天然トンネルの辺に至り雹石?の標本を採集す。此白骨温泉地方の地盤を構成するもの是なり。新宅の主人も竹山校長も来りて工を輔く。午後六時採集を終り湯本ホテルに帰る。今宵表三階菊の間に転室を命ぜらる。三転して益々上等室なり。五無斎今日始めて新聞記者たるの尊きを知る。今宵竹山校長、丸山局長及び古代の県会議員宮地翁と食欠し午前一時に及ぶ。白骨温泉は多分に石灰を含める硫黄泉にして殆んど仙郷なり。南安名物男の一人なる当家斉藤静馬君の此地に生れ出でたる抑謂なきに非るなり。然り而して師範学校放火犯人古川芳憲の関係者、佐藤貴江子も亦本村出身者なりといふ。偖々豪らき名物女と謂ふ可し。

九月八日　水　曇　午前七時白骨温泉を辞す。辞するに臨み勘定書きをといふ。然り而して僅々一円十銭なり。食欠料も人夫賃も将た石油箱代も籠り居らざるなり。茲に於てか五無斎は今日始めて新聞記者たるの卑きを知る。惟ふに此地方に至る新聞屋の多数は酉水料を支払はぬなるべし。即ち五円紙幣一枚を投ず。主人静馬氏出で来られ、六理八里に之を予がポケット中に押し戻されたり。乃ち又止むことを得すして之を受け、竹山校長同行にて林道を経て、午後六時島々に帰り清水に宿す。竹山校長と途中より大野川学校に帰られたれども、二里許りの道四時間を費し珍聞奇談デカク多し。然れども紙面限りあればコを詳記するの余白なし。

九月九日　木　晴　午前六時起床、七時出発、途中南安曇郡梓小学校の本校と分教場と更に梓高等小学校に立ち寄り渋茶を頂戴す。偖本日は北安曇郡仏崎と大出に趣く筈なりしも豊科に至りたる比ほひ手紙にて間に合することと為す。俥にて田沢停車場に至る。俥夫の小男なりし為め又ウスノロなりし為め僅々十秒の事にて四番の軌に乗り後れ何とやらいふ一旗亭に憩ひ二度目の昼飯を喰ひ終りしに同学の友工藤大校長の御来駅ありたれば簡単に〇〇〇を頂戴し終列車にて長野市山吉ホテルに帰る。今日長野駅のプラットホームにて県会議員小池新衛君に邂逅したり。ランプのウス暗かりし為め弁護士にして県会議員なる小島友太郎君ならんと誤認してヤア君裁判用カネと遣つ付け善くゝゝ御顔ばせを拝し奉れば小池君なり。コハ仕く尻つたりとは思ひたれども偖致し方なし。後にて聞けば安皮君より御神酒を頂戴したる為め裁判所よりチョット来イを遣られたるな

りといふ。偖々御気の毒なる事を言たるものなり。

九月十日　金　雨　今朝朝湯に行きたるの帰途県視松下金六氏を訪ひ今宵信濃教育会にて評議員会のあるを耳きたり。乃ち一日間の骨延しを為し午後八時同会へ出席。同事務所借り受けに関する交渉を為す。其他無事。

九月十一日　土　晴　午前新聞原稿などをものして牛阿弥朝臣を訪ふ。蓋し午後は戸隠登山を為し下水内下高井行をなす筈なれば諸事打合せの為めなり。而して信書二を接手す一は下高井報徳講会の案内状にして他は下水内郡長川上親賢君より来る二十七八の両日間飯山町に開催せらる可き信越連合教育会へ出席せよとの案内状なり。前者は今明日の開会なれば間に合はざれども後者は其間多少の時日あれば又昨年の秋越後松の山温泉に開催せられたる同会に出席して信濃川の治水問題を講論じたる縁もあれば又々今回の地学標本を新潟県下に売り込まんの野心もあれば日程変更を為して浅間登山と為し午後二時何分かの車にて長野市を発す。発するに望み上水内郡三輪小学校長長峯亥吉郎氏一行に邂逅す。乃ち率葡萄梨など取り交ぜ大枚金三十銭をはづみて乗車す。途中長峯君は知人より〇〇〇らしきものを頂戴せられたり。此物後に至りて抜群の効を奏したる話あり。午後四時頃小諸駅下車直ちに佐藤大校長を訪ふ。何も込み入つた話などしたるにては無く只浅間登山の道筋を聞きたるのみ。此大校長どのは五無斎が同学の友にして稍豪らき人物なり。政治家としての手腕は中々侮る可らざるものならん。長野県の学務課長にもしたく一度は代議士にも出して遣り度し。代議士としての君は北信政友会の安川立川の両川よりも無論豪らし。上柳などに比するに至つては況んや於てをやなり。午後四時小諸小学校を辞し浅間登山の途に上る。一行都べて七名なり。長峰校長以下の足並兎角遅々たり。五無斎は日の将さに暮れなんとするを言ふ。然り而して一行は之を信ぜざるなり。途上時候坊といふきのこの族生するを見る。五無斎はコを採るべきを言ふ。然りと而して一行は之耳にだも懸けざるなり。然らば後に至りて不食刑に処し酷き国に会はして遣らんといふに一ツ二ツを採りたるものも有りたるやうなり。午後八時よしが平の小屋に到着したるなれば日は全く暮れたるなり。小屋の主人提灯を持して先導し呉れたれば稍事なきを得たり。此小屋は去る五日を以つて落成式を挙げたるまで故開業式は今宵なれば喰ふ物も麦飯の外は何も無しといふ衆始めて駭然たり。即ち其きのこを採らざりしの罪を詰責して五無斎が採り来りたる蕈の塵芥を除くべきを命ず。六人十二本の手を出して塵芥を去る様殊勝なり。然れども其蕈の小屋にも沢山ある由を聞くに及んでは彼等復十二の手を絵葉書の撰択に転ず。人心の向背は掌に反すよりも速かなり。乃ち余り

の悔しさに長峰大校長と共に汽車中にて貰ひたる白味淋を呑みつつ蔓の味噌汁をデカク食ふて残り少なとなし遣りたり。一行中稍愚痴をコボシたるものあれども自業自得なれば偕致し方なからん。夕食後登山者名簿を見るに五無斎が初筆なり。乃ち宝翰凝香と謂ふ宝石入りの唐墨を摺り流しデカク謹みて信濃公論社長兼記者五無斎保科百助と署するに白紙一葉の添附しあるを発見したれば誰に頼まれたるにも非ざれども登山の顛末を書して序と為す。午後十一時過ぎに一同寐に就く。乃ち寐に就くと称すと雖も薄綿入か古ケットウ一枚位宛なり。午前一時頃小山太郎君に頼み置きたる人夫二人来る。又登山者二三十名ありてデカク騒ぎて復眠るべくも非るなり。乃ち蹶ね起きて朝飯を了り二時半頃此小屋を発し湯の平の小屋に至りたる頃夜は全く明け離れたり。此処は浅間山郵便局と北大井軍人共励会の出張所ありて同居し登山者の休憩所に宛つ。乃ちプイ一を為し道すがら浅間火山の御説明を申しあげ午前八時頃頂上に至りし長野師範学校長柴垣則義君等の一行に邂逅せたれば又々浅間火山の御説明を申上げて茲に訣れを告げ人夫二名を従へて鬼の押し出しに至り天明三年の噴出にかかる火山熔岩を採集す。偕此処にては少しく爆発と噴火の別の説明を試みんか。元来爆発は放屁作用に比すべく噴火は脱糞作用に譬ふべし。放屁作用に比すべき爆発に伴ふ現象としては屁に等しき亜硫酸瓦斯やら硫化水素やら水蒸気などを放出し屁の滓に相当すべき硫黄の結晶躰やら火山灰やらを降らすに反して脱糞作用に譬ふべき噴火に際しては本物の糞によく似たる火山熔岩を迸出するなり。然り而して黄を帯びたるもあれば黒きもあり赤きは赤痢病なるべく青きは野菜を多く食したる折の糞其儘なり。然り而して此鬼の押出しの物は赤し。

浅間山から、鬼ニヤ尻出して。

鎌でかつ切るよな、屁を放れた。

鎌でかつきるよな屁とは此火山熔岩の事ならん。善く善く考証を経たるには非ざれども爆発作用は常にある現象なれども天明三年の噴火作用に驚きたる土人の唱歌と見るを以つて極めて適当なる解釈なりと信ず。尚ほ他日古老に尋ぬべし。午後は人夫も将た夫子御自身も甚く疲労したれば華胥の国に遊ぶ。午後七時半頃夕食を了り炉辺の雑談に耽りつつありしにデカ地震あり。蓋し浅間山の大爆発を為したるなり。震源地の上に居る事とて上下動のみなれども凡そ四五寸許りも持ち上げられたる心地す。四十二年来始めての来なれば其周章狼狽したること大方ならず。而かも一回のみならずして六回と来たから溜つたものに非ざるなり。後に至りて諸人笑ひ草の種となりたるは笑止なる。乃ち〇〇〇を浅間大明神どのに供し身の安全を祈り其のお下

を頂戴し寐に就く。今日胃腸の間頗る不穏なり蓋し昨夜の時候坊が為せる業なりと知られたり。然れども五無斎は四回目にして全く治し長峰大校長は六回目にして尚ほ癒らぬといふ。是にて両人が胃腸の強弱を知るに足らん。五無斎が今日以後五十八年間在世すべしとの予言も蓋し根拠なきの空論には非るなり。昨今両日の記事はノベツ幕無しとなりたり。コハ六六睡眠せざりしの致す所なり。改め記すも七面倒なれば其儘になし置かん。

九月十三日　月　雨　午前七時起床、昨夜就寝の後も尚ほ二回の強震ありしとかにて柱にかけてありたる時計が二つ共に止まり居たるを発見す。偖々豪らき山と謂ふ可し。今日は朝来の雨降りなれば又昨夜の強震もありたれば四十二才の今日尚春秋に富むの五無斎なれば登山を思ひ止まり華胥の国に遊ぶ。午後一時頃に至り東京朝日新聞の安藤鉄腸君人夫二名を従へての登山あり。記者仲間の好みもあれば又浅間山の御説明も申し上げ度ければ又々幾分勇気も恢復したれば人夫二名を従へ郵便局長小山勝治氏の息男息女と他の女性一名を誘ひ合せて登山し行く行く浅間火山の御説明を申し上ぐ。鉄腸君喜ふ事限りなし。前懸山に至りたる比ほひ君は浅間山に登山せられ五無斎は堇青石の採集に従事す。堇青石は浅間火山第二外輪山たる此前懸山の特産物なり。陸軍省の三角測量台のある附近以下に産す。此地は十数年間長野師範生徒の地学旅行地となり居たるが上に昨日も数十名の生徒が登山したる事とて採集は六かしからんと思ひたれども採集の成績甚だ佳良なり。然れども一二貫目を得たるのみなれば素より鰻入標本たるなり。午後五時半頃真楽寺口より下山し天狗様のお庭を経て午後六時半頃湯の平の小屋に帰る。鉄腸君一行と僅々五十九秒間の差にて帰りたるは一奇と謂ふ可し。今宵デカク〇〇〇を頂戴す。一ダース、マイナス二、蓋し祝意を表せんが為なり。

九月十四日　火　晴　午前七時、湯の平の小屋を発し、九時頃よしが平の小屋に至る。主人は元来言舌せる男なるが、浅間山繁昌策として、又登山の便宜を謀り、浅間産の鉱物岩石を採集し置きて之を安価に販売し度しといふ。是は中々面白き考なり。更に一歩を進めて浅間火山の説明書やら、地質図を添えなば最も妙ならん。尚ほ之についての考案は、来年の春期再び御相談に来る可しといふ。主人喜びて〇〇〇などを出し呉れたり。偖昨夜何時頃帰りたるやと問ふに、実は自分の小屋の前にて、道に踏み迷ひ、夜の十時に帰りたるが、誤つて崖より転げ落ち天窓にシタタカ疵を出来したれば、悪いとは知りつつも、先生の革鞄の中を探してガーゼを頂戴したりといふ。奇薬もあつた筈なれども、何ぜ善く探さざりしかとて之を出し遣りたるに、主人喜ぶこと限りなし。偖朝日新聞の鉄腸君はといふに、ヒ

ドク愚痴をコボシたれども、亦昨日先生より貰いたる石は大切なものなればとて古新聞紙に包み、ニコニコ然として帰られたりといふ。此老爺由来請負師が本業なれども、四十余人の株主に推されて此小屋の主人となれる程の豪ものなれば、此鉄腸君がデカク喜びたるより思ひつきて前の浅間山岩石標本の事を思ひ立ちたるものなるべし。隅には置けぬ男なりと謂ふべし。人間は正直らしくデカキ事が好きと見え、二町歩許りも開墾をすべしなど力み居たり。偖此小屋を辞するに臨み、五十銭銀貨を出し茶代なりといふに、受けとらぬといふ。之を強ふればコを御持ち被下など言ひつゝ〇〇〇を鉄鎚袋の中へ押し込みたり。午後二時頃小諸町に帰り、小山太郎、佐藤寅太郎の両氏を簡単に訪問せしに不在なり、遺憾此上もなし。乃ち停車場に至り、二度目の昼飯を喰ひ居たりしに、岩村田小学校長臼田松太郎氏御夫婦の御来駅ありたれば例の老爺が贈りものを天口し、三時十何分かの軌にて大屋駅に下車し、小県郡傍陽村に至る。傍陽村に至るには神川豊里。殿城、本原、長の諸村を経過す。本原には二年間も小学校長もしたることありて知人多けれども、馬車馬的直行をなす。今日五無斎は去る明治二十八年中嘗て婚約せし事ある婦人の門前を過ぐ、門内に褌襦など干してあるを見て感慨無量なり、幾度かフリ返り家の様子など眺め廻したるは自分ながら愧かしき心地す。若し此家の主人公となりたらんには、余りルマには不足を感ぜざる可きに。噫。今宵の相客は越中国滑川町の薬屋さんなり、姓は島田にて、名は好なるが、印袢纏の文字を見て五無斎先生ですが御同宿をといふ、中々の長野県通なり。偖段々履歴を聞いて見れば嘗ては中野保君の私塾にも学び、江戸村の法律学校にも在学したることありといふ。是非共信濃公論を見度いからとて半年分の購読料と又宝丹丸三帖を出されたり。乃ち〇〇〇を捧げて其寿祝せんといふに、我は甘党なればとて菓子を買ひて貰ひ五無斎は天口し君は口食す。

九月十五日　水　晴　人夫四名を質ひ入軽井沢に至り、紅簾流紋岩と緑簾流紋岩とを採集す。此紅簾流紋岩なるもの、世界に於ける奇品なる由、山崎理学士の著書に見えたり。只思ふやうなる材料に乏しく、今日一日にて採集の済まざりしを遺憾とす。今日青年人夫共の仲間入を為し、野荒しの形を冒して南瓜を炙り喰ひ、デカ胃病を起し四回吐す。果して天網は、恢々疎にして漏らさざるものか。今宵の相客も亦越中の薬屋先生なり。先生中々文字あるものと見え、朝日新聞など懐中せり。乃ち公論一葉与えしに、隅から隅まで読んで仕舞ひ、時々微笑をもらす。越中の薬屋何んぞ、文字に富むの甚しきや。

九月十六日　木　曇　紅簾流紋岩は採集費用金二円十銭と

外箱代繩代等を支払い、採集方を此土地の青年に依頼して此地を引き上げ其昔佐久間象山翁が毎夜峠越え、七里の道を通学したりと言ひ伝ふる地蔵峠を越え豊栄村に至る。

信州で、二人男を。見立つれば。

保科五無斎。佐久間象山。

偖コ、にては村雨石即ち第三紀頁岩の触接変質を受けたるものを採集する筈なりしも何だか区有原野のうちにあれば、区長に届け出でねばならぬなど土人の言ふを耳にしたれば、小面倒なりと思い同地小学校に至り、校長君に面会し、更に役場の助役君にも拝謁を遂げ採集方一切を依頼し、西条、松代、寺尾、川田諸村を経て綿内村の定宿菱盛館に投宿す。隣室に四客ありて正さに御酒宴中なり。五無斎が至るを見て、

抱負なし。無論抱負は。無けれども。

外の野郎ニヤ。有りと思ふか。

詠み上げつつ何かブツブツ御相談がありたるやうなり。是は五無斎が数年前戯れに衆議院議員の候補者に立ちたる折の作なり。

既にして其のうちの御一人は襖を排して御入来あり。今度は愈々アナタの番ですなあと薮棒式に出でられたり。五無斎は頗来同候補を断念したりといふに、仮令アナタが辞したりとて、世間にて無暗に押し立てたらば如何などいふ。世間の人より押し立てらるる虞は今後五十八年間は無かるべし。然れども徒らに危大を致せる政友会の跋扈も、五年とは永続せざる可し。北信政友会の代議士が揃ひも揃ふて収賄罪とは情はなし。世は漸く彼等政治屋の所為に懲焉たるものありと見えたり。何は兎も角も〇〇〇をといふ。デカイロを天にせり。扇面も六七本は書きたる心地す。既にして同学の友にして此地の校長たる宮川久三郎君の御来臨あり。酉卒して就蓐迄の経過を知らず。翌朝番公に聞いて見れば〇〇〇の数都べて20－1＝19なりといふ。偖々豪らく酉水を天口したるもの哉。

九月十七日　金　曇雨　午前八時綿内を発し、教育宗総本山の管長より、願によらずして本官を免ぜられたる丸山新一郎氏の御旧跡ある井上学校に立ち寄り小山、須坂、高井の諸村を経て、上高井郡山田温泉に至り。数年前の、定宿遊神館藤本に投宿す。稍門前払いの刑を喰べんとはしたれども、桧笠に書き付け置きたる歌の文句の効により。表二階一番室の主人公となりたるぞ嬉しき、今宵原稿などものし午前一時に及ぶ。

九月十八日　土　曇雨　人夫二名を賃ひ、午前五時煙霧を冒して出発白根山を為す。白根産の自然硫黄を採集せんが為なり。硫黄など至るところに産すれば、何処で採つても同じけれども、実は信州に三大活火山あり。浅間焼岳及白

根是なり。既に焼岳にては本年六月一日爆き出したる火山灰と火山礫とを採り、浅間にては天明三年に噴き出したる火山熔岩と菫青石を集めたれば硫黄は是非共此地のものにあらざる可らず。

然り而して遊神館主人の談る所によるも、人夫共の話を耳いても、絶えて山にては売らぬといふ。ベラボウそんなことがあるものかと言ふて出発ー、正午長野市の午砲が鳴りたる時をもつて、頂上に達す。煙霧四塞、白根火山の構造を見るにヨシなし。午後一時過ぎ湯花採掘事務所に達する比ひ、少しく晴れたれば中央火口丘上に登りて四瞰するに（彫刻間にあはず図は之を略す校正便）のやうな構造なり又浅間山は（これも略す）にして焼岳は只（これも略す）こんなものなり。偖事務所に至りて湯花即ち硫黄を売つて貰ひたしとて、盛んに記者風を吹かせ、日本中に広告してやるなど実虎言打ち混ぜてベラベラと並べ立てたれば遂にお譲り申さんと言ひ出でたるには稍愁眉を開きたり。只十貫目二円五十銭は殆んど十倍の値なり。又もや御意の変らぬうちにと急ぎ荷造りをなし、万座温泉にて二度目の午食を喫し、七味の湯を経て午後八時過ぎ山田温泉に帰る。七味温泉以下一里半許りの間雨降りなれば真の暗夜なり。七味温泉にて借り来りたる、提灯の効遂に没すべからざるものあり。帰来人夫料はと言ふに親分に聞いて来る可しとて立ち去りたり。親分は此地の郵便局長殿なり。人夫料二人分にて一円六十銭の書き附けを持参し来る。朝の三時に起き五時出発雨天を冒して夜の八時に帰り、十時就寝位のものならんに一人八十銭とは如何にも安価なり。乃ち〇〇〇など与へんといふに、口を小さくして多くは飲まず、余り多くの人夫料を貪らしめぬが如きは、偖かに土地繁昌策の一なり。

（信濃公論　第二四号～四八号
明四二、四、一一～同、四二、九、二九所載）

五　勧焼岳登山文

山千川千居士　五無斎

梅雨の期節とて、兎角鬱陶しき天気に御座候処、各位益御清穆に渡らせられ候や。不肖五無斎事、幸にして頑健に有之候まゝ他事乍御安意被下可候。偖前号前々号に於てチヨツト焼岳の事を記し候得共、今回は同登山を御勧誘申し上ぐるものに御座候。抑も焼岳と申すは、信飛両国の境上にある乗鞍火山脈中の一峰にて、一昨年頃より稍活潑な

る活動を始め、本年六月一日の如きは中々侮る可らざる勢を示し申候。然れども亦案外なる小活動なるには驚き入り申候。頂上附近に於ては、直径一尺五寸位の富士岩塊を抛げ出し置き候得共、頂上より半里程なる蒲田峠の頂上附近に於ては、直径三寸位のものが大関に御座候。更に半里許りを下りたる麓の辺にては、直径三分位のものにて、上高地温泉にては、直径一分位なるは、其最大なるものに御座候。直径三寸のものは、直径一寸二分位の樹枝を打ち折るの勢を示し候得共、直径一分のものは、草の葉の枯らす程の仕事も出来申さず候。然り而して、上高地温泉は、頂上より二里弱なれば、直径にしたらば二十町位の近距離に御座候。世の新聞屋なるもの、深く実地をも究めず、焼岳噴火、焼岳探険などの文字を羅列すれども、片腹痛き事に御座候。噴火とは地球の内部より、ビール罎を熔した様なものを噴き出すこと、之を人体に譬ふれば、脱糞作用に御座候。然るに焼岳今回の活動は、放屁作用即ち火山の爆発に外ならず候。放屁作用の産物は水蒸気と亜硫酸瓦斯の硫化水素とに御座候。尤も屁ッカスとしては、火山礫及び火山灰をも吹き出し申候。而して此の屁の滓は爆発孔の周囲に附着致し居り候。殊に硫化水素と亜硫酸瓦斯とが、互に作らきて硫黄を生じ、孔の周囲に附着するなど、愈其放屁作用なるを証し申候。是が噴火と爆発の区別に御座候。浅間の如き天明三のものは爆発に次ぐに噴火を以つてし候得共、今回のは爆発のみに御座候。火柱が立つたなど申候得共、是は空中電気がニハカニ発生したるものに御座候。浅間は尻の孔がデカキ故、デカ屁を放れ申候得共。焼岳は小屁を放れたるのみに御座候。斯の如き次第なれば、危険分子は先つ以つて無き事故、続々御登山可然と存候。近頃探険の文字を濫用するには困り入り候。白馬岳などは維新前は、女子供の通りたる通路に有之申候。焼岳附近などは、嘉門次親爺が数十年来の遊猟地に御座候。只今にても毎日十五六人位は通行致し居り候。此頃神保博士を訪ひたる折、探険の文字濫用に関する談話を致候に、真の探険などいふことは、西洋にも無き由に御座候。西洋人は案外臆病人のみ多く、只々金銭を惜しげも無く支出して大名旅行を為すのみと言はれ申候。金さへあれば随分豪らき処へも行かれ可申候。然り而して人足一人、一日平均一円宛支給致候得ば、夫にて宜敷御座候。焼岳位なれば、案内人は不用に御座候。松本より島々まで五里、島々より上高地まで六里、上高地より焼岳まで二里に御座候。最後に筆序なれば、此辺の案内記をものすべく候。先つ以て松本を出発点と致す可く候。

初日　馬車にて松本を発し、島々に至り、稲扱屋食にて、白骨温泉泊り。此間吸ひ通しといふ天然トンネルの上を

過ぐ。足弱の仁は島々泊りにて、四近の風光を視察す可し。此辺は飛驒街道なれば案内人不要。

二日　白骨滞在。吸ひ通し鬼が城を見、霰石木の葉石などを採集し、一日間保養。

三日　乗鞍火山へ登る可し。噴火孔あり。中に火口湖あり。遊泳に適す。即日白骨温泉に帰る。往復にて八九里。案内人一人あればよし。

四日　硫黄岳登山、硫気洞の視察。硫黄と動物の遺骸採集。時としては、熊や岩鹿、小鳥等の獲物あり。即日帰日、案内人入用。往復にて六七里。

五日　白骨温泉を発し、焼岳登山。火山礫火山灰及び硫黄等採集。上高地温泉投宿。行程六七里。

六日　嘉門次を案内に、明神が池を見、穂高岳登山。即日上高地温泉に帰る。行程五六里。

七日　上高地を発し、嘉門次を案内に鋒が岳登山。今宵は野営。行程五六里、途中熊倉沢にて菫青石を採集すべし。

八日　鋒が岳を発し、湯股水股に至り、霰石採集。東沢の小屋にて野営。行程五六里。勿論嘉門次の案内を要す。

九日　東沢の小屋を発し、有明山の南に出で中房温泉一泊も面白けれども、高瀬川に沿うて下り、葛の湯泊りも亦愉快なり。是より越中の国立山温泉へ入浴などは最も妙なれども、稍探険の性質を帯ぶ。

十日　中房、葛の湯御滞在は御随意なり。或は松本に、或は大町に適宜御帰館。

斯の如くにして各地到る処、動植物や鉱物岩石等御採集相成候はゞ、稍探険の性質を帯び、温泉巡りも出来、精神上に於ても、将た又身体上に於ても、得る所少儀と存候。更に青木、木崎、中綱等の湖に遊泳を試み、白馬登山、天狗の湯の御入湯などは頗る興味ある旅行と存候。時将さに暑中休暇に向はんとしつつあれば、暑中御見舞の印までに勧焼岳登山文一篇を草し申候。敬具

明治四十二年七月二日　山千川千大居士　五無斎

読者各位御中

追啓　本文中申上度と存居候処、チヨット失念致候まま、書き加へ申候。或る新聞屋共が、焼岳の降灰を以つて、麦作に効能あるやう二号活字にて報道致し候得共、飛んでも無きソラッカスに御座候。火山灰の上に雑草さへも容易に発生するものには無之候。新聞屋の無学、今更アキレ返り申候。又某農学校にては、態々此火山灰を取り寄せて、之を桑の葉に混ぜて、蚕児に喰はしめたるやう新聞紙に見へ候得共、斯る実験は如何にも滑稽の極に御座候。以後御嗜みなさるべく候。右二個状謹んで申添候也。

（信濃公論　第三六・三七号　明治四二、七、七～同七、一四）

六　三たび東上日誌

石屋　五無斎

明治四十二年十月二十五日朝神保博士より信州産岩石鉱物標本の順序を訂正したるものが到着せり。乃ち之を一瞥するに稍順序等の意外なるものあり。又異なりたる標本を誤つて送りはせぬかと思はるる向きもありたり。凡そかかる事を書面にて照会するは案外に日子を要するものなり。乃ち三たび東上意志の鞏固なること岩石鉱物の如く若し詩人たらしめば、　五無斎頗〻欲〻儲〻金〻。一年三度入二皇城一。　とでも書きたき所なり。

午後直ちに電報にて博士の在否を質すに午後一時より二時迄の間在宅との事なり。即ち夜行と決し夕食後諸種の準備を為し午後八時発の汽車にて長野市を発す。五無斎その夜の扮装は元治元年頃宮沢春文ぬしが本多家より拝領したる黄羅紗に四つ葵の紋所置きたる陣羽織に金鎖一挺たばさみ予ねて犀北館主人より拝領したる紺無地の区無し袴を穿ち下には祖先伝来角九曜の紋所したる木綿斜子の羽織と石屋五無斎の印袢纏を着込み浅間颪と戦はんの準備おさおさ怠りなし。此頃の夜行列車乗客の少かるべきこと予想したるに豈不んや中々の雑沓なり。雑沓なるは何故かと長野駅の助役君に質すに越後地方よりの労働者の上京するものなりといふ。時是れ黄金の主義は漸く日本国民の間にも了解せられ始めたるを知るに足らん。軽井沢に至りたる比ほい寒気肌を襲をの報あり。然れども〇〇〇君の応援を得たれば容易く之を撃退し高崎に至りて牛飯を喫う。午前五時何分かに上野駅に着し直ちに一旗亭に投じて虎飯を食ふ。味凡ならず。午後一時迄は用事なし。一睡を貪らんかとも思いたれども直ちに電車に飛び乗り渋谷に至り独立評論社長主筆兼小使山路愛山翁を驚かし遣らんとして一査公に翁の邸宅を問ふ。査公先づ驚き五無等を案内して中渋谷に至る。是れ五無等が服装の異様なるにも因るべけれども翁の盛名附近に隠れなきを知る可し。勿論翁とても驚きたるには相違なからんも態と驚かぬやうなるが翁の特色否悪癖とも評すべからんか。似たもの夫婦とやらにて老嫗亦然り然れども翁に半ダースマイナス、一の子女あり。其驚骸蓋し大方ならず只々座敷の中を東西南北上下四方八方に飛び廻り嬉々として笑ふ。然れどもお嫁盛りには尚ほ五つ六つも不足なる長女の君は遂に出で来らず、只戸の節穴より五無等を窺ふのみ。其の理由を問へば若しや珍客の前にて

笑い出すこともあらんには失礼に当るが為めなりといふ。翁は頻りに田舎にて発行する週刊新聞記者としての秘訣は盛んに他の日刊新聞の悪口を叩くにありと御教訓ありたり。教訓らしからぬ御教訓と謂ふ可し。江戸村附近には暦日もあることなるべければ雑談をば手短かに切り上げ土屋同社員の案内にて信州植物学の大家遠き将来の理学博士田中貢一君を簡単に訪問しお茶の水附属中学に至り伊藤長七君を訪ひ鉄葉印刷工場のある所を問ふ。手工科の教官岡山秀吉君と共に頗る斡旋し呉れられたる様なれども遂に知れざりき。正午二三年来の定宿旭館に至り馬飯を喫ふ。因に云ふ。馬飯は午食なり。

斯の如くにして神保博士と兼約ありたる午後一時には尚ほ三十分なる頃ほい膝栗毛にて帝国大学に至り鉱物学教室に至る。待てども暮せども博士は遂に来られざるなり。

大西君が若しや工科大学にもやと注意せられたれば急ぎ同大学に至りたるに未だ御登学なしとの事なり。万事規律正しき博士の事なれば御在宅ですかとの電報に対して午後一時より二時迄の間ひまとの御返電ありたることなれば、御自宅ならんとの推察より本郷東片町に至りしに今朝高等師範学校に赴かれたるままにて直ちに帰宅すべければ暫時待たれよとの事なり。乃ち裏二階なる一室に通りて暫時博士の御帰館を待ちつつありしに博士は遂に帰られざるなり已にして和田助教授と電話にて約し置きたる午後三時とはなりにけり、乃ち博士の留守宅を辞して第一高等学校に至り同助教授やら広瀬教授に御目にかかり標本説明の躰裁やら順序の意外なる点など打合せをなしつつありしに博士より電話あり至急来れとの事なり乃ち同校を辞して博士を訪ふ。寒喧の挨拶など済むや済まぬに博士は先づ一時間を約して説明書に関するお打ち合せあり説明書は既に出来居れども上京したるは非常の好都合なり、寸珍本百頁内外のものなれば今宵中に通読し且つ意見を記入し置きて明朝更に大学に来るべしとの事なり、乃ち辞し去らんとするに〇〇〇は既に御用意ありたるなり、乃ち簡単にコを頂戴して蒼皇東竹町の木賃ホテル旭館に帰える。

帰館後一室に籠りて説明書を通読しつつありしに既に夕食の済みたるを報告すること忘れ居たりしに主人〇〇〇附きの膳部を持ち出で且つ蠟石の粉を製造して千住の製紙会社へ売り込みたし如何などの質問あり、之れが設計書などを示さる、頗る詳密を極むるものありと雖も大きな穴が二つ三つ明き居るなり、乃ちコを主人に説き示しつつ且つ言ふ、凡そ斯る事業に手を出さんと欲せば先づ以て五無等などに問ふは野暮なり、信州狭しと雖も尚一代にして百万の富をつくりたるもの三人あり、片倉兼太郎黒沢鷹次郎及び吉江源次郎の三氏是なり、是等三氏の着眼点は蝦蟹類の夫

の如く頗る甚だ高しヨシ今提供するが如き事業に対しては勿論経験は有らざらんかなれども設計書を一覧せば直ちにその有利の事業なるや否やを看破せん、凡そ之等の三氏にしては有利の事業なり、資本などは何程なりとも出して遣るべし吾等をも仲間入りせよと進んで自ら乗り込んで来るやうなれば既に布袋和尚の如きお懐となりたるなり、ヨシ文章など少し上手に書くとも標本屋営業にて少しく石の事を知り居ればとて五無等に問ふことも須ひんや、是等の三氏へは五無等謹んで紹介状を発せんといふに主人頭を掻き後一語を発せず、乃ち切角出し呉れたるものなればとて二本の〇〇〇を天口しつつ説明書を通読して午前一時に及ぶ、一時半頃寝に就きたれども簡単なる夢を三つ四つ見つつ四点鐘までは聞きたる心地す。

次号には予て贈り置きたる謝儀の大部分を義侠心ある博士より突き返されて困んまりの場中等列車の中にて切符切りと某陸軍歩兵大尉とを閉口ませの幕を記すべし。

（信濃公論　第五九・六〇号　明治四二、一二、一五～同一二、二二）

七　ブラッキ日誌

五無斎

（一）

明治四十三年正月十日　五無等はブラッキコートの扮装にて長野県庁に至り刺を県知事大山綱昌君閣下に通して謁を求む。例によらずして例になく快諾せられ五無等を引見せられたり。乃ち全国商工業視察の意を述べ各府県知事並に文部大臣への添書を乞ふ。之亦例によらずして例になく快諾せられたり。乃ち五無等はブラッキコートの功の大なるを知る。十一、十二。の両日間心当りを暇乞す。送別会を開くやうなる噂さ到る処に無し。是……とは言へ凡そ五世界に家なき天竺浪人の事なれば所謂旅立の性質無きが為めなるべし。然れども十二日午後十一時頃帰宿するや同宿の藤森省吾君別杯を汲まんといふ逢瀬館主人も亦来り会しデカク天口し酉卒して午前二時に及ぶ。

正月十三日　木　雪　　烏の一番鳥に目醒む。然れども腰は未だ立たざるなり。蓋し夜来天口酉卒の結果なる可し。

午前七時起床、朝湯に行き帰途与良県視学君に邂逅す。乃ち打ち連れ立ちて帰宿し少しく天口酉卒す。立ち振舞に合せて信濃図書館に寄附すべき倉庫の設計書を示さんが為めなり。既にして清水活版所の主人〇〇〇御持参ありたり。之れ餞別品とは知られたり。金井昇旭堂の立派なる名刺一百枚と此〇〇〇一罎のみが今回の旅立ちに際しての一大餞別品のみ。偖出発に際しては驚く勿れ見送り人は僅々二人のみ。曰はく逢瀬館主人。曰はく清水活版所の主人。偖愈上り三番にて長野市を発し上田町に下車す。勿論青切符なり。赤帽を求むるに来らず。乃ち夫子自身飛び下りながら革鞄蝙蝠の類を下ろさんとして過つて革鞄一個を大切の上に落すに罎破れ酉水出で意外の大洪水なり。見るに見兼ねてか柳沢太郎兵衛氏手拭やら風呂敷やらを貸し与へられたり。乃ち中なる荷物を出し風呂敷に包みて赤帽君に托して干して貰ひ小県蚕業学校に至る。休業中なり。乃ち去つて十九銀行に二宮翁を訪ひ三吉氏への伝言を依頼し置き小県郡役所に武井郡長を訪ふ不在なり。乃ち去つて三吉君の私宅を訪ふに在宅せられたれば玄関先にて同校本年度産の五穀並に繭の払下に関する打ち合せを為し某出歯式教育家の御旧蹟を簡単に巡覧し上り四番列車にて上田町発小諸町に下車す。下車するや否や数年前のお弟子島田某に邂逅す。乃ち停車場前の一旗亭つるや支店に立ち寄り女将に托して電話にて佐藤大校長の在否と当方より出向く可きや将た御来亭ある可きやを質さしめたるに今宵家移りを為したるのみなれども幸ひ附近に〇あり〇あり直ちに来れとの答へなりしを女将之を矯めて今宵家移りを為し其混雑一ト方ならねば当方より御機嫌を窺ふ可しと為す。乃ち知らぬ仏とやらにて島田子を拵して登り先づパイ一を傾く。待てども暮せども佐藤大校長は遂に来らざるなり。即ち電話にて再びコを問ひ合するに用事済み次第参上併し不定なりとの事なれば簡単に〇〇〇を切り上げ入浴し将さに寝に就かんとするに佐藤大校長の御来臨あり。盛んに語り盛んに天口酉卒し午後十一時半に及ぶ。此間の消息書かば面白からんも書かぬが花ならん。

(五)

二月二十日　日　晴　終日雑務に鞅掌す。

二月二十一日　月　晴　郡視学会議に出席して地質図の見様を御説明申上げ標本の売れる様御頼ミ申上ぐ、地質図の評判甚だ善し。

二月二十二日　火　晴　午前長野監獄署に至る。附属小学校と県庁と教育会に陳列し置く可き標本箱の蓋を注文せんが為めなり。午後後町小学校に至る。長野県地質図の見様を御説明申上ぐ、鍋屋田小学校の先生方も御出席ありて総員五六十名なり。

二月二十三日　水　晴　　午前は何をしたりしか忘れたり。

午後附属小学校に至る。同じく地質図の見様を御説明申上げたるのみなり、上高井の小学校長諸氏全部御出席ありたる為めデカク愉快を感じたり。又非常に好都合なり。

二月二十四日　木　晴　　郡視学会議に出席す。縁日商人の例により各校長会議の日取りを拝承せんとはするなり。小県、北佐久、東筑摩、下高井、上伊那、下伊那の六郡は確定せり。埴科、更級、南安、下水内の四郡確定せす。不平なり。

二月二十五日　金　晴　　信濃教育会へ出席標本の陳列を為す。

二月二十六日　土　晴　　午前信濃教育会の評議員会へ出席地質図説明書並に教授法等を御配付申し上ぐ。十一時何分かの汽車にて上田町に至り小県校長会へ出席。地質図の見様と小県郡標本採集の必要論を説く。時間は二十分間なれども言はんと欲したる丈ケは言ひたり。四時の下り汽車にて長野に帰る。武井郡長も同車なり。郡長君五無等への義理を立てられ三等に乗り込まれ五無等は又郡長君へ義理を立つる積りにて二等をはづみたりし為め遂に車中の談話を交換することを得ず甚恨む可しと為す。然れども塩川幸太君の同乗せられたれば水密桃と人参の話を為す側らに頗る甚た非常にデカク別品なる妻君御同道の一紳士ありて五無等の顔を御写生あらせられたり。乃ち名刺を出して充分御写し下さる様申上げたりしに先方にても名刺を出されたるを見れば小県蚕業学校の稲村君其人なり。是より談話は常に三角に飛び散りたり。午後五時岡田事務官の送別会へ出席。会費金二円也。演説は別項の如し稍上出来なりとの評高し。然れども五無等は只五無等の言はんと欲する所を言ひたるのみ。デカク天ロ酉卒す小ヤ久君牛山君に有難う。宜敷といふ偽善家の言ひそうな口吻なり。

二月二十七日　日　晴　　信濃教育会の評議員会へ出席地質図の見様を申上げ又教育会の事業として各種の標本調製の事及び標本を御買上げ願度しと申し上ぐ。標本製造皈売の事佐藤寅兄には少しく分りたるものゝ如し。寅兄は遂に馬鹿者ならず。午後七時より竹葉亭に至り三村寿八郎君の過般文部省並に本県より褒賞せられたる事の祝賀会へ出席す。驚く勿れ会主は信濃毎日新聞主筆大原里靖君を始めとして小西荘光飯田牛阿弥等の三人なるに入会者は五無斎只一人のみ。お酌は如、東。外一人は、忘れたり。何れもロから先へ生れたる人々と見え五時間許りノベツ幕なしにデカク吹きたり。牛君の地口評判最も善し。芸者学校設立談より大山知事の馬鹿か利口か論に及び、大山知事は非常に細事にまで目端の利く利口者なること、漢学の素養ある

こと、怒声を聞きたる事なきなどの三個条を満場一致にて決議す。

二月十八日　月　晴　　小穴君牛山君等来る。金子二三千円欲しきなど語り合ひ戒厳日誌を書かねば善かつたアノ時他家に養嗣に行けば善かりしなど愚痴る愚痴るの意味は深長なり。

(六)

三月一日　火　晴　　昨夜東奔西走、南船北馬の準備として東奔西走、南船北馬以つて午前一時に及び睡眠不足の為めに上り一番に乗り後れ二番の上りにて北佐久校長会へ出席信州地質図の見様と北佐久郡標本採集の必要論を申し上ぐ折井最一君も来り会せらる。新案の光学器械売込みの為めなりとか。都合の善き器械には相違なけれども価は稍不廉なりとの感あり。午後五時より佐久ホテルに懇親会ありたれば出席す。気焔の豪らさ加減は昨年の浅間山爆発以来競争的に其歩を進めたるものか。誰やらの蓼科、小諸、岩村田の三乙種学校を郡立とすべからずの演説あり。五無等も立ちて他に小諸、岩村田の中間に一の完全なる私立中学を設立したならば同意見なりと言ひたるに郡長広長君も立ちて郡会町村会教育会及び校長会等に諮問案を発して後決する所あらんと仰せられたり。郡長君の此仰せは御尤もなり。願はくは万事斯く有り度きものなり。二次会も有りたるやう記臆す。

三月二日　水　晴　　簡短に校長会を拝観し小諸町なる商工学校に至り同校生徒教員諸氏の為めに地質図の見様を申し上ぐ。今日岩村田町の議員諸氏十余名は同校を参観せられたり。岩村田町に高等女学校設立準備の為めなりとか。然れども高等女学校など何うでも善し。男子の中等教育を受く可き機関を眼の前にブラサゲたらば小学児童の向学心を旺盛ならしむるの効能頗る甚だ多からん。佐藤大校長より教育社会の志士なる免許状を拝受し下り三番にて長野市に帰る。

三月三日　木　晴　　上り二番にて松本市に至る。汽車のランプは中等なれども一つにて甚だ暗し。午後四時源池の小学校にて地質図の見様を申し上げたる後三村大校長に宿し神津大校長と盛んに天口酉卒す。今日平林首席訓導の為めに新案国語教授法を申上げたりしに七分通り賛成なりとの御詭ありたり。七分通り申上げたるものに対して七分通りの御賛成あるたるなれば若し十分に申し上げたらば悉く御賛成ならん。

Ziegler 式教授法の第二篇は国語教授法として市場に発荷せんか。

三月四日　金　晴　　東筑摩校長会へ出席して地質図の見様を申し上げ更に女子師範学校に至りて生徒諸子の為め

に又々地質図の見様を申し上げ。更に更に美遊喜に開かれたる東筑摩校長諸氏の懇親会へ出席す。北佐久とはアベエコバエに演説などするもの一人も無く只々五無等の泣き言演説ありたるのみ。今宵三村校長に宿す。

三月五日　土　晴　　俥にて南安曇郡豊科村に至り同地校長会へ出席地質図の見様を申上ぐ。郡長は福田富蔵君にして視学は黒河内健君なれば天口酉卒せぬかとの仰せありたれども今宵松本市に佐久人の懇親会ある筈なれば謹んで御辞退申し上げ松本館に至る。高橋翠峰先つ在り。六三支店長の塩川賢三初鴛の市川芳助君を始めとして神津、小泉、増井、佐藤等大校長連の在る有りて盛んに天口酉卒す。お酌の一人にチヤラ子といふかあり数年来のお馴染なり。男ぶり。悪くても善し。馬鹿でよし。

金ある客は。チヤラ〳〵と言へ。

是はチヤラ子に対する広告文なり。銀行会社や政事家連の為めに提灯は持ち難けれども芸者や娼妓の為めには聊かコを持ちたりとて新聞記者などの躰面に疵のつく事は無からん。今宵浜屋に泊り同宿の〇〇、〇〇の両君と無事に眠りたれども〇〇君と〇〇君とは何れへか沈没せり。

三月六日　日　晴　　昨沈没せられたる〇〇〇〇の両君も帰られ沈没せられざる〇〇〇〇の両君も起き出でられ簡単に〇〇〇〇会も始りたれども〇〇〇〇せず原稿など書き魚網の〇〇〇〇会へも出席せずして汽車にて上諏訪に赴き常盤館に宿す。途中某駅にて下車し某氏を訪ひ〇〇〇〇したれども此記事は書かぬ必要あり。故に記さず。

三月七日　月　晴　　諏訪校長会へ出席。例によつて例の如く信州地質図の見様を申し上ぐ。東筑摩校長会以来国語教授法を加味することとせり。コハ両三回他の意見を叩きしに現今の時弊に適中するが上に幾多教育学教授法中にも散見せざる新説なりとの評高ければなり。折井茂一君も来り会せられ停車場前の某旗亭に〇〇〇〇せぬかと言はれたれども僅かに二三〇を傾けたるのみにて三時何分の下り汽車にて長野市に帰る。

三月八日　火　晴　　大沢辰兄を簡短に訪問し上水内郡役所に至り地質図の見様と上水内郡標本採集の打合せを為し稍時間の切迫したりし為め十二時の汽車に乗り後れ二時何分かの汽車にて更級郡役所に至り同郡校長会にても亦例の御演説を申し上げ直ちに出発せんかと思ひたれども〇〇〇〇会の在るあれば是非にと言はる。下地は好きなり御意は善しとの原理により少しく〇〇〇〇したりしに二三分の事にて辰野行きの汽車に乗り後れ停車場前の一旗亭に宿す。稍下女君にツラク当りたる心地す。二回共汽車に乗り後

れたるが為めなる可し。然れども若し長野にて乗り後れずば更に埴科郡の校長会にも出席す可かりしなり。埴科郡視学田中文治君は稍広き意味に於ける御同郷の人なり。過般郡視学会議の折校長会の日取りを御通知あり度しと懇願したりしに若し忘るゝと行かぬから口頭にては頗る甚だ不可なり。書面にて御差出し相成り度しとの事なり。然れども五無等の経済は一銭二銭の端金さへも大切に使はねばならぬ故再三再四嘆願に及び置き三銭の郵便切手を倹約したりし為め遂に文治閣下の予定の忘却に逢ひたれども縁日商人仲間の折井君より聞き込み置きたればヨシ御通知には接せざりしも押して参上する考へなりしも遂に其意を果さず頗る憾む可しとなす。五無等と埴科郡とは余程宿世の因縁薄かりしと見えたり。

三月九日　水　晴　　甲府行きの一番に乗り込み辰野駅にて下車し上伊那郡役所に至る。例の通りの演説は勿論標本売り込みに外ならざれども又一昨年中五無等の採集し整理したりし上伊那郡標本の整理の仕直しと上伊那地質図出版の下相談なり。同地質図は理学士中村新太郎氏が数年間に亘れる苦心研究の余りに成り頗る詳密なるもの又甚だ有益なるものなれば五無等の標本を御買ひ下されたる華客諸君にも亦其他の学者教育家諸君にも是非共御見せ申し度きの好地質図なればなり。又未だ相談はせざれども矢沢君の信濃博物学雑誌の附録ともし度ければなり。今宵大校長連の催しにかかる〇〇〇〇会に出席したる後数年来の定宿ある屋に泊り込み宮下清水藤生等の諸氏と再び〇〇〇〇す。

三月十日　木　晴　　宮下大校長を箕輪屋に訪ふ。既に御帰校ありたりとの事なり。今日は稍閑暇なれば忽ち赤穂行きを思ひ立ち馬車にて赤穂小学校に至るに父兄懇話会あり。田舎講談師ありて学校の先生でも演じそうなる軍人の妻女が孝貞談をものす。小円が長野の三幸座にて児島高徳を語りたる如く何となく不出来なり。之れ必竟は彼等に忠君愛国孝悌忠信を談ずるの資格なきに因ることならん。忠臣蔵か伊賀越でも談り居らば稍聞けることならん。学校職員役場員諸氏の慰労会へ出席。何等の苦労もせざりし五無等は立つて何事か申し上げ臍の宿替をしてお上げ申し宮下大校長に宿し二度目の〇〇〇〇を為す。

(六)

三月十一日　金　晴　　赤穂を発し坂下を経て辰野より汽車にて松本に至り湯禿山を訪ひ〇〇〇〇す。只々入魂の間柄無意義に〇〇〇〇したるのみ。

三月十二日　土　晴　　鉄水和尚を訪ひ今日広嶋高等師範学校長北条時敬氏が三十余名の生徒を引卒して御来松ある可きを聞く。乃ち松本女子師範学校に至り附属小学校にて国語教授法の話などしつゝ氏の来着を待つ。午後六時頃

同氏一行は矢沢校長の先導にて御来着校内を御巡視相成りたり。五無等も予て準備し置きたる標本を御目に懸け地質図説明書及び教授法などを御進呈申し上げたりしに一行中に元長野師範学校附属小学校の主事渡辺辰次郎君の在るありて標本の御注文を申し受く。之れにて東京の男女両高等師範学校と広島高等師範学校に標本の売り込みが出来たるなり。余す所ろ奈良の女子高等師範のみ。信州産の岩石鉱物を以つて日本の地質を説明するが最も捷径なりと。五無等の議論が聽がては満天下教育社会の輿論と為るの日もあらんと思へば嬉れしとも嬉れし。今宵浅間目の湯の懇親会へ出席。座上関島房太郎君を弔ふの歌を誦し追善供養に併せて五無等の経歴を敍し偕向後標本屋として社会に立つ可ければ御見知り置きを乞ふと陳べたりしに矢沢河野の両氏を始めとして満場の諸君五無等の経歴を北条校長一行の諸氏に御説明あり。何れも五無等の為めに利益多き陳述なり。殊に温厚沈黙なる河野齢蔵氏の口よりは聞き捨てにならぬ程なる有難き御言葉あり。嬉れしとも嬉し。之より五無等大発展の端緒を得んか。右終つて別室に於て唐沢松本女学校長と簡単に〇〇〇〇にして目の湯に宿す。石屋姿の五無等を断はりたるの旧怨もあれば芳の湯に赴かんと言ふに洋服姿の先生なれば御泊申すと女将の言ひたればなり。

三月十三日　日　晴　浅間を発し松本より十一時何分かの汽車にて豊野に下車し下高井郡中野町に赴く。明日の校長会に出席せんとはするなり。車中長野県技師正八位野田六ハンマアの君同乗せられたり。岡本式金歯の秀治を思ひ出し独り興に入る。午後五時頃中野館に投宿したるに池田郡視学の御来臨ありて〇〇〇〇せよと言はる。忙しければ謹んで辞すと言ひたりしに御聴許なし。乃ち同視学の入浴時間と牛肉の煮へる時間とを竊みて此記事半分許りを書き翌早朝其余をものとす。忙しとも忙し。今日中野を済して辰野まで行かねばならぬ故なり。

(九)

三月十四日　月　晴　午前八時下高井郡役所に至り鈴木郡長に面会して十一時半頃当地を発し終列車にて辰野迄行かねばならぬ事など陳情して午前中に講話を試み度き由を申入れたるに御快諾ありたれば二時間許りもノベツ幕無しに遣り付け昼飯など喰ふや喰はずに人車に飛び乗りたり。二人曳の俥は生来始めてなり。若し汽車に乗り後るゝこともあらんにはとの懸念なり。然れども五無等は発見せり。二人曳の俥も左程に早くはなく余り香ばしきものに非るを。豊野停車場にては安藤警視と同乗せり。辰野駅に下車したのは八時何十分かなり。今明日中に下水内郡へも赴くべき筈なりしも同郡は県下第一等の小郡にして下伊那は第一等の大郡なればなり。大小など敢へて論ずべきには非

れども斯くせねば商売は遂に成り立たざればなり。

三月十五日　火　昼後晴　辰野駅を発し飯田町に至る。馬車の乗り替いと蒼さし。御者は賃銭を貪らんが為めの口実更に更に五月蠅し。飯田町に着したりしは彼是九時過ぎなりしならん。主税町の高坂に泊る。筆屋以来の定宿にして妻君は小粒なれども中々の美人なり。人の妻君でも相成る可くは美なる方心地よし。

三月十六日　水　晴　下伊那郡の校長会へ出席。例の通りの講話を為し且つ下伊那郡標本採集の必要を説く。下伊那郡標本採集の事業は相談一決したるやうなり。是にて上水内下伊那の二郡は決定となりたるなり。五無斎本年七月以後の仕事は出来たるなり。午後三時より飯田小学校に至り国語教授法を申し上げ帰りて独りにて天口酉卒し且つ垂目す。

三月十七日　木　晴　今日往来にて五銭の白銅を拾ふ。僅か許りの金銭を拾ひ警察署に届け出で置き後にて落し主が無くとも御返金下さらぬやうとの条件づきなり。午後三時飯田小学校に至り同校職員並に附近中小学校職員諸氏の為めに地質図の見様を申し上ぐ。今宵高等女学校の平田伊藤外一人（名称忘れたり）の三名至られ盛んに天口酉卒し垂目す。

三月十八日　金　晴　午前十時飯田町を発す。発するに臨み茶料として若干の銀貨を投ず。主人繁忙を為め共に天口酉卒するを得ざりしお詫にとて此茶料を御返却ありたり。茶料の返却之を以て嚆矢となす。偖馬車はといふに無しといふ。乃ち当地の財産家伊藤五郎兵衛君を訪ふ。五郎兵衛といへば如何にも老人なるやうなれども二十五六歳の青年法学士にして南信の新聞社長兼飯田町の消防夫なり。其怪気焔当る可らず。久しぶりなればと天口し始めたるに六三銀行員兼県参事会員の馬場歳君も来られたれば両人口を揃へて政治屋連の月旦に及ぶ。馬場歳先生気勢甚だ揚らず。午後二時頃俥にて飯田町を発し片桐よりは馬車に乗り替へ飯島に至り扇屋に宿す。乃ち当地の模範百姓芦部猪之吉を召喚す。午後十一時頃に至り同人至る。乃ち盛んに天口酉卒す。取りとめた話など一つもなし。然れども彼は教育者としては慥かに模範校長たるを失はざるなり。木川大郡視学の為めに首切られ南安や諏訪やらを放浪して少からぬ借金を溜め込み茲に発心して純粋の土百姓となる。指の太さは優に旧時の二倍以上なり。即ち冬期四ケ月間五無等が標本事業の助手たる可きを命ず。手当は一日三回宛のおまんまを給するのみとの約束なり。

三月十九日　土　晴　飯島を発し或は俥或は馬車にて辰野駅に着し之より終列車の汽車にて塩尻駅下車神津大校長に至り天口酉卒し且垂目す。午前二時とも覚しき頃雨戸を排きて我等の寝室に闖入したるものあり。スハ盗人先生御座んなれ。金銭にかけて不自由なること四十年来一日の如き我等両人の寝所に侵入する事やある。若しも金銭物件の余分もあらば自然配分の恩典に預る事もやあらんと態と目をば開かざりしにコハ抑も如何に潮尾楼の楼主荻原君と英楼の楼主青木君となり。以つての外の御酩酊にて酒肴等御持参あり。果ては我等の宅迄チヨツト来い示すべきものありの御錠なり。夜中なればと平に詫ぶれども御容許なし。乃ち止むことを得ずして四人打連れ立ちて潮尾楼に至るに新婚の内君出て迎へらる。見ればハイカラ姿七分廓姿三分絶世の美人なり。偖ヨク〳〵御顔を拝し奉つればかつて何処やらにて御目にかゝりたる〇〇〇〇女子なり。茲に於てか蟇きの示すべきものありとは是なんめり。新婚披露の御意にもやと無遠慮に天口酉卒しつ。午前六時に及び軒の雀が歌ふを催眠剤として生ヤ温き炬燵を擁しつゝ只睡る。

三月二十日　日　曇　午前九時目醒む。乃ち此処を立ち出で英楼の前を過ぎるに楼主も今や起き出でたる許りなり。何は兎もあれ只天口せよと言はる。乃ち御意は善しの原理により登楼して天口酉卒す。主人は明法出身の法学士なるが今や営業一切は弟なる人に譲り若隠居の身として毎日〳〵天口酉卒しつゝありとか。さてもさても浦山しき境遇といふ可し。神津大校長邸に帰り只々睡り時々起き出でてはチョク〳〵と天口し夕飯後又大校長の君と一旗亭に至り少しく天口し陸軍歩兵中尉堀内独眼竜が新聞屋の穂刈君と潮尾楼にて天口しつゝありと聞き使を発したりしに楼主の御出迎ありあれば之に赴く。独眼竜君以つての外の御酩酊なり。殆んど人事不省なり。即ち楼主の案内にて某国手が三階の座敷に闖入し只々天口酉卒するのみ。今宵も亦三階座敷の生ヤ温るき炬燵を擁して睡目す。

三月二十一日　月　晴　彼岸の中日　早朝潮尾楼を辞し神津大校長邸に帰り打ち連れ立ちて塩尻停車場に至り。中等列車をはづむ。堀田警務長閣下と同乗せり。明科停車場に至りし頃ほひ北安曇郡長大浦頼君の御同乗ありたり。五無等は昨年の夏服装の卑しかりし為め大目玉を頂戴したる苦き経験あれば中々以つて大浦君のお顔をば御忘れ申し上ぐ可きに非ず。然れども君には五無等の面魂を御忘却ありたりと見えたり。堀田警務長の人柄の悪きに恐れ入りたり。コンな事を言ふて五無斎君などに新聞に書かれては困るなあなどと仰せありて大浦君に一瞥を与へらる。大浦君の面色土の如く更に火の如し。五無等由来頑迷不霊にして酒々

落々の気象に乏し。故に堀田部長の御一言を期として標本を御買ひ被下度し。洋服も新しく新調したれば精神にも一大変革を来せり。将来幾久しく御眷顧を乞ふなど。御世辞の一つ位言ふ可き処なりしかど遂に言はず。処世術のまづさ加減概ね以つて斯の如し。大浦君よりも亦ヤア保科君でしたか。御見外れ申したとの御一言ありたるのみ。午後二時頃長野駅着根拠地たる逢瀬館に帰る。佐久出身の師範生来り佐久会の有れば出席し呉れよといふ。乃ち城山館に至り国語教授法の話を為し更に中沢城山学校長並に八木高等女学校教諭に至り国語教授法を論じて午後一時に及ぶ。斯くの如くにして漸く半分許り感冒を引たり。二昼夜飲み続け且つ夜深して始めて少しく風邪気あるに至る。五無等の躰力概ね以つて斯の如し。学期末にて何れも学校は休業なれば爾後十日間許り長野の根拠地に沈没し一と先づブラッキ日誌を切り上ぐ。

（信濃公論　第六四、七〇、七一、七二、七三、七四、七五号明四三、一、一九～四三、四、六）

八　坪井博士に随行して野尻湖に遊ぶ

（上）

明治四十三年の五月一日南北佐久に遊びチョク〳〵演説し小県郡視学三ツ井弥太郎氏を訪ひて長男不二夫君の死を弔し屋代町に宮入源之助君を訪ひ職員諸氏の為め又高等小学校生徒の為め又々農学校生徒の為めに一場の演説を試み打ち連れ立ちて千曲河原にツケバを見る。ツケバとは水を堰ぎ淀まして水闕伽の着かぬ石を投じ産卵に適当なる場所を造り与へ魚類が其結婚式を挙げんとするを投網することなり。結婚式当日投網されては溜つたものに非ず。赤魚若し霊あらしめば忽ち魚権蹂躙を絶叫することならん。偖結婚式当日の事とて赤魚等は紅白粉にお召縮緬やら繻珍の丸帯といふ扮装なり。標本屋の五無斎聊か不憫とは思ひつつも県内児童教育の為めには代え難しとコをフオルマリン漬けと為す意志の堅固なること岩石鉱物の如し。即ち篠の

井駅に宿し篠井乙種農学校教諭宮本邦基君等の補助を得て一貫五百目を購ひ㆓を石油罐中のフオルマリン液内に投ず。偖篠井停車場に至り見れば渡辺老先生は坪井理学博士と御同乗あり。乃ち赤を青に替へて貰ひ打ち連れ立ちて長野市に至り更級乙種農学校より貰ひ来りたる独活の大木を同博士に致し午後二時より城山館に於ける同博士の土俗談を聴聞し博士の巾着男爵山老猿と天口し酉卒し且つ垂目す。是は五月七日の事なり。

五月八日　日　晴　今日は坪井博士一行に従ふて野尻湖に赴くの兼約ありたれども昨夜の〇〇と〇〇とが過度なりし為め〇〇も其度を過ごし一番の汽車に乗り後る渡辺老先生は二番にてとの事なりしも三番に乗り後れられたり。是は何時も有り勝ちの事なれば敢へて珍とするに足らず。野尻湖に至りたる比ひ越後の人梅木寿三郎といふ老人来られたり。篤学翁と評す可し。博士並に史談会の一行は午食を取られつゝあるの間梅木翁と共に琵琶島に至り介類と石器類とをあさりたり。前者は標本製造の準備にして後者は其破片を多く得んとはするなり。破片を多く得んとするの理由果して如何。ソは諏訪湖のソ子は石鏃製造所なりとの五無等が説を確乎たらしめんが為めと博士が水上生活説を薄弱ならしめんが為めとなり。然れども天は五無等にも与みせず又博士にも同せずして只々僅少の破片と僅少の石器を産したるのみ。遺憾此上もなし。斯くて博士及史談会の一行は小舟二艘に棹して島の南面を通過せられたるに便乗して須川と杉の窪方面とを捜し廻りたれども只々石器の原料たる赤色硅岩やら粘板岩やら黒曜岩の類を甚だ僅かに得たるに過ぎず。然れども小学校附近の地最も土器の破片に富む。即ち現今野尻附近の地最も彼等の住居に適したること今も昔も大差なきを知るに足らん。斯くて日も西山に傾き始めたれば博士の講話あり。諸人周章てゝ柏原停車場に赴く。然れども五無等は必ず其後る可きを知るものから湖中の魚介の鉱物標本とを交換すべきを約する為め暫時校内に止まり長沼校長以下の職員やら宮川旧村長等の饗応を受け優然として停車場に至り果して汽車に乗り後れたる博士老猿以下の一行に合し少しく天口酉卒し午後十時過ぐる頃ほひ豊野なる早川に宿し少しく天口酉卒す。都住学校の尾崎君博士以下一行の面相を写生し滑稽を極む。博士は上高井に招待するを得ざりしが為めに紀念写生を為したるなり。

坪井博士の愛妻をお直の方と申上げ奉り箕作家に属する諸博士連最後の妹君なり。偖同博士の結婚式当夜の挨拶は振つたもの也。

文久元年正月五日に生れたる亭主の名前は正五郎。妻の名前はお直。正直ものゝ夫婦で後とはムニヤ、、、

（下）

五月九日　月　雨　午前六時頃目醒む。都住学校の尾崎君は何時の間にやら逃げ帰りたれば渡辺老先生やら澁山老猿を始めとして梅本翁五無等四人俥を賃ひて博士の巾着男となり雨を冒して中野町を経て飯山に至るに清水郡視学君出で迎へられ丸山館に入る。此所にて昼飯を済まし真宗寺の石器類を借り博士の一覧に供す。石剣は珍しきものなる由なり。午後一時下水内教育会に至るに博士は日本石器時代及人種といふ題下に演説せられたる後五無等も又新案教授法に就てといふ題にて演説せり。演説は上の中位なれども博士が一時間半強の演説ありたる後の事とて聴衆中稍居ながら垂目するものゝありたるぞ是非も無き。右終りて川上郡長津崎法学士等と打ち連れ立ち飯山城趾に至り入船亭なる懇親会へ出席す。此所にては五無等が発案にて失敗談の共進会あり。夫より丸山館に帰り室を異にして澁山老と津崎法学士とを相手に天口酉卒す。

五月十日　火　晴　澁山昨夜母を省する為めと号して何れへか逐電せり。蓋し鉄砲町辺をブラツキ廻りたることならん。七時出発中野町へ赴く筈なりしも八時が過ぎても来らざるなり。乃ち五無等巾着男の名代となり将さに飯山を出発せんとするに臨みて澁山至る。澁山由来無責任の権化とも評すべき男なり。然れども近来嶋津ちか子女史と結婚して以来稍責任を重んずるやうに成りたり。午前十時中野町着下高井教育総集会へ出席。博士が人類学大意といふ講演ありたり。講演の終るや否や澁山巾着君は博士に同行して豊野より長野に帰り五無等は午後一時間半許りの新案教授法論を為したり。同じく大家が一時間半許り講演のありたる後なりし為め聴衆の注意力は散漫となり居りて思ふやうにうまく聞けざりしやうなり。渡辺老人が話の種なる題下に午と牛の話、仁科の奇人、往海玄古の話を聞かさる。老人の話幾度聞いても面白し。右終つてやな長といふ料理屋に開かれたる懇親会へ出席。デカク天口酉卒す。右終つて野沢の森大校長と一そば屋にて二次会を開く。驚く勿れ会費は僅かに両人にて五十何銭。下物は塩鰯二尾に蕎麦切り二ツ。是等は下戸連の知らぬ味なり。

五月十一日　水　晴　下高井教育会へ出席。金田丑作村松民次郎渡辺敏三氏の演説を聞かさる。金田君も村松君も時々奇激の言を弄す。渡辺老人のは戸隠参詣の話しなり。是亦幾度も聞きたるものなれ内容は漸次変化しつゝあり。午後は会員の演説ありたり。某君の学校園論稍傾聴の値あり。実行が出来れば重畳なれども其人の存するあらば屁でも無き事なり。上水内の教員に荒木茂平なるものあり。学校園狂なり。芹田学校のも将た吉田学校のも彼がつくりたるものにして一覧すべきものなり。午後三時頃閉会

となりたれば雨中を冒して中野を発し渡辺村松二老と豊野に至り長野に帰りたるは午後七時過ぎなりき。此行四日間にして博士の講演を聴くもの前後四回。別に新しきことは無かりしも考古学人類学及土俗学等の総復習を為したり。書籍にて読みたらば一千五百頁位ならん。野尻湖中の琵琶島が石器製造所なりとの証拠物を得ざりしぞ返すく〳〵も遺憾なる。不目出度し。々々々々。

（信濃公論　第八一、八二号　明治四三、五、一八～同五、二五）

九　上水内郡産岩石鉱物採集旅行日記

石屋　五無斎

今般上水内郡に於ては五無等を先達として同郡内産鉱物岩石採集旅行を為すことゝなりたり。当日は各部職員諸君の欠席なき様希望するものなり。其日割左の如し。

五月二十八日　午前八時より三水学校に於て講話。午後一時日向井に舟竹薬師にて化石岩石等採集。

五月二十九日　黒姫登山。岩石化石採集。

五月三十日　休み。

五月三十一日　午前八時より豊丘小学校にて講話。午後楡木にて化石採集。

六月一日　戸隠表山登山岩石化石採集。

六月二日　柵村祖山にて化石採集。

六月三日　休み。

六月四日　午前八時より栄村小学校にて講話。午後土尻川にて化石採集。

六月五日　土尻川にて化石採集。

六月六日　休み。

六月七日　午前八時より上水内郡役所にて講話。午後犀川裾花川に於て岩石採集。

六月八日　裾花川を溯り小鍋に至り。岩石鉱物採集。

六月九日　休み。

六月十日　午前八時より神郷村に於て講話。午後モトヾリ山登山岩石採集。

六月十一日　飯綱山登山。岩石採集。以上。

（信濃公論　第八二号　明治四三、五、二五）

十　機業日誌並に機業地視察報告書



家紋を織り込んだ蒲団地と紬の小切れ（保科健氏蔵）

機業日誌

（明治三十一年十二月武石尋常小学校）

十二月二十六日　本日午後六時井沢機業教師来校、機業準備法質問せしにオサ勘定練習は之よりせんとて直に小使を練習生へ派遣し生徒を招集す。

午後八時生徒講堂に集合す。

此に於て教師は機業に関する演説をなす。時に生徒数六名なり。此にて順番を定むる左の如し。

1滝沢ぜんさく　2滝沢せきの　3中原けさの　4滝沢よの志　5小　山つね　6伏見あいの

之にて綜絖の説明ありて一同散会時に午後十一時なり。

十二月二十七日　生徒六名出席　午前七時より綜絖を練習す。出来上りしもの七枚なり。此時大工村越和吉半日雇入れ綜絖台を造り、其外種種の器具を修繕す。綜絖終りて唐糸六百九十〆を斉藤店より購入し之を蒸し、第一回の晒をなし且又之にのりを加ふ。当日雪天なれば火力を用ひて乾す。此に於て二枚の綜絖出来上らざれは夜業をなし且緯糸の操替をなす。時に閉会は午後九時なりき。

十二月二十八日　生徒出席　午前七時三十分開会す。

時間割

本日は糸を総ることに着手す。

大工和吉不都合に付依田忠市氏を雇入る。
材木戸ぶち一尺一寸を小松鶴治より買入。
機業科入費　註（以下金額の所に全部割印あり）

一金七十銭　佐藤忠市給
一金三十五銭　講師車賃
一金二十銭　講師へ渡す
一金三銭　ヒイロウ講師用
一金一円　村越和吉へ給す
一金三十銭　村越和吉へ支給
一金一円　受取伏見あいの
一金一円　滝沢ぜん
一金一円　中原けさの
一金六銭　ヒイロウ二ツ井沢講師分
一金二銭　井沢講師郵税
一金九銭二厘　鉛札用
一金二十銭　大工村越和吉へ支給
一金五厘　小釘代
一金六銭　井沢講師へヒイロウ二ツ
一金二円四十八銭　講師食料
一金九銭　講師煙草
一金一円　村越和吉へ支払

染色料

一金二円　薬品料伏見久米八へ渡す
一金四十五銭　伏見久米八日給
一金二円　伏見寛柔君より預り
一金二十銭　小使に礼
一金八銭　重炭酸曹達一磅
一金十八銭　牛肉百匁
一金十五銭　五倍子
一金四十銭　カタン糸一ダース
十一日夜一金一円　伏見君より借
一金一円七十二銭　瓦斯糸小山屋へ払
一金一円七十銭　唐糸六百八十匁
一金十七銭五厘　フノリ
一金一銭　種水
一金三銭二厘　ラヲ四本
一金一銭二厘　塩三合
一金五銭　さなだ紐一丈
一金十銭　麻布
一金六十三銭　がす糸百匁
一金六銭さらし五尺（以下小略）

滝沢国作分

一金五十銭　薬品払下分
一金五十銭　授業料

一金九十三銭六厘　酒割
〆金一円九十三銭六厘　皆済
滝沢せきの分
一金一円二十三銭七厘
　授業料内入一円残二十三銭七厘（以下略）
宴会費及雑費
一金八十六銭七厘　肉代
一金十六銭五厘　菓子
一金一円十二銭五厘　カン五ツ
一金十銭　小ハカ
一金十銭　醤油
一金五銭六厘　湯銭
一金四円十銭　酒
一金一円四十四銭　葡萄酒
一金十二銭五厘　肉
〆八円七銭八厘　（以下略）
（保科勝次氏蔵）

機業地視察報告書　保科百助

第一　日　程

明治三十二年六月二十日　小県郡丸子学校機業視察員柴崎虎五郎氏と共に長野市立小学校実業取調委員渡辺敏氏を訪い視察上の打合せをなす。

同二十一日　上り一番列車にて長野市を発し大屋停車場に至り柴崎氏に会し高崎前橋を経て群馬県桐生町に至る。

同二十二日　午前町立桐生織物学校を参観し桐生織物同業組合を訪い午後織物会社を観三時発の汽車にて栃木県足利町に至る。

同二十三日　午前柴崎氏の知人なる関口由之助氏の案内にて栃木県工業学校を参観し同校よりの紹介状を得て同地の実業家なる岩本良助秋間為八二氏の工場を観午後二時発の汽車にて東京に至る。

同二十四日　午前東京工業学校に至り校長手嶋精一教授柴田才一郎二氏に面会本年八九月両月を以て信濃教育会に於て開会す可き機業講習会に就ての打合せをなす。

同二十五日　帝国博物館及び商品陳列館に至り各地産の織物を観る。

同二十六日　府下本所区林町栗原和市氏を訪い機具類の購入をなし午後日本橋区本町杉本宗吉氏に至り染色用器具の購入をなす。

同二十七日　午前再び東京工業学校に至り助手傭聘の件及び染色原料購入に関する打合せを為し午後日本橋鍛冶町植田小太郎氏を訪い薬品の購入に関する打合せを為す。

同二十八日　上野一番汽車にて東京を発し群馬県新町に至

り絹紡績会社を観東京下り二番汽車にて帰県

第二　桐生町及附近の織物地に就て

桐生の織物地となりに至りしは今より千余年前天平宝字中上野国桐生の人水田某なるもの朝廷に仕へ奉り時の帝より官女白滝と云うを下し賜はり故郷なる桐生に帰り養蚕機織の業を教へしに始る降て享保元文の頃に至り京都より弥兵衛吉兵衛と云うもの来りて飛紗綾を織ることを教へしより漸次進歩の域に達し縮緬綸子綾錦等諸種の織物を製造するに至りたり然れども尚今日の如き盛況を呈するに至らざりしが同地有名の豪家なる佐羽吉右衛門氏の達識なる私費を以て前後二回迄も洋行を企て欧米各国の機業を視察し帰国の後は主として泰西文明国の学術技芸を応用して斯業の発達進歩を計られたるが為め男工二千余人女工二万人賃業者（賃業者とは桐生町四近の農家にして農間を以て賃機を織るもの）六千余戸年額一千二百万円（明治三十一年調査）を産する一大織物地となるに至りたり。

桐生には日本織物会社縮緬会社及び成愛社の三大会社あり然れども其詳細の状況に至つてはおもに参観を謝絶せられたるを以て充分なる取調を為すを得ず茲に其概況を述べんと欲す。

日本織物会社

本会社は明治二十年中同地有名なる豪商佐羽吉右衛門氏其地有志者の設立せるところにして資本金七十五万円男女工並せて七百人を有する一大織物会社なり。黒繻子模様繻子（帯地）及びりぼん（帽子の縁等に用ふ）の三種のみを製造す撚絲染色織物及び整理の四部に分れ欧米各国製造の最も完全なる器械を集め渡良瀬川の水力を利用して工男女工は只器械の運転を監督するのみ器械の力とは言へ只々驚くの外なし。然れども其詳細の説明に至つては執業の妨害となるが為め又秘密勝なるが為め（知事以下位の人にあつては仮令如何なる添書などを持参するも参観を許さすとの事なり余等の一行はふとしたる事より佐羽喜六氏の知己と誤られたるが為め参観するを得たり）充分なる説明を与へられざりしかば茲に之を詳述する事能はず斯の如く織物会社は欧米各国器械の最良なるもののみを集め多数の工男工女を使役して最も需用多き繻子地のみを製造するにも拘らず其利益の極めて僅少にして近々数年の内或は破産するの否運に遭遇するやも知る可らずと是れ素より斉東野人の言にして敢て信ずるに足らずと雖も利益の他に比して較僅少なるは事実なるが如し。是等の点に関して当局者に就て質問するところあらんとしたれども諸事秘密勝なれば面談するも益なからんと匆々同会社を辞して足利に向いたるが為め深く其原因を研究する事能はずと雖ども予か極めて浅薄なる臆測によれば金利の余り低廉ならざる事器械類は悉皆外国

より購入するが為め設備費の過分なる事会社事業に不熟練なるが為め役員の多数なる事等は其主要なる原因ならんが換言すれば我国は未だ大会社などを組織するに足る丈けの文明の程度に達せるか桐生町に於ても会社組織によらずして各自繻子織専問に営業しつつあるもの多数なるを見れば戸々の事業の大会社の事業よりも利益多きを証す可きか。余は後来県下に起る可き機業に関しても成る可くは戸々の事業となし先づ他府県より織物の輸入を防ぐ丈けを以て目的となし速かに大会社の起るを欲せず漸次織物組合の如きもの成立せん事を望むものなり。

評に曰く日本織物会社事業の不振実に論者の説の如し、而して其原因主として株金の殆ど全部は固定資本に費され其運転資本は主として高利の社債を以て之に充つるに在り故に利益ありと雖僅に其利子に充つるに足るのみ本邦機械織物会社の現況概子斯の如し職工の賃銀一層貴く金利欧洲諸国の如く低減するの暁に至らされば蓋し好況を呈する事難かるべし。

縮緬会社

本会社は同地の豪商岩崎万四郎外二三氏の設立せる合資会社にして資本金二十五六万円を有し従前縮緬を製造せしと雖当時は輸出向の紅梅織を製造しつゝありと云う。万四郎氏は柴崎氏の知人なる宗太郎氏の実父なるにも拘らず厳然として会社の参観を謝絶せられたり、紅梅織は絹絲綿絲を交織せるものにして外国婦人の衣服となるよしなり。縮緬会社に於て製造する紅梅織は染色と言い縞柄と言い悉皆外商の注文に応じて織り出すの事なれば危険は少きも莫大なる利得を得るは殆んど稀なるが如し。千有余年来の織物地たる桐生に於てする当業上利益を得るの困難なる。尚ほ斯の如し新聞紙の報するところによれば我長野県に於ても輸出向の羽二重を製造するもの各所に起り何れも失敗の歴史に終らさるは稀なりと是れ登高自卑の格言を知らず最初より僧侶たらん事を希図する冒険事業なるのみ故に吾輩の所謂機業改良は務めて平易と実用とを主とし敢て機業の中等教育若くは高等教育とも言う可き外国向の羽二重などを製造するを奨励するにあらずして先づ機業の普通教育とも言う可き木綿織の改良よりびしよ繭中繭巣殻繭玉等を処分するの道を教へ県下各町村部落の細民をして冬期農間の期節を利用して自ら織り自ら着るの主義を実行せしめ而して後機業の中等教育及び高等教育とも云う可きものを普及せしめ他日我長野県をして養蚕国たり機業国たるの県是を確定するの素地を為さんと欲するなり。

成愛社及森山工場

成愛社は青木熊太郎氏一族の設立にかゝり資本金参十五六万円を有する一大合名会社にして又森山氏は桐生町に於

ける第一流の美術品製造業者なるよしなれども道路の都合悪しかりしと容易に縦覧を許さゞる可しとの事なれば遂に参観する事を得ざりし。

桐生織物学校

本校は明治二十九年の設立にかゝり桐生町大字安楽土にあり本年四月以後は文部省より中学程度以上の学校と認定せられたりと雖も設立年月日浅き事町立なる故を以て尚設備の不完全なるを免れずかの千有余年来の歴史を有する織物地の事とて実業家は学校を軽蔑するの傾向あり。生徒の定員は一百名にして現在在籍生徒数は五十名なるにも拘らず日々出席数は三十名を過ぎざる可く別に専攻科（所謂研究科及び別科の設けありと雖も一名の入学ある事なし。予は尚本校に対する概評並に他日我長野県下に設立する可き機業学校に関する意見なきにあらずと雖もそは後段足利町なる栃木県工業学校の条下に譲する事とすべし。

備考　尚群馬県に於ては伊勢崎町にも一個町立の織物学校あり。現在生徒の在籍数は三十名にして日々出席数は十四五名なるよしなり。予等の一行は日限の切迫し居るが為め参観するを得ざりしは甚遺憾とする所なり。

機業地視察報告書（承前）

足利は栃木県足利郡の中央に位し栃木県の管轄に属すと雖も桐生町と相距る事遠からず織物地としての来歴は殆んど桐生町に同じく現に該地方に於ては機神として白滝姫を祀るを見れば思い半ばに過ぎんが只桐生と異なる点は彼は絹織物若しくは絹綿交織にして一ヶ年の産額一千二百万円なるに是は絹綿交織若くは木綿物を主とし年額一千六百万円を出し彼は会社組織の者あるに是は戸々の事業なるが如し。前者は多額の資本と精巧なる器械とを要するに後者は小資本を有するものと雖ども容易く斯業に従事する事を得可し故に予は他日県下に於ける機業改良の第一着歩としては桐生よりも寧ろ足利を模倣せん事を希望するものなり。

岩本良助氏の工場

氏は足利町に於ける数十年来有名なる機業家なりしが十余年前より輸出向の絹織物を製造したるより大に失敗を招き殆んど破産の悲境に立ち至らんとしたりしが数年前よりは六十余台の織機（内四十五台は其工場に据え付けありと雖も十五台は地方の賃業者に貸し付けありと）を以て風通織のみを製造して大いに以前の頽勢を恢復して現時足利町中屈指の機業家となれり。氏は五十前後の老人なるにも拘らず頗る快活に又卒直にして余等一行の同工場を訪問したる時の如きは紺羅紗の較褪色せるが如き背広服を着し工男工女の間に立ち交りて働き居られたり。氏の工場に雇はれ居る工女は主に越後越中辺のものにて三ヶ年の年期なり。

工女と工場主とは互に家属的の関係を有するが故に被服食料を給与せらるゝ勿論なれも給料としては三ケ年に二十円位なり尤も朔日十五日の如き盆暮の如き休日に当つては二三十銭乃至二三円位の手当を受くと之れを彼桐生織物会社の如き日給十五銭以上三十銭五十銭乃至一円位の工男工女を使役して寄合世間なる役員の監督せるものに比すれば其差実に宵壌も啻ならさるなり。余は益々会社的機業の困難にして戸々的の機業が比較的利益多きを信ずるものなり。氏は種々に意匠を凝うせる四百余種の見本を調整し各呉服店に配付し置き注文に応じて夫々織り出すの都合なるを以て年中其事業を休止する事なく盛んに営業しつゝあり生糸相場の変動等によりて甚しき損耗を受くる事なしと余は他日県下に斯の如き織物業者の漸次興起せん事を希望するものなり。秋間為八氏の工場

氏の工場も又風通織のみを製造しつゝあり。岩本氏の工場と大差なきを以て今茲こに詳述せず只彼と異なるは工女の三分の二は休業しつゝあることなり少しく時間の都合悪かりし為め匆々辞し去りたるを以て深く其理由を探究せず。

栃木県工業学校

本校は足利町字西の宮にあり。今より二十余年前西洋化学染料輸入の当時機業家は媒染剤の使用法を知らず。粗製乱造の結果は忽ち顧客の信用を失するに至りしを当時の有志家は大に之を憂い明治十年市川安左衛門須永由兵衛川嶋長十郎の諸子相謀り染色研究所を設立長野三郎氏を教官となし染色の改良を為せり降て明治十七年に至り染色講習所を設けて農商務技手山岡次郎（染色集宝の著者）氏を聘し当業者の子弟をして染色法を研究せしめたりと雖も尚不完全なるを免れざりしかば更に拡張を計り独り染色術のみに止まらず内外流行の意匠紋様より機織の実習をも為さしむるの目的を以て明治二十八年県立となし栃木県工業学校と改称し国庫の補助を受け文部省よりは中学校程度以上の学校と認定せられ本科別科の二種を置き更に研究科を附設する事となりたり生徒の定員は本科百五十名別科五十名にして（研究科は定員を定めず）現在在籍生徒数は本校七十九名、研究科十五名別科七名総計一百一名なりと雖も生徒の日々出席するものは五十名以下なる可し。

備考　目下本校に在学せる我長野県人は南佐久郡の木内源太郎、北佐久郡小諸町の小山耕作、上水内郡の倉田高綱（以上本科）小県郡上田町の佐藤長治（別科）等の諸氏にして諏訪郡湖南村の藤森環次同中洲村の平林民次郎の二氏は本年三月を以て同校を卒業せりと云う。

今回信濃教育会の開設にかゝる機業講習の講師たる柴田才一郎氏も亦明治二十一年同二十五年迄は染色講習所に於

て教授の任に当られたりと云う。本校は県立なるの故を以て桐生織物学校に比し較完全なるが如しと雖も生徒は予定の人員に充たず在籍生徒数との間に於て著しき懸隔を生し諸事不規律なる者の如し伊勢崎町と云い桐生といい足利といゝ各機業地としての特色なるものあるは勿論なれども織物学校の如きは三地方共同して一大織物学校を設立せらるる可きに各地独立の織物学校を有するは極めて不経済なる事なり。三校の経費（桐生六千円、足利一万円、伊勢崎五千円）を合算せば二万余円となり。善良なる器械標本を備え得可きは言う迄もなく良教師を傭聘し更に多数の生徒を養成する事を得可し。殊に三地方共に両毛鉄道の衝に当り伊勢崎は桐生の西南約九哩にして足利は桐生の北約七哩にあれば充分通学の便はある可し各自地方的の感情を打破して是等の三校を合一するは目下の急務なる可し。

桐生及足利に於ける織物学校規則中学科課程表を一覧するに其間多少の相違あるものゝ如しと雖も何れも地理学の一科を欠くに至つては符節を合せたるが如し単に機業其ものみを勃興せしむるは最も易き業なるも其売先地の風俗習慣は如何嗜好と流行とは如何且つ原料は何れの地方より購入するを以て最も可とするか凡そ是等の問題を解釈するは機業地家に取つては極めて必要なる事なる可し。若し是等の事情を顧慮する事なく単に織物のみを製造するものあらば余は其大胆なるに驚かざるを得ざるなり故に余は是等の実業学校に於ては地理学少くも商工地理学の一班を教授せざる可らずと断言するに憚からさるものなり。

評に曰く地理科素より斯業に必要なきにあらず。然れども斯業に適切の学科にして施設を要する者尚甚多し当局者盖し

其繁を恐れて之を省けるものならしむるを善しとするものの如し。

余は従来数多の実業学校を参観したり而多くの場合に於ては生徒は予定の人員に達せず。在籍生徒数は日々出席数との間には著しき懸隔を有し師範学校中学校等に比して不規律極まるものゝ如し。小県蚕業学校の如き、上伊那甲種農業学校の如きも又此傾向なしと断言す可らざるものあらん。予は本年二月十日信濃教育会常集会席上実業補習学校教員養成論なる演題にて一己の卑見を陳述したるが如く各府県の実業学校は単に学理と技術に熟達せる実業家のみを養成するに止まらず。他日各町村若しくは町村組合に於て設置す可き実業補習学校の教員養成所たるの性質を帯はしめは幾分か是等実業学校をして盛大ならしむるを得可きか。

今回我信濃教育会に於て開会する機業講習会は二十余年前の足利たるの程度に達したるものにして今日の足利たる

の地位に達せんには今後二十余年を要す可き筈なり。然れども余は是等の歳月を短縮して数年の後には県下に一大織物学校を設立し十数年の後に於ては桐生足利の如き先進地の程度に達し互に気脈を通し連絡を謀り数十年の後を期して我帝国をして世界に於ける機業国たらしめんと欲するものなり。

評に曰く今回信濃教育会に於ける機業講習会は全国に於ける教育家機業講習会の嚆矢にして今後他地方に於ても続々此地方を摸倣するに至らん。余は斯業の最も信濃の国情に適し又此講習会の斯業を開始するの最良法たるを信ず。

第四　新町絹紡績所に就て

本所は群馬県多野郡にあり明治七八年頃政府の設立する所にして明治二十年に至り三つ井家に属する事となれり錘数五千男工女工並せて七千五百を有しびしよ繭上り繭巣殻繭穴明き繭等極めて下等なるものを原料とし一円に付き二十目乃至四十目位の価格を有する極めて精巧なる紡績糸を製造すされば原料の価格に対して五倍乃至十倍の価格を有する割合なり、其法たる先づ極めて大仕懸なる洗濯器にて繭をあらい大釜にて煮上げ、細き無数の針を有するローラーにて真綿様のものとなし一等より六等迄の六種に区別し条綿器械にて細長き真綿様のものとなし前紡器械及精紡器械によりて生糸の太さ位なる細糸となし撚糸器械にて捻りをかけ更に撚合器械にて二本を捻り合せ或るものは瓦斯の火上を急速に通過せしめて毛焼をなし四十号（最も太し）六十号八十号乃至三百号（最も細し）等十数種の紡績糸を製造す。最も太きもの及び最も細きもの最も高価にして殆んど生糸と同一の価格を有す絹紡績会社は新町の外京都に第一絹糸紡績会社。日本絹糸紡績会社の二社あり。紀州に南海絹糸紡績会社あり。岡山に絹綿紡績会社あり。小山に富士紡績会社あり。程ケ谷（神奈川県）に程ケ谷絹糸紡績会社あり。前橋に前橋絹紡績会社あり。而して是等の各絹紡績会社に於て使用する各原料の中に就て我長野県に於て産する巣殻繭は最好原料として歓迎せらるるところにも拘らず昨三十一年の如きは一枚に付三十五銭乃至五十五銭位の相場なりし（三十年は五十銭乃至八十銭位）是各絹紡績会社に於て互に競争買を為すの不利益なるを感じ相談の上にて安買を実行したるものなりと云う事情斯の如き場合なれば余曾長野県人たるもの是等奸商等の悪手段に対するの策なかる可らず。即ち余は伊豆の人某の発明にかゝり更に本県更級郡の人小林某。小県郡城下村の人宮下文平両氏の較々改良を施せる器械紬法を普及せしめ機業の改良を計り冬期農間の期鴨を利用して従来の上田紬様のものを織り出すは目下の急務なる可きを信ず。斯の如くにして西洋文明の紡績器械を圧倒するが如きは殆んど望む可らざる事の如

しと雖も巣殻繭びしよ繭の如きものの価格を引き上げ巣殻繭の如きは一枚に付八十銭乃至一円位の価を保つに至らしむるが如きは左程の難事にもあらざる可し。余は今回の機業講習会に於て器械紬の紡ぎ方をも並せて教授するの益必要なるを認るものなり。

第五　東京工業学校に就て

東京工業学校は前後三回迄も参観するを得たりと雖も既に世人の熟知するところ且つ信濃教育会に於て開会する機業講習会に対しては其関係するところ甚だ僅少なるを認むるを以て茲に之を略す。

第六　助手の傭聘に就て

助手の傭聘に関しては前後二回柴田教授との打合を為したりと雖も未定との事なれば悉皆同教授に依托せり。

第七　器械類並に薬品の購入に就て

染料の購入に関しては予輩の無知識無経験なる悉皆柴田教授に依頼せり

器械類の購入に関しては柴田教授との打合せを終り県下に於て調べ難きもののみを左の二ケ所に於て購入せり。

機具類　東京府下本所区林町二丁目十三番地　栗原和市

一金三円七十五銭　どび一四十本のもの一個代
一金三円　同二十四本のもの一個代
一金五十銭　筒管百本代
一金八十銭　ばつたんび胴金附二個代
一金八十銭　同赤樫二個代
一金一円二十銭　同三つ星六個代
一金三十六銭　十よみをさ㊞印二個代
一金四十銭　十一よみをさ㊞印二個代
一金三十三銭　十よみをさ細川印二個代
一金三十五銭　十一よみをさ細川印二個代
一金五十銭　十六よみをさ小林印二個代
一金十二銭　四本爪二十個代
一金八十銭　同大片歯二個代
一金一円十四銭　けんがね小片歯三個代
一金六銭　管巻用つむ二本代
一金五十銭　意匠紙二百枚代
一金二十銭　をさとぼし十個代
一金四銭五厘　あらをさ一個代
合計金十四円八十五銭五厘

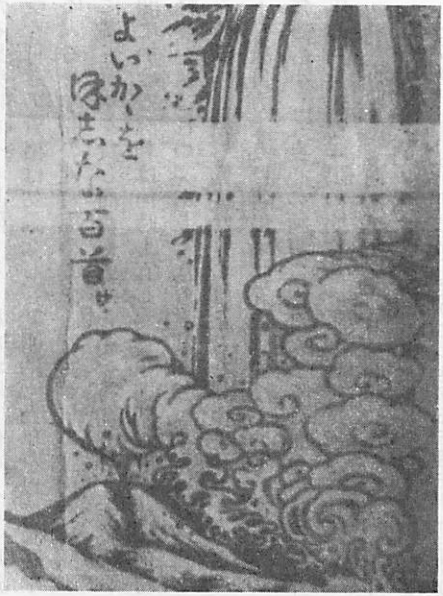
染色用器具類　東京府下日本橋区本町一丁目九番地　杉本　宗吉

一金六十銭　グラズロッド三十本代
一金一円三十七銭五厘　度目円筒5000五本代
一金四円二十五銭　同50000　五本代
一金三円八十銭　トハードル比重計一組代

一金三円二十五銭　ボーメ五本代　但し重き方
一金五円五十銭　瓦秤（五十瓦）五個代
一金二十二銭五厘　熜斗大三本代　小二本代
一金三十六銭　試験管三組代
一金四十二銭五厘　アルコールランプ五個代
一金十円五十銭　織物用眼鏡三ダース代
合計金三十円二十八銭五厘（完）（雑誌信濃教育　第一五五号、第一五六号　明治三二、八月、同一〇月号）

狂歌編

よいかゝをほ志な百首け……531



「よいかゝをほ志な百首け」の表紙

山田禎三郎君　題歌
惺々暁文君
豊田笠洲君　狂画
林　探楽君
金井羊我君表紙図案

よいか
ゝを　ほしな百首け

五無斎保科百助著

以旧作為題詞

五無斎がか可を保志なと
百度も歌ふを助と
人はいふら舞

明治卅九年夏秋水市隠山田禎

緒言

五無斎保科百助は長野県北佐久郡横鳥村大字山部六十八番地平民農丈左衛門の第三子なり。其末子たるの故を以て両親よりは寧ろ可愛がられたれども世間よりの大悪くまれものなりしは理の当さに然るべき所たり。幼にして父を失ひ弱冠母に別れ始めて河童の水に離れ猿の木から落ちたる如く浮世のせち辛き事を発見するに至りたり。現在血を分けたる兄弟にさへも見限らるゝ程なれば其他の人より厚遇を受く可きの資格は勿論なし。其明治十九年を以て師範学校に入るや学問の性質極めて悪しく四ケ年の課程を卒業するに満五ケ年を費し而かも尻から第一番なり。之が為め教師間に於ける評判は何時も宜しからず朋輩の間にては何時も軽蔑を払はれつゝありしなり。其出でゝ小学校長教員となるや俸給の頗る低度なりしは止むを得ずとするも町村や部下の教員方よりは毎度お払箱を頂戴するなり。さすがの五無斎も少しく良心の呵責に遇ひたるものと見え明治三十四年の三月義務年限の明くるや否や

不肖百助事去る明治二十四年三月師範学校卒業以来満十ケ年間一日の如く県下小学校長教員の職を奉じかの人の子を賊ひたる事少なからず甚恐縮の至りにつき来る三月三十一日限り辞職仕度此段御願申上候也



「よいかゝをほ志な百首け」の扉

との辞表を捧呈したれども斯かる文句の役所向へ納るべき筈もなければ其衷情深く察するに足るべきものありと雖も家事の都合と申立てよとの事にて漸く同月三十一日附を以て依願免本職並兼職との辞令を頂戴して茅出度浪々の身とはなりたるなり。

斯く浪々の身として偖安閑としてあるべきにあらねば満二ケ年を以て普く信州の山河を跋渉したり。乃ち跋渉したればとて其証なくては叶ふ可らず又十年前に吹きたる法螺の

始末を付くるは此時と長野県地学標本とてしかつめらしき名前を附して岩石化石鉱物及び古器物の採集をなして一百二十余箱三万余塊に及びたれば之を県下に於ける各種学校其他に献納し了り今や一塊の石片をも左右にとゞむることなし。献納といへば頗る立派なるやうなれども実は長野県地学標本の陳列と保存方とを百個所の学校に依頼したるなり。加之五無斎は信州に於ける名山大川を跋渉しては祖先伝来なる九曜の星の紋所をば人跡未だ到らざる大盤石の上に彫刻し置きたるもの其数三百の上に出でん。是は他日登山者の道しるべともなり死後の墓標ともなれかしとの希望に外ならず。

偖斯くの如く信州の漫遊を終りたれば満三ケ年を以て日本漫遊と出懸け其後の満三ケ年を以て世界漫遊と洒落れるべき筈なれども

二ケ年の旅にかな気はぬけにけり
なべ釜ならばさぞやよからう

なれば致し方なし。こゝに於てか止むを得ず長野市妻科（つまなし）（つまなしと読むは一奇と謂ふ可し）の里に一小私塾を開きたれども成蹟甚だ不良なりしと経済問題の為めに間もなく廃塾して養禽家といへば稍立派なれども鳥屋となり終りたり。

謹んで師範学校入学当時の動機を追想するに教育者となりて将来の日本人を教育すべしなどの考は絶えてなし。たゞ

第一　士百姓よりは月給取の方割勘のよかりしこと。
第二　徴兵猶予の特典ありし事。
第三　学問にてもしたらばよいかゝでも貰へるかとの妄念盛なりし事。

等の数条に過ぎず。今より考へて見れば其思想の簡単なりしには只々驚くの外なし。馬糞を掬む事がいやにて家鴨や鶏の糞掻きとなり徴兵が厭やにて六週間現役に取られ生マ中の学問が邪魔になりて三十九才の今日まで独身生活なり。

学びこそ今はあだなれ是なくば
好配偶もありしとぞ思ふ。

由是観之鉛は遂に銀とならず石ころはどうしてもダイヤモンドとはならぬなり。是が何ぼう悲しき事ならずや。然れども思ひ切りの悪ろきは人の情なり。茲に於てか予は入学の時を同うし卒業の期を共にしたる事によつて無二の親友たる某氏の許に妻君の品定めをものして周旋方を依頼したり。数日の後一葉の新聞紙は郵送せられたり是は氏が妻君の悪戯なりしならん。

◎保科五無斎妻君の品定め

五無斎と云へば長野県下は愚か日本切ての大の奇人で嘗ては読売新聞日本奇人百人募集中で第一等にぬけ彼を書き

たるものは百円の賞与を得たとかの果報もの併も鉱物の研究と来ては信州彼の右に出づるものなく其多年高山を渉く跋渉し採集したるものも県下有数の学校及帝国大学へ悉皆挙げて寄贈し今は長野市の部落妻科に保科塾を建て青年教育と御得意の諧謔諷刺を以つて相も変らず土炎を巻き散らし居るが近来何思ひけん迎妻の情頻々にて当地の知人某に妻君の品定めをものし周旋方を懇々依頼し来りたるが年頃の女子を持ちたる親達の参考ともなりぬれば左に

ワイフ御周旋可被下候。

一、門閥は第一流にても差支無之候へ共中若くは下にても宜敷御座候。

一、財産は大地主にても苦しからず候へども赤貧洗ふが如くにても宜敷御座候。仮令数百万の財産ありとするも持産金ならねば恥かも当方に益なくヨシ赤貧洗ふが如くなりとするも厄介を当方へ持ち込まねば夫にて宜敷候。

一、年齢は成るべく若きを以て必要と致候、二十四五歳以下十歳以上にて適宜御撰択願上候。

一、品行は頗る端正なる方にて○○○を濫用せぬ初婚者に限り申候。

一、容姿は格別々品なるを要せずと雖一見不快の感を起さぬ様なること肝要に御座候、愛嬌たッぷり二重まぶち両笑凹は頗る必要なる条件に御座候。

一、学力は女子高等師範学校女子大学若くは田舎の師範学校高等女学校位にても差支無之候へ共高等小学校若くは尋常小学校位にても苦しからず候。

一、才器は寧ろなき方安全に御座候。女子の才子と来ては少しく閉口致し候。寧ろウスノロジストの方可然と存じ候。

一、体格は二王様をまかすやうにて苦しからず候へども又豆粒大にても宜敷候、何れにしても肥満し居る方可然骨と皮許りにてつくりたるが如きは断じて不可に御座候。

一、婦人の饒舌は何時も小生の不用とする処に御座候、寧ろ唖娘にても宜敷御座候。宿では〳〵と言ふて小生の法螺の上塗りをせらるゝも難有くなく。

うちのやどろく
酒ばかのんで
愚図で鈍馬で
糸瓜で野暮で
其癖アタイニ
帯もたすきも
買うては呉れず
ホンニシヨ事が
ないわいな

など来客の前にて棚卸をされては実に恐入可申候。返す〳〵も口数の少なきこと肝要に御座候。

要之上等ワイフに候はゞ下女こまづかひを添へ家鴨蒲団の

上に安置し奉る可しと雖若し下等ワイフに候はば下女働きを申付くる筈に御座候。（明治三十九年三月二十四日発行深志時報第二〇三号所載）

と。コは失敗つたり新聞紙などに出して貰ふとすれば又何とか書きやうもあらんと。

◎保科五無斎妻君品定め（追加）

深志時報面白く拝見仕候。何となく自惚鏡にて自分の顔を映したるが如き心地致候。小生迎妻に付種々御高配を蒙り感泣斜ならず候。新聞紙抔に公表し募集下さるゝに於ては又何とか書き様もありたらんと後悔此事に候。あの新聞丈けにては結婚の申込は皆無ならんと転た深憂大慮殆んど落胆致すものゝ若し此儘に打捨て置き候ては将来縁組の妨げとも相成候はんかと掛念仕り聊か追加致し候。

一、小生の系図は清和天皇何代かの後胤信濃源氏の支流高遠の城主保科弾正に何かの因縁ありたるやうに御座候随つて会津中将とは親戚の間柄に候。少くとも五無斎の祖先が保科弾正の鎗持なりしか雪隠持ちなりしか位の関係はありたるやうに御座候。併し又保科弾正が五無斎の祖先の草履取りなりしか駕脇なりしか未だ知るべからず候。何を言ふにも家には系図といふものもなければ三代前の事は殆んど不明に御座候。豊臣大閤の系図の曖昧なるは言ふまでもなく徳川家康の系図さへも似せ系図の様に御座候。門閥など云ふ事は一代にても相応に出来る事に候。今日以後は各町村に戸籍役場といふものがありて細大洩さず記述し置き呉れ候為め苟も日蔭者ならぬ限りは系図調べも容易く相成り且つ安全に相成申候。一万年の後に至りなば徳川氏と小生の系図との差は僅々三百年に過ぎざれば牛の糞の階段と一般に相成可申候小生が門閥は第一流にても差支なく又中下にてもよろしと申しあげたるは全く之れが為めに御座候。

二、財産の事は前便申上候通りなれば更に説明を添ふるの必要なし。一代のうちに十億内外の富をつくり之れが消費方に就て苦心し居るカー子ギーもあり。三十七万何千円かを給事上りの銀行員に費消されたる大馬鹿ものもあり。金を溜める事は門閥をつくるよりも易々たる事に御座候。五無斎は当時無一物なれども借金も沢山には無之候。何れ其中に大地主となる筈に御座候。

三、小生は明治元年六月八日日出づるときの生れにて四十歳マイナス一に御座候。即ち三十九ジヤモノ花ジヤモノといふ年齢に御座候。世上お半長右衛門の例もあり旁以て若き美形を要し申候。

四、小生の素行修らざるは信州に於ける満天下の普く承認する所品行方正なる初婚者と言ふは如何にもアッカマシキやうなれど親父は酒を飲みながら子供には呉れず亭主は芸者買や女郎買に身を窶し乍ら細君の役者狂ひを許さず先

生はウソを教へながら生徒の間違ひたる時は遠慮なく点を減き父兄は子弟の頭を打ちながら教師の鞭撻を許さずして学校に怒鳴り込む等社会は案外にも自由平等などの考へは余り発達し居らぬものに御座候。

五、容姿は別品ならば申分なけれども又左程でなくてもよし。色の黒きは白粉を用ひ幽霊然たるは紅を加へ候はゞ事足り可申候。余りに愛嬌なきは自分は兎も角も一日少くも十数人の来客ある小生は来客に対するの必要上止むを得ざる次第に御座候。又余りに不器量なるは子供の結婚期に至り心配少なからず候。尤も石女ならば夫も夫迄に御座候。小生の御面相は頗る下品なるが上に山賊式なりと或る人は評し申候。旁以て美形を要する次第に御座候。

六、学問といふものと淑徳と申すことは正比例を致すべき筈なるに往々反比例を致し居るには閉口仕候。尤も女子高等師範学校卒業生位なれば一ケ月四五十円の収入を見越し勝手向きの不如意を幇助せしむる為め大概の事は忍び可申候得共生マ中の学問にて亭主と座布団とを間違へられては恐縮此上もなき次第に御座候。近頃高等女学校女子師範学校の卒業生中此風のもの多数見受けられ申候。実に遺憾此上もなき次第に御座候。尋常小学校の卒業生にても申したるは全く是が為めに御座候。去りとて尋常小学校位を卒業せぬものは五無斎如何に耄碌したればとて終生のワイフとする積りは無之候。普通教育に従事せらるゝの貴下是項丈けは軽々に御看過なき様願上候。

七、学者教育家新聞屋政治屋のいやに気取るところすこぶる迷惑なる事ながら婦女子の気どり屋と来ては如何にも鼻持ちがなり申さず候。女尊男卑論や男女同権論などは申すまでもなく、新聞の話など知たらしく話すも如何。殊に家庭雑誌などの御講釈何時も拝聴を強請せられて困却する事も有之申候。尤も是は他人様の御内君なるが為め何時も謹聴致居候得共其迷惑さ加減は今を距ること二十年の昔、師範学校在学中の講義と余り大差は無之候。

八、陸軍に於ては砲兵や騎兵も必要なれども輜重輸卒といふ使ひ道も有之申候。体格のよきは頗る可なれども小さくとも強壮なれば差支無之候。只々肺病やみや神経衰弱にては困入申候。

九、御承知の通り小生の舌長きは自分ながらも驚き入る程なれば之れが細君となるの人にして小生以上の饒舌ならんには豆蔵か話家の子供が出来可申候。職業に商下なしと申せ豆蔵や話家にては稍恐縮の至りに御座候。

一〇、先便中一寸失念致候得共新平民の嬢様娘様にても差支は無之候。尤も然る場合には先以て九州辺に引き移り更に北海道に移籍し台湾を経て輿入あるやう願上候是が新平民一生三遷説と申すものに御座候。各地の新平民諸君に

して斯の如くせられたらんには吾人と殆ど同一の門閥と相成可申候。是は嘗つて小生が或所の新平民の部落にて数回演説したるの一節に御座候。世の中は笑可なものにて華士族との縁組は別段に小言を言の気色はなけれども新平民諸君と結婚するの勇気はなきやうに御座候是が此世の習らひなれば致し方なし。五無斎の如き頗る無頓着なるやうなれども親戚故旧に離れてまでも強て結婚したしといふ程の勇気も無之候（明治三十九年四月発行深志時報第二百六、七号所載）の如く書き送りたり。目出度掲載はして貰ひたれども其後何等の反響も起らざるなり。

頃日野沢中学校の第五学年生三つ石某なるもの来りて数十日間予が家に寄寓したることありたるが其帰るに臨みて短冊数葉を携へ来りて予が揮毫を乞ふや切なり。乃ち禿筆を呵すればか〳〵ほしなの歌数首を得たり。是れが抑々の始めにて同種の歌七十余首を得たるに貯へ置きたる短冊は既に終りを告げ時は方さに午前一時を報じたり。乃ち寝に就き翌朝其余を得たり。読みもて行けば五無斎といふ薄運児が当初の妄念頗る盛んなるものあるに反して社会は案外にも不愛想なるものあり。天運循環して往いて復らざるのことなしとは言へ折々は復らぬ事もありとの理を発見すべし。

四十から教師六十代議士で
七十以後は総理大臣

是は明治三十四年の作なり。小学校の先生さへも出来ぬものに代議士は出来ず。総理大臣に至つては況んやに於てをやと謂はざるを得ず。然れども斯る場合に於ける青年男女の煩悶苦悩は遂に華厳の瀑布を煩はし厄介を浅間山の噴火口に持ち込むに至るべしと雖も五無斎は敢へて斯かる痴態に陥り狂劇を演ずることなかるべし。

浅間山華厳も既に古くさし
満韓蒙古さては西比利亜

是は日露交戦中の作なれども現今尚其必要あるなり。満韓蒙古の経営は焦眉の急なり。西比利亜の移住も近き将来に於て其必要を感ずるに至らん。五無斎は金銭に富まず又余命幾何もなし。初老の声を聞くこと近く一両月の間のみ。命旦夕に逼れり。海外などへ出かくるの勇気なし。よし勇気ありとするも主義方針も立たねば鐚銭一文もなし。謹んでアダムスピールの名ある水を飲み祖先伝来の肱を曲げて枕となし楽其中にありと洒落れ時に融通のつく事もあらんには濁酒でも飲み脳充血か心臓麻痺でも誘発せしめんと思ふなり。是は如上の薄運児が中風や肺病にさては天刑病の如き業病に罹らぬ為めの予防薬なり脳充血や心臓麻痺にては辞世の歌の間に合ふ筈もなければ

ゆつくりと娑婆に暮してさてお出で
わしは一ト足一寸お先へ

と。是は昨年中の作なり。

我死なば佐久の山部へ送るべし
やいてなりとも生マでなりとも

是は明治三十四五年の交県下漫遊の途にありし折手帳の端に戸籍の謄本を添へ次に此歌を記し傍らに但し運賃先払にて苦しからず候と書き添へ置きたるものなり。

人は五無斎を評して四十未だ家を為さずとは不用意千万なりといふ可しを。然れども五無斎の用意周到なるは自分ながらも驚き入る程なり。既に辞世の歌あり。行き殪れとなりたる場合に於ける遺言の歌あり。尚ほ且つ況んや信州に於ける名山大川人跡未だ到らざる所九連星紋章の輝くことあるに於てをや。



「よいかゝをほ志な百首け」に継いで出版を計画していた原稿の一部（信教蔵）

二ケ年間信州の山河を跋渉して地学の研究を為し地学標本の採集などは実は真赤な嘘言なり。言ふまでもなく哺乳動物猿猴属中の最高動物蒙古人種の一変種たる大和民族中の最優等なる一女性動物の採集にありしなり。然れども何等の得る所なく骨折損の草臥れ儲けに終りたり。某氏夫人の親切も水の泡と消え行きて何等の反響もなし今回の著書の如きも亦前両者の如きに終らんのみ。戯に於て悲しい哉。

年取つて見れば無暗に思ふかな
　此世でどうかかゝをほしなと
どうしても無いといふなら思ふかな
　森羅万象かゝにほしなと

此書の著述に当り信美画会員林探楽豊田笠州猩々暁文の三氏には無報酬にてポンチ絵を書いて貰ひ金井羊我氏には表紙の図案を書いて貰ひたり。謹んで其好意を謝す。父君の二十七回忌と母君の二十回忌に当り謹んで斯書を両親の位牌の前に捧ぐ。

明治三十九年十一月三日
　孝子（？）　五無斎　保科百助識

五無斎のうた
おあしなし　草鞋なしには　歩けなし
おまけなしとは　おなさけもなし

其一　年取つて見れば無暗に思ふかな此世でどうかかゝをほしなと

其二　五無斎と呼び来れども思ふかな一ッへらしてかゝをほしなと

其三　跡つぎもひとりはあれと思ふかなそれにつけてもかゝをほしなと

其四　元日に逢ふたび毎に思ふ哉今年はどうかかゝをほしなと

其五　人のかゝを見る度ごとに思ふ哉うちにもこんなかゝをほしなと

其六　墓まゐりする度毎に思ふかな世間なみにはかゝをほしなと

其七　寺参りする度毎に思ふかな天女のやうなかゝをほしなと

其八　両親の位牌を見ては思ふかな線香立つるかゝをほしなと

其九　孟子伝読むたびごとに思ふ哉こんな子を生むかゝをほしなと

其十　幼稚園見る度ごとに思ふかな子宝多きかゝをほしなと

其十一　晏子伝見る度毎に思ふかな亭主はげますかゝをほしなと

其十二　にはとりを見る度毎におもふかな早起すきなかゝをほしなと

其十三　傾城を買ふたびごとに思ふかなホンノリとやくかゝをほしなと

其十四　芸者をば買ふ度毎に思ふかなあいきやうのよきかゝをほしなと

其十五　蜜蜂を見る度毎に思ふかな仕事好きなるかゝをほしなと

其十六　箏のことみる度ごとにおもふかなコイツのひけるかゝをほしなと

其十七　歌かけといはるゝたびに思ふかな代書をさするかゝをほしなと

其十八　角力とりみるたびごとに思ふかな体格のよきかゝをほしなと

其十九　たなばたにあふ度毎におもふかな僕も今宵はかゝをほしなと

其二十　三ッ組の杯見てはおもふかなちぎりかはさんかゝをほしなと

其二十一　よろこびのあるにつけてもおもふかな共に楽むかゝをほしなと

其二十二　悲しみのある度毎におもふかなこゝろやさしきかゝをほしなと

其二十三　暗やみに山路を越えておもふかな案じて呉るゝかゝをほしなと

其二十四　家鴨やをはじめてみればおもふ哉お世辞のうまきかゝをほしなと

其二十五　ひやざけをのむ度ごとにおもふかなお燗番するかゝをほしなと

其二十六　宴会に出て行く度におもふ哉ご無事でといふかゝをほしなと

其二十七　よつぱらひ帰りし時におもふかないまお一つといふかゝをほしなと

其二十八　大酒を飲みたる時におもふかな水をもて来ゝをほしなと

其二十九　二日酔する度毎におもふかなビールでも出すかゝをほしなと

其三十　夜明け方帰りし時におもふかなお早うといふゝをほしなと

其三十一　つりあはぬ様ではあるがおもふ哉箱入むすめかゝにほしなと

其三十二　女学校見る度毎におもふかなえび茶式部をかゝにほしなと

其三十三　小説を見る度毎におもふかなコイツのやうなかゝをほしなと

其三十四　別品を見る度ごとにおもふかな一夜でもよしかゝにほしなと

其三十五　女子師範行く度毎におもふかな月給取れるかゝをほしなと

其三十六　家鴨をば見る度ごとにおもふかなをつと大事のかゝをほしなと

其三十七　十々の蚊厨の中にておもふかな独じや広しかゝをほしなと

其三十八　米櫃のがたつく度におもふかなこくやのむすめかゝにほしなと

其三十九　生マ葱で酒飲む度におもふかなさかな屋のむすめかゝにほしなと

其四十　徳利をば倒しつくしておもふかなさかやのむすめかゝにほしなと

其四十一　着るものも破れた時におもふかな呉服屋の娘かゝにほしなと

其四十二　七つ屋の前を過ぎてはおもふかな着物の多きかゝをほしなと

其四十三　此本を出版してはおもふ哉版木屋のむすめかゝにほしなと

其四十四　かけとりの来る度毎におもふかな持参金あるかゝをほしなと

其四十五　借金のあるにつけてもおもふかな共稼ぎするかゝをほしなと

其四十六　借金取来る度毎におもふ哉お断り言ふかゝをほしなと

其四十七　金持の前を過ぎてはおもふかな此家の娘かゝにほしなと

其四十八　喰いすぎて腹やむたびにおもふかなもみ療治するかゝをほしなと

其四十九　乱雑な書斎に居てはおもふ哉掃除のすきなかゝをほしなと

其五十　われ日々に三度は物をおもふかなお三の出来るかゝをほしなと

其五十一　朝茶をば飲む度毎におもふかなちやうけでも出すかゝをほしなと

其五十二　手もり飯喰ふ度毎におもふ哉きう事でもするかゝをほしなと

其五十三　行水をする度毎におもふかなせなかをながすかゝをほしなと

其五十四　けんびきの張るたびごとにおもふかな按摩の出来るかゝをほしなと

其五十五　毎夜々々寝るたびごとにおもふ哉床とりくるゝかゝをほしなと

其五十六　垢じみた着物きるたびおもふかなおはり上手なかゝをほしなと

其五十七　汗くさき単衣きる度おもふかなせん濯すきなかゝをほしなと

其五十八　病気して臥したる時におもふかな看護婦ひとりかゝにほしなと

其五十九　寝びえして風ひく度におもふ哉女の医者をかゝにほしなと

其六十　うたゝ寝をする度毎におもふかな枕持て来るかゝをほしなと

其六十一　袴着て出る度ごとにおもふかなをりめただしきかゝをほしなと

其六十二　放屁して尻寒き時おもふかなほころびをぬふかゝをほしなと

其六十三　長居する客来るたびにおもふかな不愛想なるかゝをほしなと

其六十四　来客の繁き時にはおもふかな長吏の娘かゝにほしなと

其六十五　妾宅を見る度毎におもふかな一人でよいがかゝをほしなと

其六十六　蚤しらみ取る度ごとにおもふ哉これはうるさしかゝをほしなと

其六十七　星と菫見る度ごとにおもふかななま意気ならぬかゝをほしなと

其六十八　ふんどしを洗ふ度ごとおもふかな下女を兼務のかゝをほしなと

其六十九　饂飩粉を見る度ごとにおもふかな黒くもいいがかゝをほしなと

其七十　おきやんさん見る度ごとに思ふかな山出しむすめかゝにほしなと

其七十一　後家さんを見る度ごとにおもふかなとしまなれどもかゝにほしなと

其七十二　しこつめを見る度ごとにおもふかなこれでもよいがかゝにほしなと

其七十三　下女会議聞く度ごとにおもふかな啞（おつ）のむすめかゝにほしなと

其七十四　四海皆はらからと聞いておもふかな非人でもよしかゝにほしなと

其七十五　義足をば見る度ごとにおもふかなちんばでもよしかゝにほしなと

其七十六　旧友と飲むたび毎におもふ哉つんぼのむすめかゝにほしなと

其七十七　按摩をば見るたびごとに思ふ哉めくらでもよしかゝにほしなと

其七十八　長右衛門の芝居を見てはおもふかなお半のやうなかゝをほしなと

其七十九　赤ん坊みる度ごとに思ふかな若し女ならかゝにほしなと

其八十　おばあさん見る度毎におもふかなちゝいでもよしかゝにほしなと

其八十一　神代史読む度毎に思ふかなうずめのみことかゝにほしなと

其八十二　源語をば見る度ごとに思ふ哉紫式部かゝにほしなと

其八十三　百人首よむたびごとに思ふかな小野の小町をかゝにほしなと

其八十四　どうしても歌出ぬ時に思ふかな蜀山人をかゝにほしなと

其八十五　池の端かはづ見る度思ふかな松尾芭蕉をかゝにほしなと

其八十六　巻煙草吸ふ度ごとに思ふ哉本居うしをかゝにほしなと

其八十七　起きて見つ寝てみつ物をおもふかな加賀の千代女をかゝにほしなと

其八十八　列女伝よむたびごとにおもふかなどれでもよいがかゝにほしなと

其八十九　宴会のあるたび毎に思ふかなお恵比寿さんをかゝにほしなと

其九十　みづうみを渡る度ごとおもふかな弁才天女かゝにほしなと

其九十一　仏前のほこりを見ては思ふかな尼僧ひとりかゝにほしなと

其九十二　膝栗毛よむ度ごとに思ふかな弥次北八をかゝにほしなと

其九十三　仏国史よむ度ごとにおもふ哉ジヤンダークをばかゝにほしなと

其九十四　征露史をよむたび毎におもふ哉ジンギスカンをかゝにほしなと

其九十五　日の本に生れしわれはおもふかな桜の花をかゝにほしなと

其九十六　豊年の兆と聞けば思ふかなおゆきさんをばかゝにほしなと

其九十七　田子の浦漕ぎ出て見れば思ふかなお富士さんをばかゝにほしなと

其九十八　お月様見る度毎に思ふかなアナタでもよしかゝにほしなと

其九十九　おもふかな又おもふかな思ふかなおもひ焦れてかゝをほしなと

其百　どうしても無いと言ふなら思ふかな森羅万象かゝにほしなと

跋

此書を読みて次の如く評したる人あり。曰はく五無斎の自叙伝なり。一部の修身書なり。一種の哲学なり。星と菫とを歌ひ精神に異状を呈し其極遂に華厳の瀑布や浅間山の噴火口を煩はしブランコ往生を遂げ鉄道自殺をはかるが如き青年男女の煩悶苦悩を治療するが為めには最も特効あり。中学校の教員も読む可く高等女学校の先生方も見ざるべからず。父兄は言ふまでもなく子女亦然り。絵書きの手本ともなれば歌よみの参……

五無斎曰はく其位にてよし。諠諾

我こそは　日本一の　窮民で
三ツつ兼ねたれ　鰥と孤と独。

明治三十九年十一月一日　印刷
同　年　同月三日　発行

不許複製

著者兼発行者　長野県長野市妻科　保科百助
長野県東筑摩郡松本町大名町八六五番地

印刷者　丸山尚
長野県更級郡中津村百九十九番地

印刷所　田島印刷工場
長野県東筑摩郡松本町大名町八六五番地

発売所　信濃青年社
長野県長野市横沢町
同　信濃青年社長野支社

（よいかゝをほしな百首け奥付）

書簡編

書簡類……547

吉村源太郎氏宛端書

○
只今貴君へ当の一通投し候処過の切手貼用仕らず甚だ失敬の段御赦し被下度未納の郵便税は教育時論御通送の者にて差引申候也。
明治二十年十月二十六日（長野にて）

○
教育時論是迄御送り申上候処該雑誌は近頃卑近に流れ論説及学芸の部は尠くして加之余り香しからず候に付購読不仕事に致し候に付一寸御知らせ申上候
尚実業上の雑誌等見当の候節は御送り申べく候
明治二十年十一月十九日（師範校内）

○
長野県々会議事堂落成昨二十一日開堂式執行せられ余盛になりしも如何なる故にや今朝七時二十九分頃出火九時に至り悉皆焼失せり余輩不幸にして其の建築物の模様を見ず聞く処に因れば余程西洋の美術を尽せし者なりと云ふ
明治二十年十二月二十二日（師範校内）

○
段々御心配被下候試験得点は望み通りとは参らず候得共成績は甲乙共に候間御安心被下度何れ対面の上委細申上候、余の辱知諸君へ宜敷御願候
明治二十一年二月二十二日投函（長野にて）


五無斎より吉村源太郎氏へ宛の手紙（吉村幹衛氏所蔵）

○
憲法発布式に森文部大臣よりの召集に応じ私立師範学校生徒は宮城門外に陛下の万歳を祝し奉る為め去る九日午後十一時出発夜中中碓氷峠を越え九時過頃
昨日陛下を宮城門外に迎へ次で○○の観兵を観候当○の○○は筆紙に尽し
明治二十一年二月十三日（東京にて）

○

其後は御無沙汰奉謝候小生儀之二月以来横浜禁酒会会員と相成候処該会発兌の禁酒会雑誌送付せられ候に付御目に懸け候猶此後も到着次第可差上申候間緩々御覧被遊最後に愚兄保科丈之助へ御遣し被下度候　加藤博士の　及博文館の大家論集は佐々木家にて送り置候間是をも御覧可被下候

明治二十三年四月二十二日（在長野師範学校）

○

其後は御無音に打過ぎ候段実に申訳無之候　扨本年も来年の通り現に開設しある第三回内国勧業博覧会見物を兼ね横須賀鎌倉より箱根を越へ富嶽に攀て甲府を経て諏訪を過き十日帰校の日割を以て修学旅行有之候得は茲に其略日割を記し御覧に入候　行軍中の出来事は其の都度一日御報導致度候得共稍々被労致し執筆に堪え難き義と存じ帰郷拝顔の時に譲り緩々御話可致候

第四回長野県尋常師範学校修学旅行　略日割

七月二十二日　長野を発し東京着汽車
七月二十三日　七月二十四日　七月二十五日東京滞留
七月二十六日　七月二十七日
七月二十八日　横須賀泊汽車若しくは汽船
七月二十九日　鎌倉泊
七月三十日　藤沢泊藤沢より国府津迄汽車
七月三十一日　箱根泊
八月一日　須走泊沼津より御殿場迄汽車
八月二日　富士八号目迄　八月三日　登山
八月四日　吉田泊　八月五日　甲府泊
八月六日　韮崎泊　八月七日　蔦木泊
八月八日　諏訪泊　八月九日　和田泊
八月十日　帰校

明治二十三年七月一日（長野にて）

○

拝啓陳れば私事六週間現役に服する為め明二十七日当表出発同夜長野に泊し二十八日友人某氏を和村に訪ひ二十九日同窓と上田に会し三十日高崎着翌三十一日高崎歩兵第十五連隊の入営の筈に候間此段鳥渡御報知申上候　校長には小野彪四郎氏四五日前来任せり　営所の様子は時々御報導申すべし

明治二十四年五月二十六日（在飯山）

○

久々御無音　国民の友百二十四号及百二十九号差上候尤も五六、七八号は信濃教育会雑誌は実につまらぬものに候へ共御送り申上げ候間御覧の上愚兄へ御廻し被下度候　五六、五七、五八、五九は追て差上候

明治二十四年十月二日（在飯山）

○

本日小県郡東塩田尋常高等小学校へ転任相成明後日赴任仕候に付御報知申上候

明治二十五年六月二十九日（在飯山）

○

春暖之節　扨先此度都合により本郡本原小学校へ転任致す事に取り極め来月三四日頃赴任致すことに相成候間此段鳥渡御報知申上候

明治二十七年四月二十九日（在東塩田　蜻洲居士）

○

拝復　横鳥村長に御当選被成候由目出度奉賀候　先御祝迄草々

明治二十六年五月十九日（在本原学校蜻洲生）

○

恭賀新年

明治二十七年一月一日（在本原　蜻洲）

○

拝啓　増築之議新築の訖たる子細に観来れば是純粋なる教育問題にあらず政治的若しくは党派的得手勝手論たるのみならず両派を代表す可き二三人士既に余か意見に反対なる以上は仮令部長の中裁を仰ぐも無益の業と存じ部長訪問の件は見合せと致候間左様御承知被下度候

明治二十七年五月十六日　在本原村　蜻洲生

○

恭賀新年

明治二十九年正月二日（在武石村）

源太郎様は御代田役場内

○

拝啓　小生事去る六月六日郷里を発し当地方へ漫遊今日午後か明日早朝貴下を訪問致す筈に付一寸御一報申上候草々

明治三十一年六月十日　小諸出張先）

○

拝啓　此頃申上候通り小生は来る十日一番にて帰村可仕科目及教科書は別に考えは無之候　学校に而御定め置き被下度候右之趣き立科学校へ御通じ被下度候小生は目下中々繁忙に御座候日夜奔命に疲れ申候　之は用事のみ　草々

明治三十三年一月？（於長野市高女）

○

拝復　織物業に関する調査書等は更に無之候得共幾分斯業に関する意見仮定御質問無之候とも七日頃より開会の由申上げ度考へに有之候　他にも御話申上度儀有之候間一日早く御来長被下様致し度　右御返事迄

明治三十三年九月（在長野市犀北館）

○

其後は御無音に打過ぎ候処御近況如何　兎角不順の時候御養生専一と存じ小生儀先頃仏教講習会へ出席致し居り漸くの事にて筆薬も（金の事）整い候に付戸隠村に向い候処柵村にて化石を発見し無中になりて採集左の手を志たたかに傷づけ止むを得ず帰長療養を加え候処経過甚だ宜敷候乍他事御安心被下度　次に蓼科学校の開校式は何月何日頃に候や漫遊の都合も有之候に付一寸御通知に預り度先は暑中御伺旁々用事のみ　草々

明治三十四年八月十二日

○

拝啓小生儀本日出社致し候博覧会見物の為に御座候　二三日滞在の上京都一泊帰長可致候

大阪、日本橋北詰大黒屋（明治三十六年六月二十八日）

○

大阪の町は案外不潔、町は東京に比して幾分規則正し、一二泊にて帰長せんと思いたれども四泊許りをすることとなりたり。

（明治三十六年六月三十日）

○

拝啓炎暑の候貴下益々御清適奉賀候扨標本の整理は先月二十五日より取りかかり、目下七八名の雇人を入れ居り申候若し幾分の御隙にても生じ候はば御来長の上御一覧願度今月末日迄には悉皆整理済みに致し度

蓼科学校の分、横鳥学校の分は如何に相成り居り候や村長に御話し被下度

（明治三十六年八月四日）

○

新年を祝す。

五無斎塾目下生徒三十名なり、一月中旬には拡張する筈

（明治三十七年一月三日）

○

拝啓五無斎塾の生徒は目下百四十名と相成候　四月よりは拡張の筈に御座候

長野中学校の四年、五年の生徒二十五名通学致し居り候来る三月頃御来遊如何

（明治三十七年二月？）

○

謹賀新年

都合に依り二三日中に帰宅するやも承計候

（明治三十八年正月元日）

○

拝啓此頃は一寸御立寄申上げ候処御不在にてその志を尽さず失礼仕り候

本日一番にて越後に参り、鴨の仕入仕り明朝一番にて帰長

の筈に御座候　若し御閑暇御座候はゞ御来長待入候
明治三十九年六月十三日（越後三条）

○

御子息幹衛殿儀に就而は一度御来長を煩はし万事御相談致して後に可然と存候先は用事のみ余は面談の節に譲り候草々

明治　年　月　日）

○

予而御願致置候○大至急御送り被下度例の書物の印刷とその他について非常に困入候　諏訪行の資本金の運動の為にも運動費を要する次第に御座候　先は費用のみ　草々
（明治三十九年十月三日）

拝啓小生儀一昨日上京仕り候信濃青年団の大会へ出席国武先生及信州先輩の諸氏及東京学生三百余名に面会致候尚京浜間に二三日滞在、帰長は八、九日頃に御座候
（東京神田表神保表旭楼　明治　年　月　日）

○

種々御配慮を煩わし難有候一切の準備も出来候に付御送金を御待申上居候東京に滞在中一日少くも一日を要し候に付一日も早く御願致度候先は用事のみ　草々
（東京本郷東竹町三十番地旭館にて　明治四十年二月十六日）

○

拝啓　此頃御願致置候接待係のこと何分宜敷願上候是非是非御来長奉祈候
小生今宵上京明日帰長の筈に候
（明治四十二年十一月二十四日）長野にて

○

拝啓　新聞紙上その他伊藤校長の報告によつて御承知の事とは存候え共信濃図書館は先ず以つて好成績に有之申候三府を除いては無論一等図書館に御座候大沢辰君より五十円許り借入候為め資本の喰い込みは少々に御座候尚松本諏訪の二ケ所へも設立し度と先月下旬愈々長野市を陥落仕り候佐久へも無論設立の考えに御座候其節又々拝顔可致候
（明治四十年七月三日）

吉村源太郎氏宛封書

拝啓　只今湯本安運君に面会致し柳沢禎三氏の図書館設立の事を聞いて実は飛つくり驚天致し候御承知の通り同氏は顛渋（とこる）や者も有之且いざ金子を出すというときに際しては後へは引き込むを以て慣用手段と致す所の人物のよし聞き及び居り申したるために御座候小生が例の千両運動に参り候節も二万論をかつぎ出し候に付コイツドウシテ二万円の

大金が出るものかと心に推し候へ共斯かるやつをおだてゝやるも愉快なりと帰郷の後二百円ならば十万円の価値あるものと設立しやらんと吹いてやり候処。何れこちらより参上すべしとの事なり候ば立消之の事と思い居り候処過日町村会議へ出席之序二宮県視学に勤められ小生の標本を見且つ又々二万円図書館の事を渡辺老人にも談し候由を承わり候に付又々書面を以て真に設立する積りなるや果してその積りならば予が図書館設立の考案を話しやらんと申し送り候処何の返事もなかりしに今回遂に設立に及び候由遺憾千万に御座候小生は法螺に非ず二万円ならば十万円の図書館を出来す積りに御座候然れども事今日に至り候ては又如何ともする事なし実は本月二日下高井教育会の聘に応じ中野町へ参り候節所謂中野文庫なるものを信毎社の山路愛山君や長野中学校長川口降太郎君などと同道にて参りその規模の小なる割合には経費の多くかかり十年後には閉館の悲運に立ち至らんとそぞろ涙にくれ申候柳沢氏の図書館も亦余り大差なかるべきか、その議論は余り略す。併し小生は一昨日夜下高井郡野沢温泉より帰り上水内郡視学酒本政治氏を訪い小野氏の小野図書館や柳沢氏などの事を語り出で十年後には是等の図書館は閉館せざるべからざるの悲運に立ち至るべければ是等の図書館を合併して一大図書館を設立するの計画を為すべしなど下相談を致し候然れども小生は是等小図書館が七八つも出来ぬ間は合併策には手出しを致すまじく候。嘘二万円は大金なり而して五千円丈を否二千五百円丈けの価値否々一千円丈けの価値をあらはし得ば幸なりと愚考仕候小生は一千円丈けならば能く柳沢図書館位の価値ある図書館を設立可致候是に就ても詳細なる議論あれども長ければ略す。

図書館合併前に小生は近く二三年の間に長野市に一大図書館の設立に尽力可致候その方法手段の如きは頗る洛陽の紙価に影響を及ぼすべければ御面会の折に譲るべし。

次ぎに例の標本整理費千両の事今一回御尽力被下間敷

別人ならば横烏村随一の財産家高橋大太郎同忠孝氏の談判なら柳沢禎三氏が二万円の図書館を立つるならば高橋家に於ても一千両位は出しても差支なるまじくと存し小生は先月末を以つて財産家なるもののお目出度きものなるよしを発見仕り夫々献納すべき学校より整理費丼に荷造費を要求仕り献納する事と致し別紙印刷物を配付致し既に十七八ケ所より申込を受け三校よりは入金迄も致し候間斯かる場合なれば若し同家にて応じ呉れずとも一向不平には無之候へ共長野県の教育家丼に学生生徒を益することは遙かに柳沢氏の右に出づべくと存じ献納すべき学校は県下の高等学校六十二、中学八校、高等女学校四校、実業学校四校県庁の農事試験場大林区署東京帝国大学京都帝国大学札幌農

学校各高等学校高等師範学校(二)女子高等師範学校帝国博物館東京教育博物館等総計九十余校に御座候尚今一ケ所献納すべき所あれども畏コケレバ筆紙ニ上申可たし小野幾之助氏の七千五百円の図書館を見今又柳沢氏の話を聞き仕事も手につかず候まゝ一書を呈し候金持ちの前に叩頭さるも是かぎり今一回丈けにと一書を呈し候何分御尽力を得度如斯に候　草々敬具

保科百助

吉村源太郎殿

佐久間源次郎氏宛

尚親類及同姓なれば高橋金五郎高橋寅太郎等の諸氏でも御相談の上にて願度候尚呉々も小生に此事不調に了り候も一向不平などにては無之候右申添候也。

尚々々本月一日付にて別紙印刷物は蓼科学校へも参り居る筈に候間此事不調に了り候はゞ宮坂頼母氏の寄附金のうちにて右整理費を出すやう御尽力願上候。

十日づつ年々出すべき約束のように聞き及び候につき付け加え申候

尚々々何れにしても来年六月信濃教育会総会総集会の節は親戚故旧を集め鉱物採集配付済みの祝宴会を開可申候予め御案内申上置候

非常に繁忙乱筆且つ文章甚だ無雑

吉村寿政氏宛

光陰流るゝが如く最早目迫と相成何かに就ての御繁忙推察候、次に小生儀幸ひに無災罹在候間乍憚御休心可被下候当冬休業中帰郷致す事に就ては未だ全く判然不致候へ共財政困難なるのみか仕度さえ整わねば十二円も取りながらあの出扮は何事か杯近所近辺者にささやかれんも空恥しく候得ば来年の暑中休暇の時を期し置き今年丈は帰郷不致る積りに候間悪しからず思召可被下候北佐久高等学校の事吾々の図かり知るところにあらずと雖も鳥居のまぬけ伊藤のがさつき二三訓導輩の軽忽実以て驚入申候　先達も佐久郷友会なるものを長野に開らき、伊藤北佐久郡書記小泉更級郡書記与良師範学校訓導その他南北佐久出身の教育者学生相会し何か相談事致度に付小生等にも出す様申し来り候へ共戦国乱離の世内憂外患交々至る勢復た拾収す可からざるに迫んで頭をかき乍ら手を揉し乍ら訴うるか如く泣きつくが如く何やかやぐず〳〵申し来り候も致し方無之候へば彼等をして因果応報の理を知らしむるに若かずと存じ大沢茂十郎及小生の二人は態と出席致さず遠方より高見の見物致し申居り申候蓋し鳥居、伊藤其他二三のガサツキ訓導輩の手

に依つて北佐久学校の改良を望む殆んど木によつて魚を求むるより甚しきものあらんか然り而して御隠居伊藤の後を承け此頽勢を挽回せんとすとかとの事一度のみならず二度ビックリに御座候北佐久教育の事日に非ならんとす嗚呼亦如何す可き

此他尚申上申度事山程有之候へ共後に譲る先は御迎春の御用意専一に存候　頓首

下水内郡飯山　二十四年十二月二十二日　蝸州居士

吉村寿政君

吉村源太郎氏宛

拝啓　渋温泉より一書呈上致候　扨小生は二十一日の暮れ方には秋山の大巻と言ふところにて馬鹿けたるばくちうちと見誤られ南雲健吉氏方に宿し二十一日南雲氏を発し長瀬日出山を経て屋敷というところに至り非常なる空腹にあい大畠に入りて同行五人にて大根に飢を志のぎ候主人と覚しき奴に見とがめられホウ〳〵の体にて逃げ出し同夜屋敷の温泉に宿し二十二日屋敷温泉出発切明温泉に至り同地附近にて鉱物岩石の採集をなし同所に一泊二十三日切明温泉を発し〝此辺はいやしき賤が伏屋なり、旅も阿きやま今日できりあけ〟など詠みたるに、同行の森本原吉氏何か狂歌めきたるものをよむで添削してやりたり

故郷にさぞやかかあも待ち詫びん
　旅もあきやま今日できりあけ

夫より切明温泉より往郷村へ通ずる山道にかかりる。此間六里と称するも七八里もあるべし一軒も人間のすみ家はあらず只々上つたり下つたりの道のみ何の愉快もなし同日午前六時頃に秋山を発したるも穂高に着したるは午後七時半頃なり明日演説すべき穂高村へは半道はかゝるにあらざれども一歩も足の出ぬようになり候ため穂高に宿す。同行の森本原吉氏は財産家でもあり極々の酒好きにて南瓜煮て二人にて三本の酒を傾け三時間許り過ぎて穂高にて同じく二人にて三本下地はすきなり御意はよしと言う小生なれば達して断わるわけにも行かず二十四日今日は愈々瑞穂学校に於て演説すべき当日なるにも拘わらず又々両人にて四本の酒を傾けたり

空辞義をしたるももりに勧められ
　酒をほしなが呑酒百杯

午後瑞穂青年会に於て自慾(愁)と公益心と言ふ演題にて演説をなし同校宿直室に泊り共明日は小菅権現に岩石の採集をなさんとせしも瑞穂高等小学校生徒のために蜜蜂談及毛無火山の話をなして時間を費したるため遂に同校長鈴木栄蔵氏の官宅に宿す。同官宅は昨年の新築にて四間半に五間

あり中々よき造り方なり。予は各村共斯る教師館の出来ることを希望致し候なり、二十六日小菅権現に参詣致し候お宮附近にて岩石標本を採集神官某氏方にて尖石類を見穂高村の旧友伊東寒(宣)氏の憂鬱症にて家内にのみ引き籠り居る由を聞き込みたれば友人に伝言して芋を沢山煮て置く様言い送り日暮方同家に至りしに乞食と見誤まられお米やろか何か喰い度しはお宮へ行け寅は留守なりとのことなれば

此方はお米貰いし事はなし
　ゆるしてほしな乞食呼ばり

同夜旧友鈴木松樹氏に宿し其の翌日再び穂高に至り校長土屋恵治に万物登山の事を申入れしに大賛成にて同校生徒百四十余人教員三名と共に万物山登山、此山は此辺にて景色のよき山なれども非常なる険岨なればよく登山するものなし百四十人の生徒中十七名の外は皆中途より帰りたり登るには登りしものゝ帰りには危険極まる事なれば馬曲と言うところに下りたり万仏山の頂上にて毛無噴火孔を見る思いしよりも大なる噴火孔なり

下高井産んだ毛無の噴火孔
　思いしよりもデカこそあれ

今日馬曲の辺にて放屁すくさい〳〵と生徒共のこえに

放屁してくさくなくんば鳩の喰う
　豆鉄砲と何ぞ撰ばん

今日戸立岩式井に城ケ峯式毛無熔岩を採集穂高学校に帰りしは午後六時頃なり予而月見の会の催しあるよしにて学校職員役場共にて七、八名宿直室にて酒宴始まりたり今年の月はとかく隠り勝ちにて御出懸も六ケ敷やうなり

上戸とて余り好まぬものながら
はづきのはぎのもちは格別
おいやなら御出懸けあるな此方は
酒は好きだがもちはいやいや

既にして東方を眺むるにいつの間にやら三四尺許りのところ

月影らしきものを見る
まだ〳〵と思いしうちに三四尺

下の句の出来ぬうちに再びお隠れとなりたれば

出たと見し間に又もお隠れ

上戸連中の事とてお酒は五升樽御馳走は馬肉葉芋生ま大根奴豆腐等なり

上戸には酒さえあればもちいらず
肉もよければ芋も大根も
あの雲の中へ隠れたるところよめと収入役の言う
あの雲を鏡台山になぞらえて
隠れし月を待ちもこそすれ

此の下の句は或る人のつけしなり仲々の名作なり予は再び

月の傘のようなる雲の上に出でたるとき
あの雲を鏡台山になぞらえて
今宵は此処で月見
肉と芋と大根の外に豆腐も
ありと或る人の言う
今宵こそ豆腐のやうな月見を見て
シラバックレタ歌も出るなれ
月の稍明かかりける折
四十八のさかつきほしな更級の
田毎の月を此処でながめん
暁方に小便に起きたるに明酷々たりしかば
今宵こそ八卦のような月見なれ
始はわろく末はよろしき
二十八日同校生徒のために一時間許りの修身談をなし雄樽瀑に至り雄樽瀑熔岩を採集なし木島村に至り再び伊東寅吉氏を訪い
世の中をいとうはやぼだ末長く
愉快にくらせおのが気儘に
日暮方荷造りを為せしに所内という見ず知らず教師あり学校の宿直室に泊れと言う飯山まで行きたしというに聞き入れず校長小野彪四郎訓導野崎喜太郎の三氏にて懇親会を開いてくれられ馬肉と葉芋とにあきその明日は中野迄と思いしが飯山学校にて職員会あれば演説せよと言う止むを得ず下高井下水内の地質地形を論じ三時間許りシャベリ続け荒木紀(ただす)と言う教員と勝家貞一郎という教員へ狂歌をよんで端書にて送りたり
金儲け手あらきことはすべからず
人のかかみやのりとなる身は
荒木氏は中学敷地の事にて金儲けを企て新聞に出されたり
本場ではかつや負くるは受合だ
ごむさい訴願するな貞一
同日午後静閑なる山崎是平氏を訪い哀れぽき話を聞き中野行を果さず再び飯山に帰り塩九という旅宿に一泊宮本校長と大に時勢を談じ二十九日飯山発中野に至り師範学校二十余名に会し中長と言う旅宿に泊り下高井火山と教育上のことについて演説をなし一昨日角間温泉にて岩石採集昨日は地獄谷にて岩石採集同処の温泉に入浴
極楽に迚も望のうせし身は
地獄の谷の湯加減を見ん
本日一日は休養明日発舗温泉に至り岩菅火山探険明後日は志賀火山に至り熊の湯一泊其の翌日は渋温泉を越え草津夫より白根山を越え山田温泉今月中旬頃長野へ参り可申候
草々

十月三日（明治三十四年十月）　百　助拝

吉村源太郎様

君方の助言なか長事ならば
　五無斎百は野宿なるらん
志ぶ志ぶで泊めては呉れず助言して
　とめてほしなと此処へこいずみ

中野の中長では師範学校の先生方の助言にてやつとの事にてとめて貰い渋温泉では校長小泉仁三氏の助言にてやつとの事でとめて貰いたり。

此の書面は御一読の上家兄へ御志めし可被下候一銭の巻き紙終り申候

つたなき筆を此処にて差し置く
　これはこれはつたなき文句長手紙
　ゆるしてほしな例の乱筆

横沢氏宛

明治四十四年五月十二日

小県郡本原村　横沢次郎兵衛宛

長野市県町　保科五無斎

拝啓　御地参候の節は種々御配慮を煩はし難有奉存候扨、小生事、小県上高井二郡の巡講をかへり昨夜帰長仕候、当分長野市に滞在致居る可く候間御来長の節は御立寄りの上御宿泊被成下度候、善光寺町の事等御案内致す可く候

先は御礼申述度如斯に候　敬具

長野市県町鴻静館支店にて　五無斎生

横沢次郎兵衛殿
〃　忠左衛門殿

尚御家内御一統さま方へ宜敷願上候。右申添え候

大沢茂十郎氏宛（明治二十四年四月以降）

先頃信濃教育会夏期講習会へ出席致居候折　貴殿へ象牙出来の見認印（実は大まい三十五銭を払へ上田の或る方にて調整致したるもの）を御預け申置しと思ふ如何御所持に候はば何かの序に御持参被下

下高井高等小学校　穂高分教場

大沢茂十郎君

在飯山真宗寺　保科百助

○

来月三日の日曜を以て下高井郡雌重（蝶）雄重（蝶）の瀑布を見る様高等学校並ひに当校訓導諸氏と相談し置けり若し御賛成なら土曜日に泊りがけに出て来い

下高井高等学校　穂高分教場にて

大沢茂十郎君　　在飯山　保科蜻州

○

霖雨の候益々御清適奉賀候　扨小生儀去る十二日滞なく満期除隊帰任仕候間乍憚御安心可被下候　Mの事一旦承諾しながら其後更に顧みざるとの事森氏より聞き及び一驚を喫し申候　是は宗教家としても小学校教師としても不都合と存候　雑誌並び本至急持参の上御返却あれ余は貴殿如き虚言つき漢に向つて貸与し置く程の勘忍力を持たぬなり　そーして飯山学校暑中休暇二十七日よりなり　早々々々

大沢茂十郎君　　真宗寺にて　保科百助

同　表書き

下高井高等小学校　穂高分教場にて　大沢茂十郎君

七月十二日　　在飯山真宗寺にて　保科蜻州

○

呈一書

陳者生儀一躍三十一日午後五時を以て無難に帰宅仕り候間乍憚御休心是祈る

次きに御同様無聊に苦しみ候折様なれば御誘合せ御来車を請ふ

浅井教諭浅間登山の日相知し申候へば早速御教導を乞ふ

尚三氏にも宜敷

八月二日　　山部村　H. hoshina

茂田井村　M. Osawa　君

表書き

北佐久郡茂田井村　大沢茂十郎様　机下

北佐久郡山部村六十八番地　H. H.

○

拝啓

其後は御無沙汰に打過ぎ申訳無之候

陳は小生儀今般暇乞の為飯山表迄罷越候処帰路都合有之渋温泉金具屋へ止宿仕候間是非共御面会仕度何卒万障御繰合御入来之程待上申候　尚友野己之助君も同浴仕候に付同君は御存知は無之由に候得共下水内高等学校出仕致居候乃にて別而懇意に願候故無御遠慮御来駕待居候　尚々真宗寺の皆様当浴場へ御出懸致居候に付宜敷御伝言申出候何れにしろ御出懸之程希望の至に御座候其間積る山々の御話申述度御一つ御洩し之事頓首　希候

十月十八日　渋金具屋にて　高橋周助

大沢契兄　待史

○

追々秋冷相催候之候益々御健全に御暮しなされ候や随而小生儀無事息災罷在候間乍憚御安意下され度候陳バ先日大沢房之助氏帰省之節托言相致し候洋服の義早速御出荷下され昨十七日無事到来無ㇾ恭納領致し候　且又大沢房之助氏当地

出向之節書面御送り下され委細承知致し候猶在中金二円有難く納領致し候　然る処洋服の義は練兵式に用ゆる処の者にして生徒中可成相揃ひ仕立致す可く旨校長は演説有之候間無余義事と存じ同級生申合せ最下等なる小倉に相仕立致すべく様申入候（而して予算金三円五十銭位）最も上等の洋服は金二十五円以上にして相出来申すべく中等位なれば五円以上二十円以下に止まるべく候又御送りに相成候洋服之儀は少しく小生にはやゝ大形なれども着用には差支なし靴之義は金一円六十銭にて中等の靴相求め候（外諸君の誂の靴は大概二円位又は其より以上相掛候）又武重一祐殿義は中等教諭浅井先生塾に入塾致し無事勉強致し居り候此段も又々御安意あれ　今有る入校試験は兼而大沢房之助氏よりも御聞及に相成り御承知には有之可く候へ共試験出願生三十八名余の中合格生六名仮入校生十三名都合十九名入校す大沢房之助氏は合格に相成候誠に結構之事に御座候又認明試験之義高中初等科志願生八百三十名余も有りしが其中中等科生は八十名余中合格生十五名　右之黒沢中村両氏は不合格に相成候事無余義事に御座候なほ申上度事山々なれ共後便に譲り申上くべく候　尚御一同随分御達者にして歳末恙なきを相慶せん事を期し候　頓首謹言

題志らず

第二には酒といひたる人もあり

はづかしながらわしも〇〇　五無斎

大沢君によみてつかはしける

君と余は千代に八千代にさゞれ石の

いはほとなりて苔の生すまで　五無斎

万歳亭よし子が三弦の裏に

万才のよしといふ字に二つあり

みめのよし子と気前よし子と　五無斎

出浦四郎氏宛書簡

（長野市新諏訪町出浦一郎氏蔵）

拝復　突然の御辞任甚た迷惑仕候第一条貴下の発展上必要とあらば止むを得ず然れども一日二日の御猶予はありても然るべからん第二条娼妓的の取扱とは扨何を意味するにか恐らくは坊主学校の事ならん坊主学校の校長某君来訪是非共御融通を願度しとの事なり予は答へて言へり坊主学校と小生の私塾とは距離が如何にも遠隔なり一日二時間若くは一時間の授業を担任するとしても三時間若くは二時間を要する筈なり三時間若くは二時間を要するとせば小生の塾へ出勤の時間は二時間若くは三時間となる筈なり十月以後は如何に数学の時間を減ずるとしても四時間以内に若くは三時間に減ずるを得ず本人の収入の増加する事なれば吾輩一

己にて断然御断はり申すも如何なれども先つ以て御断はり申度し高等女学校の中野文次郎君は同校内に寄宿も致し居れは事によりては都合の就くやも知れず是へ御相談ありては如何尤も中野君の受持時間は非常に多き様聞き及ぶなり同校教諭高橋貞吉君は数学専門家には非るも以前貴校に関係ありたるやうなり代数幾何の初歩位は受持ち得らるるならん尤も両君其他に於て達つて御不都合とあらばお互に経済向不如意の学校若くは私塾を営み居る間柄なれば何とか融通も付けて五年級の四時間位は御手伝致すやうなる御相談に預りても宜しからん先つ以て高等女学校の教師方に御相談ありては如何四時間来るとしても四日に亘りては不都合なり二日間に四時間の時間割ならざるべからずと申談し置きたるのみ中野君高橋君百瀬正一君其他など問ひ合せたる後止むを得ずんは何とか御相談に及ばんと其後貴下には只其一部分を御話致したるのみに候小生独断にて坊主学校へ出るやう相談を決めたるにて候はゞ今少し深入して御話も可致つまり確定したるにては無之候為め貴下にも只々食堂にて一寸其一端を御話致したるのみ敢て決定したりと申上げたるにては無之候　小生は日頃粗暴の性質にて此他に尚娼妓的に取扱ひたる事ある哉否や若しありとせば如何なる点を御立腹なりしか小生にして改め得べき事ならは幾重にも改め申すべし若し坊主学校の事ならば小生が詳細に御話致さゞりし罪も到底免るべからずと雖も貴下の速断の責も有之べし何は兎も角も一旦御帰長の上篤と御相談に預り度其上にて如何様にも処断可致候是迄の御交誼もある事なれは話をするに書面若くは電報を以てする事甚不得策かと存し君の疑念の霽るる哉否哉談判の調不調は兎も角も小生も一個の男子に御座候御面談の上にて一日も早く処断致候方彼我の為め得策かと存じ何れにしても従来の交誼上後任者ある迄は御苦労願度候夫も達而御不都合とあれば貴下の御随意の外無之候以上　百助

出浦君

封書表書き消印明治三十八年九月三日

小県郡長瀬村　出浦四郎殿　　長野市　保科百助

滝沢国作氏宛書簡

○

拝啓　雇教員なれバ其手続を要さず直に採用可相成候問至急御出し可然と存候草々

十月六日　大豆島小学校　保科百助

諏訪郡上諏訪町　蚕種検査所　滝沢国作殿

○

拝啓　過般御願致置候スペルリング拾冊十二月一日迄に到着致ス様御購求之上御送り被下度西沢に六冊程有し由に候

問残四は他の店にて御求メ被下度貴殿に御依頼申上候

小県郡上田町　蚕業学校内　滝沢国作殿

○

拝啓　此頃御出被下送別ノ宴ヲ御張り被下御厚意志に与り難有存候扨小生事一昨五日御地発後人事にて大屋に出テ上リ一番列車にて上京の途に就き午后四時着京本郷森川町十番地広瀬長方に投宿昨六日は長野県人七八名相会し本日より神保博士に就き大学へ参る筈に候先ハ取急ぎ御一報申上尚帰任は来月三四日に候

東京本郷　森川町十一番地　広瀬長方　保科百助拝

長野県小県郡武石村　滝沢国作様　金子浜太郎様

伏見様

○

拝啓　開校ハ十二月一日よりに御座候来月十五日頃より御願申度と存候昨日の処にては松代氏を依頼するとの相談は纏まり不申候是は組合会なるか為めに御座候二十五日に学務委員会を開く筈に御座候（三三、一〇、二三）

横鳥村　保科百助

小県郡武石村　滝沢国作様　池内寛治様

○

拝啓　組合高相学校の事甚だ面白く相成候設置の事新築の事ニ付明后日出長可致候ゴタ〳〵は如何相成候哉成るべく百も早く落着する事を望み申候長野には一週間滞在の見込に候（三三、一〇、九）

○

拝啓　御地滞在中一ト方ならざる御芳意に預り採集の便宜を得たるもの勘からず右御礼申上げ度如何に候や尚御家内様幷滝沢良作方へも宜敷致候草々（三四、五、一八）

小県郡武石村小沢根　滝沢国作様　丸子出先ニテ

○

拝啓　此頃ハ上京すべければ御来長御見今せの趣申上候処本日大学院理学士滝本鑑三君二十四日か二十五日頃来県の事に相成候間当然して御手伝致下度此度御願申上候

尚？滝沢君も御来長野申上？貴下より御伝へとりなし度

長野市高等女子校　保科百助

小県郡東塩田実業補習学校　滝沢国作殿

○

拝啓小生儀一昨日上京数日間京浜間に滞在の筈に御座候帰国は八九日頃に御座候錦輝館の信濃青年団大会ニ出席申貴衆両院をも見物する積りなり

東京神田表神保町十番地旭樓　清水校長へ宜敷

保科百助（三七、一二、五）

長野県小県郡東塩田学校　滝沢国作殿

○

拝復　小生の長野行きハ来月八日と決定致候尤も郷里出発は六日なるか将た七日なるか決定に至らず宜しく高等女学校へ相談申なり次ニ小生方へ御出懸に候はば福翁全集のうち租税論のあるところ御貸し被下度尤も二十五日には子六を御宅へ遣はす考に御座候出すか出さぬや知らされとも「予は大八孫六両氏の当選を祈るものです」との論設を信毎紙上に寄せんと考へ度候

横鳥村　保科百助

小県郡東塩田学校　滝沢国作様

○

拝啓　三十三年頃採集旅行支度の写真一寸御貸し被下度し

七月二十二日　保科百助囿

○

小生儀本日出長八日展覧会を開く筈ニ御座候御余暇に候はば出懸被下度く候草々二月六日清水校長へ宜敷（展覧会へ御出懸下サイと）鉄瓶ハ如何なり居るや御序の節丹羽君ニ御聞カセ被下度（三六、二、六）

保科百助

小県郡東塩田実業補習学校　滝沢国作　滝沢伝　殿

滝沢国作氏への手紙

御手紙拝見扨小生事武石村を辞職致候以来東都並に長野上田地方を俳徊致し甲田御ぢめも大概にして切り上げ只今の住所に落ち付き信濃教育会の機業講習会を了り種々なる関係より当今は実業家と交り致す様の場合と相成り学校は至て小さき併置小学校にて自身にて高等三年四年を受持ち居りし候為め寸暇を得ず甚だ迷惑致し居り候（あと数行巻紙破損）扨当十二日限りにて他へ転職致し度しとの事申越実は貴下並に御令閨の親御達に対しては小生方にて厄介致したりと聞えては甚だ申訳もなき次第に御座候得共大志を抱き居る貴下を余り多く苦しむるは如何とも存じ候貴下の就職せられ度きは何れの方面に候哉若し一員として就職致され苦しからずば当大豆島学校へ御出勤被下間敷哉当時高等一二学年の連級に一名の不足有之候俸給は拾三円許りに御座候へども貴下の御勉強によっては二三年の後には十五六円以上差し上ぐる事と可相成　当村は河中島に於ける第一の蚕種地に有之長野を距る一里二拾丁許りに御座候　小生も都合により今回は三四年間当地に止むる積りに御座候夫れは少しく野心ある小生なれば俸給の如きには少しも懸念する気なし四五ケ年も勤続致す積りに候間小生の当校在勤中御就職下さる事は勿論来月一日より御就職被下を得ば極めて好都合に御座候之れ要するに当校の欠員も来月一日迄は延ばす事相成り唯々近々の内機業講習会も開かねば相成らぬ事故至急貴下の意志を御決定相成度四五ケ年の後に

は充分貴下の目的を達せらるる様御取り計らひ可甲候

草々

上諏訪蚕種検査所　大豆島保科百助

滝沢君

当当地ハ上水内蚕業講習所と言ふものも設立致され居り申候大至急御返事有之致候也

○

拝啓秋冷之候に候処益々御機嫌克被為入候哉小生儀身体上にては何等の異変も無之候得共経済上は不相変閉口致候依之今回著述と出懸先共其第一着として別紙印刷物の通りのものを発行致候若し希望の仁も有之候はば売捌方願度百姓が菜大根を商ふと同様に著者自ら発売致候ても宜敷由に御座候製本出来次第一本進呈可致候先は当用のみ　草々

六月十二日　長野市妻科　保科百助

小県郡浦里村仁古田

滝沢国作殿

○

拝復御近況を詳にし大変の事に御座候

別所の上・の端書ハ果して何人ニ候ひしか藤森君は目下上京の帰途甲武鉄道にて郷里上諏訪町に帰臥致し居候二三日中ニ帰塾致す筈に御座候当塾来年度の経画ニ於てハ頻る苦心致し居り候数日前日本の遊弁家小池平一郎其の他の諸氏に依嘱して権堂の千歳座に於て時局問題大演説会を開設致候処仲々の大入ニ有之申候三拾円余の収入有之候処つぶれかけて居る私塾の熟長先生此度一番虚勢を張るの必要上長野市の恤兵部へ五円小池第一流の貧乏人に有之候処純益金壱円六拾何銭有之申候斯る際ニ虚勢張るハ寧ろ小生の得意とする処宜敷御推察被下度小生の財産ハ郵便貯金五円以外に矢沢末三郎君より来るべき利息の拾円都べて拾五円に有之候得共肴屋の真木屋の精算を致候へば殆んど無一文に可有之と存候から馬の打ち返す事なしと存じ私塾は来年度よりは速成中学校と言う看板をかけ三ヶ年程度と致し度きの野心より先頃第一回の学術演説会を開き第二回ハ在京の衆議院議員立川くもひら君を呼び寄せ小池君と立会の上当市権堂町千歳座ニ於て

征露詔勅煥発
第一週年記念　通俗学術大演説会
会主　五無斎

の名称を附し来る十一日午后〇時三拾分より開会致し同午后六時よりは上田町（会場未定）に於て同様の演説会を致し今度こそハ拾五六円の収入を得て私塾経営の一助に致し度と本日三時の汽車に上て田町に参り終列車にて只今帰宅致し懐中にハ僅々六せんのみと相成り候処東京芝区の高輪御座より書留の封書参り居り候に付取るものも取り敢へず

開封致候処価金として大枚五十円の為替券在中致候是にて私塾も五ケ月は持続致すべく候直ちニ中沢照琳のかゝに示し候処ゴムサイさんもまだ福の神に見離されぬ是も日頃欲の浅き故と申され候如何にしても爪の長きは此世の悪徳と観念なさるべく候当市の弁護士丸山軍次君も六拾円程寄附致すよしに御座候権堂の顔役宮崎の光の野郎も月々五円宛寄附するよしに御座候高等女学校の土屋政吉君も満韓視察費のうちへ寄附し度しと申され候小生の交遊中には学者もあり軍人もあり博ち打もあれハ仏様のやうなるなべ敏先生の如きあり是か五無斎の無主義無節操を表するものか只一つ婦人に知己なくてかゝに来るものがなきかと思へば三十八歳の今日余命幾何もなく転た心細く相成候呵々斯の如きねなくらを書き付希候為め炬燵の火も残り少なに相成り止むを得ず茲に擱筆仕候　草々

明治三十八年二月二日夜　認　翌朝投画の筈

五無斎老人　保科百助

滝沢君

尚此書面は清水老先生其他にも御被露願上候

兄（丈之助氏）への手紙

拝啓小生儀選挙之弥次馬として長野市へ参り本日再び仙人と相成申候本日は長野を発し当地着明日は千見と言ふところにて化石の採集を為し大町に出で小谷温泉へ参る筈に御座候思い起せば七日の日東筑摩郡麻績の聖山と申すいと神聖なる山に居り候処停車場にて山田氏の立って長野市の候補として打って出でたりとの報を得て日頃の物数奇心がむかむかと起り長野へ参り候処氏は例によって壮言大語傍らに人なきが如し　今回の事は氏自身が発動的に気乗り出でたるに非ず長野市政改革派即ち青年活気に充ちたるもの上流社会よりは中以下の人の推薦によるものなり言はば末頼母敷仲間の謀反なりとして分り給へ　小生の如き反対党には知人多し水品氏の如き鈴木市長の如き宮下一清の如き将た高坂と言ふ時計屋の如き殊に閉口したるは借金のある中村浩版所の停主も山城屋も丸為も皆敵党なり味方には参謀とも言ふ可き人物は一人もなく烏合の衆なり殊に氏の候補に立つと決心したるは今月三日との事なり宮下一清の如き小島相陽の如き山田が百票取れば首でもやると言ひたるよしに御座候　朝鮮のお神さんを殺した時刺客を勤めたる熊本の人片野某なるもの書生のやうに来て居り豪傑に御座候彼の説によれば殆んど山田氏の独り働きにて他のものは猫の尾の如きものなりとの事に御座候片野氏は申され候山田社長はスゴイ腕を持って居らると　長野には四ツの新聞有之潟共旭新聞のみコチラのもの他は何れも敵のものに候運動は五日間に御座候五日間の間に一万円許りの金は四方

に飛びまわり申候拾円五円二拾円二拾五円位の相場に有之申候生れて始めてコンナ大きな金の運転を見申候九日の夜の十二時頃迄確かに勝ち居り申候処例の間牒は入り込み居りしに気附かず味方の機密は敵にもれ候十二時過ぎから明朝迄のうち形勢に一変致し候警察の干渉は激烈を極め候二三十人の運動員はチョイトコイと警察へよれば申候十円二拾円三拾円罰金を取られたるもの数限りなく両方の壮士は大凡二百人長野市中に充ち渡り申候小生などが散歩に出懸け候得ば壮士二三人護衛として附いて参り候反対党の壮士も附きまとい申候探偵も尾行致し申候友人中沢照琳と申す人と〇菊と言ふ料理屋に飲み居候処巡査は午前二時頃迄も門番を致し呉れ候十日の日は後押の附いたる人力車にて市中を飛びまわり申候ボロ洋服にて城山館にて演説を致し大に喝采を博し申候選挙当日は同じくボロ洋服にて市役所前の事務所の出張所（敵党町家五戸　自党六戸）にて敵味方の中にてふきまわり申候　城山館演説の際に山田禎三氏の性行と言ふ題にて演説致し　農は農　教師は教師　工は工　商は商家いだせ〳〵〳〵とやらかし水平氏と山田氏の比較を　山禎の人物如何にと人問はば水平線の上こそ出めと読み　敵味方の人に示し余程景気を附け居り候処昨日開票の結果九十七票の差にて芽出度味方の失敗に終り申候昨日一日は終日飲み居り午前二時迄飲み続けことわざに負くるは勝つの譬えあり　愚痴をこぼすな吾党と人とやらかし今朝長野を発し申候遺憾千万残念関子ケンとは此事に候山田氏は昨朝一番にて諏訪へ帰られ候へば多分松本停車場の辺にて此報に接し高い広告料だなどと冷やかに笑い居らるる事と察し申候長野に居られ候新氏の語るところによれば本年になって一万円許り宛三四度どぶの中へ金を捨てたなど平気にて話し居られ候氏は演説つかい等は無之候得共恐るべき政治家なりとは敵も味方も申し居り候氏は本年三十二才尚春秋に富む今回の失敗は却両氏自身の為めには幸福なるやも知るべからず候信濃新聞の山路愛山は自分の新聞記者たる永品氏に投票せずして山田氏を入れられたる由に御座候植木露香と言ふ記者が無根の説を新聞に書きたりとて露香氏を免職いたし露香子とは懇意の間柄故小生は直ちに子を吊ひ　ナガノシケ露の香のうすらぎぬ　と臍の緒をきって始めて発句と言ふものをやらかし申候　既にして其翌日は復職したりとの事を聞きて　それと見し間に晴れ渡りけ梨とやらかし申候先は大略を御報導申上候　此書面は勝治氏へ御まはし被下滝沢国作氏へ御まはし被下度候以上かしく　長文句を書くの暇なき故左様願上候　草々

八月十二日　　百助

兄上様

雑編

一　信濃漫遊旅費寄附人名簿……569
二　保科塾寄附人名簿……569
三　各種標本売上帳……569
四　五無斎葬儀諸事記……570
五　五無斎保科百助香奠受納簿……570
六　五無斎善後策相談会誌……571
七　保科五無斎記念碑建設趣意書……573
八　故保科五無斎建碑事務報告……575
九　よいかゝをほしな百首け……576
十　保科五無斎君記念碑建設趣意書……577
十一　津金寺境内五無斎記念碑について……578
十二　五無斎五十年祭式典並遺墨遺品展出品目録……579

一　信濃漫遊旅費寄附人名簿

金五十円也　　中沢　照琳
精算はして見ざれども百円許りニハなりたらん
鉱物岩石の標本の荷物は悉皆氏の受取り呉れられたり
金二十五円也　　今井猪之助
内金二円入る。其余破約
金二十円也　　佐藤寅太郎
内金十円入る。其余破約
金二十円　　柴崎虎五郎
内金五円入る。其余破約
金三十円　　木川寅次郎
全破約
金二十円　　大沢茂十郎
皆済
金二十円　　髙橋　周助
全破約
金二十円　　山田禎三郎
此外尚二百五十円許りフンダクリたり破約者多く且つ旅行の為め二ケ年を費したるが為めなり。
金二十円　　巌　東城
全破約

（信濃教育会蔵）

二　保科塾寄附人名簿

明治三十六年十一月　私立　保科塾
附寄附金使用法適要

一金三十円也　　長野高等女学校教諭　土屋政吉氏
明治三十六年十二月
内金　二十円也　　四書二十五部買入
内金　八円四十銭也　　近古史談三十部
教育学a氏と記せるものは土屋氏なり。
一金三円也　　山口鶴治氏
明治三十七年一月
一金一円　平家物語読本四冊　　一冊　二十五銭つく
教育家b氏と記したるは山口氏なり。
一金二円也　　北安曇郡視学
明治三十七年一月二十七日　田中伍市氏

（信濃教育会蔵）

三　各種標本　売上帳　明治四十三年十二月

標本屋　五無斎（花押）

売上帳の序

抑　五無斎保科百助ハ北佐久郡横鳥村一農家の子ニ生れ商売向ニハ至つて慣れぬ方なり。是を以つて経済の才至つて少く帳面の如

きハ何時もつけ始めたるのみにて最後まて之を使用したるためし殆んど無し。之がため財政頗る悪しく粗衣粗食時に或は一二食を廃むるに至ること少からず。今茲明治四十三年十二月信濃公論を休刊して愈々標本屋専門となるに当り帳簿なくてハと之を大門町の光琳堂ニ求め愈以つて売上帳をつけ始むるものなり。例ニよつて例の如く半途にして又々厭やになるかは知らねども兎も角もやつて見んと思ふなり。覧るもの徒らに其勘定高くなりたりと譏る事なくんは幸甚也

明治四十三年十二月十三日夜

標本屋の五無斎　保科百助謹識 ㊞

（信濃教育会蔵）

四　五無斎葬儀諸事記　明治四十四年六月八日

通称保科百助　享年四十四才

明治四十四年五月二十五日に発病　三十一日長野赤十字病院ニ入ル。病名　脳動脈栓塞

六月七日午前九時二十分歿

一　葬儀事務所　県町　鴻静館支店

一　通知（略）

一　通知文

五無斎保科百助病気之所薬石無効七日午前九時二十分死去候間

此段御通知候也

明治四十四年六月七日

実　兄　保科丈之助

同　保科　禎助

親戚総代　保科　勝次

友　人　中沢　照琳

一　新聞広告

長野新聞　信濃毎日新聞　信越新聞

五無斎保科百助病気之所薬石無効七日午前九時二十分死去候間

此段生前辱知諸君に謹告候也

追て葬儀は今八日午後四時長野市寛慶寺に於て執行仕候

明治四十四年六月八日

実　兄　保科丈之助

同　保科　禎助

親戚総代　保科　勝次

友人総代　牛山　雪鞋

〃　中沢　照琳

〃　商松　良

一　葬儀

八日午後四時　長野赤十字病院出棺　寛慶寺に於て仏葬

（信濃教育会蔵）

五　五無斎保科百助香奠受納簿

明治四十四年六月七日午前九時二十分歿

六月八日午後四時於長野市寛慶寺葬儀執行

一金二円也　大山綱正　一金一円也　小林良登
一金十円也　信濃教育会　一金十円也　蓼科実業教育翼賛会
一金五円也　堀田義次郎　一金五十銭也　清水亀之助
一金五十銭也　金井定吉　一金一円也　浅井例
一金二円也　渡辺敏　一金五十銭也　小池久吾
一生花一対　宮沢春文　一金一円　高松良
一金一円　東松露香　一金一円　早川繁文
一金一円　河野次郎　一金二十銭　無名氏
（信濃教育会蔵）

六　五無斎善後策相談会誌

明治四十四年六月八日
出席者（整理委員）　六月八日（於卯之花楼上）
保科　勝次　渡辺　敏　三村　安治　工藤
伴野文太郎　三村寿八郎　神津利三郎
牛山　雪鞋　福島文之助　東松　露香
八木　貞助　村松民治郎　丸山　尚
大沢茂十郎　高松　良　宮沢　春文
中沢　照琳　佐藤貢太郎　松下　金六
大沢辰治郎　矢沢米三郎　古川

一　建碑（長野市に）
二　可成速ニ建碑式挙行と同時に追悼式執行すべき事　於長野市
三　右発起者には今夕集合の者及各郡視学中等学校長県郡会議員中等に依頼すべきこと。
右常任委員　渡辺　敏
佐藤貢太郎　松下　金六　三村　安治
村松民治郎　牛山　雪鞋　東松　露香
宮沢　春文　神津利三郎　三村寿八郎
中沢　照琳
筆墨硯類の処分
一　教育総集会に於て販売すること（人を頼みて）丸山尚君に整理依頼の事
二　学校に委託販売の事
三　残部は精養亭に引受けしむること
四　更に残部は製造元へ引取方照会のこと
標本類整理の件
一　教育総集会に於て陳列販売すること
二　残部を飯島薬舗へ照会すべきこと
三　八木君に依頼して採集先へ返却のこと
四　壜及箱等は適宜払下の事
五　収入金は銀行へ預金の事
六　支出の節は整理委員の承認を経べきこと
整理委員（常任）（標本、筆墨硯）
八木　貞助　丸山　尚　高松　良
中沢　照琳　牛山　雪鞋
五無斎の伝記言行録編纂の件（建碑式事業と共に）

第二回委員会　六月十八日　卯之花ニ於テ

渡辺　敏　佐藤寅太郎　松下　金六
三村　安治　神津利三郎　工藤　文太
古川竹次郎　髙松　良　中沢　照琳

建碑費　五百円（石材）
雑　費　二百円

一　承認を経る件

四〇　南佐久
牛山　雪粧　佐々木勝実　田中　文治
与良熊太郎　大塚徳太郎

六〇　北佐久
臼田　松次　神津利三郎　大沢茂十郎
土屋慶一郎　笠原　辰治　田中　直治
掛川　良平　吉村源太郎

五〇　小県
三井弥太郎　工藤　文太　藤沢　直枝
小林直治郎　武居東一郎　中沢　喜八
本原村長　八木与一郎　古坂　政吉
矢島

四〇　諏訪
渡辺監太郎　岩垂今朝吉　寺島伝右衛門
宮下　貞衛　浜　孝吉

五〇　上伊那
保崎　熊蔵　瀬戸朝治郎　城取実治郎
米山太郎吉　深谷　久馬

五〇　下伊那
古川竹治郎　湯本　政治　髙橋　貞吉
宮沢種太郎　平田　義蔵　福島文之助
中村七五郎

二〇　西筑摩
刈間徳治郎　三村　伝　伊藤　徹郎

五〇　東筑摩　二〇　松本
土橋長太郎　細井　茂　神戸　昌平
矢沢米三郎　三村寿八郎　有賀峰三郎
浜　利三郎　唐沢貞治郎　河野　齢蔵
岡田　邦松

三五　南安曇
黒河内　健　伴野文太郎　矢ヶ崎栄次郎
田中　吾市

三〇　北安曇
中村　国穂　髙山　健次　鈴木　正治
岡野　直治

三〇　埴科
宮下　琢磨　宮入源之助　秋野　太郎
山崎　邦次　中村美喜之助

三五　更級
田中休治郎　宮本　邦基　丸山　尚
山口　勇雄　西沢豊治郎　小林彦治郎

五五　上水内　六〇　長野

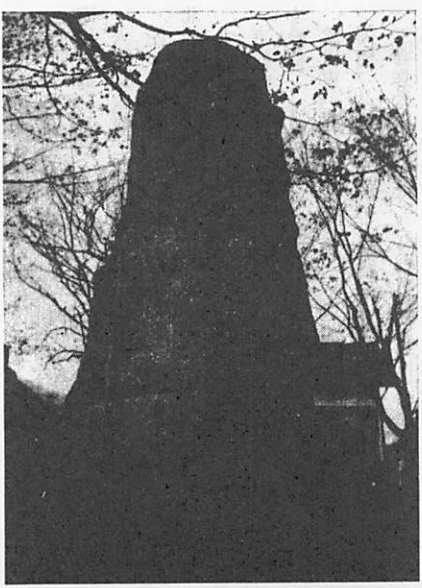
渡辺　佐藤　松下　三村　中沢
高松　宮沢　東松　小林　荒木
八木　酒井荒三郎　宮崎延次郎　長峯　風間
青木一　鈴木　土屋　丸山弁　赤沼
大沢　飯田牛阿弥　伝田　芋村　池田
三松　栗岩
一五　下水内
清水　菊太　宮本　貞夫　島津春蔵
二五　上高井
城下　清一　伊藤　義治　宮川久三郎
二五　下高井
池田輪太郎　丸山久保吉　森　繁吉
小林徳治郎
東京　樋口勘治郎　伊藤　長七　藤森　良蔵
県外　鳥取師　矢島嘉源次　沖縄師　森山辰之助
群馬師　下平　末蔵　同　羽田　貞義
埼玉師　小島　政吉　同　北沢　真
埼玉県庁　石田　林蔵　宮内省　春宮祐一郎

一　主催者より発起者へ依頼状を出す事
一　事務所及取扱者　長野市城山小学校内　中沢　照琳
一　集金期日　八月末日迄

（信濃教育会蔵）

七　保科五無斎記念碑建設趣意書

保科五無斎君は奇人なりき信州に於ける常代の一大奇人なりき若し仮すに歳月を以てして五六十歳の寿命を保たしめたらんには恐らくは信州に於ての奇人たるに止らざりしならん抑も君の奇なる所以のもの固より一ならざるも人の能くし難きを能くし人の為し難きを為したるが如きも亦其の一たらずんばあらず。彼の楠風沐雨鉄槌を手にして二ケ年の歳月を高山大岳の跋渉に費して信州の地学を研究するに必要なるあらゆる鉱石を蒐集し挙げて之を各学校に寄附せしが如き身に儕石の貯なく贏す所のもの愛読書千八百



碑念記の五無斎保科茂加神社の横にある長野市

巻ありしのみ又挙げて之を信濃教育会に寄与し更に奔走周遊して同図書館を創立したるが君の其の事を口にするや人皆虚誇の言として之を信ぜざりしも君が其の事を実現するに及びて人皆之に驚きたりき君能く酒を蒙り人を罵り世を晒するを常とせしが其の罵りは人世を土芥視して独り自ら高しとする底の罵りにはあらず人の欵を穿ち病に対する風諭の声に外ならず一点の邪気を其の間に挟むものなし只た其の虚偽を事とし虚威を弄するものに対しては口に筆に極力之を攻撃されたりき、君が後来に期せし所は信濃図書館を大成し信州大学を起すにありしものの如し、若し仮すに歳月を以て五六十歳の寿命を保たしめたらんには能く天下の奇人たるを得るを期し難からずとも其の志を実現するを得しやも知る可らざりしなり、君終生娶らず子孫を以て其の魂を吊ふものなし是れ我輩同志相図り適宜の処に碑を建て以て其の霊を慰め且つ明治聖代信州に此の人ありしを記念せんとす希くは同感の諸君多少に係らず其の挙を翼賛せられよ

明治四十四年六月

発起者（イロハ順）

長野市

飯田牛阿弥　池田　三松　大沢辰治郎　渡辺　敏
滝沢郁太郎　高松　良　土屋　良遵　東松　露香
中沢　照琳　村松民治郎　栗岩　水滸　八木　貞助
松下　金六　丸山弁三郎　伝田　芋村　赤沼満治郎
佐藤貢太郎　三村　安治　宮沢　春文　鈴木良之助

松本市

岡田　邦松　唐沢貞治郎　河野　鯰蔵　矢沢米三郎
三村寿八郎

南佐久郡

大塚徳太郎　与良熊太郎　田中　文治　牛山　雪鞋
佐々木勝実

北佐久郡

大沢茂十郎　神津利三郎　笠原　辰治　掛川　良平
吉村源太郎　田中　直治　土屋　省三　臼田　松治

小県郡

武居東一郎　中沢　喜八　工藤　文太
矢島　盈　藤沢　直枝　古坂　政吉
三井弥太郎　小林直次郎

諏訪郡

岩垂今朝吉　浜　孝吉　渡辺盛太郎　寺島伝右衛門
宮下　貞象

上伊那郡

保崎　熊蔵　米山太郎吉　深谷　久馬　城取実治郎
瀬戸歌治郎

下伊那郡

高橋　貞吉　中村七五郎　古川竹治郎　福島文之助
湯本　政治　宮沢鐘太郎　平田　象蔵

西筑摩郡

刈間徳治郎　三村　伝

東筑摩郡

伊藤　徹郎　浜　利三郎　細井　茂　神戸　昌平
土橋長太郎　有賀峯三郎
南安曇郡
伴野文太郎　田中　吾市　黒河内　健　矢ヶ崎栄次郎
北安曇郡
岡野　直二　高山　健次　中村　国穂　鈴木　正治
埴科郡
中村美喜之助　山崎　邦治　秋野　太郎　宮入源之助
宮下　琢磨
更級郡
西沢盛治郎　田中休治郎　山口　勇雄　丸山　尚
松島賤太郎　小林彦治郎　宮本　邦基
上水内郡
風間　嘉蔵　長峰亥吉郎　小林初太郎　青木　虎一
荒木　茂平　酒井荒三郎　宮崎延次郎
下水内郡
宮本　貞夫　清水　菊太　島津　基蔵
上高井郡
金井冨三郎　伊達　義治　宮川久三郎　城下　清一
下高井郡
池田輪太郎　丸山久保吉　小林徳治郎　森　繁吉
東京
伊藤　長七　藤森　良蔵　樋口勘治郎

（信濃教育会蔵）

八　故保科五無斎建碑事務報告

（明治四十五年二月）

一　寄附金

七百十円　予定額

三百十七円五十五銭　現金収入額

外に神保博士外三氏より香奠として送られたる十一円は建碑費に繰入るる筈

現金収入は右の如くなれども各郡市の大部分より賛成追て送金の旨申来れり。

二　事業経過

十月二日夜　在長主唱者渡辺、佐藤、松下、東松、八木、高松、中沢の九氏信濃教育会事務所に集合、左の事項を協議す。

(1) 旧借財につき急を要するものゝ処置（主任丸山尚氏に通報依頼すべきこと、但し建碑寄附金は旧借財に流用せざること）

(2) 石材の選定（可成は自然石を得たきも先づ千歳町内田組につき調査すべきこと。）

(3) 碑文の揮毫は渡辺国武子に依頼すべきこと（其後在京伊藤長七氏の手を経て依頼せし処快諾されし旨申来れり）

十月三日朝、渡辺、佐藤、三村安、三村尋、東松、八木、高松、中沢の八氏千歳町内田組に赴き仙台石等実見、先づ適当ならんと思ふもの二個を選び且設計費用等大体調査

（通常の設計にて約五百円を要すと）

十月中旬　渡辺氏芋井山中に石材を探りしも得ず。

十一月十二日　更級郡信里村に良石材ありとの事につき渡辺、高松の二氏石工二人を伴い出発検分せしが不合格、其帰途小田切村小鍋方面より裾花川沿岸を探り、発電所の上流約七八町の処にて至極適当なる石材を発見せしも重要二千貫以上の見込なるを以て道路橋梁等の関係上運搬不能と認めたり。

十一月中旬　高松氏石工一人を伴い商業学校前畑中の大石及竜宮淵附近畑中の大石を検分し、尚裾花川の石材を見る。

十一月下旬　渡辺、高松、中沢の三氏石工一人を伴い上記の石材及郷路山の石材を検分せし処、商業学校前のもの及竜宮淵附近のものは多少望ありと認めたるを以て之を掘り出し其全形を確むる事とし、参考の為帰途善光寺境内及公園内の諸碑を視察す。

十二月上旬　渡辺外二氏前記掘り出したる石材を見たる処、商業学校前のものは台石として適当なるが如く、竜宮淵附近のものは全然不合格となれり。

一月二十三日　渡辺、高松、中沢の三氏石工二人を伴い当市午砲山中腹の石材を見たるも不合格につき尚諸方探りしが得る処なかりき。尚ムジナ郷路に良材ありとの事故近日中探検の筈。以上可成取急ぎ事業進行致度につき御賛成御送金の程奉懇願候主唱者

（信濃教育会蔵）

九　よいかゝを　ほしな百首け

各新聞店よりの集金簿

記

軽井沢　川村新聞店

一金三円七十五銭也　二〇　十七日申込

北佐久郡岩村田町文盛館新聞店　南佐久郡野沢町岩下袈裟吉

北佐久郡小諸町　塩川新聞店　北佐久郡小諸町朝日屋新聞店

北佐久郡望月町倉島新聞店　小県郡田中駅柳沢又七　小県郡大屋駅大屋新聞店

一金五円六十二銭五厘也　三〇　十九日申込

小県郡丸子村赤沼喜四郎　小県郡上田町土田新聞店　小県郡上田町本郷堂　埴科郡坂城町小宮山新聞店　埴科郡屋代駅宮坂新聞店　埴科郡屋代駅新村新聞店

一金一円八十七銭五厘一毛　一〇　二十三日申込

更級郡篠の井駅鈴木新聞店　埴科郡松代町石川嘉助　上高井郡綿内村堀内新聞店

一金五十六銭二厘五毛三部十八日申込

一部返り　上高井郡須坂町秀英堂　上高井郡小布施村轔轅軒

下高井郡中野町押鐘与助　下高井郡中野町三ツ井新聞店

一金一円八十七銭五厘一毛　十一月六日申込

下水内郡飯山町牧野新聞店　上水内郡柏原村古田新聞店

一金一円八十七銭五厘一毛　十月十五日申込

上水内郡柏原駅　文林堂新聞店

一金九十三銭七厘五毛　五　十月三十日申込

上水内郡豊野駅山岸新聞店　上水内郡吉田駅静好堂新聞店

上水内郡七二会村笹平新聞店　東筑摩郡麻績駅南光堂新聞店

東筑摩郡西条駅金沢新聞店　北安曇郡大町池田喜三郎　南安曇郡豊科村萩野新聞店

一金九十三銭七厘五毛　五十九日申込

十三日受領東筑摩郡松本町　松林堂新聞店東筑摩郡村井駅　千野万五郎　東筑摩郡塩尻駅上条東一郎　東筑摩郡洗馬駅岩垂新聞店

一金二円八十一銭二厘五毛　一五　十二月十二日申込一円八十銭入り　西筑摩郡福島町福島新聞店　上伊那郡平出町有賀治三郎　上伊那郡松島町松島新聞店　上伊那郡高遠町伊那新聞店　上伊那郡赤穂村生田大助　下伊那郡飯田町金鶏堂新聞店　上諏訪町協同新聞店　下諏訪町三村正男　諏訪郡平野村　浜新聞店

一金三十銭七厘七一　二十一日申込

諏訪郡中洲村協同新聞店中洲出張所　諏訪郡永明村西沢荒治　諏訪郡富士見村畑野新聞店

（池田可一氏蔵）

十　保科五無斎君記念碑建設趣意書

信州の奇人として許されたる五無斎君は四十四歳を一期として本年六月七日溘逝に逝けり而して此の短生涯中の言働は奇矯中常に確乎として一貫せる主義を有せり即ち信州の教育をして向上発展せしむるを以て自ら任じたるものの如し君が就職十ケ年間の事業は異常ならざりしと雖も而も武石蓼科両校に於ける短日月間に

て或る感化を遺されたるは事実なり一旦教職を辞するや直ちに「ハッピを」被り鉄鎚を提げ地学研究の資料たる信州の岩石鉱物の採集に前後四ケ年を費し挙げて県下の学校に寄附し其後長野市に於て奇抜なる私塾を開きて育英に尽し傍ら信濃図書館設立に尽粋し或は筆墨行商に托して県下漫遊の途に上り現時教育の弊を論じ之が救済改良を絶叫し信濃公論を発刊して侃々諤々以つて大に社会を警醒する所ありたるが如し若し君に仮すに寿を以てせば彼の宿志たる桔梗ケ原信州大学設立の如き其事業の大成功蓋疑うなかるべし然り而して天の無情なる中道にして此奇人を奪ふ噫惜しい哉之れを以て県下の知己友人相謀り碑を長野市に建て霊を慰むるの企あり玆に於て君が生地にして且つ最後の奉職地たる横島芦田三都和の郷党友人並に君が最も永く就職したる武石村の知己及門下生相謀り君が遺志

我死なば佐久の山部へ送るべし
焼てなりとも生でなりとも

の意を酌み地を山部津金寺境内に卜し一紀念碑を建立し併せて法要を営み以て君が英霊を弔はんと欲す請う君が生涯唯り教育の為めに狂奔して遂に娶らず其の霊を祭るの子孫なきを思はれ淳厚なる同情を以て生等が此の挙を賛せられんことを

明治四十四年九月

発起者（イロハ順）

横島村　今井猪之助　今井今朝蔵　保科元左ェ門
保科寿万次郎　保利三八　保科勝次　川瀬由太郎
吉村源太郎　吉村権助　吉村由平　高橋忠孝

高橋隼人　高橋清四郎　難波宗十　浦野政之助
浦野元一　佐久間源次郎　小池藤兵衛　関儀劣
関与七　関松太郎　今井枠治　士屋省三　柳沢清太郎
芦田村　山木愛重　三都和村　市川源三　中村光治　小林団三
武石村　池内寛治　今川宇一郎　豊田司
金井祐次郎　金子惣一郎　金子良人　滝沢伝
高橋信美　柳沢雅休　柳沢武　松代儀八
伏見寛栄　小山熊市　小宮山好三郎
清任政三郎　嶋田環
浦里村　生嶋国作

賛成員

横島村　池田長田　今井種次　遠山五郎
片桐勝平　吉村伝次郎　山浦佐兵衛　寺島弥助
佐藤穂積　関茂作　関小重郎
芦田村　岩下政三　笹井俊綏
三都和村　山浦谷助　山浦代重　山浦浪之助
佐藤鼇山　宮坂頼母
武石村　池田作次郎　池内吉太郎　岩下春吉
橋詰亀之助　金井滝十　高田忠吾　高田千元
佃元治郎　伏見源太郎　小山三八郎　清任一太郎
北沢進一郎　北沢敬次郎　篠原団三郎　宮原文之助

（生島茂男氏蔵）

十一　津金寺境内五無斎記念碑建碑について

扉に掲げられてある津金寺の記念碑は表面は、「五無斎保科百助君碑」渡辺敏書とあり、本文にも屢々出てくるように渡辺先生とのお二人の間柄は一心同体ともいふべきで互に信じ互に敬し合つておられたまことの知己であつた。碑の右側面は「明治四十五年五月五日建之」と記され、五無斎逝去の翌年に建てられておることは意義の深いことである。左側面には「我死な盤佐久の山部へ送る遍し焼いてなりとも奈ま伝なりと茂」「ゆつくりと裟婆に暮してさておいで己しは一足烏渡お先へ」吉村源太郎筆となつている。煙嶺吉村源太郎氏は俳句を佳くし五無斎とは万事全くの盟友であつた。裏面は、特別賛助員イロハ順として、小県郡武石村池内寛治　今川宇一郎　豊田司　金井祐次郎　金子惣一郎　金子良人　滝沢伝　高橋信美　柳沢雅休　松代儀八　小宮山好三郎　島田環　柳沢武　丸子村中原太郎　殿城村柴崎虎五郎　上田町土屋窓外　岩村田町森泉三代田　小諸町与良守三郎　本牧村武重一祐　武重徳八郎　大沢茂十郎　芦田村今井枠治　岩下政三　笠原辰治　土屋省三　柳沢清太郎　山浦譲三　山木愛重　笹井俊綏　三都和村市川源三　宮坂頼母　市川与八郎　市川市郎　長坂太重　中村光治　山浦谷介　山浦代重　山浦浪之助　山浦浦介　小林国蔵　佐藤鼇山　宮沢善助　横島村山部区青年会　横島青年会　川瀬由太郎　今井猪之助　今井種次　西沢喜一郎　遠山五郎　遠

山喜太夫　高橋隼　高橋清四郎　田中伝重　山浦佐兵衛　小林久左衛門　小淵祐太　寺島荒恵　在メキシコ寺島勝兵衛　手塚吉之助　佐久間源次郎　佐藤穂積　塩沢巌　関松太郎　関茂作　関五郎　関与七　保科藤蔵　高橋房之助

主唱者として　池田長田　浦里村生嶋国作　今井伝蔵　吉村源太郎　吉村権助　高橋忠孝　難波宗十　浦野元一　武石村伏見寛柔　小池藤兵衛　小林保助　関儀助　保科勝次　保科三八　保科元左衛門　保科寿満次郎

となつており特別賛助員六八名主唱者一六名である。特別賛助員の外に普通の賛助員のあつたことはうかがい知るところであるが歿後一年足らずで丈余のこの一大石碑が建立されていることは注目すべき事実である。

建碑の資金額工事の模様等に関する記録は今のところ見当つていないが、蓼山浅岳の眺めはこの山部地方において粋然としており、人情また濃かな上に進取の気のみなぎるところ、この卓立した偉大人に対しての里人の思慕が建碑となつて実現されていることは故なきことではない。

十二　五無斎五十年祭式典並遺墨遺品展出品目録

五無斎五十年祭式典は五無斎の五十年忌に当たる昭和三十六年十一月十八日に北佐久教育会主催信濃教育会及び立科町後援のもとに出生地立科町で行われた。



五無斎五十年祭遺墨展の一部

先づ慰霊法要は菩提寺である名刹天台宗津金寺の五無斎記念碑の前で池田長田大僧正によつて執り行われ、会するもの他郡市の代表者及び会員町民百数十名。次に立科西小学校で頌彰記念式ならびに座談会が催され、座談会は五無斎と関係の深い荒木茂平氏

三石勝五郎氏、片桐銀治氏、吉村緑陰氏、山浦良平氏等を中心に約二時間にわたつて感銘深くすすめられた。これと同時に遺墨展覧会が開かれ、二つの教室に約百五十点が陳列され終日にぎやかな参観者で在りし日を偲んだ。当日の主な出品目録は次のようなものであつた。

記

住所	出品者名	遺墨遺品名	点数
真田町	寄木宗四郎	軸（教え子が記念のために植えられし松をよめる）	一本
同	同	写真（前記本原小学校の松）	一枚
真田町	横沢　理	手紙（横沢治郎兵衛殿宛）	一枚
同	同	写真（本原小学校時代の先生）	二枚
立科町	上野鬼田雄	よいかかをほしな百首け	一冊
同	高橋　美徳	朱塗木杯（地学標本寄附による）	一首
同	同	短冊（五無斎墜落記念のうた）	一枚
同	同	よいかかをほしな百首け	一冊
同	保科　健	手紙（実兄丈之助殿宛）	二枚
同	同	短冊（遊廓十首　その八）	一枚
同	同	織物講習証書（大豆島時代）	一枚
同	同	紬の細片	一箱
同	同	機業日誌	一冊
同	同	蒲団地（家紋を織り込む）	一巻
同	同	西小学校	一冊
同	同	筆売日誌（第三巻）	一冊
同	同	人間保科五無斎（荒木茂平著）	一冊
同	同	鉱物標本	一箱
同	同	内外国織物標本	一箱
同	宮坂　恵巌	短冊（四十から筆屋…他）	四枚
立科町	宮坂　恵巌	内外国織物標本	一箱
同	片桐　銀治	短冊（四季の月…他）	七枚
同	同	代議士立候補広告（信毎）	一枚
同	同	信濃公論（六号～八十二号）	一撚
同	同	保科五無斎特集号（信濃教育）	一冊
同	大沢　茂樹	長野師範卒業記念写真	一枚
同	同	短冊（題しらず）	三枚
同	同	手紙（大沢茂十郎殿宛）	六枚
同	同	内外国織物標本	一箱
同	吉村　幹衛	保科五無斎特集号（信濃教育）	一冊
同	同	手紙（吉村煙嶺殿宛）	三四枚
同	保科　正次	記念六枚屏風	二双
同	同	先生の写真	一枚
同	津　金寺	短冊	四枚
望月町	今井誠太郎	大豆島村誌（思い出の先生）	一冊
浅科村	小泉陸太郎	師範出身の異彩なる人物	一冊
同	同	保科五無斎（小泉陸太郎著）	一冊
長野市	荒木　茂平	軸（我国で名物男…）	一本
同	同	地質誌（講演筆記）	一冊
長野市信濃教育会		手紙（興士屋良遵君宛）（荒木先生宅には外多数の資料あり）	一枚

同	同	おもちや用標本購入者芳名録	一冊
同	同	五無斎前後策相談誌	一冊
同	同	鍛発生須序標本売上帖	一冊
同	同	五無斎先生香奠受納簿	一札
同	同	保科五無斎記念碑建設趣意書	一枚
長野市	信濃教育会	各種標本売上帖	一冊
同	同	信濃漫遊旅費寄附人名簿	一冊
同	同	絵葉書（漫遊姿の先生他）	五枚
同	同	信濃産岩石鉱物標本説明書	一枚
同	同	歌集原稿「我死なば佐久の山部へ」…他	三三枚

（昭和三十六年十二月二十日北佐久教育会報五無斎記念特輯号より転載）

年譜

時代	記事（年号は時代と一致す）
明治　元年 （西暦一八六八年）	○六月八日長野県北佐久郡横鳥村大字山部（現立科町）丈左衛門三男として出生（但戸籍簿には六月十五日出生とあり）時に父四十九才母四十四才
〃　一二年	○父を失う
年月不詳	○北佐久郡山部村小学校卒業　○授業生として山部小学校に奉職（月俸五拾銭）　○北佐久郡茂田村昭明学校に奉職　○津金寺の嗣僧林長晦と共に令兄丈之助について漢籍を学ぶ　○上田町儒者恒川重遠（母方の遠縁）の門に学ぶ
明治一九年	○在松本長野県師範学校入学（この年長野へ移る） ○在学中宣教師ダンロップ氏について特に英語を学び原書を繙く　○休暇を利用し屢々独自で実地見学旅行をなす　○卒業生に対する俸給平等運動を推進す　○母を失う（この後常に母の肌着を身につけ父母の位碑と共に在り）
〃　二三年	○夏期休業を利用し学友古川竹次郎と越後方面を旅行し下水内柳原村富倉の石油を採集す
〃　二四年	○三月同校卒業　○下水内郡飯山小学校に奉職同町真宗寺に下宿し読書に専念し時に山野を跋渉し教授用の標本などを採集す
〃　二五年	○六月小県郡東塩田小学校に転任
〃　二六年	○四月同郡本原小学校に転任　○余暇に植物昆虫などの採集に熱中　○収獲休みに南佐久大日向方面に鉱物採集旅行をなし二三十個の標本を得て職員会総会にて発表演説を行う
〃　二八年	○四月同郡武石小学校転任　○同所に於て緑簾石（地方名焼餅石）ヲ発見学界に発表　○浦里村にて玄能石を発見す　○この頃より小藤文治郎神保小虎両博士をはじめ多くの学者学生の来訪をうく以後神保博士につき地質学結晶学を学ぶ
〃　二九年	○四月同校小学校長　○長野県小県郡鉱物標本目録を日本地質学雑誌（明治二九・七月号）に発表 ○学校新聞を発行し父母との連絡を計る但し後新聞法違反なりとして処罰をうく　○この校在職中機業染色養蜂植林治水等の改良普及に尽力す
〃　三〇年	○全国の教育産業の実体を視察し郷土の進展を計らんとし筆墨行商を資にして日本全国漫遊の志を抱く ○夏期数十日を費し東信地方に大採集を行う
〃　三一年	○四月上水内郡大豆島小学校長に転任（高等科併置の初代校長）　○部落特設の分教場を廃止し児童を本校に収容す　○当局村民の反感のうちに強力な差別撤廃の開放運動を起しまた部落民の生産生計の向上に勉む　部落民と共に校庭に大いに植
三二年	

樹をなす　○長野県機業振興の会を作り六月柴崎虎五郎と機業地桐生足利へ視察を行う　○機織染色の標本を作製県下に頒布す　○村の産業の進歩労働力の向上副業奨励に力をいたす　○この頃より信州大学及び信州博物館設立の構想を叫ぶ

〃　三三年　○十月郷里北佐久郡蠶科小学校長兼蠶科農学校長に転任　○この年パリーに催された万国博覧会に五無斎採集の十三種の鉱物を出品す　○貴衆両院に自炊し生徒をはじめ一般に対し殖産興業の指導に当り諸方面に実践活動をなす

〃　三四年　○渡辺国武子の筆になる大鷂紙五枚大の大額面を掲げ講堂建築の促進を計る「蠶科学校」これなり現在蠶科高校に存す　○三月「人の子を賊なう」との退職届を提出して退職　在職年数満十年この間必ず毎年数十日の研究調査旅行をなしている　○一時家居　○五月一日友人知己の助力を得て第一回県下漫遊の途に上り鉱物採集を行い又時に講演をなし翌年十一月漫遊を終る　この間三百種類三万余塊に上る標本を採集し採集地の岩面に九曜星の家紋を刻すその数三百余ケ所にのぼる　○帝大博物館其の他へ採集物を献納震災予防調査会並に県知事より褒賞をうく

〃　三五年　○夏八月矢部長克博士らと共に白馬杓子鑓ケ岳等の連山を踏破す　○鉱物標本の整理をなす　○学校教師の修学旅行の奨励を唱導す

〃　三六年　○一月九日より四月十六日まで信毎紙上に「通俗滑稽信州地質学の話」を連載好評をうく　○十月長野県地学標本百組を県下各学校に寄贈　又各所に地学講習会を行う　○冬季蠶科農学校別科生教授として別科生担任　○青年教育の実態を通して私塾開設の構想をねる

〃　三七年　○五月貧困にして中等教育を完全に授けられざる青少年のために保科塾(後私立速成中学保科塾)を長野市長門町の一小屋に開設(後横沢町一妻科等へ移転)授業料月二銭(後五銭)より百円まで教師及教科書は国語中学校国文教科書(一～一〇)・常山紀談・国文字・保元物語抄・平治物語抄・平家物語抄・徒然草・手紙の文(保科)漢文近古史談全・中学校漢字読本二三・四書・文章軌範(保科)英語科ナショナルリーダー一～四・グランマー二冊(風間礼助(冠峯)小池久吾丸山弁三郎)数学科中学校算術教科書上下・中学校代数教科書上下・続代数・平面幾何学(藤森良蔵後に出浦四郎)其の他地理動植物の実地講話名士の講話　○この年の書簡には生徒百四十名長野中学四、五年生二五名通学とあり　又池内正道氏(現存)によれば保科塾の生徒で海兵の一次に一所に合格したという話　○小中高大学の授業料を全廃し教科書学用品の公費支弁を論じその一角を実現す　○小学校一学級生徒数の縮少を県是とすべきを提唱　○修身科廃止を叫ぶ　○風間冠峰と共に鎗ケ岳に登山蕈茸石発見　○満韓視察を画し資金を得て先

ず数千の教師を彼地へ送り十ケ年彼地を研究せしめて文化的楽地を作り後数万の貧窮者を送るべしとなす

〃　三八年

○諏訪郡及び県下各所に講演講習を開き郡産の標本を各校へ配布　○長野商等女学校へ岩石標本一千四百点を寄贈せる縁により銀杯壱個下賜せらる

〃　三九年

○保科塾要科時代に家鴨の雛を越後より購入し之を飼育して肉を配給塾の収入の途を計る　○朝鮮人其他苦学生を養成し生徒は東北信より集まる　○夏八月突如保科塾を閉塾す　○信濃教育会付属図書館設立のため昼夜奔走す　○十一月三日狂歌集「よいかゝをほしな百首け」を刊行　続いて狂歌集を刊行せんとして原稿を作る（現存）

〃　四〇年

○二月二十一日東京市を発し板橋駅より始めて赤い小車を軋らせつつ中仙道を下り筆墨行商をはじむ　佐久小県を経て長野にむかう　この途中郷里吉村源太郎氏宅にて宿に落つ　○四月信濃教育会付属図書館に蔵書（令兄丈之助の分も併せ）三千余冊を寄附し創設に献身す（現在長野図書館に肖像を掲ぐ）　○六月十五日信濃教育会付属図書館（現県立長野図書館の前身）の開館　○衆議院議員補欠選挙に立候補　○九月十九衆議院議員補欠選挙執行日　同二十三日諏訪の旅先にて信毎の発表を見　自分の得票数二十三票を得て「うれしきこと限りなし」と記している　○九月十九日より十二月二十二日まで南信諏訪上下伊那方面を筆墨行商し各所にて講演をなす　その記事は売上報三（一名筆売日記）として残されている　○十月十日の夜南向の白木屋旅舎の二階より墜ち負傷　○十一月十五日旅先にて郷里の同族勝次氏より筆墨行商資金参百円無尽が全会一致で掛け捨てになりたりとの書面到着し感激してよろこぶ　○十一月十九日天竜峡より開喜寺に遊ぶの詩を草す　○読売新聞に連載された日本百奇人の中で第一位に当選　○上伊那郡産岩石鉱物標本を作り同郡各学校に頒布また各地に講演をなす

〃　四一年

○十一月三日週刊紙信濃公論創刊編輯兼発行人保科百助　印刷人清水亀之助　発行所長野市新田町五十一番地信濃公論社　○十一月三十日より十二月十四日まで上下水内上下高井方面にて講演に招かれ筆墨行商をなしつつ巡回す　信濃川治水問題　養豚論或いは日暮硯など随所に熱演す　○過労に加えて雪道のため眼疾となり十二月十日野沢温泉にてはじめて片桐国手の治療を受く　○十二月九日より公論紙上（第六号より）にこの旅行記を巡業日記として発表　○鉱物標本二十四種類の製造配布を企図し各学校一般民に実物教育の実をあげんとす

〃　四二年

○一月二十九日眼疾は黒内障と決定　赤十字病院にて治療を受く　二月中旬より快方に向う　これを病床日記として公論に発表　○おもちゃ標本売出し規則・おもちゃ用鉱物標本説明・地学標本売出

〃　四三年

しに関する説明等を公論に発表　○公論第十九号（三月十日号）を地学標本号とし県下諸学校及び全国中等程度の諸学校に配布す　○師範三校案を批判す・県庁の位置及び敷地問題について論ず　などの論評を発表　○四月五日第二回地学標本採集県下漫遊旅行に出発　全県下の山野を探険調査し百二十種七万二千個の標本資料を採集し十月一日帰長　鉱石は長野高女渡辺敏氏のもとへ送られ為に同校は第一回目と同じく鉱石の山をなす　○この旅行記を公論第二十四号～四十二号まで紙上に発表　○同紙六月十日上諏訪足袋店「一さ」にて腹懸けを紺屋「紺平店」にて印伴天を作らせ着初めをなすとあり　六月十二日松本市保里写真館にて新装束の撮影をなすとあり（日記編四参照）　○又九月十四日の条に「明治二十八年中嘗て婚約せし事ある婦人の門前を過ぐ（註 小県郡本原村あたりか）門内に襁褓など干しあるを見て感慨無量なり云々」とあり

○一月一日信州産岩石鉱物説明書を長野市済水活版所より発行　○一月二十九日岩石鉱物新案教授法第一編（一名ニギリギン式教授法）を東京秀英社より出版　○二月二十八日百万分一長野県地質図を東京光風館より発行　○地学標本六百組を作製全国的に配布を計る　○肥料標本外十数種の標本を作製し之が販売に尽力す　県下各地にて講演を行う　○十二月信濃公論休刊

〃　四四年（西暦一九二一年）

○五月二十五日発病同三十一日長野日赤病院に入院病名脳動脈栓塞　○県知事大山綱吉氏以下多数の人々の見舞をうく　○六月七日午前九時二十分逝去　○六月八日長野市寛慶寺において仏葬　戒名は地学院五無斎悟道明保居士

○明治四十五年五月五日北佐久郡横烏村津金寺境内に五無斎記念碑建立渡辺敏誉　○明治四十五年六月七日長野市加茂に五無斎記念碑建立渡辺国武書　○昭和四年一月一日信濃教育五無斎特輯号発行（第五〇七号）　○昭和十一年六月売上帳三を写真印刷し筆売日記と銘して信濃郷土研究会より刊行

○昭和三十一年九月十日「人間保科五無斎」荒木茂平著が刊行　○昭和三十六年十一月十八日北佐久教育会主催信教及び立科町後援のもとに立科町津金寺五無斎碑前及西小学校にて五無斎没後五十年忌法要遺墨遺品資料展覧会並に座談会を開催

○同年十二月二十日北佐久教育会報五無斎顕彰記念特輯号発行　○昭和三十九年二月五無斎保科百助全集刊行（佐久教育会編）

〃四四年以降の関係事項

あとがき

一　経　過

五無斎の調査研究は遅々として進まなかつたが、思えば長い間であつた。五無斎の事蹟を公にしようとする仕事は、そもそも昭和二十四年北佐久郡志編纂事業計画の中の一つであつたのがはじまりである。北佐久に於ける文化人の事蹟のうち用水関係者は簡単ではあつたが一応郡志に収められた。併し他は調査の未完と紙面の都合で次の機会にゆずられた。従つて五無斎の研究も会の事業としては中断された形ではあつたが、一般の人々の間では関心が深く中でも浅科村小泉陸太郎氏(畏)は「師範出身の異彩なる人物」を著され、又昭和二十九年に横島小学校（現立科西小学校）へ赴任された校長山浦甫氏は学校教育の中に五無斎の事蹟や人となりなどを採り入れ、又着々資料の蒐集につとめ、同三十年十一月十六日から十八日まで自校主催で村内の資料をあつめて五無斎資料展覧会並びに座談会を開いて一般に公開されたことなど、五無斎の郷里に近い人々の間には脈々として相通ずるものがあつたのである。この展覧会に出品された資料の存在は後の研究に大きなありとなつたことはまことに有難いことであつた。その後引き継がれた同校中沢英男校長は誠意このことに当られ、それに刺戟もされて川西地区十ケ村学校職員会では保科五無斎研究委員会を作つて研究を重ね事蹟顕彰の実現に努め、その後郡教育会においても保科五無斎研究調査委員会を結成し両者相俟つて仕事がすすめられた。昭和三十六年はあたかも保科五無斎没後五十年忌に相当するの機に会し、保科五無斎顕彰のため、一、五十年祭を営むこと二、遺墨遺品展覧会及び座談会を開くこと　三、遺稿集を編集刊行することなどを決定し、着々準備をすすめて同年十一月十八日北佐久教育会が主催し信濃教育会と立科町後援のもとに立科町津金寺五無斎記念碑前及び西小学校で式典並びに展覧会座談会が催され（雑編十二参照）同年十二月北佐久教育会報五無斎記念特輯号として発刊し当日の模様を発表したのであつた。委員会はこの頃から活発化し、委員長甘利忠孝をはじめ委員清水憲雄、中沢英男、尾沼英四、清野房太、白倉盛男、井出悦夫、今井誠太郎の諸氏をはじめ、浄書化協力者として丸山宏、横関重一、白鳥一誠、大森浩、原幸司、田口みき子諸氏ならびに立科町小中四校の職員諸氏の熱誠と協力により資料の整備と原稿化につとめること満二年。新聞雑誌をはじめ直筆資料の原稿化には並々ならぬものがあつたのであるがよくこれに堪えて完成につくされたのであり、一応の原稿が整い原稿紙千数百枚に及ぶ仕事を終つて、編集刊行の委員会へ引き渡されたのは昨年の七月十三日のことであつた。それから編集がはじまり編集委員会は前記調査研究委員会の委員によつて構成され、刊行委員会は北沢潔司、土屋甚次郎、古清水武雄、甘利忠孝の諸氏があたり、青木会長は之を統轄するという陣立を持つてすすみ、この度発刊のはこびとなつたのである。この一連の長い間の仕事の陰には直接の責任者は兎に角として郡内外の多くの人々による激励と後援とがどんなに大きな力になつたことか

と今更ながら編集の一人として感謝するところである。

二　資料について

五無斎が自ら発刊して世に公にした著書には「信州産岩石鉱物新案教授法」「かかあほしな百首」などがあり、他によつて公にされたものには所謂筆売日記と称する「売上帳三」や「信濃教育五無斎特輯第五〇七号」などがある。然るに、五無斎と言えば「我死なば……」の遺言の歌と共に「ニギリギン式」とか「筆売り」という皮相の理解で評価され、五無斎の本心に触れることが薄い感があつた。この全集には前記のものは勿論大切な資料ではあつたが、これら以外のものとして長野新聞、信濃毎日新聞、信濃公論、諸書簡類などに掲載されたものが主軸となり、五無斎を知りその本質をつかみまた五無斎を研究する上に貴重な資料となつたことは幸なことであつた。

明治三十八年の長野新聞は信濃教育会参考室の岩石鉱物標本箱の中に保存されておつたものであり、明治三十六年の信濃毎日新聞は同じく信濃教育会の倉庫より発見したもので共に重要資料となつたもので、新聞社、図書館などでついに探し得なかつたものを探し出し重要資料として加えることの出来た滑水井出両委員の苦心は忘れることは出来ない。信濃公論は立科町片桐銀次氏の所蔵されておつたもので僅かの欠号を除いて大部分が今日迄大切に保存されていたことは（北佐久教育会報五無斎特輯号昭三六、一二、二〇参照）天恵とも謂うべきであつて本書に幾多の得難い資料を提供してくれたものであつた。信濃公論は明治四十一年十一月三日天長の佳節を期して創刊号を発行、明治四十三年十二月をもつて休刊となつている週刊紙である。欠号は創刊号より五号まで、四一号、五一号より五十六号まで、六一号、六五号より五号まで、八三号から九四号まで、九六号より休刊までであり、一部面の欠号としては四六、四七、四九、五〇、六三、七二、八二の各号である。片桐氏所蔵の最後の号は九五号で明治四十三年九月十五日附であるから休刊までおそらく十号以上は刊行されたと推測される。片桐氏によれば、片桐氏は明治三十六年五無斎が一時郷里の蚕科農学校で冬期別科生教諭として担任した別科生の一人であつてこの時の齢年に対する天の啓示のようなものが翌年保科塾になつたようであるとされており、後の入営当時公論や雑誌を私に送つて下さり隊の者は皆偉い人だと言つて回覧などしその為に紛失などもまぬがれなかつた、と話されている。信濃教育会所蔵の「信濃公論購読者芳名録明治四十一年十一月三日、信濃公論社」なる二冊から成る記録帳によれば、第一号には、一金六拾五銭、第二十七号まで半ケ年分、県町、馬蔵次　といふ記入の仕方で、長野市分七十九名の記名があり、一金一円二十銭也、一ケ年分、東筑摩本洗馬長興寺、外東筑分として十四名の記名があり、松本五名、南佐久十二名、北佐久二十名、小県三十九名、諏訪八名、上伊那十五名、下伊那三名、西筑摩七名、南安曇九名、北安曇四名、更級十三名、埴科十七名、上高井十二名、下高井四十名、上水内六十五名、下水内三十一名、他府県十六名と金額氏名が連記され、同二号には小県郡四十三名、長野市五十七名が連記名されているので寄贈分宣伝分を入れれば公論の発行部数は恐らく五百部位にはな

つていたと思われる。従つて公論は現在のところ片桐氏の所蔵のみとされているが、これだけの紙数が発行されている以上県下の何処かに保存されている方があると憶測される。購読者の皆さんのお力で欠号分でも補うことが出来たらと願つてやまないものである。尚或る部分を転用させて載いた前記信濃教育五無斎特輯号は現在では貴重な資料で、県下各小学校商等学校には保存されていると思われるので参照されたい。いま参考のために目次を一瞥すれば次の如くである。

巻頭の辞（佐藤寅太郎）故保科五無斎の逸事（矢沢米三郎）保科百助君（浅井冽）保科五無斎君を偲ぶ（森繁吉）飯山時代の保科先生（滴水韜治）五無斎先生（井出弥門）五無斎研究（北村春畦）故保科百助君の霊に問う（脇水寿山）保科百助君（和田八重造）五無斎氏と地方地理（中村新太郎）奇傑保科五無斎先生を憶う（藤森良蔵）保科百助君の功績（八木貞助）神保博士と保科先生（三村邦雄）保科塾の前後（出浦四郎）保科君の一側面（小池久吾）保科百助氏（丸山弁三郎）五無斎保科先生（滝沢幾太郎）保科五無斎と僕（牛山雪駐）五無斎氏の思い出（栗岩英治）五無斎先生の思い出（滝沢鼎吉）保科五無斎先生を想う（大井千尋）保科五無斎先生の奇行（曾沼茂太）五無斎先生（荒木茂平）憶保科五無斎君（佐藤嘉市）五無斎保科君の事ども（大沢茂十郎）五無斎の片鱗（徳永晃岷）

其の他地学関係で白倉委員の手によつて国会図書館の所蔵資料、長野図書館の所蔵資料なども採録する事が出来、その他池田可一、生島茂男、横沢理、保科健、大沢茂樹、吉村幹衛、出浦一郎、其の他多数の皆さんから資料を心よくご提供下さつて刊行を助けて下さつたことに対し深く敬意を表する次第である。

尚昭和三十一年発刊された荒木茂平著「人間保科五無斎」は著者が五無斎の生前を知る人であり採集旅行に行を共にし又私的な交際も深かつた一人でもあるので、五無斎を知る大切な書である。幸にして今尚健在としておられ五無斎を崇拝するの念厚く時に招かれて五無斎に就て講演などもされている。

三　編集について

この全集の編集の建て前としては、本全集が遺作集であり資料集であるという態度で臨んだので、その性格を堅持したため、数多くの人々の五無斎に対する憶い出、逸話、逸事、批判、感想など重視すべき事柄も遺憾ながら本全集からは除いて他日を期した。先ず読者に遺作をよく味読していただいて五無斎の本体をつかみ、各人が自らなる五無斎感を持つて、人間行路の資にされたいと願つたからである。

本を編むという仕事は仲々困難なことであつて特に沢山の貴重な遺作をどのように編むかということは家屋の建築や造園などと同じく先ずその骨組みには心を労するものがあつたのである。全集の骨組みとしては六つの編に分けたがその分類と系統づけ配置などは委員会の悩みとするところであつた。従つて読者の意に充たぬところが多いことをおそれるものである。

初頭の地学編は十二項に分けたが内容的には大体遺作の年代を主とし文の長短にはかかわりがない。この編の一は当時の信毎読

者以外には全く未知のものであり、明治三十四年より翌年にかけての第一回の県下採集旅行の結晶とも見られるものと推察する。二の岩石鉱物新案教授法（信濃公論の広告欄には新案を新式と書いてある）は五無斎の念願した全科目教授法の第一編を為すものであり、二編三編と全科目に及ぼしてやがて完成の暁は日本及び全世界の教授法の一大革新を促さんと五無斎自ら叫んで居るものであるが惜しい哉病に斃れ第二編通俗新案国語教授法の最初の部のみで終っている（論評編三諸論評の部参照）当時形式劃一の教育法の弊害が論議されていた折からでありその影響の程も窺われる。四は鉱物標本の説明であつて公論欠除のため一から十七までのないのは惜しいことであるが十及び七の標本説明書と共に地学上貴重な文献である五、六、九は標本売出しに関するもので特に五の地学標本売出に関する説明書は県下各校公署ばかりでなく全国中等以上の諸学校へ配布したものである。八は湖中の考古学的遺物調査を通して地質的の説明をしたものであるが、昨三十八年野尻湖に於て湖中の考古学的調査が行われ多大の成果を収めたと報じられているが、五十余年前の昔に五無斎は諏訪湖及び野尻湖に於て先鞭をつけているのである。十一は五無斎の愛読した蔵書に対し愛別能わざるの情を述べたものであり、このことに就ては尚信濃教育第五〇七号九五頁の土屋良遵氏の「五無斎に関する二三のこと」を参照されたい。

論評編は主として信濃公論に所載された資料が主要部分をなしているが五無斎百話と時事短評とは公論に連載されていたもので一つのまとまりを持つているので一項目づつにまとめ、他の遺稿は諸論評として一括して一項を設け、それに広告類を配して四つの項目に分け、大体発表月日の順序に従った。公論は前述のように所々欠号があるのでそのため中には一貫しない点もあつて惜しい事である。百話は七十一で終っているがあとが見当らない。五無斎はよく百の字にちなんだ事を考えたようであるが本人も白しているように百助の名の然らしむるところである。（名の百助はヒヤクであつてモモではない）時事短評は欠号があるので分明しないが多分休刊前まで続いていたものと思われる。諸論評の項は五無斎が何を考え何を為さんとしているか縦横無尽の論評には意味の深いものがある。

日記編の機業日誌と機業地視察報告書は組版の関係で最後にまわしたがあとは内容や文の長短にかかわらず発表の年月順にした。

これらの原文の多くは地学編に組み入れべき内容ではあるが日記体に書かれているものは大体日記編としてひとまとめにしたのである。一の売上帳三と最後の機業日誌及び視察報告書とを除き他は何れも公論所載のものである。売上帳三、については頁数の都合上終りの方の筆墨購入者の氏名を略して編者註として人数だけを記しておいた事と判読し難い所が数ケ所〇印になつているのはお詫びしなければならない。あとは原本に忠実に間違いなきを期したつもりである。売上帳三、というからには売上帳の一と二があつた筈である。今迄手づるを求め多数の人を煩わして心当りを探したのであるが遂に見当らず残念である。これが探し出されたならばと再び県下の皆さんに協力を呼びかけたい。売上帳三、の来歴については左の文を参考にして頂き当時この仕事の衝に当ら

れた主任の芝田伍一郎氏及び信濃郷土研究会に感謝したい。

附言

昭和四年一月の信濃教育に保科五無斎式の追憶記念号を出され、多数の士によつて五無斎の人と為りを説き、又逸事奇行を余す処なく記された中に、晩年筆墨行商を東京から始めて来た記事はあるが行商の内容は知る由もなかつた。

多くの人の話では殆ど長野県中の学校諸官衙を荷車を引いて行商された由。内容を知りたくておつた矢先、偶然にも長野市後町斎藤静男氏が五無斎の売上帳を所持して居られる由を知り、借用して見た処本文のような内容で、唯個人が所有しておられるだけでは惜しい気がして、氏の許しを得て原本其儘を幾分縮め、オフセット版として世に出すことにした。

柏与印刷所の尽力で原本と異ならない事を喜とした。尚氏の売上帳は巻参であるから、何処かに一、二はある訳だ。所有者を知りたい。

柏与の主人の好意で、日記を包むに故人の嗜好を汲み、酒屋で使う酒絞りの麻布を包紙代用の表紙として渋味を出した意を掬んで頂きたい。昭和十一年六月十六日尚奥附は編集兼発行人町田修三印刷人滑水与助　発行所信濃郷土研究会となつている。

次に四の長野県地学標本採集旅行記は前記売上帳以上に貴重な文献であるが、これは眼疾（病床日記参照）治療直後であり、明治四十二年四月五日に出発して九月十八日に終つているそれにつけても前にも一寸触れておいたように明治三十四年第一回の県下採集旅行記が或いは当時の日刊長野か信毎に掲載されてはあるまいかと予想してその存否を確め得たかつたのであるが今のところはつきりしない。この二年に亘る旅行記が何処かに記事化されているとすれば第二回目の旅行記と共に幾多の事実が闡明されるであうに。さり乍ら第一回の旅行が明治三十四年五月一日に出発して翌年十一月に終つている事実をふまえてみるとそれから僅か一ケ月余を経た三十六年一月九日の信毎紙上から通俗滑稽信州地質学の話が連載されているので、これは旅行記風ではないが第一回の旅行記に代るものと一応考えたい。

狂歌編の「よいかゝをほしな百首け」は明治三十九年十一月三日の発行になつているがその売捌きについては各書肆各新聞店（本書雑篇九参照）を通じてなされており、その時の広告のちらしが申込券づきで今も残つている。

原本には一首毎に愷々暁文、盤田笠洲林探楽の三氏によつて見事な狂画がものさておりまことに興味深いものである。これに続いて狂歌集を出版すべく予告されているがそれは遂に発行に至らなかつた。ただその原案と見られるものが信教参考室に三十枚程現存している。五無斎が長年に亘り何回も県下を漫遊し多くの人々に接して至る所で作られた狂歌の数はけだしおびただしいものであると想像される。本書中に散見する狂歌と他の雑誌や個人所有のものを集めてこの編に加える事も考えたのであるがこれも他日を期することにしてやめることにした。県下に散在所蔵されている幾多の狂歌がこの全集を機縁として所在が確められ整理が為されたならばけだし興津々たるものが生れるであらう。

書簡編はその所蔵者の探索に困難をした一つであつたが、信濃教育第五〇七号の記事によれば、五無斎が大豆島小学校から転任の際は下宿の六尺棚は私信の来翰で充満していたとのことである。僅か二年足らずの大豆島生活でこれだけの来信書があつたことから推し量つても県下をはじめ五無斎の書簡は数多いことであろう。然るにこの編に収められたものは友人知己親戚などごく僅かである。五無斎の書簡を保存されている方々は今後佐久教育会へ連絡をとり五無斎の生涯の上で分明しない点をそれによつて明かにして頂くことを望むものである。編中の吉村氏は五無斎と同郷であり煙嶺と号して俳歌をよくし村の長ともなり県議ともなつた地方の名望の士、五無斎とは肝胆一体で嗣子を遙々保科塾入れて修学させており五無斎を心から信頼していた。大沢茂十郎氏は同郷でしかも師範の同級生で心からの盟友であつた。横沢氏とは親戚の間柄であり、出浦四郎氏は保科塾の数学教師として五無斎と起居を共にした仲であつてこの書簡は保科塾閉塾にも関係する重大視すべきものである。滝沢国作氏は五無斎武石学校在職中の生徒であり後一所の学校にもいた師弟以上の交りである。

雑編は信濃教育会に保存されていた五無斎に関するものを主とし津金寺境内建碑の記録その他を載せて参考にした。

年譜はもつと詳しいものを作るべきであつたが、読者の多少の便をはかるに止めた。出生後から師範入学頃までのことが分明しないのは残念であるがあとは大体の消息はつかめると思う。五無斎が自ら語るように出生から修学時代教職時代地学研究採集時代標本作製売出し時代保科塾時代信濃公論時代蟇畳行商時代等その間仕事は錯綜はしていても一連の意味深い歩みをみることが出来る。

扉及び本文中の写真の多くは中沢委員の手にかかるものである中には数十年前の写真を借用して撮したため鮮明でないものも見うけられ残念である。

四　今後の課題

本書が全集と名づけられ主要な遺作は収められてはいるが、前段にも希望を述べておいたようにまだ調査蒐集研究がなされなければならない点の数々を残している。このように考えてくると本書は五無斎に関してほんの一里塚の役目であるという感もないではない。

五無斎という号の由来一つをとり出してみても老媼との問答のとき出来た狂歌から名付けたと五無斎自身が称しているのでこれは確実になつているが何処で何日という事になると明瞭ではない。場所についても中沢照琳氏によれば（信濃教育第五〇七号）明治二十九年の頃南北佐久鉱物採集の際と記され、新案教授法によれば諏訪郡瀬沢としてある。果して何れによればよいのか。又その年代についても明かに出来なかつた。明治二十七八年頃の書簡には「蛸洲」「蛸洲居士」と号しているが本書の資料を検討してみて五無斎と称しているのは明治三十四年十月三日附の吉村源太郎氏宛の書簡が最初である。こんなことからも、参考になる書簡はないものか、第一回の採集旅行の記録はないものかと考えるのである。勿論格調の高い五無斎の心事、現実と理想の一体化のため

の力強い足どりを考えるとき、何日何処でということは問題にはならないとしても正確を期すべき根拠づけは為されなければならない。

今度の仕事で思うことの又一つの問題点は五無斎の在職していた学校には当然あつて然るべき資料が失われ反つて一般在家に大切に保存されていたという事実である。五無斎没後幾星霜かを経た今日であるので無理からぬこととはいうものの何かを暗示し皮肉な感も沸くのを禁じ得ない。「風間冠峯氏の讃辞についての」文の中にも「昨年（明治三十七年に当る）の夏頃なりしか予は数ケ月間に亘つて予が教育に関する意見と満韓地方経営に係る考察とを公にし、教育者諸賢並に当局者各位の参考に供し副産物として予が私塾の主義方針をも広告的に発表せんと欲したることもありたり云々」と記してあるがこれにつながる資料が何処かにあることを期待するものである。何れにしてもこれから読者諸氏の手も煩し資料の所在をたしかめ資料を豊富にすることを願つてやまないものである。

小心が高志の遺作を編むことは木によつて魚を求むるよりも甚しい話である。併しただ五無斎の人格は本書の中に躍つていることは編者一同のよろこびである。

終りに資料を心よく提供して下さつた方々、又困難な原文原稿に対しわが事として御協力下さつた信教印刷株式会社並びに信濃教育会出版部に対し編集委員会よりも厚く感謝申し上げます。

（編集主任　今井誠太郎）

五無斎保科百助 全集

昭和39年 2 月 5 日 印刷
昭和39年 2 月10日 発行　〔非売品〕

不許複製

編集者　長野県佐久市岩村田3155
佐久教育会
電話 岩村田43
振替 長野1788

印刷所　長野市旭町1098
信教印刷株式会社

発行所　長野市旭町1098
信濃教育会出版部
電話長野(3) 0291
振替 長野10162

復刻　五無斎保科百助全集　全

昭和六十一年二月二十日　〔非売品〕

編集者　佐久教育会

発行者　佐久教育会
佐久市岩村田三六八一
〒385　☎〇二六七―67―二〇四三

製作　社団法人　信濃教育会出版部
長野市旭町一〇九八

印刷・製本　信教印刷株式会社・佐野製本所